一般国道170号西石切立体交差事業に伴う

鬼虎川遺跡第53次発掘調査報告

2004. 3

東大阪市教育委員会

正　誤　表

訂　正　箇　所	誤	正
31・32頁　最下段図中央付近	土坑墓3	土坑墓Ⅲ
114頁　土器番号683	土器内の185	除去

一般国道170号西石切立体交差事業に伴う

鬼虎川遺跡第53次発掘調査報告

2004. 3

東大阪市教育委員会

はしがき

国道308号線の拡幅、近鉄東大阪線・阪神高速道路東大阪線・第二阪奈有料道路の開通など東西交通網の整備は、それと直交して南北方向に貫く国道170号線の渋滞現象をよびおこし、立体交差事業を含む道路整備をもたらしました。それとともに周辺地域の開発は、それまでの田園風景を一変させ、住宅・工場・会社などが建ち並ぶ都市化へと変容させました。

鬼虎川遺跡はこれまでの発掘調査によって、弥生時代中期の代表的な拠点集落としてよく知されています。しかし、本遺跡は後期旧石器時代以降現在に至るまで、食物の獲得地・集落・生産域などとして、ほとんど人跡の途絶えたことはありません。今回の調査においては、弥生時代の集落・墓域状況だけでなく、古代末期から近世にわたる道路・耕作状況などを窺うことができました。本書の内容は地域史解明の一助になるものと思っています。

現地調査および遺物整理・報告書作成にあたってご協力・ご教示を賜った関係諸機関・諸氏に感謝するとともに、今後一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成16年３月

東大阪市教育委員会

例　　言

1．本書は一般国道170号西石切立体交差事業に伴う鬼虎川遺跡第53次発掘調査の概要報告書である。

2．調査は大阪府八尾土木事務所の依頼を受けて、東大阪市教育委員会文化財課が実施した。

3．調査にかかる費用は全額大阪府八尾土木事務所が負担・用意した。

4．発掘調査は平成14年3月１日から12月16日まで行ない、工事の関係から北側半分は６工区、南側半分は７工区と分けられて調査工事業者は異なったが一連の調査として実施した。遺物整理および報告書作成作業は平成16年3月31日まで実施した。

5．現地調査は若松博恵・松田留美・瀬戸哲也・島田拓・吉田綾子・福瀬哲生が担当し、遺物整理については才原金弘・釜田有理絵が担当して行なった。

6．人骨鑑定および動物遺体の同定については大阪市立大学大学院医学研究科分子生体医学大講座器完構築形態学の安部みき子氏に依頼し、報文を賜った。

7．基本杭・調査杭打設は株式会社昭和設計コンサルタント、写真測量は株式会社アコード、木製品の樹種同定および保存処理は株式会社京都科学、遺物写真はＧＦプロに委託して実施した。

8．本書はⅠ～Ⅲ－１～３およびⅤを若松、Ⅲ－４を才原、Ⅳ―１・２を安部氏、Ⅳ－３を京都大学木質科学研究所　伊東隆夫氏が執筆し、若松が編集した。

9．現地の土色及び土器等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』（2000年版）に準拠し、記号表記もこれに従った。

10. 調査及び報告書作成にあたっては下記の方々のご協力・ご教示を賜った。記して謝意を表します（敬称略・順不同）。

大阪府八尾土木事務所、アーバンテック株式会社、サンエス株式会社、安西工業株式会社、株式会社タナカコンストラクション

11. 現地調査及び遺物整理・報告書作成には下記の方々の参加を得た。

泊清次郎、松井章子、北野行信、野田忠良、春本浩平、川脇英一、岩本圭祐、内田真吾、辰巳友邦、平田ジュニオル、荻野結実、西村優、利田恵美、片山くみ子、北戸麻紀、佐々木節子、津田恵理子、寺嶋喜美子、中野明弥、西川奈央子、西川美奈子、溝口真紀、南優子、山上憲一、北野晴香、乙村友佳理

本　文　目　次

Ⅰ．調査に至る経過 ……1
Ⅱ．位置と環境 ……2
Ⅲ．調査の概要 ……5
　1．調査の方法と経過 ……5
　2．層位 ……9
　3．遺構 ……10
　4．遺物 ……56
Ⅳ．自然科学 ……161
　1．出土人骨の鑑定 ……161
　2．動物遺体の同定 ……167
　3．出土木製品の樹種同定 ……176
Ⅴ．まとめ ……177

挿　図　目　次

第１図　遺跡周辺図 …… 3
第２図　各次数調査地位置図 …… 4
第３図　地区割図および西壁断面図－部分－（折り込み） …… 7・8
第４図　第17層上面遺構平面図 …… 11
第５図　土器棺墓Ⅱ平面図 …… 12
第６図　第16下層上面遺構平面図 …… 13
第７図　第16層上面各遺構断ち割り断面図 …… 14
第８図　第16層上面遺構平面図（折り込み） …… 15～18
第９図　第15層上面遺構平面図（１）（折り込み） …… 21～24
第10図　第15層上面遺構平面図（２） …… 25
第11図　第15層上面遺構断面・断ち割り断面図 …… 26
第12図　土坑墓Ⅲ・Ⅳ平面図 …… 27
第13図　第14層上面遺構平面図（折り込み） …… 29～32
第14図　第14層上面遺構断面図 …… 33
第15図　第14層上面各遺構断ち割り断面図 …… 34
第16図　土坑墓Ⅰ・Ⅱ平面図－写真測量図－ …… 38
第17図　土器棺墓Ⅰ・甕出土状況図 …… 39
第18図　第13層上面遺構平面図 …… 40
第19図　自然流路３・４・５断面図 …… 41
第20図　坪境付近断面図 …… 43

第21図　第10層上面遺構平面図…… 45
第22図　第７・６間層上面足跡平面図…… 47
第23図　第６間層上面遺構平面図…… 47
第24図　第６層上面遺構平面図（１）…… 48
第25図　第６層上面遺構平面図（２）…… 49
第26図　第４層上面遺構平面図…… 50
第27図　第3層上面遺構平面図…… 51
第28図　溝１・２・ａ・ｂ、落ち込み１平面図…… 52
第29図　調査地周辺掘り上げ田井路状況図（昭和30年代）…… 53
第30図　遺跡周辺小字切図…… 54
第31図　縄文土器実測図…… 56
第32図　土坑20・21出土土器実測図…… 58
第33図　土坑10・19・26～28・34・36・37・39・40・48出土土器実測図…… 60
第34図　土坑41・47出土土器実測図…… 61
第35図　土坑47出土土器実測図…… 63
第36図　土坑50出土土器実測図…… 65
第37図　土坑49・55・57・61・67・71・77・80・83出土土器実測図…… 67
第38図　土坑82・85・89・97出土土器実測図…… 68
第39図　土坑96出土土器実測図…… 71
第40図　土坑99・100・103・105・129・130・134出土土器実測図…… 72
第41図　溝64・84・85・89・99出土土器実測図…… 74
第42図　溝100～103・109～112出土土器実測図…… 76
第43図　溝113・117・120・123出土土器実測図…… 78
第44図　溝125～127出土土器実測図…… 79
第45図　溝126出土土器実測図…… 81
第46図　溝126出土土器実測図…… 83
第47図　溝128出土土器実測図…… 84
第48図　溝128出土土器実測図…… 85
第49図　溝128出土土器実測図…… 87
第50図　溝128出土土器実測図…… 88
第51図　溝128出土土器実測図…… 89
第52図　溝129・131・132・134・138出土土器実測図…… 91
第53図　溝135・142出土土器実測図…… 93
第54図　溝146・148・152出土土器実測図…… 94
第55図　土坑墓Ⅰ・Ⅱ、壷棺Ⅰ（土坑128）・Ⅱ（土坑95）出土土器実測図…… 97
第56図　ピット30・57・104・266・280・437・513・556・568・738・807・1461・1692出土土器実測図… 98
第57図　落ち込み４～６出土土器実測図…… 100
第58図　自然流路３・４出土土器実測図…… 102
第59図　６工区第11層出土土器実測図…… 104
第60図　６工区第11層出土土器実測図…… 105

第61図　６工区第13層出土土器実測図…… 106
第62図　６工区第13層出土土器実測図…… 107
第63図　６工区第13層出土土器実測図…… 108
第64図　６工区第13層出土土器実測図…… 109
第65図　６工区第13層出土土器実測図…… 110
第66図　６工区第13層出土土器実測図…… 111
第67図　６工区第13層出土土器実測図…… 112
第68図　６工区第13層出土土器実測図…… 113
第69図　６工区第13層出土土器実測図…… 114
第70図　６工区第13層出土土器実測図…… 115
第71図　６工区第14層出土土器実測図…… 117
第72図　６工区第11～14層出土土器実測図…… 119
第73図　６工区第11～14層出土土器実測図…… 120
第74図　６工区第11～14層出土土器実測図…… 121
第75図　７工区第11層出土土器実測図…… 122
第76図　７工区第13層出土土器実測図…… 123
第77図　７工区第13層出土土器実測図…… 124
第78図　７工区第13層出土土器実測図…… 125
第79図　７工区第13層出土土器実測図…… 127
第80図　７工区第13層出土土器実測図…… 128
第81図　７工区第13層出土土器実測図…… 129
第82図　７工区第14・15層出土土器実測図…… 131
第83図　７工区第11～15層出土土器実測図…… 132
第84図　７工区第11～15層出土土器実測図…… 133
第85図　溝１・６・７・60・67、落ち込み１・２、自然流路１・２出土土器実測図…… 136
第86図　６工区第２・５・６・８・10層出土土器実測図…… 138
第87図　７工区第３～５・７・９・10層出土土器実測図…… 139
第88図　土製品実測図…… 141
第89図　石器実測図…… 143
第90図　石器実測図…… 144
第91図　石器実測図…… 145
第92図　石器実測図…… 146
第93図　石器実測図…… 147
第94図　石器実測図…… 148
第95図　石器実測図…… 149
第96図　石器実測図…… 150
第97図　木製品実測図…… 152
第98図　木製品実測図…… 153
第99図　木製品実測図…… 154
第100図　木製品実測図…… 155

第101図　木製品実測図…… 157
第102図　木製品実測図…… 158
第103図　骨角製品・金属製品実測図…… 159

表　目　次

第１表　四肢骨の計測値……164
第２表　歯の計測値……165
第３表　歯の出土表……165
第４表　身長の推定値……166
第５表　北部九州・山口地方の弥生人の計測値……166
第６表　動物遺体同定表…… 168～172
第７表　シカ下顎骨の計測値表……172
第８表　ウマ基節骨計測値表……172
第９表　遺構ごとの出現頻度表……173
第10表　時期ごとの出現頻度表……174
第11表　樹種同定表……175

図　版　目　次

図版１　遺構　1. 調査地航空写真（1950年ごろ撮影）
　　2. 調査地航空写真（1984年撮影）
図版２　遺構　1. 調査地全景（南から）
　　2. 機械掘削状況
図版３　遺構　1. 6工区８地区付近西壁断面（１）
　　2. 6工区８地区付近西壁断面（２）
図版４　遺構　1. 6工区８地区付近西壁断面（３）
　　2. 6工区８地区付近西壁断面（４）
図版５　遺構　1. 7工区36地区付近西壁断面（１）
　　2. 7工区36地区付近西壁断面（２）
図版６　遺構　1. 7工区36地区付近西壁断面（３）
　　2. 7工区36地区付近西壁断面（４）
図版７　遺構　1. 6工区第17層上面遺構（１）５地区付近　北より
　　2. 6工区第17層上面遺構（２）８地区付近　北より
　　3. 6工区第17層上面遺構（３）11・12地区付近　南より
図版８　遺構　1. 6工区第16層上面遺構（１）１地区付近　南より
　　2. 6工区第16層上面遺構（２）４地区付近　北より
　　3. 6工区第16層上面遺構（３）２・３地区付近　東より
図版９　遺構　1. 6工区第16層上面遺構（４）７地区付近　東より
　　2. 6工区第16層上面遺構（５）14地区付近　北より
　　3. 6工区第16層上面遺構（６）21地区付近　南より
図版10　遺構　1. 7工区第16層上面遺構（７）31・32地区付近　南より
　　2. 7工区第16層上面遺構（８）32・33地区付近　東より
図版11　遺構　1. 7工区第16層上面遺構（９）33・34地区付近　東より
　　2. 7工区第16層上面遺構（10）35地区付近　東より
図版12　遺構　1. 7工区第16層上面遺構（11）38地区付近　東より
　　2. 7工区第16層上面遺構（12）41・42地区付近　東より
図版13　遺構　1. 6工区第15層上面遺構（１）１～３地区付近　北より
　　2. 6工区第15層上面遺構（２）４地区付近　西より
図版14　遺構　1. 6工区第15層上面遺構（３）６・７地区付近　北より
　　2. 6工区第15層上面遺構（４）８地区付近　東より
図版15　遺構　1. 6工区第15層上面遺構（５）10～11地区付近　北より
　　2. 6工区第15層上面遺構（６）13地区付近　西より
図版16　遺構　1. 6工区第15層上面遺構（７）16地区付近　西より
　　2. 6工区第15層上面遺構（８）19地区付近　北より
図版17　遺構　1. 6工区第15層上面遺構（９）24地区付近　西より
　　2. 6工区第15層上面遺構（10）26地区付近　西より

図版18　遺構　1. 6工区土坑96内土器・木製品出土状況　西より
2. 6工区第15層上面遺構（11）28地区付近　西より
図版19　遺構　1. 6工区第15層上面遺構（12）29地区付近　北より
2. 6工区第15層上面遺構（13）30地区付近　西より
図版20　遺構　1. 7工区第15層上面遺構（1）32地区付近　西より
2. 7工区第15層上面遺構（2）33地区付近　西より
図版21　遺構　1. 7工区第15層上面遺構（3）36地区付近　西より
2. 7工区第15層上面遺構（4）41・42地区付近　北より
図版22　遺構　1. 7工区54地区土坑128（土器棺墓Ⅰ）土器棺検出状況
2. 7工区54地区土坑128（土器棺墓Ⅰ）土器棺内Ⅶ号人骨出土状況
3. 7工区54地区土坑128（土器棺墓Ⅰ）断ち割り断面
図版23　遺構　1. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・Ⅲ号人骨頭部上方動物遺体出土状況
2. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・Ⅲ号人骨検出状況
3. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・Ⅲ号人骨頸骨付近状況
4. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・Ⅲ号人骨腰椎付近石鏃出土状況
図版24　遺構　1. 6工区第14層上面遺構（1）1～5地区　北より
2. 6工区第14層上面遺構（2）6地区　東より
図版25　遺構　1. 6工区第14層上面遺構（3）7地区　西より
2. 6工区第14層上面遺構（4）10地区　西より
図版26　遺構　1. 6工区第14層上面遺構（5）11地区　南より
2. 6工区第14層上面遺構（6）12地区　東より
図版27　遺構　1. 6工区土坑20内土器出土状況　西より
2. 6工区第14層上面遺構（7）13・14地区　西より
図版28　遺構　1. 6工区溝84・土坑19内土器出土状況　東より
2. 6工区第14層上面遺構（8）16～18地区　西より
図版29　遺構　1. 6工区第14層上面遺構（9）19地区　北より
2. 6工区第14層上面遺構（10）20・21地区　北より
図版30　遺構　1. 6工区第14層上面遺構（11）22地区　西より
2. 6工区第14層上面遺構（12）23地区　西より
図版31　遺構　1. 6工区第14層上面遺構（13）24地区　西より
2. 6工区第14層上面遺構（14）25・26地区　西より
図版32　遺構　1. 6工区第14層上面遺構（15）27地区　西より
2. 6工区第14層上面遺構（16）28地区　西より
図版33　遺構　1. 6工区第14層上面遺構（17）29・30地区　南より
2. 7工区第14層上面遺構（1）31・32地区　西より
図版34　遺構　1. 7工区第14層上面遺構（2）32・33地区　南より
2. 7工区第14層上面遺構（3）34地区　西より
図版35　遺構　1. 7工区第14層上面遺構（4）35地区　西より
2. 7工区第14層上面遺構（5）36地区　西より
図版36　遺構　1. 7工区第14層上面遺構（6）38地区　西より

2. 7工区第14層上面遺構（7）39地区　西より
図版37　遺構　1. 7工区第14層上面遺構（8）39～41地区　北より
2. 7工区第14層上面遺構（9）41～43地区　北より
図版38　遺構　1. 7工区第14層上面遺構（10）43～45地区　北より
2. 7工区第14層上面遺構（11）44～46地区　北より
3. 7工区第14層上面遺構（12）46～48地区　北より
4. 7工区第14層上面遺構（13）48～51地区　北より
図版39　遺構　1. 7工区第14層上面遺構（14）51～53地区　北より
2. 7工区第14層上面遺構（15）52～54地区　北より
3. 7工区第14層上面遺構（16）55・56地区　北より
4. 7工区第14層上面遺構（17）57・58地区　北より
図版40　遺構　1. 7工区58地区土坑墓Ⅳ・Ⅷ号人骨検出状況　北より
2. 7工区58地区土坑墓Ⅳ・Ⅷ号人骨上半部状況
3. 7工区58地区土坑墓Ⅳ・Ⅷ号人骨下半部状況
図版41　遺構　1. 7工区42地区土坑墓Ⅱ・Ⅱ号人骨検出状況　西上より
2. 7工区42地区土坑墓Ⅱ・Ⅱ号人骨頭部状況
3. 7工区42地区土坑墓Ⅱ・Ⅱ号人骨上半身部状況
図版42　遺構　1. 7工区42地区土坑墓Ⅰ・Ⅰ号人骨検出状況　北上より
2. 6工区17地区甕出土状況
図版43　遺構　1. 7工区51地区土坑95（土器棺墓Ⅰ）土器棺検出状況
2. 7工区51地区土坑95（土器棺墓Ⅰ）断ち割り断面
3. 7工区51地区土坑95（土器棺墓Ⅰ）土器棺内Ⅳ号人骨出土状況
図版44　遺構　1. 6工区38・39地区自然流路３検出状況　南より
2. 6工区38・39地区自然流路３内堆積状況
図版45　遺構　1. 6工区４～６地区自然流路４検出状況　北より
2. 6工区４～６地区自然流路４内堆積状況
図版46　遺構　1. 7工区54・55地区自然流路５検出状況　南より
2. 7工区54地区自然流路５北斜面足跡検出状況
図版47　遺構　1. 6工区１～４地区落ち込み６検出状況　北より
2. 6工区６・７地区落ち込み７検出状況　西より
図版48　遺構　1. 7工区～45地区第13層・自然流路５上面遺構検出状況　南より
2. 7工区～55地区第13層・自然流路５上面遺構検出状況　南より
図版49　遺構　1. 6工区23～25地区坪境東西方向道・側溝（3）検出状況　西より
2. 6工区23～25地区坪境東西方向畷状遺構検出状況　西より
図版50　遺構　1. 6工区23～25地区坪境東西方向道・側溝（1）検出状況　西南より
2. 6工区23～25地区坪境東西方向道・側溝（2）検出状況　西より
図版51　遺構　1. 6工区23～25地区坪境付近西断面（1）
2. 6工区23～25地区坪境付近西断面（2）
3. 溝18北斜面卒塔婆出土状況
図版52　遺構　1. 7工区33地区付近第8層上面足跡検出状況

2. 7工区32地区付近第10層上面足跡検出状況
図版53　遺構　1. 7工区39地区溝75検出状況
2. 7工区42～44地区溝79検出状況
図版54　遺構　1. 7工区33地区付近第７層上面足跡検出状況
2. 7工区33地区付近第8層上面鉄製品出土状況
図版55　遺構　1. 7工区32地区付近第６間層２面目足跡検出状況
2. 7工区34地区付近第６間層３面目足跡検出状況
図版56　遺構　1. 7工区33地区付近第６間層１面目足跡検出状況
2. 7工区41・42地区第６間層２面目足跡
図版57　遺構　1. 6工区８～10地区第８層上面足跡　南より
2. 6工区29地区第10層上面足跡検出状況　南より
図版58　遺構　1. 6工区21地区付近第６間層２面目足跡検出状況　南より
2. 6工区16地区付近第６間層３面目足跡検出状況　南より
図版59　遺構　1. 6工区20～22地区第５間層上面遺構　北より
2. 6工区20～23地区第６層上面遺構　北より
図版60　遺構　1. 7工区31～39地区第６層上面遺構（1）　南より
2. 7工区31～45地区第６層上面遺構（2）　南より
図版61　遺構　1. 6工区落ち込み２　北より
2. 6工区落ち込み３　南より
図版62　遺構　1. 6工区１～18地区自然流路１　南より
2. 6工区16地区付近自然流路１内足跡検出状況　東より
図版63　遺構　1. 7工区～45地区溝60　南より
2. 7工区溝60東西断ち割り断面　北より
図版64　遺構　1. 7工区43～45地区４層上面溝群　北より
2. 7工区46地区付近４層上面溝群・足跡　北より
図版65　遺構　1. 6工区25～27地区第３下層上面遺構　南より
2. 6工区28～29地区第３下層上面遺構　北より
図版66　遺構　1. 7工区43～52地区溝６　北より
2. 7工区51地区溝６内卒塔婆出土状況
図版67　遺構　1. 7工区54・55地区自然流路２　南東より
2. 7工区54・55地区自然流路２内杭断ち割り断面
図版68　遺構　1. 6工区１～11地区落ち込み１　北より
2. 落ち込み１内曲物出土状況
3. 落ち込み１内下駄出土状況
図版69　遺構　1. 6工区23・24地区溝７　東より
2. 6工区30地区土坑３　東より
図版70　遺構　1. 6工区26地区からの溝１　北より
2. 6工区28地区土坑１　東より
図版71　遺物　土坑20・21・47出土弥生土器　壷・甕・鉢・高坏
図版72　遺物　土坑19・50・82出土弥生土器　壷・無頸壷・甕蓋・鉢・高坏

図版73　遺物　土坑97・105出土弥生土器　壷・細頸壷・無頸壷・鉢
図版74　遺物　溝84・85・111・123出土弥生土器　壷・甕・鉢・甕蓋・水差形土器
図版75　遺物　溝123・126出土弥生土器　壷・高坏・壷蓋・細頸壷
図版76　遺物　溝126・128出土弥生土器　壷・甕
図版77　遺物　溝128出土弥生土器　壷・無頸壷
図版78　遺物　溝128・129・131・135出土弥生土器　壷・鉢・甕
図版79　遺物　溝135・146、壷棺墓Ⅰ・Ⅱ出土弥生土器　壷・甕・鉢・高坏
図版80　遺物　落ち込み6、自然流路3、6工区第11・13層出土弥生土器　壷・甕・高坏
図版81　遺物　6工区第13層出土弥生土器　壷・無頸壷・鉢
図版82　遺物　6工区第13層出土弥生土器　高坏・甕
図版83　遺物　6工区第13層出土弥生土器　甕
図版84　遺物　6工区第13層出土弥生土器　甕・壷蓋・甕蓋
図版85　遺物　6工区第14・11～14層出土弥生土器　壷・無頸壷・壷蓋・甕蓋
図版86　遺物　6工区第11～14層出土弥生土器　甕・甕蓋
図版87　遺物　6工区第11～14層、7工区第11・13層出土弥生土器　壷・鉢・高坏・壷蓋
図版88　遺物　7工区第13・15層出土弥生土器　壷・甕・高坏・鉢・壷蓋・甕蓋
図版89　遺物　7工区第11～15層出土弥生土器　壷・甕・高坏・壷蓋・鉢、第10層出土土師器　杯
図版90　遺物　1. 縄文土器　浅鉢・深鉢
　　2. 土坑20出土弥生土器　甕・壷
図版91　遺物　1. 土坑21出土弥生土器　壷・鉢
　　2. 土坑10・21出土弥生土器　甕
図版92　遺物　1. 土坑26・28・34・37・40・48出土弥生土器　甕・壷・鉢
　　2. 土坑27・34出土弥生土器　壷・甕・甕蓋・細頸壷
図版93　遺物　1. 土坑39出土弥生土器　壷・甕・鉢
　　2. 土坑41出土弥生土器　壷・甕・鉢・高坏・壷蓋
図版94　遺物　1. 土坑47出土弥生土器　壷
　　2. 土坑47出土弥生土器　壷・無頸壷
図版95　遺物　1. 土坑47出土弥生土器　高坏・甕蓋
　　2. 土坑47出土弥生土器　甕
図版96　遺物　1. 土坑47出土弥生土器　甕
　　2. 土坑50出土弥生土器　壷
図版97　遺物　1. 土坑50出土弥生土器　甕
　　2. 土坑50出土弥生土器　鉢・高坏
図版98　遺物　1. 土坑49・57・61・67・80出土弥生土器　壷・甕・鉢・高坏
　　2. 土坑63・71出土弥生土器　壷・甕・鉢
図版99　遺物　1. 土坑55・71・77・83出土弥生土器　壷・鉢・甕
　　2. 土坑82・85出土弥生土器　壷・甕・鉢・壷蓋・甕蓋
図版100　遺物 1. 土坑89・97出土弥生土器　甕・鉢
　　2. 土坑96出土弥生土器　壷
図版101　遺物 1. 土坑96出土弥生土器　壷

2. 土坑96出土弥生土器　壷・甕・鉢
図版102　遺物　1. 土坑99・130出土弥生土器　壷・甕・高坏・鉢
2. 土坑100・103・129・134出土弥生土器　壷・甕・高坏
図版103　遺物　1. 溝89・99出土弥生土器　壷・高坏・鉢・甕
2. 溝64・84・85出土弥生土器　甕
図版104　遺物　1. 溝102・109・112出土弥生土器　壷・甕・鉢
2. 溝100・110出土弥生土器　壷・甕・壷蓋・甕蓋
図版105　遺物　1. 溝101・103・111出土弥生土器　壷・甕・高坏
2. 溝123出土弥生土器　壷・鉢
図版106　遺物　1. 溝123出土弥生土器　甕・鉢・高坏・甕蓋
2. 溝113・117・120出土弥生土器　壷・甕・鉢
図版107　遺物　1. 溝125・127出土弥生土器　壷・甕・甕蓋
2. 溝126出土弥生土器　鉢・高坏
図版108　遺物　1. 溝126出土弥生土器　鉢・細頸壷
2. 溝126出土弥生土器　壷
図版109　遺物　1. 溝126出土弥生土器　壷
2. 溝126出土弥生土器　甕
図版110　遺物　1. 溝126出土弥生土器　甕
2. 溝126出土弥生土器　甕・甕蓋
図版111　遺物　1. 溝128出土弥生土器　壷
2. 溝128出土弥生土器　壷
図版112　遺物　1. 溝128出土弥生土器　壷
2. 溝128出土弥生土器　壷・無頸壷
図版113　遺物　1. 溝128出土弥生土器　無頸壷・細頸壷・甕蓋
2. 溝128出土弥生土器　鉢・高坏・水差形土器
図版114　遺物　1. 溝128出土弥生土器　甕
2. 溝128出土弥生土器　甕
図版115　遺物　1. 溝128出土弥生土器　甕
2. 溝128出土弥生土器　甕
図版116　遺物　1. 溝128出土弥生土器　甕
2. 溝129出土弥生土器　壷・無頸壷・甕・鉢
図版117　遺物　1. 溝131・132・134出土弥生土器　壷・甕
2. 溝135・138・142出土弥生土器　壷・甕・鉢
図版118　遺物　1. 溝135出土弥生土器　壷・甕・鉢
2. 溝146出土弥生土器　壷・甕・無頸壷
図版119　遺物　1. 溝146・148・152出土弥生土器　壷・甕・鉢・高坏・甕蓋
2. 土坑墓Ⅰ・Ⅱ出土弥生土器　壷・甕
図版120　遺物　1. ピット30・57・104・266・280・437・513・556・568・738出土弥生土器
壷・甕・鉢
2. ピット807・1461・1629出土弥生土器　壷・甕・鉢

図版121　遺物　1. 落ち込み４・５・６出土弥生土器　壷・甕・高坏
2. 落ち込み６出土弥生土器　壷・甕・高坏
図版122　遺物　1. 自然流路３出土弥生土器　壷・甕・高坏
2. 自然流路４出土弥生土器　壷・甕
図版123　遺物　1. 自然流路４出土弥生土器　甕
2. 6工区第11層出土弥生土器　壷・無頸壷
図版124　遺物　1. 6工区第11層出土弥生土器　甕
2. 6工区第11層出土弥生土器　甕・鉢・高坏・甕蓋
図版125　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　壷
2. 6工区第13層出土弥生土器　壷
図版126　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　壷
2. 6工区第13層出土弥生土器　壷
図版127　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　壷
2. 6工区第13層出土弥生土器　壷
図版128　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　壷
2. 6工区第13層出土弥生土器　無頸壷
図版129　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　細頸壷・無頸壷
2. 6工区第13層出土弥生土器　鉢
図版130　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　鉢
2. 6工区第13層出土弥生土器　鉢
図版131　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　鉢・高坏
2. 6工区第13層出土弥生土器　高坏
図版132　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　高坏
2. 6工区第13層出土弥生土器　甕
図版133　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　甕
2. 6工区第13層出土弥生土器　甕
図版134　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　甕
2. 6工区第13層出土弥生土器　甕
図版135　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　甕
2. 6工区第13層出土弥生土器　甕
図版136　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　甕
2. 6工区第13層出土弥生土器　甕
図版137　遺物　1. 6工区第13層出土弥生土器　甕蓋
2. 6工区第14層出土弥生土器　壷
図版138　遺物　1. 6工区第14層出土弥生土器　壷・細頸壷・鉢・高坏・壷蓋
2. 6工区第14層出土弥生土器　鉢・甕
図版139　遺物　1. 6工区第11～14層出土弥生土器　壷
2. 6工区第11～14層出土弥生土器　壷
図版140　遺物　1. 6工区第11～14層出土弥生土器　壷・細頸壷・無頸壷・水差形土器
2. 6工区第11～14層出土弥生土器　甕・有孔鉢

図版141　遺物　1. 6工区第11～14層出土弥生土器　鉢・高坏
2. 6工区第11～14層出土弥生土器　高坏
図版142　遺物　1. 7工区第11層出土弥生土器　壷・甕
2. 7工区第13層出土弥生土器　壷
図版143　遺物　1. 7工区第13層出土弥生土器　壷
2. 7工区第13層出土弥生土器　壷
図版144　遺物　1. 7工区第13層出土弥生土器　壷
2. 7工区第13層出土弥生土器　壷
図版145　遺物　1. 7工区第13層出土弥生土器　壷
2. 7工区第13層出土弥生土器　壷
図版146　遺物　1. 7工区第13層出土弥生土器　壷・細頸壷
2. 7工区第13層出土弥生土器　細頸壷・無頸壷・水差形土器
図版147　遺物　1. 7工区第13層出土弥生土器　甕
2. 7工区第13層出土弥生土器　甕
図版148　遺物　1. 7工区第13層出土弥生土器　甕
2. 7工区第13層出土弥生土器　甕
図版149　遺物　1. 7工区第13層出土弥生土器　甕
2. 7工区第13層出土弥生土器　甕
図版150　遺物　1. 7工区第13層出土弥生土器　鉢
2. 7工区第13層出土弥生土器　鉢・高坏
図版151　遺物　1. 7工区第13層出土弥生土器　高坏・甕蓋
2. 7工区第14層出土弥生土器　壷・甕・鉢・細頸壷・高坏
図版152　遺物　1. 7工区第15層出土弥生土器　壷・甕・鉢
2. 7工区第11～15層出土弥生土器　壷
図版153　遺物　1. 7工区第11～15層出土弥生土器　壷・無頸壷
2. 7工区第11～15層出土弥生土器　細頸壷・鉢・高坏
図版154　遺物　1. 7工区第11～15層出土弥生土器　甕
2. 7工区第11～15層出土弥生土器　甕
図版155　遺物　1. 溝1・6・7・60・67出土陶器　椀、瓦器　椀、須恵器　甕・坏・壷、黒色土器　椀
2. 落ち込み1・2出土土師器　椀・皿、須恵器　壷・高坏、黒色土器　椀
図版156　遺物　1. 落ち込み1出土陶器　椀・皿(表)
2. 同上(裏)
図版157　遺物　1. 自然流路1出土須恵器　坏、瓦器　火舎、陶器　椀、埴輪
2. 自然流路2出土須恵器　甕・高坏・坏・蓋坏、土師器　高坏、製塩土器
図版158　遺物　1. 6工区第2・5・6・8層出土須恵器　坏・蓋坏、土師器皿・甕、黒色土器　椀、陶器　椀
2. 6工区第10層出土須恵器　高坏・蓋坏、土師器　坏・甕
図版159　遺物　1. 7工区第3・4・5層出土須恵器　蓋坏・壷、　土師器　皿・鉢・鍋、緑釉陶器　椀
2. 7工区7・9・10層出土須恵器　壷・坏・高坏、土師器　高坏・皿・竈、陶器　甕
図版160　遺物　1. 土製品

2. 土製品
図版161　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版162　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版163　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版164　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版165　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版166　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版167　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版168　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版169　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版170　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版171　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版172　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版173　遺物　1. 石器(表)
2. 同上(裏)
図版174　遺物　木製品
図版175　遺物　木製品
図版176　遺物　木製品
図版177　遺物　木製品
図版178　遺物　木製品
図版179　遺物　木製品
図版180　遺物　木製品
図版181　遺物　骨角製品・金属製品
図版182　遺物　人骨
図版183　遺物　人骨
図版184　遺物　人骨
図版185　遺物　人骨
図版186　遺物　人骨

図版187　遺物　人骨
図版188　遺物　動物遺体
図版189　遺物　動物遺体
図版190　遺物　材の顕微鏡写真

Ⅰ．調査に至る経過

調査は一般国道170号線の西石切立体交差事業に伴う発掘調査の一貫として平成14年に実施した。国道170号線と国道308号線とが交叉する「被服団地前」は交通渋滞をきたす場所として早くからその解消が求められてきた。平成９年４月の第二阪奈有料道路の開通によりその混雑は増し、平成10年に西石切立体交差事業は国庫補助事業として採択された。国道308号線の上部に阪神高速道路東大阪線と第二阪奈有料道路連絡道および近畿日本鉄道東大阪線の橋脚が存立することからこの立体交差事業はアンダーパス工法が選択された。

「被服団地前」交叉点付近は弥生時代中期の拠点集落として周知されている鬼虎川遺跡が広がっている。本遺跡は1975年以降、58次におよぶ発掘調査が行なわれている。これまでの調査で遺跡東北部（とくに国道308号線付近の調査）で縄文時代前期の縄文海進による海食崖を検出し、その付近から前期から中期の土器・石器とともに魚介類などの動物遺体が出土した。弥生時代は前期から後期までの遺構・遺物を確認している。前期は遺跡北西部(国道308号線付近)に長原式土器と前期土器を伴う貝塚、ほぼ中央部に前期土器を多量に含む大溝（第40・46・45次など）などが見られるが、集落状況は不明である。遺跡北側には（北端部付近は希薄）とくに中期の大溝、井戸などの土坑、柱穴などのピット群、貝塚、そして方形周溝墓・土坑墓・土器棺墓などの遺構と多量の弥生土器・石器・木製品などを検出しており、この時期には複数の大溝を伴う大集落（環濠集落）が形成されていた＝拠点集落。後期になると集落は縮小化し、古墳時代前期にはその中心は南部へ（36次など）、後期には東北部に移行したようである（23次など）。飛鳥時代以降の遺構・遺物は希薄で西部域を中心に生産域と化す。平安時代前半には条里制に伴う遺構が見られるようになり、中世にはその坪境などに溝が穿かれ、近世になると掘り上げ田に伴う井路が形成されていた。

事業者である大阪府（大阪府八尾土木事務所）と調査主体者の東大阪市（東大阪市教育委員会文化財課）は協議に入って、まずは調査域の確認（特に北部）と国道170号線現道下埋設管等の移設・埋設先である両側拡幅箇所の発掘調査を実施することで合意し、平成６年度以降道路拡幅域の確保に伴い随時調査を続行している。

平成６年度に調査対象の北限および遺跡の北端を確定した国道308号線以北の国道170号線北西側部の調査（第38次）、８年度に同北東側部の調査（第42次）を行ない、中・近世の溝および自然流路と近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出し、弥生時代前・中期の遺物包含層も確認したが出土遺物は希薄であった。10年度の第44次調査は国道308号線・新川以南で国道170号線の西側にあたり、鋼矢板の根入れの関係で弥生時代相当層は完掘できなかった。調査トレンチ全域の弥生時代中期遺物包含層からは弥生土器などが大量に出土し、南端部からは大型のヒスイ製獣形勾玉が出土した。北側では弥生中期前半から中半の大溝を検出し、当該期の土器のほか石器（ヒスイ製小型勾玉含む）や木器が多く出土した。大溝の西側では土坑墓を２基を検出した。土坑墓１は仰臥伸展位の成人男性が、土坑墓２は鋼矢板で西半分が切断され詳細は不明であるが３体の成人人骨が埋葬されていた。また、近世期の堆積層から「主税」の墨書土器（奈良～平安期のもの）が出土した。11年度の第49次調査は国道308号線以北で国道170号線の西側にあたり、弥生時代中期の自然流路、中・近世の溝およびと近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出した。第52次は第49次の北およびこれらの東面側にあたり、弥生時代前期の溝・ピット、中期の溝・自然流路、中・近世の溝および自然流路と近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出した。

今回の調査は平成14年３月１日から４月２日まで機械掘削し、その間に１段目支保工および覆工板の架設工事を行ない、４月３日から12月16日まで人力掘削による調査を実施した。

Ⅱ．位置と環境

鬼虎川遺跡は生駒山の西麓、標高４～８ｍの扇状地末端部から沖積平野にかけて広がり、現在の東大阪市弥生町・西石切町・宝町・新町一帯に位置する旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡である。北端中央部から南東部にかけて国道170号線（外環状線）がほぼ南北に走り、北部ではこれに直行するように東西方向の国道308号線が延びている。この中央分離帯域には近畿日本鉄道東大阪線および阪神高速道路東大阪線と第二阪奈有料道路連絡道が内包されている。西部には南から北方向に流れる恩智川があり、東からそれに注ぎ込む新川などの川がある。現在は住宅・工場・会社・病院などが建ち並び、水田・畑地はほとんど見ることはできない。しかし、4・50年前までは小集落が点在し、掘り上げ田などの田園が広がるのどかな地域であった。

本遺跡は弥生時代中期を中心とした大集落跡としてよく知られているが、人跡は後期旧石器時代にまで遡る。この時期の遺跡としては東接する西ノ辻遺跡をはじめ、千手寺山遺跡・正興寺山遺跡・山畑遺跡などがあり、ナイフ型石器・翼状剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は山麓部から段丘・扇状地上に点在し、まずは有舌尖頭器が出土した草香山遺跡や貝花遺跡がある。早期には多くの押型文土器とともに石器・土偶と炉跡・集石遺構を検出した神並遺跡があり、この土器は西ノ辻・日下・山畑遺跡からも出土している。前期は温暖化がピークに達し（縄文海進）、本遺跡東部などからこの時期の海蝕崖が検出され、前期土器や魚介類などの動物遺体が出土さしている。中期の遺跡としては善根寺・縄手・馬場川遺跡があるが、それほど顕著ではない。しかし後期には、縄手遺跡から多くの土器・石器などとともに住居跡・配石遺構などがあり、日下・芝ヶ丘・神並・鬼塚・馬場川遺跡とともに本遺跡からもこの時期の土器が出土されている。そして晩期になると貝塚・墓地や多量の土器・石器を確認している日下遺跡をはじめ、鬼塚・馬場川・宮ノ下などの遺跡で集落が営まれていた。

弥生時代になると集落形成は平野部に移り、本遺跡の西端に長原式土器と前期土器を包含した貝塚があり、本遺跡中央部や植附・中垣内・本市中南部の山賀遺跡などから前期土器が出土している。中期には本遺跡において数条の大溝を伴う集落が営まれ、土器・石器・木製品などの大量の遺物と方形周溝墓や貝塚などが検出しており、これに近い状況は本市中央部の瓜生堂遺跡でも見られる。やや遅れて中期後半から後期前半には西ノ辻遺跡でも大集落が形成された。後期になると集落はやや小規模化するものの、本遺跡や段上・上六万寺・北鳥池遺跡などの平野部の集落と、山畑・岩滝山遺跡などで高地性集落が営まれた。

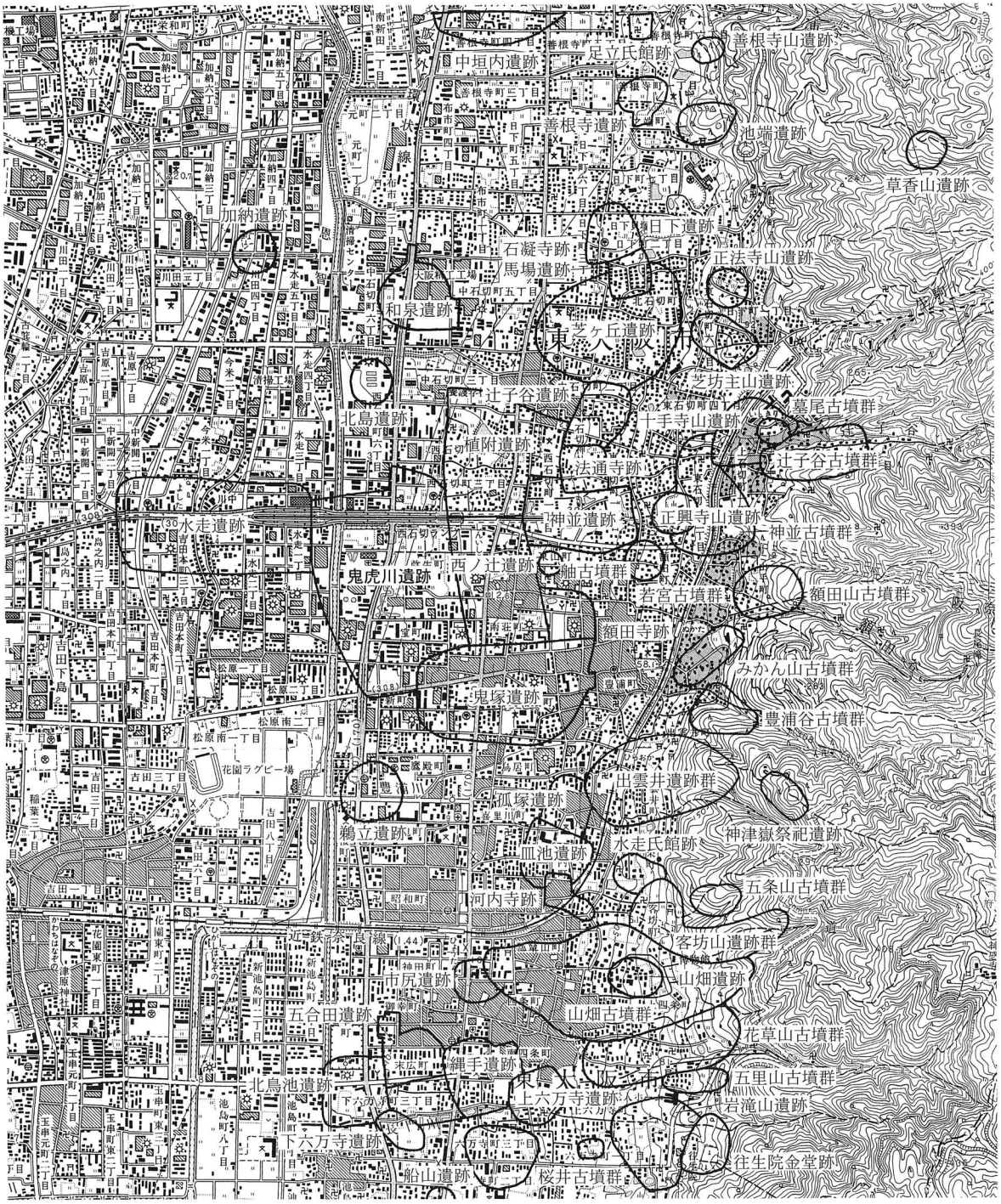
古墳時代前期に本遺跡南部および五合田・西岩田遺跡などから多くの土師器が出土し、集落が点在して形成されていた。中・後期になると植附・芝ヶ丘・神並・西ノ辻・山畑・市尻などとともに本遺跡北部でも集落が営まれていたが、いずれもそれほど大きくない。本市には前期の大型古墳は見られないが、塚山・えの木塚・客坊山１号墳など中期以降古墳は築かれるようになり、山畑古墳群・花草山古墳群・客坊山古墳群・神並古墳群・出雲井古墳群などの群集墳、植附・段上・巨摩廃寺などに小型低丘墳と、小規模ではあるが後期古墳が山麓部を中心に数多く築造された。

飛鳥から平安時代後半には仏教の受容を反映するかのように若江寺・河内寺・法通寺・石凝寺、やや後出する客坊廃寺などの寺院が建立された。本遺跡や西ノ辻・神並・鬼塚遺跡などからは掘立柱建物・井戸・溝、須恵器・土師器や墨書土器などが出土し、この時期の集落・耕作関連の遺構を検出している。

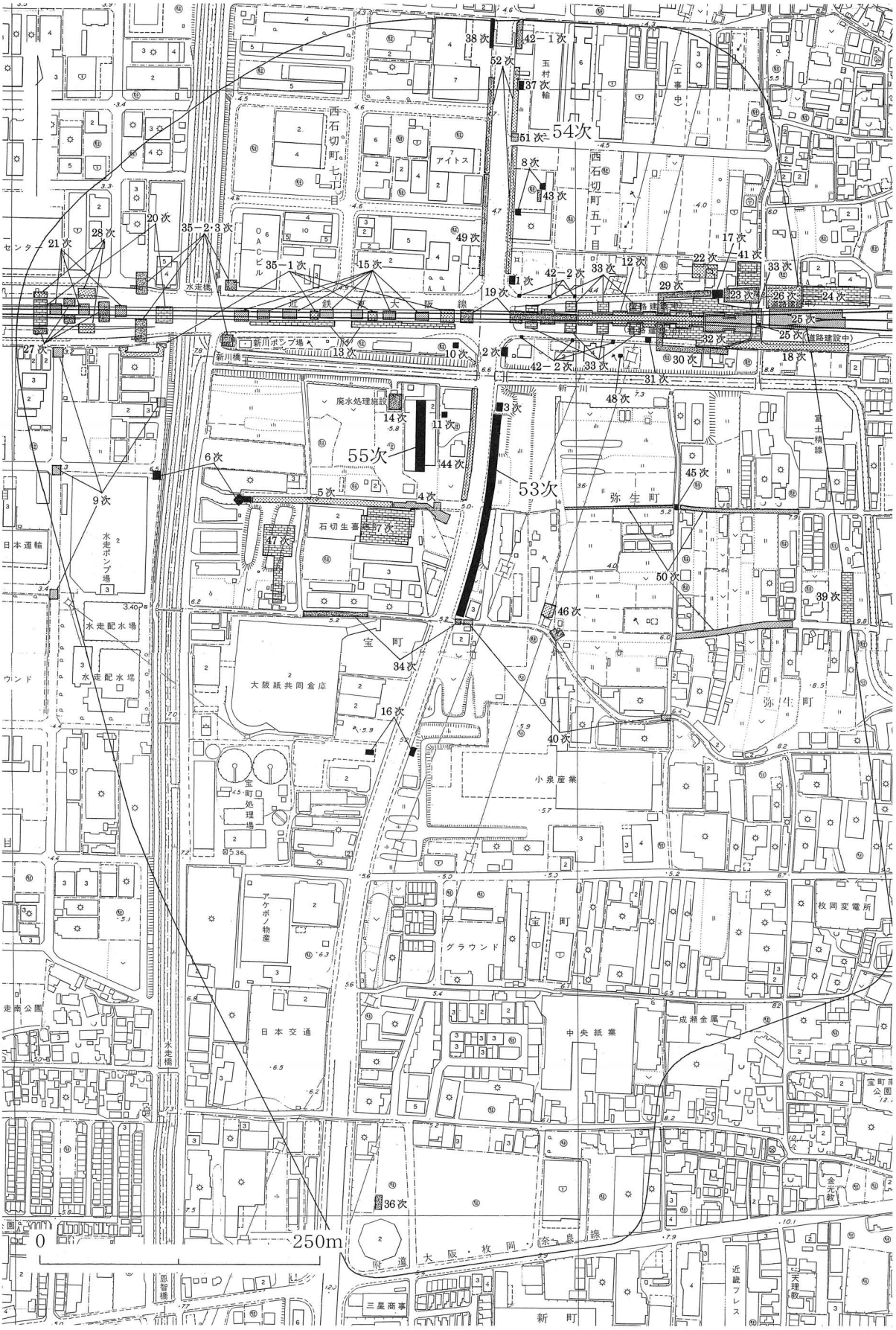
平安時代後期から鎌倉時代にかけては広い範囲にわたり整地活動がみられ、西ノ辻・神並などの遺

跡から掘立柱建物跡などの集落遺構とともに客土層や耕作跡を検出している。また、西接する水走遺跡ではこの時期に堰・堤防を設けるなど大掛かりな開発を行なうとともに、大溝を伴う集落も形成された。

南北朝期を含む室町時代には西ノ辻遺跡をはじめ、のちの暗峠越奈良街道・東高野街道などの道路沿いに数多く村落が営まれ、その状況はほとんど江戸時代以降まで存続していた。またこの時期、平野部の若江城を中心として客坊城・往生院城などの城が戦乱期に数多く築造されたが、安土・桃山時代までに廃絶または城としての機能をなくしてしまった。江戸時代になると大和川の付け替え工事が行なわれ、平野部における生産域の状態を一変させた。旧の河川・池は埋め立てられてその周辺を含め田畑が整備され、本遺跡西部域ではいわゆる掘り上げ田が形成された。



第１図　遺跡周辺図（1/25000）



第２図　各次数調査地位置図

Ⅲ．調査の概要

1. 調査の方法と経過

今回の調査地は国道170号線拡幅予定地で、国道308号線南側の東歩道および拡幅域あたり、工事工程により２つの工区－６工区・７工区－に分けて調査を実施した（工区名は平成10年度―１工区、平成11年度―２工区に順じている)。各工区の調査期間は６工区が平成14年３月１日から11月22日、７工区が３月８日から12月16日までであった。各調査工区は幅約５～４ｍで南北方向に細長く６工区は約96m、７工区は84m、計約866㎡であった。調査区は車輌の通行、会社等の営業、掘削残土の搬出箇所の確保などから覆工板を布設した場所もあった。とくに６工区南半分と７工区全面に敷設された。

各工区の調査は基本的に現地表（GL）下約1.5～２ｍの道路舗装・盛土などを機械掘削し、以下一部機械・人力併用掘削部を設けながらGL－約５ｍまで人力掘削による調査を実施した。

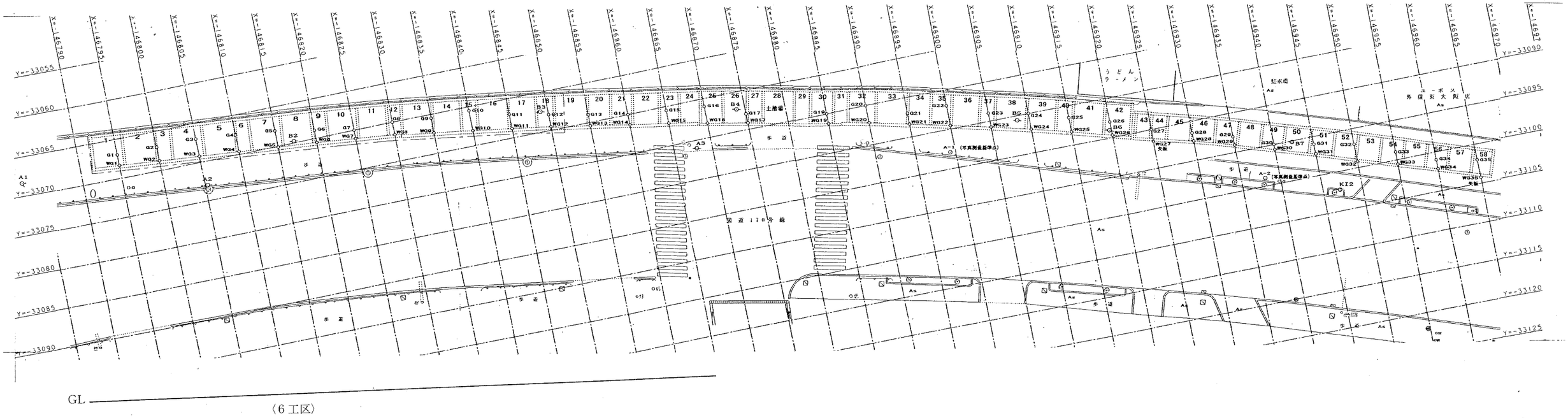
調査にあたっては道路敷きであり掘削深度が５ｍをこえることなどから、調査区域は土留め鋼矢板を打設するとともに2段の支保工が架設された。南北方向の腹起に対する東西方向の切梁によって生じた小区画（基本的に南北３×東西４ｍ）を利用して地区割を行ない、それに基づいて遺物の取り上げなどを行なった。また遺構・断面図の製作にあたっても国家座標値と併行して用いた（第３図参照)。

＜調査日誌抄＞

３月１日　６工区調査地の舗装除去および機械掘削開始。
３月８日　７工区調査地の舗装部除去と機械掘削開始。
３月12日　６・７工区にかけて掘り上げ田に伴う井路（溝１）の存在確認。
４月３日　６・７工区、平面の実質的な人力掘削開始。
４月26日までに６・７工区にまたがる溝１写真。
５月17日　７工区、溝６より卒塔婆出土。
５月13日　６工区、西断面1回目分層と写真開始。
６月12日　６工区、東西方向の坪境道の存在確認。溝62より卒塔婆出土。
７月１日　６工区・7工区の6層内で足跡検出。
７月26日～６工区２段目支保工架設準備。
８月６日～７工区２段目支保工架設準備。
８月12日　７工区、土坑墓Ⅰ検出（８月22日写真)。
８月26日　６工区自然流路掘削。７工区土坑墓Ⅱ検出（９月２日写真)
９月９～12日　調査地内調査基本杭の設置。
９月21日　６工区および７工区北側の第14層上面遺構写真。
10月11日　７工区、土坑墓Ⅲ検出（10月17日写真)。
10月17日　６・７工区北側の第15層上面遺構写真。
10月24日　６工区第16層上面遺構写真。
10月29日　７工区南側第15層上面遺構写真。
10月30日　６工区第17層上面遺構写真。
11月12日　７工区、土坑墓Ⅳ検出（11月15日写真)
11月22日　６工区調査終了。
12月16日　７工区調査終了。

6工区
落1－1：2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘質土(7.5Y4/1 灰色 粘質土、小礫含む)
落1－2：5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 シルトを多く混じり、1mm大の礫含む)
落1－3：7.5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(4～7mm大の礫含む、鉄分沈着)
落1－4：5Y3/1 オリーブ黒色 シルト(3mm大の礫含む)
落1－5：10Y4/1 灰色 シルト(2.5Y5/2 暗灰黄色 シルトが多く混、じり、小～1mm大の礫含む)
落1－6：5GY5/1 オリーブ灰色 シルト(鉄分若干含む)
落1－7：10Y4/1 灰色 粘土質 シルト(5Y4/2 灰オリーブ色 粘土質シルト・2.5GY4/1 暗オリーブ色 シルト混じる)
落1－8：5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト
落1－9：5Y3/2 オリーブ黒色 シルト
落1－10：10GY5/1 緑灰色 粘土質シルト(5Y5/2 灰オリーブ色 粘土質シルト・粗粒砂混じる)
落1－11：10Y4/1 灰色 シルト(小礫若干含む)
落1－12：10Y4/1 灰色 シルト(5Y3/1 オリーブ黒色 シルト・7.5Y4/1 灰色 粗粒砂をブロック状に含む)
落1－13：7.5Y4/1 灰色 粗粒砂(7.5Y4/1 灰色 シルトをブロック状に含む)
落1－14:7.5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(鉄分を多く、3～5mm大の礫若干含む)
落1－15：7.5Y4/1 灰色 シルト
落1－16：5GY4/1 暗オリーブ灰色 シルト(粗粒砂若干混じる)
8層：7.5Y4/1 灰色 粘土
8上層：7.5GY4/1 暗緑灰色 シルト(3mm大の礫若干含む)
8下層：5GY4/1 暗オリーブ灰色 シルト(5Y5/2 灰オリーブ色 シルト混じる)
8下´層：10GY4/1 暗緑灰色 中粒砂混じりシルト
9層－1：7.5GY4/1 暗緑灰色 シルト混じり細粒砂(3～7mm大の礫若干含む)
9層－2：7.5Y4/2 灰オリーブ色 中～細粒砂
9層－3：10Y4/1 灰色 細粒砂(シルトが若干、中粒砂ラミナ状に含む)
9層－4：7.5Y4/1 灰色 中～粗粒砂(5mm大の礫含む)
9層－5：2.5GY3/1 暗オリーブ灰色 砂質土(細粒砂、5mm大の礫含み、中粒砂ラミナ状に混じる)
9層－6：5GY4/1 暗緑灰色 シルト
9層－7：7.5GY4/1 暗緑灰色 中～細粒砂(7.5GY4/1 暗緑灰色 シルトが若干混じる)
9層－8：5GY4/1 暗オリーブ灰色 細粒砂・シルト
9層－9：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 細粒砂(若干粗粒砂が混じる)
9層－10：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 中・粗粒砂
10上上層：2.5Y5/2 暗灰黄色 粘土質シルト(5Y6/3 オリーブ黄色 細粒砂・5Y5/1 灰色 粘土質シルト混じり、鉄分若干含む)
10上層：5Y5/2 灰オリーブ色 粘土質シルト(5Y6/3 オリーブ黄色 細粒砂混じる)
10中層:5Y5/2 灰オリーブ色 粘土質シルト(7.5Y4/1 灰色 粘土質シルトと鉄分若干混じる)
10下層：2.5Y4/1 黄灰色 粘土質シルト(中～粗粒砂と鉄分若干混じる)
10下下層：5Y4/1 灰色 粘土質シルト
11層：5Y4/1 灰色 粘土質シルト(10G5/1 緑灰色 粘土質シルトをブロック状に混じる)
13上層：5Y4/1 灰色 粘土質シルト(10YR6/4 にぶい黄橙色 粘土質シルト若干混じる)
13下層：5Y2/1 黒色 中粒砂混粘土質シルト(粘性強い)
14上層：5Y2/1 黒色 粘土質シルト
15層：10Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト
16層：5GY3/1 暗オリーブ灰色 粘土質シルト
17層：7.5GY4/1 暗緑灰色 粘土質シルト
17－②層：10Y3/1 オリーブ黒色に7.5GY4/1 暗緑灰色 粘土質シルト混じる
落7①：7.5Y5/1 緑灰色 粘土質シルト
落7②：5Y5/3 灰オリーブ色 シルト混じり細粒砂
溝85：5Y2/1 黒色 粘土質シルト
イコウm：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(7.5Y4/1 灰色 粘土質シルトをブロック状に混じる)
イコウn：5Y2/1 黒色 粘土質シルト
イコウo：5Y2/1 黒色 中粒砂混粘土質シルト(7.5Y4/1 灰色 粘土質シルトをブロック状に、炭化物若干混じる)
イコウp:5Y2/1 黒色 中粒砂混粘土質シルト(2.5Y4/2 暗灰黄色 粘土質シルト・炭化物が若干混じる)
イコウq：2.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(若干14層混じる)
イコウr－1：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性やや強い)
2：5Y2/1 黒色 粘土質シルト
イコウs:7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(2.5Y5/2 暗灰黄色 粘土質シルトと炭化物若干混じる)
イコウt－1：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(中粒砂を若干混じる)
2：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(7.5Y4/1 灰色 粘土質シルトをブロック状に若干混じる)
3：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(木片若干混じる)

7工区
3上層：10Y6/4 にぶい黄橙色・10Y5/1 灰色 砂混じり粘土質シルト
3中層：5Y4/3 暗オリーブ色 砂混じりシルト質土
3下層：7.5GY5/1 緑灰色・2.5Y4/6 オリーブ褐色 砂混じり土
3下´層：5GY5/1 オリーブ灰色・10Y4/1 褐色 砂混じりシルト
4上層：10Y5/1 灰色 砂・小礫混じり粘質土
4下層：5GY4/1 暗オリーブ灰色 砂混じり粘土
5層：10G4/1 青灰色 砂混じり粘土質シルトと7.5Y5/2 灰オリーブ色 砂～小礫混じり土の混土
6間1層：10Y4/1 灰色 シルト
6a層：10Y3/1オリーブ黒色粗粒砂混じりシルト(中粒砂若干混じる)
6b層：5Y'4/1 灰色 シルト混じり細粒砂(中・粗粒砂、2mm大礫含む)
6c層：7.5Y3/1 オリーブ黒色 粗粒砂混じり中粒砂(2～10mm大の礫含む)
6d層：5Y5/2灰オリーブ色 粘土質シルト
6最終層：7.5Y4/1 灰色 シルト(粘土質)
7層：5Y5/1 灰色 中～粗粒砂
7下層：5Y4/1 灰色 シルト(小礫混じり、3～5mm大の礫少量含む)
7下間層：7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粗粒砂、2～3mm大の礫多く含む)
(8)層：7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土(細～中粒砂若干混じる)
(8上)層：10Y3/1 オリーブ黒色 中粒砂混シルト
8上´層：10Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト(粗粒砂、2～3mm大の礫多く混じる)
8下層：7.5Y3/1 オリーブ黒色 細・中粒砂(2～5mm大の礫多く含む)
9層：10Y4/1 灰色 細粒砂混じり粘土質シルト(中・粗粒砂含む)
10層：10Y3/1 オリーブ黒色 シルト混じり中粒砂(2～5mm大の礫多く含む)
(10下)層：10Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト(2～5mm大の礫含む)
10下´層：5Y3/1 オリーブ黒色中粒砂混じり粘土質シルト(3～5mm大の礫多く含む)
(10下下)層：10Y4/1 灰色 細粒砂混粘土質シルト(中・粗粒砂若干混じる)
(13上)層：7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い、粗粒砂・2～3mm大の礫、遺物多く含む)
13層：7.5GY4/1 緑灰色 シルト(中～粗粒砂、2mm大の礫多く含む)
14層：7.5Y2/1 黒色粘土質シルト
14下層：7.5Y2/1 黒色中粒砂混じり粘土質シルト(2～5mm大の礫含む)
(15)層：7.5Y3/1 オリーブ黒色 中～粗粒砂混粘土質シルト(2～5mm大の礫多く含む)
15下層：5Y3/1オリーブ黒色 粗粒砂混粘土質シルト(10Y2/1 黒色粘土質シルトをブロック状に混じる)
15下´層：10Y3/1オリーブ黒色 中～細粒砂(粗粒砂、2～3mm大の礫若干混じる)
16上層：10Y3/1オリーブ黒色 粘土質シルト(粗粒砂・2～3mm大の礫多く含む)
(16下)層：10Y4/1 灰色 細粒砂混粘土質シルト(中～粗粒砂若干混じる)
(17)層：7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト(細～中粒砂若干混じる)
18層：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い)
18下層：7.5Y3/1 黒色 細粒砂混粘土質シルト(粘性強い)
19層：5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘土質シルト(若干7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルトが混じる)
19下層：7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト(5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘土質シルトをブロック状に混じる)
20層：7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト(10Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い)がブロック状に混じる)
20下層：10Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い)
20下´層：5GY5/1 オリーブ灰色 粘土質シルト(粘性強い、7.5Y2/1黒色 粘土質シルトが若干混じる)
21層：7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト (粘性強い)
21´層：7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い、7.5GY5/1 緑灰色 粘土質シルトが若干混じる)
21下層：7.5GY5/1 緑灰色 粘土質シルトに7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い)が混じる
21下´層：7.5GY521 黒色 粘土質シルト(粘性強く、7.5GY5/1 緑灰色粘土質シルト若干混じる
22層：10Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い)
23層：7.5Y5/1 灰色 粘土質シルト(粘性強い、上部では7.5Y2/1 黒色 粘土質シルトが多く混じる)



第３図　地区割図および西壁断面図－部分－

2. 層位

盛土

第１層　旧耕土で土師器・須恵器・陶器の小細片などが出土し、溝１などの掘り上げ田に伴う井路などを検出した。

第２層　旧床土　若干の土師器・須恵器・陶器小細片とカメ腹側板の一部（資料番号101）などが出土した。上面で落ち込みを検出した。

第３層　３～４層に分かれる砂混じりシルト質土・シルトを主体としていた近世末から近代の整地・耕作土。土師器・須恵器・瓦器・陶器・瓦などの小・細片が出土した。耕作土上面で、落ち込みなどを確認し、整地層上面で坪境の道（畷）・溝・土坑・自然流路などの遺構を検出した。

第４層　２～３層に分かれる砂・小礫混じり粘質土・粘土の耕作土。土師器・須恵器・瓦器・陶器・瓦などの小・細片が出土した。坪境の道（畷）・落ち込み・溝など検出した。

第５層　砂混じり粘土質シルトと砂・小礫混じり土の混ざった整地土。土師器・須恵器・瓦器などの小・細片が出土した。

第６層　砂・シルト・シルト質粘土の互層。２～3面の足跡検出した。弥生土器・土師器・須恵器・瓦器などの小・細片が出土した。

第７層　シルトまたは粘土質シルトで、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器の小・細片と鉄製品などが出土した。上面で坪境の道（畷）・溝・足跡などを検出した。

第８層　粘土・粘土質シルトの堆積層。弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器の小・細片とウマの骨（資料番号102）などが出土した。

第９層　粘土質シルトを主体とし、６工区では砂・粘土質シルトの互層をなしていた。弥生土器・土師器・須恵器・埴輪などが出土した。

第10層　砂混じりの粘土質シルトを主体とし、３～４層に分かれる。弥生土器・土師器・須恵器・製塩土器の小・細片とヒトの上腕骨（資料番号156）などが出土した。上面で坪境の溝・溝・足跡・土坑などを検出した。

第11層　植物遺体および植物遺体を多く含むシルト質粘土層で、カモの仲間の骨（資料番号103）などが出土した。

第12層　植物遺体を含むシルト質粘土および粘土の互層。

第13層　砂・礫などを含むシルト・粘土質シルトで２～３層に分かれる。弥生土器・石器・木器・サヌカイト・動物遺体などの弥生時代の遺物を多量に包含していた。上面で落ち込み２基と３筋の自然流路を検出し、7工区では中面および下面で土坑墓・土器棺墓を検出した。

第14層　砂混じり粘土質シルトを主体とし２～3層に分かれる。弥生土器・石器・サヌカイトなどの遺物を包含していた。上面で弥生時代中期半ばごろの遺構を検出した。

第15層　砂混じり粘土質シルトを主体とし2～３層に分かれる。弥生土器・サヌカイト小片などが少量出土した。上面で弥生時代中期前半ごろの遺構を検出した。

第16層　砂混じり粘土質シルトで、弥生土器・サヌカイト小片などが少量出土した。上面で弥生時代中期初頭ごろの遺構を検出した。

第17層　砂を若干含む粘土質シルト。6工区北側において上面で弥生時代前期ごろのピット・小溝などの遺構を検出した。

第18層　黒色粘土質シルトで２層に分かれる。

第19層　暗オリーブ灰色粘土質シルトを主体とし２層に分かれる。

第20層　黒色粘土質シルトで３層に分かれる。

第21層　黒色粘土質シルトと緑灰色粘土質シルトの互層の4層に分かれる。

第22層　黒色粘土質シルト。

第23層　灰色粘土質シルト。

第17層以下は無遺物層。

3. 遺構

古い時代から順をおって調査内容を概観していく。

[縄文時代以前]

粘土・シルトなど確認した層は縄文時代後・晩期対応層（第17～23層）で、いわゆる河内湖・潟期の自然の堆積状態を示しているが、遺物は出土していない。ただ、弥生時代中期後半の整地層である第13層内（１・２・５・６、８～11）と弥生時代の遺構内（３・４・７）などから凸帯文土器などの晩期土器片が出土している。この時期の明確な遺構は確認できなかった。

[弥生時代]

＜前期＞

東方の調査（第40・46次調査）で前期の大溝などが確認されている。今回の調査では前期土器は中期包含層から出土しているが、遺構としてはピット、土坑、溝および土器棺墓などを検出したのみで、相対的にあまり多くない。

第17層上面遺構（第4図　図版７）

６工区１から11地区でのみでピット５個、土坑１基、溝１条を検出した。

P1321・1322・1434・1436は径0.1m前後、深さ0. 05m前後の小ピットで、埋土は前３個が2.5Y2/1黒色粘土質細・中粒砂混じり粘質シルト、P1436は10Y2/1オリーブ黒色粘土質シルト。P1435は径0.2m、深さ0.08mを測り、埋土は５Y2/1黒色細粒砂混じり粘質シルト。土坑125は西側半分のみ検出（東側溝で切断）、径0.6m、深さ0.1m、埋土。7.5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト。溝162は北側先の土坑84によって切断されており、残存長0.55m、幅0.15m、深さ0.05mを測り、埋土は５Y2/1黒色粘土質細粒砂混じり粘質シルト。いずれからも遺物は出土しなかったが、検出層から前期相当期のものと思われる。

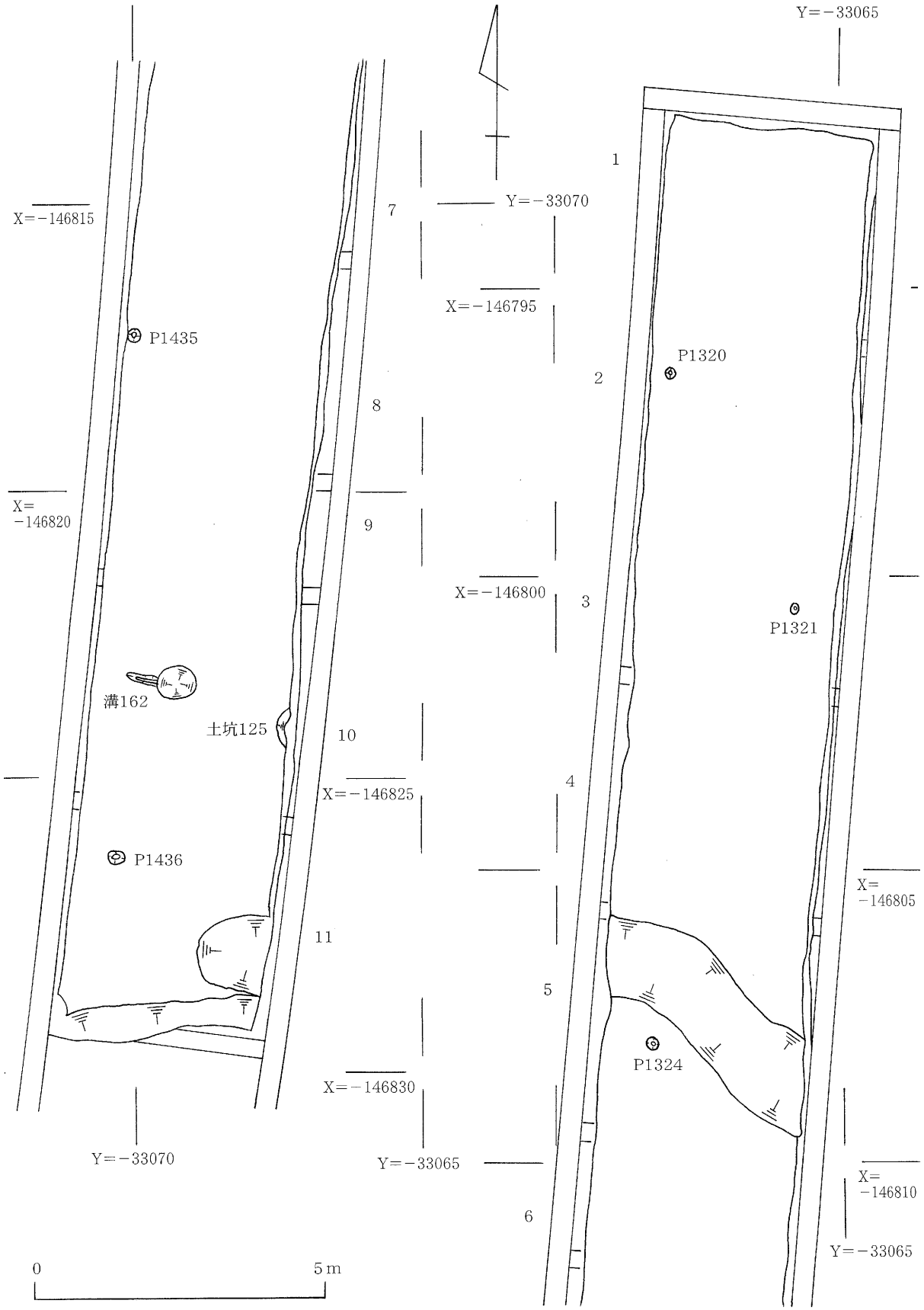
土器棺墓Ⅱ－壷棺Ⅱ－（第５図　図版22）

７工区54地区での第15層相当層上面で土坑128を検出した。上部は弥生時代中期後半の整地時（第13層）に破壊され、土坑内に口縁を北西方向に向けてほぼ横向けにすえられていた壷（432）の胴・下部の一部も欠損していた。土坑は0.8m×0.65m、深さ0.3mの楕円状を呈し、土坑底部に暗オリーブ灰色粗粒砂混中粒砂（ｄ）を敷いて壷を据え、その周りを粘土質シルト混じり黒色中粒砂・黒色粘土質シルト（ｂ・ｂ´）で埋めて固定していた。そしてその上を暗緑灰色粗粒砂混中粒砂(シルト若干混)で覆って埋められていた。

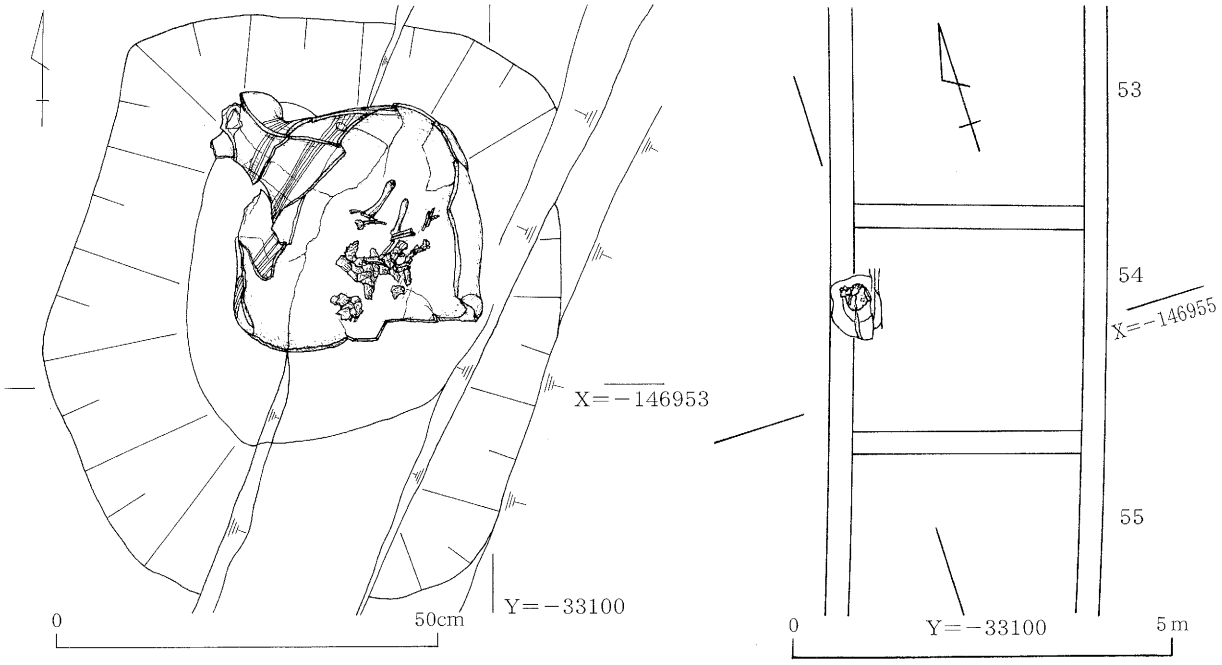
壷内は下部一帯が黒色細～中粒砂混粘土質シルト（ａ）で、その中からは幼児（胎児）の骨が出土した（Ⅶ号人骨)。骨の遺存状況はわりと良く、頭蓋骨・大腿骨などの四肢骨があった。

＜中期前葉から中葉＞

この時期の集落域期の遺構面は最低４面あり（調査時での遺構検出層は第14･15･16上・16下層）、各面で遺構に切り合い関係が見られ、さらに複数の時期にわたっていたものと思われる。



第４図　第17層上面遺構平面図



第５図　土器棺墓Ⅱ平面図

後述していくように、各面からは各種の溝、土坑（井戸含み）、ピット群（柱根残存のものあり）などが見られ、とくに第14・15層上面遺構は調査地のほぼ全域にわたっていた。

第16層は上部が暗灰色粘土質シルト、下部が灰色砂混じり粘土質シルトに分かれ、若干の弥生土器片が出土し、それぞれの上面でピット・土坑を検出した。

第16下層上面遺構（第６図）

遺構は第16下層が残存していた33地区から53地区（7工区）で検出した。33～38地区にかけては45のピット群（P1478～1520・1642）が見られた。ピットには径10cm前後の円形もの・径20cm前後円形ものと30～40cmの円形またはやや不定形なものがあった。ピット群は33地区東南から38地区西北部にかけて帯状に分布していた。

39～43地区では遺構は検出されず、44地区から53地区にかけては数が少なくなり、径10cm前後のピットは１（P1598）しかなく、他は径15cm以上で大きいものは径50cmに近いピット（P1571～1599）と２基の土坑（土坑99・133）を検出した。土坑133は長辺1.1m、短辺0.6mの隅丸長方形を呈し、深さ0.18mを測った。土坑99は西側が不明であるがほぼ同規模のものと思われ、埋土は中粒砂を多く含む黒色（7.5Y2/1）粘土質シルトであったが遺物はなかった。この地域の遺構は33～38地区のピット群に比べるとまばらであった。46地区のＰ1574のそばからは弥生土器高坏脚部片が出土した。

第16上層上面遺構（第８図　図版８～12）

柱穴などのピット群、土坑など検出した。１～８地区は土坑３基（土坑130・82・129）、溝（138）とやや多くのピットが見られたが、９～29地区まではまばらであった。しかし、30地区付近から37地区付近にかけては３基の小土坑（土坑98・123・124）、1条の溝（溝166）と多数のピットを検出した。しかし、38地区以南になると49～51地区付近で土坑２基（土坑99・133）とやや多くのピットが見られたが、全体的にはまた少なくなっていた。

以下、主要な遺構を北側（1地区）から概観して記す。

土坑130（１地区）は、3.7×1.6m、深さ0.15mを測る（北・西など調査地外）。埋土は黒色（5Y2/1）粘土質シルトで、壷（176～178）・鉢（179）・甕（180・181）などの弥生土器、板（1172）

第６図　第16下層上面遺構平面図

などが出土した。

土坑82（２・３地区）は、2.3×1.5m、深さ0.1mを測る舌状土坑（西は調査地外）。埋土は植物遺体を含む黒色（2.5Y2/1）粘土質シルトで、壷（132）・鉢（131・135）・甕蓋（133）・壷蓋（134）・甕（136～138）などの弥生土器、自然木などが出土した。

溝138（３地区）は、1.2×１m、深さ0.08mの舌状（西は調査地外）を呈する。埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘土質シルトで、壷（390）・鉢（391）・甕（388・389）などの弥生土器が出土した。断面観察の結果、第14層上面の遺構と判った。

土坑129（３・４地区）は、北は溝138で切断、西は調査地外。１×0.7m、深さ0.1mを測る舌状土坑（西は調査地外）。埋土は黒色（7.5Y2/1）粘土質シルトで、高坏（170）などの弥生土器が出土した。

土坑99（50地区）は、0.8×0.5m、深さ0.08mを測る角張った舌状土坑（西は調査地外）。埋土は黒色（7.5Y2/1）中粒砂混じり粘土質シルトで、壷（167）・高坏（168）・甕（166）などの弥生土器、大型哺乳類などの動物遺体（資料番号32・33）が出土した。

この遺構面で検出した柱状木製品および杭の状況を見てみると（第7図参照）、ピットを穿って径15cm以上の木を埋設したもの－Ｐ1306・1247・1220など－、直接打ち込んだ径13cmまでのもの－杭ｌ・ｒ・ｊ－などがあった。ピットのうち出土遺物を検出した主なものは、以下のとおりである。Ｐ1453からシカ（資料番号96）。Ｐ1461からは壷（446）。Ｐ1629からは壷（450）。

第15層は調査地のほぼ全域に広がっていた整地層で、粗粒砂混じりオリーブ黒色粘土質シルトを主体とし、上部などに細粒砂混じり灰色粘土質シルト、下部の一部に礫を含むオリーブ黒色中・細粒砂が見られる混土層であった。層内からは弥生土器、打製石器・動物遺体、サヌカイト片などが出土した。

弥生土器は壷（916・917）・甕（918～920）・高坏（921）・鉢（922～925）などであった。

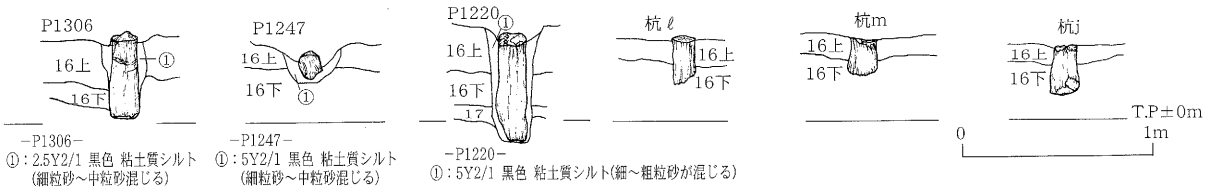
動物遺体はイノシシ（資料番号230）・シカ（資料番号229・231）・大型哺乳類（資料番号228）などであった。

15層上面遺構（第９・10図　図版13～21）

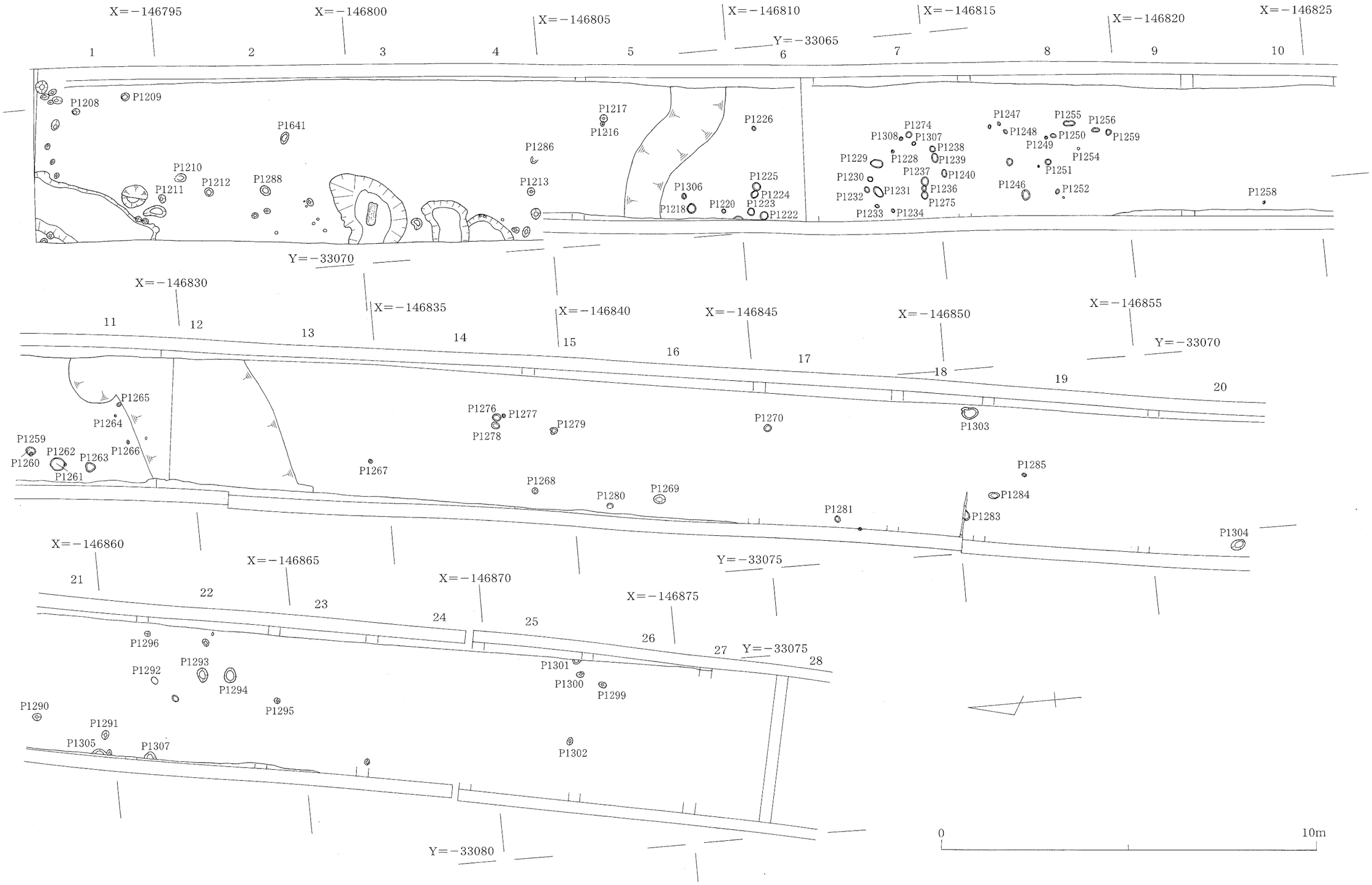
柱穴などのピット群、土坑（井戸含む）、溝、土坑墓などを検出した。以下、主要な遺構を北側（1地区）から概観して記す。

土坑82（２・３地区）は、南北2.1m、東西1.3m、深さ0.15mを測る舌状土坑（西未調査）。埋土は黒色（2.5Y2/1）炭・小礫粘土質シルトで、壷（132）・鉢（131・135）・甕蓋（133）・壷蓋（134）・甕（136～138）などの弥生土器、イノシシ・シカ？などの動物遺体（資料番号23・24）が出土した。

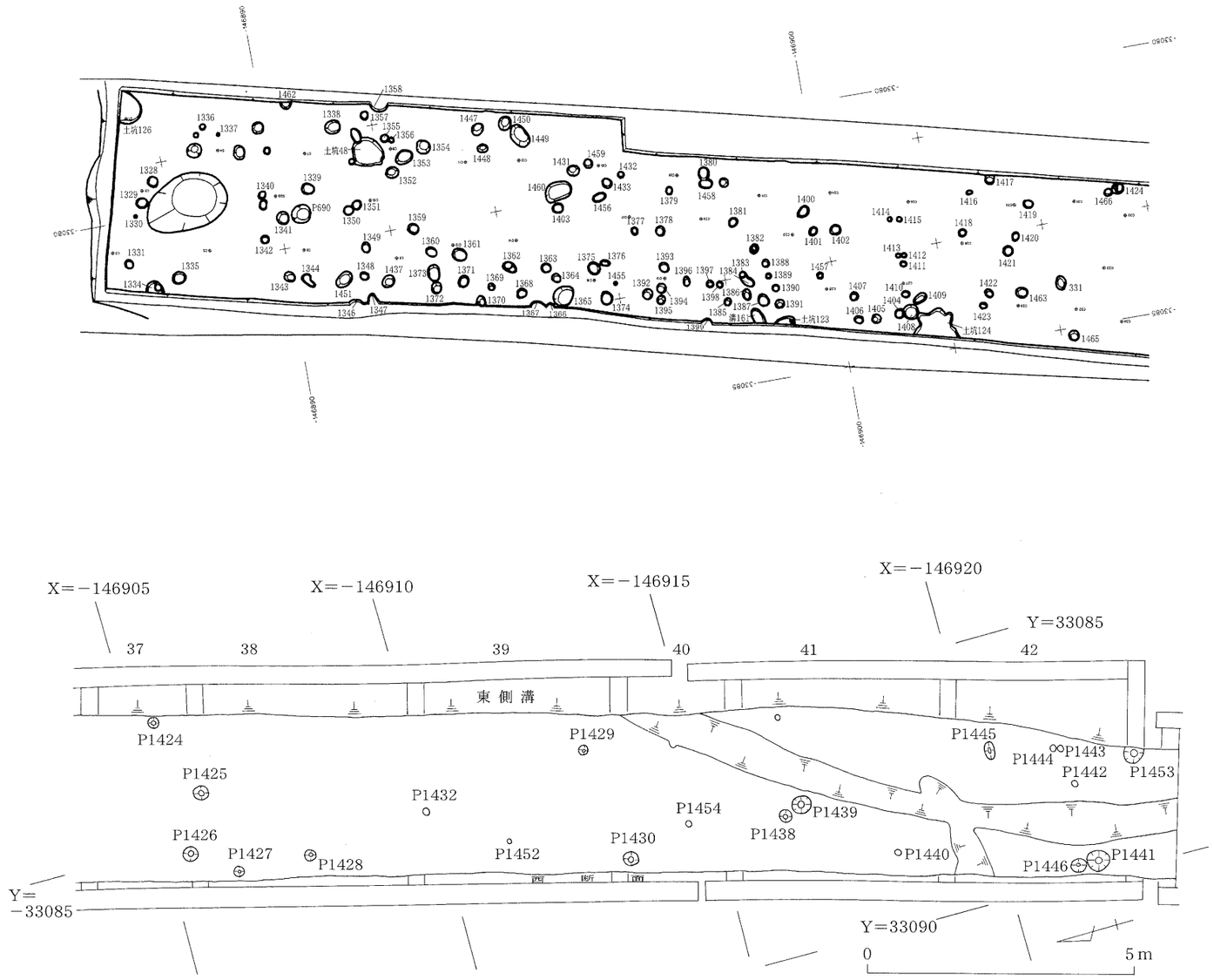
溝138（３・４地区）は、幅0.68～１m、深さ0.08mを測る東西方向の溝。南肩の一部は土坑97によって切られている。埋土は緑灰色（7.5GY6/1）粘土質シルトを若干含む黒色（５Y2/1）粘土質シルトで、甕（388・389）・壷（390）・鉢（391）などの弥生土器、板（1174）、鹿角製品（1203）、シカなどの動物遺体（資料番号71・72）が出土した。



第７図　第16層上面遺構断ち割り断面図



第８図　第16層上面遺構平面図



第８図　第16層上面遺構平面図

土坑83（４地区）は、1.62×1.16m、深さ0.35mの小判形を呈する土坑。埋土は黒色（2.5Y2/1）炭・小礫粘土質シルトで、壷（129）・鉢（130）などの弥生土器、先尖棒（1171）・板（1173）などの木製品が出土した。

土坑97（４地区）は、幅２×1.2m、深さ1.4m以上の円形（東は未調査）土坑＝井戸。埋土は黒色（５Y2/1）・オリーブ黒色（7.5Yないし５Y2/2）などの砂混じり粘土質シルトで6層に分かれ－第11図参照－、甕（144）・鉢（145～147）・壷（148）・細頸壷（149）などの弥生土器、石庖丁（1072）などが出土した。

土坑96（26・27地区）は、南北2.2m、東西２m（西は未調査）の舌状土坑の北よりに、径1.7m、深さ0.5mの円筒部があり、東北東から流れ込む溝153－幅0.36～0.52m、深さ0.25m、断面は第11図参照－があった。円筒部は黒色（7.5ないし５Y2/1）などの砂混じり粘土質シルトで７層に分かれ－第11図参照－、甕（162～164）・鉢（165）・壷（152～161）・細頸壷（150）・無頸壷（151）などの弥生土器、石庖丁（1072）・石槍（1118）などの石器、農具原材（1178）などの木製品、イノシシ・大型哺乳類などの動物遺体（資料番号30・31）が出土した。

土坑10（27・28地区）は、１×0.8m、深さ0.12mの不整楕円形を呈し、埋土は黒色（5Y2/1）シルト混じりオリーブ黒色（7.5Y2/2）シルトで、甕（28）などの弥生土器が出土した。

溝81（27～29地区）は、北東から南西方向にのびる溝。検出長9.4m、幅１～0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は黒色（2.5Y2/1）中・粗粒砂・小礫混じり粘土質シルトで、弥生土器片・サヌカイト片などが出土した。

土坑85（30・31地区）は、径2.5m、深さ0.3mを測る円形土坑。埋土は黒色（５Y2/1）砂混じり粘土質シルトで、壷（139）・甕（140～142）などの弥生土器、自然木などが出土した。

土坑86（31・32地区）は、径1.6m、深さ0.7mを呈する円形土坑＝井戸。埋土は黒色（2.5Y2/1）粘土質シルトで、弥生土器片・サヌカイト片などが出土した。

溝139（36地区）は、幅2.1m～0.2m、深さ0.07mを測る南東から北西方向にのびる。埋土は黒色（7.5Y2/1）粗粒砂混じり粘土質シルトで、イノシシ（資料番号73）などが出土した。

土坑100（38地区）は、1.04×0.77m、深さ0.2mの小判形を呈し、埋土は黒色（５Y2/1）中・粗粒砂・小礫混じり粘土質シルトで、甕（100）などの弥生土器、動物遺体片（資料番号34）などが出土した。

土坑87（45地区）は、0.7×0.4m、深さ0.12mを測る半円状を呈し（東未調査）、埋土は黒色（7.5Y2/1）中粒砂混じり粘土質シルトで、シカ（資料番号26）などが出土した。

土坑103（48～50地区）は、検出東西長４m、南北1.15m（東は溝99で切断、西未調査）、深さ0.15mを測り、側・底面からは土坑121、ピット４などを検出した。埋土はオリーブ黒色（５Y3/1）中・粗粒砂・小礫混じり粘土質シルトで、壷（172～174）・甕（175）などの弥生土器、凸帯文土器片（３）、動物遺体片（資料番号35）などが出土した。

土坑104（52・53地区）は、溝146北斜面で検出した。0.74×0.32m、深さ0.14mを測る小判形土坑。埋土は黒色（7.5Y2/1）粗粒砂混じり粘土質シルトで、ヒトの右脛骨（Ⅴ号人骨）が出土した。後述する土坑墓Ⅲ（Ⅲ号人骨）とは別個体。

土坑105（53地区）は、溝146底東部で、土坑106とともに検出した。南北0.95、東西1.1m（東は未調査）、深さ0.2mの半小判形を呈し、埋土は黒色（7.5Y2/1）中・粗粒砂混じり粘土質シルトで、小型壷（105）などの弥生土器とヒトの頭蓋骨と下顎骨の一部（Ⅳ号人骨）が出土した。後述する土坑墓Ⅲ（Ⅲ号人骨）とは別個体、Ⅴ号人骨との関係は不明。

その他多数のピット検出した。P538・585・592・662・666・864・1172や杭として記してはいるが杭1・杭a・杭dなどに柱根が残存し、杭用と思われる径0.1m未満のピットも多く見られた。ピットのうち出土遺物を検出した主なものは以下のとおりである。P690からはイノシシ（資料番号87)。P738からは壷（442)、イノシシまたはシカ（資料番号88)。P756からは大型哺乳類（資料番号89)。P807からは海面質（資料番号90)。P847からは大型哺乳類（資料番号91)。P874からは石錐（1161)。P985からは動物遺体片（資料番号92)。P988からは肋骨片（資料番号93)。P1001からは長骨片（資料番号94)。P1010からはシカ（資料番号95)。

土坑墓Ⅲ－Ⅲ号人骨－（第12図　図版23)

53地区の溝146底の第15層相当層上面で検出した。土坑内からは頭位をほぼ北北西にした仰臥伸展葬の成人男性人骨（Ⅲ号人骨）が出土した。土坑は2.5m×0.7mを測る、底面が頭部から身体へかけてゆるやかに傾斜した細長い長方形状を呈していた。周辺および上部が後世の遺構（溝146など）で破損していたため正確な形・計測値は不明であり、頭蓋骨上面部・右足骨など、人骨の一部も欠損していた。

身体は仰向けに寝させ、両腕はかるく外側へ「く」の字状におりまげ、手を下腹部横に置いていたと思われる。両脚はほぼまっすぐに伸ばしてあった。下顎骨は右方向に倒れて頸骨部にかかり、首をすぼめたようになっていた。頸骨の後部からは骨製の刺突具と思われるものが刺さった状態で出土し、腰近くの脊椎骨付近からも石鏃が出土した。また、胸骨の一部も変形しており、生前に何らかの外傷をうけたものと思われ、殺害された可能性が考えられる。土坑内からは凸帯文土器片（7）などが出土した。

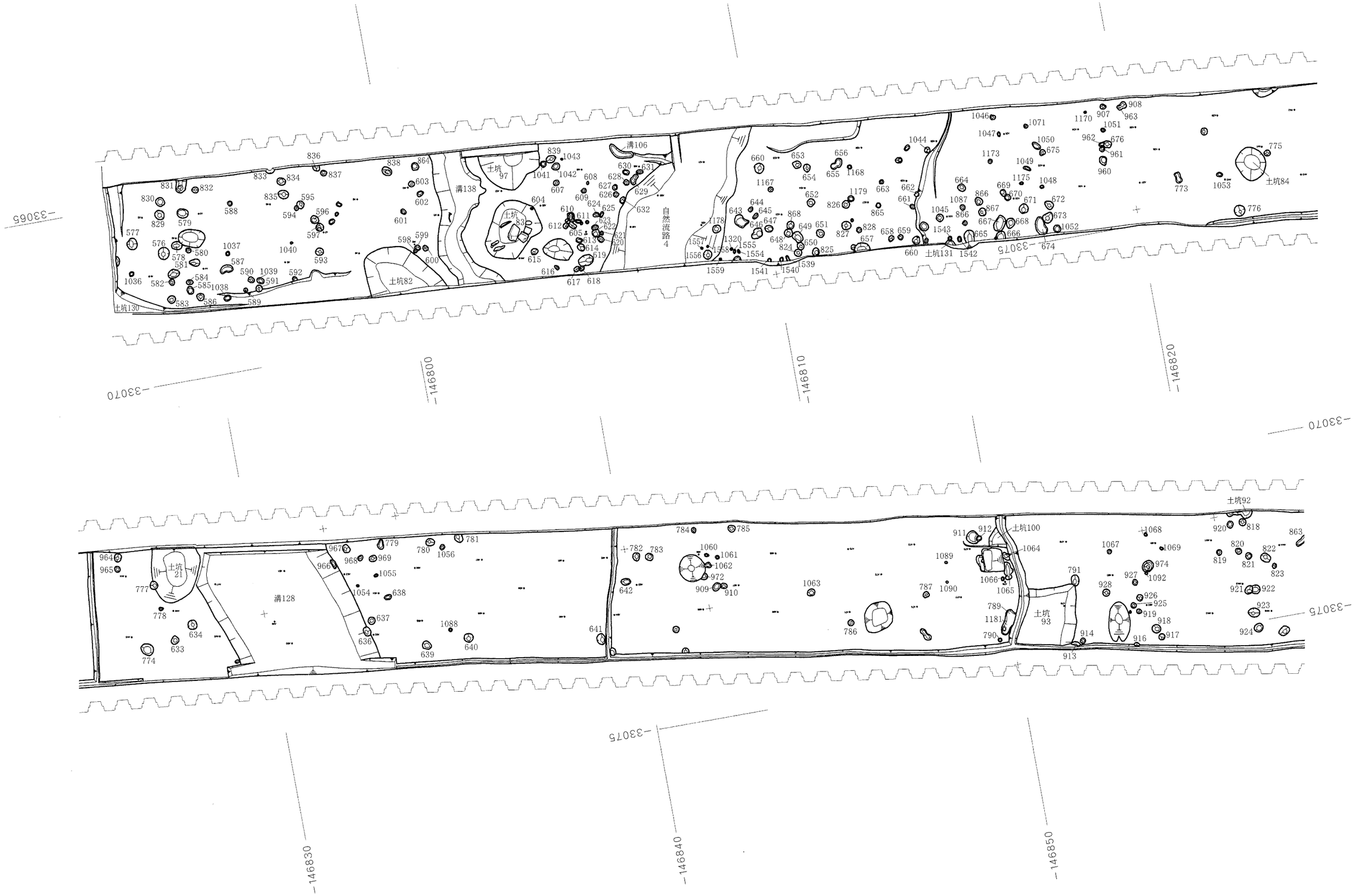
また、土坑墓Ⅲ西方の第15層内からは新生児と思われるのヒトの骨が散乱した状態で出土した（資料番号232)。

土坑墓Ⅳ－Ⅷ号人骨－（第12図　図版40)

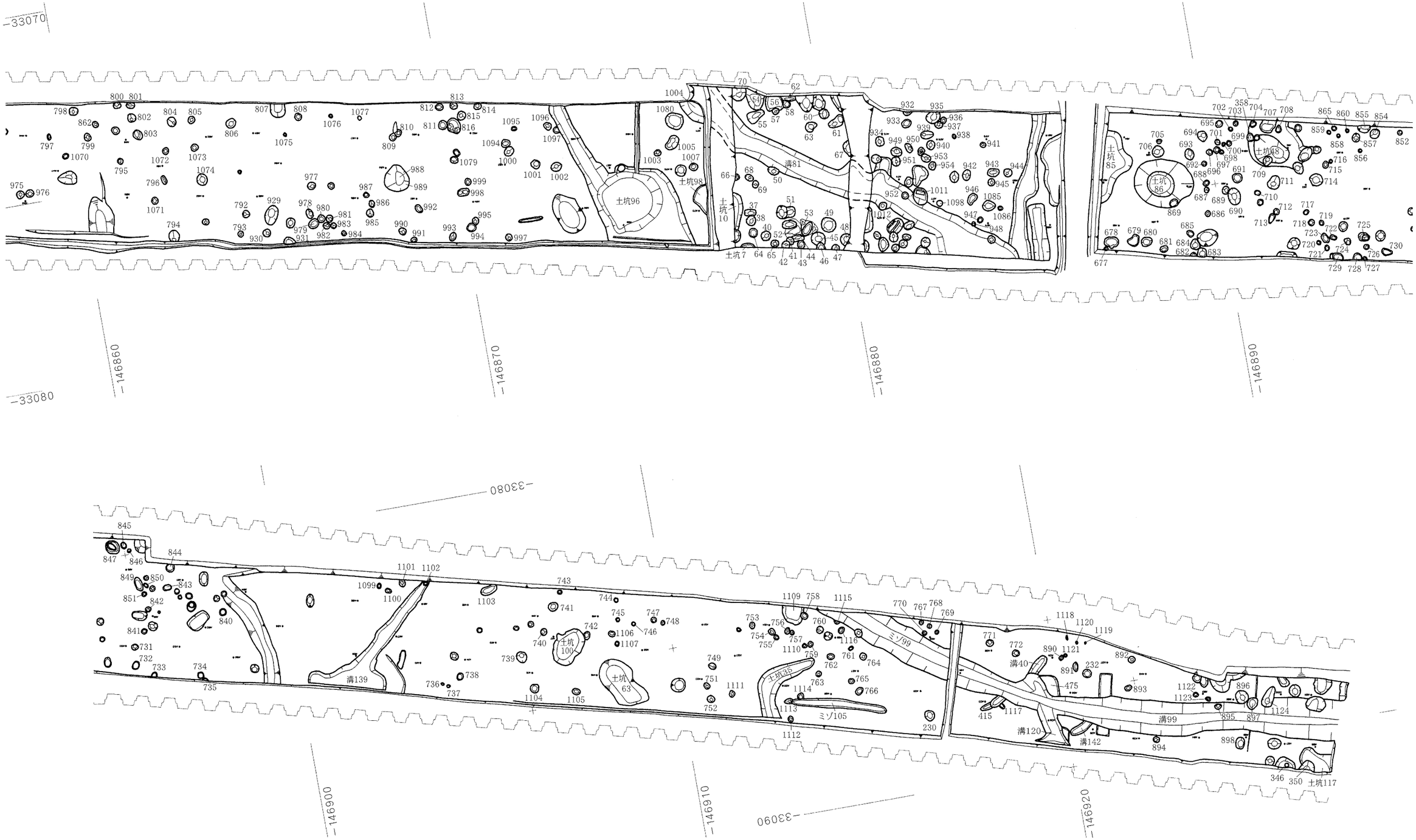
溝134下の第15層上面で検出した。土坑は東西1.5m×南北0.8mのやや細長い楕円状を呈し、土坑内からは頭位をほぼ北西にした仰臥屈葬の成人男性骨（Ⅷ号人骨）が出土した。顔面および上体を仰向けにし、右腕は「く」字状に曲げて手を右胸部におき、左腕は左側部に真直ぐ沿わせていた。両脚は両膝を強く折り曲げ、揃えて左へ倒れていた。顔面は攪乱を受け破損していたが、全体的に残存状況は良好であった。

54・55地区において自然流路5の下からこの時期の自然流路5´を検出した。この流路は自然流路5とほぼ同方向に流れていた。検出幅5.4m、深さ0.9mを測るが、中央部上部は自然流路5によって窪み、北側は整地土である第14層が覆っていた。北斜面は南に比して段をなして各斜角度は強く、瀬であったことを示している。上部から黒色中～粗粒砂混じり粘土質シルト（2～5mm大の礫若干含む)・黒色粘土質シルト(粗粒砂と2mm大の礫を若干混)・黒色シルト混細～中粒砂・黒色シルト(中～粗粒砂若干含む)・黒色粘土質シルト(粘性強く、中粒砂若干と灰色粘土質シルト含む)・黒色シルト質細粒砂・黒色粘土質シルト(細～粒粒砂若干含む)で、弥生土器・サヌカイト片などが出土した。

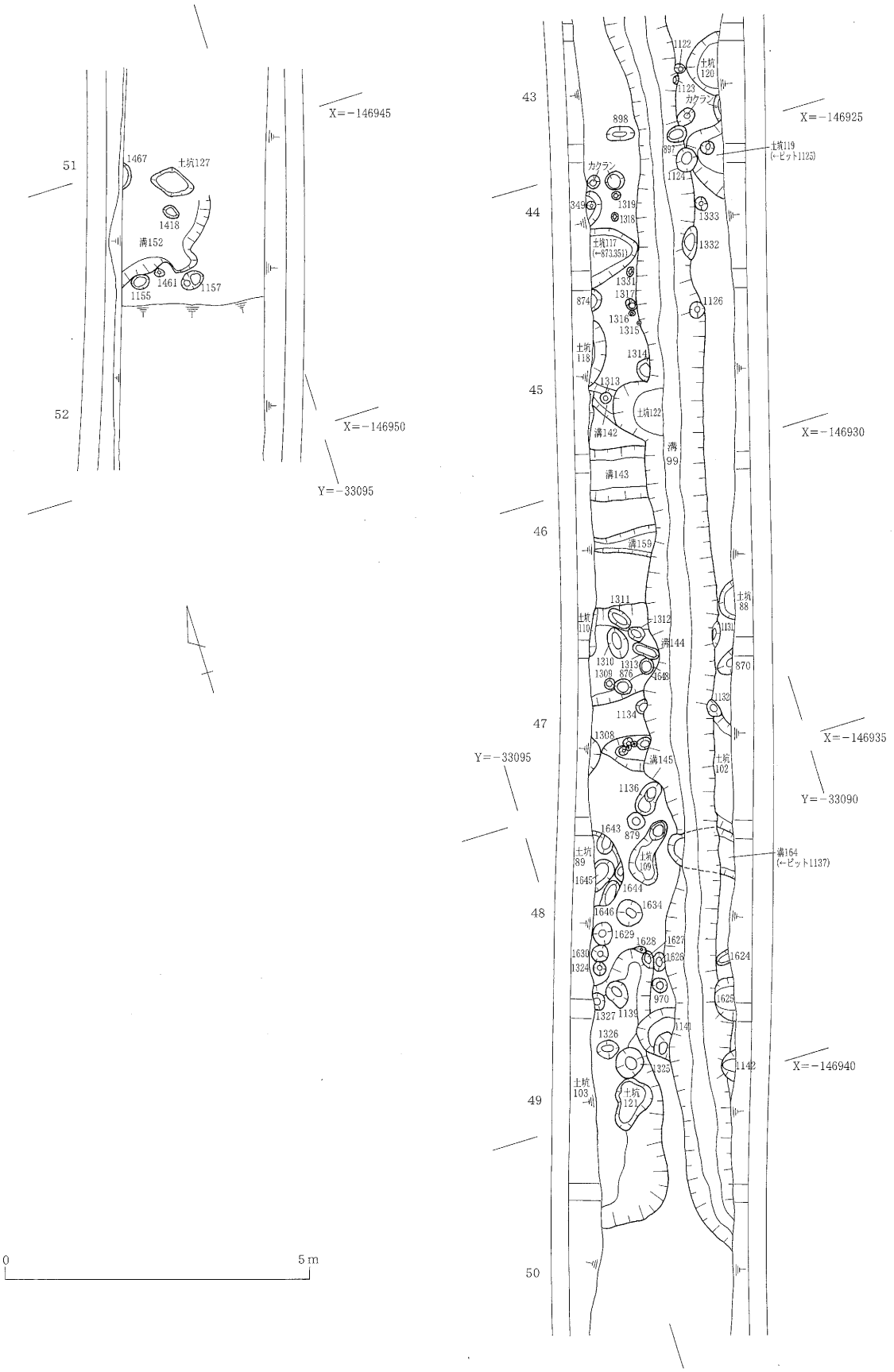
第14層は調査地の52地区以南を除いてほぼ全域に広がっていた整地層で、中粒砂混じり黒色粘土質シルトを主体とし、下部などに細粒砂混じりオリーブ黒色粘土質シルトが見られる混土層であった。層内からは弥生土器、打製・磨製など石器、動物遺体、植物遺体、サヌカイト片などが出土した。



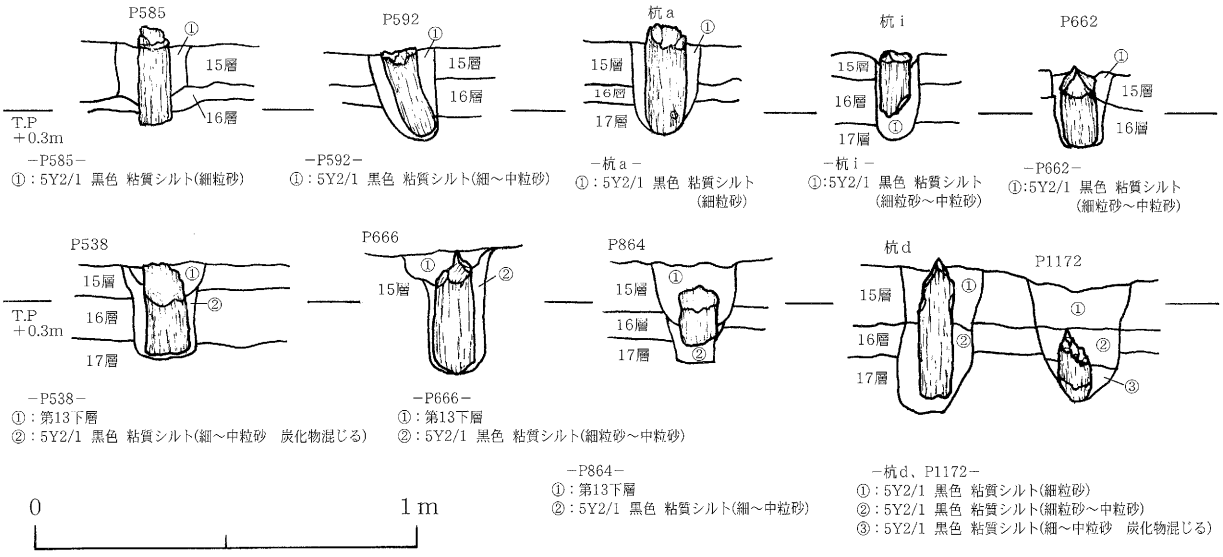
第９図　第15層上面遺構平面図(1)

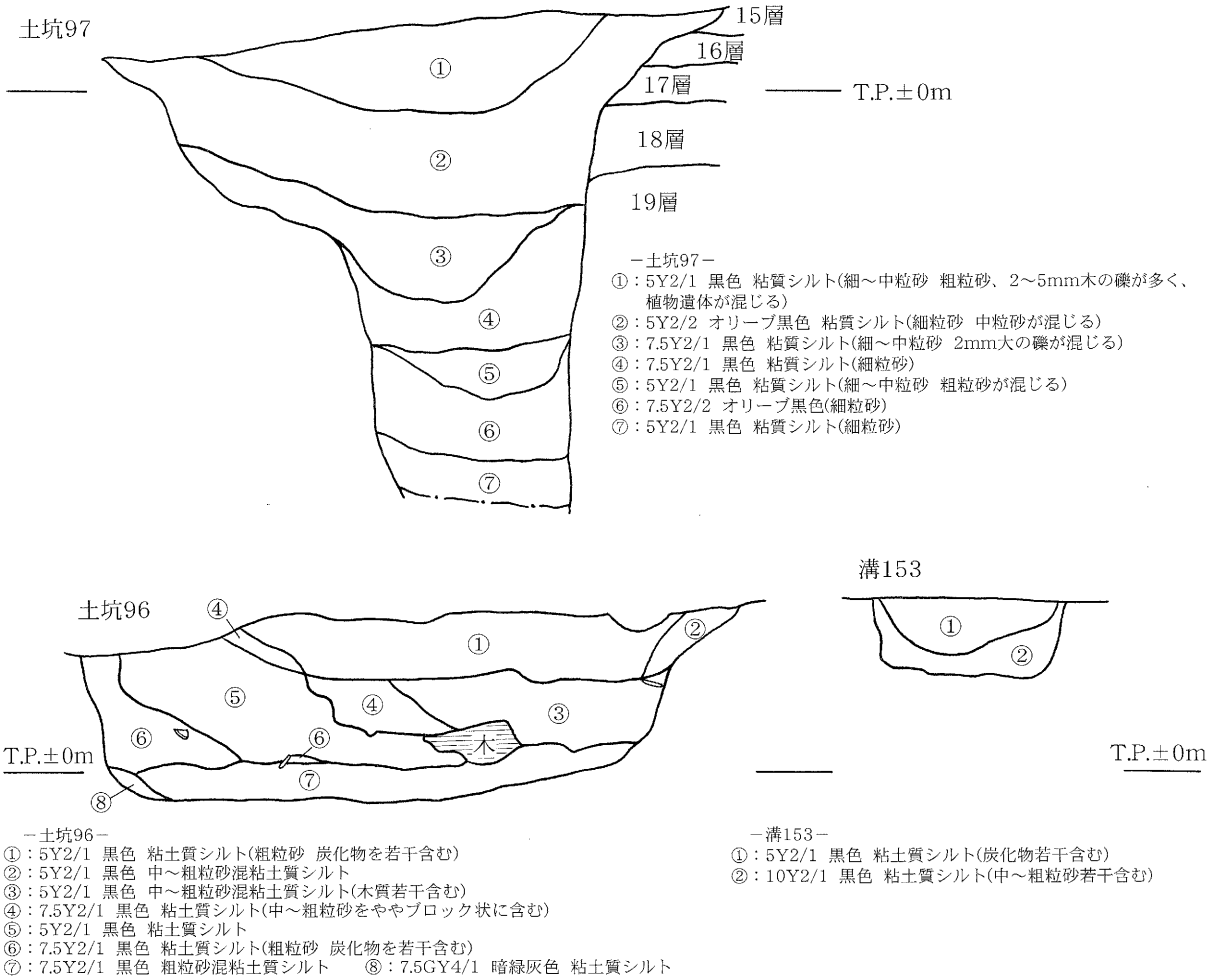


第９図　第15層上面遺構平面図(1)



第10図　第15層上面遺構平面図(2)

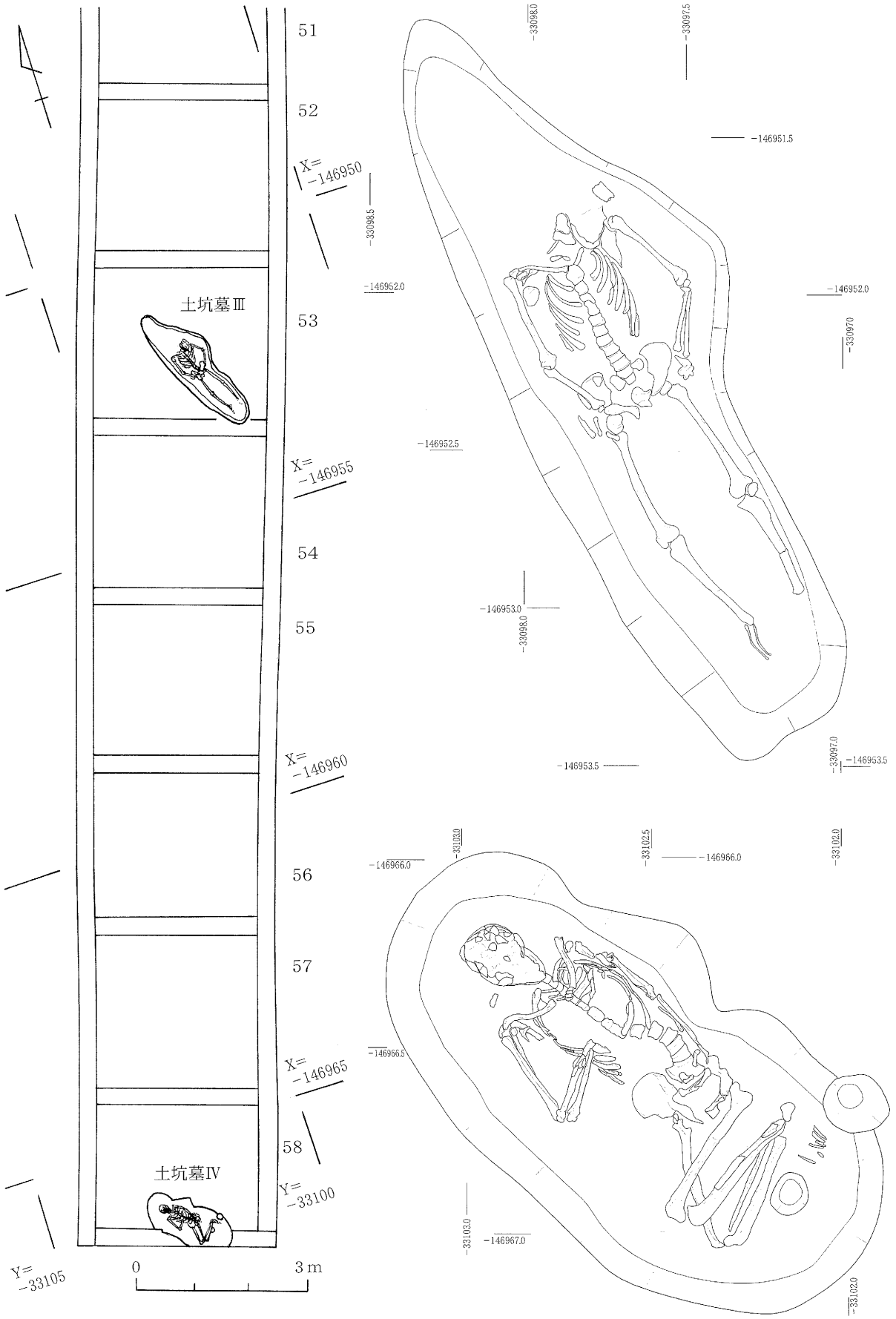




第11図　第15層上面遺構断面・断ち割り断面図

弥生土器は壷（712～720・909・910・911）・細頸壷（721・912）・鉢（722～725・906・907）・高坏（726・908）・甕（727～734・913～915）・甕蓋（709）・壷蓋（710・711）などであった。

動物遺体としてはイノシシ（資料番号141・144・145・220）・シカ（142・143・220・221）などであった。



第12図　土坑墓Ⅲ・Ⅳ平面図

14層上面遺構（第13図　図版24～39）

柱穴などのピット群、土坑、井戸（深さ1.5m以上）、溝（大溝含む）など検出した。以下、主要な遺構を北側（1地区）から概観して記す。

土坑37（１地区）は、楕円状の西半分で（北側調査地外）、検出長1.95×0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は黒色（５Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで、甕（40）などの弥生土器が出土した。

土坑38（２地区）は、1.6×1.1m、深さ0.16mを測る不整土坑。埋土は植物遺体・炭化物を含む黒色（５Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで、石槍（1130）などが出土した。

溝126（１～４地区）は、４・３地区で東西方向（幅4.2m）、3地区西北部で北方向に曲がり（東側のみ検出）南北長８m、幅２～0.6mで、深さ0.2～0.6mを測る。埋土は上部が第13層で、下部は黒色（５Y2/1または7.5Y2/1）植物遺体を含む砂混じり粘土質シルトで、鉢（251～254）・高坏（255～258）・壷（259・264～278）・甕（279～292）・甕蓋（293）などの弥生土器、蛸壷（1044）、石庖丁（1073）・太型蛤刃石斧（1089）・石槍（1126）などの石器、先尖棒（1169）・抉り入り板（1170）などの木製品、イノシシ・トリ？などの動物遺体（資料番号56・57）が出土した。

溝127（２・３地区）は、溝126東西方向分の東沿いに位置し、幅２～0.7m、深さ0.15mを測る。埋土は黒色（５Y2/1）細粒砂・小礫混じり粘質シルトで、壷（248）・甕（249・250）などの弥生土器が出土した。

土坑78（４工区）は、検出幅0.8m、深さ0.52mを測る半楕円形（西側調査地外）を呈する。埋土は黒色（５Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで弥生土器などが出土した。

溝85（７地区）は、検出長3.5m、幅0.8m、深さ0.23mを測る東西方向の溝。埋土は黒色（５Y2/1）粘質シルトで、壷（197）・甕（198～200）などの弥生土器、石庖丁（1054）が出土した。

土坑67（9工区）は、１×1.2m、深さ0.12mを測る楕円形土坑。埋土は黒色（５Y2/1）細粒砂・小礫混じり粘質シルトで、甕（122～123）などの弥生土器が出土した。

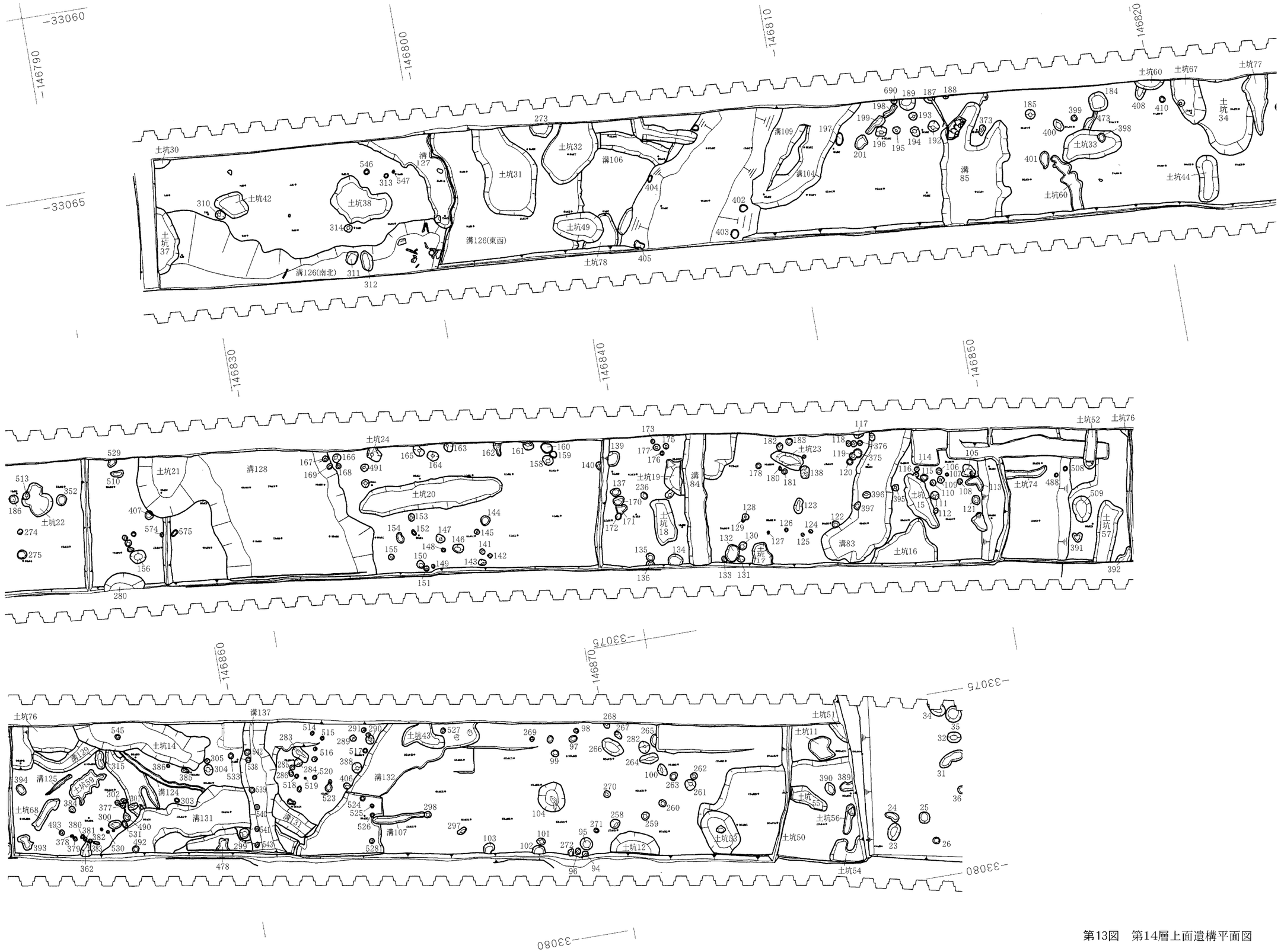
土坑34（９・10地区）は、長楕円形を呈し、東側は土坑67に切られている。検出長1.15×２m、深さ0.16mを測る。埋土は黒色（５Y2/1）粘質シルトで、細頸壷（38）・甕（39）などの弥生土器が出土した。

土坑77（10地区）は、1.5×0.8m、深さ0.1mを測り、埋土は黒色（５Y2/1）中・粗粒砂粘質シルトで、甕（124）などの弥生土器、動物遺体片（資料番号22）が出土した。

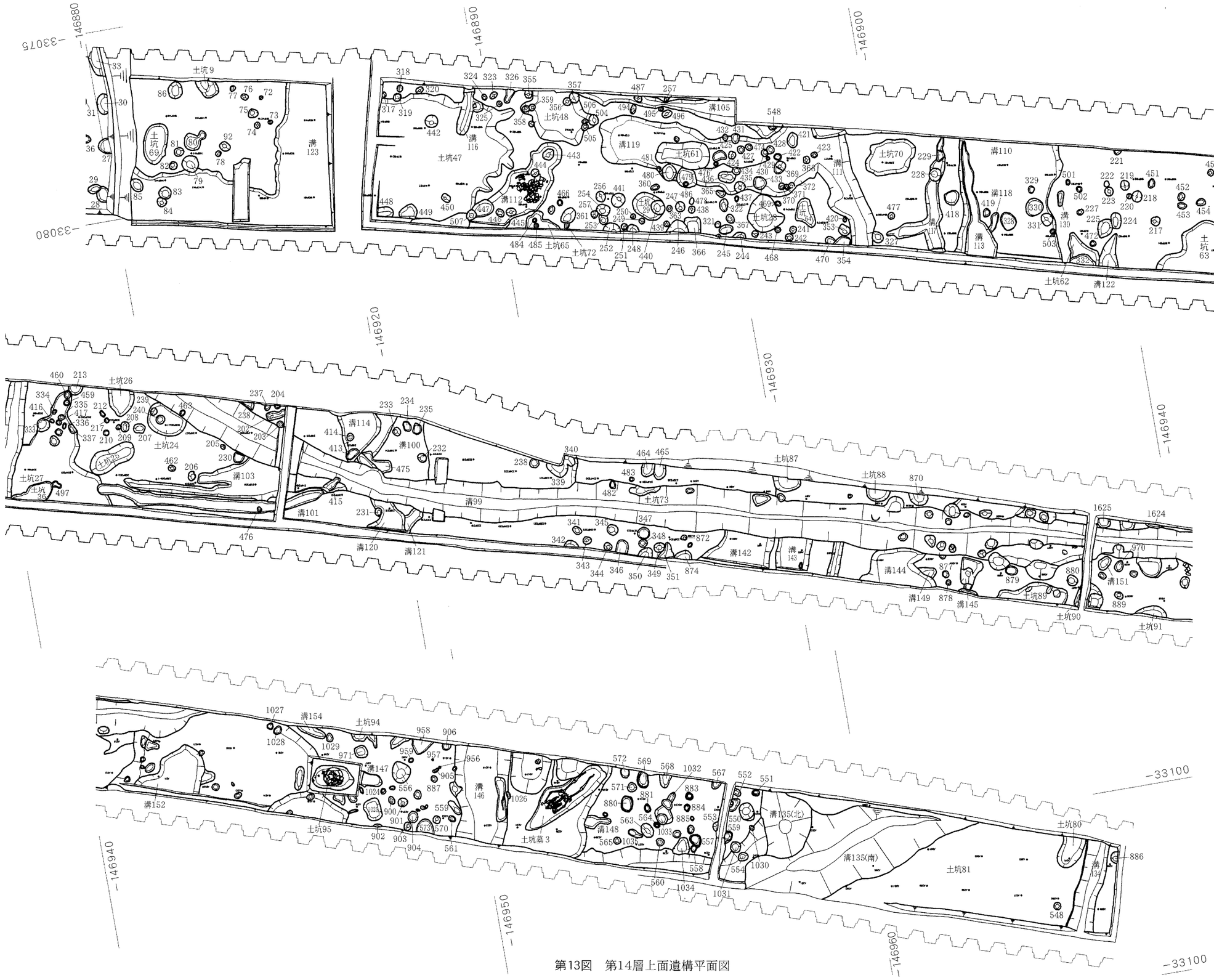
土坑21（11地区）は、1.6×1.5m、深さ0.42mを測る舌状土坑（東未調査）。埋土は黒色（7.5ないし５Y2/1）砂混じり粘質シルトを主体として3層に分かれ、壷（19～23）・甕（24～26）・鉢（27）などの弥生土器、抉り入り棒（1168）などの木製品が出土した。

溝128（12・13地区）は、南北幅4.25m、深さ0.63mを測る東西方向にのびる溝。断面は逆第形状を呈し、上部は第13層で埋没し、下部は黒色粘土質シルトを主体として6層に分かれ（第13図参照）、壷（294～324）・無頸壷（325～327）・細頸壷（328～330）・水差形土器（331）・甕蓋（332～334）・高坏（335～337）・鉢（338～341）・甕（342～370）などの弥生土器、石庖丁（1053）・砥石（1104）などの石器、鍬未製品（1175）などの木製品、イノシシ・シカなどの動物遺体（59～62）が出土した。

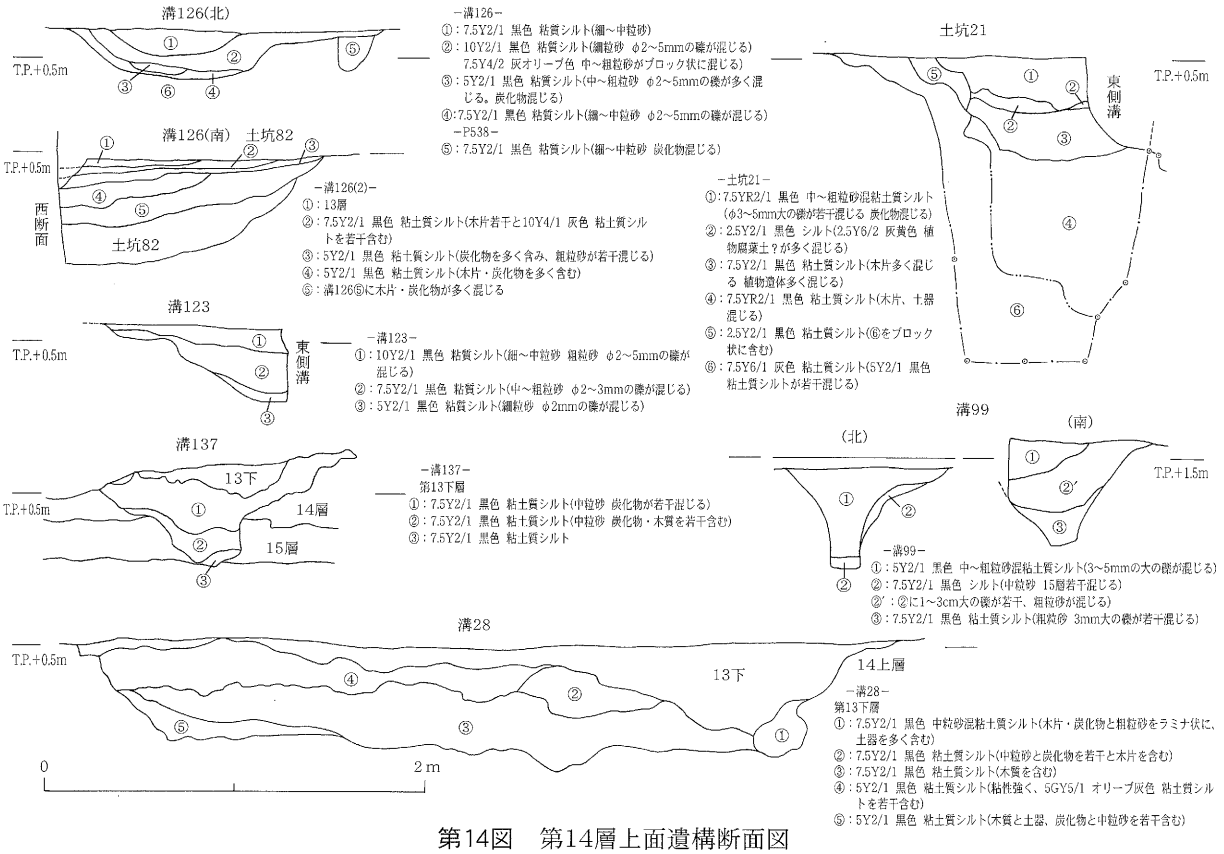
土坑20（13・14地区）は、長辺４m、短辺0.85m、深さ0.24mの南北に細長い楕円形を呈する。埋土は黒色（7.5Y2/1）粘質シルトで、甕（12～15）・壷（16）・鉢（17）・高坏（18）などの弥生土器、石庖丁（1049）・石槍（1112）・石鏃（1152）など石器、イノシシ・大型哺乳類などの動物遺体（資料番号２・３）が出土した。



第13図　第14層上面遺構平面図



第13図　第14層上面遺構平面図



第14図　第14層上面遺構断面図

溝84（16地区）は、幅0.6m、深さ0.23mを測る東西方向にのびる溝。断面逆台形状を呈し、上部は第13層、下部は黒色（５Ｙ2/1）粘質シルトで、水差形土器（184）・甕（185・186）などの弥生土器、イノシシなどの動物遺体（資料番号39）が出土した。

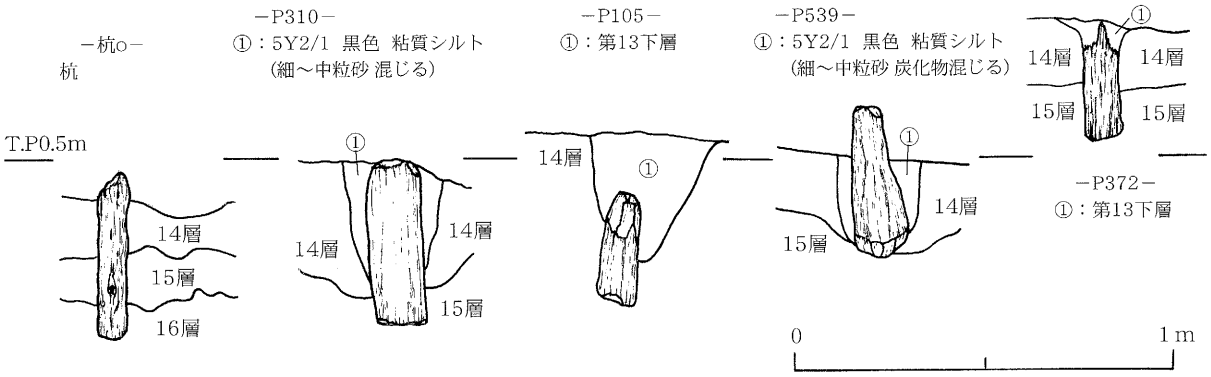
土坑19（16地区）は、南側は溝84により切断されていた。東西0.94m、南北0.5m、深さ0.34mを測り、埋土は黒色（10Ｙ2/1）細・中粒砂・小礫混じり粘質シルトで、鹿角製品（1202）と壷（29）などの弥生土器が出土した。

土坑57（19地区）は、1.65×0.65m、深さ0.25mを測る長舌状を呈する（西は未調査）。埋土は黒色（10Ｙ2/1）細粒砂混じり粘質シルトで、甕（114）・壷（115）などの弥生土器が出土した。

土坑41（19・20地区）は、南北3.2m、東西2.3m、深さ0.13mの不整方形を呈する。埋土は黒色（7.5Ｙ2/1）粘質シルトで、壷（51～53）・鉢（54）・高坏（55）・壷蓋（56）・甕（57～60）などの弥生土器、動物遺体片（資料番号８）が出土した。土坑底面から幅0.2m、長さ１m、深さ0.08mの土坑68－埋土は暗灰黄色（2.5Ｙ5/2）粘土質シルト・炭化物含む黒色（7.5Ｙ2/1）粘質シルトで、イヌ（資料番号19）などが出土－があった。

溝129（19・20地区）は、幅0.26～0.6m、深さ0.08mの弧状を呈する。西側は土坑14－長辺3.7m、短辺0.97m深さ0.3mの隅丸長方形で、長骨片（資料番号１）出土－により切断されていた。埋土は植物遺体を含む黒色（５Ｙ2/1）砂混じり粘質シルト。東には南北約2.5×東西0.7m、深さ0.15mの土坑76があり、埋土は黒色（7.5Ｙ2/1）粘質シルト。遺物は壷（371・372）・無頸壷（373）・鉢（374）・甕（375～378）などの弥生土器が出土した。

溝131（20～22地区）は、弧状を呈し、幅0.9m、深さ0.18mを測り、溝137・132により切断されている。埋土は黒色（10Ｙ2/1）細・粗粒砂混じり粘質シルトで、甕（379・389）・鉢（381）などの弥生土器、長骨片（資料番号63）が出土した。



第15図　第14層上面遺構断ち割り断面図

この溝の西－内側の窪地状を呈していたのが土坑40で、南北幅3.5m、深さ0.14mを測った。埋土は黒色（7.5Y2/1）粘質シルトで、壷（42）・甕（43）・鉢（44）などの弥生土器が出土した。

溝137（21・22地区）は、幅0.65～1m、深さ0.22mを測る東西方向にのびる溝。土坑39と一連であり、埋土は黒色（10Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで、壷（45）・鉢（46）・甕（47～50）などの弥生土器、シカ（資料番号7）などが出土した。

溝132（22・23地区）は、幅1.1～1.8m、深さ0.12mを測る東南から北西方向にのびていた。埋土は黒色（7.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壷（385・386）・甕（382～384）などの弥生土器、動物遺体片（資料番号64）が出土した。

土坑50（26・27地区）は、南北4.3m、東西2.9m、深さ0.16mの方形を呈し、土坑53～56、ピット389・390などを内包していた。埋土は炭化物を含む黒色（2.5Y2/1）粘質シルトで、無頸壷（88）・壷（89～96）・甕蓋（97）・甕（98～105）・鉢（106・107）・高坏（108～110）などの弥生土器、石庖丁（1064）、イノシシ・シカ、スッポンなどの動物遺体（資料番号12～14）が出土した。内包されていた土坑55（27地区）は、長辺1.1m、短辺0.3m，深さ0.2mを測るへ状を呈する土坑。埋土は黒色（7.5Y2/1）中粒砂・小礫混じり粘質シルトで、壷（113）などの弥生土器が出土した。

溝123（30地区）は、同地区南・西の逆L字状を呈し、幅1.5m、深さ0.33mを測る。埋土は黒色（10～5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壷（222～225）・鉢（226・232・237）・甕蓋（227）・壷蓋（228）・甕（229～231）・高坏（233～236）などの弥生土器、イノシシ・シカ・大型哺乳類などの動物遺体（資料番号53・54）が出土した。

土坑47（31・32地区）は、検出径4×3.6m、深さ0.1mの円形土坑の中央に径1.6m、深さ1.5mの円筒部＝井戸を有していた。上部は第13層で埋没し、円筒部は黒色粘土質シルトを主体として6層に分かれ、壷（61～71）・無頸壷（72）・甕蓋（73）・高坏（74・75）・甕（76・87）などの弥生土器、石鏃（1146）、シカまたはイノシシの骨などの動物遺体（資料番号9・10）が出土した。

溝112（32・33地区）は、長さ2.95m、幅0.65～1.15m、深さ0.12mを測るやや弧状を呈した溝。埋土は黒色（5Y2/1）中粒砂混じり粘質シルトで、甕・壷など多量の弥生土器、動物遺体片（資料番号50）が出土した。

土坑48（32・33地区）は溝112の東にあり、2.1×1.3m、深さ0.2mの突出部を有する方形を呈し、埋土は黒色（10～2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトを主体として5層に分かれ、中ほどには暗灰黄色（2.5Y4/3）砂質土＝焼土・炭化物を多く含み、鉢（41）などの弥生土器、シカ（資料番号11）が出土した。

溝111（33～35地区）は、東西方向と北へのびるT字状を呈し、幅0.9～1.2m、深さ0.17mを測

る。埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、甕蓋（219）・高坏（220・221）などの弥生土器、イノシシなどの動物遺体（資料番号49）が出土した。底面からは土坑61や多くのピットを検出した。

土坑61（33・34地区）は、長辺1.43m、短辺0.53～0.72m、深さ0.18mの瓢箪形を呈し、埋土は暗オリーブ色（5GY4/1）細粒砂混じり粘土質シルトブロックをふくむ黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、高坏（116）などの弥生土器が出土した。

土坑28（35地区）は、径1m、深さ0.18mの不整円形を呈し、埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壷（31）などの弥生土器，イノシシ（資料番号7）が出土した。

土坑70（35・36地区）は、1.3×0.9m、深さ0.12mを測る不整楕円形を呈し、埋土は黒色（5Y2/1）小礫混じり粘質シルトで、イノシシ・シカなどの動物遺体（資料番号20・21）が出土した。

溝117（36地区）は、東西方向と北へ派生するT字状を呈する溝で、幅0.33m、深さ0.17mを測った。埋土は黒色（10Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで、甕（242）などの弥生土器が出土した。

溝110（36地区）は、幅0.8m、深さ0.13mを測る東西方向の溝で、溝113を内包していた。埋土は黒色（5ないし2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、甕（216）・壷蓋（217）・甕蓋（218）壷（241）などの弥生土器、ヒト？（資料番号48）・シカ（資料番号51）などが出土した。

土坑63（38地区）は、南北2.35m、東西1.4m、深さ0.15mの不整形土坑（西は未調査）。埋土は黒色（5Y2/1）中・粗粒砂混じり粘質シルトで、甕（120・121）・壷（117・118）・鉢（119）などの弥生土器、イノシシ・シカ・大型哺乳類・スッポン（資料番号15～18）などが出土した。

溝102（39地区）は、長さ1.7m、幅0.52、深さ0.06mを測る東西方向の溝で、溝内からは壷（203）・甕（204）などの弥生土器が出土した。

土坑36（39地区）は、幅0.6m、検出長1.1m（西は未調査）、深さ0.06mを測る。埋土は黒色（5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、甕（32）などの弥生土器が出土した。

土坑27（39地区）は、南北3.7m、東西3m、深さ0.08mを測る不整三角状を呈し、底面で土坑36やピットなどを検出した。埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壷（33）・甕（34・35）・鉢（36・37）などの弥生土器、石庖丁（1060）、シカ（資料番号7）などが出土した。

土坑26（39地区）は、幅0.68m、検出長0.7m（東は調査地外）、深さ0.07mを測る。埋土は黒色（5Y2/1）中粒砂混じり粘質シルトで、甕（30）などの弥生土器、イノシシ・シカなどの動物遺体（資料番号4）が出土した。

溝103（39～41地区）は、長さ5.9m、幅0.23～1.1m、深さ0.08mを測り、南側は溝99に切断されている。溝内からは甕（214・215）などの弥生土器、石庖丁（1067）・石鏃（1142）・シカ（資料番号45）などの動物遺体などが出土した。

溝101（39～41地区）は、幅0.3m、深さ0.09mを測る弧状をなす溝。南側は溝103と溝99により一部切断されている。埋土は黒色（5Y2/1）小礫混じり粘質シルトで、壷（212・213）などの弥生土器、ウマ？・大型哺乳類（資料番号44）などの動物遺体などが出土した。

溝99（40～50地区）は、幅1.1m、深さ0.5～0・6mを測り、検出長は37mを測る。溝はやや西に弧状をなし、断面細長い台形状を呈していた。埋土は上部が第13層、中・下部は黒色（10ないし5Y2/1）砂・小礫混じり粘質シルトで2～3層に区分され、壷（190～193）・高坏（194）・甕（195・196）などの弥生土器、石槍（1122）などの石器、シカ・ヒト（資料番号40）・大型哺乳類（資料番号42）などの動物遺体、サヌカイト片が出土した。

溝120（41・42地区）は、幅0.8m、長さ1.75m、深さ0.15mの東西方向にのびる溝で、溝99で切

断されていた。上部は壷（201・202）が出土した溝100としていたが、埋土は黒色（7.5ないし2.5Y 2/1）中・粗粒砂混じり粘質シルトで、甕（238・239）・鉢（240）などの弥生土器、イノシシ（資料番号44）などの動物遺体が出土した。

土坑122－溝142－（45地区）は、幅1.35～1・9m、深さ0.07m測る東西方向にのびる溝で、東は溝99で切断されていた。埋土は黒色（5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、甕（142）などの弥生土器が出土した。

土坑89（47・48地区）は、南北1.8m、東西0.5m（西は未調査）、深さ0.13mを測り、埋土は黒色（2.5Y2/1）中粒砂・小礫混じり粘質シルトで、甕（143）などの弥生土器、シカ（資料番号27）などの動物遺体、礫が出土した。

溝152（50・51地区）は、幅1.6m、検出長1.3m、深さ0.2mを測る西から舌状にのびる溝。埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壷（423）甕（424）などの弥生土器、長骨片（資料番号79）が出土した。

溝146（52・53地区）は、幅4.15～3.6m、深さ0.2～0.5mを測る東西方向にのびる溝で、北側は2段に落ちていた（さらに底面からは前述した土坑104・105・106と土坑墓Ⅲを検出した）。埋土は黒色（5ないし2.5Y2/1）砂・小礫混じり粘質シルトで、壷（407～412）・甕（413～415・421）・甕蓋（416）・鉢（417・418）・高坏（419・420）などの弥生土器、シカ・ヒトなどの動物遺体（資料番号76～78）が出土した。

溝148（53地区）は、幅0.32m、検出長0.7m、深さ0,08mを測る東西方向にのびる溝で、北は溝146で切断されていた。埋土は黒色（7.5Y2/1）中粒砂混じり粘質シルトで、壷（422）などの弥生土器が出土した。

溝136（53～55地区）は、長さ4.25m、幅0.5、深さ0.07mを測る南北方向にのびる（西は未調査）。埋土は黒色（2.5Y2/1）中粒砂・礫混じり粘質シルトで、凸帯文土器片（4）などが出土した。

溝135（55～57地区）は、幅5.8～5m、深さ0.6mを測る南南東から北北西にのびる溝で、自然流路5´の上に位置し、自然流路5によりほぼ中央から南はえぐられていた。埋土は黒色（7.5ないし5Y2/1）砂混じり粘質シルトで3層にわかれ、壷（392～397）・高坏（398）・甕（399～403）・鉢（404・405）などの弥生土器、イノシシ・ウサギ・タイ？・ヒトなどの動物遺体（資料番号66～68）が出土した。

土坑80（58地区）は、幅0.55m、検出長0.8m、深さ0.11mを測る。埋土は黒色（7.5Y2/1）小礫混じり粘質シルトで、甕（125）などの弥生土器が出土した。

溝134（58地区）は、幅0.6m、深さ0.31mを測る東西方向にのびる溝。埋土は黒色（5Y2/1）中粒砂混じり粘質シルトで、甕（387）などの弥生土器が出土した。

その他多数のピット検出し、P105・310・372・539などには柱根が残存し、杭○のような杭または杭用と思われる径0.1m未満のピットも多く見られた。

ピットのうち出土遺物を検出した主なものは以下のとおりである。P30からは甕（433）、シカ（資料番号80）。P104からは壷（435）。P165からはイノシシまたはシカ（資料番号81）。P214からは動物遺体片（資料番号82）。P230からは長骨片（資料番号83）。P266からは壷（436）。P280からは甕（437）。P437からは壷（438）。P488からは動物遺体片（資料番号84）。P501からはイノシシ（資料番号85）。P513からは鉢（440）。P546からは大型哺乳類（資料番号86）。P556からは鉢（441）。P568からは壷（442）。

＜中期後半＞

多量の遺物を包含していた整地層である炭化物や礫を含む中粒砂混じりの黒色粘土質シルトを主体とする第13層は30～60cmにわたりほぼ全域に広がり、上部ににぶい黄色橙色粘土質シルトを含む灰色粘土質シルト、下部に灰色粘土質シルトや粗粒砂を含む黒色粘土質シルトがあり、ところによっては砂礫混じり緑灰色シルトなどとったりしていた混土層であった。層内からは弥生土器、打製・磨製など石器、木製品、骨角器、土製品、動物遺体、植物遺体、サヌカイト片などが出土した。

弥生土器は非常に多く、壷（524～574・785～828・833・834）・無頸壷（575～582・829～832）・細頸壷（583～592・835～845）・鉢（593～616・882～890）・高坏（617～643・894～905）・水差形土器（843）・甕（644～696・844～881）・甕蓋（697～703・889）・壷蓋（704～708・892・893）などがあった。

打製石器は石槍－石剣－（1113～1117・1119・1120・1123・1124・1126～1129・1131～1134）・石鏃（1135～1137・1139～1141・1144・1145・1147～1151・1154・1155・1157・1158）・小石刀（1160）・石錐（1162・1163）・削器などがあった。

磨製石器は石庖丁（1051・1055・1056・1058・1059・1061～1063・1065・1066・1068～1070・1071・1074・1075・1077～1079）・大型蛤刃石斧（1082～1088・1091）・柱状片刃石斧（1092～1095）・小形石斧（1096）・局部磨製石斧（1097）・有樋式の－細形銅剣型－石剣（1098・1099）・不明石器（1100）などがあった。

他の石器に凹石（1101）と砥石（1103・1105～1107・1109～1111）などがあった。

木製品は容器（1164）・杓子（1165）などがあった。

骨角器はイノシシ牙製腕輪（1201）・骨製刺突具（1204・1205）などがあった。

土製品は紡錘車（1026～1032）・円板状土製品（1033～1045）・蛸壷（1043・1045）・用途不明土製品（1046）・土錘（1047）・台状土製品（1048）などがあった。

動物遺体の種類は多くなくないが、多量のイノシシ・シカをはじめ、スッポン（資料番号112・169・214）・サカナ（資料番号168）・トリ（資料番号118）・大型哺乳類（資料番号131・138・157・166・170・171・173～176）などがあった。

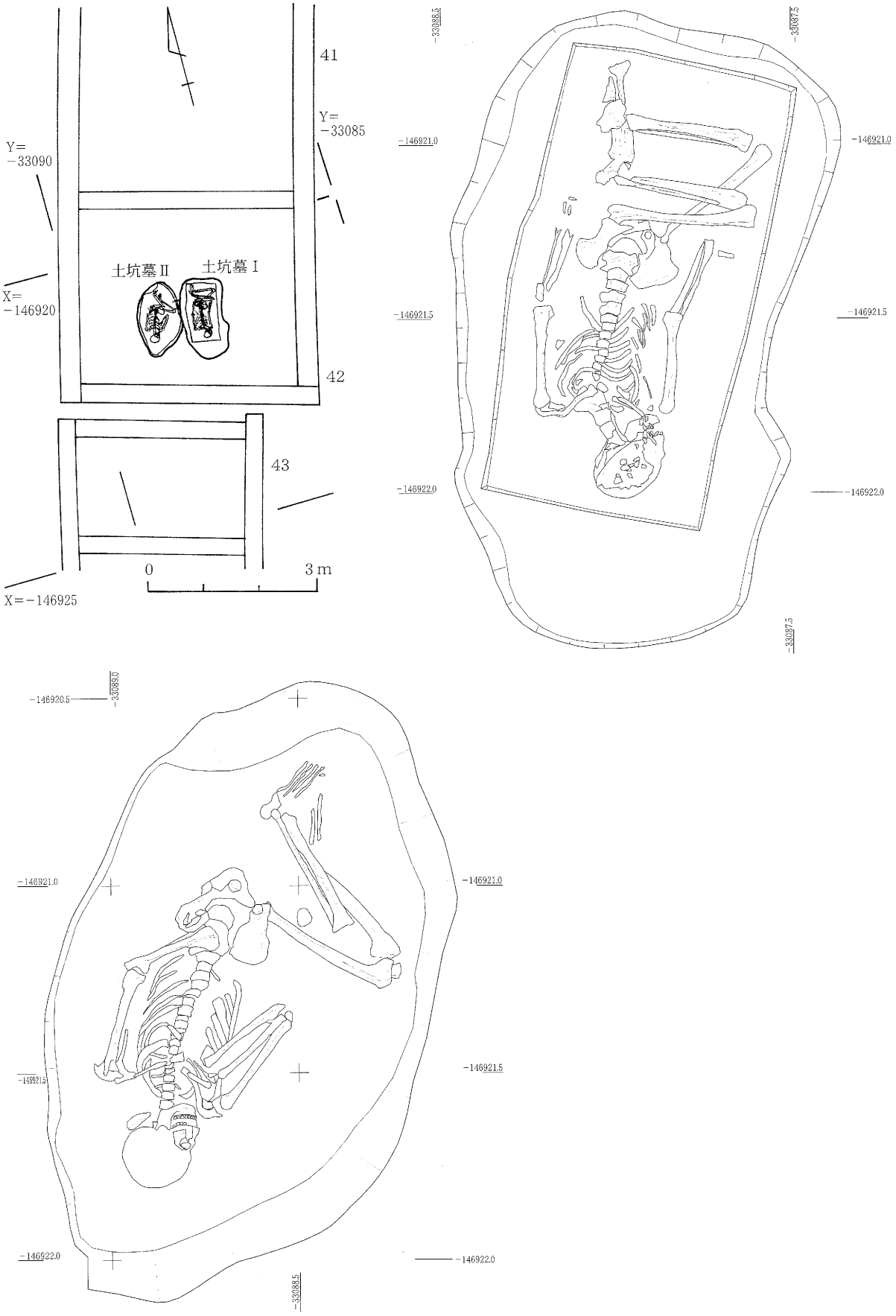
上述したようにこの整地層（第13層）は地域によって異なるが２～３期以上に分かれ、７工区では層内から２基の土坑墓（１基は木棺伴う）と１基の土器棺墓を検出した（各土坑墓図参照）。

土坑墓Ⅰ　＝木棺墓＝－Ⅰ号人骨－（第16図　図版42）

第13中層上面で検出した。土坑内からは頭位をほぼ南にした仰臥屈葬の成人男性の骨などが出土した。東西3.6m×南北２m変形の隅丸長方形状土坑に長辺1.6m×短辺0.8mの木棺が埋められたと思われる。木棺はまったく残存していなかった。顔面を右にして上体を仰向けにし、両腕を身体両横にのばして沿わせていた。両脚は右側に倒れた状態で検出したが、本来は足を重ねてあぐら状に立てていたものと考えられる。土坑内からは人骨以外に、壷（425）・無頸壷（428）・鉢（427）・甕（426）などの弥生土器・サヌカイト片などが出土した。

土坑墓Ⅱ－Ⅱ号人骨－（第16図　図版41）

第13下層上面で検出した。土坑内からは頭位をほぼ南南西にした仰臥屈葬の成人男性の骨などが出土した。土坑は3.4m×２mを測り、楕円状を呈する。顔面を右にして上体を仰向けにし、右腕は肘を強く折り曲げて胸上部付近に手をもってきており、左腕はゆるく「く」字状に曲げて下腹部上においていた。両脚は両膝をおって右側に強くまげていた。左大腿骨は欠損しており、整地作業時に攪乱されてなくなったと考えられる。土坑内からは人骨以外に壷（429）などの弥生土器やサヌカイト片が出土した。



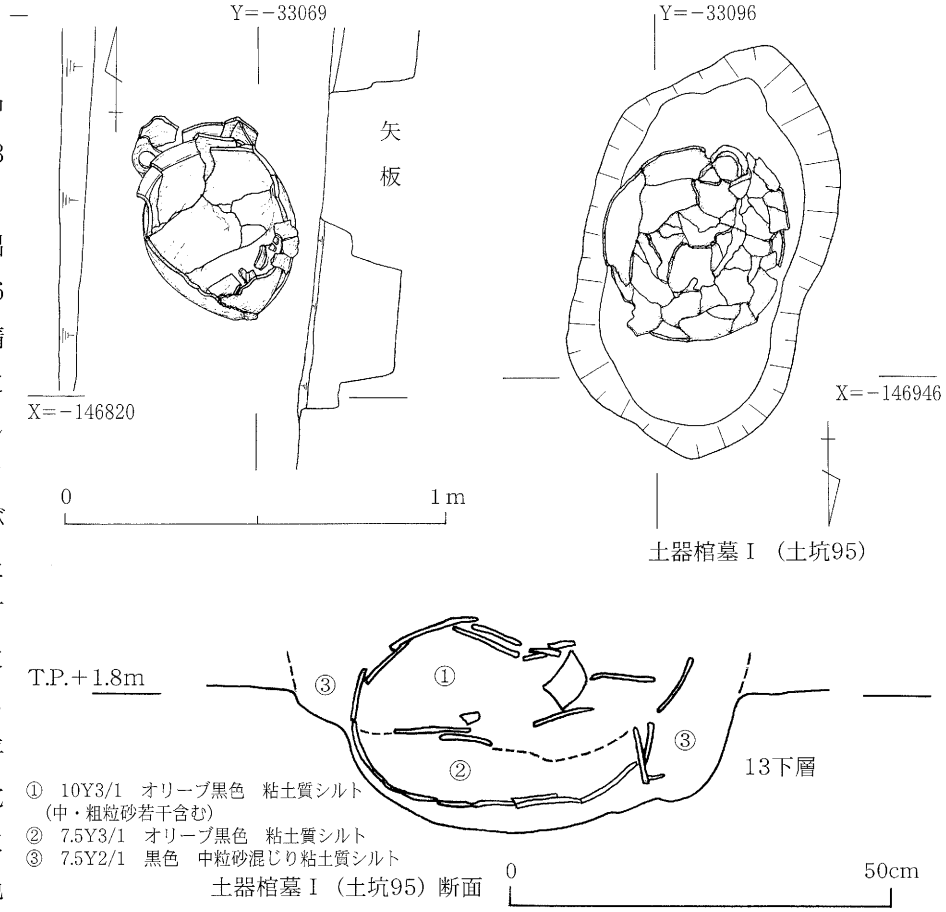
第16図　土坑墓Ⅰ・Ⅱ平面図

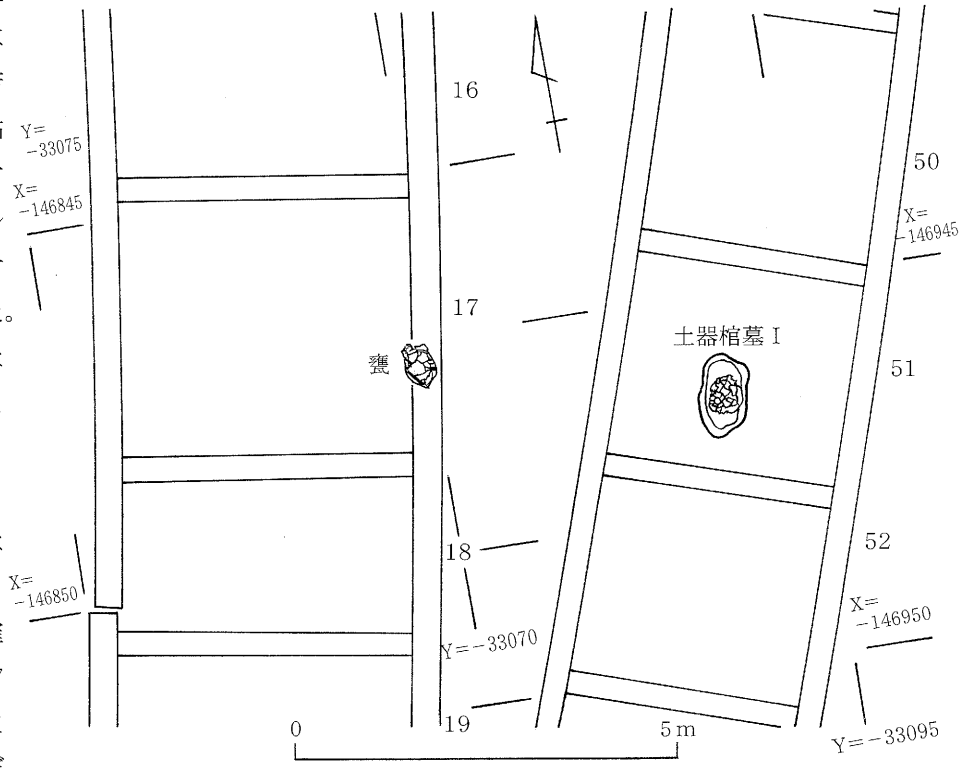
土器棺墓Ⅰ－壷棺Ⅰ－

（第17図　図版343）

51地区（7工区）中央やや南よりの第13下層上面で検出した。土坑（土坑95）は検出の長辺1.1m×短辺0.6m、深さ0.2m以上の楕円状を呈し、土坑内には鉢（430）を蓋とした壷（431）が埋納されていた。底部および頸部以上を打ち欠いた壷頸部部分に、底を打ち欠いた鉢を逆さまにして蓋としてかぶせられていた。土坑底は平鉢状を呈し、壷底を北にしてほぼ土坑底面にほぼ平行に据え、黒色粘土質シルト混じり中粒砂で固定されて、埋められていた。壷内は上部が中・粗粒砂を若干含むオリーブ黒色粘土質シルト、下部はオリーブ黒色粘土質シルトで、下部から人骨片（Ⅵ号人骨）を検出した。骨の残存状況は良くなかったが、乳幼児骨と思われる。土坑内からは農具原材（1176）・シカ（資料番号29）なども出土した。

また、土坑状況は確認できなかったが、17地区東側溝掘削時に13層内から口をほぼ北にむけて横たわって





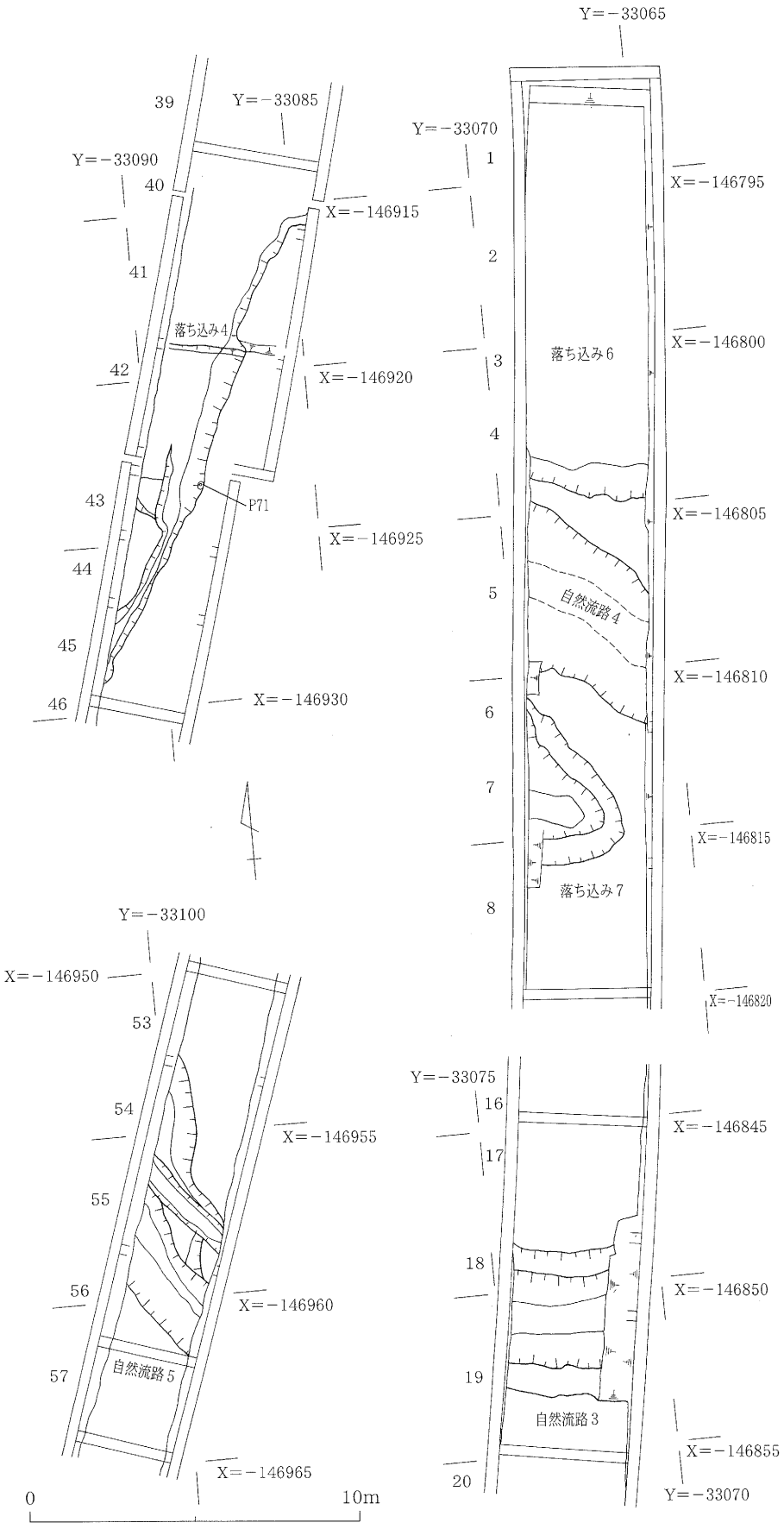
第17図　土器棺墓Ⅱ・甕出土状況図

いた甕（767）を検出した－第16図　図版42－。上部は破壊せれており、内部から人骨などは検出されなかった。

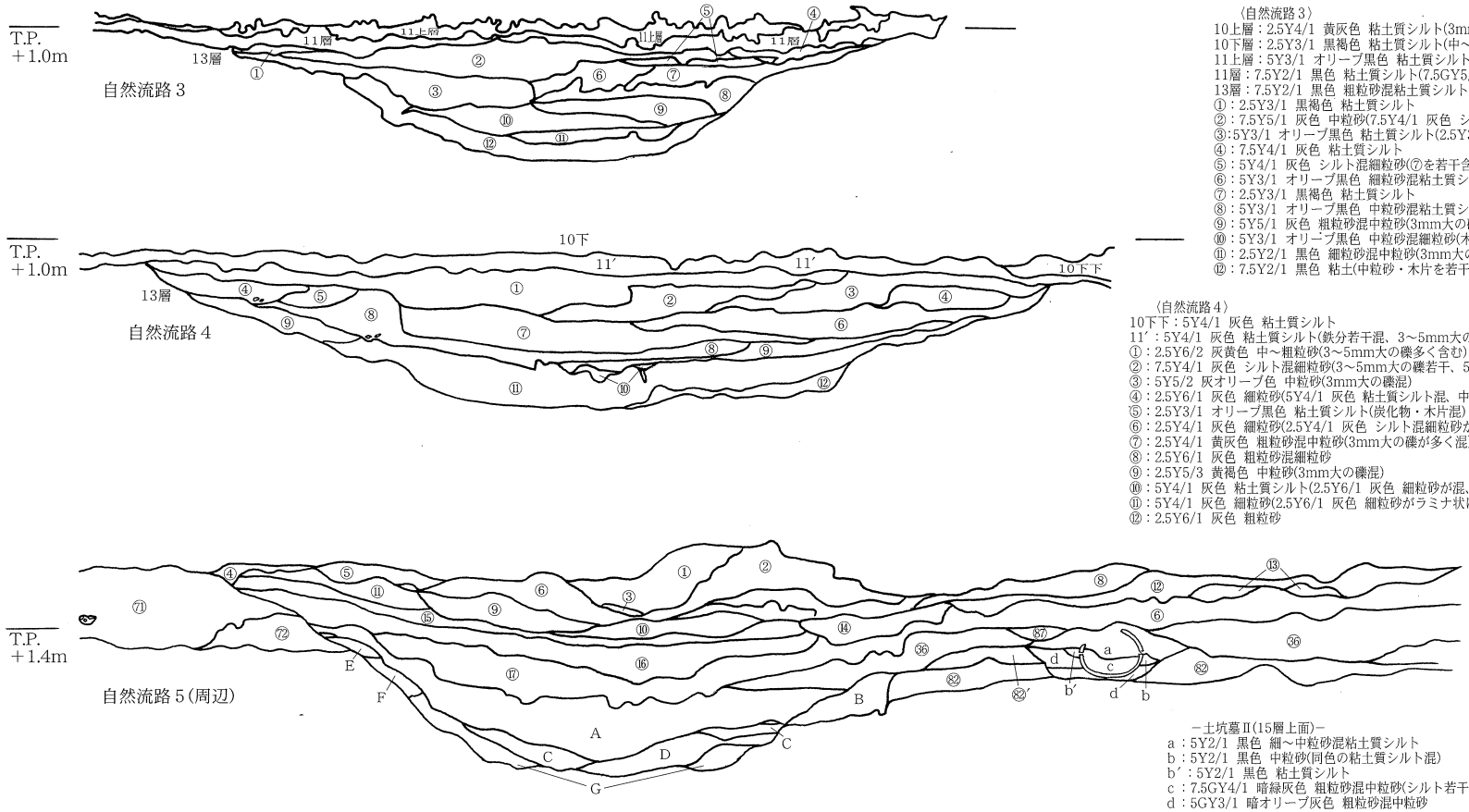
＜中期末＞

（第18図　図版44～47）中期末ごろには６工区で２筋（自然流路３・４）、７工区で１筋（自然流路５）のほぼ東西方向に走る自然流路を第13層上面で検出した。

自然流路３は18地区付近で検出した東から西方向に流れていた流路である。検出幅4.6m、深さ0.8mを測り、最上部は第11層で埋まっていた。流路内は上部から黒褐色粘土質シルト・灰色中粒砂(灰色シルト混じり細粒砂をラミナ状に含む)・オリーブ黒色粘土質シルト(黒褐色細粒砂をブロック状に含む)・灰色粘土質シルト灰色シルト混じり細粒砂(黒褐色粘土質シルトを若干含む)・オリーブ黒色細粒砂混じり粘土質シルト(中粒砂を若干含む)・黒褐色粘土質シルト・オリーブ黒色中粒砂混じり粘土質シルト(粗粒砂・３mm大の礫含む)・灰色粗粒砂混じ



第18図　第13層上面遺構平面図



〈自然流路３〉
10上層：2.5Y4/1 黄灰色 粘土質シルト(3mm大の礫若干含む)
10下層：2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト(中～粗粒砂と鉄分若干混)
11上層：5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト(11層が若干混じる)
11層：7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(7.5GY5/1 緑灰色 粘土質シルトブロック混)
13層：7.5Y2/1 黒色 粗粒砂混粘土質シルト(3～5mm大の礫多く混)
①：2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト
②：7.5Y5/1 灰色 中粒砂(7.5Y4/1 灰色 シルト混細粒砂をラミナ状に含む)
③:5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト(2.5Y3/1 黒褐色 細粒砂をブロック状に含む)
④：7.5Y4/1 灰色 粘土質シルト
⑤：5Y4/1 灰色 シルト混細粒砂(⑦を若干含む)
⑥：5Y3/1 オリーブ黒色 細粒砂混粘土質シルト(中粒砂を若干含む)
⑦：2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト
⑧：5Y3/1 オリーブ黒色 中粒砂混粘土質シルト(粗粒砂・3mm大の礫混)
⑨：5Y5/1 灰色 粗粒砂混中粒砂(3mm大の礫混)
⑩：5Y3/1 オリーブ黒色 中粒砂混細粒砂(木片を含む)
⑪：2.5Y2/1 黒色 細粒砂混中粒砂(3mm大の礫を含む、木片を多く含む)
⑫：7.5Y2/1 黒色 粘土(中粒砂・木片を若干含む)

〈自然流路４〉
10下下：5Y4/1 灰色 粘土質シルト
11′：5Y4/1 灰色 粘土質シルト(鉄分若干混、3～5mm大の礫混)
①：2.5Y6/2 灰黄色 中～粗粒砂(3～5mm大の礫多く含む)
②：7.5Y4/1 灰色 シルト混細粒砂(3～5mm大の礫若干、5Y6/2 灰オリーブ色 細粒砂が多く混)
③：5Y5/2 灰オリーブ色 中粒砂(3mm大の礫混)
④：2.5Y6/1 灰色 細粒砂(5Y4/1 灰色 粘土質シルト混、中粒砂が若干ラミナ状に混、炭化物若干混)
⑤：2.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト(炭化物・木片混)
⑥：2.5Y4/1 灰色 細粒砂(2.5Y4/1 灰色 シルト混細粒砂がラミナ状に混、炭化物若干混)
⑦：2.5Y4/1 黄灰色 粗粒砂混中粒砂(3mm大の礫が多く混)
⑧：2.5Y6/1 灰色 粗粒砂混細粒砂
⑨：2.5Y5/3 黄褐色 中粒砂(3mm大の礫混)
⑩：5Y4/1 灰色 粘土質シルト(2.5Y6/1 灰色 細粒砂が混、木片含む)
⑪：5Y4/1 灰色 細粒砂(2.5Y6/1 灰色 細粒砂がラミナ状に混)
⑫：2.5Y6/1 灰色 粗粒砂

－土坑墓Ⅱ(15層上面)－
a：5Y2/1 黒色 細～中粒砂混粘土質シルト
b：5Y2/1 黒色 中粒砂(同色の粘土質シルト混)
b′：5Y2/1 黒色 粘土質シルト
c：7.5GY4/1 暗緑灰色 粗粒砂混中粒砂(シルト若干混)
d：5GY3/1 暗オリーブ灰色 粗粒砂混中粒砂

〈自然流路５(周辺)〉
⑥′：7.5Y4/1 灰色 粘土質シルトが小ブロック状に混じる ＝13層上層相当
87：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い)
36・71：5Y2/1 黒色 中粒砂混粘土質シルト(粗粒砂・5mm大の礫含む)＝以上、13層相当
82′：7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(中～粗粒砂若干混)
82：7.5Y2/1 黒色 粗粒砂混細～中粒砂
72：10Y4/1 灰色 細粒砂混粘土質シルト ＝以上、15層相当

－自然流路５(13層上面)－
①：10Y4/1 灰色 粘土質シルト(中～粗粒砂を若干混)
②：5Y3/2 オリーブ黒色 粘質土(細粒砂がブロック状に混)
③：10Y4/1 灰色 中～粗粒砂
④：5Y4/2 灰オリーブ色 中～粗粒砂
⑤：2.5Y4/1 黄灰色 粘土質シルト(中～粗粒砂をブロック状に含む)
⑥：10Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト
⑦：5Y4/1 灰色 中～粗粒砂(5mm大の礫若干含む)
⑧：10G4/1 暗緑灰色 細粒砂混シルト
⑨：10Y4/1 灰色 粘土質シルト(7.5GY4/1 緑灰色シルトを小ブロック状に含む)
⑩：10Y4/1 灰色 粘土質シルト(粘質強い)
⑪：5Y2/1 黒色 粘土質シルト
⑫：10Y4/1 灰色 中～粗粒砂(55を含む)
⑬：7.5GY4/1 暗緑灰色 粘土質シルト
⑭：7.5Y4/1 灰色 中～粗粒砂(3～5mm大の礫混)
⑮：7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(10Y5/2 オリーブ灰色 砂質シルトをブロック状に多く混)
⑯：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い、7.5GY5/1 緑灰色 シルトを小ブロック状に含む)
⑰：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(中～粗粒砂と2～5mm大の礫若干混)

－原・自然流路５(15層上面)－
A：5Y2/1 黒色 中～粗粒砂混粘土質シルト(2～5mm大の礫若干混)
B：7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粗粒砂と2mm大の礫を若干混)
C：5Y2/1 黒色 シルト混細～中粒砂
D：5Y2/1 黒色 シルト(中～粗粒砂若干混)
E：7.5Y2/1 黒色 粘土質シルト(粘性強い、中粒砂若干混、5Y4/1 灰色 粘土質シルト混)
G：7.5Y2/1 黒色 シルト質細粒砂
F：5Y2/1 黒色 粘土質シルト(細～粒粒砂若干混)

0 2m

第19図　自然流路３・４・５断面図

り中粒砂(３mm大の礫含む)・オリーブ黒色中粒砂混じり細粒砂(木片を含む)・黒色細粒砂混じり中粒砂(３mm大の礫と木片を多く含む)・黒色粘土(中粒砂・木片を若干含む)で、壷（469・470）・高坏（474～476）・甕（471～473）などの弥生土器やサヌカイト片などが出土した。

自然流路４は５地区付近で検出した東から西方向に流れていた流路である。検出幅5.2m、深さ0.78mを測った。流路内は上部から灰黄色中～粗粒砂(３～５mm大の礫を多く含む)・灰色シルト混じり細粒砂(３～５mm大の礫若干、灰オリーブ色細粒砂が多く含む)・灰オリーブ色中粒砂(３mm大の礫含む)・灰色細粒砂(灰色粘土質シルト混じり中粒砂が若干ラミナ状に、炭化物若干含む)・オリーブ黒色粘土質シルト(炭化物・木片含む)・灰色細粒砂(灰色シルト混じり細粒砂がラミナ状に、炭化物若干含む)・黄灰色粗粒砂混じり中粒砂(３mm大の礫が多く含む)・灰色粗粒砂混じり細粒砂・黄褐色中粒砂(３mm大の礫含む)・灰色 粘土質シルト(灰色細粒砂・木片含む)・灰色細粒砂(灰色細粒砂をラミナ状含む)・灰色粗粒砂で、壷（477～482）・高坏（483）・甕（484～492）などの弥生土器、石庖丁（52・76)、石庖丁（1076)、抉り入り先尖板（1166）・舟形木製品（1167)、動物遺体片（資料番号100)、サヌカイト片などが出土した。

自然流路５は54・55地区付近で検出した東から西方向に流れていた流路である。検出幅7.1m、深さ0.9mを測り、とくに北側にオーバーフローしていたようである。流路内は上部から灰色粘土質シルト(中～粗粒砂を若干混じる)・黒色粘質土(細粒砂がブロック状に含む)・灰色中～粗粒砂・灰オリーブ色中～粗粒砂・黄灰色粘土質シルト(中～粗粒砂をブロック状に含む)・オリーブ黒色粘土質シルト・灰色中～粗粒砂(５mm大の礫若干含む)・暗緑灰色細粒砂混シルト・灰色粘土質シルト(緑灰色シルトを小ブロック状に含む)・灰色粘土質シルト（粘質強い）・黒色粘土質シルト・灰色中～粗粒砂・暗緑灰色粘土質シルト・灰色中～粗粒砂(３～５mm大の礫含む)・黒色粘土質シルト(オリーブ灰色砂質シルトをブロック状に多く含む)・黒色粘土質シルト(粘性強く、緑灰色シルトを小ブロック状に含む)・黒色粘土質シルト(中～粗粒砂と２～５mm大の礫若干含む)で、弥生土器・サヌカイト片などが出土した。

また第13層上面においては、自然流路３・４・５に平行またはその直後に形成されたと考えられる落ち込みなども検出した。

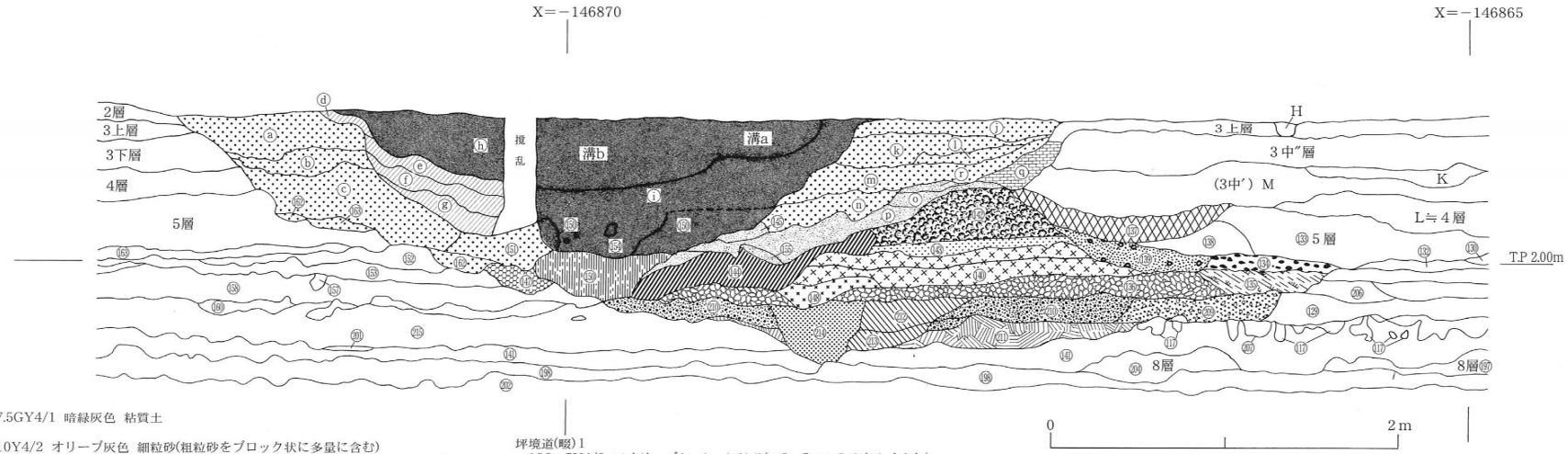
40～46地区（７工区）で、落ち込み１基（落ち込み４）とそれにつながる溝およびピット１（P71）を検出した。

落ち込み４は、41地区北端部から南南東方向に延びる東肩が44地区までつづき、44地区では中央から西にのびる南肩を検出した。南東角からは１条の溝が派生していた。落ち込みの検出長約10m、深さ0.08～0.2mを測り、両肩はゆるやかに傾斜してそれほど深くはなかったが、一部弥生時代の堆積層および遺物包含層（第13層など）をまき上げていた。西・北へは極めてなだらかに傾上していっていた。埋土は緑灰色（10GY4/1）細粒砂まじり粘土質シルトを若干含むオリーブ黒色（５Y3/1）粘土質シルトで、壷（451・452）・高坏（453・454）などの弥生土器とサヌカイトの小細片が出土した。

落ち込み４の南東角より派生していた溝は南南西方向へのび、検出長５m、幅0.35～0.5m、深さ0.1～0.14mを測った。溝内の埋土は落ち込み４と同じで、弥生土器などの小細片が出土したのみであった。

P71は43地区南端、落ち込み４の東肩付近で検出した。径0.2m、深さ0.21mを測り、埋土は小・細礫混じりオリーブ黒色（５Y3/1）粘土質シルトであった。

落ち込み７は、６～８地区（６工区）で検出した変形U字形を呈する落ち込みで、南北5.2m、東西2.9m、深さ0.34mを測った。落ち込み内は段を有して2層に分かれていた。下層は灰オリーブ



溝a：7.5GY4/1 暗緑灰色 粘質土
溝b
h：10Y4/2 オリーブ灰色 細粒砂(粗粒砂をブロック状に多量に含む)
i：5G3/1 暗緑灰色 シルト(粗粒砂～φ1cm大の礫を含む 中粒砂～粗粒砂をブロック状に含む)
溝7(続溝1)
d：10GY5/1 緑灰色 粘土質シルト
e：7.5GY4/1 暗緑灰色 粘土質シルト
f：5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘土質シルト(中～粗粒砂含む)
g：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘土質シルト
溝1
a：2.5GY5/1 オリーブ灰色 小礫(φ3mm以下)シルト(鉄分沈着)
b：7.5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(小礫若干含む)
c：7.5Y4/1 灰色 シルト(φ3～5mm大の礫が若干含む)
161：7.5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(中～粗粒砂 φ2mmの礫を少量含む)
162：7.5Y4/3 暗オリーブ色 中～粗粒砂(φ2～5mmの礫を多く含む)
151：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 シルト(中～粗粒砂 φ2～5mmの礫を多く含む)
j：10Y4/1 灰色 シルト混細粒砂
k：10Y4/1 灰色 細～粗粒砂(10Y4/1 灰色 粘土質シルトをブロック状に含む)
l：2.5GY5/1 オリーブ灰色 細粒砂
m：10Y4/1 灰色 細粒砂(中～粗粒砂がブロック状に含む)
n：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 中粒砂(小礫を多く含む)
坪境溝 Part 2
q：10GY4/1 暗緑灰色 シルト
坪境道(畷)4
r：5Y6/3 オリーブ黄色 中・粗粒砂、礫(5～10cm大の礫、及び瓦片を多く含む)
o：7.5GY3/2 オリーブ黒色 細粒砂
p：7.5GY4/1 暗緑灰色 シルト
145：7.5Y3/2 オリーブ黒色 シルト質粘土(細粒砂含む)
155：5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘土質シルト(細～中粒砂含む)
北側溝－150：7.5Y4/2 灰オリーブ色 細粒砂(中粒砂 φ2cmの礫を少量含む)
南側溝－137：10Y4/1 灰色 粘質シルト(細粒砂含む)
坪境道(畷)3
142：7.5Y4/2 灰オリーブ色 砂混じりシルト(細～中粒砂 φ2mmの礫を少量含む)
143：10Y4/2 オリーブ灰色 中～粗粒砂(φ2～5mmの礫を多く含む)
北側溝－144：5G4/1 暗オリーブ灰色 粘質シルト・細～中粒砂
南側溝－139：10Y3/2 オリーブ黒色 シルト・細～中粒砂
坪境道(畷)2
140：7.5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(細粒砂含む)
特に上層部、細粒砂層で部分的に粗粒砂(118、129を含む) 下層部はやや粘質
148：5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘質シルト(中～粗粒砂 φ2mmの礫、少量含む)
北側溝－147：5G3/1 暗緑灰色 粘質シルト(7.5Y4/2 灰オリーブ色 中～粗粒砂を含む)
南側溝－134：5GY4/1 暗オリーブ灰色 中～粗粒砂 φ2～3mmの礫を多く含む)

坪境道(畷)1
136：5Y4/2 灰オリーブ色 中～粗粒砂(φ2～5mmの礫を多く含む)
側溝－135：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘質シルト(細～中粒砂 φ2mmの礫を少量含む)
坪境溝3
214：7.5Y3/2 オリーブ黒色 細粒砂混シルト(中～粗粒砂含む)
坪境溝3′
212：5Y4/1 灰色 中～粗粒砂(5Y4/1 灰色 シルトがブロック状に φ5mm大の礫とも若干含む)
213：7.5Y3/1 オリーブ黒色 中粒砂(φ5～10mm大の礫若干含む)
坪境溝2
210：2.5Y5/4 黄褐色 中～粗粒砂(φ5mm大の小礫混じる 10Y4/1 灰色 シルト混細粒砂をブロック状に若干含む)
坪境溝2′
209：5Y5/1 灰色 中粒砂(7.5Y3/1 オリーブ黒色 細粒砂混シルトもしくはラミナ状に含む)
坪境溝1
211：10Y6/1 灰色 中～粗粒砂

溝a、溝bⓗ、ⓘ
溝1ⓓⓔⓕⓖ
溝1ⓐ′ⓑⓒ⑯⑫⑤⑤ⓙⓚⓛⓜⓝ
坪境溝Part 2ⓖ
坪境溝1㉑
〃 2㉑
〃 2′㉙
〃 3㉔
〃 3′㉒㉓
坪境道(畷)1㊱
坪境道(畷)2㊵㊽
〃 3㊷㊸
〃 4ⓡⓞⓟ㊺㊺
北側溝㊹
〃 ㊼
〃 ㊿
南側溝㉞
〃 ㊲
〃 ㊴
側溝1㉟

2層：5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(酸化鉄混じり、φ3～5mm礫を含む)
3上層：2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト(酸化鉄多く含む。φ3～5mm礫を多く含む)
3上′層：5Y4/3 暗オリーブ色 砂質シルト(酸化鉄含む。φ5mm礫を多く含む。2下層より砂っぽい)
H：7.5Y3/2 オリーブ黒色 シルト(3mm礫を少量含む)
3中″層：5GY4/3 暗オリーブ色 シルト(酸化鉄多く含む。φ3～5mm礫を多く含む)
K：5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(酸化鉄多く含む。φ3～5mm礫を少量含む)
M(3中′層相当)：10Y4/2 オリーブ灰色 シルト(φ3～5mm礫を多く含む。酸化鉄を少量含む。中粒砂含む)
3下層：7.5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(酸化鉄を含む。φ3～5mm礫を僅かに含む)
4層：5GY4/1 暗オリーブ灰色 シルト(φ3～5mm礫少量含む)
L(4層相当)：5Y4/3 暗オリーブ色 シルト(細～中粒砂をブロック状に多く含む。φ3～5mm礫を多く含む)
5層：10Y3/2 オリーブ黒色 シルト(φ5mm、1cm礫、粗～中粒含み、3下層より多くない。4層より礫を多く含み、粘性あり)
133(5層相当)：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘質シルト・細粒砂
138：7.5Y3/2 オリーブ黒色 粘質シルト・細～中粒砂
163：7.5Y4/1 暗緑灰色 シルト(細～中粒砂、φ2mmの礫を少量含む)
130：10Y3/2 オリーブ黒色 粘質シルト(細～中粒砂、φ2mmの礫を多く含む)
132：7.5Y4/3 暗オリーブ色 中～細粒砂(φ2mmの礫を多く含む)
152：7.5Y4/2 灰オリーブ色 粗～細粒砂(φ2～5mmの礫を多く含む)
153：7.5Y4/1 灰色 粗～細粒砂(φ2～5mmの礫を多く含む)
206：5Y5/2 灰オリーブ色 粗粒砂混中粒砂
165：7.5GY4/1 暗緑灰色 細～中粒砂
157：5GY4/1 暗オリーブ灰色 シルト(細～中粒砂)
158：2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 粘質シルト・細～中粒砂
129：7.5Y4/2 灰オリーブ色 シルト(中～粗粒砂、φ2mmの礫を少量含む)
159：5GY3/1 暗オリーブ灰色 粘質シルト(細～中粒砂、φ2mmの礫を少量含む)
160：7.5GY4/1 暗緑灰色 粘質シルト・中～粗粒砂
117：2.5GY5/1 オリーブ灰色 中～粗粒砂(7.5GY4/1 暗緑灰色 シルトを若干含む)
215：7.5Y4/1 灰色 細粒砂混シルト(φ5mm大の礫を若干含む)
201：10G3/1 暗緑灰色 シルト混じり中～粗粒砂
141(7層相当)：7.5GY5/1 緑灰色 シルト(細粒砂多くラミナ状に含む)
197(8層相当)：10Y3/1 オリーブ黒色 シルト(細粒砂)(粗粒砂が若干含む)
204(8層相当)：197より粘性弱い
198(9層相当)：7.5Y2/1 黒色 粘質シルト(粗粒砂若干含む)
202(10上層相当)：7.5Y3/2 オリーブ黒色 粘土(鉄分若干沈着)
182：7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘質シルト

第20図　坪境付近断面図

（5Y5/3）シルト質細粒砂、上層は緑灰色（7.5GY5/1）粘土質シルトで、弥生土器小細片が出土した。

落ち込み6は自然流路4の北、4地区（6工区）で東西方向にのびる南肩を検出した。検出長は12.5m、深さ0.22mを測り、底面はやや凹凸が見られたがほぼ平らで浅い皿状を呈し、北へ傾上していっていた。埋土は3層に分かれ、上部は第10層にとって乱れていた。上層は緑灰色（10GY5/1）粘土質シルトをブロック状に含む黒色（5Y2/1）粘土質シルト、中層は細粒砂と鉄分を含む灰オリーブ（5Y4/1）粘土質シルト、下層は炭化物を含む灰オリーブ色（(5Y4/2）中・粗粒砂で、壷（456～459)・甕（460～464)・高坏（465～468）などの弥生土器・サヌカイト片・植物遺体などが出土した。

これらの落ち込みなどは、先の自然流路とともに弥生時代中期末ごろのものと思われる。

後期に相当すると考えられる植物遺体層および植物遺体を多く含むシルト質粘土層（第11層）は、ほぼ全域にわたって見られたが、後世の掘り起こし（第10層など）により攪乱されていたところも少なくなかった。この層の下部はそれほど大掛かりではないが第12・13層が巻き上げられていたところもあり、壷（493～499・779～782)・無頸壷（500)・甕（501～512・783)・鉢（513・514・519)・高坏（515～518・520～522・784)・甕蓋（523）などの弥生土器やサヌカイト片などが出土した。

[古墳～室町時代]

今回の調査地において平安時代以降を記述していくにあたり、大きな役割を果たすと思われるのが条里に伴う坪境の状況といえる。そこで先に24・25地区付近の西断面の一部である第20図によって平安時代から現在に至る坪境状況を概観し、そののち各時代・時期ごとの遺構を見ていくことにする（図版49～51)。

24地区で検出した東西方向の坪境遺構は、七条の十九坪と二十坪（小字では柳田と東間瀬）を南北に区切る東西線にあたる（第30図の小字切り図参照)。調査地北側を東西方向に流れる新川付近が八条と七条の条境にあたり、これは現在の東大阪市立弥生給食センターと石切生喜病院の間の東西道に相当し、一部切断されながらも東へつづき、現在もその遺制が存続しつづけているといえる。

Ⅰ期は第7層上面の幅0.7m以上（南側欠損）の東西方向の溝（211)。

Ⅱ期は第6層下層時期に形成された4期（坪境溝2´－209、坪境溝2－210、坪境道と溝3´－212・213、坪境道と溝3－214）の東西方向の溝。

Ⅲ期は第6層間層時期の坪境道（136）と北側溝（135)。

Ⅳ期は第6層上層時期の坪境道（140・148）と北側溝（134)・南側溝（147)。

Ⅴ期は第5層形成時期の坪境道（142・143）と北側溝（139)、南側溝（144)。

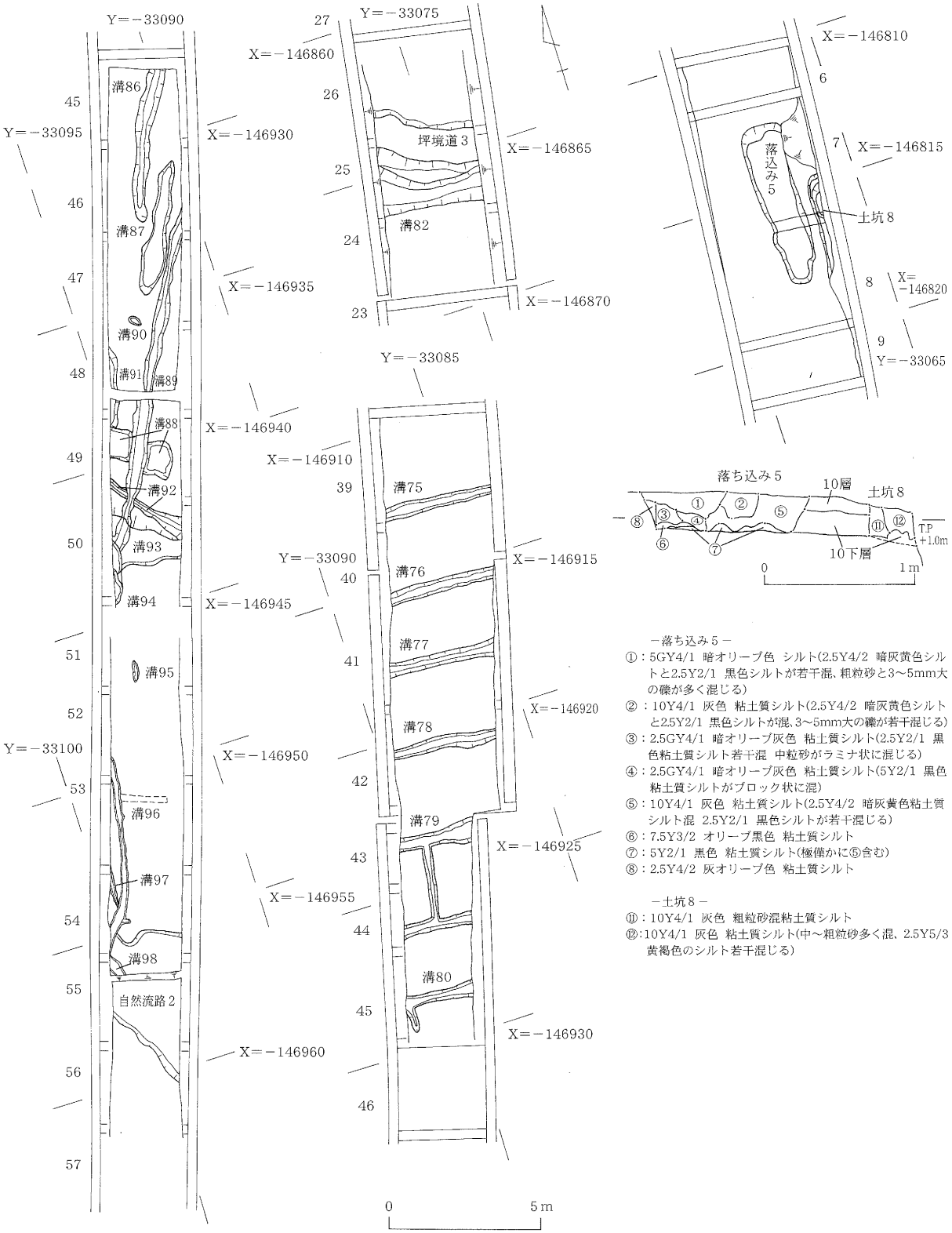
Ⅵ期は坪境道（r・o・p・145・155）と北側溝（137)、南側溝（150)。

Ⅶ期は第3層時期の溝（q)。

Ⅷ期は第2層以降の掘り上げ田の井路（溝1など）＝近世から現代。

〈坪境遺構Ⅰ期以前〉第12・13層上面検出遺構（第10図　図版48・53)

7工区の45地区以南では、10～12層の堆積がほとんどなく、前述した弥生時代の整地土である第13層および自然流路5上面で、この時期の数条の溝遺構を検出した。溝などの切り合い関係などから最低4期に分けられる。1期は溝91・92・93、2期が溝88・97、3期が溝86・87・89・90・96・98と第4期が溝94・95である。



第21図　第10層上面遺構平面図

溝91〜93はいずれも埋土が砂で、溝92と93はほぼ東西方向に延び、溝92は暗黄灰色（7.5ＧＹ5/1）粗・中粒砂、溝93は緑灰色（10ＧＹ5/1）中粒砂で埋まっていた。

２期の溝88は灰色（10Ｙ4/1）中･細粒砂混じり粘土質シルトで、溝97はオリーブ黒色（7.5Ｙ3/1）中・細粒砂混じり粘土質シルトであった。

３期の溝86・87・89（溝90はこの一部）はほぼ南北方向に走り、溝86は検出長5.2m、幅0.65m、深さ0.11mを測り、埋土は緑灰色（7.5ＧＹ5/1）細粒砂混じり粘土質シルトであった。溝87は検出長4.6m、幅0.8m、深さ0.07mを測り、埋土は暗オリーブ灰色（５ＧＹ5/1）細粒砂混じり粘土質シルトであった。溝89は西端が溝94に切断されていたが、検出長11.5m、幅0.25～0.6m、深さ0.08mを測り、埋土は２層に分かれ下部は灰色（５Ｙ4/1）中粒砂で上部は暗オリーブ灰色（５ＧＹ5/1）細粒砂混じり粘土質シルトで、弥生土器－高坏（188）・鉢（189）－も出土した。溝96・98は下部が灰色（５Ｙ4/1）粗粒砂で上部はオリーブ黒色（7.5Ｙ3/2）シルトであった。

４期の溝94（95はこの一部）は埋土が砂で、灰色（10Ｙ4/1）中・細粒砂であった。

39～45地区の第10層上面において２～2.5m間隔でほぼ平行に走る東西方向の７条の溝（溝75～80）を検出した。溝79は２本の東西方向の溝中央に南北方向の溝で連結されてH字形していた。溝80は西端が南へ0.7mほど突出し、L字形を呈していた。溝は幅0.3～0.45m、深さ0.05～0.12mを測った。断面U字形を呈し、２～３mm大の礫を多く含む青灰色（10ＢＧ5/1）シルト中・粗粒砂で土師器・須恵器小細片が出土した。

７・８地区の第12層上面で落ち込み５と土坑８を検出した。落ち込み５は北東角が一部欠損していたが、長辺（南北）5.55m、短辺（東西）1.2mの隅丸長方形を呈し、深さ0.3mで底面東側に径0.3m、深さ0.15mのピットが存していた。弥生時代の遺物包含層である第13層を一部掘り上げていた。遺構断面は逆台形状を呈し、埋土は暗灰黄色シルト・黒色シルトが若干と粗粒砂・3～5mm大の礫が多く混じる暗オリーブ色シルト、暗灰黄色シルト・黒色シルトと3～5mm大の礫が若干混じる灰色粘土質シルト、黒色粘土質シルト若干と中粒砂がラミナ状に混じる暗オリーブ灰色粘土質シルト、黒色粘土質シルトがブロック状に混じる暗オリーブ灰色 粘土質シルト、暗灰黄色粘土質シルトと黒色シルトが若干混じる灰色粘土質シルト、オリーブ黒色粘土質シルト、黒色粘土質シルト、灰オリーブ色粘土質シルトの8層に分かれ、甕（455）などの弥生土器や植物遺体などが出土した。

土坑８は東側溝などで大半が欠損しており形状は不明である。検出長3.4m、最大幅0.35m、深さ0.22mを測った。底はやや凹凸をなし、埋土は灰色粗粒砂混粘土質シルト、中～粗粒砂多く、黄褐色のシルトが若干混じる灰色粘土質シルトの2層に分かれ、弥生土器細片などが出土した。

第９層上面足跡（図版52）

６工区南端の29地区から７工区45地区にかけて広がり、いまだ23～25地区付近には明確な区切り遺構は見られなかった。足跡面はＴ.Ｐ.＋1.259～1.987mを測った。

〈坪境遺構Ⅰ期〉

この時期、畷などの歩行域＝道はなく、東西方向に走る１条の溝があった。溝の南側は後世の遺構により破損していた。検出幅1.2m以上、深さ0.17mを測り、埋土は灰色中・粗粒砂であった。この溝を境にして１～41地区の広い範囲で足跡がみられた。

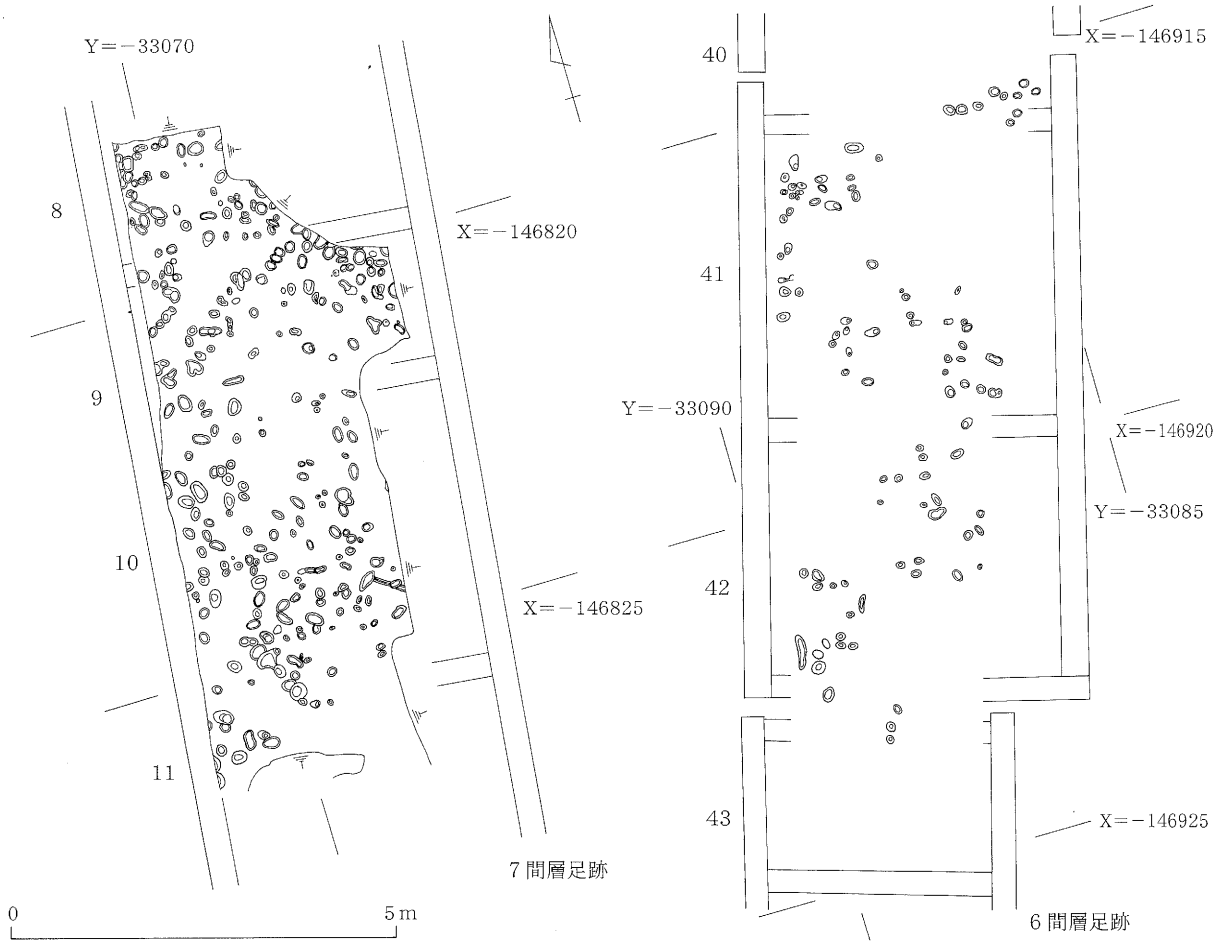
第７・８層上面足跡（第22図　図版52・54）

６工区１地区から７工区41地区にかけて分布し、足跡面はＴ.Ｐ.＋1.280～2.112mを測った。

〈坪境遺構Ⅱ・Ⅲ期〉

Ⅱ期は①灰色中粒砂期、②黄褐色中・粗粒砂期、②を切り込んだ③オリーブ黒色中粒砂と灰色中・粗粒砂期、②③を切り込んだ④オリーブ黒色細粒砂混じりシルト期の４時期に細分される。

Ⅲ期は灰オリーブ中・粗粒砂層を削って形成されていた。幅2.5m以上、高さ0.12mを測る東西方向の道＝畷で、北側だけに平行して走る溝（暗オリーブ灰色粘質シルト）を検出した。南側はⅤ期の南側溝によって切られ不明である。



第22図　第７・６間層上面足跡平面図

第６層内足跡（第22図　図版55～58）

第６層はシルト質粘土・粘土と砂の互層で形成されており、各間層（シルト質粘土・粘土）面において足跡を検出した。

３面目足跡（８～11地区付近平面図）

６工区１地区から７工区38地区にかけて分布し、足跡面はT.P.＋1.336～2.103mを測った。

２・３面間層上面足跡

６工区11～14地区付近のみで検出した。足跡面はT.P.＋1.610～1.800mを測った。

２面目足跡

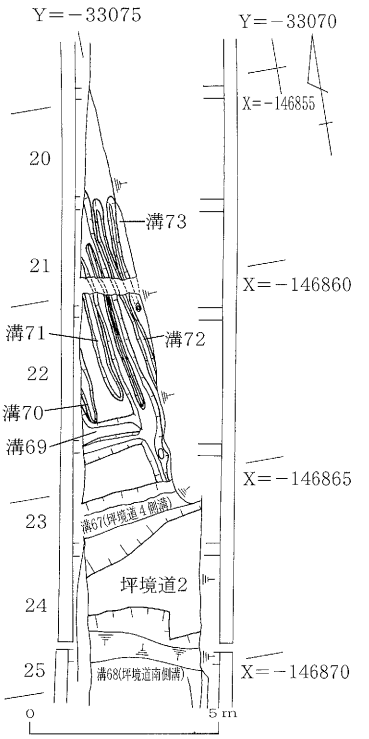
６工区８地区から７工区35地区にかけて分布し、足跡面はT.P.＋1.591～2.080mを測った。

１・２面間層上面足跡（40～43地区は平面図）

７工区30地区から43地区にかけて分布し、足跡面はT.P.＋2.001～2.225mを測った。

１面目足跡

６工区南端の29地区から７工区30～39地区にかけて広がっていた。足跡面はT.P.＋2.056～2.246mを測った。



第23図　第６間層上面遺構平面図

〈坪境遺構Ⅳ期〉第６間・６層上面遺構（第23・24・25図　図版59～61）

Ⅲ期の上に堆積した灰オリーブ色シルトを切り込んで形成された道と北（溝67－暗オリーブ灰色中・粗粒砂）・南（溝68－暗緑灰色中・粗粒砂混じり粘質シルト）側溝の各一部を検出した。道両側および側溝道よりはともにⅤ期の両側溝で切断されていたため、本来の計測値は不明である。道検出上辺1.4～3.1m、高さ0.21mを測った。道上面からは少量の足跡を検出した。

坪境遺構の北は東側の大半がⅤ・Ⅵ期の落ち込み２によって切断されており、西肩形成面で2面の遺構を検出した。下面（第６間層上面）では幅0.6～0.8m、深さ0.15mのＴ字状の溝69－埋土は灰オリーブ色シルト混じり砂－とその東西にそれぞれ2条づつの南北方向の溝（溝70～73）があった。溝70～73は幅0.25～0.3m、深さ0,06～0.1mを測り、埋土は灰色（５Ｙ6/1）砂混じりシルトであった。

上面では東西方向の溝（溝66）と南北方向の溝２条（溝64・65）を検出した。幅0.12～0.45m、深さ0.03～0.08mを測り、埋土は灰白色（10Y7/1）砂・シルト質砂で、耕作に伴う鋤溝である。

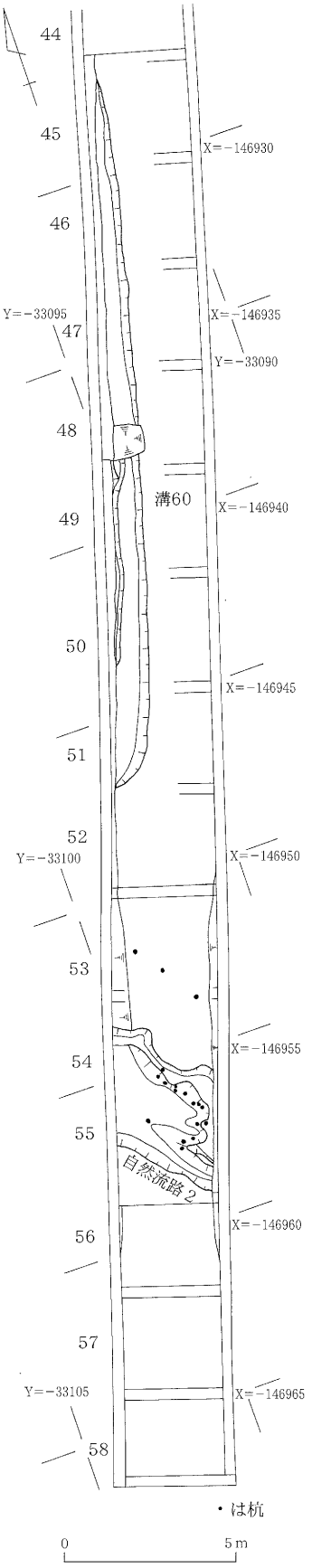
13～18地区では弧状にカーブして２段に落ちる落ち込み３の東側を検出した。14・15地区の底面は方形の槌状に窪んでいた。検出長18.5m、幅3.3m、深さ0.6mを測った。埋土は暗オリーブ灰色（５ＧＹ4/1）細粒砂灰オリーブ色（５Ｙ5/3）細・中粒砂を主体とする砂と灰オリーブ色（５Ｙ5/2）シルトなどであり、土師器・瓦器小細片などが出土した。

坪境遺構の南は26～38地区の東側は溝１により切断されていた。28～44地区でピット３（Ｐ20～22）とおもに南北方向に延びる溝群を検出した。Ｐ22は径0.42～0.2m、深さ0.07～0.05mを測り、埋土は暗オリーブ灰色（2.5ＧＹ3/1）細粒砂混じりシルトなどであったが遺物は出土しなかった。

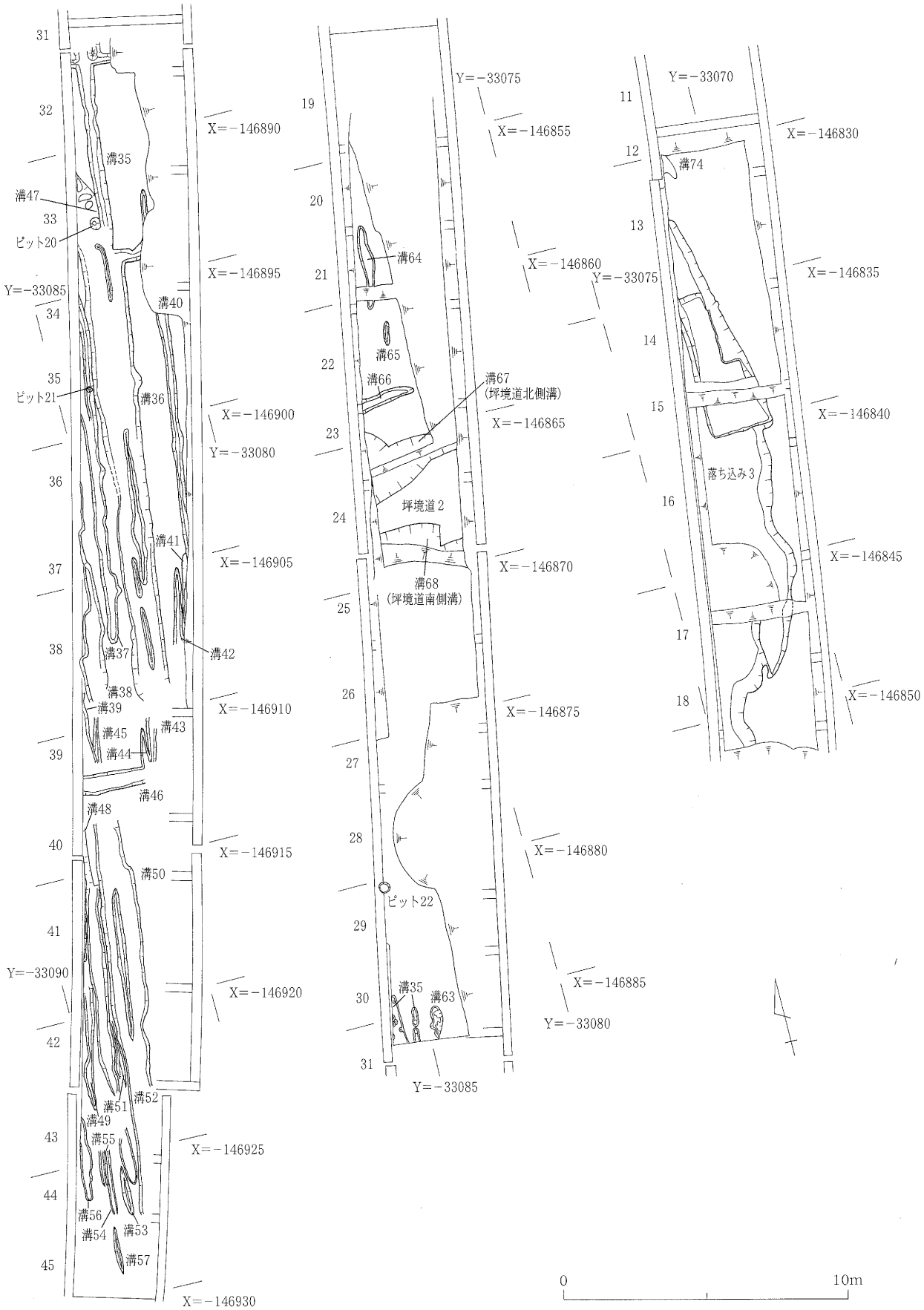
溝群は39地区の東西方向の溝（溝46）を堺にして南・北２群に分かれる。北群は幅広（１m前後）の溝３条（溝36・38・47）と幅0.25～0.5mの溝10条（溝35・37・39・40・41・42・43・44・45・63）とＰ20・21を検出した。南群は幅広（１m以上）のもの1条（溝50）と幅0.25～5mの溝８条（溝48・49・51～57）を検出した。溝内は灰白色（10Ｙ7/1）砂・シルトで、土師器・瓦器などの小細片が出土した。耕作地に伴う溝である。

45～51地区の西よりで１条の溝（溝60）を検出した。溝60は検出長20.5m、幅0・9m、深さ0.25mを測る。溝内は上層がオリーブ黒色（10Ｙ3/2）～オリーブ褐色（2.5ＧＹ3/2）細～粗粒砂で埋まり、下層はオリーブ黒色（7.5Ｙ3/2）・暗オリーブ灰色（2.5ＧＹ3/1）・オリーブ黒色（10Ｙ3/2）のシルトが堆積していた。黒色土器（964）・土師器小細片などが出土した。

自然流路２´は７工区南側の54・55地区で検出した東西方向の自然流路がある。検出幅3.5m、この流路は東側でM状を呈し、北側の底面は盛り上がっていた。流路方向は東および東南東から西に向かっており、北肩平（３本）および北斜部（９本）と流れに直交するように流路内（６本）に



第24図　第６層上面遺構平面図(1)



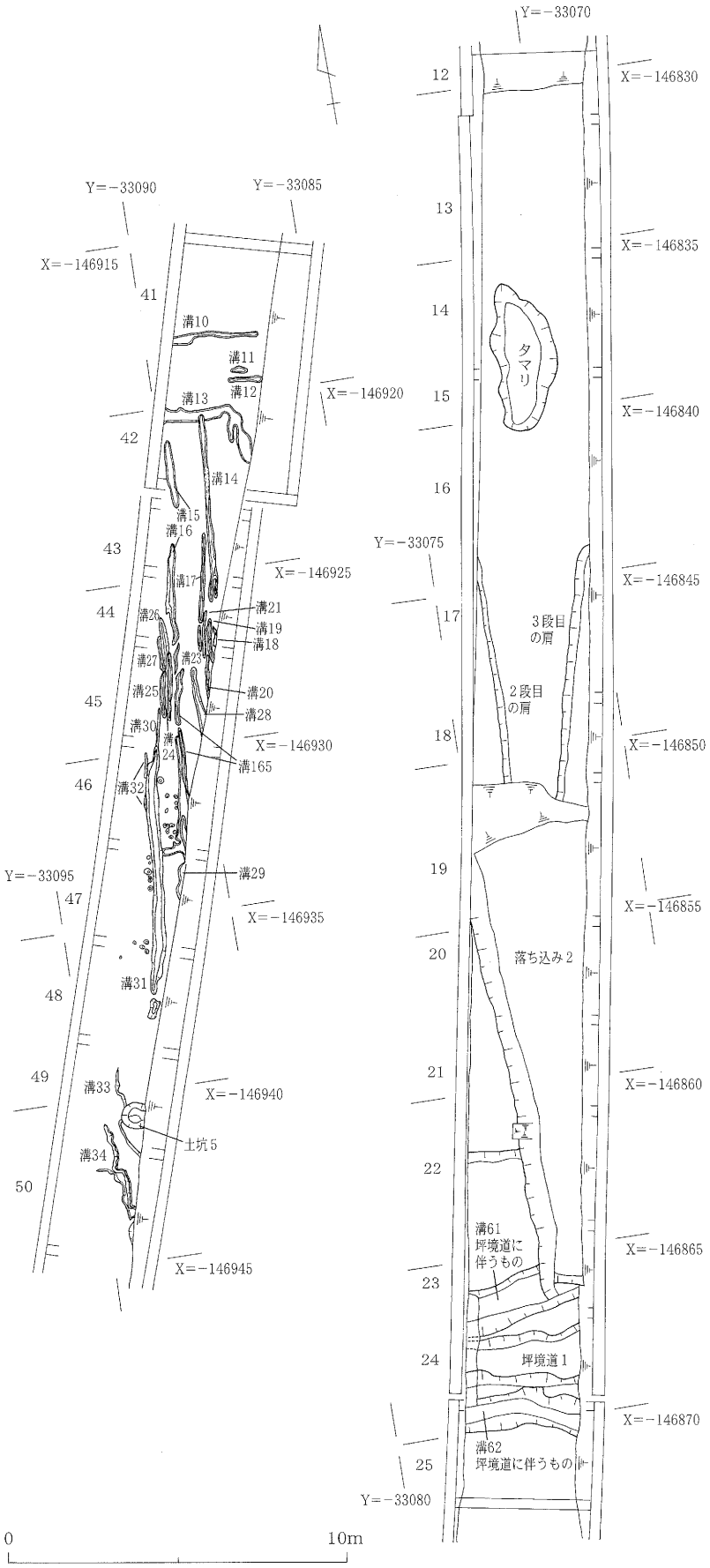
第25図　第6層上面遺構平面図(2)

杭が打設されていた。これらの杭は流路活用時に、とくに北斜面部と流路に直行するように杭を打ち込み、流れを弱めてその周辺に砂を堆積させ（M状に堆積）、流路を埋没させたものと考えられる（図版67）。流路内からは18本の杭以外に、須恵器（984～987）・土師器（988）・製塩土器（989）・瓦器小細片・ウマ（資料番号98・99）などが出土した。

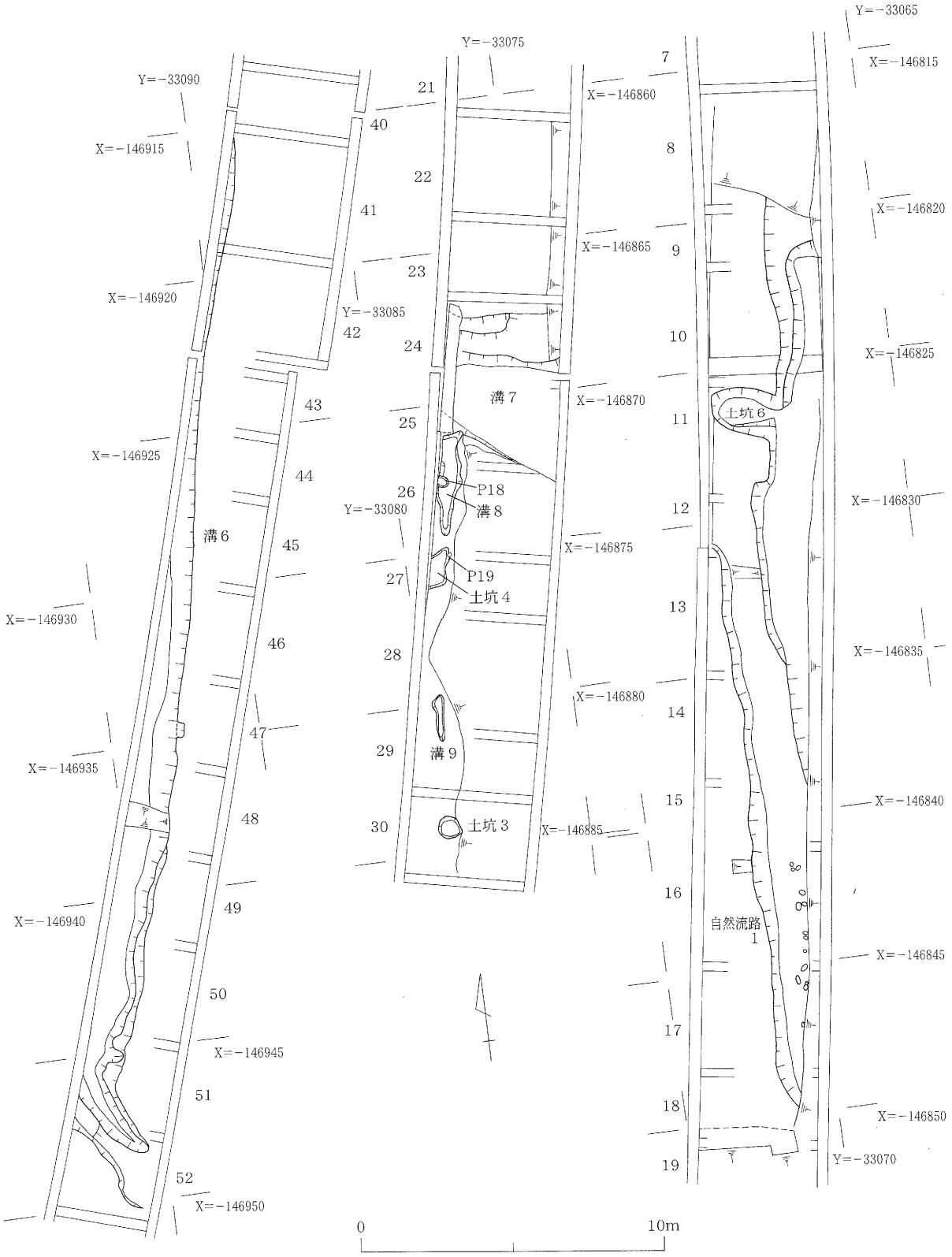
〈坪境遺構Ⅴ・Ⅵ期〉第４層上面遺構（第26図　図版61・69）

坪境遺構は23～25地区で両側に側溝（溝61・62）をもつ東西方向の道（畷）を検出した。南側の一部は溝１などの近世以降の溝によって欠損していた。道は盛土－細・中粒砂・小礫混じり灰オリーブ色シルトなど－をして構築されており、断面台形状を呈す。上幅１～２m以上、下幅1.5～2.5m以上、南側高く、溝最下面まで0.6mこえる。南側溝最下部の堆積砂内からは土師器小細片などとともに板卒塔婆（1185）が出土した（図版51）。

また、この坪境遺構の南側はわりと早く埋没したようで、さらに整えて構築し直されたのが坪境遺構Ⅵ期である。Ⅴ期の道遺構の南側に堆積した暗緑灰色シルトとオリーブ黒色細粒砂の南を斜めに深く切って窪ませた南側溝（中粒砂・小礫混じり灰オリーブ細粒砂）があった。道上面は５～10cm大の礫・瓦片を敷きつめていた。北側には幅1.25m、深さ0.3mの溝（灰色細



第26図　第４層上面遺構平面図



第27図　第３層上面遺構平面図

粒砂混じり粘土質シルト）があった。道の検出上辺は0.7m以上を測ったが、南肩部などが溝１などによって切断されていたため本来の幅は不明である。

坪境遺構北側の23地区から以北は落ち込み２は広がっていた。落ち込みはほぼ南北方向にのびる西

第28図　溝１・２・a・b、落ち込み１平面図

第29図　調査地周辺掘り上げ田井路状況図（昭和30年代）

肩付近で、3段以上に落ち、23地区北よりから20地区で1段目、18～16地区で２・３段目の肩・段を、14・15地区の2段目平坦部から土坑状の窪地（4.5×1.7m、深さ0.4m）を検出した。埋土は灰オリーブ色（7.5Y4/2）小礫混じりシルトを主体とし、須恵器（977・979）・土師器（978）と陶磁器の小細片などが出土した。坪境北側溝の北の22地区からは落ち込み２によって東側が切断された東西方向の落ちの北肩を検出したが、用途・形状は不明である。

坪境より南では41・42地区で東西方向の溝４条（溝10～13）、42地区以南48地区までにはおもに南北方向にのびる溝19条（14～32・165）と足跡、49・50地区で切り合う南東から北西にのびる2条の溝（溝33・34）と円形土坑１基（土坑５）を検出した。

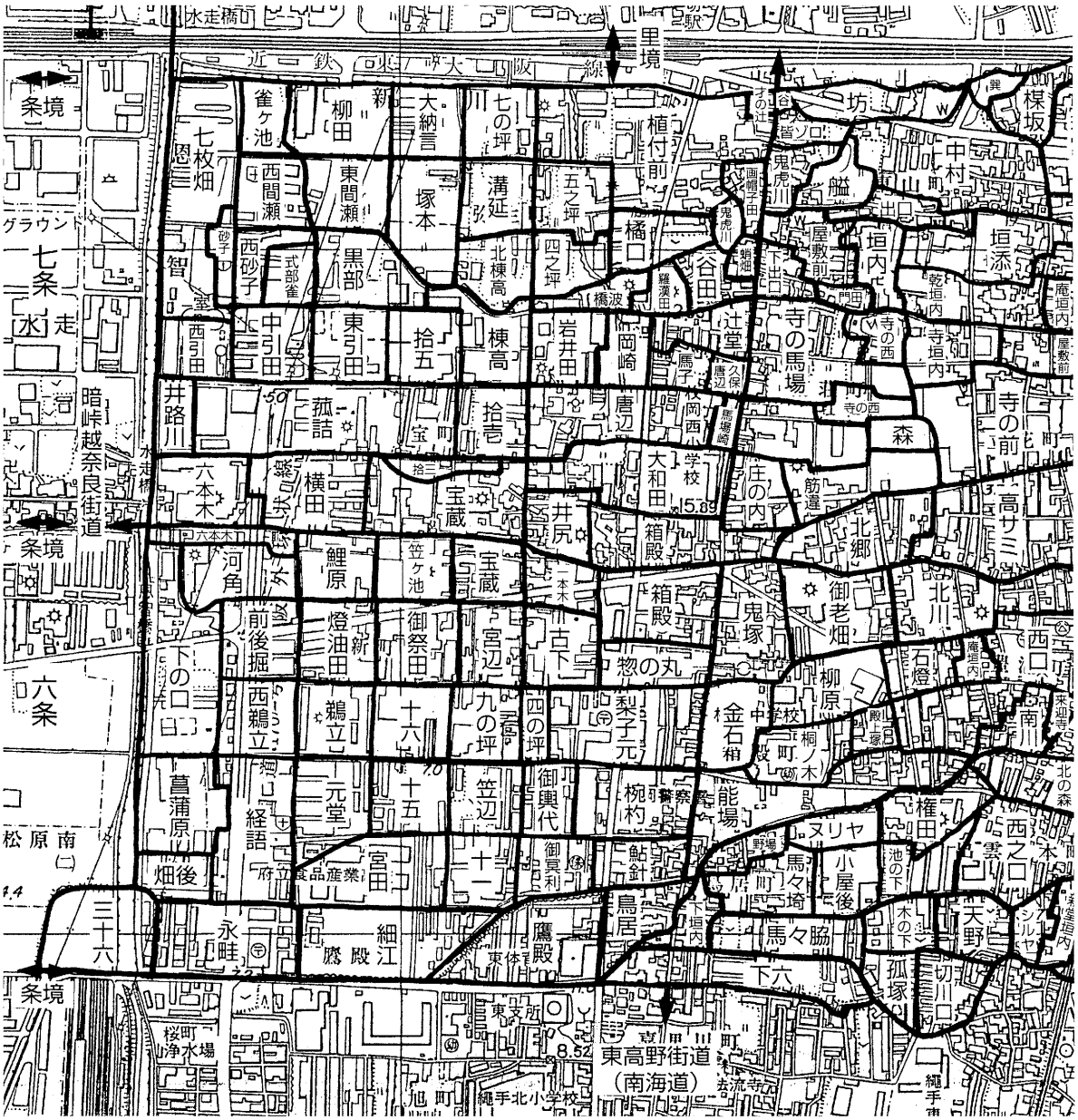
溝10～32と165は幅0.1～0.3m深さ0.05～0.1mを測り、砂および砂質シルトなどで埋まっていた。これらの溝は耕作に伴う鋤溝である。土坑５は径0.7m、深さ0.17mを測り、溝33は溝34に切られていたがともに浅く、いずれも用途は不明である。

〈坪境遺構Ⅶ期〉第３中層上面遺構（第27図　図版62・65・66・69）

坪境遺構は溝のみで、24地区の第３中″層上面より切り込まれた東西方向の溝qの北側部分のみを検出した。南側は溝１などによって切断されていたため、本来の幅・深さなどは不明である。北斜面はやや丸みをもって落ち、検出幅0.55m、深0.3mを測った。埋土は暗緑灰色（10GY4/1）砂混じりシルトであった。溝q底面でⅣ期の上面である礫を敷いた東西方向の高まりを検出した。

８から18地区にかけての第３層上面で自然流路１を検出し、流路は西側のみで段を有していた。12～18地区にかけて1段目の西肩があり、２段目の肩は８～16地区にわたってあり11地区で西に袋状にふくれ、北は３段になっていた。８地区より以北は落ち込み１によって切断されていた。流路はほぼ南から北方向にのび、17・16地区の1段目からは足跡を検出した。流路内は灰オリーブ色（7.5Y5/2）細粒砂混じりシルト、灰オリーブ色（7.5Y5/2）小礫混じりシルトをブロック状に含むオリーブ灰色（10Y5/2）細粒砂、灰オリーブ色（7.5Y5/2）シルトを含む暗オリーブ灰色（５GY4/1）シルトに分かれ、埴輪（983）・須恵器（981）・瓦器（982）・陶器（980）と土師器小片、大型哺乳類（資料番号97）などが出土した。

また、11地区では自然流路埋没後の上面で土坑６を検出した。平面不整形の半円状を呈し（西側調



第30図　遺跡周辺小字切図

査地外)、南北3.12m、深さ0.74mを測った。断面はすり鉢状をなし、埋土は礫・オリーブ黒色（7.5Y3/2）ブロックを含む緑灰色（5G5/1）シルトが主体で、土師器・陶磁器小細片が少量出土した。

6地区南から7地区北－26地区から38地区－の東側の多くは溝1によって切断されていたため、26～30ちくの西側で2基の土坑（土坑3・4）、溝2条（溝8・9）とピット2（P18・19）を検出したのみであった。

土坑3は0.8×0.7mの楕円状を呈し、深さ0.6mを測った。埋土は下部が暗オリーブ灰色（5GY3/1）粘土質シルト、上部が小礫を含む暗オリーブ灰色（5GY4/1）粘土質シルトであった。土坑4は長辺1.6m、短辺0.6m（西側は調査地外）の長方形を呈し、深さ0.1mを測った。埋土はオリーブ灰色（10Y4/2）粗粒砂混じり粘土質シルトであった。溝8は検出長3.5m、幅0.7m、深さ0.13m、溝9は検出長1.06m、幅0.18m、0.07mを測った。埋土はオリーブ灰色（5GY5/1）細粒砂混じり粘土質シルトであった。P18は径0.42m、深さ0.09mを測り溝8西方付近、P19は径0.16m、深さ0.1mを測り

土坑４東肩付近でそれぞれ検出した。埋土は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）粘土質シルトであった。いずれも出土遺物はほとんどなかった。

７工区ではほぼ南北方向の数本の浅い鋤溝跡と溝６を検出した。

溝６は40～52地区西よりに南北方向に走る溝で、52地区で東へ曲がっていた。検出長36m、幅１～２m以上（西肩は不明）、深さ0.1～0.3mを測った。本来は52地区で東から西、向きをかえて南から北方向へと流れていたと思われる。溝内は灰白色（５Y7/1）細～粗粒砂を主体とする砂が堆積し、土師器、瓦器、須恵器、陶磁器の小細片とともに52地区のカーブ地点からは板卒塔婆（1184）が出土した（図版66）。

［近世以降］

〈坪境遺構Ⅷ期〉第３～１層上面遺構（第28図　図版68～70）

この時期の坪境状況は、24・25地区に溝１より派生する東西方向の溝があり、埋没後も現代に至るまで、東西方向の溝は穿きつづかれていた（溝７・ａ。ｂ）。

落ち込み１　１～10地区の第2層上面から掘り込まれ、検出長35mを測った。調査地内では西南部域を検出し、その斜面は７～9段の不定形な段をなし、1地区の東北隅が最深所となって深さ約3.2mを測ったが、底面のところどころにはさらに不定形の土坑状の窪地が穿たれてあった。10地区で検出した1段目はほぼ南北方向になっていたが、2段目以降は東から北方向へ逆さＪ字状にカーブし西南域の様相を呈していた。第3図6工区西断面図－７・８地区付近－にも見られるように上部は落ち込み１の埋土・堆積土（落１ａ～１）であり、西肩はさらに西へ延びているが、第44次調査地では検出されていないことから、国道170号線の現道内でおさまっているものと考えられる。斜面などの形態状況は掘り上げ田の井路とは異なり、それに先行して掘られていたため池の一部ではないかと思われる。落ち込み内は12層以上に分かれ、磁器（966～973）・黒色土器（974）・土師器（975・976）・瓦器・須恵器などとともに木製品が出土した。木製品はｆ層内で杭・桶側板(1193)・曲げ物容器底板(1190)・板状木製品（1196）、ｇ層内で曲げ物容器底板(1189)と漆器椀（1182）があり、他に角材（1194）、有孔板(1197)、有頭板(1198)などがあった。

落ち込み１が上層近くまで埋没した時期に（落ち込み１の機能はすでに果たし終えたあと）４条の溝と－１条は９地区の幅0.4～0.3m、深さ0.1mを測る東西方向に延びる溝２－、溝２の南（５本）および５・６地区（15本）などで打設された杭を検出した。

溝１　掘り上げ田に伴う南北方向の井路で、６工区南から７工区北の24地区から38地区にわたっていた。検出長41m、同最大幅４m、同深さ２m以上を測り、溝の肩および斜面などに多量の杭（径約５cm、長さ70～80cm）が打設されていた。外環状線（国道170号）建設時以降も残存していたが、完全に埋没したのは昭和40年代後半である。溝内からは多量の杭のほか漆器椀（1181・1183）下駄（1186）・容器（1187）・桶底板（1189）などの木製品と、土師器・陶磁器の小細片などが出土した。

25・24地区付近では西方向へ派生していたが、埋没後も溝１より西方向へ東西に走る近・現代の溝が３時期にわたって継ながっていた－溝７・溝ｂ・溝ａ－。

第29図は枚岡市時代の地図で、昭和30年代後半までの状況を知ることができる。すなわち、調査地周辺は東西南北に掘られている井路が見られ、いわゆる掘り上げ田による耕作が営まれていたことがわかる。今回の第53次調査地は南北方向の井路（溝１）の一端をかすめたところに位置している。また、第29図と第30図の小字切り図との関係をみておくと、東端は北から植付前・橋口・羅漢田・辻堂（一部）と西端は恩智川沿いの七枚田・智に至る範囲である。

4. 遺物

縄文時代～近世期の遺物が出土した。遺物は土器、土製品、石器、木製品、骨角製品、金属製品などがある。以下、各項目ごとに説明を記す。

1. 土器

縄文時代～近世期の土器がある。各時代の遺構及び遺物包含層などに分けて記す。

1）縄文土器（第31図）

今回の発掘調査では縄文時代の遺物包含層や遺構は検出されていない。出土した縄文土器は弥生時代の遺物包含層や遺構からである。すべて混入品と考えられる。時期は晩期であり、深鉢（1～10）と浅鉢（11）の器種がある。1は口縁部が外反する。口唇部は丸く終わる。胴部外面はケズリ調整する。2・3・5は口唇部直下に1条の凸帯も廻らす。4は口唇部直下に2条の凸帯を廻らし、上の凸帯に刻め目を施す。6～8は口唇部直下に1条の刻め目凸帯を廻らす。9・10は胴部であり、刻み目凸帯が残る。6～10は所謂、船橋式土器である。11は口縁部と胴部の境に稜が付く。胴部外面はケズリ調整する。口唇部直下に1条の凸帯を廻らす。3は土坑103、4は溝136、7は土坑墓Ⅲ、他は弥生時代の遺物包含層より出土。すべて生駒西麓産である。

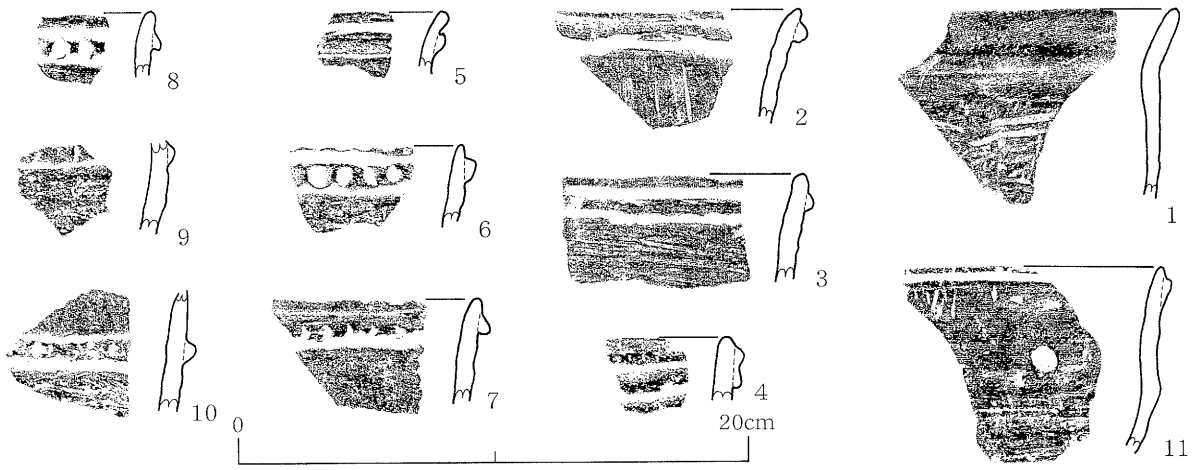
2）弥生土器

弥生土器はⅠ～Ⅴ様式に分類する。Ⅲ様式とⅣ様式の土器は明確に分類できないのでⅢ～Ⅳ様式として扱う。Ⅱ～Ⅳ様式に分けられない土器は中期と記す。また、Ⅱ様式の中にはⅠ様式の可能性がある甕や鉢も含まれる。胎土中に石英・長石・角閃石・雲母を含むものを生駒西麓産とする。生駒西麓産の中には上記の鉱物が微粒や微量のものも含まれる。それ以外は非河内産で記す。色調は生駒西麓産が褐色から灰色、非河内産は乳白色～桃灰色が多い。また、本文中に調整法を記しているが、口縁部と裾端部のヨコナデ調整は普遍的なのであえて記さない。

遺構出土土器

土坑10（第33図28）

28は甕である。体部がやや張り、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面と口



第31図　縄文土器実測図

縁部内面をハケメ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑19（第33図29）

29は口縁部を欠損するが無文の壷である。体部がやや張り、頸部がゆるく外反する。内外面をヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑20（第32図12～18）

甕・壷・鉢・高坏の器種がある。

12～15は甕である。12は体部の張りは少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや面を持つ。底部中央に円孔を穿つ。調整法は不明。13～15は体部の張りが大きく、口縁部が外反するものと外折するものがある。口縁端部は面を持つ。13・14は体部外面をハケメ調整、内面をハケメの後ナデ調整する。15は体部外面をハケメの後ヘラケズリ調整、内面をハケメ調整する。12はⅡ様式、13～15はⅢ～Ⅳ様式。すべて生駒西麓産。

16は壷である。頸部は細く、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。頸部内外面はハケメの後ヘラミガキ調整する。無文の壷である。Ⅱ様式。生駒西麓産。

17は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁端部が尖り気味に終わる。所謂、直口の鉢である。底部は平底でやや直立する。体部外面はナデの後、部分的なヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

18は高坏の脚部である。中空の脚部であり、裾部から柱状部の立ち上がりが強い。裾端部は面を持つ。脚部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。中期。生駒西麓産。

土坑21（第32図19～27）

壷・甕・鉢の器種がある。

19～23は壷である。19～21は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持ち、20は刻み目、21は櫛描波状文を施す。19・21は頸部に直線文を施す。22は口縁端部が幅広の面を持つ。ヘラ描羽状文を施す。23は下半部の張りが大きい壷である。頸部が筒状を呈し、口縁部が下方へ外折する。内外面はヘラミガキ調整する。口縁端部に櫛描簾状文、頸部に直線文と簾状文を施す。体部に焼成後の穿孔がある。19～21はⅡ様式、22・23はⅢ～Ⅳ様式。22は非河内産、他は生駒西麓産。

24～26は甕である。24は体部が大きく張り、口縁部が外折する。口縁端部は面を持つ。内外面はハケメ調整する。25・26は体部がやや張り、口縁部が外反する。口縁端部はやや丸く終わる。25は内外面をハケメ調整する。体部外面にヘラ描による波状文と口縁端部に刻み目を施す。26は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメ調整する。24は第Ⅲ～Ⅳ様式、25・26はⅡ様式。生駒西麓産。

27は鉢である。張りの少ない体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面に櫛描直線文と波状文を施した後、文様帯間を研磨する。口縁端部は波状文と刻み目を施す。内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑26（第33図30）

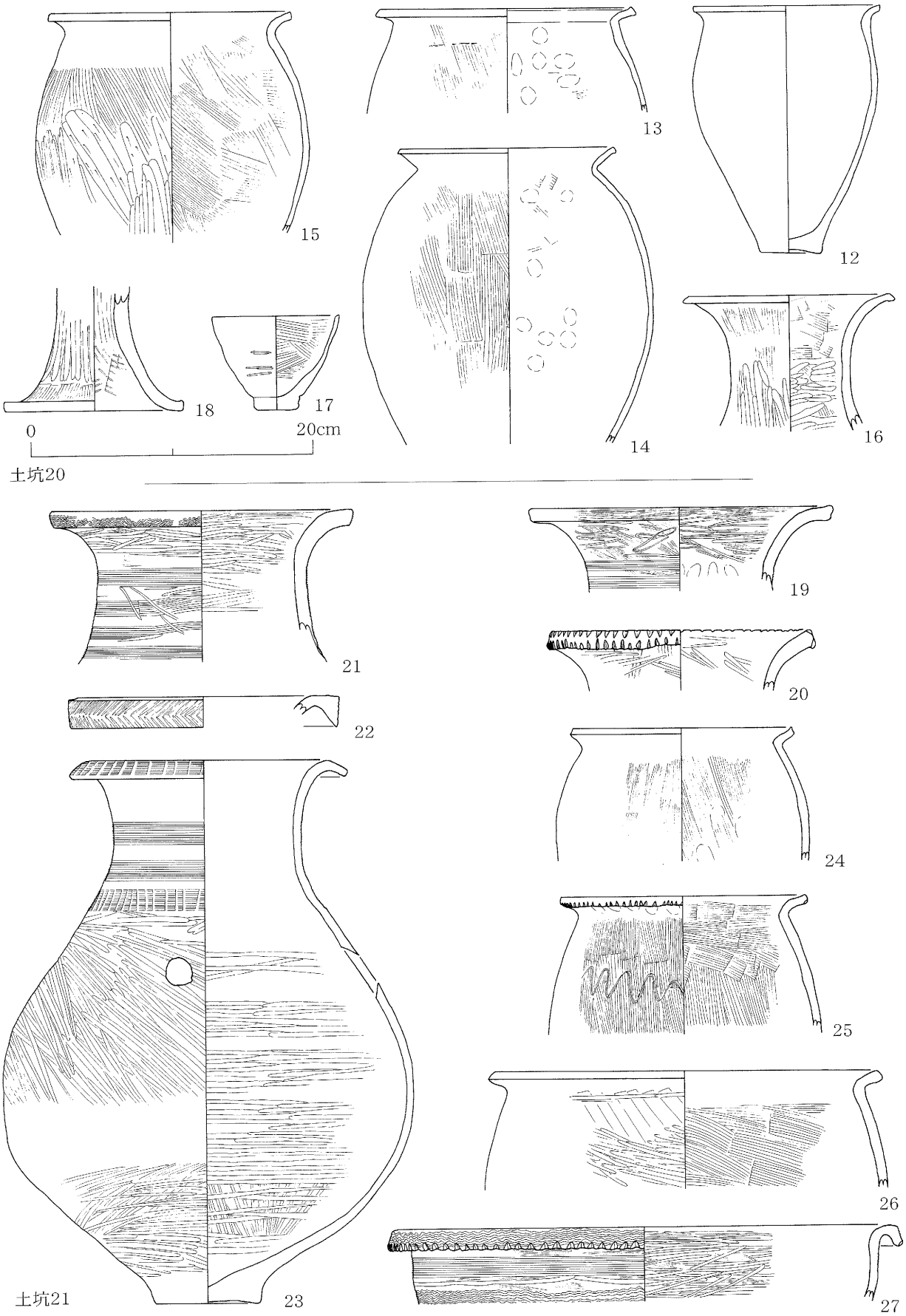
30は甕である。口縁部が短く外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面に1条のヘラ描沈線文が残る。口縁端部に刻み目を施す。Ⅰ様式。生駒西麓産。

土坑27（第33図33～37）

壷・甕・鉢の器種がある。

33は壷である。口縁部が外上方に伸び、口縁端部が面を持つ。調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

34・35は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体



第32図　土坑20・21出土土器実測図

部内外面はナデ調整する。34は体部外面に櫛描直線文が２帯残る。文様帯間は研磨する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

36・37は鉢である。体部は外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。36は外面に櫛描直線文と波状文を施す。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑28（第33図31）

31は壷である。口縁端部は下方へ拡張し、幅広の面を持つ。端面に櫛描簾状文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑34（第33図38・39）

細頸壷と甕蓋の器種がある。

38は細頸壷である。口頸部が直立に伸びた後、内傾する。口縁端部は面を持つ。外面に櫛描簾状文と直線文を施す。文様帯間は研磨する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

39は甕蓋である。体部の立ち上がりはゆるい。口縁端部は面を持つ。内外面はハケメの後ナデ調整する。中期。生駒西麓産。

土坑36（第33図32）

32は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑37（第33図40）

40は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へやや拡張する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑39（第33図45～50）

壷・鉢・甕の器種がある。

45は壷である。頸部は細く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部内外面はハケメの後ヘラミガキ調整する。無文の壷である。Ⅱ様式。生駒西麓産。

46は鉢である。体部はやや張り、口縁部が下方へ強く外折する。体部外面に櫛描直線文、口縁端部に刻み目を施す。体部内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

47～50は甕である。47～49は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。50は47と形態はほぼ同様であるが口縁端部がやや面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。Ⅱ様式。50は非河内産、他は生駒西麓産。

土坑40（第33図42～44）

壷・甕・鉢の器種がある。

42は壷である。口縁部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。内外面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

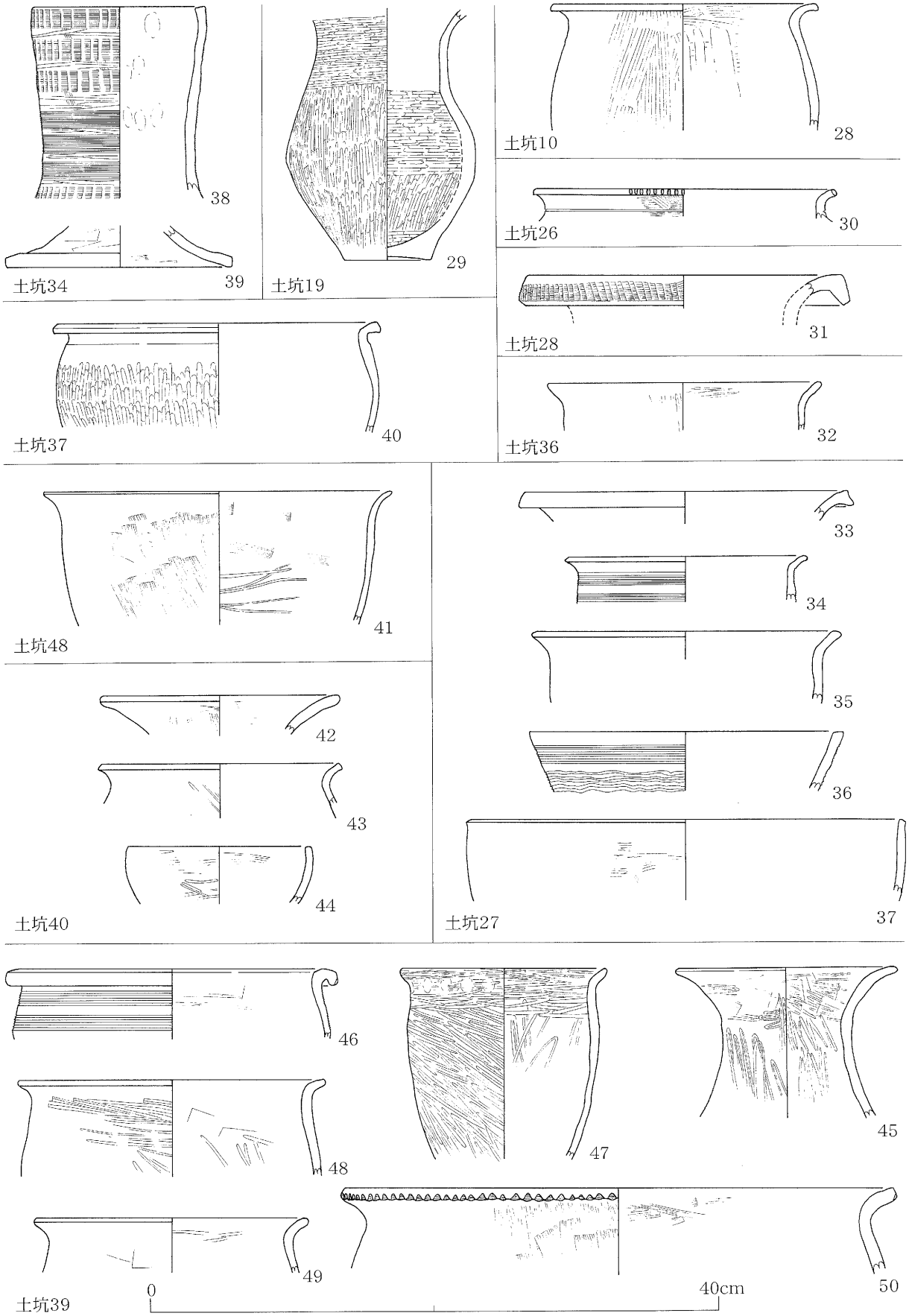
43は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

44は鉢である。口縁部が内湾しながら立ち上がる。口縁端部は面を持つ。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

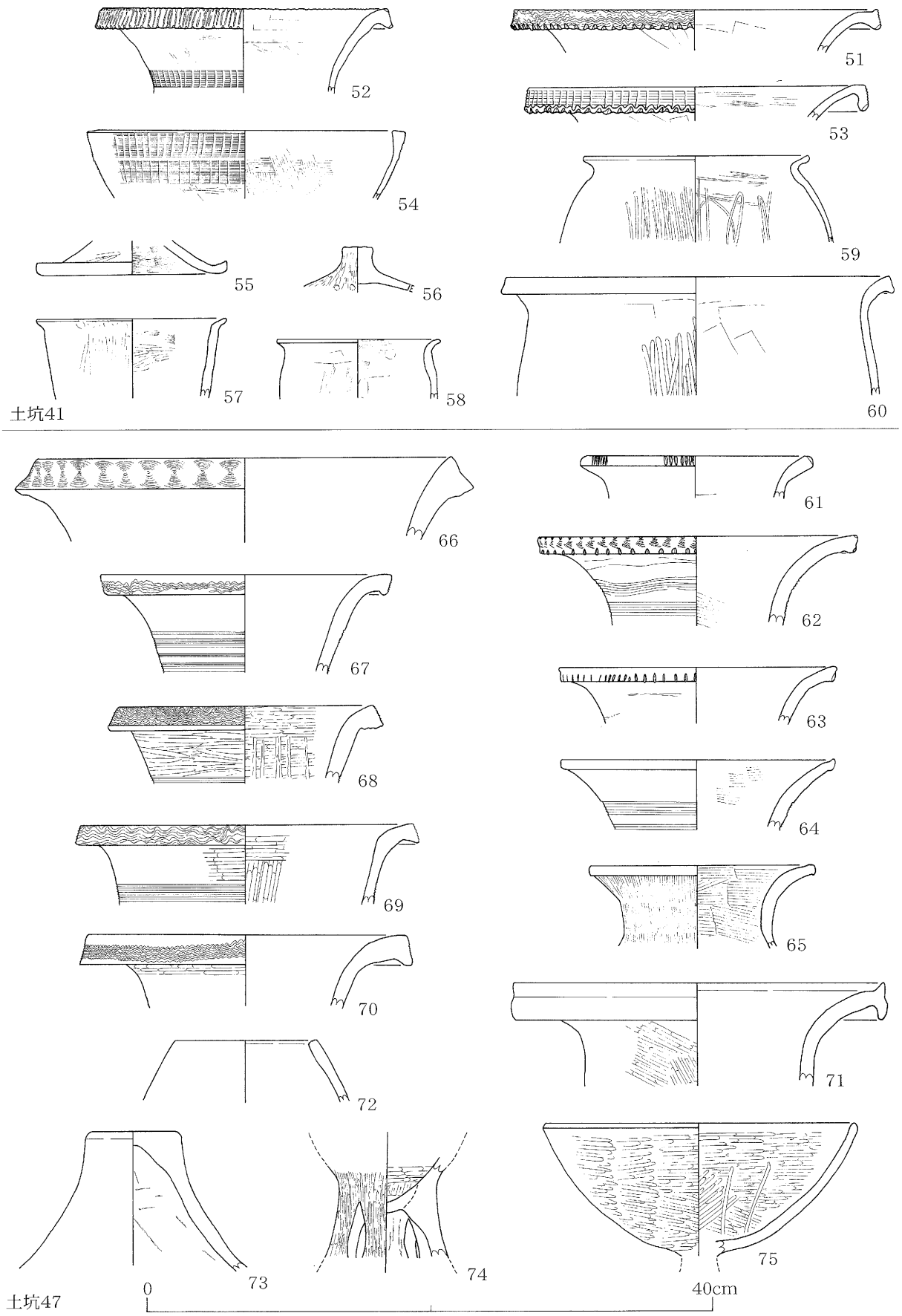
土坑41（第34図51～60）

壷・鉢・高坏・壷蓋・甕の器種がある。

51～53は壷である。51は口頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。櫛描波状文と刻み



第33図　土坑10・19・26～28・34・36・37・39・40・48出土土器実測図



第34図　土坑41・47出土土器実測図

目を施す。52・53は口頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描簾状文と刻み目を施す。52は頸部外面に簾状文が1帯残る。51はⅡ様式、52・53はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

54は鉢である。口縁部が上方へ立ち上がり、口縁端部は面を持つ。所謂、直口の鉢である。外面に櫛描簾状文が2帯残る。内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

55は高坏である。裾部の立ち上がりはゆるい。裾端部は上方へ拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。内面にリング状の煤が付着しており、甕蓋に転用している。中期。生駒西麓産。

56は壷蓋である。円形を呈するつまみである。小円孔が残る。中期。生駒西麓産。

57～60は甕である。57・58は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。57は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメの後ヘラミガキ調整する。58は体部外面をハケメの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。59は体部の張りが大きく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。60は58と形態がほぼ同様であるが口縁端部を下方へ拡張する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。57・58はⅡ様式、59・60はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑47（第34・35図61～87）

壷・無頸壷・甕蓋・高坏・甕の器種がある。

61～71は壷である。61は口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わり、刻み目を施す。62～70は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持ち、櫛描文様や刻み目を施すものと丸く終わるものがある。頸部に櫛描直線文を施すものが多い。71は筒状の頸部より口縁部が大きく外反する。口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。61はⅠ様式、62～70はⅡ様式、71はⅢ～Ⅳ様式。63・65は非河内産、他は生駒西麓産。

72は無頸壷である。口縁部がハ字形に内傾する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

73は甕蓋のつまみ部である。内外面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

74・75は高坏である。74は脚柱部である。内外面はヘラミガキ調整する。楕円形の透かし孔を施す。75は深い椀状を呈する坏部である。口縁端部が丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。74はⅢ～Ⅳ様式。非河内産。75はⅡ様式。生駒西麓産。

76～87は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反するものと短く外反するものがある。口縁端部は丸く終わるかやや面を持つ。76～78は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。76・77は口縁端部に刻み目を施す。79・80は体部外面をハケメ調整、内面をヘラミガキ調整する。81～87は体部内外面をヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。77～79は非河内産、他は生駒西麓産。

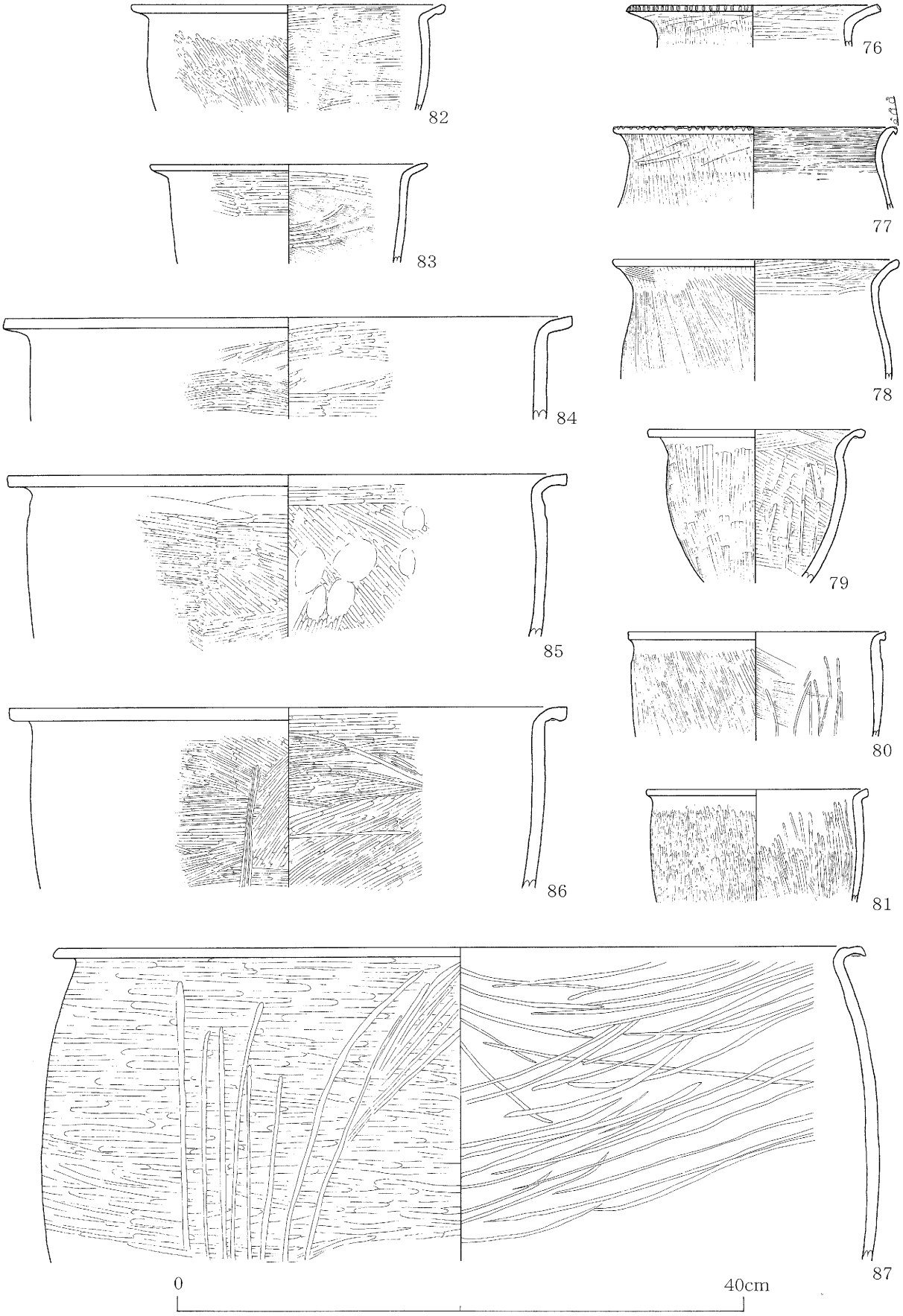
土坑48（第33図41）

41は鉢である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後、部分的にヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑49（第37図111・112）

甕と鉢の器種がある。

111は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁



第35図　土坑47出土土器実測図

端部に刻み目を施す。Ⅱ様式。非河内産。

112は鉢である。体部上半は内傾する。口縁端部に段を持つ。口縁端部に櫛描列点文、体部外面に３帯の簾状文と１帯の波状文を施す。内外面をヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑50（第36図88～110）

無頸壷・壷・甕蓋・甕・鉢・高坏の器種がある。

88は無頸壷である。体部は算盤球形を呈する。口縁部は短く外反し、口縁端部がやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面の下半をヘラミガキ調整、上半をナデ調整する。体部上半に２個１対の小円孔を穿つ。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

89～96は壷である。88～91は口頸部が大きく外反する。口縁端部は尖り気味のものと面を持つものがある。90は頸部に櫛描直線文、91は口縁端部に刻み目を施す。92・93は口縁端部を下方へ拡張する。口頸部に櫛描文様を施す。94は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に４条の凹線文、内面に櫛描扇形文を施す。95は口縁端部を上下に拡張する。幅広の面を持つ。櫛描簾状文を２帯施す。96は筒状の頸部より口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。内外面はヘラミガキ調整する。無文の壷である。89～91はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。90・91・94は非河内産、他は生駒西麓産。

97は甕蓋である。器高は高く、口縁端部が丸く終わる。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

98～105は甕である。98～100・102・103は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。99は体部外面をヘラケズリ調整、他はヘラミガキ調整やハケメ調整する。102は口縁部直下に瘤状の握手を施す。101・104は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。101は体部内外面をヘラミガキ調整する。104は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。105は口縁部が強く下方へ折れ曲がる。口縁端部はやや丸く終わり、刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。98～100・102・103はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。101は非河内産、他は生駒西麓産。

106・107は鉢である。106は体部が浅く、口縁部が外折する。口縁端部は面を持ち、刻み目を施す。体部内外面はハケメ調整する。107は体部が外上方へ伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。106はⅢ～Ⅳ様式、107はⅡ様式。生駒西麓産。

108～110は高坏である。108・109は浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面をもつ。108は内外面をヘラミガキ調整する。109は調整法不明。口縁端部に櫛描波状文、杯部に直線文を施す。110は脚部である。裾部はゆるく立ち上がり、柱状部が中実である。外面はヘラミガキ調整する。108・109はⅢ～Ⅳ様式、110はⅡ様式。生駒西麓産。

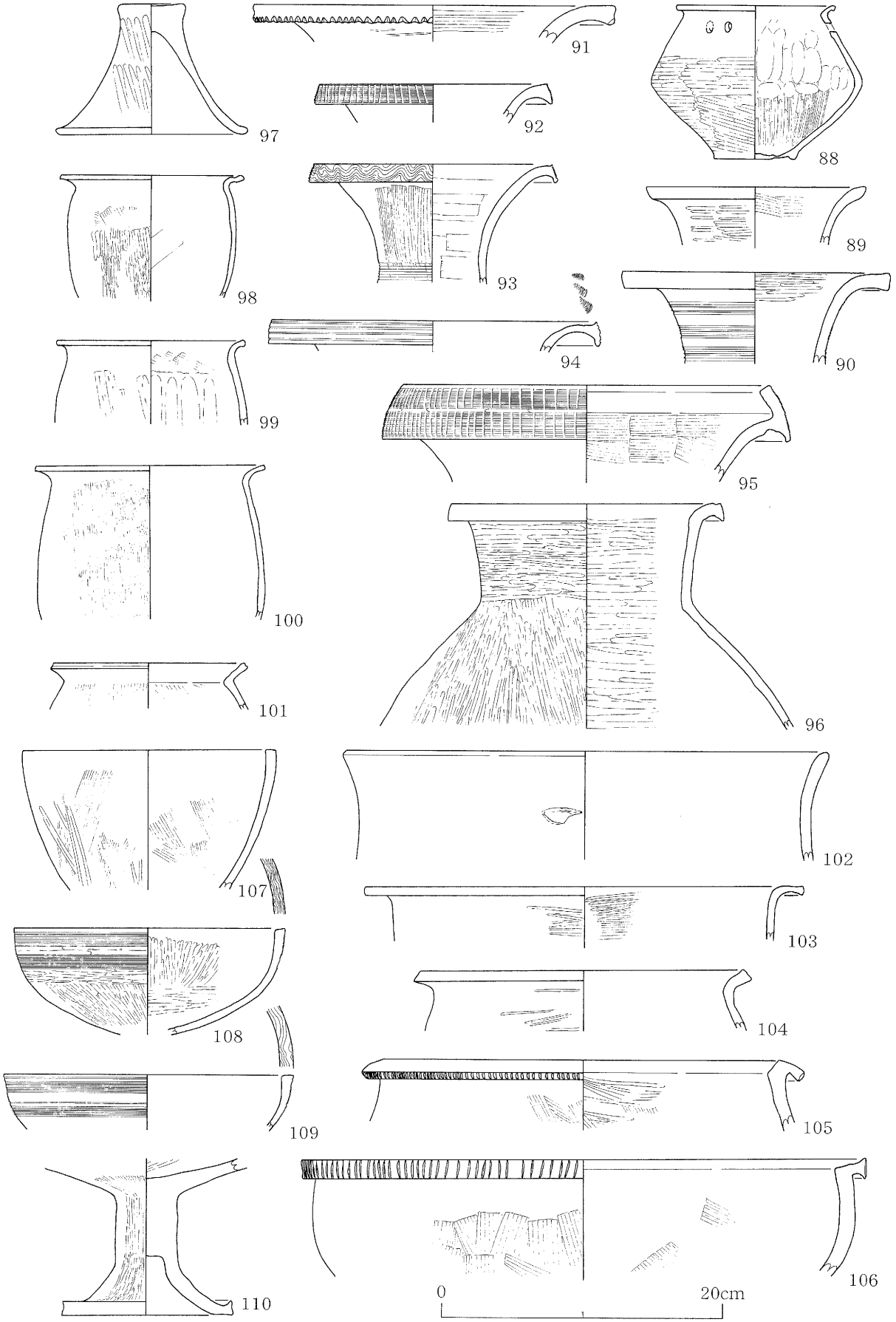
土坑55（第37図113）

113は壷である。口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。頸部外面はハケメ調整の後、櫛描直線文を施す。４帯が残る。文様帯間は研磨する。内面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑57（第37図114・115）

甕と壷の器種がある。

114は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。



第36図　土坑50出土土器実測図

115は壷である。口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描簾状文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑61（第37図116）

116は高坏である。口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形がコの字形を呈する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

土坑63（第37図117～121）

壷・鉢・甕の器種がある。

117・118は壷である。口縁部が大きく外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文を施す。Ⅰ様式。生駒西麓産。

119は鉢である。体部が内湾気味に上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

120・121は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑67（第37図122・123）

122・123は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。123は口縁端部に刻み目を施す。122は体部内外面をナデ調整する。123は体部内外面をハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑71（第37図126～128）

鉢・壷の器種がある。

126は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

127・128は壷である。127は口縁部が大きく外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文を施す。128は頸部が細く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。無文の壷である。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑77（第37図124）

124は甕である。体部がやや張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑80（第37図125）

125は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑82（第37図131～138）

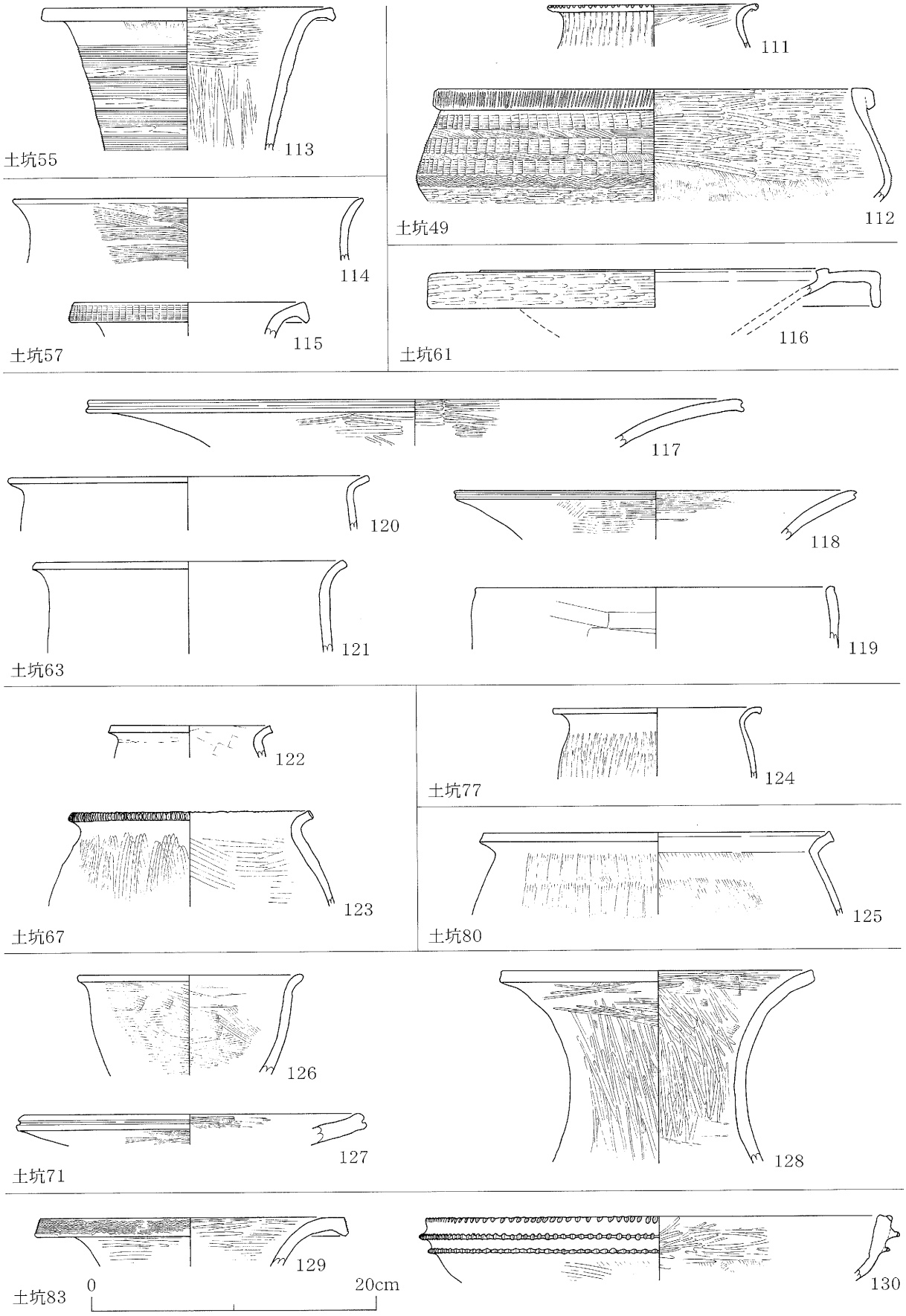
鉢・壷・甕蓋・壷蓋・甕の器種がある。

131・135は鉢である。体部が内湾気味に上方へ伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。135はミニチュアの鉢である。直口を呈する。内外面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

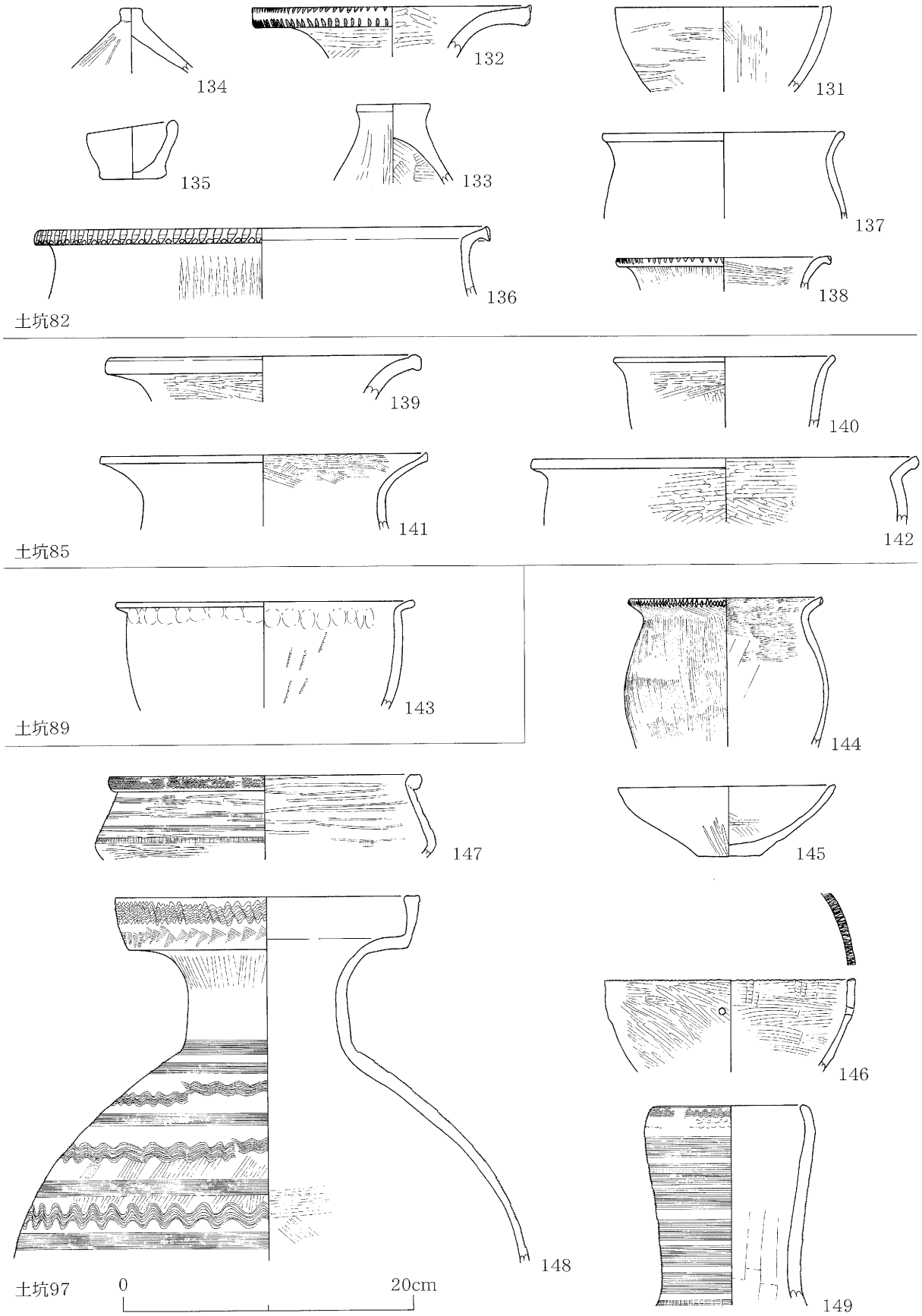
132は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

133は甕蓋のつまみ部である。外面はハケメの後ナデ調整、内面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

134は壷蓋のつまみ部である。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。



第37図　土坑49・55・57・61・63・67・71・77・80・83出土土器実測図



第38図　土坑82・85・89・97出土土器実測図

136～138は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。136は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁端部に刻み目を施す。137は体部内外面をナデ調整する。138は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。Ⅱ様式。136は生駒西麓産。他は非河内産。

土坑83（第37図129・130）

壷・鉢の器種がある。

129は壷である。口縁部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に1条の櫛描波状文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

130は鉢である。浅い椀状を呈し、口縁端部が面を持つ。所謂、直口の鉢である。口縁部直下に2帯の凸帯を貼り付ける。凸帯と口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

土坑85（第38図139～142）

壷・甕の器種がある。

139は壷である。口縁端部がやや面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

140～142は甕である。口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑89（第38図143）

143は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整するが、指頭圧痕が顕著に残る。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑96（第39図150～165）

細頸壷・無頸壷・壷・甕・鉢の器種がある。

150は細頸壷である。底部は平底であり、体部が球形を呈する。頸部は外上方に直線的に伸び、口縁端部が丸く終わる。外面に櫛描文様を施し、文様帯間を研磨する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデの後、部分的なヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

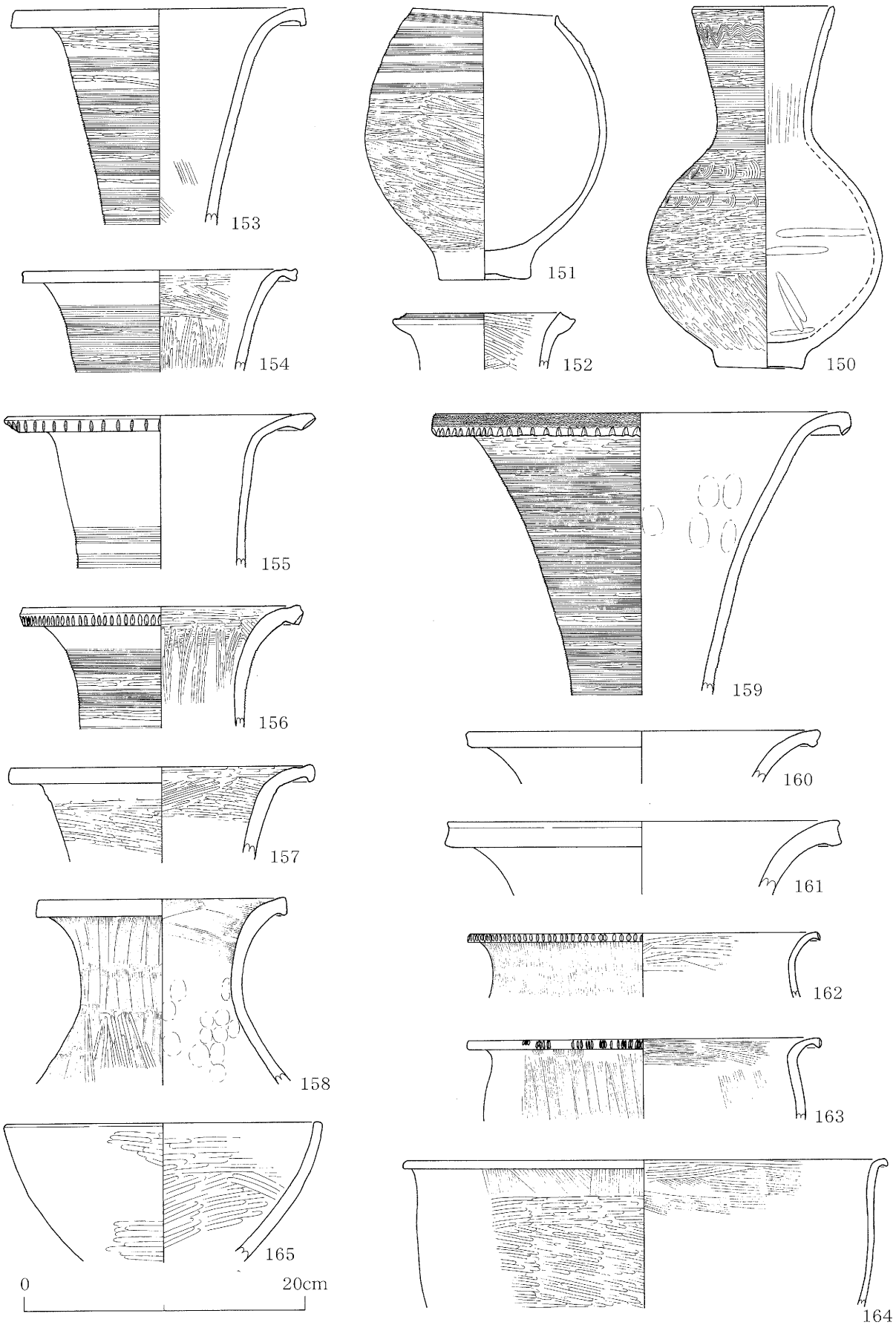
151は無頸壷である。底部はやや凹む平底である。体部は縦長の球形を呈する。口縁端部は丸く終わる。外面に5条の櫛描直線文を施す。外面の上半はナデ調整、下半はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

152～161は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部には櫛描文様や刻み目を施すものと無文のものがある。頸部も有文と無文のものがある。Ⅱ様式。158・160は非河内産、他は生駒西麓産。

162～164は甕である。162・163は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。164は体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや丸く終わる。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

165は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑97（第38図144～149）



第39図　土坑96出土土器実測図

甕・鉢・壷・細頸壷の器種がある。

144は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

145～147は鉢である。145は平底の底部より体部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部外面はナデの後、部分的なヘラミガキ調整する。内面はハケメの後ナデ調整する。146は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面をもつ。所謂、直口の鉢である。体部に小円孔を穿つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。147は体部が内傾する。口縁端部は段に持つ。口縁端部と体部に櫛描文様を施す。内外面はヘラミガキ調整する。145・147はⅢ～Ⅳ様式、146はⅡ様式。生駒西麓産。

148は壷である。張りのある体部より頸部が筒状を呈する。口縁端部は上方へ拡張し、幅広の面を持つ。口縁端部と体部に櫛描文様を施す。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

149は細頸壷である。筒状を呈する頸部より口縁部が内湾する。口縁端部は丸く終わる。外面に櫛描直線文を施す。調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

土坑99（第40図166～168）

甕・壷・高坏の器種がある。

166は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

167は壷である。口縁部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部はやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

168は高坏の脚部である。裾部がゆるく立ち上がる。裾端部は面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はヘラケズリ調整する。中期。生駒西麓産。

土坑100（第40図171）

171は甕である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。外面にヘラ描沈線文を施す。4条が残る。口縁端部には刻み目を施す。Ⅰ様式。生駒西麓産。

土坑103（第40図172～175）

壷・甕の器種がある。

172～174は壷である。細い頸部より口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。174は頸部に櫛描直線文を施す。Ⅱ様式。生駒西麓産。

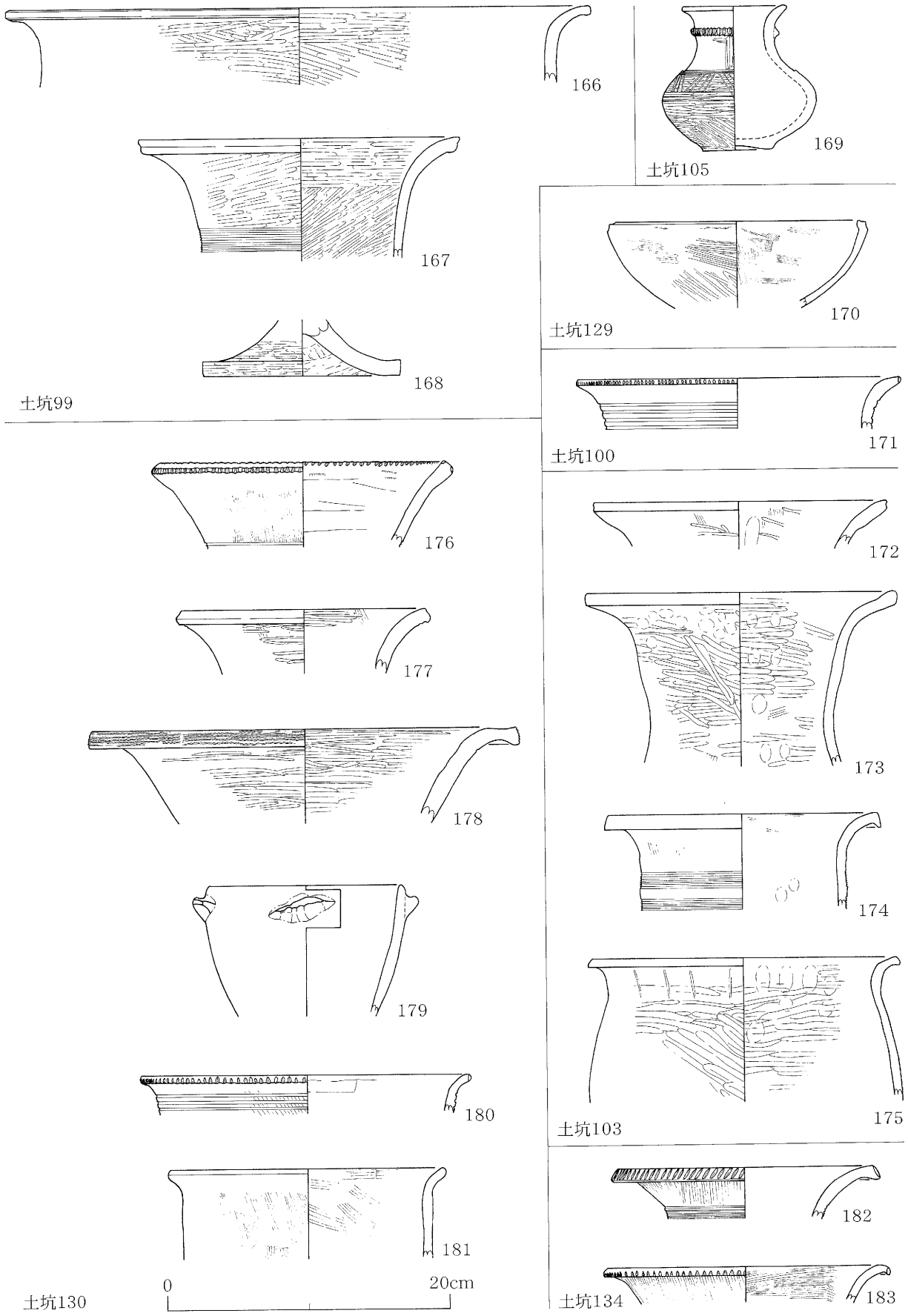
175は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑105（第40図169）

105は小型の壷である。体部の張りが大きい。所謂、扁球形を呈する。口縁部は大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。頸部に1条の貼付け凸帯を廻らした後、刻み目を施す。体部上半は3条1組のヘラ描沈線文を2帯施し、文様帯間に鋸歯文を描く。Ⅰ様式。生駒西麓産。

土坑129（第40図170）

170は高坏である。坏部はやや深い椀状を呈する。口縁端部が少し内傾する。外面はハケメの後、部分的なヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。



第40図　土坑99・100・103・105・129・130・134出土土器実測図

土坑130（第40図176～181）

壷・鉢・甕の器種がある。

176～178は壷である。176は口縁部が外上方に伸びる。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部の上下に刻み目、頸部に１条の沈線文を施す。内外面はハケメの後ナデ調整する。177・178は口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。178は口縁端部に櫛描波状文を施す。176はⅠ様式、177・178はⅡ様式。生駒西麓産。

179は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁部がやや内湾する。口縁端部は丸く終わる。口縁部直下に瘤状の握手を施す。調整法は不明。Ⅰ様式。生駒西麓産。

180・181は甕である。180は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に３条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。181は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメ調整する。180はⅠ様式、181はⅡ様式。生駒西麓産。

土坑134（第40図182・183）

壷と甕の器種がある。

182は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に刻み目、頸部に櫛描直線文を施す。頸部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

183は甕である。口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。Ⅱ様式。非河内産。

溝64（第41図187）

187は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝84（第41図184～186）

水差形土器・甕の器種がある。

184は水差形土器である。底部は平底であり、体部が算盤玉形を呈する。口縁部は上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。握手は欠損する。口縁部に３条の凹線文を施す。調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

185・186は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。185は口縁端部が面を持つ。調整法は不明。186は口縁端部を下方へ拡張する。体部内外面をハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝85（第41図197～200）

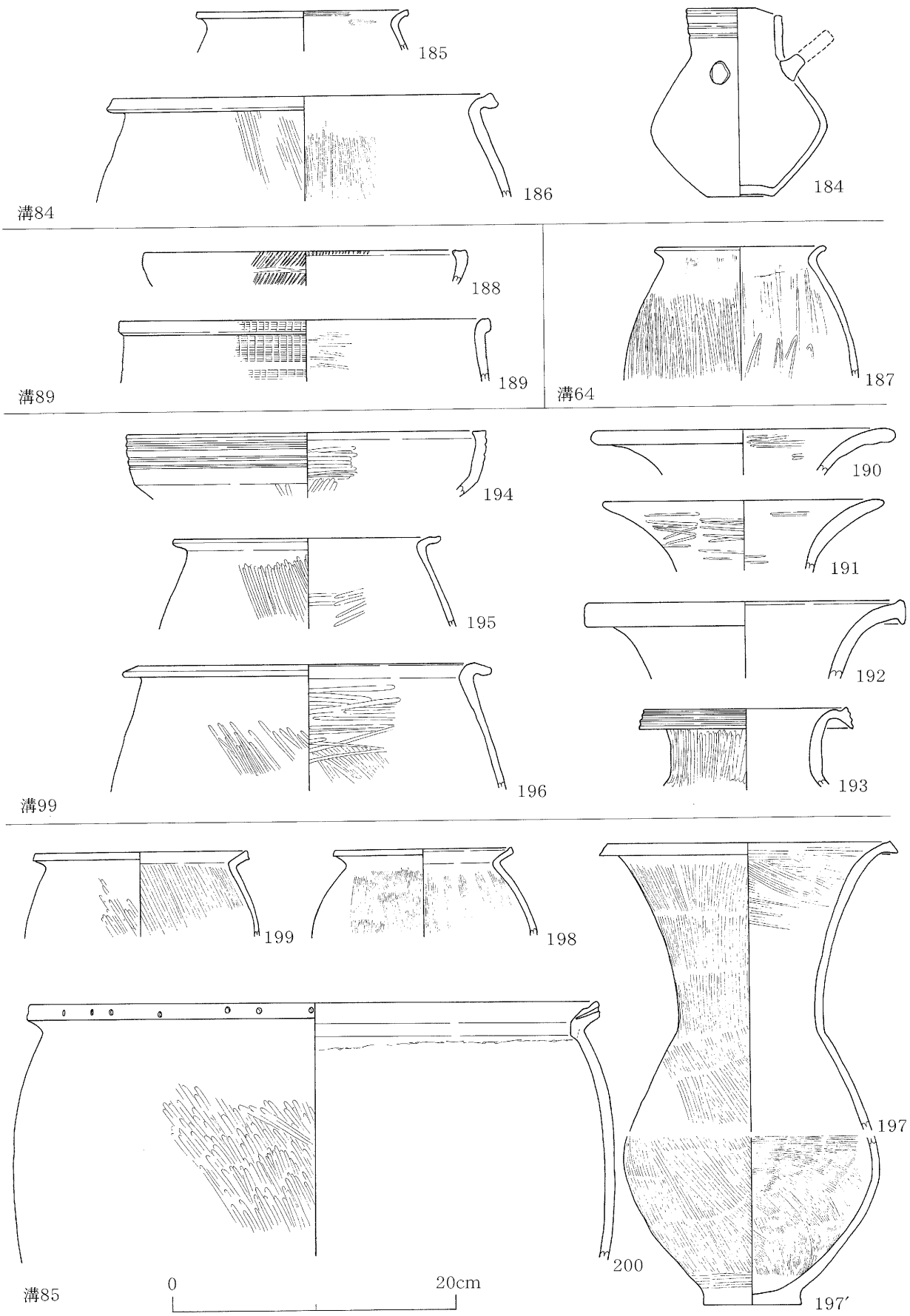
壷と甕の器種がある。

197は壷である。体部より上半と下半に分かれているが同一個体と考えられる。底部は平底であり、体部の張りは少ない。口頸部が大きく外上方に外反し、口縁端部を下方へ拡張する。頸部下半と体部上半の内面をナデ調整、他はハケメ調整する。無文の壷である。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

198～200は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。185は口縁端部が面を持つ。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整する。200は口縁端部に小円孔を穿つ。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝89（第41図188・189）

高坏と鉢の器種がある。



第41図　溝64・84・85・89・99出土土器実測図

188は高坏である。浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部外面に櫛描列点文を施す。文様帯間は研磨する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

189は鉢である。体部が上方へ伸び、口縁端部が段を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。体部内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝99（第41図190～196）

壷・高坏・甕の器種がある。

190～193は壷である。190・191は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。190は外面をナデ調整、内面をヘラミガキ調整する。191は内外面をヘラミガキ調整する。192は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。調整法は不明。193は頸部が筒状を呈し、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に３条の凹線文を施す。頸部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。190・191はⅡ様式、193・194はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

194は高坏である。浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。体部外面に４条の凹線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

195・196は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部が面を持つ。体部内外面をヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝100（第42図201・202）

201・202は壷である。201は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。頸部外面に櫛描直線文を施す。文様帯間は研磨する。内外面はヘラミガキ調整する。202は筒状の頸部より、口縁部が短く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に櫛描簾状文、頸部に直線文を施す。調整法は不明。201はⅡ様式、202はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝101（第42図212・213）

212・213は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部をやや上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目を施す。内外面はハケメの後ナデ調整する。213は口縁端部が面を持つ。内外面はハケメ調整する。212は中期、213はⅡ様式。生駒西麓産。

溝102（第42図203・204）

壷と甕の器種がある。

203は壷である。口縁部が短く外反し、口縁端部が丸く終わる。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅰ様式。非河内産。

204は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

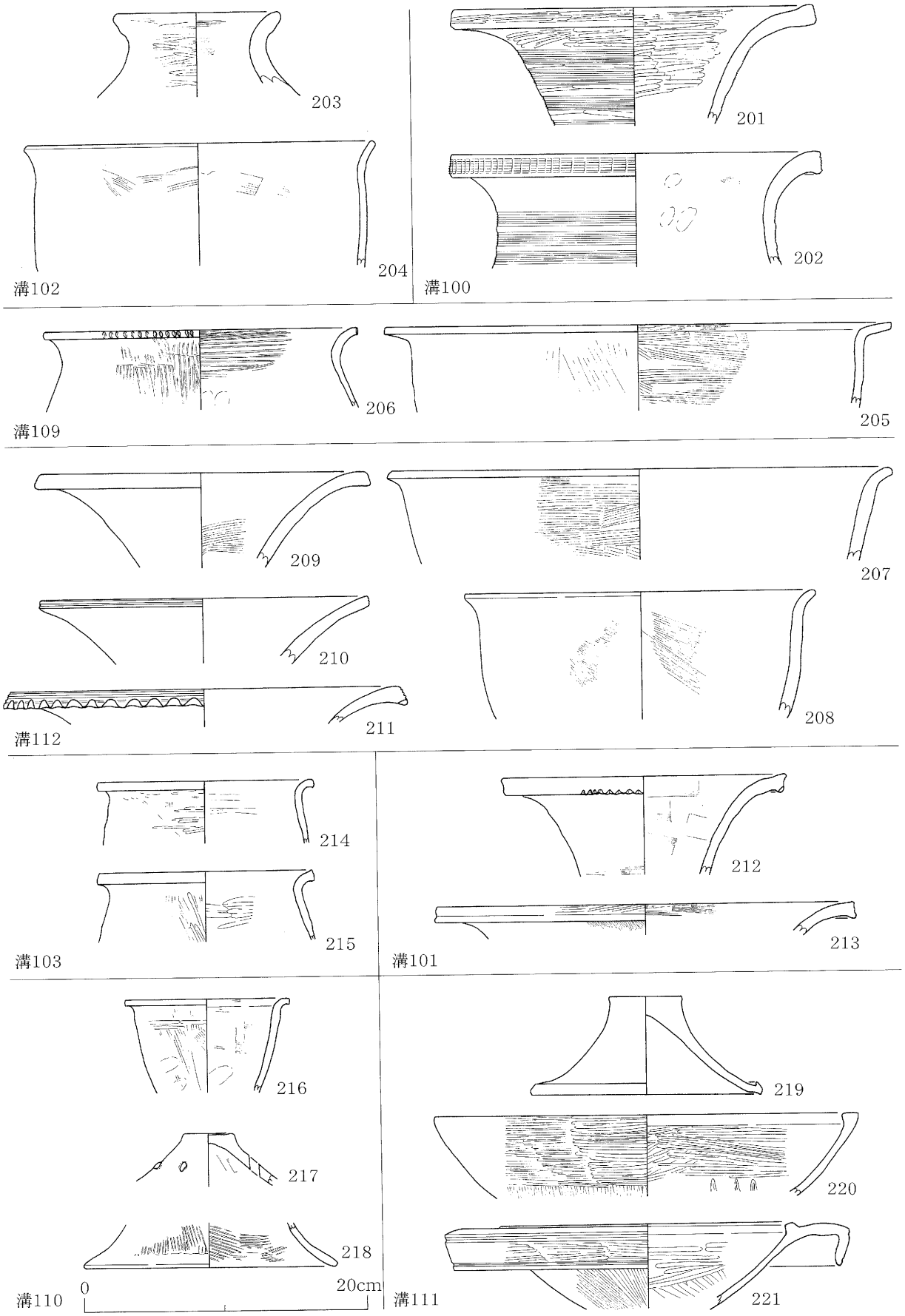
溝103（第42図214・215）

214・215は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。214は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。215は体部内外面をヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝109（第42図205・206）

205・206は甕である。205は体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整する。206は体部がやや張り、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。Ⅱ様式。205は生駒西麓産、206は非河内産。

溝110（第42図216～218）



第42図　溝100～103・109～112出土土器実測図

甕・壷蓋・甕蓋の器種がある。

216は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

217は壷蓋のつまみ部である。小円孔を穿つ。調整法は不明。中期。生駒西麓産。

218は甕蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

溝111（第42図219～221）

甕蓋と高坏の器種がある。

219は甕蓋である。体部は急に立ち上がり、口縁端部がやや面を持つ。内外面はナデ調整する。つまみ部の上面に木葉痕が残る。中期。生駒西麓産。

220・221は高坏である。220は浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。221は口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。内面に１条の凸帯を廻らす。断面形がコの字形を呈する。口縁端部に２条の凹線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝112（第42図209～211）

鉢・甕・壷の器種がある。

207は鉢である。体部の張りは少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

208は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

209～211は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。210は口縁端部に櫛描直線文、211は直線文を施す。211はさらに指による押圧を加え、口縁端部が波状を呈する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

溝113（第43図241）

241は壷である。口頸部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部はやや丸く終わる。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

溝117（第43図242）

242は甕である。体部がやや張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面の調整法は不明。内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝120（第43図238～240）

甕と鉢の器種がある。

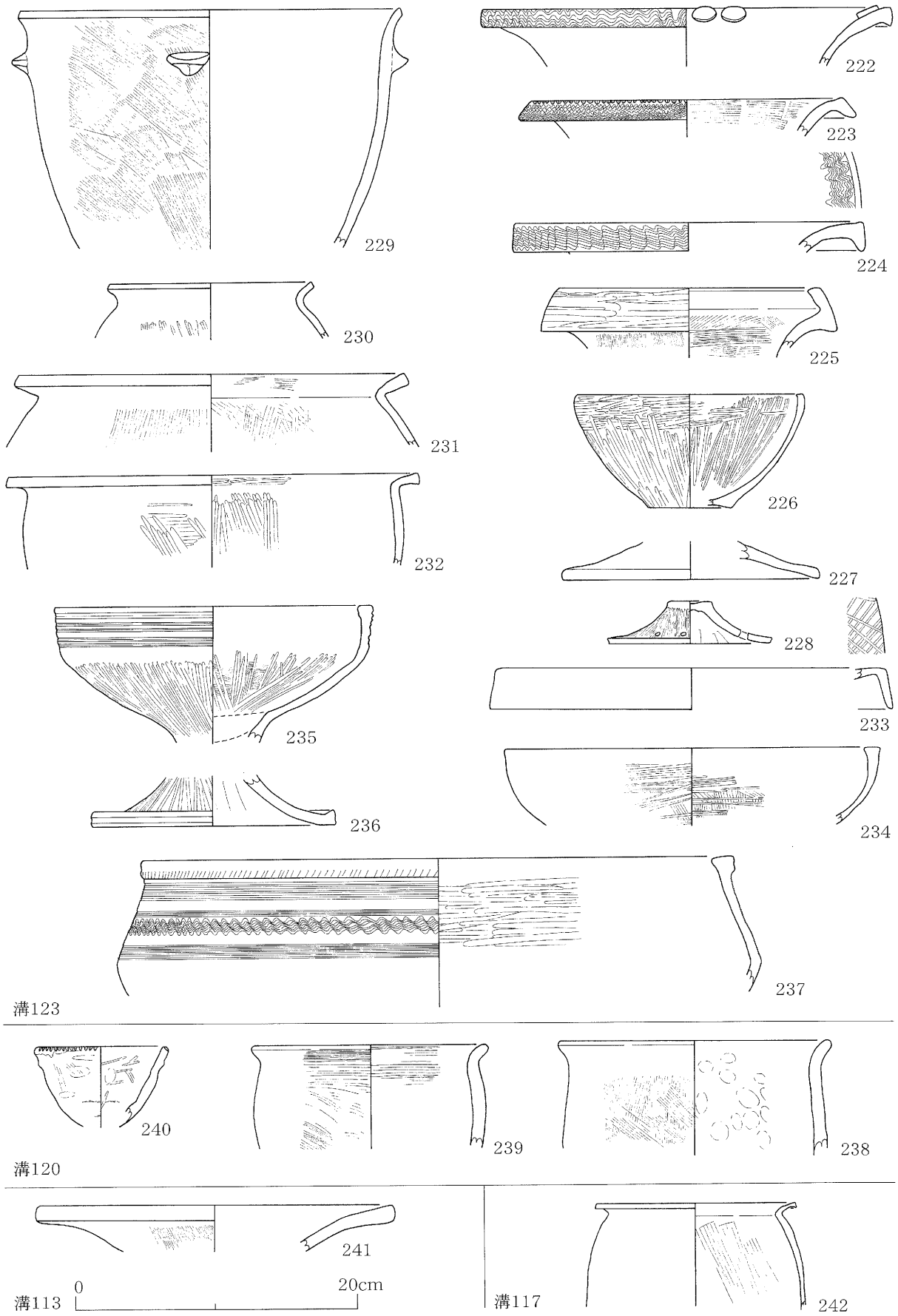
238・239は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

240は鉢である。ミニチュアである。体部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部外面はハケメの後ナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。作りは粗雑である。Ⅱ様式。生駒西麓産。

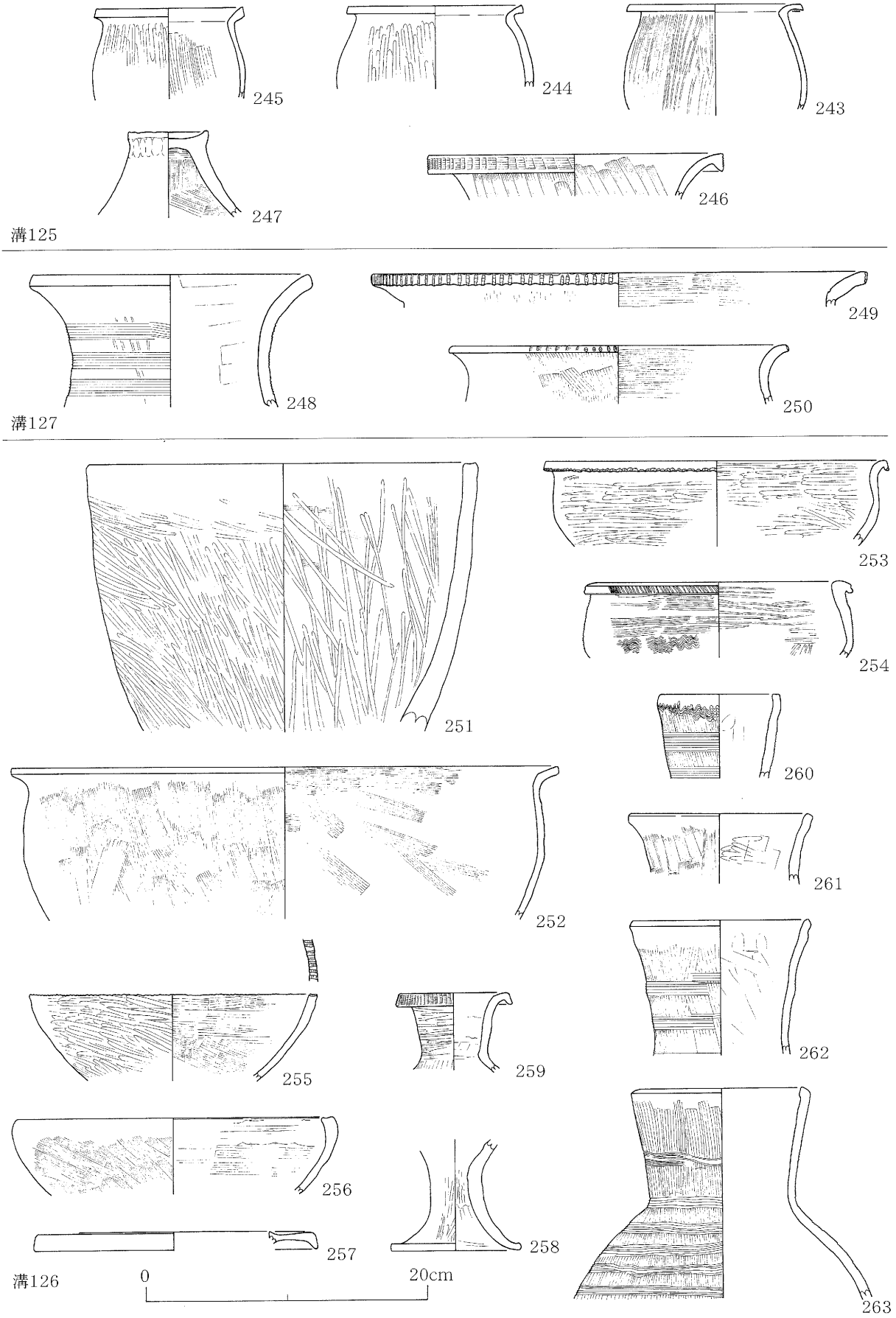
溝123（第43図222～237）

壷・鉢・甕蓋・壷蓋・甕・高坏の器種がある。

222～225は壷である。222～224は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描波状文を施す。222は内面に円形浮文を貼り付ける。223は波状文を施す。225は口端縁部を上方へ拡張するがやや内傾



第43図　溝113・117・120・123出土土器実測図



第44図　溝125～127出土土器実測図

する。幅広の面を持つ。口縁部外面はヘラミガキ調整する。頸部内外面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。223は非河内産、他は生駒西麓産。

226・232・237は鉢である。226は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部がやや丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部内外面はヘラミガキ調整する。232は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整する。内面に赤色顔料が残る。237は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文と波状文を施す。体部外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。226は中期、232はⅡ様式、237はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

227は甕蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

228は壷蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は面を持つ。つまみ部はやや凹む。２ヶ１対の小円孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

229～231は甕である。229は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部上半に瘤状の握手を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。231・232は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は面を持つ。230は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。231は体部内外面をハケメ調整する。229はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

233～236は高坏である。233は口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。水平部分に斜格子の暗文を施す。234・235は浅い椀状を呈する杯部である。口縁端部は面を持つ。234は内外面をハケメの後ヘラミガキ調整する。235は５条の凹線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。236は裾部がゆるく立ち上がる。裾端部は上方へ拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝125（第44図243～247）

甕・壷・甕蓋の器種がある。

243～245は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が外折する。口縁端部は面を持つ。243は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。244は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。245は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

246は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描簾状文を施す。内外面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

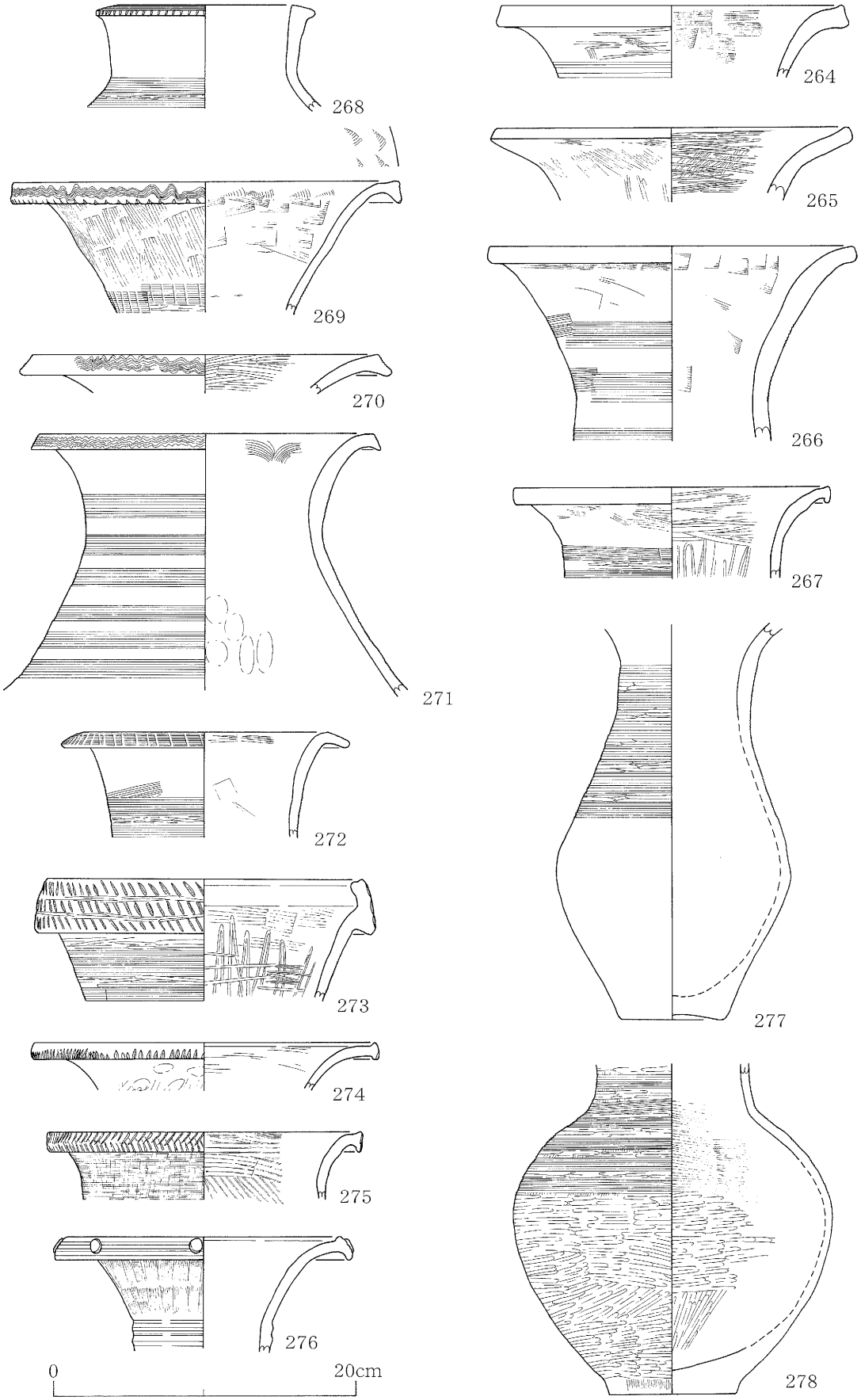
247は甕蓋のつまみ部である。上面は凹む。外面はナデ調整、内面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

溝126（第44～46図251～293）

鉢・高坏・壷・細頸壷・甕・甕蓋の器種がある。

251～254は鉢である。251は体部が外上方へ伸びる。口縁端部はやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。252は体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。253・254は体部の張りは少なく、口縁部が強く下方へ折れ曲がる。体部内外面はヘラミガキ調整する。253は口縁端部に刻み目を施す。254は口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文と波状文を施す。251は中期、252はⅡ様式、253・254はⅢ～Ⅳ様式。254は非河内産、他は生駒西麓産。

255～258は高坏である。255はやや深い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持ち、刻み目を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。256はやや深い椀状を呈する坏部である。口



第45図　溝126出土土器実測図

縁端部は面を持つ。内外面はハケメ調整する。257は口縁部が水平方向に伸びた後、短く垂下する。内面に１条の凸帯を廻らす。断面形が三角形を呈する。258は脚部である。柱状部は中空であり、裾部の立ち上がりは急である。裾端部はやや面を持つ。外面はハケメの後ナデ調整、内面はナデ調整する。柱状部内面にしぼり痕が残る。255はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

259・264～278は壷である。259は小形である。頸部が外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と体部に櫛描文を施す。調整法は不明。264～267は口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施すものが多い。268は細頸壷にちかい壷である。口縁端部は上方に面を持つ。口縁端部に櫛描直線文と刻み目、頸部に直線文を施す。文様帯間は研磨する。内面はナデ調整する。269～272は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部には櫛描文様を施す。273は口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部を上方へ拡張するがやや内傾する。幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描列点文、頸部に直線文を施す。文様帯間は研磨する。内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。274～276は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。274は口縁端部に刻み目、275は口縁端部に櫛描列点文と頸部に直線文を施す。276は口縁端部に凹線文と円形浮文、頸部に凹線文を施す。277と278は底部から体部の破片である。体部に櫛描直線文を施す。264～267・277・278はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。264・270・276は非河内産、他は生駒西麓産。

260～263は細頸壷である。口頸部がやや外上方に伸びる。口縁端部はやや面を持つものと丸く終わるものがある。頸部には櫛描直線文や波状文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

279～292は甕である。279～281は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整が多い。282は体部がやや張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面をハケメの後ナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。283・284・286～292は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整が多い。285は体部の最大径が下半部にある。体部の張りは少ない。口縁部はゆるく外反する。口縁端部は面を持ち、刻み目を施す。体部上半部にＪ字形の櫛描文様を施す。体部外面はヘラケズリの後ハケメ調整、内面はナデ調整する。279～281はⅡ様式、285は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。282・285・286は非河内産、他は生駒西麓産。

293は甕蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

溝127（第44図248～250）

壷と甕の器種がある。

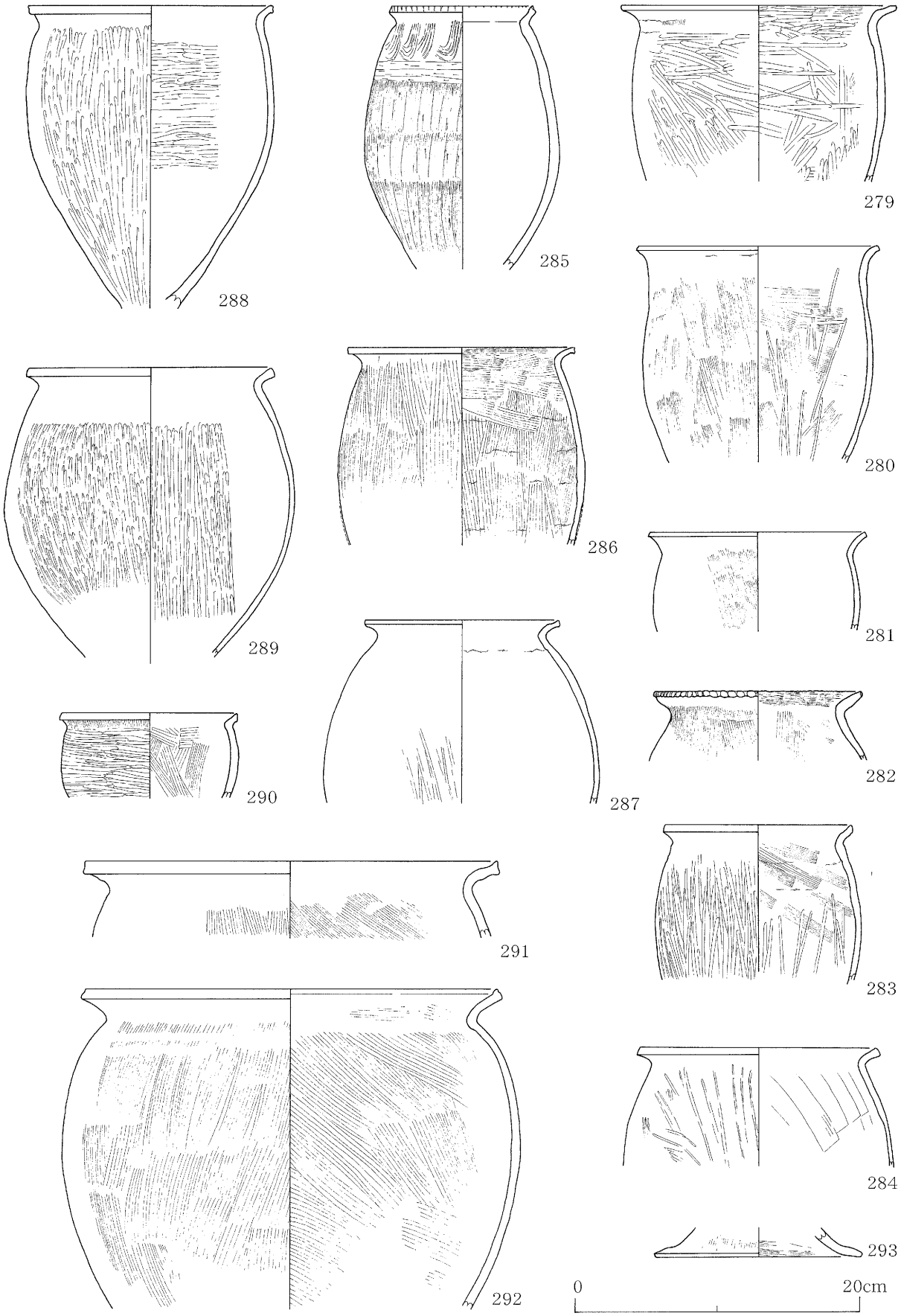
248は壷である。筒状を呈する頸部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

249・250は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。Ⅱ様式。生駒西麓産。

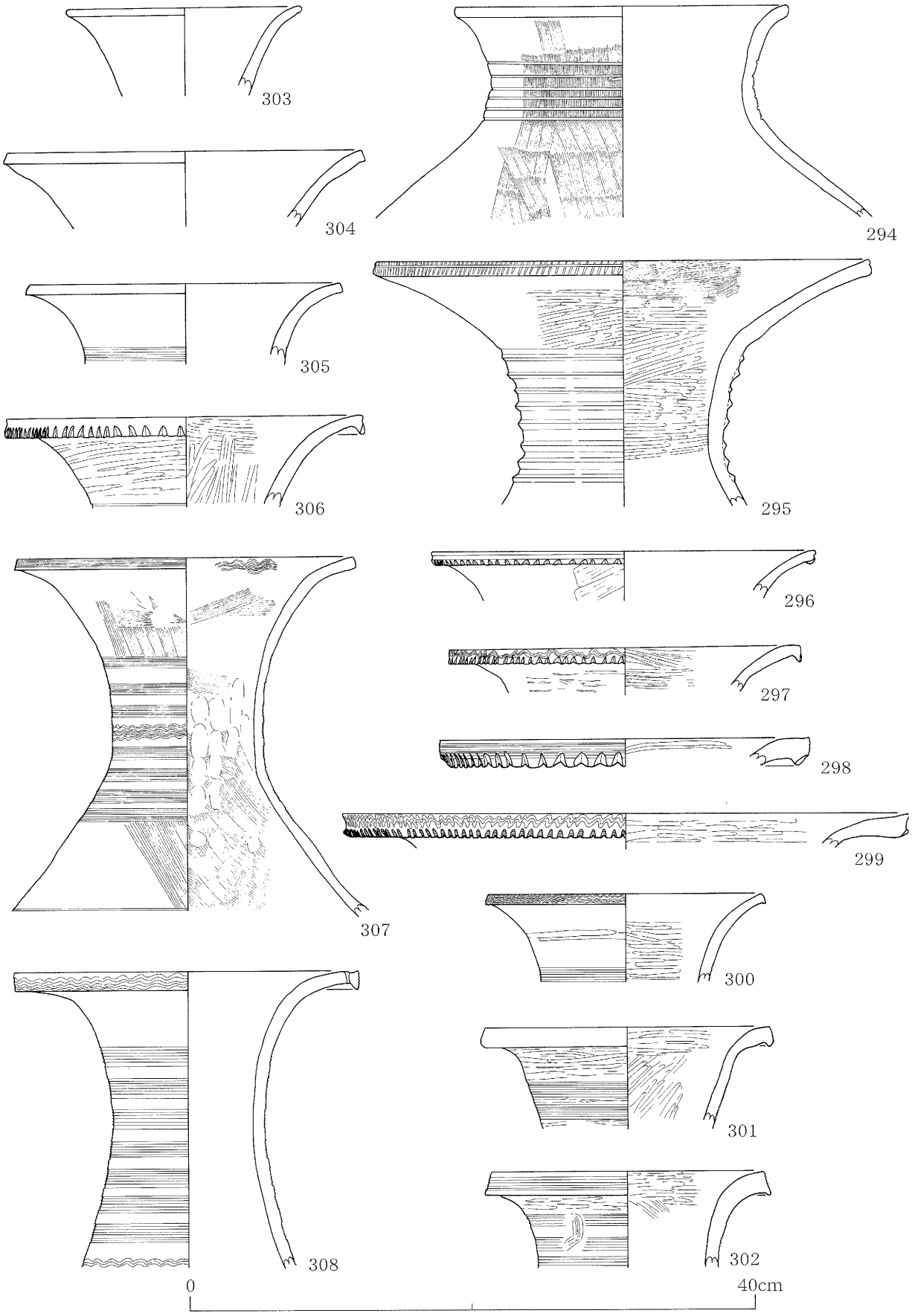
溝128（第47～51図294～370）

壷・無頸壷・細頸壷・水差形土器・甕蓋・高坏・鉢・甕の器種がある。

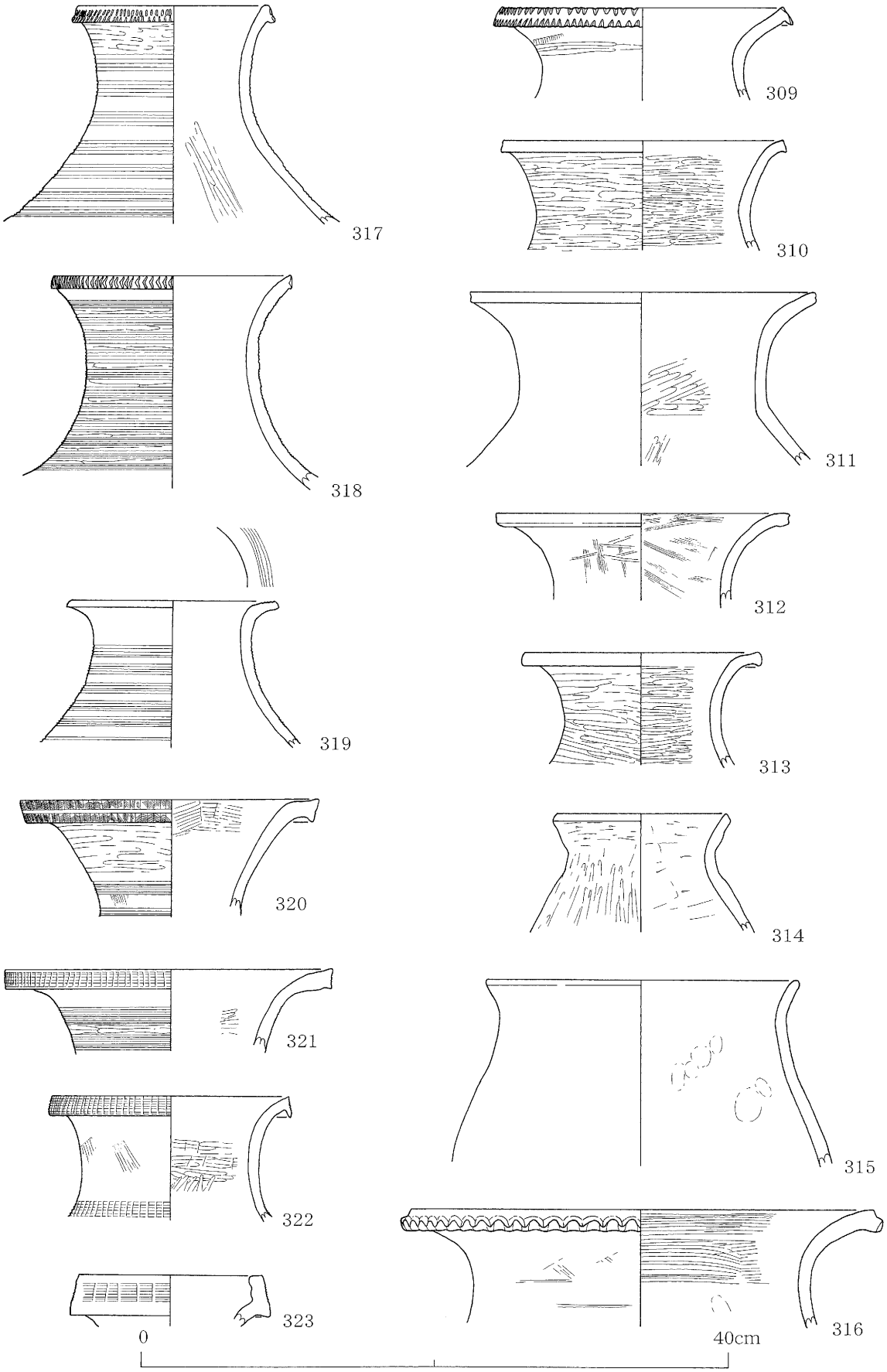
294～324は壷である。294は体部が大きく張り、頸部が短い。口縁部はゆるく外反し、口縁端部は丸く終わる。頸部に６条のヘラ描沈線文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。295は頸



第46図　溝126出土土器実測図



第47図　溝128出土土器実測図



第48図　溝128出土土器実測図

部が細く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文と刻み目、頸部に８条の凸帯文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面は口縁部をハケメ調整、他をヘラミガキ調整する。296は口縁端部に１条のヘラ描沈線と刻み目を施す。295～308は頸部が長く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面をもつものが多いが、丸く終わるものもある。口縁端部と頸部に櫛描文様や刻み目を施すものが多い。307は内面に部分的な波状文を施す。内外面はヘラミガキ調整が多い。308は口縁部に小円孔を穿つ。309～319は口頸部が短く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。無文のものが多いが、口縁端部に刻み目を施すものや頸部に櫛描文様を施すものもある。316は指による押圧を加え、口縁端部が波状を呈する。319は内面に櫛描直線文を施す。内外面はヘラミガキ調整が多い。320～322は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。内外面はヘラミガキ調整するものが多い。323は口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部を上方へ拡張するがやや内傾する。幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描簾状文を施す。324は体部から頸部である。櫛描直線文を施す。294～296はⅠ様式、297～319はⅡ様式、320～323はⅢ～Ⅳ様式、324は中期。297・312・316・320・324は非河内産、他は生駒西麓産。

325～327は無頸壷である。325・326は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面に櫛描文様を施す。325は体部外面をハケメの後ナデ調整、内面をヘラミガキ調整する。326は体部内外面をナデ調整する。327は体部の張りは大きく、算盤玉形を呈する。口縁端部は丸く終わる。口縁部に小円孔を穿つ。調整法は不明。325・326はⅡ様式、327は中期。326は生駒西麓産、他は非河内産。

328～330は細頸壷である。口頸部がやや外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。頸部には櫛描文様を施す。内外面はナデ調整するものが多い。Ⅱ様式。生駒西麓産。

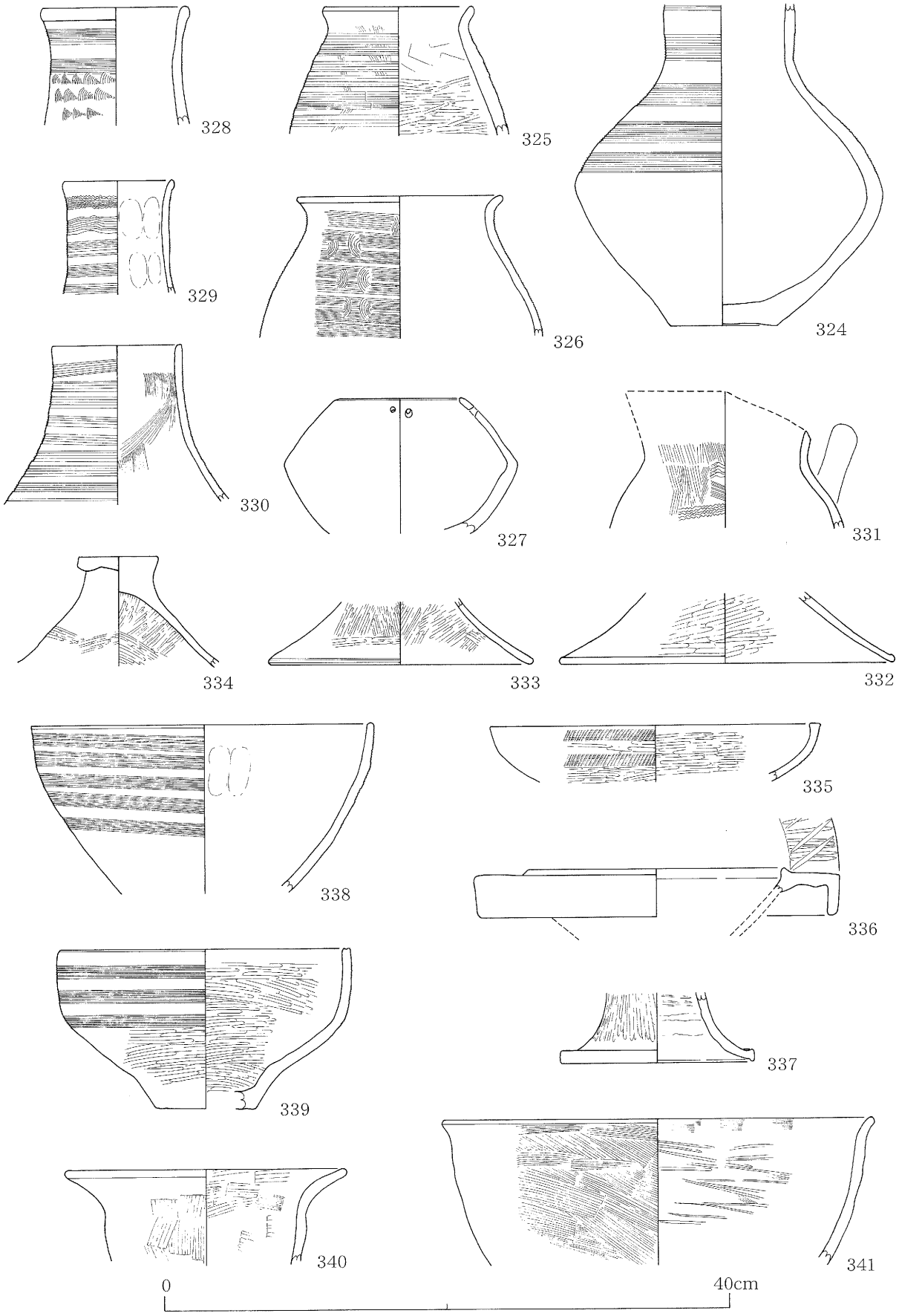
331は水差形土器である。握手部と口縁部の一部である。体部外面に櫛描波状文と直線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

332～334は甕蓋である。332・333は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。334はつまみ部である。内外面はヘラミガキ調整する。中期。生駒西麓産。

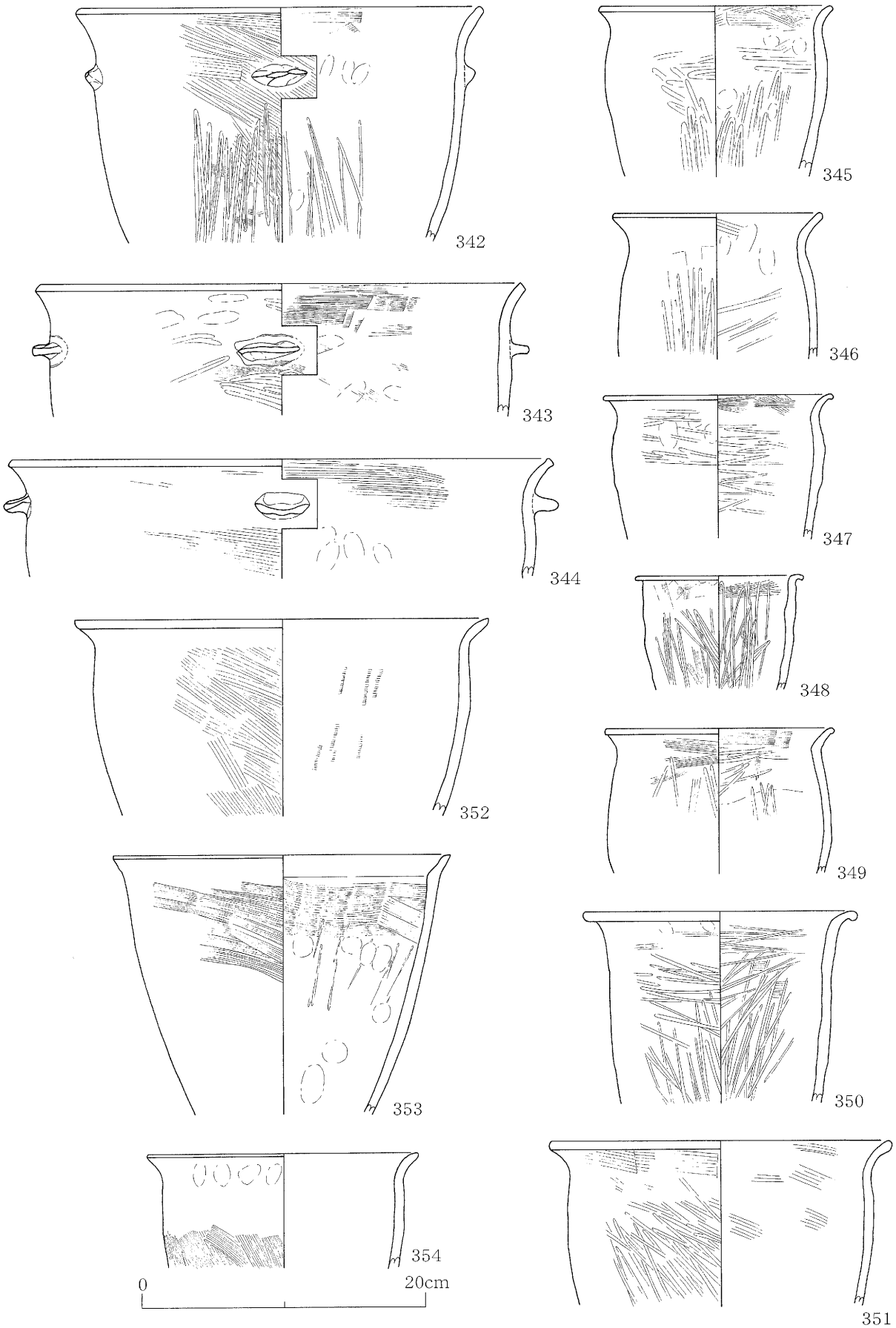
335～337は高坏である。335は浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。外面に櫛描簾状文を２帯施す。文様帯間は研磨する。内外面はヘラミガキ調整する。336は口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。内面に１条の凸帯を廻らす。断面形が三角形を呈する。水平部分に斜格子の暗文を施す。337は裾部の立ち上がりが急であり、裾端部が面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。内面にリング状の煤が付着しており、甕蓋に転用したと考えられる。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

338～341は鉢である。338・339は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部外面に櫛描直線文を施す。338は内外面をナデ調整、339は内外面をヘラミガキ調整する。340・341は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。340は内外面をハケメ調整する。341は外面をハケメ調整、内面をハケメの後ヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。338・341は生駒西麓産、他は非河内産。

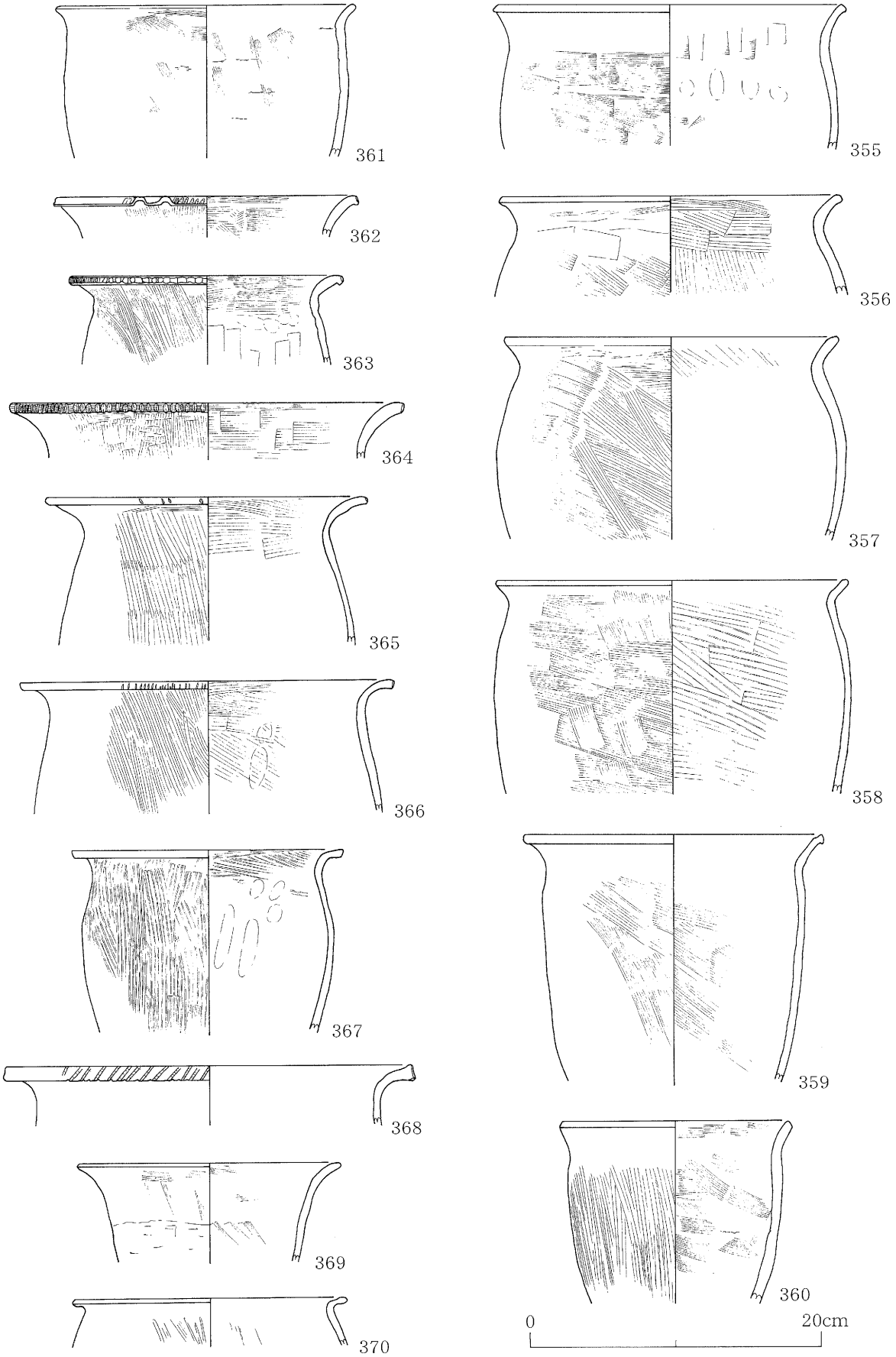
342～370は甕である。342～347は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁部直下に瘤状を呈する握手を施す。体部内外面はハケメ調整かヘラミガキ調整するものが多い。345～361は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反するものが多い。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。体部内外面はハケメ調整かヘラミガキ調整するものが多い。362は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目と山形の押圧を施す。体部外



第49図　溝128出土土器実測図



第50図　溝128出土土器実測図



第51図　溝128出土土器実測図

面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。363～368は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。368は調整法不明。369は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラケズリ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。370は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。342～369はⅡ様式、370はⅢ様式。346・359・362～365・368は非河内産、他は生駒西麓産。

溝129（第52図371～378）

壷・無頸壷・鉢・甕の器種がある。土坑14・76の土器を含む。

371・372は壷である。371は口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部に櫛描簾状文と刻み目を施す。調整法は不明。372は小形の壷である。頸部が外上方に伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部に櫛描波状文と刻み目、頸部から体部に直線文、簾状文、扇形文を施す。外面はハケメの後ナデ調整、内面は部分的なヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

373は無頸壷である。体部が大きく内傾する。口縁端部が丸く終わる。体部外面に櫛描直線文とその間に扇形文を施し、擬似流水文とする。内面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

374は鉢である。体部が外上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

375～378は甕である。375は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。376は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。377は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部に櫛描波状文を施す。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。378は体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。375・376はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。375・378は生駒西麓産、他は非河内産。

溝131（第52図379～381）

甕と鉢の器種がある。

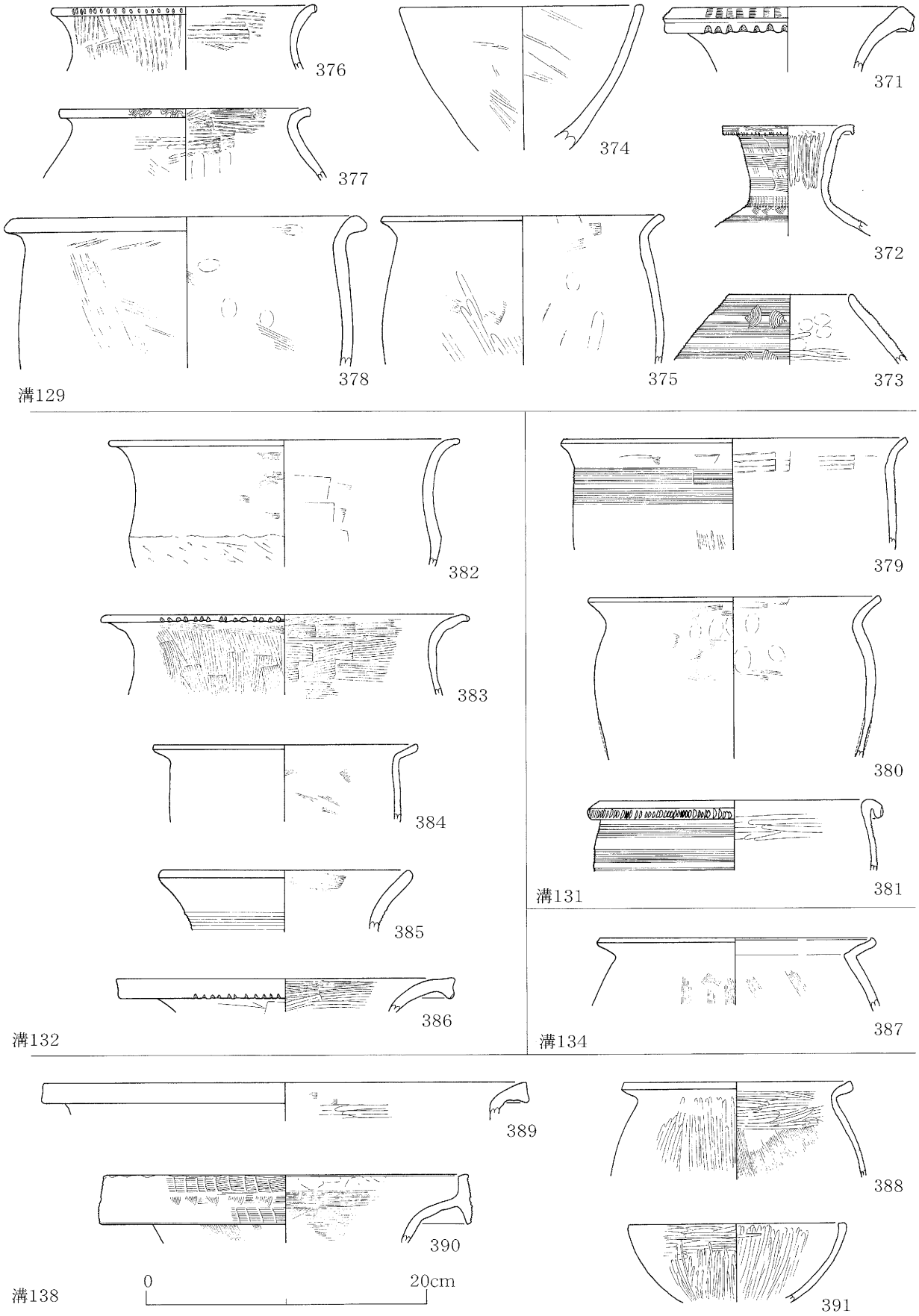
379・380は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。379は体部外面に２帯の櫛描直線文を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。380は体部内外面をハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

381は鉢である。体部がやや内傾する。口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文を施す。内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝132（第52図382～386）

甕と壷の器種がある。

382～384は甕である。382は体部の張りが少なく、口縁部が長く外反する。口縁部と体部の境に稜が残る。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラケズリ調整、内面はナデ調整する。383は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。384は体部の張りは少なく、口



第52図　溝129・131・132・134・138出土土器実測図

縁部がやや強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。384は生駒西麓産、他は非河内産。

385・386は壷である。385は口縁部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。頸部に櫛描直線文を施す。386は口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。Ⅱ様式。385は生駒西麓産、386は非河内産。

溝134（第52図387）

387は甕である。体部の張りが大きく、口縁部がくの字形に外折する。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝135（第53図392～405）

壷・高坏・甕・鉢の器種がある。

392～397は壷である。392は口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部を上方へ拡張するがやや内傾する。幅広の面を持つ。口縁端部に縦方向の櫛描直線文と扇形文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。393・394は口縁端部を下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。393は口縁端部に3条の凹線文と刻み目を施し、円形浮文を貼り付ける。内面は櫛描扇形文を施す。394は口縁端部に5条の凹線文を施し、円形浮文を貼り付ける。体部外面に櫛描直線文、口縁部内面に列点文を施す。395・396は口縁部が大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。395は口縁端部に櫛描波状文、396は頸部に直線文を施す。397は口頸部が短く外反する。口縁端部は面を持つ。無文の壷である。内外面はヘラミガキ調整する。392～396はⅢ～Ⅳ様式、397は中期。393・394は非河内産、他は生駒西麓産。

398は高坏である。裾部はゆるく立ち上がり、裾端部が面を持つ。柱状部は長く、中空である。坏部は外上方に伸びる。口縁部は水平方向に伸びた後、短く垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形が三角形を呈する。外面はヘラミガキ調整、内面は調整法不明。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

399～403は甕である。399は体部の張りは少なく、口縁部が強く外折する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。400は体部の張りが大きく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。401は体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。402は体部の張りは少なく、口縁部が下方へ強く折れ曲がる。体部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。403は底部が平底を呈する。体部の張りは少なく、口縁部が長く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はタタキ調整、内面はハケメ調整する。口縁部内面はハケメ調整する。399・400・402はⅢ～Ⅳ様式、401はⅡ様式、403はⅤ様式。生駒西麓産。

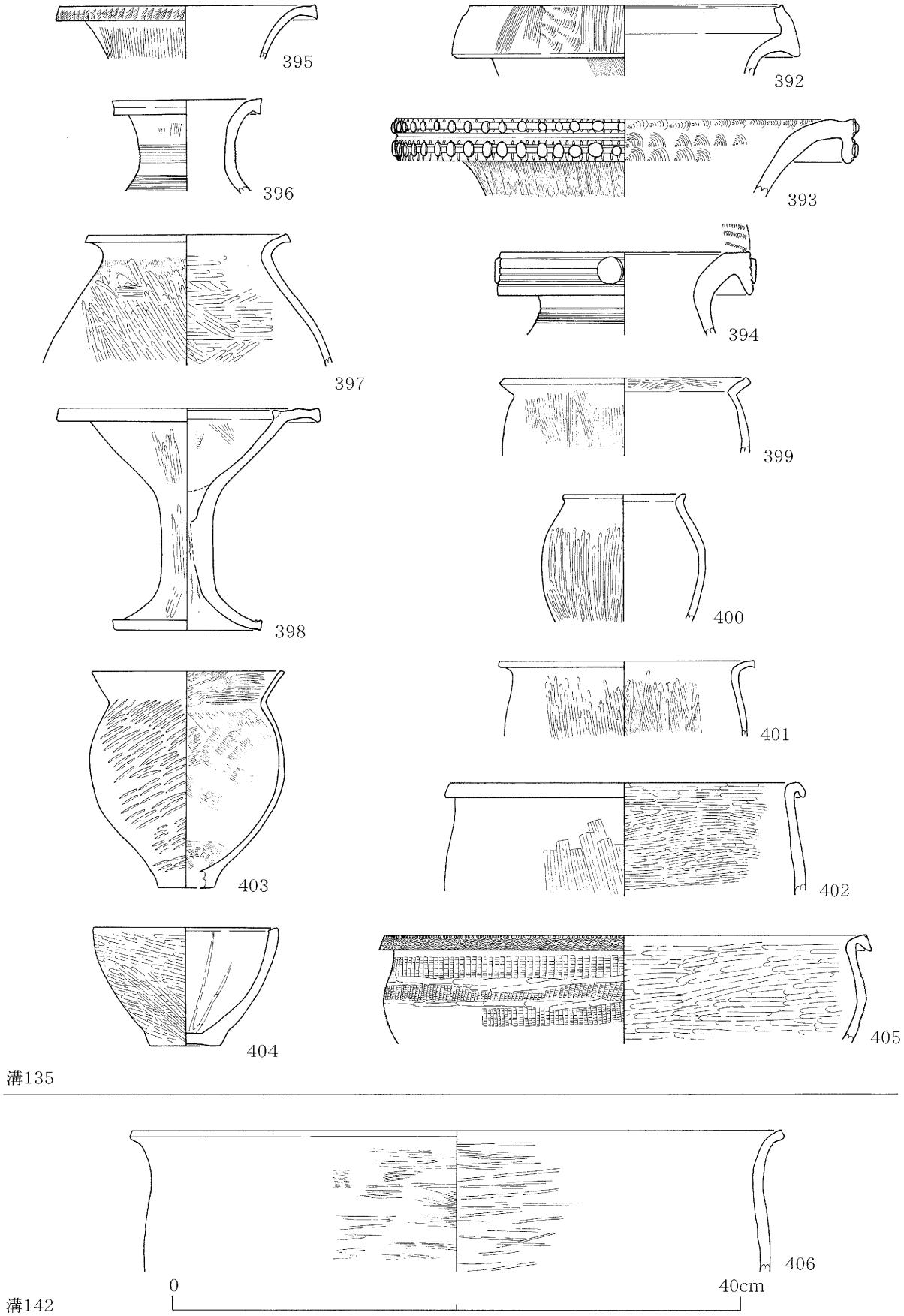
404・405は鉢である。404は体部が外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデの後部分的なヘラミガキ調整する。405は体部が内傾する。口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部に櫛描波状文と刻み目、体部に簾状文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝138（第52図388～391）

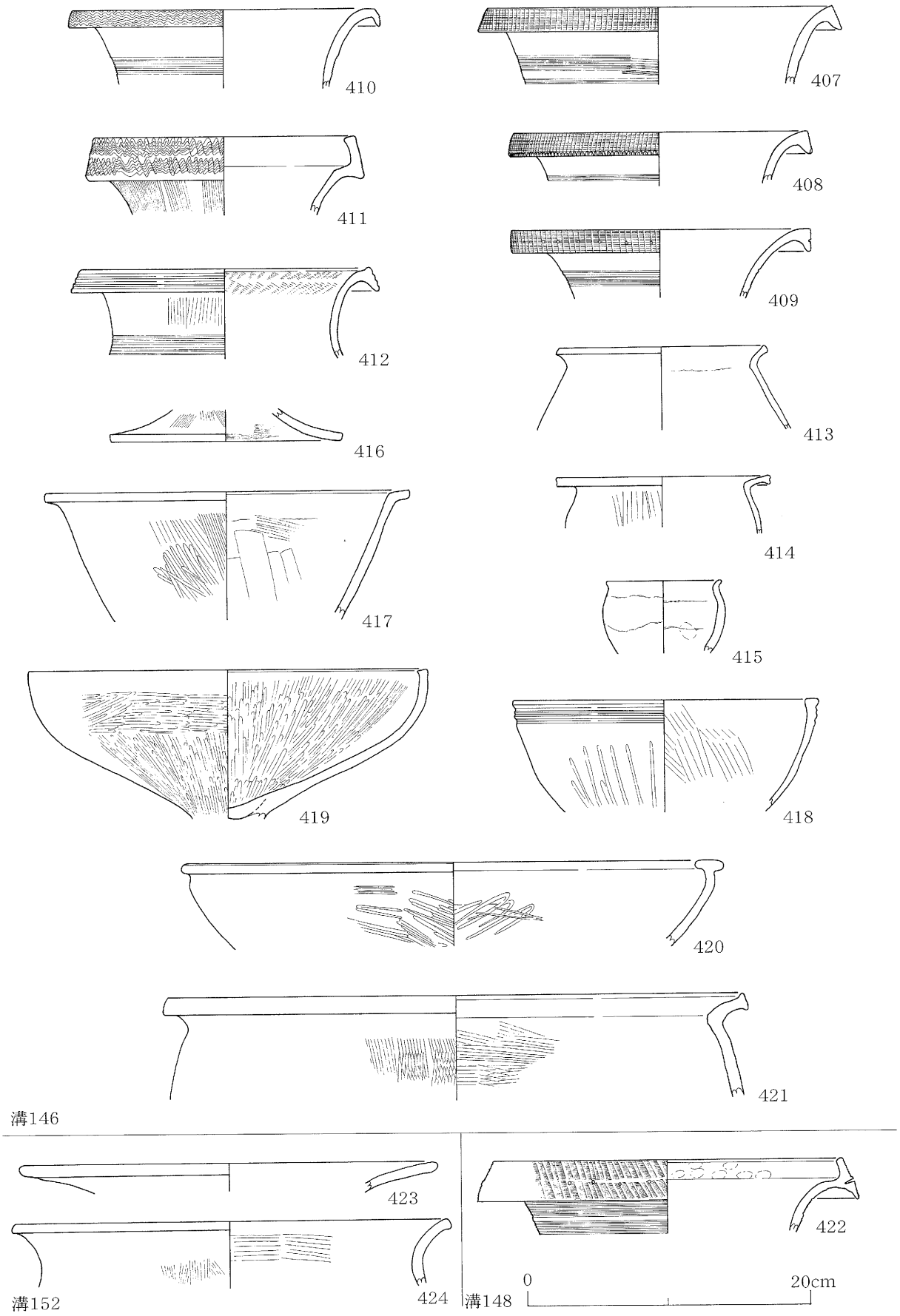
甕・壷・鉢の器種がある。

388・389は甕である。体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外面はヘラミガキ調整、内面は上半をヘラミガキ調整、下半をハケメ調整する。389は口縁端部を下方へ拡張する。内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

390は壷である。頸部が外上方に伸び、口縁端部を上下に拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。



第53図　溝135・142出土土器実測図



第54図　溝146・148・152出土土器実測図

口縁端部に櫛描簾状文を２帯とその間に扇形文を施す。内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

391は鉢である。体部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部はやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝142（第53図406）

406は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

溝146（第54図407～421）

壷・甕・甕蓋・鉢・高坏の器種がある。

407～412は壷である。407～410は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。408は口縁端部に刻み目、409は円形刺突文を加える。411は頸部が外上方に伸び、口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描波状文を２帯施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。412は筒状の頸部より口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に３条の凹線文、頸部に櫛描直線文を施す。口縁部内面に扇形文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。412は非河内産、他は生駒西麓産。

413～415・421は甕である。413は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。414・421は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。414は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。421は体部内外面をハケメ調整する。415は体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。415は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

416は甕蓋である。体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が面を持つ。内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

417・418は鉢である。417は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。418は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外面に３条の凹線文を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。417はⅡ様式。生駒西麓産。418はⅢ～Ⅳ様式。非河内産。

419・420は高坏である。浅い皿状を呈する坏部である。419は口縁端部が面を持つ。420は口縁端部を左右に拡張し、幅広の面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。419は生駒西麓産、420は非河内産。

溝148（第54図422）

422は壷である。口頸部が大きく外反し、口縁端部を上下に拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部には櫛描簾状文を２帯施した後、円形刺突文を廻らす。頸部には櫛描直線文が２帯残る。調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝152（第54図423・424）

壷と甕の器種がある。

423は壷である。口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。Ⅰ様式。生駒西麓産。

424は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑墓Ⅰ（第55図425～428）

壷・甕・鉢・無頸壷の器種がある。

425は壷である。口縁端部が面を持つ。外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

426は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部に２条のヘラ描沈線文が残る。体部内外面はナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

427は鉢である。体部は内傾する。口縁端部が段を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。文様帯間は研磨する。内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

428は無頸壷である。体部が大きく内傾する。口縁端部は面を持つ。体部外面に櫛描直線文とその上に扇形文を施す。文様帯間は研磨する。内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑墓Ⅱ（第55図429）

429は壷である。口頸部が大きく外上方に伸びる。口縁端部はやや面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

壷棺Ⅰ〔土坑95〕（第55図430・431）

鉢と壷の器種がある。

430は鉢である。431とセットである。底部は打ち欠く。張りの少ない体部より口縁端部が大きく外反する。口縁部に２ヶ１対の逆U字形を呈する握手が付く。体部外面はタタキの後、部分的なハケメ調整する。内面はナデ調整する。Ⅳ～Ⅴ様式。生駒西麓産。

431は壷である。430とセットである。頸部より上を打ち欠く。底部はやや凹底である。体部は大きく張り、扁球形を呈する。体部上半はヘラミガキ調整、下半はハケメの後ナデ調整する。内面は上半をハケメ調整、下半をナデ調整する。Ⅳ～Ⅴ様式。生駒西麓産。

壷棺Ⅱ〔土坑128〕（第55図432）

432は壷である。体部の張りが大きい。所謂、扁球形を呈する。口縁部は強く外反し、口縁端部が丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。頸部に３条、体部上半に４条のヘラ描沈線文を施す。Ⅰ様式。生駒西麓産。

ピット30（第56図433）

433は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

ピット57（第56図434）

434は壷である。口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部がやや丸く終わる。内外面の調整法は不明。Ⅱ様式。生駒西麓産。

ピット104（第56図435）

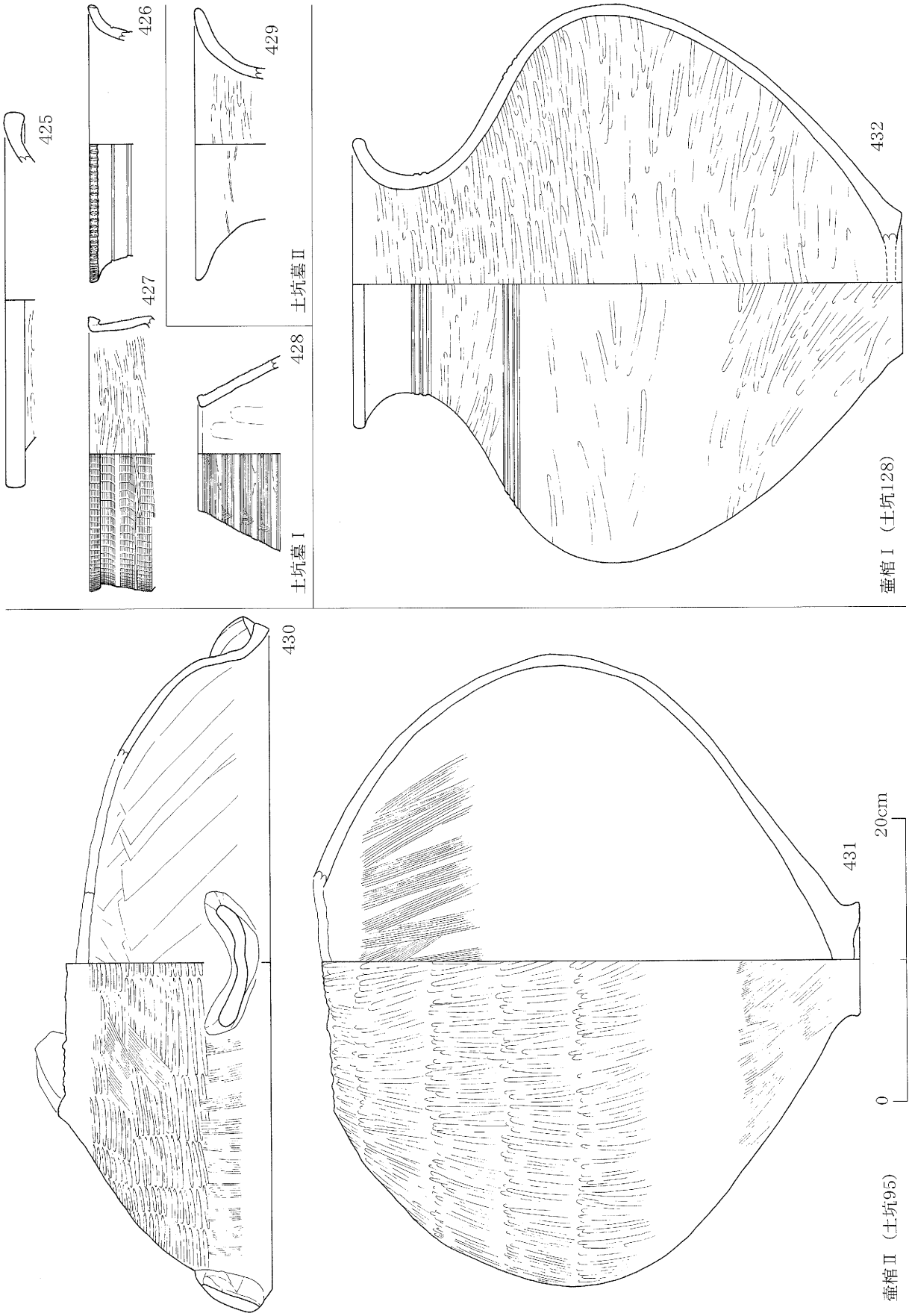
435は壷である。口頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描列点文、口縁部内面に刻み目と円形浮文を施す。頸部には櫛描簾状文を施すが、原体幅は不明である。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット266（第56図436）

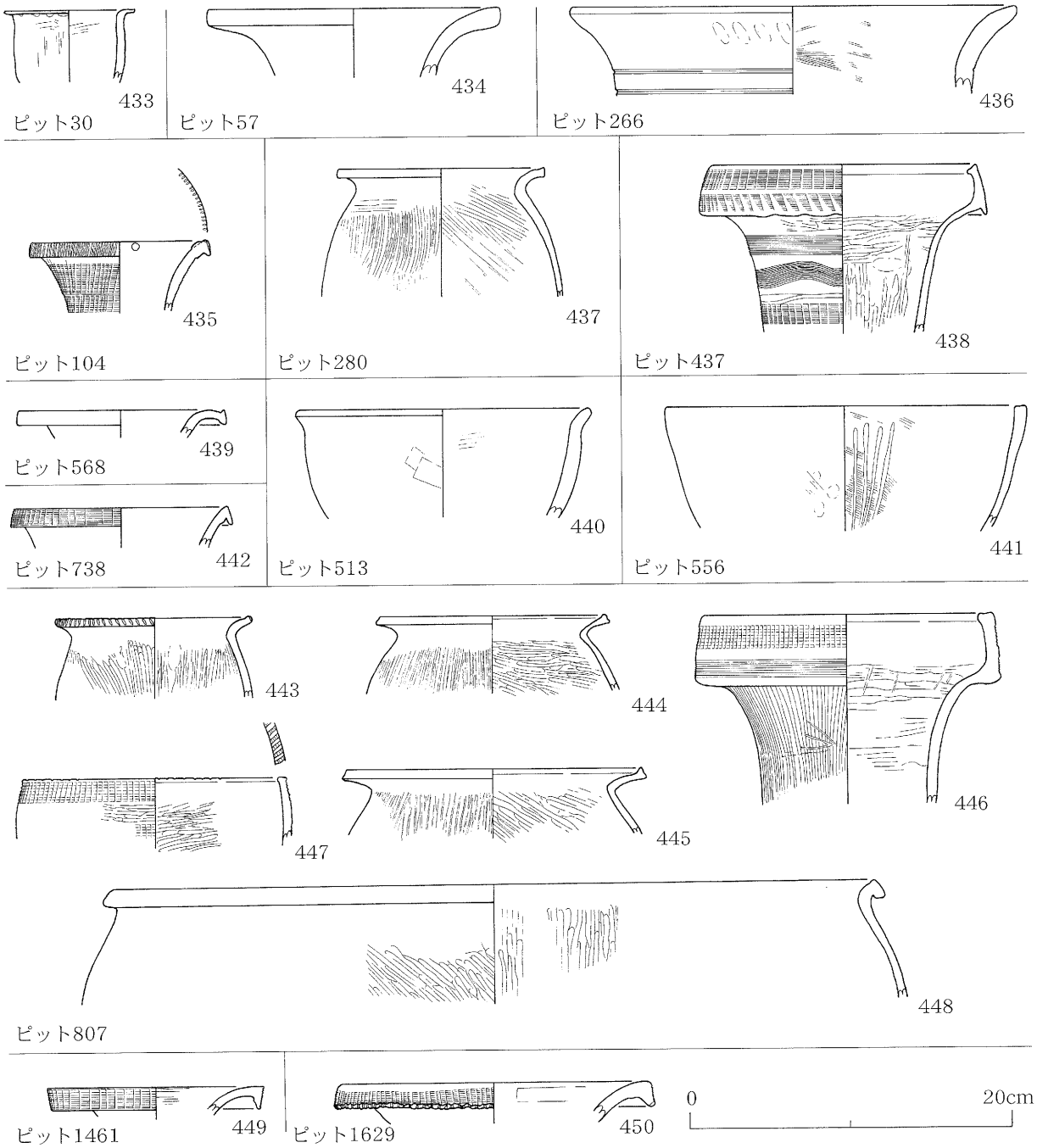
436は壷である。口頸部が短く外反し、口縁端部が丸く終わる。外面はナデ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。頸部にヘラ描沈線文が２条残る。Ⅰ様式。生駒西麓産。

ピット280（第56図437）

437は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。



第55図　土坑墓Ⅰ・Ⅱ、壺棺Ⅰ（土坑128）・Ⅱ（土坑95）出土土器実測図



第56図　ピット30・57・104・266・280・437・513・556・568・738・807・1461・1629出土土器実測図

ピット437（第56図438）

438は壷である。口頸部が外上方へ伸び、口縁端部を大きく上方へ拡張し、幅広の面を持つ。頸部外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。口縁端部には櫛描簾状文とその下に扇形文を施す。頸部には２帯の直線文と１帯の簾状文が残る。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット513（第56図440）

440は鉢である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

ピット556（第56図441）

441は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外

面はハケメの後ナデ調整、内面はハケメの後、部分的なヘラミガキ調整する。中期。生駒西麓産。

ピット568（第56図439）

439は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット738（第56図442）

442は壷である。口頸部が外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に１帯の櫛描簾状文を施す。調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット807（第56図443～448）

甕・壷・鉢の器種がある。

443～445・448は甕である。443は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はヘラミガキ調整する。444・445は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げる。体部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。448は口縁部を下方へ折り曲げる。体部内外面はヘラミガキ調整する。内面に赤色顔料が残る。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

446は壷である。口頸部が筒状を呈し、口縁端部を大きく上方は拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描簾状文と直線文を施す。頸部にヘラ記号が残る。頸部外面はハケメ調整、内面はハケメの後部分的なヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

447は鉢である。体部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は面を持つ。所謂、直口の鉢である。口縁端部に刻み目、体部に櫛描簾状文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット1461（第56図449）

449は壷である。口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に１帯の櫛描簾状文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット1629（第56図450）

450は壷である。口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に１帯の櫛描簾状文と下端に刻み目を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

落ち込み４（第57図451～454）

壷と高坏の器種がある。

451・452は壷である。451は口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。452は口縁端部を下方へ拡張する。451はⅡ様式、452はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

453・454は高坏である。453は裾部がゆるく立ち上がる。裾端部は上方へ拡張し、面を持つ。内外面はナデ調整する。454は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整する。453はⅢ～Ⅳ様式、454はⅡ様式。生駒西麓産。

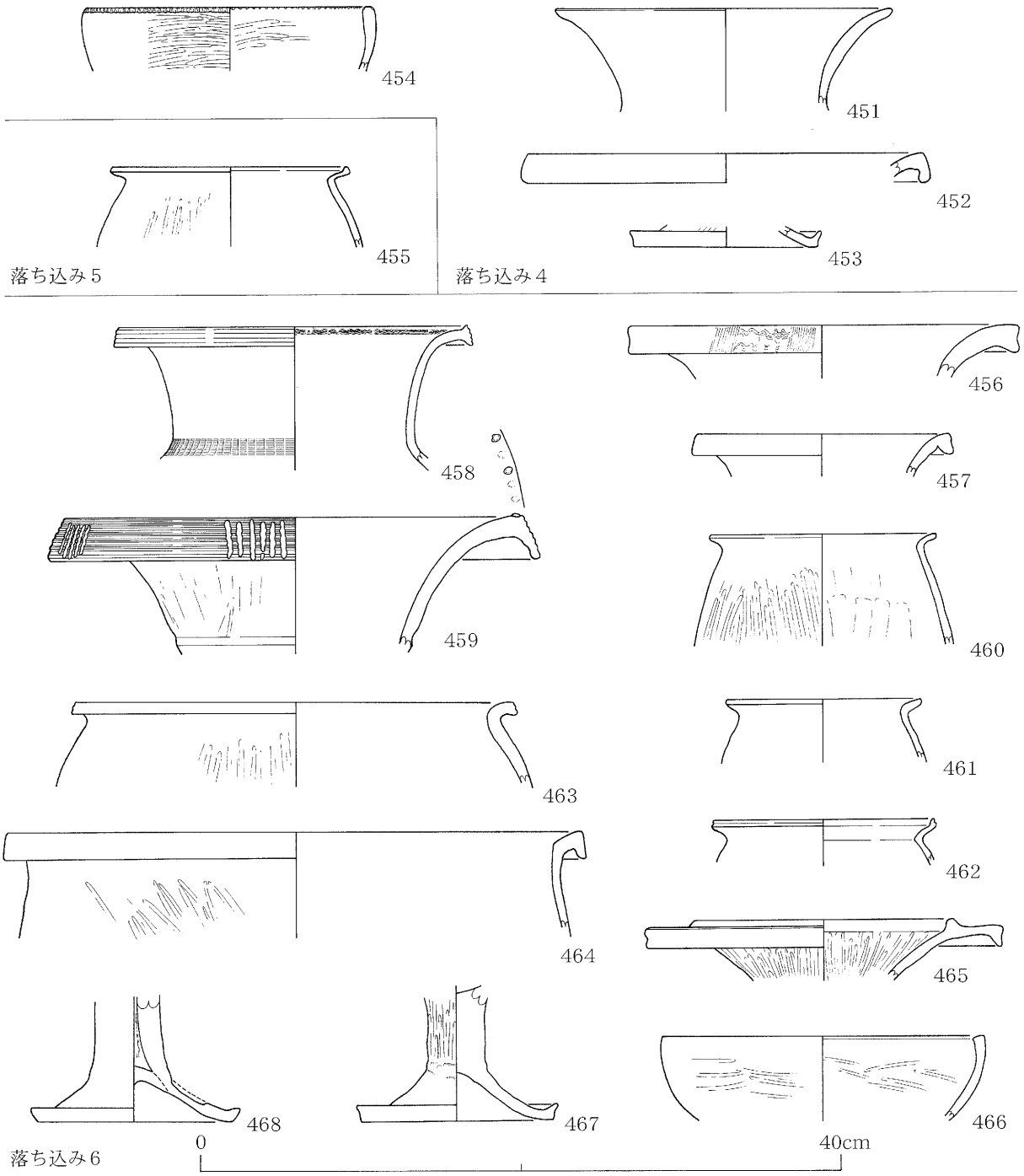
落ち込み５（第57図455）

455は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が外折する。口縁端部は摘み上げ気味に終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

落ち込み６（第57図456～468）

壷・甕・高坏の器種がある。

456～459は壷である。456・457は口縁端部を下方へ拡張する。456は口縁端部に櫛描波状文を施す。458は口縁部が大きく外上方に伸び、口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に４条の凹線文と頸部に櫛描簾状文を施す。口縁部内面に波状文を施す。内外面はナデ調整する。459は



第57図　落ち込み4～6出土土器実測図

口縁部が大きく外反する。口縁端部を下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に凹線文を施した後棒状浮文を貼り付ける。頸部は凹線文を施す。口縁部内面に円形浮文を貼り付ける。頸部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。459は非河内産、他は生駒西麓産。

460～464は甕である。460・461・463は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。460・463は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。461は調整法不明。462は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に終わる。内外面の調整法は不明。464は体部の張りは少ない。口縁端部を下方へ拡張する。体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

465～468は高坏である。465は口縁部が水平方向に伸びた後、短く垂下する。内面に１条の凸帯を廻らす。断面形がやや丸いコの字形を呈する。内外面はヘラミガキ調整する。466は浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部はやや面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。467・468は脚部である。裾部はゆるく立ち上がる。裾端部は上方へ拡張する。柱状部は長く、467が中実、468が中空である。内面にリング状の煤が付着しとおり、甕蓋に転用したと考えられる。467は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

自然流路３（第58図469～476）

壷・高坏・甕の器種がある。

469・470は壷である。469は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部にヘラ描格子文を施す。内面にＶ字形のヘラ記号が残る。470は頸部が筒状を呈し、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。頸部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。469はⅡ様式、470はⅢ～Ⅳ様式。469は生駒西麓産、470は非河内産。

471～473は甕である。471は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。472・473は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。472は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。473は体部外面をタタキ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

474～476は高坏である。474は坏部である。体部と口縁部の境に段がつく。口縁部は外上方に伸びる。口縁端部を左右にやや拡張する。内外面はヘラミガキ調整する。475・476は脚部である。裾部の立ち上がりは急である。476は裾端部を上方へ拡張する。475は外面をヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面をヘラケズリ調整する。他の器種の可能性がある。476は外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

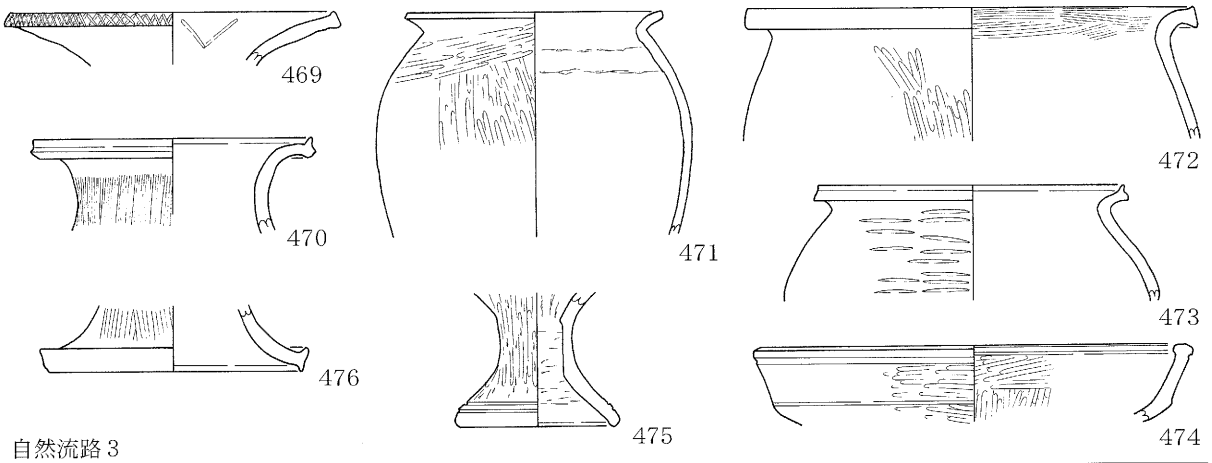
自然流路４（第58図477～492）

壷・高坏・甕の器種がある。

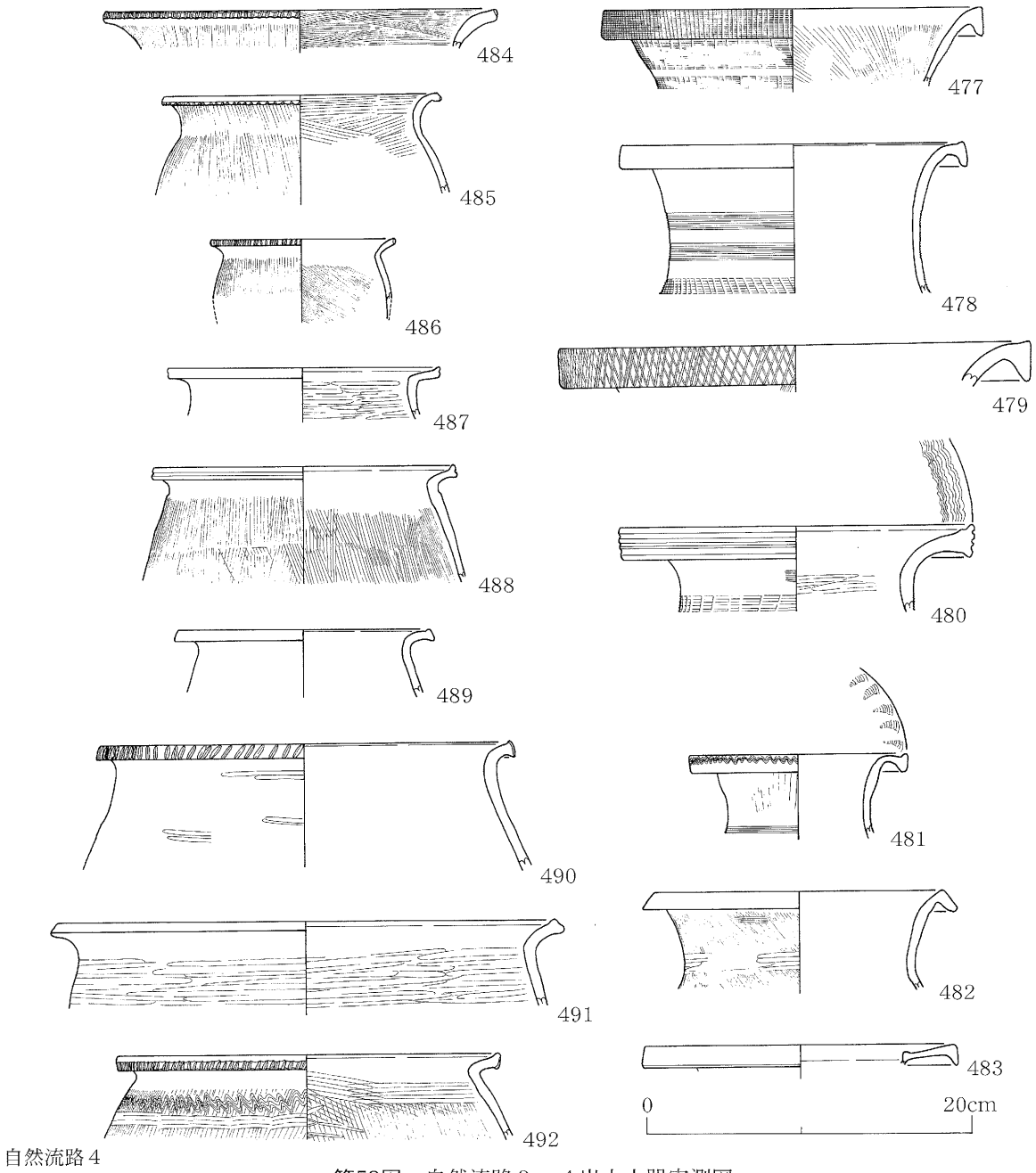
477～482は壷である。477～479は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施すものが多い。480・481は筒状の頸部より口縁部が強く外反する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。480は口縁端部に３条の凹線文、頸部に櫛描簾状文、口縁部内面に波状文を施す。外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。481は口縁端部に櫛描波状文、頸部に直線文、口縁部内面に扇形文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。482は頸部が筒状を呈し、口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ拡張する。無文の壷である。外面はハケメの後、部分的なヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

483は高坏である。口縁部が水平方向に伸びた後、短く垂下する。内面に１条の凸帯を廻らす。断面形が三角形を呈する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

484～492は甕である。484・485は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。486は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部内外面をハケメ調整する。487・488は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に終わる。487は体部外面をナデ調整、内面をヘラミガキ調整する。488は体部外面をタタキの後ハケメ調整、内面をハケメ調整する。490・491は体部の張りが大きく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。490は口縁端部に



自然流路３



自然流路４

第58図　自然流路３・４出土土器実測図

刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。491は体部内外面をヘラミガキ調整する。492は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部に刻み目、体部に櫛描波状文を施す。体部内外面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。492は非河内産、他は生駒西麓産。

遺物包含層出土土器

６工区第11層（第59・60図493～523）

壷・無頸壷・甕・鉢・高坏・甕蓋の器種がある。

493～499は壷である。493～497は口縁部を下方へ拡張する。口縁端部や頸部に櫛描文様を施すものが多い。496・497は口縁端部に刻み目を施す。497は内面に円形浮文を貼り付ける。498は口縁端部を上下へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に縦方向の櫛描直線文と２列の円形刺突文を施す。499は口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に凹線文とその上に櫛描波状文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

500は無頸壷である。体部は内傾する。口縁部は下方へ強く折れ曲がる。口縁部直下に小円孔を穿つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

501～512は甕である。501は口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。502は体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。503は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に終わる。体部内外面はハケメ調整する。504～510は体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。505は口縁端部に刻み目を施す。511・512は体部の張りは少なく、口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部に刻み目や円形刺突文を施す。511は体部外面をナデ調整、内面をハケメ調整する。512は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメの後ヘラミガキ調整する。501・502はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。501は非河内産、他は生駒西麓産。

513・514・519は鉢である。513は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。514は体部が上方に伸び、口縁部が強く下方へ折れ曲がる。口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文を施す。調整法は不明。519は体部が内傾する。口縁端部が段を持つ。口縁端部に櫛描簾状文を施す。体部内外面はヘラミガキ調整する。513はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

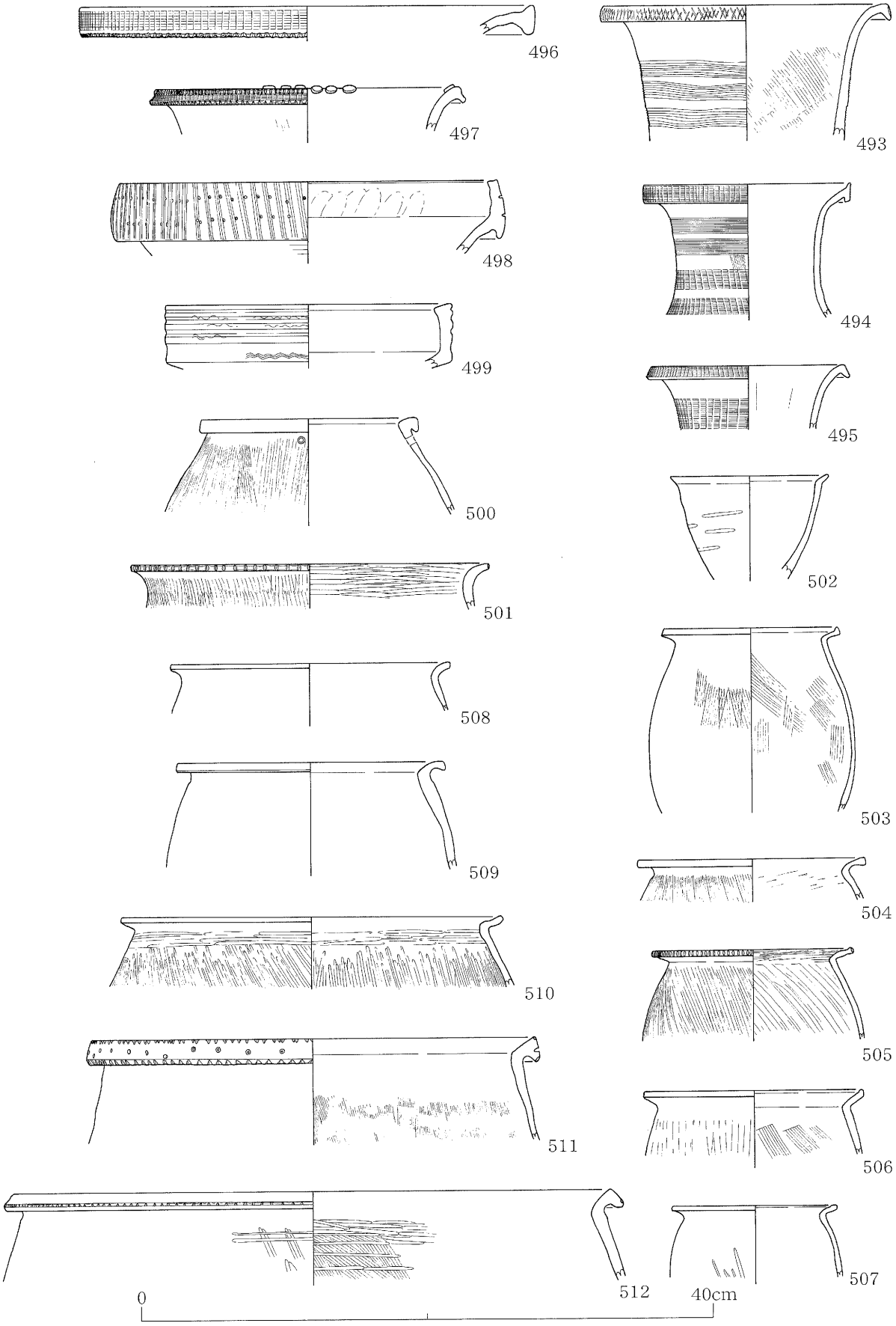
515～518・520～522は高坏である。515～518は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。浅い皿状を呈する坏部である。有文と無文のものがある。520～522は脚部である。520・521は裾部の立ち上がりがゆるい。裾端部は面を持つ。522は裾部の立ち上がりが急である。他の器種の可能性もある。520・521は内面にリング状の煤が付着しており、甕蓋に転用したと考えられる。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

523は甕蓋である。体部の立ち上がりはやや急である。裾端部は面を持つ。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。中期。生駒西麓産。

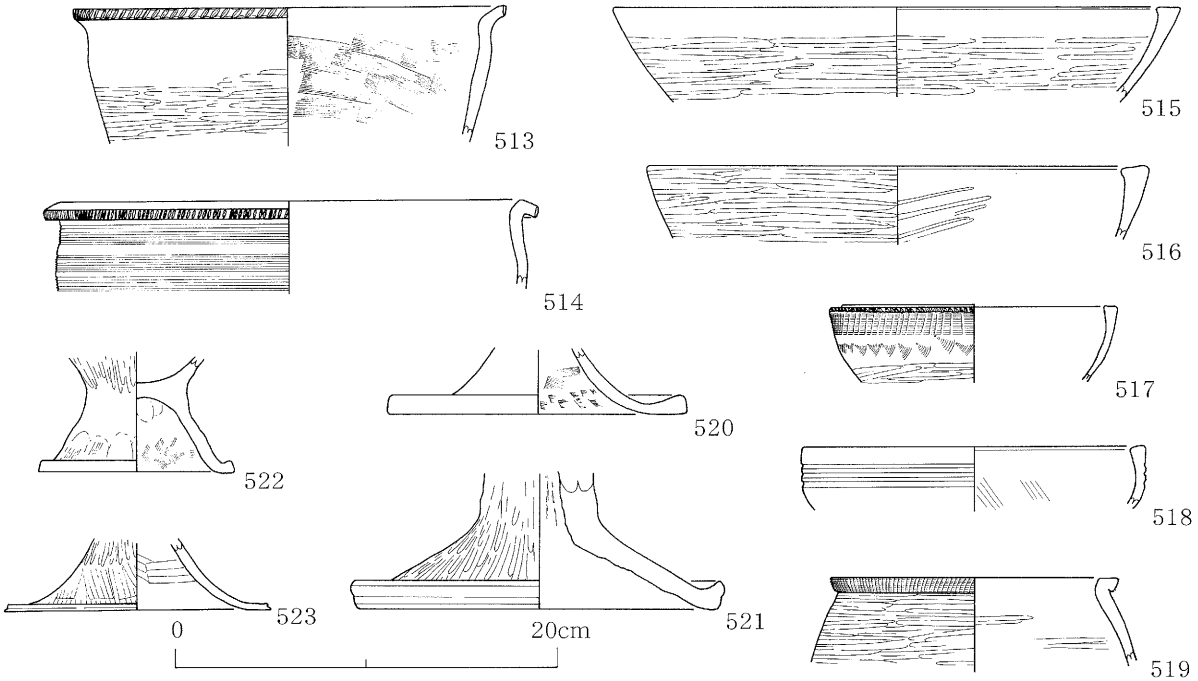
６工区第13層（第61～70図524～708）

壷・無頸壷・細頸壷・鉢・高坏・甕・甕蓋・壷蓋の器種がある。

524～574は壷である。524は頸部が筒状を呈し、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部外面に段とヘラ描沈線文を施す。525～537は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部は刻み目や円形刺突文を施すものもあるが、無文が多い。535は指による押圧を加え、口縁端



第59図　6工区第11層出土土器実測図

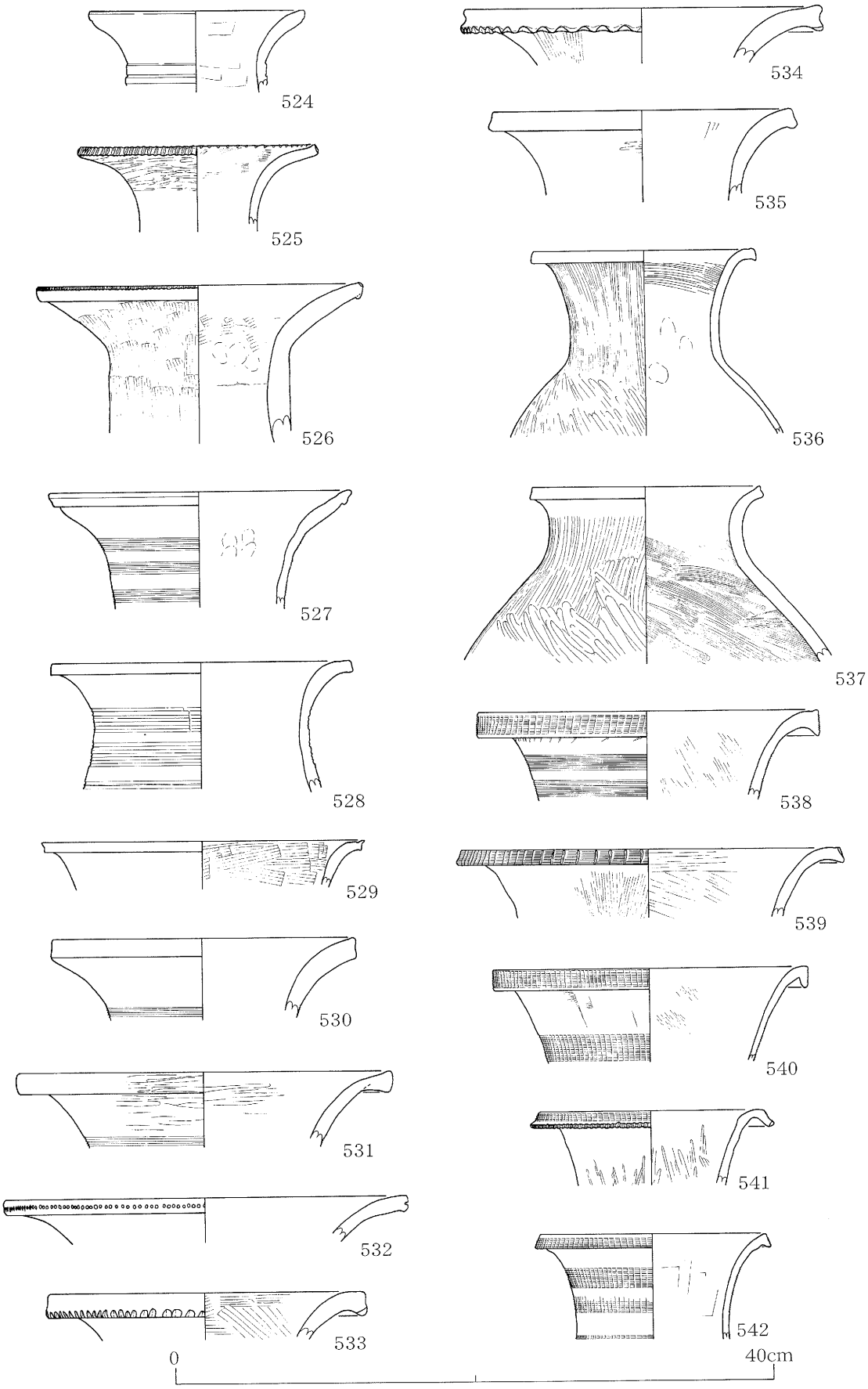


第60図　6工区第11層出土土器実測図

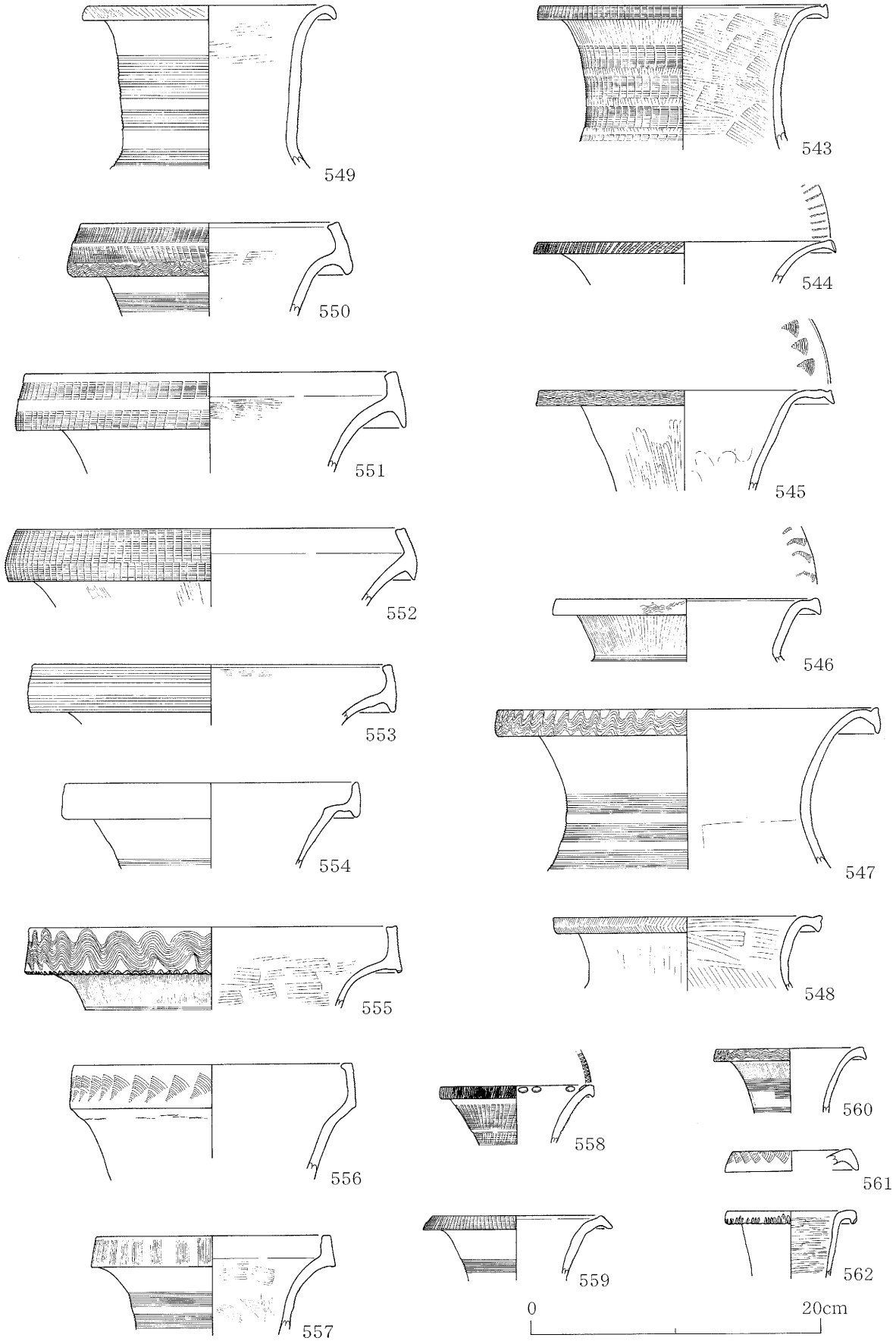
部が波状を呈する。頸部は櫛描直線文が多い。536・537は無文の壷である。538～544・549・558～562は口縁部大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部は櫛描簾状文を施すものが多い。558は口縁部内面に円形浮文を貼り付ける。558～562は小形の壷である。545～548は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部は刻み目や櫛描文様を施す。545・546は口縁部内面に扇形文を施す。550～554は口縁端部を上下に大きく拡張し、幅広の面を持つ。口縁端部には櫛描文様を施すが、554は無文である。556・557は口縁端部を上方へ大きく拡張し、幅広の面を持つ。口縁端部は櫛描文様を施す。563～566は口縁端部下方へやや拡張するものや大きく拡張するものがある。口縁端部に凹線文を施す。563は頸部に凸帯を貼付け、その上に櫛描列点文を施す。567は口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部と口縁部内面に竹管文を施す。568は頸部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。無文の壷である。571～572は口縁端部を上方に摘み上げ気味に拡張する。574は口縁部に2ヶ1対の小円孔を穿つ。524はⅠ様式、525～537はⅡ様式、538～574はⅢ～Ⅳ様式。534・547・563・565・567・570・571は非河内産、他は生駒西麓産。

575～582は無頸壷である。575は体部が内傾する。口縁端部は面を持つ。所謂、擬口縁である。口縁端部に刻み目、体部に櫛描文様を施す。内外面はハケメ調整する。576～580は体部が内傾する。口縁部は外反し、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。口縁部直下に円孔を穿つ。577・580は無文の無頸壷である。577は体部に櫛描文様と刻み目を施した後、棒状浮文を貼り付ける。棒状浮文には刻み目を施す。581は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。無文の無頸壷である。口縁部直下に小円孔を穿つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。582は体部が深い椀状を呈し、口縁端部が内傾する。口縁部直下に小円孔を穿つ。体部に5条の凹線文を施す。体部外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。575は中期、他はⅢ～Ⅳ様式、生駒西麓産。

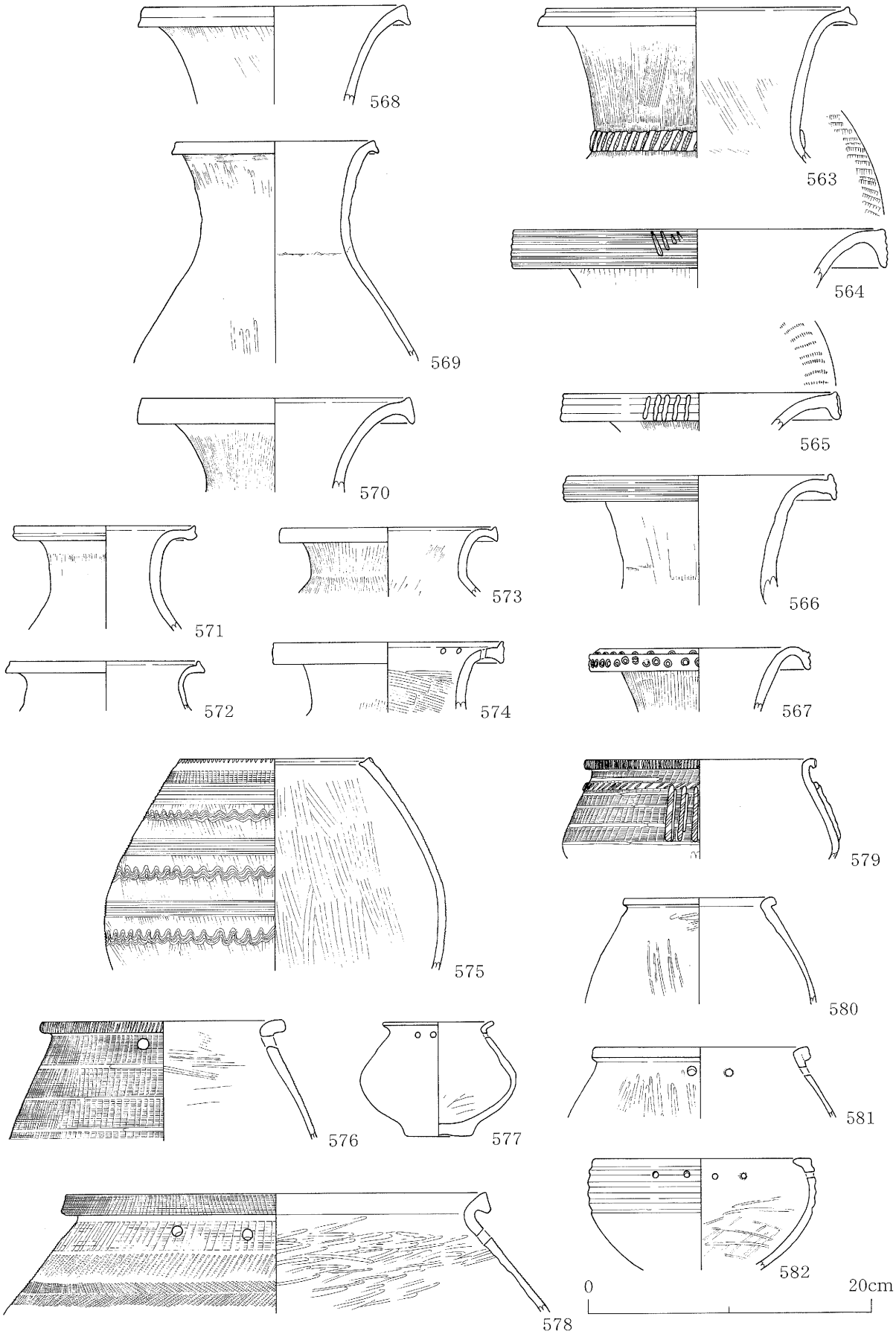
583～592は細頸壷である。583は頸部が外上方に伸びる。口縁端部はやや面を持つ。外面に櫛描直線文を施す。584・585は頸部が外上方に伸び、口縁端部が面を持って内傾する。外面に櫛描直線文と刻み目凸帯を施す。586～589は口縁部が上方に伸びた後、やや内傾する。口縁端部は面を持つ。外面は櫛描文様を施す。590は口縁部が強く内湾する。口縁端部は丸く終わる。外面に櫛描波状文を



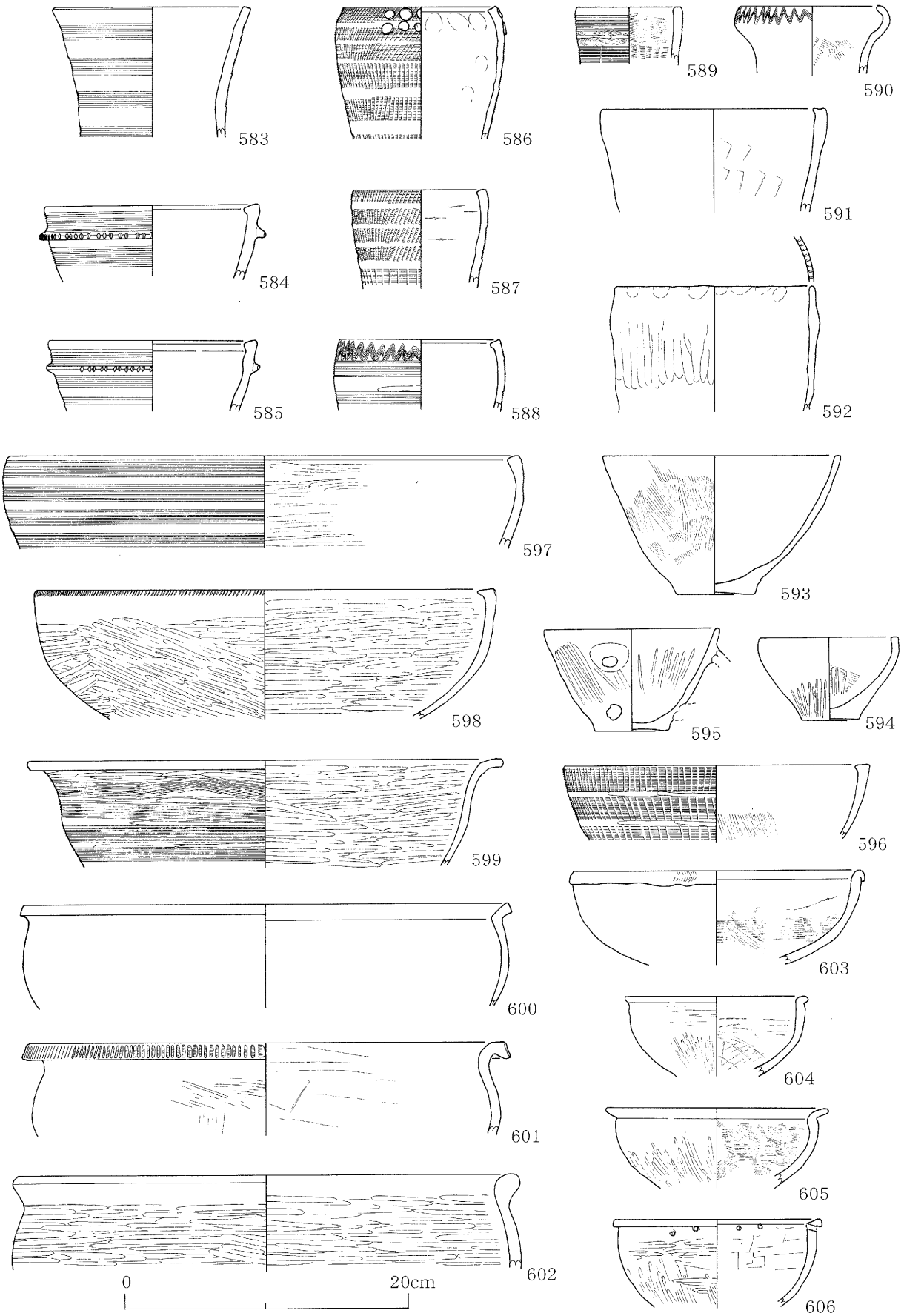
第61図　6工区第13層出土土器実測図



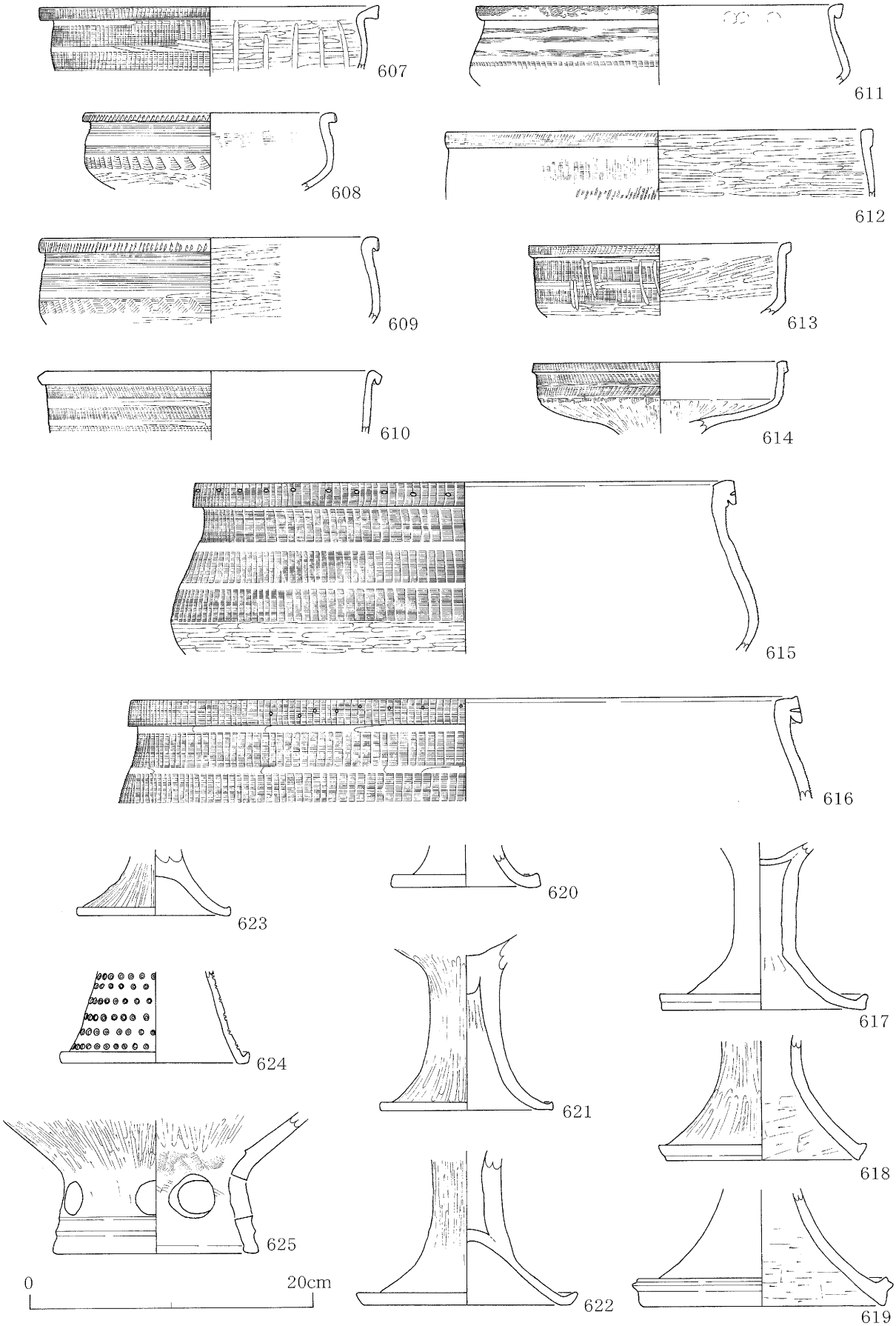
第62図　6工区第13層出土土器実測図



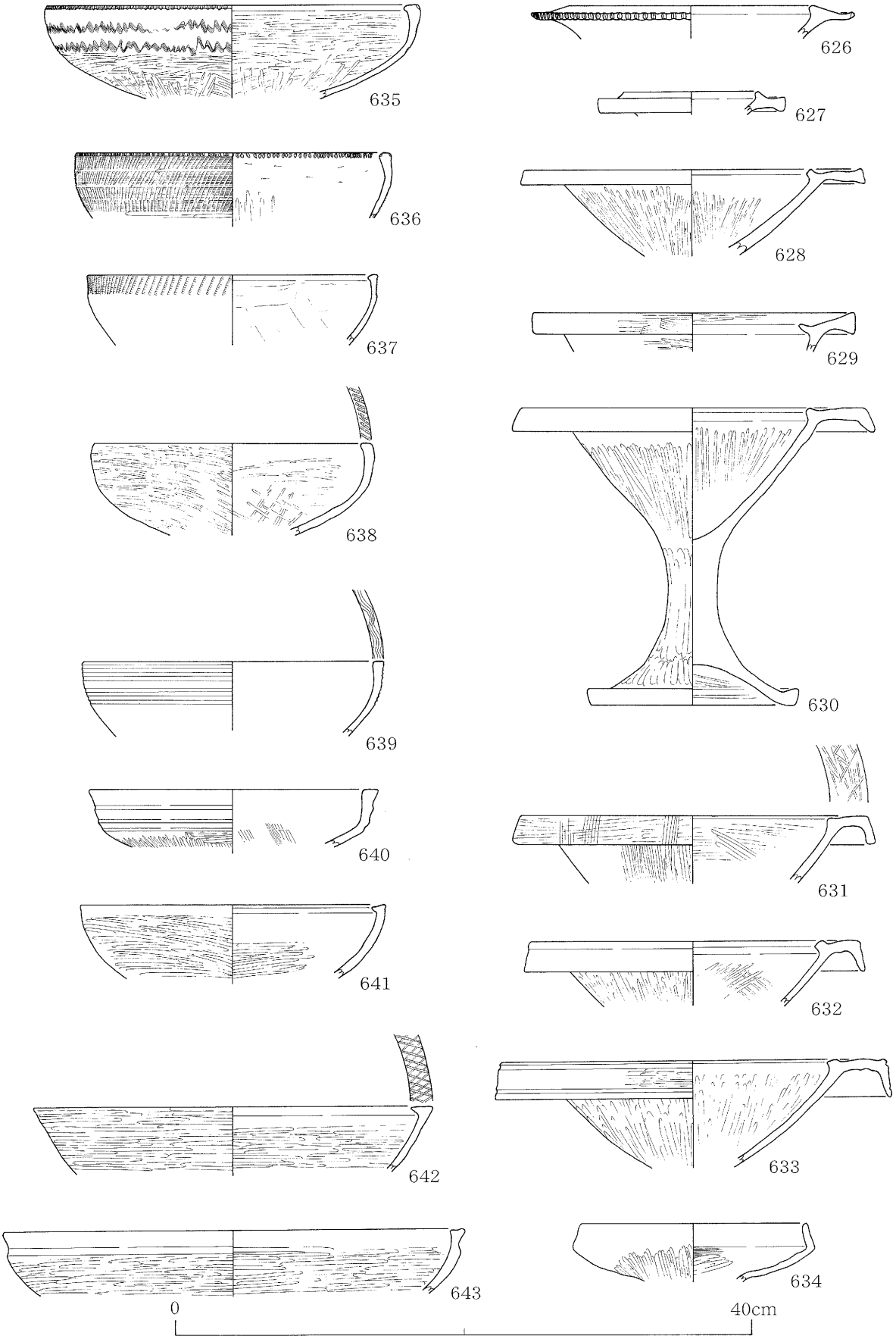
第63図　6工区第13層出土土器実測図



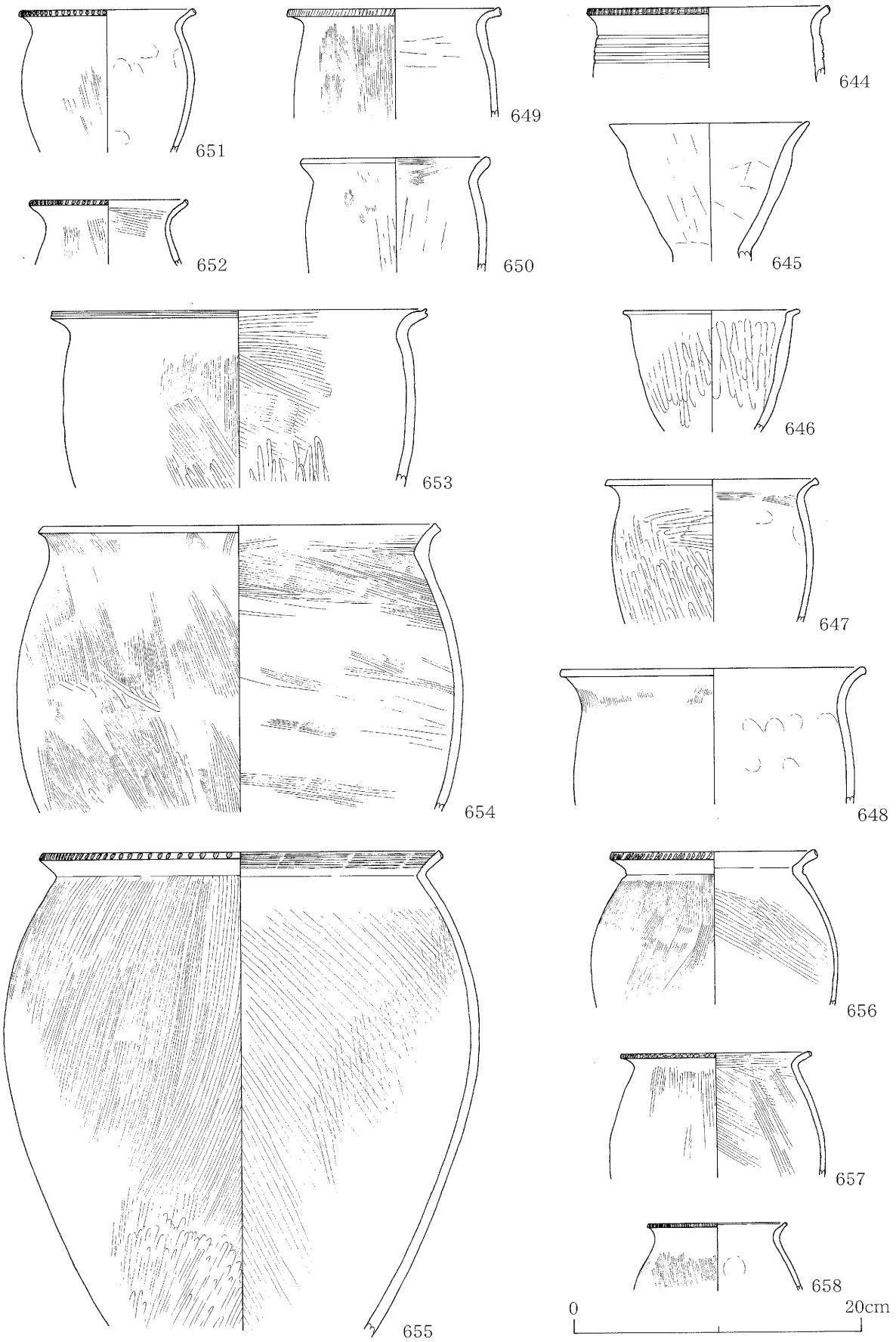
第64図　6工区第13層出土土器実測図



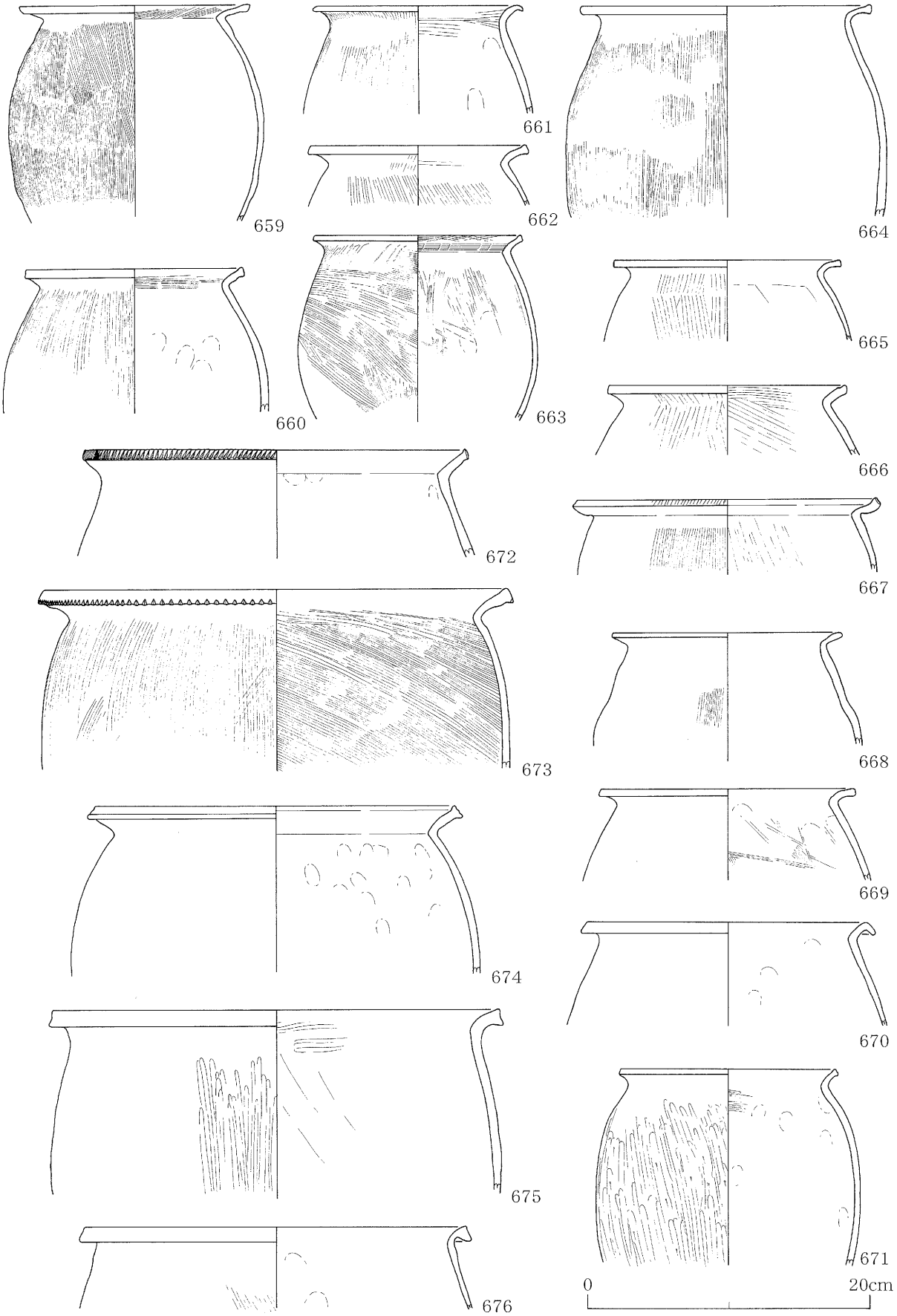
第65図　6工区第13層出土土器実測図



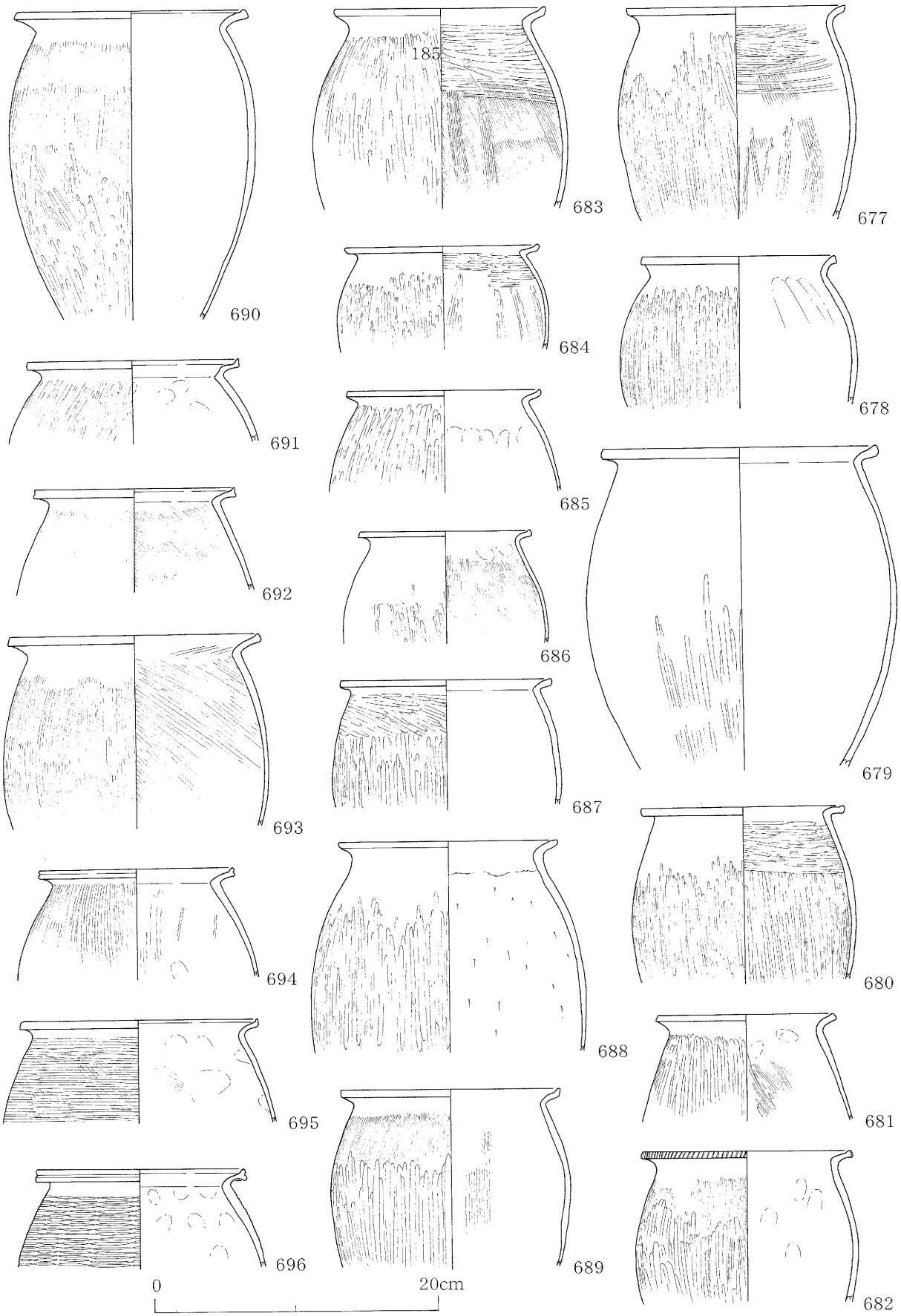
第66図　6工区第13層出土土器実測図



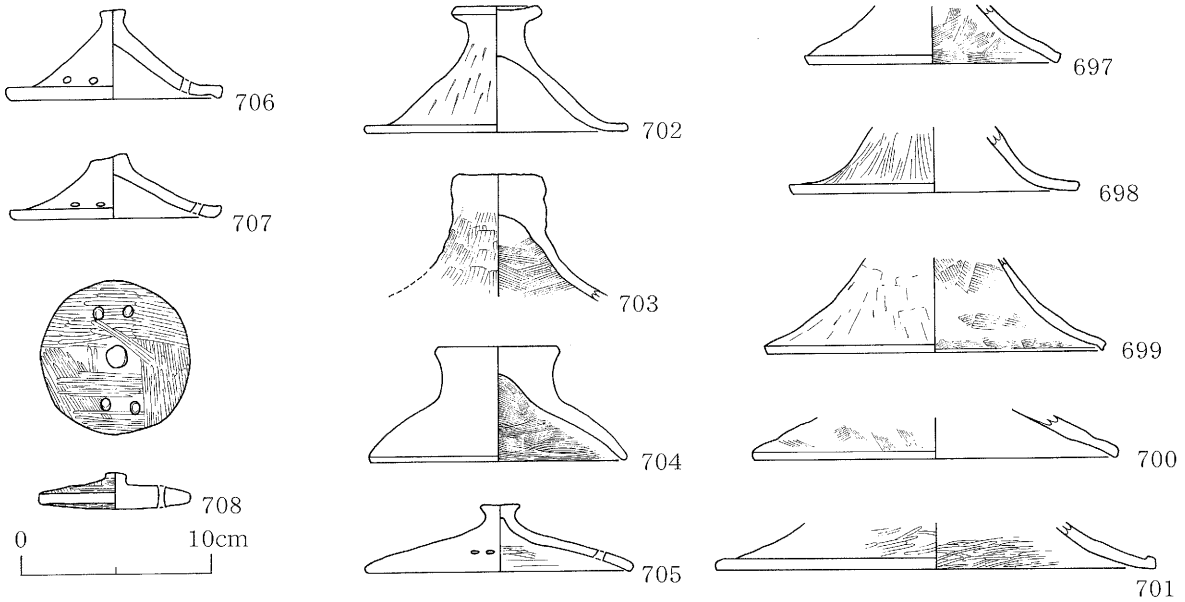
第67図　6工区第13層出土土器実測図



第68図　6工区第13層出土土器実測図



第69図　6工区第13層出土土器実測図



第70図　6工区第13層出土土器実測図

施す。591・592は無文の細頸壷である。口縁端部は591が面を持ち、592が丸く終わる。583はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。584・585は非河内産、他は生駒西麓産。

593～616は鉢である。593は平底の底部より体部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。594～598は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つものが多い。所謂、直口の鉢である。595は握手が付く。596・597は櫛描文様を施すが、他は無文である。598は口縁端部に刻み目を施す。599は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面は櫛描直線文を施す。内面はヘラミガキ調整する。600～606は体部の張りがやや大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。601は口縁端部に刻み目を施す。606は口縁部直下に小円孔を穿つ。607～611は体部が内傾するものが多い。口縁部は強く折れ曲がる。口縁端部や体部に刻み目や櫛描文様を施す。612～616は体部が内傾するものが多い。口縁端部は段を持つ。口縁端部や体部に櫛描文様を施す。615・616は口縁端部に円形刺突文を施す。593・599はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。599・602・611は非河内産、他は生駒西麓産。

617～643は高坏である。625は脚付無形壷であるが高坏の中で扱う。また、623・624も他の器種の可能性もある。617～622は脚部である。柱状部は中空である。裾端部は面を持つものが多い。623は裾部の立ち上がりが短い。624は筒状を呈する脚部である。外面に竹管文を施す。625は脚部が短く立ち上がり、体部が大きく開く。脚部に円形の透かしと凹線文を施す。626～633は体部が外上方に伸びる。口縁部が水平方向に伸びる626～629とさら長く垂下する630～633がある。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形が三角形とコの字形を呈するものがある。626は口縁端部に刻め目を施す。634～639は体部が内湾気味に立ち上がる。浅いⅢ状を呈する坏部である。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。櫛描文様を施すものと無文のものがある。640～643は浅いⅢ状を呈するが口縁端部がやや幅広の面を持つ。640は凹線文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。618・619・625・628・633は非河内産、他は生駒西麓産。

644～696は甕である。644は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に4条のヘラ描沈線文を施す。体部内外面はナデ調整する。645～654

は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。649・651・652は口縁端部に刻み目を施す。655～674・677～690は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。655～658・667・672・673・682は口縁端部に刻め目を施す。体部はハケメ調整やヘラミガキ調整が多いが、一部にヘラケズリ調整するものもある。675・676は口縁端部を下方へ拡張する。691～696は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。695は体部外面をタタキの後ハケメ調整、696はタタキ調整する。644はⅠ様式、645～654はⅡ様式、655～696はⅢ～Ⅳ様式。674は非河内産、他は生駒西麓産。

697～703は甕蓋である。体部はゆるく立ち上がる。つまみ部は円形を呈する。口縁端部はやや面を持つか丸く終わるものが多い。内面にリング状の煤が付着するものが多い。中期。生駒西麓産。

704～708は壷蓋である。704～707は体部がゆるく立ち上がり、円形のつまみが付く。704はつまみ部が大きい。２ヶ１対の小円孔を穿つ。708は体部の立ち上がりがほとんどなく、平坦に終わる。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。円形のつまみが付く。口縁端部はやや丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。中期。生駒西麓産。

６工区第14層（第71図709～734）

甕蓋・壷蓋・壷・細頸壷・鉢・高坏・甕の器種がある。

709は甕蓋である。体部はゆるく立ち上がった後、急になる。つまみ部は上面がやや凹む。口縁端部は面を持つ。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

710・711は壷蓋である。710は体部の立ち上がりがやや急である。711は体部の立ち上がりがゆるく、棒状のつまみが付く。小円孔を穿つ。中期。生駒西麓産。

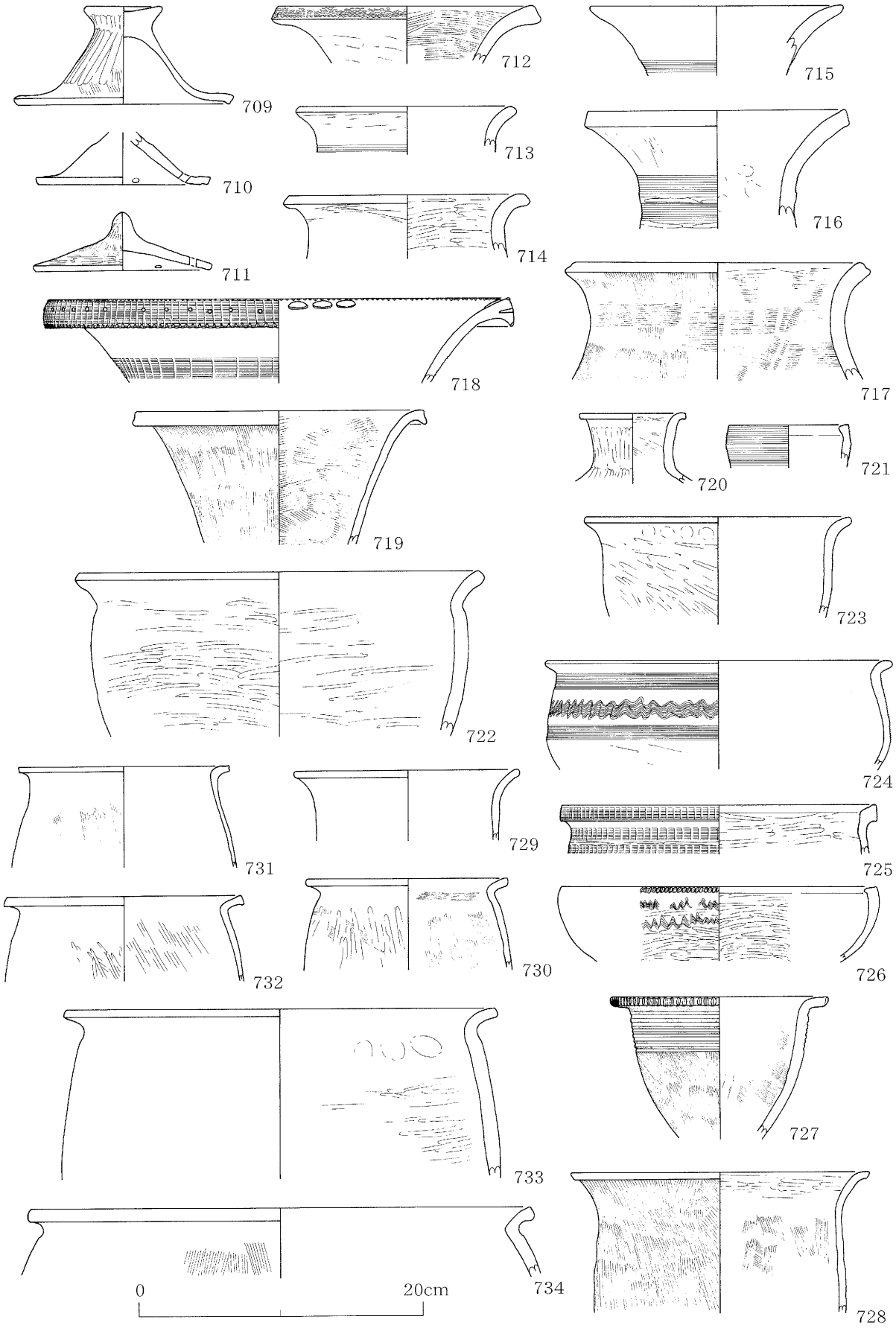
712～720は壷である。712～717・720は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。712は口縁端部に櫛描波状文を施す。頸部は有文と無文がある。720は小形の壷である。718・719は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。718は口縁端部に刻み目と櫛描簾状文を施した後、円形刺突文を加える。口縁部内面には円形浮文を貼り付ける。頸部には簾状文を施す。719は無文である。718・719はⅢ～Ⅳ様式、他はⅡ様式。712・715・717は非河内産、他は生駒西麓産。

721は細頸壷である。口縁部が内湾する。口縁端部は面を持つ。口縁部外面に櫛描直線文を施す。内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

722～725は鉢である。722・723は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。722は体部内外面をヘラミガキ調整する。723は体部外面をヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。724は体部が内傾する。口縁部はゆるく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面に櫛描文様を施す。体部内外面はナデ調整する。725は口縁端部が段を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。内面はヘラミガキ調整する。722・723はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

726は高坏である。体部が内湾気味に立ち上がる。浅い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛描波状文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

727～734は甕である。727は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に７条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。728～730・733は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。731・732・734は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁



第71図　6工区第14層出土土器実測図

端部は面を持つものと丸く終わるものがある。727はⅠ様式、728～730・733はⅡ様式、731・732・734はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

6工区第11～14層（第72～74図735～778）

壷・無頸壷・細頸壷・水差形土器・壷蓋・有孔鉢・甕・高坏・鉢の器種がある。

735～748は壷である。735・736は底部が平底を呈する。体部は下半で張り、頸部が細い。口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。無文の壷である。737～740は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部と頸部に刻め目や櫛描文を施す。741・747・748は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部や頸部に刻め目、円形浮文、櫛描文様を施す。747・748は小形の壷である。742は口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部の縦方向の櫛描直線文と円形刺突文を施す。743は頸部が筒状を呈し、口縁部が大きく外反する。口縁端部を下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に原体数2本の櫛描直線文を施した後、縦方向の直線文と円形浮文を施す。頸部にも直線文を施す。744は体部の張りが大きく、頸部が短い。口縁部は強く外反し、口縁端部を上方に摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に櫛描簾状文を施す。745・746は口縁部を上方に大きく拡張する。口縁端部が幅広の面を持つ。745は口縁端部に凹線文を施す。X状のヘラ記号が残る。746は凹線文と櫛描文様を施す。735～740はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。741・744～746は非河内産。他は生駒西麓産。

749・750は無頸壷である。749は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。体部に櫛描直線文を施す。体部内外面はナデ調整する。口縁部直下に2ヶ1対の小円孔を穿つ。750は小形の無頸壷である。底部は平底であり、体部は下半で張る。口縁部は強く外反する。体部内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。749は非河内産、750は生駒西麓産。

751～753は細頸壷である。751・752は口縁部が上方に伸びた後、やや内傾する。口縁端部は面を持つ。751は無文である。752は外面に櫛描文様と円形浮文を施す。753は口縁部が強く内傾する。口縁端部は丸く終わる。外面に櫛描波状文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。751は生駒西麓産、他は非河内産。

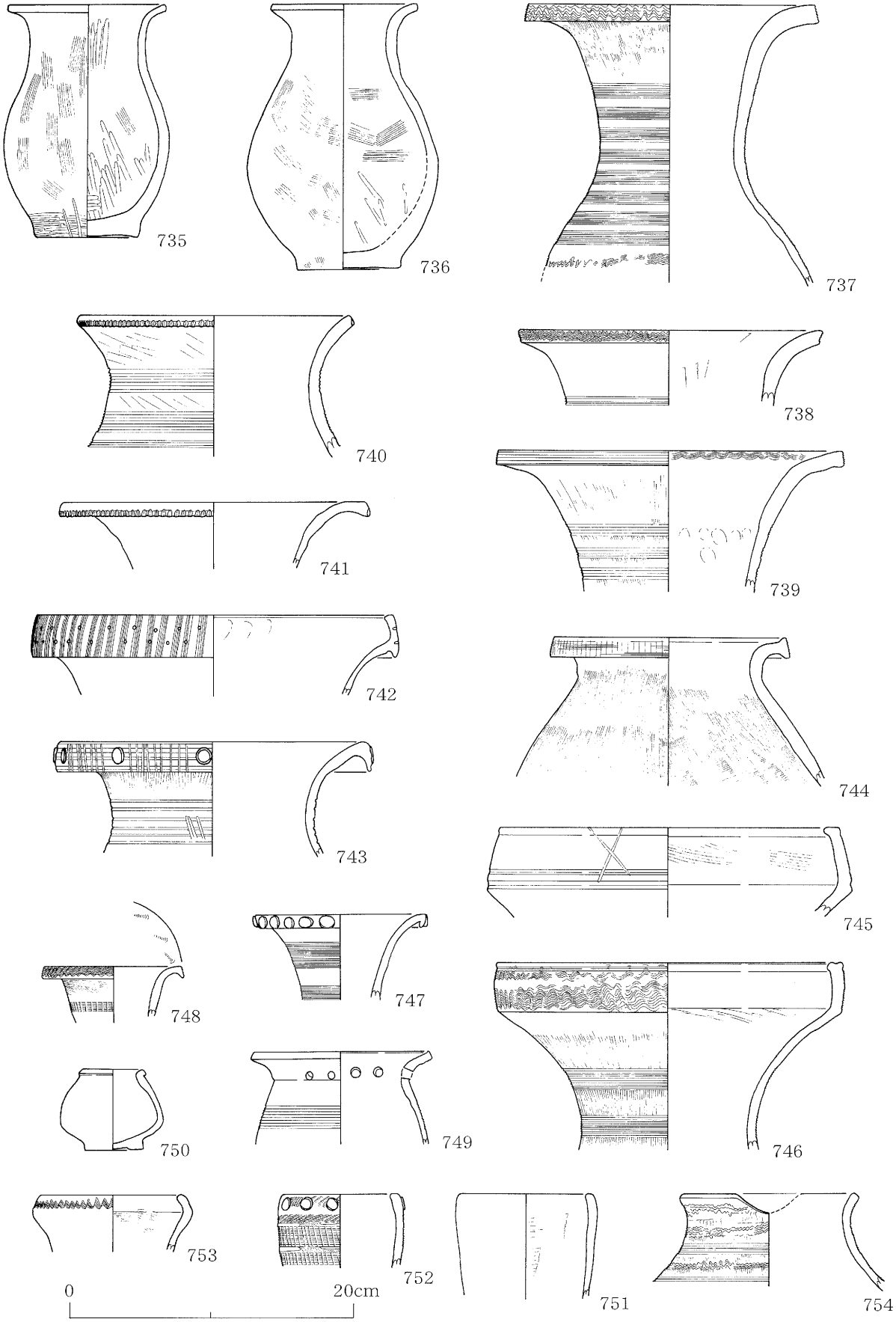
755・756は壷蓋である。755は半円球を呈する。口縁端部は丸く終わる。口縁部に小円孔を穿つ。756は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部がやや面を持つ。円形のつまみが付く。755はⅠ様式、752は中期。生駒西麓産。

757は有孔鉢である。平底の底部より体部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。底部と体部に多くの円孔を穿つ。中期。生駒西麓産。

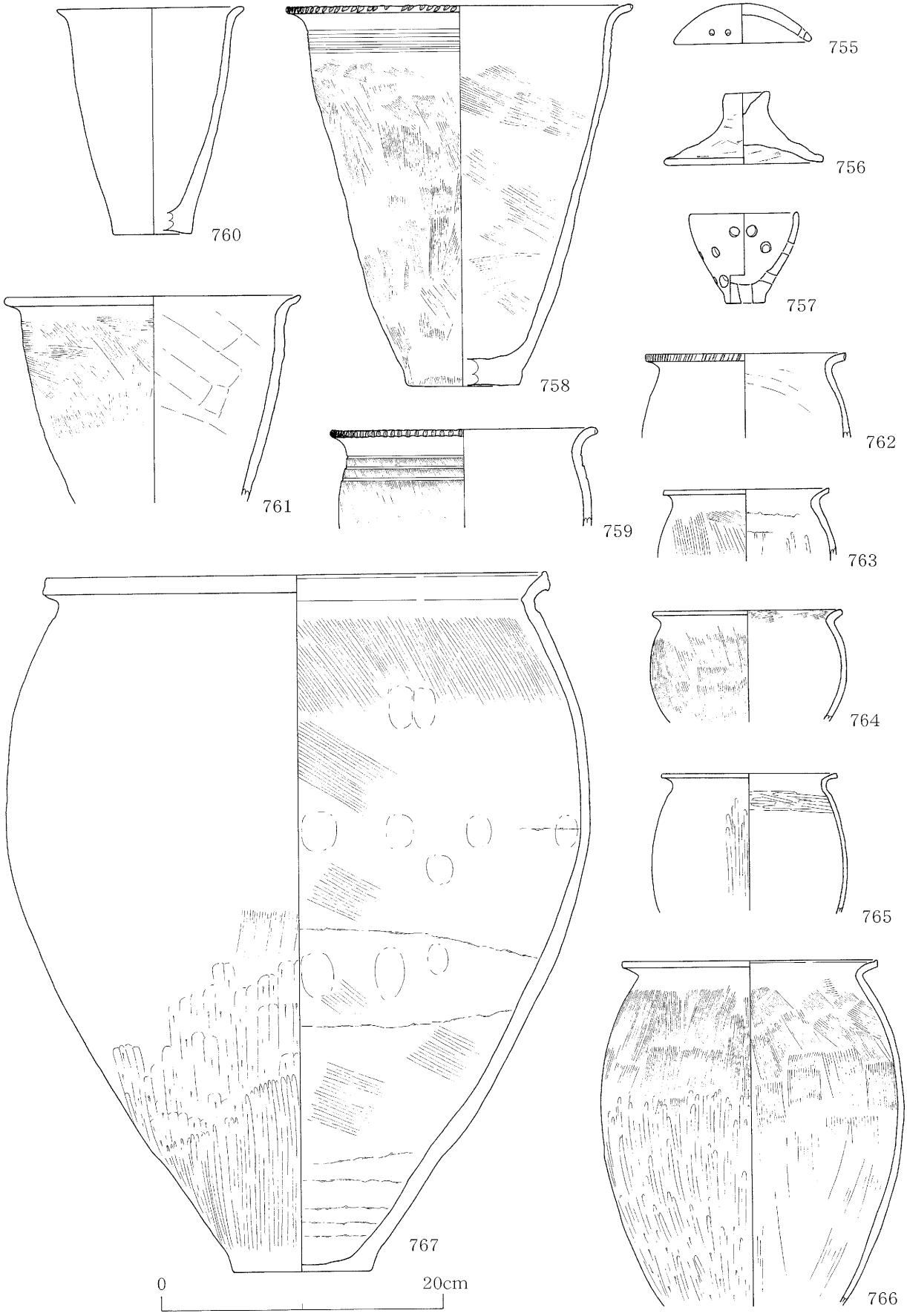
758～767は甕である。758・759は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部にヘラ描沈線文を施す。760～763は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。764～767は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。758・759はⅠ様式、764～763はⅡ様式、764～767はⅢ～Ⅳ様式。759は非河内産、他は生駒西麓産。

768～771・776は高坏である。768は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。浅い椀状を呈する坏部である。外面に櫛描直線文と扇形文を施す。内外面はナデ調整する。769～771は口縁部が水平方向に伸びた後、垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形がコの字形を呈する。771は坏部内面に棒状粘土を貼り付け、区切りとしている。776は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。やや深い椀状を呈する坏部である。768はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

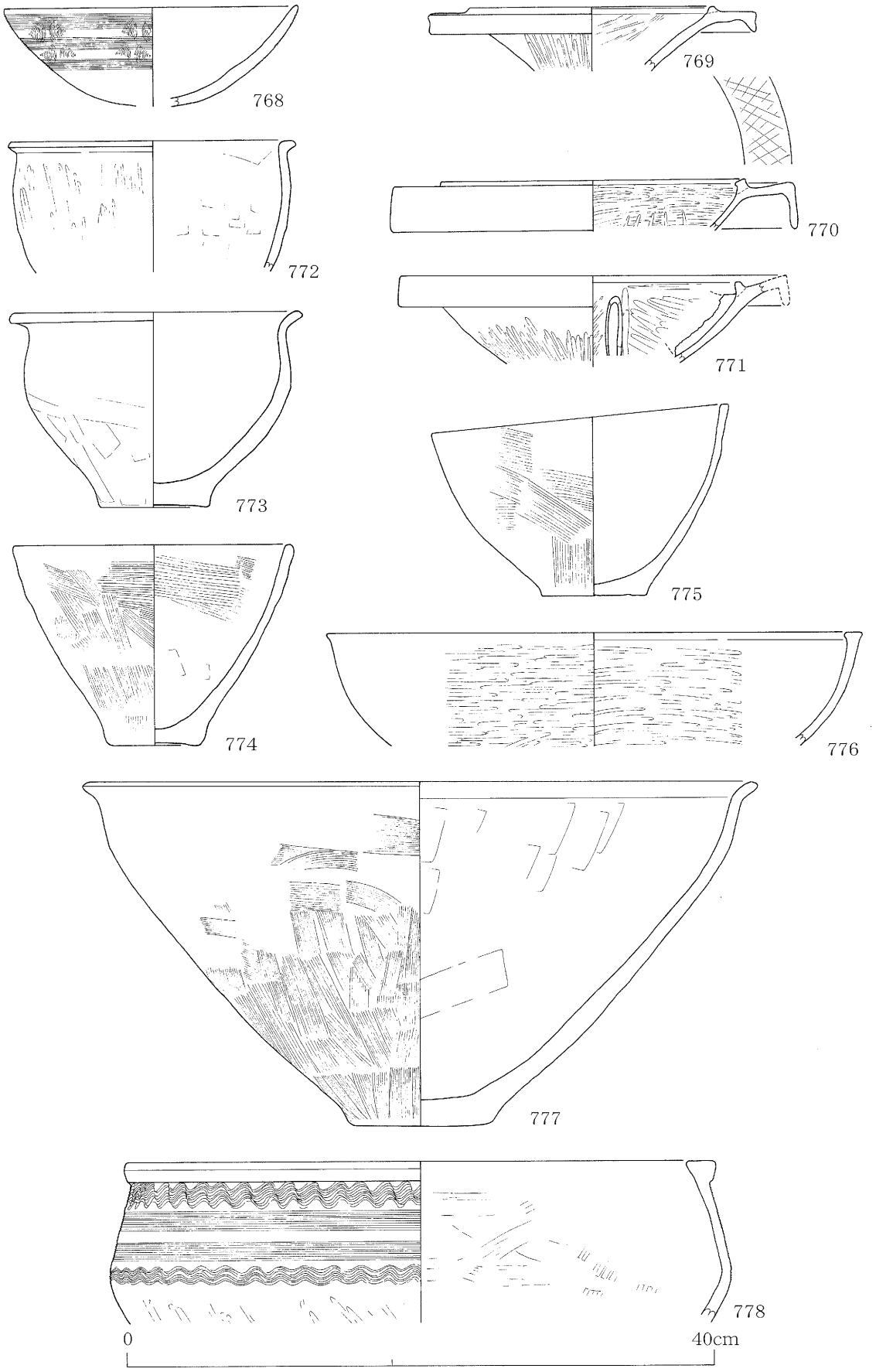
772～775・777・778は鉢である。772・774は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。773は体部の張りがやや大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く



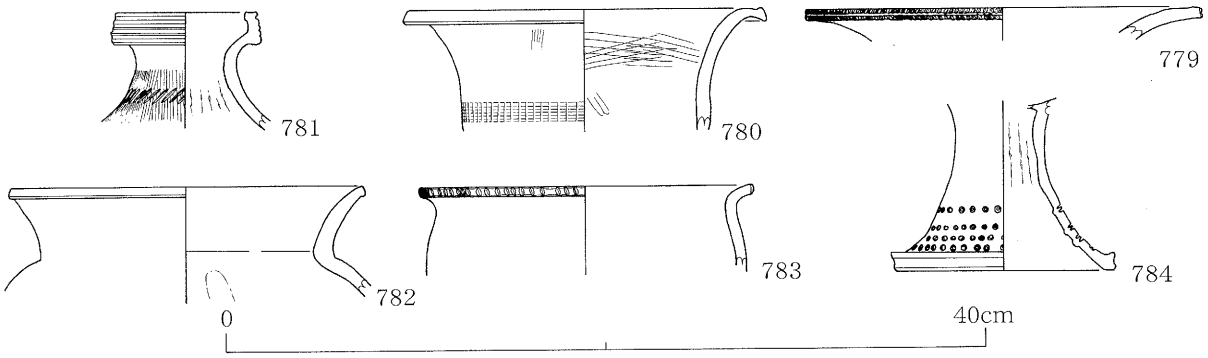
第72図　6工区第11～14層出土土器実測図



第73図　6工区第11～14層出土土器実測図



第74図　6工区第11～14層出土土器実測図



第75図　７工区第11層出土土器実測図

終わる。774・775は平底の底部より体部が外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。778は体部が内傾する。口縁端部が段を持つ。体部外面に櫛描文様を施す。772・774・775・777はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

７工区第11層（第75図779～784）

壷・甕・高坏の器種がある。

779～782は壷である。779は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部にヘラ描沈線文と刻み目を施す。780は筒状を呈する頸部より口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。頸部に櫛描簾状文を施す。外面はハケメの後ナデ調整、内面はハケメの後、部分的なヘラミガキ調整する。781は体部がやや張り、口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に４条の凹線文、頸部に列点文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。782は体部が強く張り、口縁部が長く外反する。口縁端部はやや面を持つ。調整法は不明。779はⅠ様式、780・781はⅢ～Ⅳ様式、782はⅤ様式。生駒西麓産。

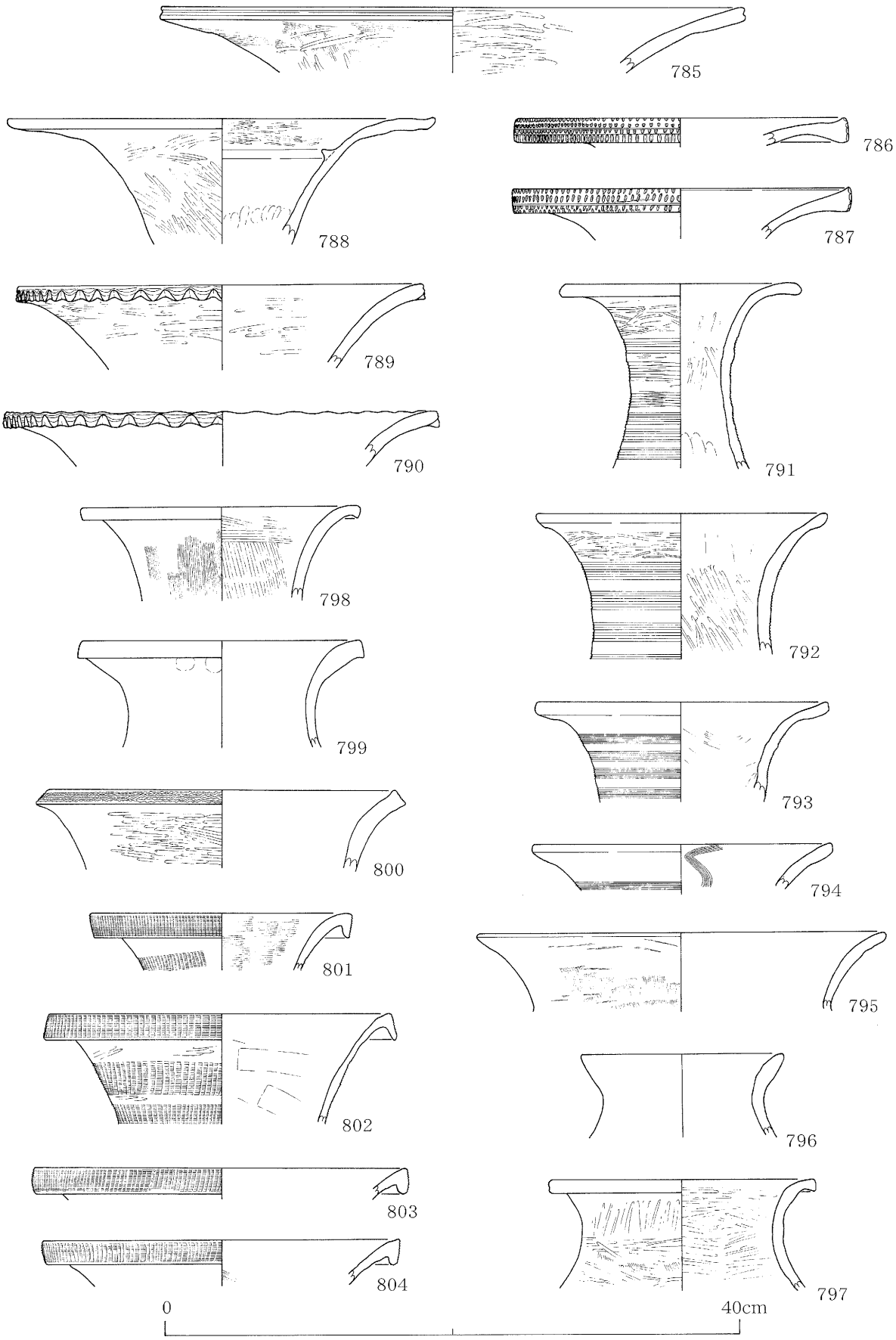
783は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。調整法は不明。Ⅱ様式。生駒西麓産。

784は高坏である。裾部の立ち上がりが急である。裾端部は上方へ拡張する。裾部に竹管文を施す。調整法は不明。他の器種の可能性もある。

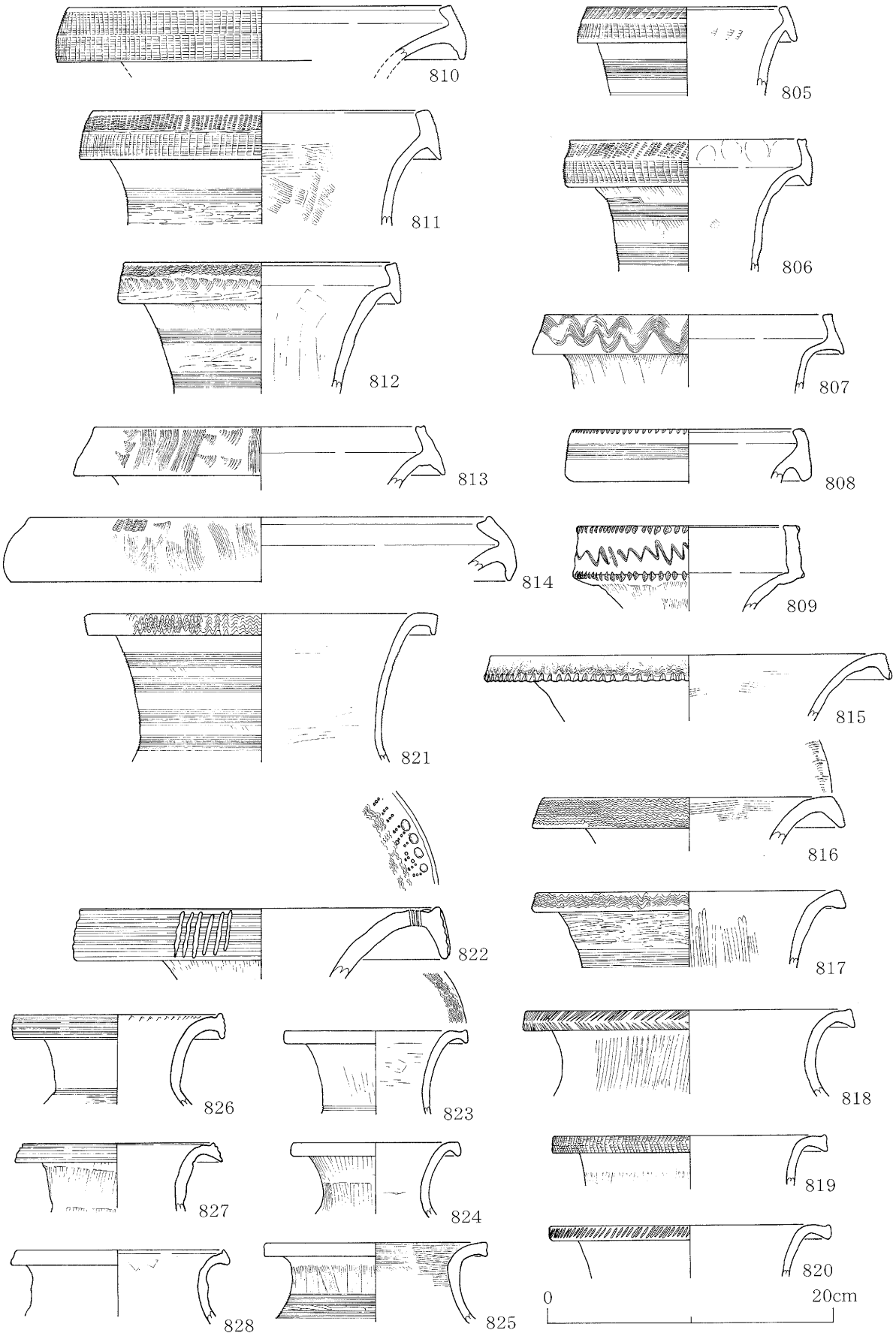
７工区第13層（第76～81図785～905）

壷・無頸壷・細頸壷・水差形土器・甕・鉢・甕蓋・壷蓋・高坏の器種がある。

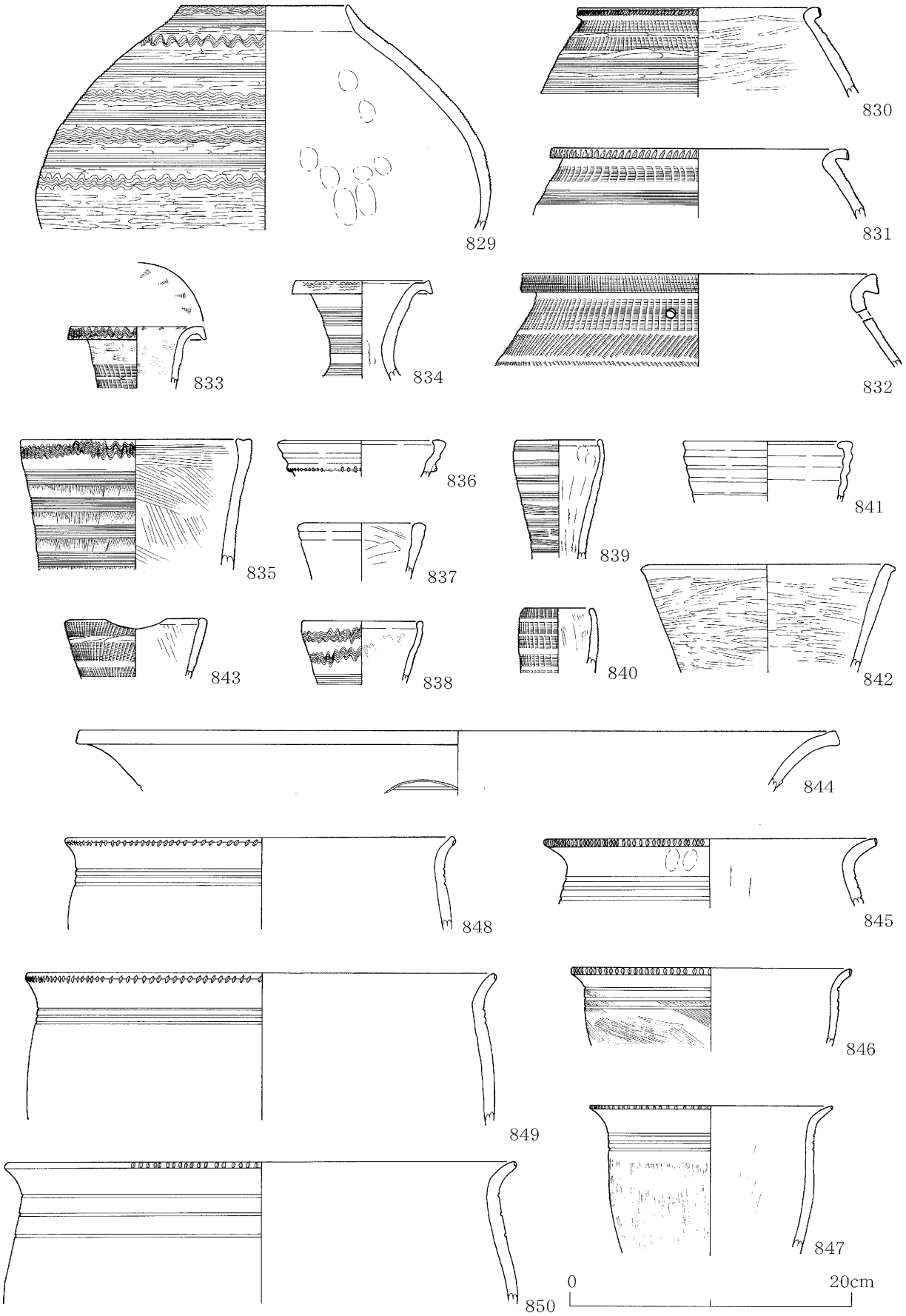
785～828・833・834は壷である。785～787は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。785は１条のヘラ描沈線文、786・787は沈線文と刻み目を施す。788は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。頸部内面に１条の凸帯を廻らす。789～800は口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。口縁端部と頸部に刻み目や櫛描文様を施すものが多いが、無文のものもある。789・790は指による押圧を加え、口縁端部が波状を呈する。794は口縁部内面にＳ字形の櫛描文様を施す。801～804・815～817・821・833・834は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。833・834は小形の壷である。805～808・810～814は口縁端部を上下へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部には櫛描文様や刻み目を施す。809は頸部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は上下へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に刻み目と櫛描直線文を施す。818～823・826～828は頸部が短い筒状を呈し、口縁部が強く外反する。口縁端部が上方に摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目、櫛描文様、凹線文などを施すが、無文のものもある。822は口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に５条の凹線文と棒状浮文を貼り付ける。内面は櫛描波状文、円形浮文、３個



第76図　7工区第13層出土土器実測図



第77図　７工区第13層出土土器実測図



第78図　7工区第13層出土土器実測図

1単位の小円孔を施す。小円孔は貫通するものが多い。824・825は頸部が短く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。785～788はⅠ様式、789～800はⅡ様式、801～828・833・834はⅢ～Ⅳ様式。809・816・821・822・825・826は非河内産、他は生駒西麓産。

829～832は無頸壷である。829は体部が大きく張り、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に櫛描直線文と波状文を施す。830～832は体部が内傾する。口縁部は外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部や体部に刻み目や櫛描文様を施す。832は口縁部直下に小円孔を穿つ。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

835～842は細頸壷である。細頸壷で記す中には水差形土器の可能性のあるものも含まれる。835・837～847は口縁部が上方へ伸びるものとやや内湾するものがある。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。口縁部に櫛描文様や凹線文を施す。836は口縁部が外上方に伸び、口縁端部がやや内傾する。口縁部に凹線文と刻み目凸帯を施す。842は口縁部が外上方に伸び、口縁端部が面を持つ。無文である。842は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。836・841は非河内産。他は生駒西麓産。

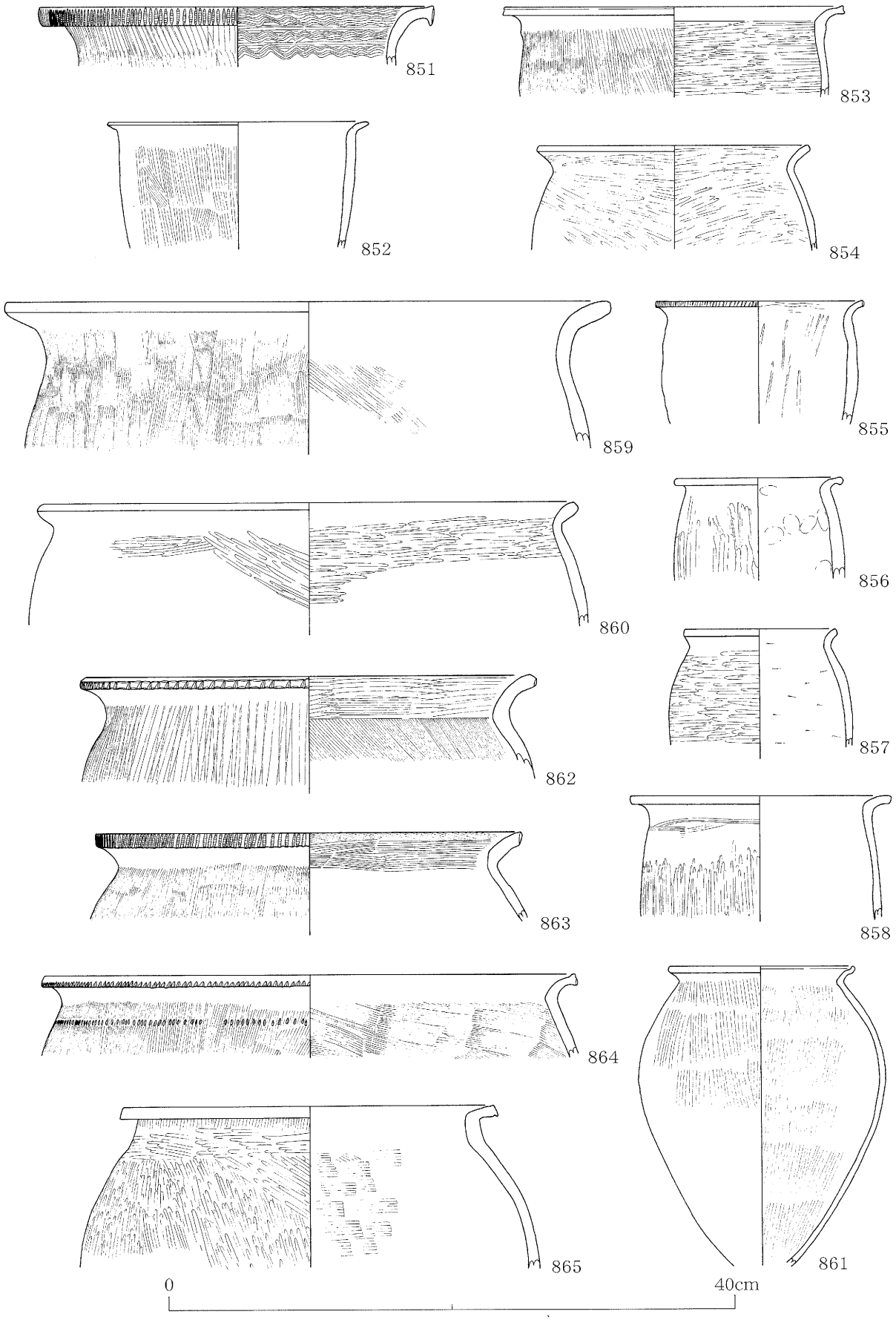
843は水差形土器である。口縁部が外上方に伸び、口縁端部がやや丸く終わる。口縁端部に半円形の切込みを入れる。外面に櫛描簾状文を施す。文様帯間は研磨する。内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

844～881は甕である。844は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁部直下に握手を貼り付けた痕跡が残る。845～850は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部にヘラ描沈線文を施す。851は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に櫛原体による刻み目を施す。外面はハケメ調整する。口縁部内面は横方向のハケメ調整の後、櫛描波状文を施す。852～860は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。体部内外面はハケメ調整とヘラミガキ調整するものが多い。855は口縁端部に刻め目を施す。862は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部内外面はハケメ調整する。862～871・875～881は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整が多い。862～864は口縁端部に刻み目を施す。864は体部にも刻み目を施す。872～874は口縁端部を下方へ拡張する。872・873は口縁端部に刻み目を施す。845～850はⅠ様式、851～860はⅡ様式、861～881はⅢ～Ⅳ様式。847・851は非河内産、他は生駒西麓産。

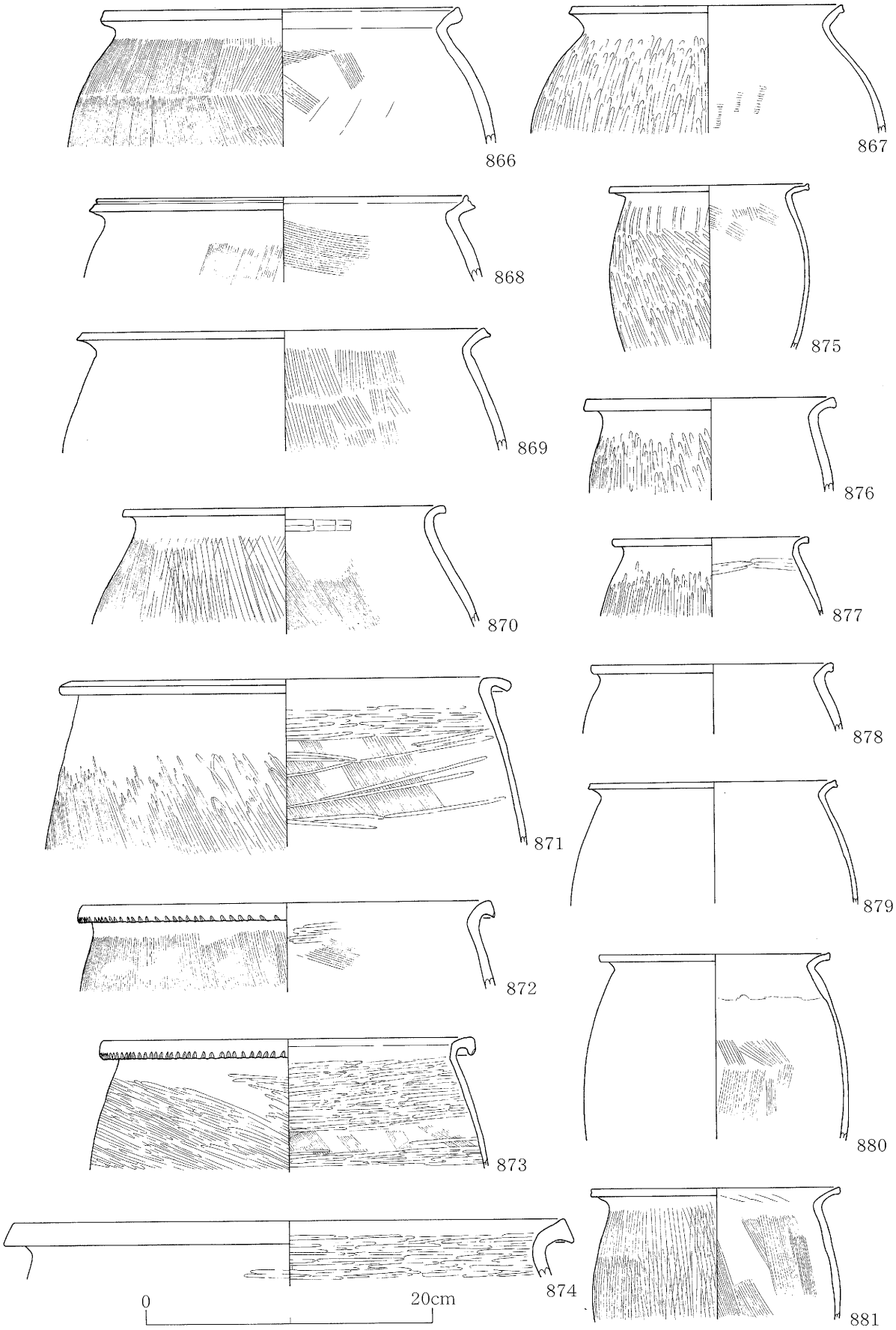
882～890は鉢である。882～884は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。882は口縁部直下に瘤状を呈する握手が付く。885・886は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。887は体部が外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。888・889は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部外面に櫛描文様や凹線文を施す。890は口縁部が外反するミニチュアの鉢である。882・883・887はⅡ様式、885・886・888・889はⅢ～Ⅳ様式、890は中期。生駒西麓産。

891は甕蓋である。体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。体部外面はナデ調整、内面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

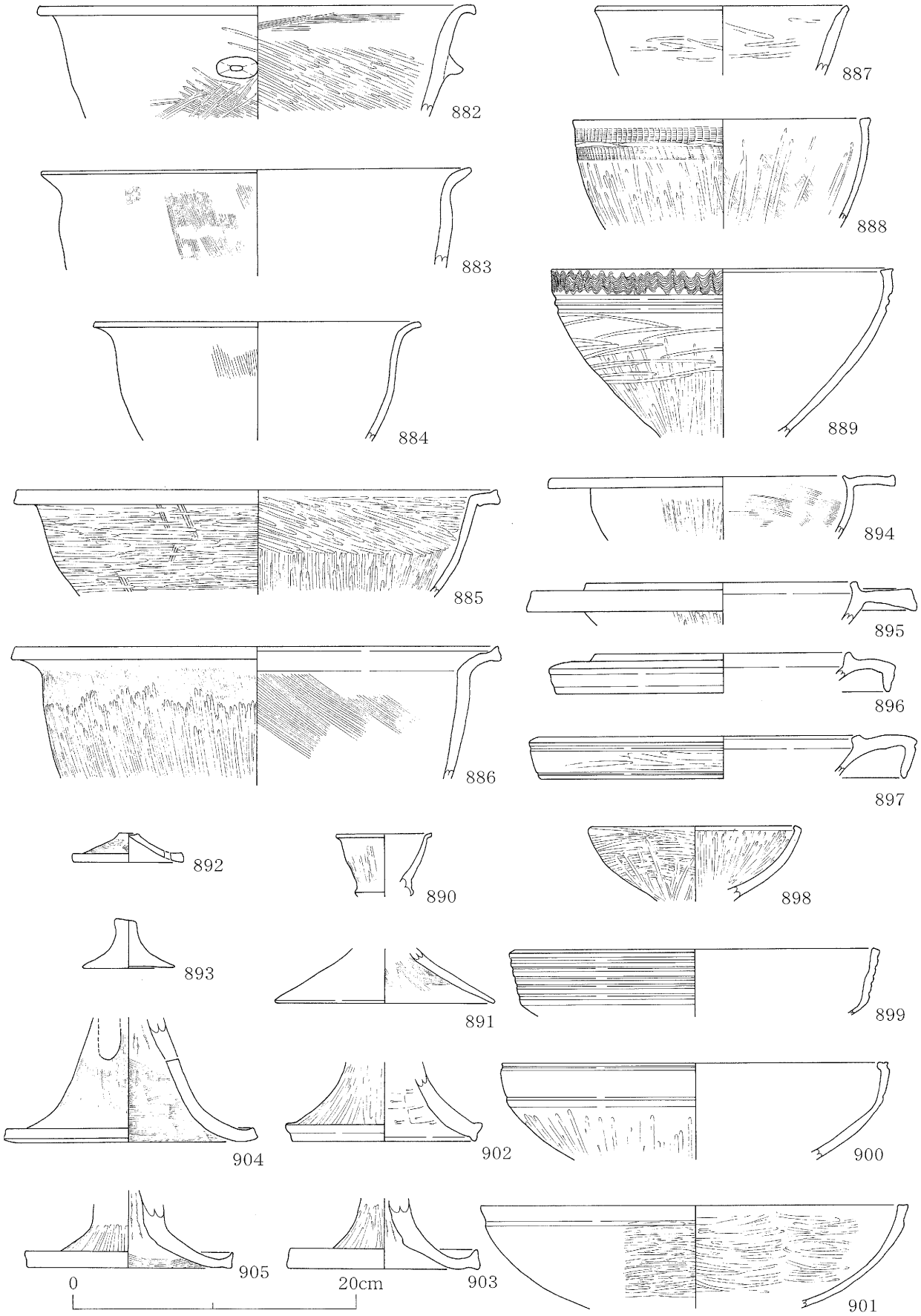
892・893は壷蓋である。892は体部の立ち上がりがゆるく、口縁端部が面を持つ。円形のつまみが付く。小円孔を穿つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。893は体部の立ち上がりが急であり、口縁端部が丸く終わる。円形の長いつまみが付く。中実である。他の器種の可能性がある。中期。生駒西麓産。



第79図　7工区第13層出土土器実測図



第80図　７工区第13層出土土器実測図



第81図　７工区第13層出土土器実測図

894～905は高坏である。894は体部が内湾気味に立ち上がる。口縁部は水平方向に伸びる。内面に１条の凸帯を廻らす。断面形が円形を呈する。895～897は体部が外上方に伸びる。口縁部が水平方向に伸びる895とさらに長く垂下する896・897がある。内面に１条の凸帯を廻らす。断面形がコの字形を呈する。898～901は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部に凹線文を施すものと無文のものがある。901は体部に段が付く。902～905は裾部の立ち上がりが急であり、裾端部を上方へ拡張するものと面をもつものがある。904は楕円形と考えられる透かし孔を穿つ。Ⅲ～Ⅳ様式。904は非河内産、他は生駒西麓産。

７工区第14層（第82図906～915）

鉢・高坏・壷・甕の器種がある。

906・907は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に７条のヘラ描沈線文を施す。体部内外面はナデ調整する。907は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。906はⅠ様式。生駒西麓産。907はⅡ様式。非河内産。

908は高坏である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

909・910・911は壷である。909・911は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部にヘラ描沈線文を施す。910は口縁端部が面を持つ。指による押圧を加え、口縁端部が波状を呈する。909・911はⅠ様式、910はⅡ様式。生駒西麓産。

912は細頸壷である。頸部が上方に伸び、口縁部が強く内湾する。口縁端部はやや面を持つ。外面に櫛描波状文と直線文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

913～915は甕である。913は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。914は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はナデ調整、内面はヘラケズリ調整する。915は体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。913はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。913は非河内産。他は生駒西麓産。

７工区第15層（第82図916～925）

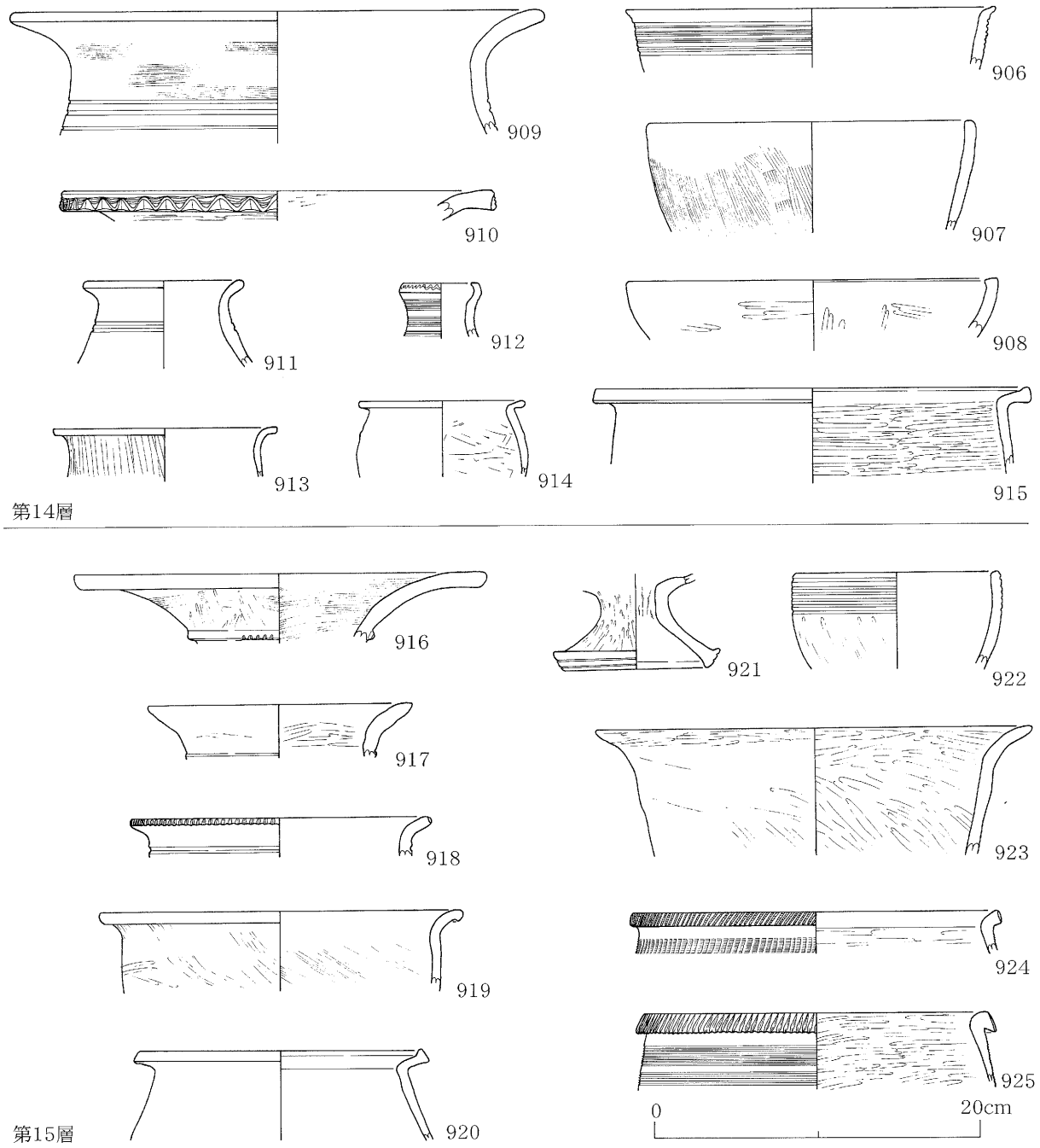
壷・甕・高坏・鉢の器種がある。

916・917は壷である。916は口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや丸く終わる。頸部に刻み目凸帯を施す。内外面はハケメ調整する。917は口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部にヘラ描沈線文を施す。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

918～920は甕である。918は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部にヘラ描沈線文を施す。体部内外面はナデ調整する。919は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。920は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は摘み上げ気味に上方へ拡張する。調整法は不明。918はⅠ様式、919はⅡ様式、920はⅢ～Ⅳ様式。920は非河内産、他は生駒西麓産。

921は高坏である。他の器種の可能性もある。裾部の立ち上がりは急であり、柱状部は短い。裾端部は面を持つ。裾端部に凹線文を施す。外面はヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

922～925は鉢である。922は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の



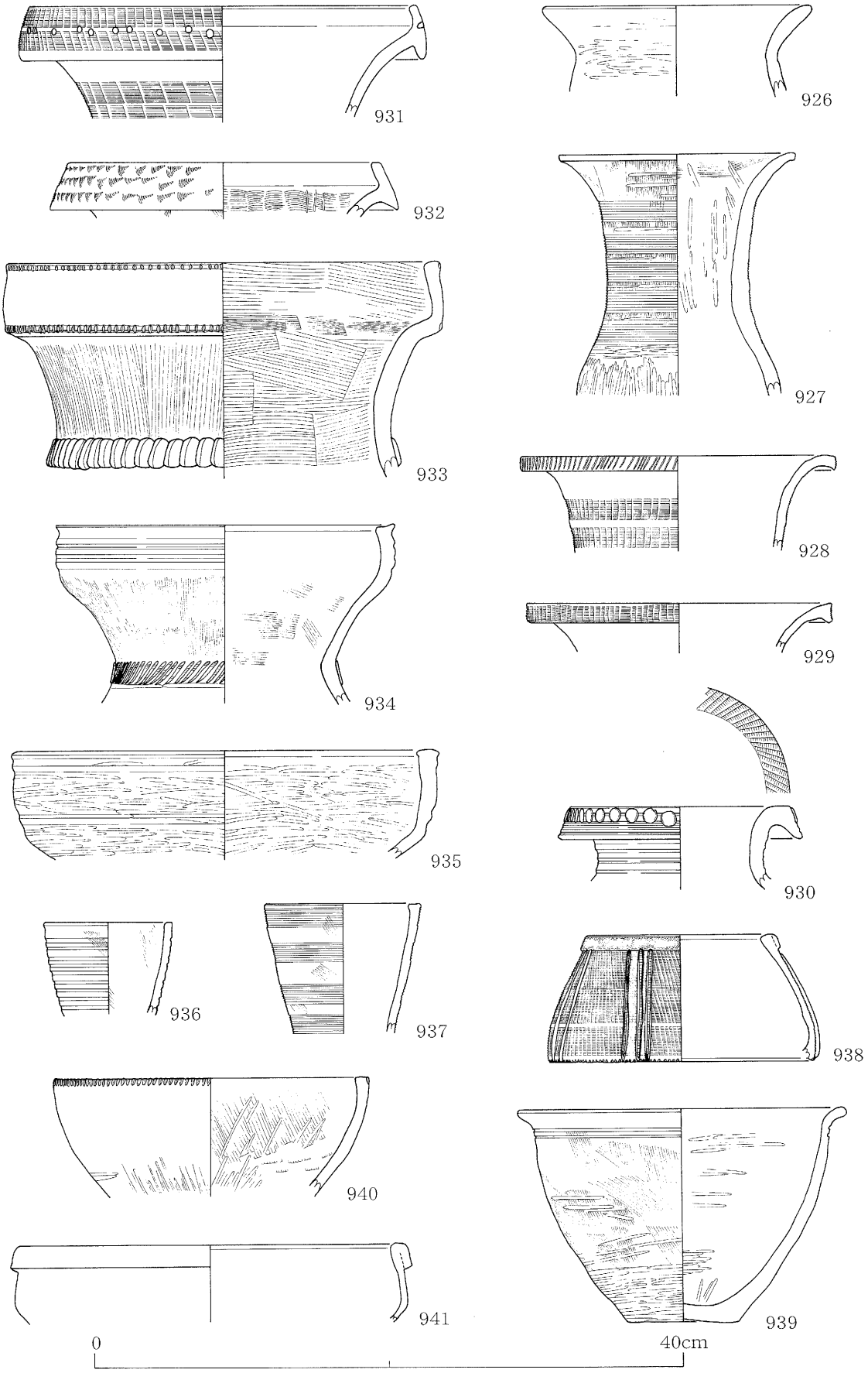
第82図　7工区第14・15層出土土器実測図

鉢である。体部に6条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。923は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整する。924・925は体部が内傾する。口縁部は折れ曲がる。口縁端部と体部に刻み目や櫛描文様を施す。内面はヘラミガキ調整する。922はⅠ様式、923はⅡ様式、924・925はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

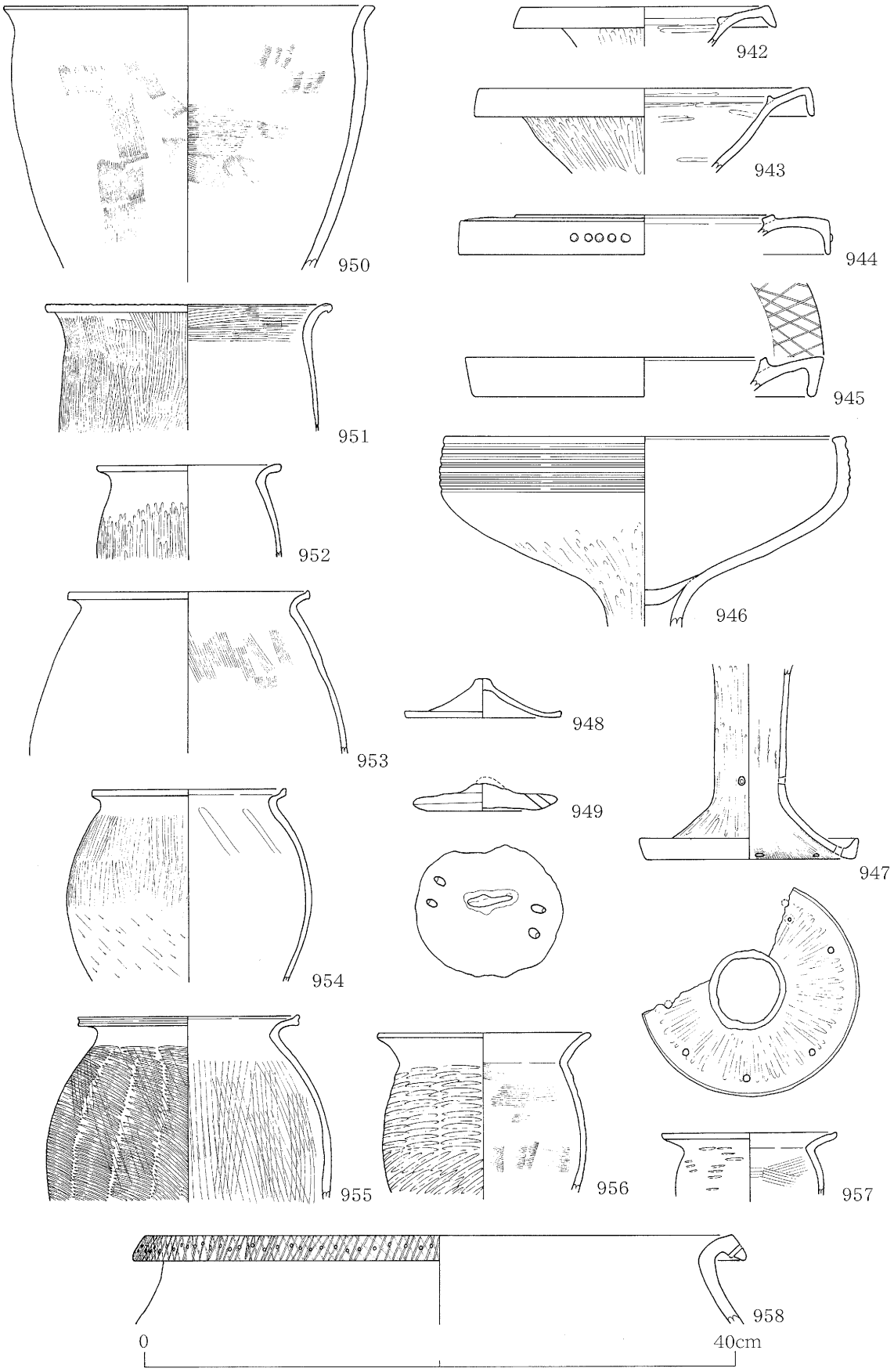
7工区第11～15層（第83・84図926～958）

壷・細頸壷・無頸壷・鉢・高坏・壷蓋・甕の器種がある。

926～935は壷である。926は体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。927は体部がやや球形を呈し、頸部が長い。口縁部は大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。頸部外面はハケメ調整、内



第83図　7工区第11～15層出土土器実測図



第84図　7工区第11～15層出土土器実測図

面はハケメの後ヘラミガキ調整する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。928・929は口縁部が大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。930は頸部が短く、口縁端部が下方へ大きく折れ曲がる。幅広の面を持つ。口縁端部は凹線文と円形浮文、頸部は凹線文、口縁部内面は櫛描列点文を施す。931・932は口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様と円形刺突文を施す。933～935は口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部には刻み目や凹線文を施す。933・934は体部と頸部の境に刻み目を施した凸帯を貼り付ける。926・927はⅡ様式、他はⅢ様式。930・933は非河内産、他は生駒西麓産。

936・937は細頸壷である。口縁部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。936は凹線文、937は櫛描直線文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。936は非河内産、937は生駒西麓産。

938は無頸壷である。体部は内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部に櫛描列点文、体部に簾状文を施す。体部には刻み目を入れた棒状浮文を貼り付ける。体部の中位にも刻め目を施す。内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

939～941は鉢である。939は底部が平底を呈する。体部は張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に２条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメの後、ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整する。940は口縁部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。所謂、直口の鉢である。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後、ヘラミガキ調整する。941は体部が内傾する。口縁端部が段を持つ。無文である。調整法は不明。939はⅠ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

942～947は高坏である。942～945は体部が外上方に伸びる。口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。内面に１条の凸帯を廻らす。断面形が三角形のものとコの字形を呈するものがある。944は口縁端部に円形浮文を貼り付ける。945は水平部分に斜格子の暗文を施す。946は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部に６条の凹線文を施す。947は裾部の立ち上がりが急であり、裾端部を上方へ拡張する。柱状部は長く、中空である。柱状部と裾部に小円孔を穿つ。Ⅲ～Ⅳ様式。944は非河内産、他は生駒西麓産。

948・949は壷蓋である。948は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が面を持つ。円形のつまみが付く。小円孔を穿つ。949は体部が扁平である。口縁端部は丸く終わる。つまみは楕円形を呈する。２ヶ１対の小円孔を穿つ。中期。生駒西麓産。

950～958は甕である。950・952は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。951は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。953は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。954・955は体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は摘み上げ気味に上方へ拡張する。954は体部外面の上半をハケメ調整、下半をヘラケズリ調整する。内面はナデ調整する。955は体部外面をタタキの後、部分的なハケメ調整する。内面はハケメ調整する。956・957は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はタタキ調整、内面はハケメ調整する。958は口縁端部が下方へ折れ曲がる。口縁端部にヘラ描斜格子文と円形刺突文を施す。950～952はⅡ様式、953～955・958はⅢ～Ⅳ様式、956・957はⅤ様式。951・957は非河内産、他は生駒西麓産。

３）古墳時代以降の土器

古墳時代～近世の土器がある。須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・陶器などがあり、弥生時代の遺物包含層より上の遺構と遺物包含層より出土した。

遺構出土土器

溝１（第85図959）

959は陶器の椀である。高台の底面と体部を欠損する。体部外面に染付けの線を施す。内外面に施釉する。近世。

溝６（第85図960・961）

瓦器と須恵器がある。

960は瓦器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台は低い。内外面の調整法は不明。中世。

961は須恵器の坏である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

溝７（第85図962・963）

962・963は須恵器の甕である。962は口縁部が外反する。口縁端部は面を持つ。963は口縁部が内傾しながら立ち上がる。口縁端部は面を持つ。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

溝60（第85図964）

964は黒色土器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台はやや高い。内面を黒く燻す。所謂、内黒である。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。平安時代。

溝67（第85図965）

965は体部を欠損するが須恵器の壷である。底部は上方へ膨らむが焼成時の変形である。断面形がコの字形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

落ち込み１（第85図966～976）

陶器・黒色土器・土師器がある。

966～973は陶器である。椀と皿がある。966～971は椀である。体部内外面に絵柄を施す。内外面に施釉する。972は皿である。口縁部が外反する。内面に線の絵柄を施す。所謂、染付けである。973は皿の底部である。底部は糸切り底である。底部と体部外面の下以外は施釉する。色調が淡緑灰色を呈する。近世。

974は黒色土器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が台形の高台を貼り付ける。高台はやや高く、ハの字形に広がる。内面を黒く燻す。所謂、内黒である。調整法は不明。平安時代。

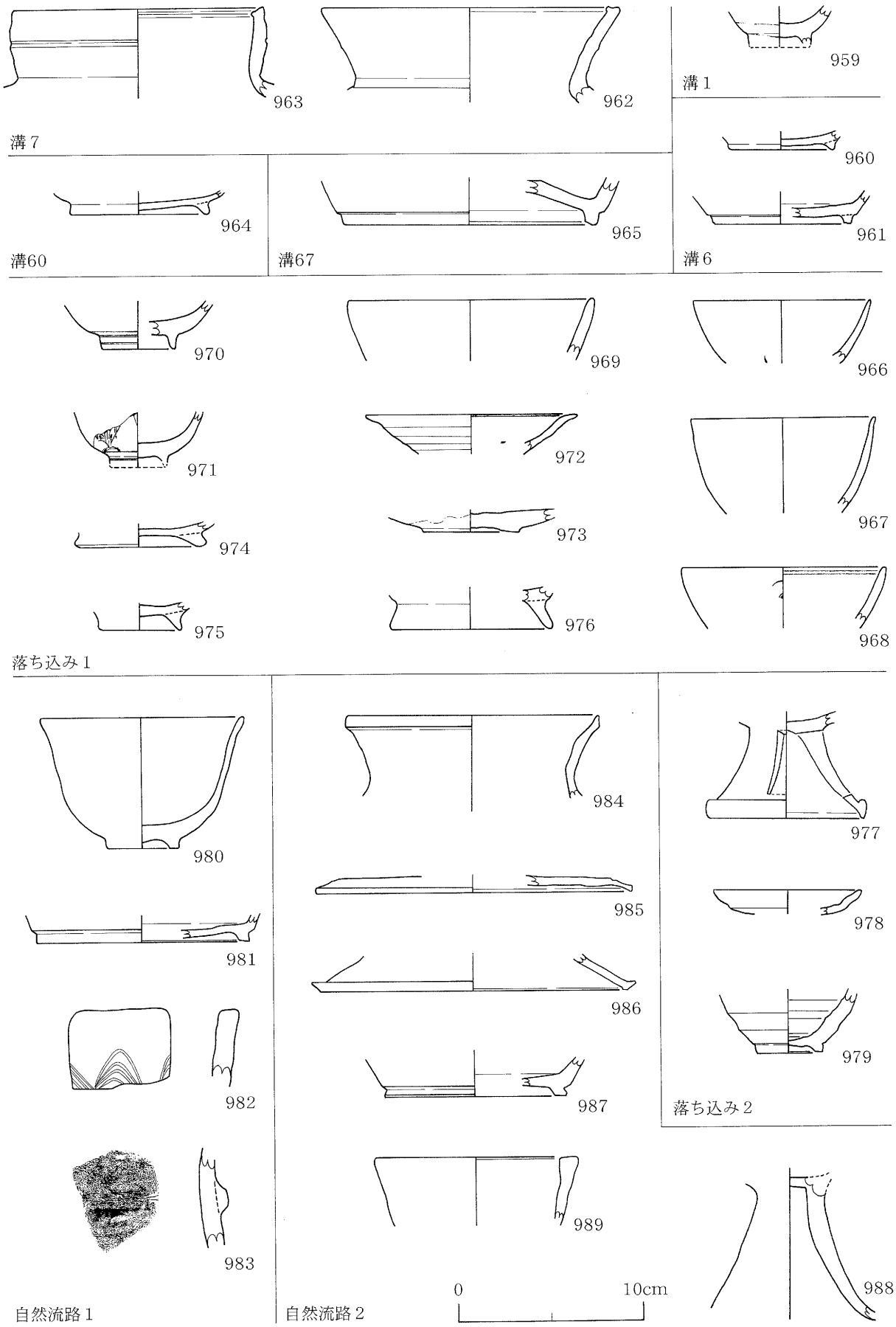
975・976は土師器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台は高い。内外面はナデ調整する。奈良～平安時代。

落ち込み２（第85図977～979）

須恵器と土師器がある。

977・979は須恵器である。977は高坏の脚部である。所謂、短脚一段透かしの高坏である。内外面は回転ナデ調整する。古墳時代。979は小形の壷である。断面形がコの字形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

978は土師器の皿である。口縁部やや外反し、口縁端部が丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世。



第85図　溝1・6・7・60・67、落ち込み1・2、自然流路1・2出土土器実測図

自然流路１（第85図980～983）

陶器・須恵器・瓦器・埴輪がある。

980は陶器の椀である。深い体部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。底部は断面形がコの字形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。底部の外面以外は施釉する。色調が淡紫灰色を呈する。二次焼成を受け、煤が付着する。近世。

981は須恵器の坏である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

982は瓦器の火舎である。細片のため形態は不明である。口縁端部がやや面を持つ。外面に波状文を施す。調整法は不明。中世。

983は埴輪である。円筒埴輪のタガの部分である。タガは低く、断面形がやや丸い台形を呈する。内外面の調整法は不明。古墳時代。

自然流路２（第85図984～989）

須恵器・土師器・製塩土器がある。

984～987は須恵器である。甕・蓋坏・高坏・坏がある。984は甕である。口縁部が外上方へ大きく伸び、口縁端部が上方へ尖り気味に終わる。内外面は回転ナデ調整する。985は蓋坏である。天井部は低く、口縁端部が面を持つ。内外面は回転ナデ調整する。986は高坏の脚部である。裾端部を上方へやや拡張する。内外面は回転ナデ調整する。987は坏である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。984・986は古墳時代。985・987は奈良～平安時代。

988は土師器の高坏である。坏部と裾部を欠損する。内外面ははヨコナデ調整する。古墳時代。

989は製塩土器である。体部が外上方へ伸び、口縁端部がやや面を持つ。外面は未調整で指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。奈良～平安時代。

遺物包含層出土土器

６工区第２層（第86図990）

990は陶器の椀である。体部を欠損する。断面形がコの字形の高台を削りだす。高台は低い。内外面は回転ナデ調整する。底部と体部の下外面以外は施釉する。色調が淡緑褐色を呈する。近世。

６工区第５層（第86図991～993）

991～993は土師器の皿である。口縁部が内傾しながら立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世。

６工区第６層（第86図994～997）

土師器・黒色土器・須恵器がある。

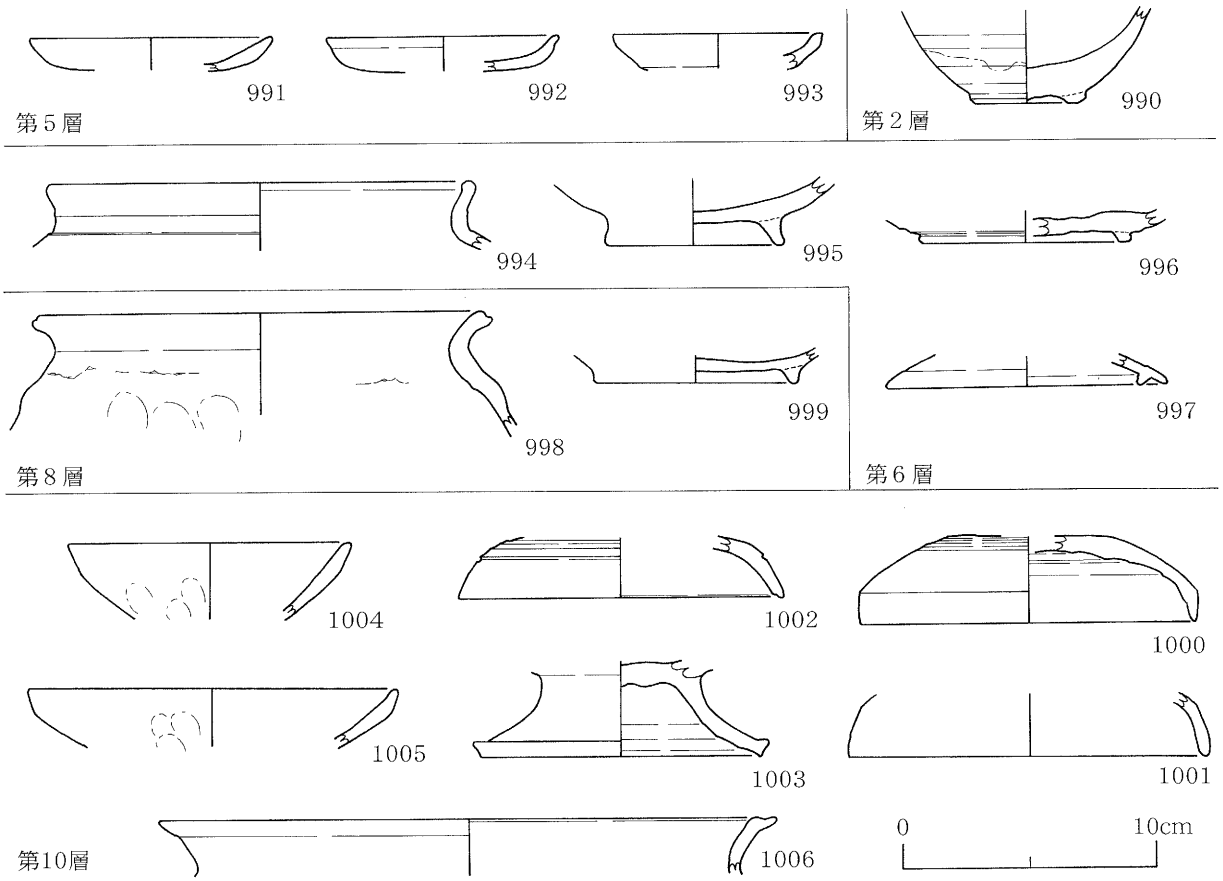
994は土師器の甕である。口縁部が強く外反し、口縁端部が内側へやや肥厚する。内外面はヨコナデ調整する。平安時代。

995は黒色土器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台は高い。内面を黒く燻す。所謂、内黒である。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。平安時代。

996・997は須恵器である。坏と蓋坏がある。996は坏である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。997は蓋坏である。天井部はやや丸い。口縁端部は丸く終わり、内面に受部が付く。内外面は回転ナデ調整する。古墳時代。

６工区第８層（第86図998・999）

土師器と黒色土器がある。



第86図　6工区第2・5・6・8・10層出土土器実測図

998は土師器の甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面は未調整で指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。平安時代。

999は黒色土器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台は低い。内面を黒く燻す。所謂、内黒である。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。平安時代。

6工区第10層（第86図1000～1006）

須恵器と土師器がある。

1000～1003は須恵器である。蓋坏と高坏がある。1000～1002は蓋坏である。天井部はやや丸い。口縁端部は丸く終わる。天井部外面は回転ヘラケズリ調整、他を回転ナデ調整する。1003は高坏の脚部である。脚部は短い。裾端部は面を持つ。内外面は回転ナデ調整する。古墳時代。

1004～1006は土師器である。坏と甕がある。1004・1005は坏である。体部が外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。体部外面は未調整。指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。1006は甕である。口縁部が外反し、口縁端部が上方に面を持つ。内外面はヨコナデ調整する。平安時代。

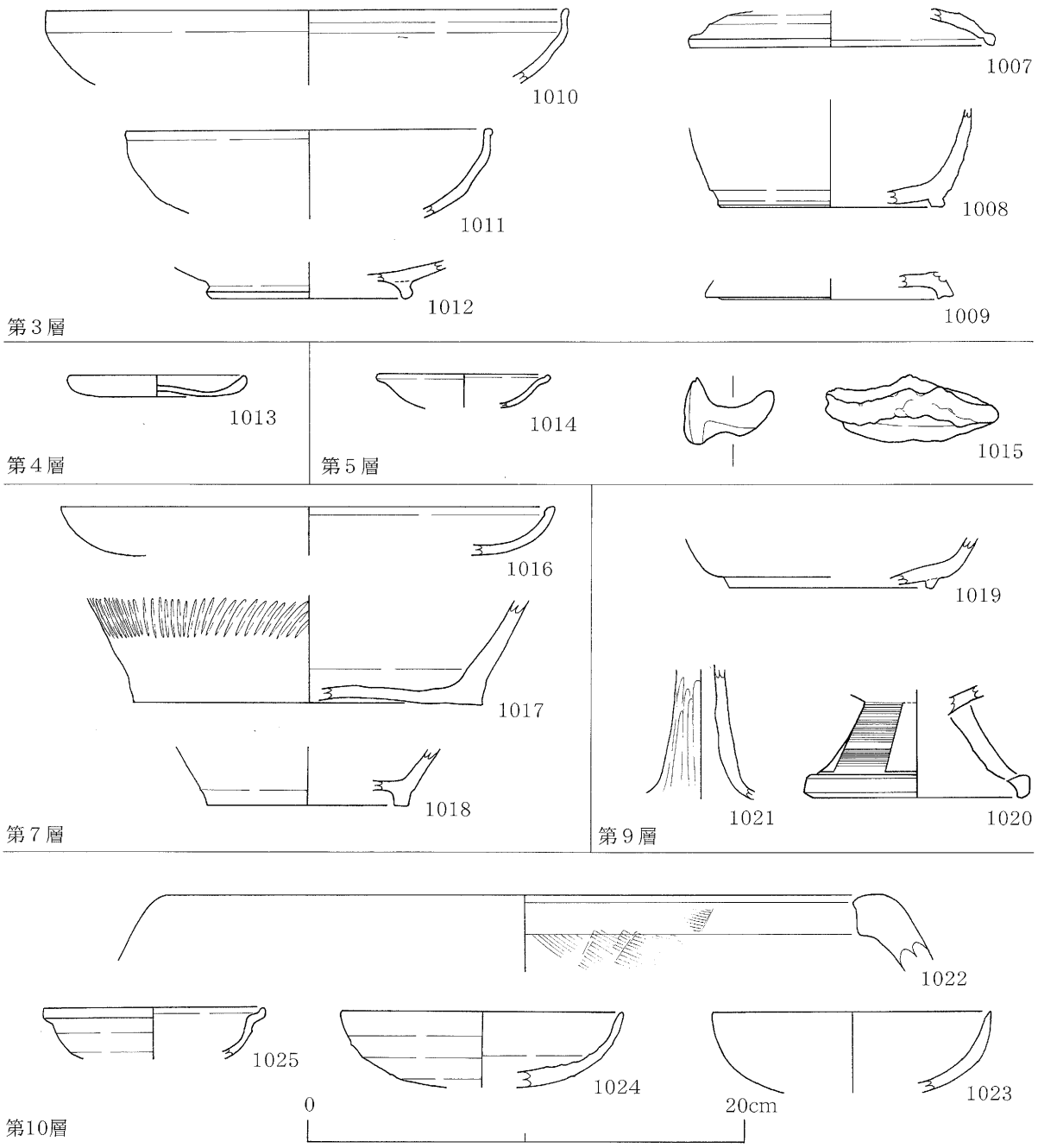
7工区第3層（第87図1007～1012）

須恵器・土師器・緑釉陶器がある。

1007～1009は須恵器である。蓋坏と壷がある。1007は蓋坏である。天井部はやや丸く、口縁端部が内側へ肥厚する。内外面は回転ナデ調整する。1008・1009は壷である。断面形がコの字形の高台を削りだす。1008は体部の張りが少ない。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

1010・1011は土師器の鉢である。体部が内傾しながら立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は1010が丸く終わり、1011が外側へやや肥厚する。体部内外面はナデ調整する。奈良～平安時代。

1012は緑釉陶器の椀である。断面形がコの字形の高台を貼り付ける。内外面に施釉する。色調が淡



第87図　７工区第３～５・７・９・10層出土土器実測図

緑色を呈する。平安時代。

７工区第４層（第87図1013）

1013は土師器の皿である。底部は凹底であり、口縁部が内傾しながら立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世。

７工区第５層（第87図1014・1015）

1014・1015は土師器である。皿と鍋がある。1014は皿である。体部がやや丸く、口縁部が強く外反する。口縁端部は内側へやや肥厚する。内外面はナデ調整する。1015は鍋の握手である。外面に指頭圧痕が残る。平安時代。

７工区第７層（第87図1016～1018）

土師器・陶器・須恵器がある。

1016は土師器の皿である。口縁部が内傾しながら立ち上がる。口縁端部は内側へ肥厚する。内外面はナデ調整する。奈良～平安時代。

1017は陶器の甕である。平底の底部より体部が外上方に伸びる。外面は平行のタタキ調整、内面はナデ調整する。

1018は須恵器の壷である。体部は外上方へ伸び、断面形がコの字形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

7工区第9層（第87図1019～1021）

須恵器と土師器がある。

1019・1020は須恵器である。坏と高坏がある。1019は坏である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。1020は高坏の脚部である。裾端部はやや肥厚する。所謂、短脚一段透かしの高坏である。外面はカキメ調整、内面は回転ナデ調整する。古墳時代。

1021は土師器の高坏である。坏部と裾部を欠損する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。古墳時代。

7工区第10層（第87図1022～1025）

土師器と須恵器がある。

1022・1023は土師器である。竈と坏がある。1022は竈である。口縁部が内側へ大きく内傾する。口縁端部が面を持つ。外面はナデ調整、内面はハケメ調整する。詳細な時期は不明。1023は坏である。体部は丸く、口縁部が上方へ伸びる。口縁端部は尖り気味に終わる。内外面はナデ調整する。奈良～平安時代。

1024・1025は須恵器の杯である。1024は体部が丸く、口縁部が上方へ伸びる。口縁端部は尖り気味に終わる。体部外面は回転ヘラケズリ調整、内面は回転ナデ調整する。古墳時代。1025は体部が丸く、口縁部が外反する。口縁端部は面を持つ。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

2. 土製品（第88図1026～1048）

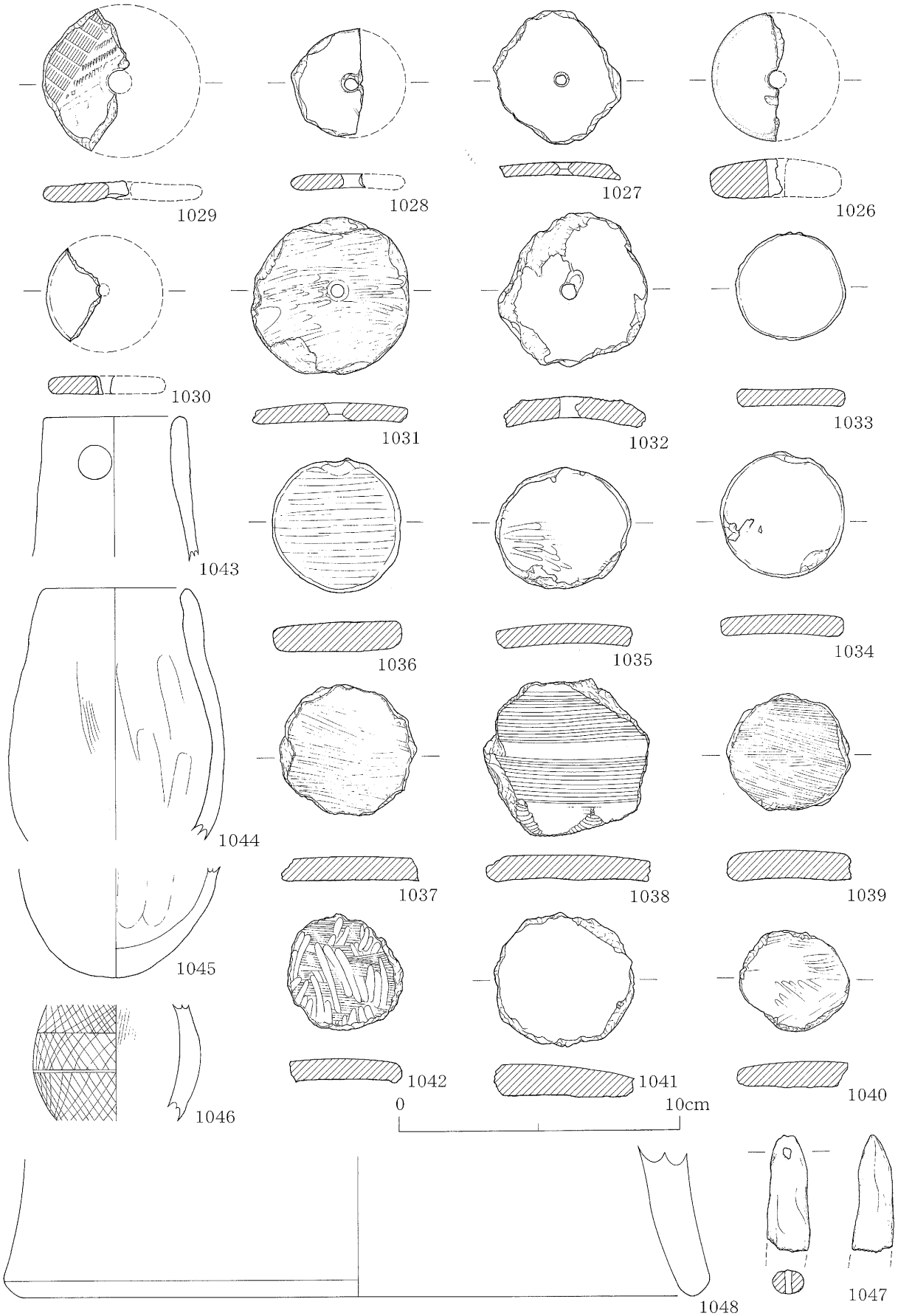
弥生時代の遺構と遺物包含層より出土した。紡錘車・円板状土製品・蛸壺・不明土製品・土錘・台状土製品がある。

1026～1032は紡錘車である。1026と1030は紡錘車として焼成前に作られている。円の中央に棒輪の孔を穿つ。全体はナデ調整で丁寧に仕上げる。1027～1029・1031・1032は土器を転用する。円周部を打ち欠いただけのものや部分的に研磨するものがある。中央に孔を穿つ。径が約4～6cmを測る。遺物包含層より出土。

1033～1042は円板状土製品である。破損した土器の円周部を打ち欠いて円形に加工する。打ち欠いただけのものが多いが、円周部を研磨するものもある。土器の器種に関係なく利用されている。径が約4～6cmを測る。一部は前記した紡錘車として使用されたと考えられる。未掲載の資料も多量にあり、紡錘車の製作途中のものとしてはやや量が多い。遺物包含層より出土。

1043～1045は蛸壺である。底部は丸底であり、体部が内傾しながら上方へ伸びる。口縁端部は丸く終わる。口縁部直下に紐孔を一孔穿つ。内外面はナデ調整する。口径が約5cm、推定高11cmを測る。色調は乳灰色を呈し、非河内産である。1043と1045は遺物包含層より出土。1044は溝126より出土。

1046は用途不明の土製品である。形状は蛸壺の体部に似る。外面は横の直線を施した後、斜格子文で、全面を飾る。内面はナデ調整で仕上げる。鐸型土製品の可能性が考えられる。色調は淡灰色を呈


1029
1028
1027
1026
1030
1031
1032
1033
1043
1036
1035
1034
1044
1037
1038
1039
1045
1042
1041
1040
1046
0
10cm
1048
1047

第88図　土製品実測図

し、非河内産である。遺物包含層より出土。

1047は土錘である。先端部がやや尖った棒状を呈する。端部に小円孔を穿つ。下部を欠損するので断定できないが、土錘と思われる。遺物包含層より出土。

1048は台状土製品である。体部がハの字形を呈する。裾端部はやや丸く終わる。内外面はナデ調整する。遺物包含層より出土。

3. 石器

弥生時代の遺構や遺物包含層よりおもに出土した。打製石器、自然石を利用した石器、磨製石器などがある。中世期の砥石が1点ある。

1）磨製石器（第89～92図1049～1110）

石庖丁・太型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・小形石斧・局部磨製石斧・石剣・不明石器がある。

1049～1081は石庖丁である。背は半月形。刃は直線的であり、片刃で終わるものが多い。背に2孔の紐穴を穿つ。本来の位置より移動して穿たれた穴もある。また、製作時の敲打痕を残すものもある。1055は大型石庖丁からの転用と考えられる。1049は土坑20、1050は土坑97、1052・1076は自然流路4、1053は溝128、1054は溝85、1057・1072は土坑96、1060は土坑27、1064は土坑50、1067は溝103、1073は溝126、他は弥生時代遺物包含層より出土。

1082～1091は太型蛤刃石斧である。両面より刃部を磨いて作る。石斧製作時と破損後の転用による敲打痕が残るものが多い。1089は溝126、他は弥生時代遺物包含層より出土。

1092～1095は柱状片刃石斧である。全形の残るものはないが長方形を呈する。紐掛の抉りを施すものもある。弥生時代遺物包含層より出土。

1096は小形石斧である。形態は太型蛤刃石斧に似るが小形の石斧である。弥生時代遺物包含層より出土。

1097は局部磨製石斧である。打製石槍を転用したと考えられる。部分的に研磨によって刃部などを整える。扁平片刃石斧にした可能性が高い。弥生時代遺物包含層より出土。

1098・1099は有樋式の石剣である。1098は下部に長方形の茎を磨いて作る。身は上部を欠損する。身両面に2条の溝を入れ、樋とする。下部に小円孔を2孔穿つ。1099は茎部分である。弥生時代遺物包含層より出土。

1100は不明石器である。上部を欠損するが研磨した薄い板状の石器である。弥生時代遺物包含層より出土。

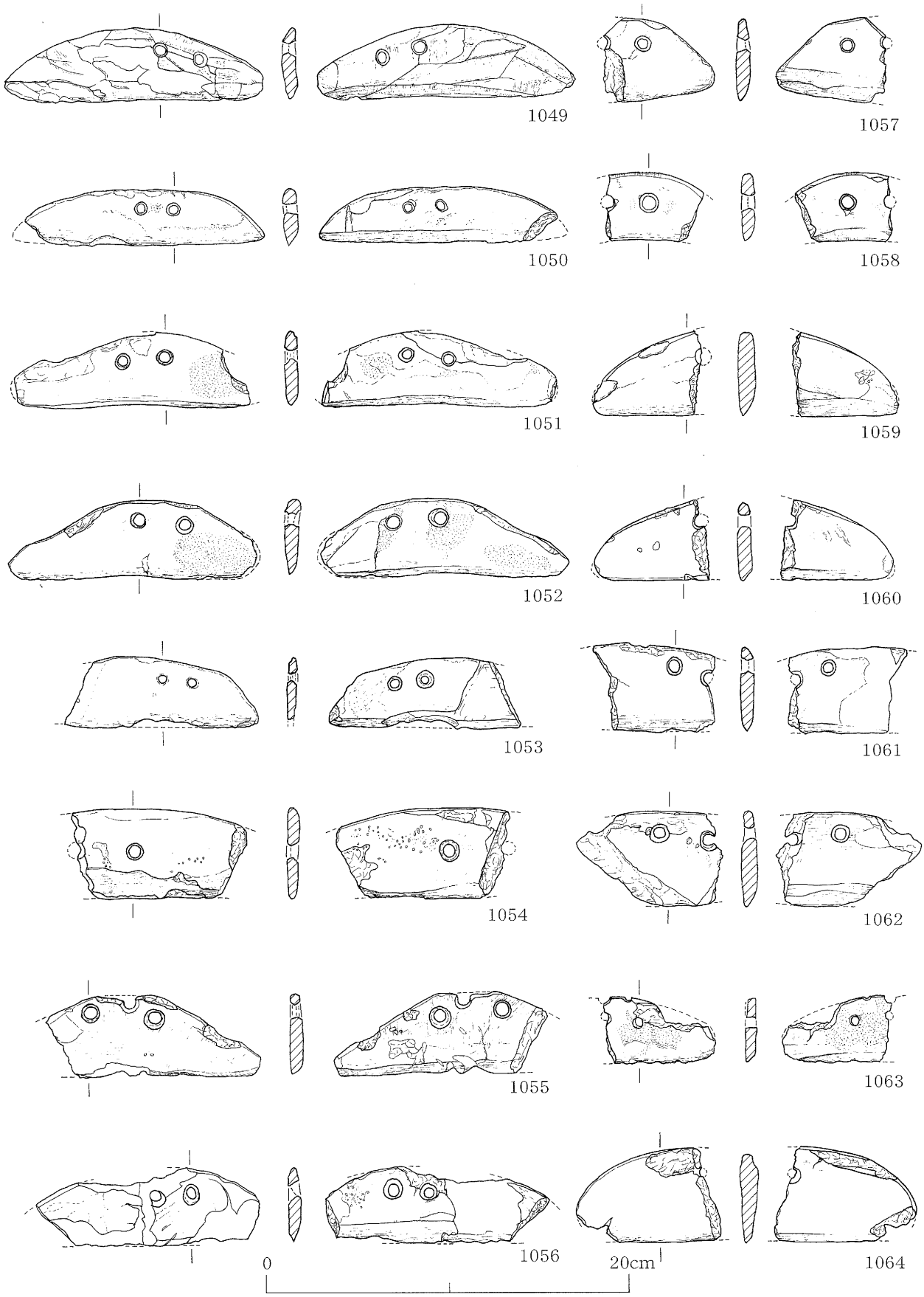
2）自然石を利用した石器（第92・93図1101～1111）

凹石と砥石がある

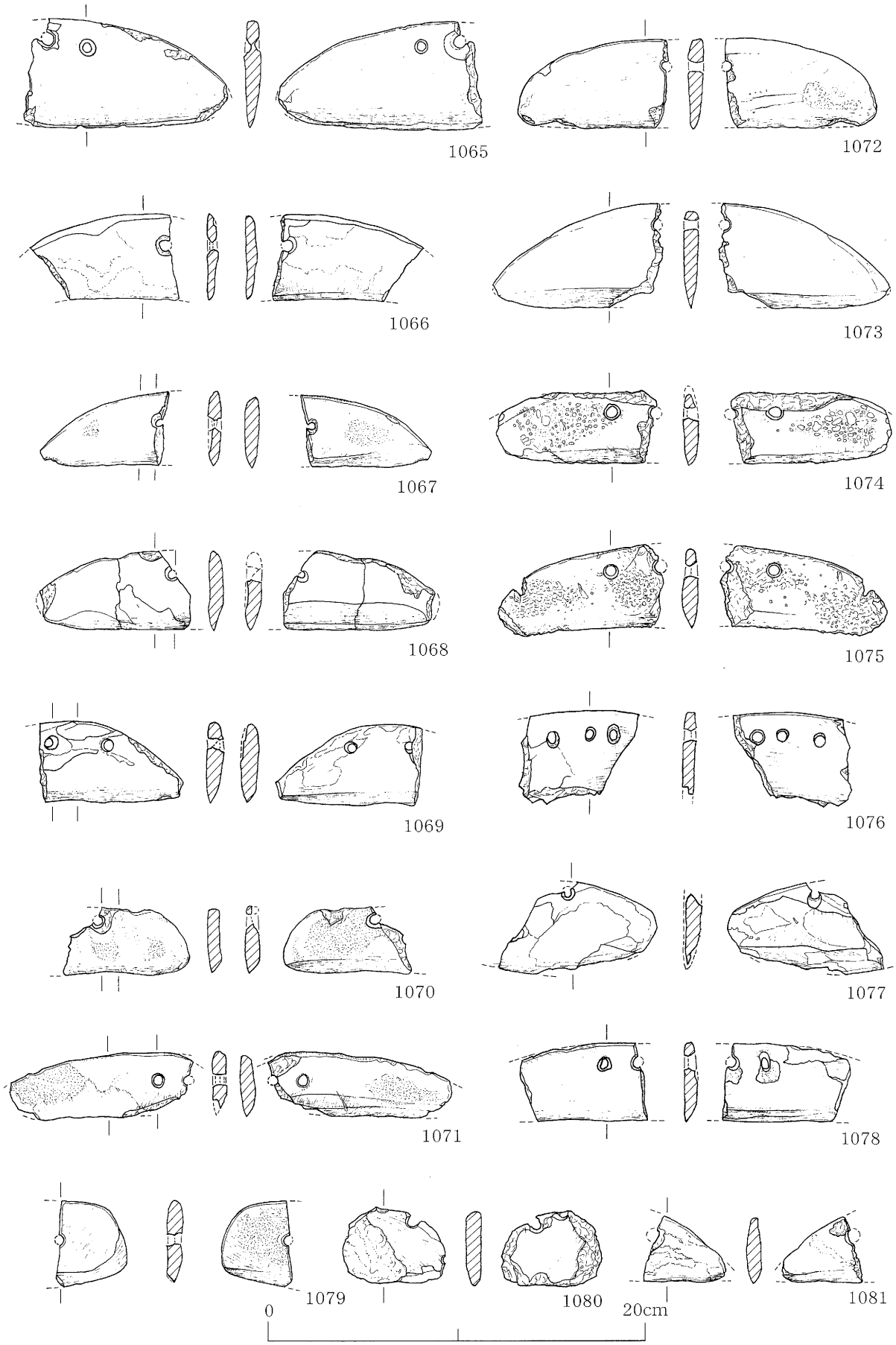
1101は凹石である。扁平な円形を呈する自然石の円周部に溝状の磨り痕がある。また、一面の中央部が磨り痕によって凹む。弥生時代遺物包含層より出土。

1102～1111は砥石である。1102は凝灰岩製の砥石である。長方形を呈し、4面に使用痕が残る。1103～1111は形態に企画性のない砥石である。1102は中世遺物包含層、1104は溝128、1108は落ち込み6、他は弥生時代遺物包含層より出土。

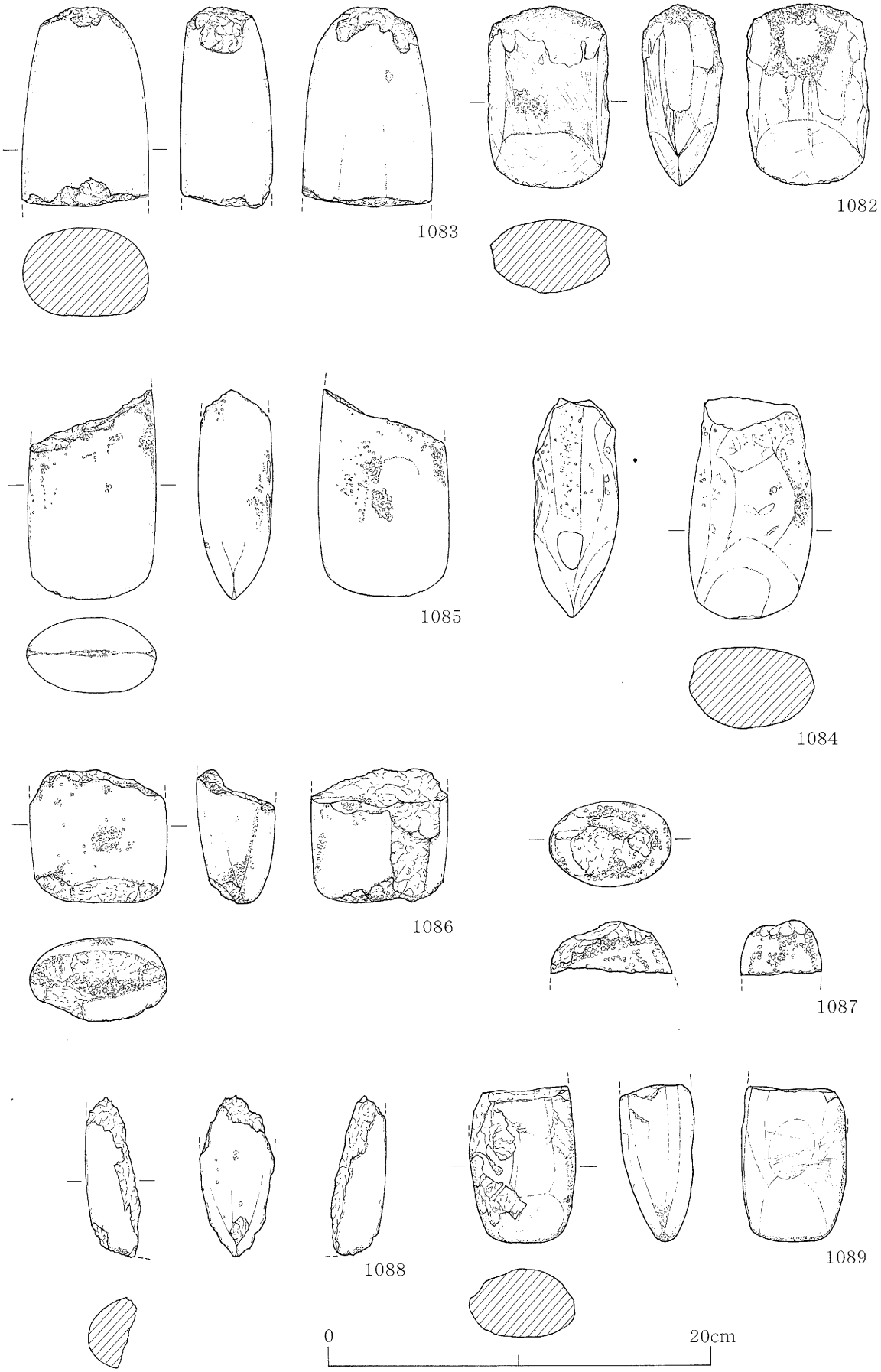
3）打製石器（第93～96図1112～1163）


1049
1057
1050
1058
1051
1059
1052
1060
1053
1061
1054
1062
1055
1063
1056
1064
0
20cm

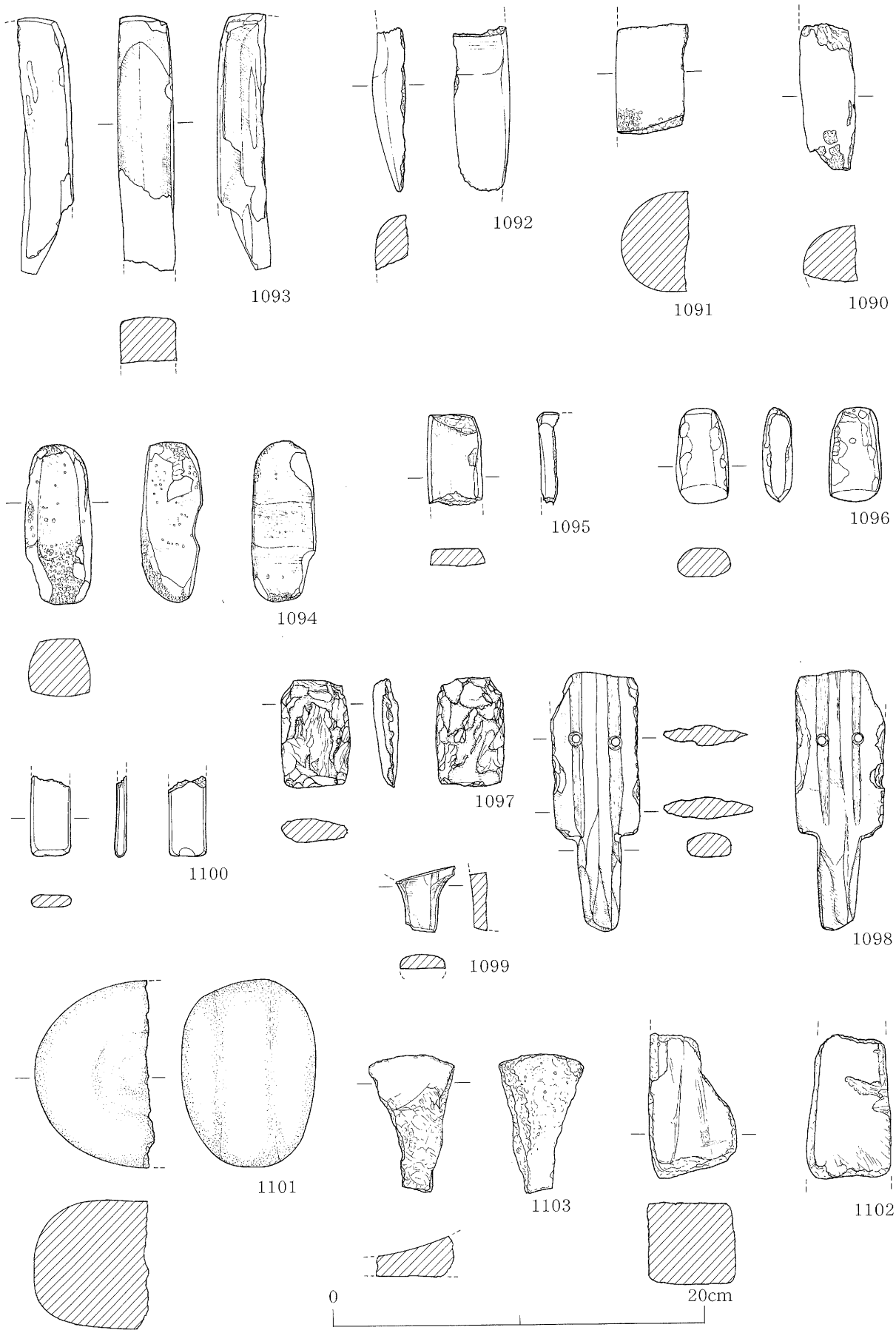
第89図　石器実測図


1065
1072
1066
1073
1067
1074
1068
1075
1069
1076
1070
1077
1071
1078
1079
1080
1081
0
20cm

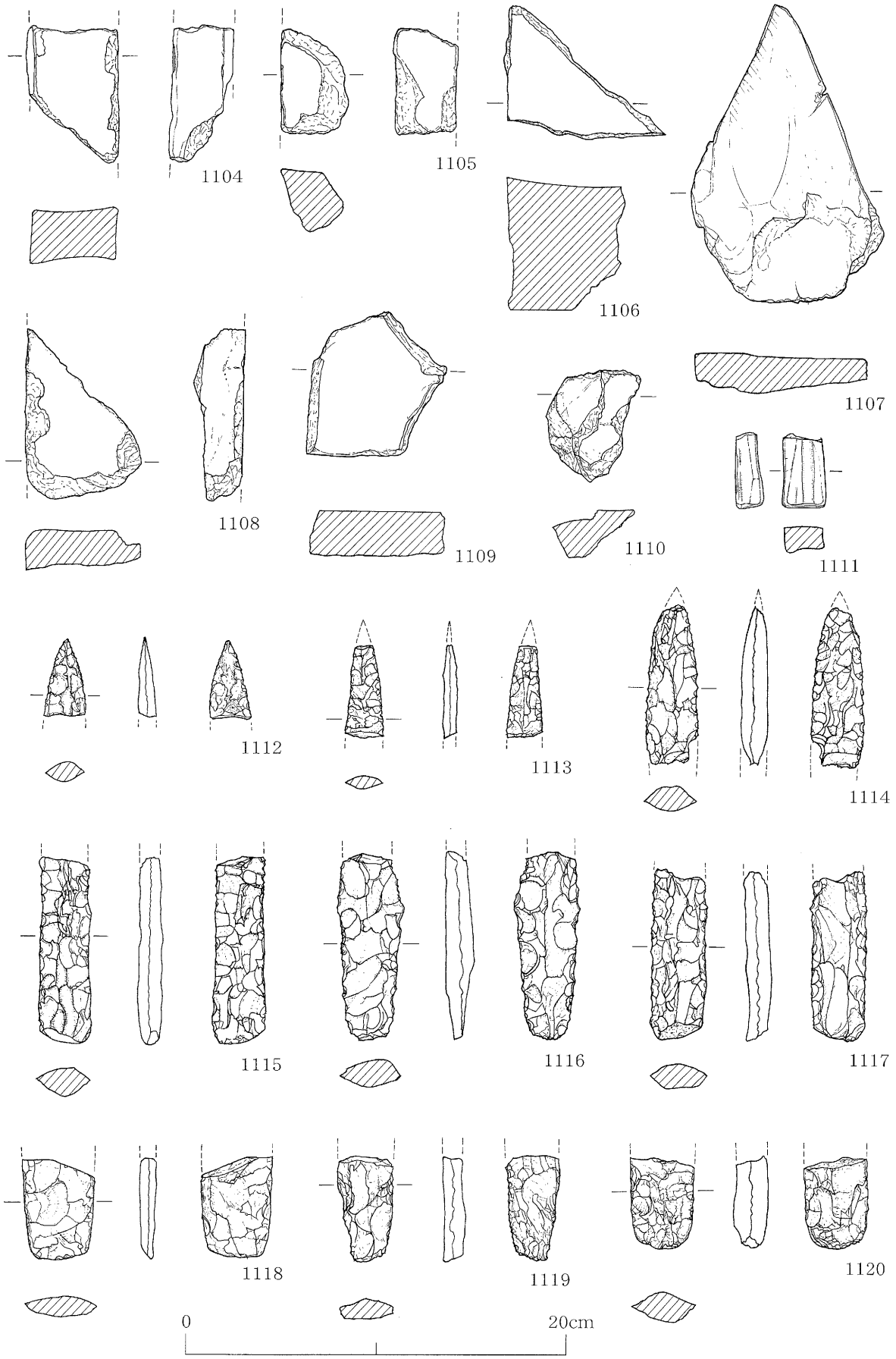
第90図　石器実測図



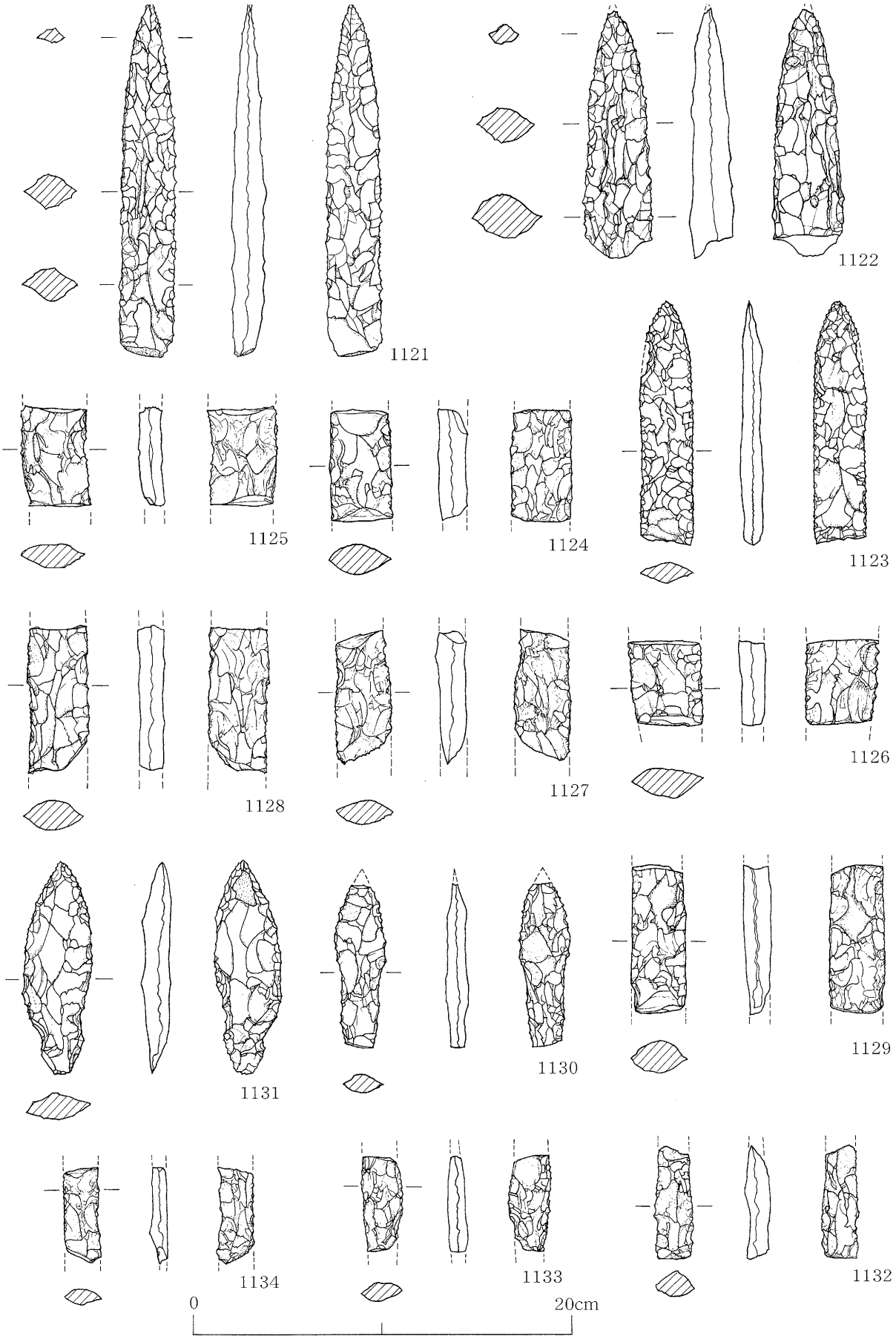
第91図　石器実測図


1093
1092
1091
1090
1094
1095
1096
1097
1100
1098
1099
1101
1103
1102
0
20cm

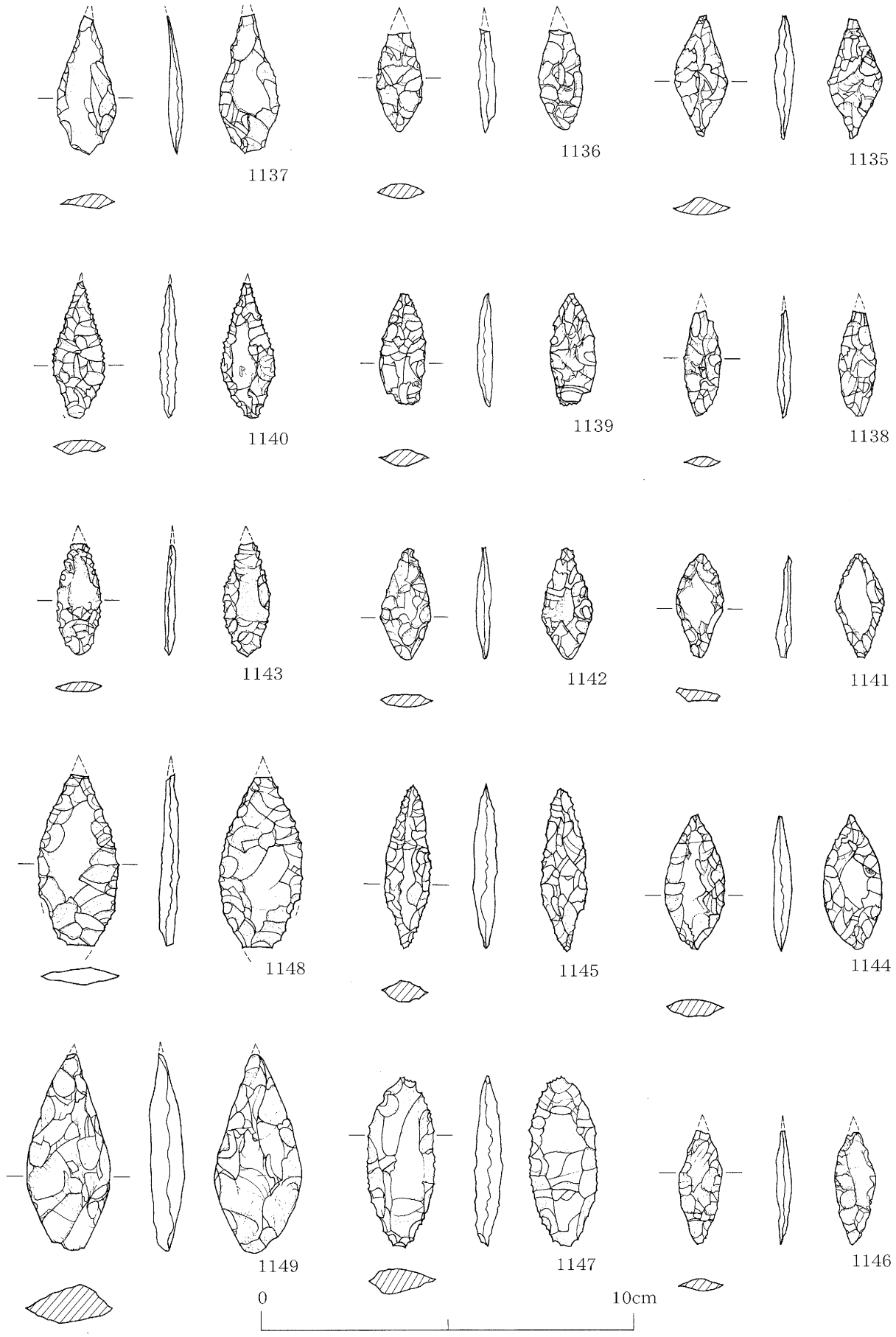
第92図　石器実測図


1104
1105
1106
1107
1108
1109
1110
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
0
20cm

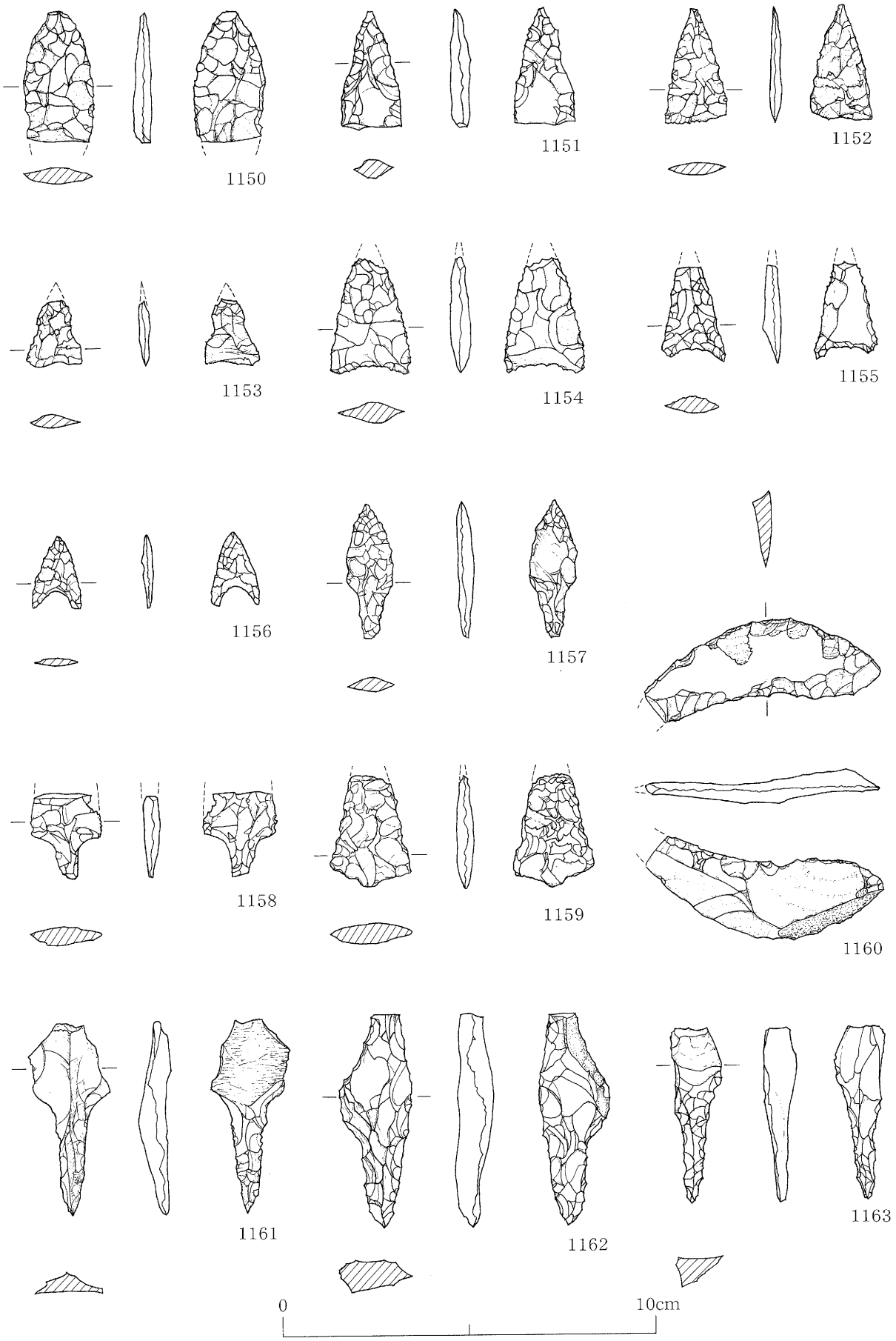
第93図　石器実測図


1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134
0
20cm

第94図　石器実測図


1137
1136
1135
1140
1139
1138
1143
1142
1141
1148
1145
1144
1149
1147
1146
0
10cm

第95図　石器実測図


1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
0
10cm

第96図　石器実測図

石槍・石鏃・石小刀・石錐がある。石材はサヌカイトである。

1112～1134は石槍である。近年、研究が進み石剣として扱われているものもあるが、石槍として記す。1121・1123・1131・1132はほぼ全形の判る資料である。大きく分けて幅が広く長いものと幅が狭く短いものがある。1131と1132は下部で両側縁に抉りを入れる。局部的に研磨するものもある。1112は土坑20、1118は土坑96、1121・1125は溝126、1122は溝99、1130は土坑38、他は弥生時代遺物包含層より出土。

1135～1159は石鏃である。細部は押圧剥離で整える。1135～1149は柳葉形の石鏃である。大きさや幅にも大小がある。また、1137や1141などは荒割りの面を残す。1150～1156は三角形の石鏃である。基部は平基や凹基などがある。1156は形態及び出土状況から考えると縄文時代の資料の可能性が高い。1157～1159は茎を有する石鏃である。1142は溝103、1146は土坑47、1152は土坑20、1153は土坑墓Ⅲ、他は弥生時代遺物包含層より出土。1138・1143・1156・1159は中世遺物包含層より出土しており、混入品と考えられる。

1160は石小刀である。刃部先端を欠損するがＪ字形を呈する。細部調整はやや荒い。弥生時代遺物包含層より出土。

1161～1163は石錐である。基部は荒割りの状態であり、先端部を細長く押圧剥離で整える。1162は原材面が残る。1161はピット874、1162・1163は弥生時代遺物包含層より出土。

4. 木製品

弥生時代と中近世の木製品が遺構と遺物包含層より出土した。文中に針葉樹と広葉樹を記すが、専門家による樹種同定ではなく、筆者の肉眼観察によるものである。一部、樹種同定をおこなったものもある。横断面の弧は木取りを表す。

1）弥生時代の木製品（第97～100図1164～1180）

1164は容器である。体部を欠損するが、円形を呈する。底部は柱状を呈する脚を4ヶ所に削り出すが、2脚を欠損する。作りは丁寧である。縦木取りである。材はヤマグワである。遺物包含層より出土。

1165は杓子である。柄と身を欠損する。身は大きく湾曲し、外面中央から柄に向けて帯状の突起を削り出す。作りは丁寧である。横木取りである。材はヤマグワである。遺物包含層より出土。

1166は抉り入り先尖板である。武器形木製品の剣に抉りを入れた形状を呈する。先端部は鋭利に削り出し、下部の1ヶ所に三角形の抉りを入れる。横断面が薄い凸レンズ状を呈する。作りは丁寧である。柾目材を使用する。材はバラ科である。自然流路4より出土。

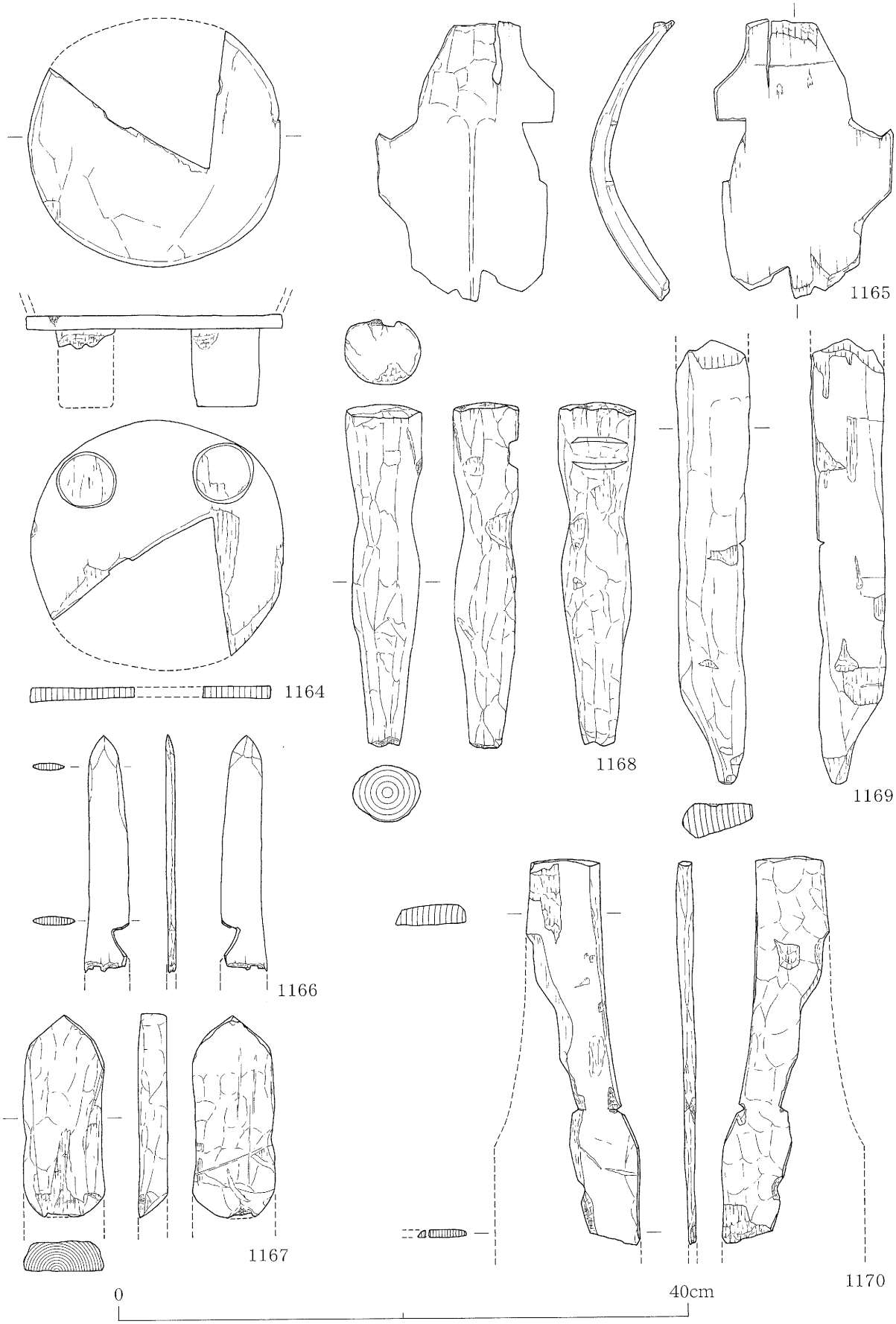
1167は舟形木製品である。木口の一端を丸く、他の一端を尖らせており、舟の形を呈する。芯持ち材を使用する。材は広葉樹と考えられる。自然流路4より出土。

1168は抉り入り棒である。木口の一端を握り部状に細く削る。円周部には抉りと溝状の窪みを入れる。削り痕が顕著に残る。芯持ち材を使用する。材は広葉樹と考えられる。土坑21より出土。

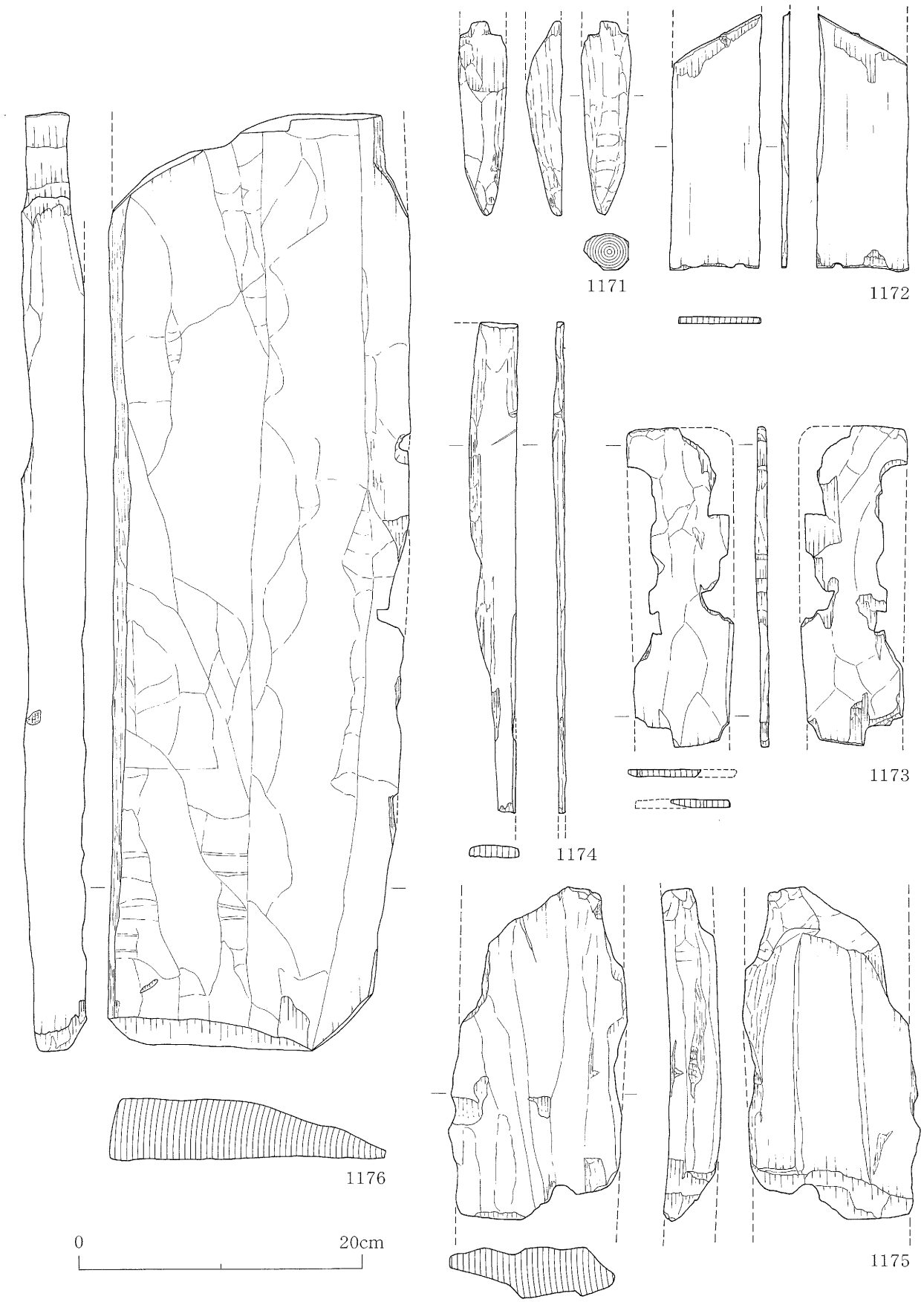
1169は尖頭棒である。木口の一端を細く削る。柾目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。溝126より出土。

1170は抉り入り板である。側面をＪ字形に削り出す。下部は幅広になる。柾目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。溝126より出土。

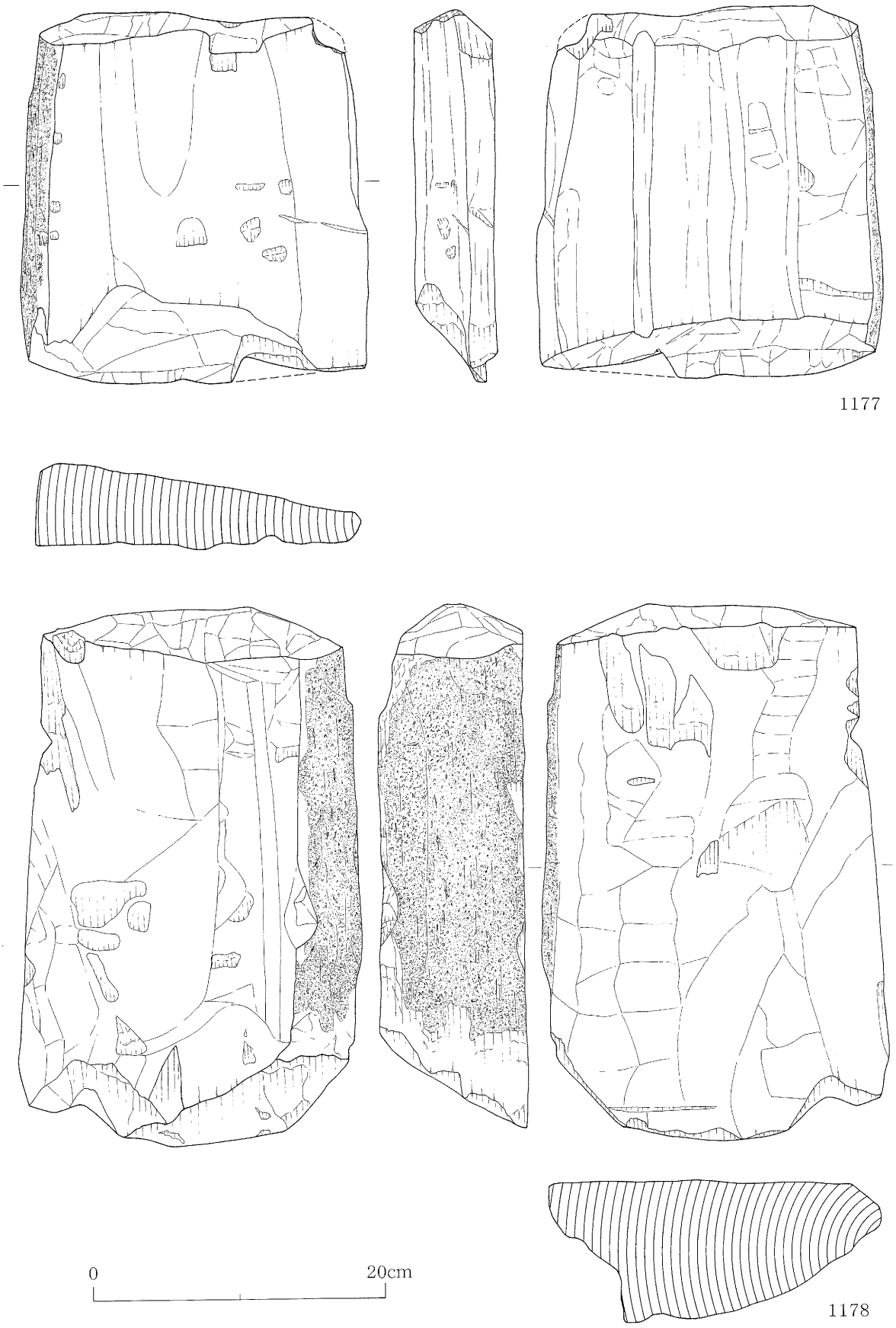
1171は尖頭棒である。木口の一端を杭の先端のように尖らせる。上部は欠損しているので不明である。芯持ち材を使用する。材は広葉樹と考えられる。土坑83より出土。



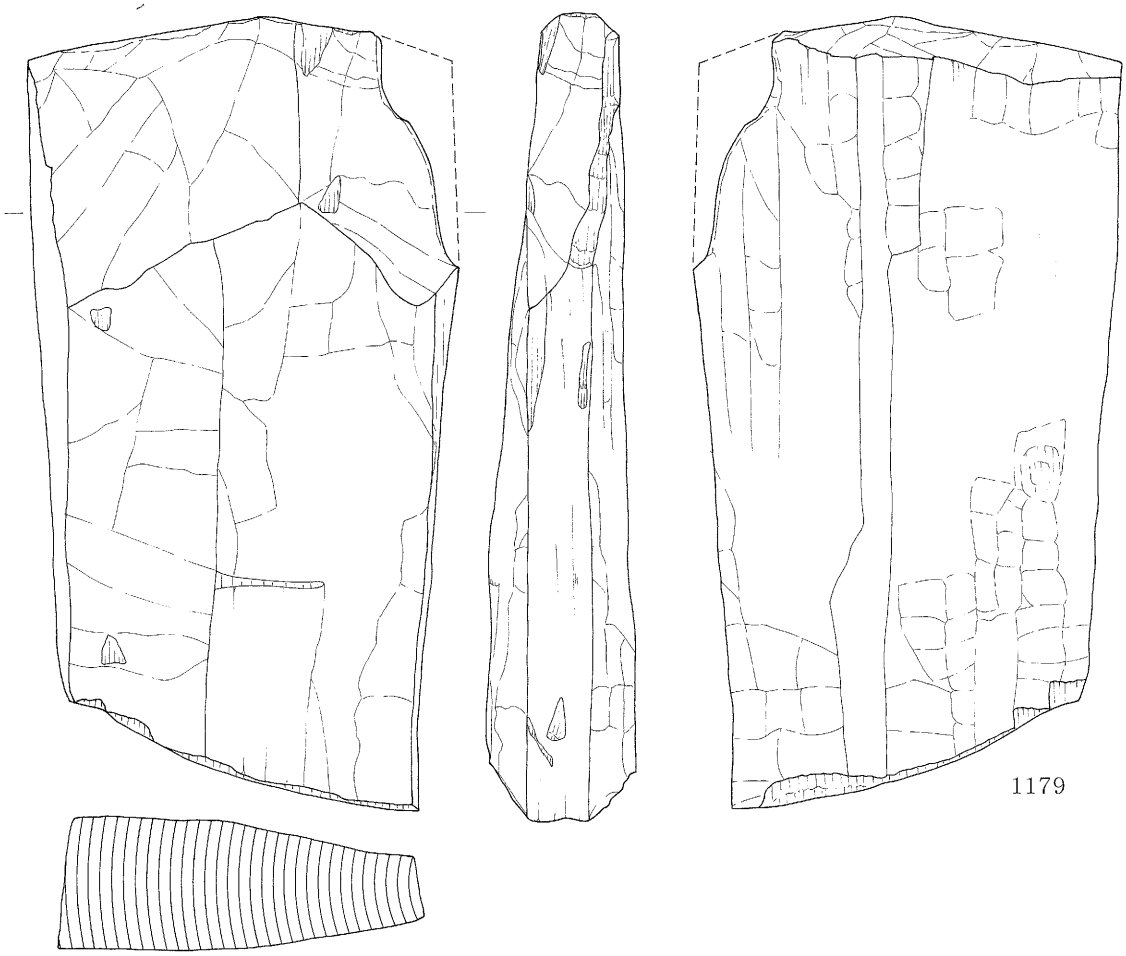
第97図　木製品実測図

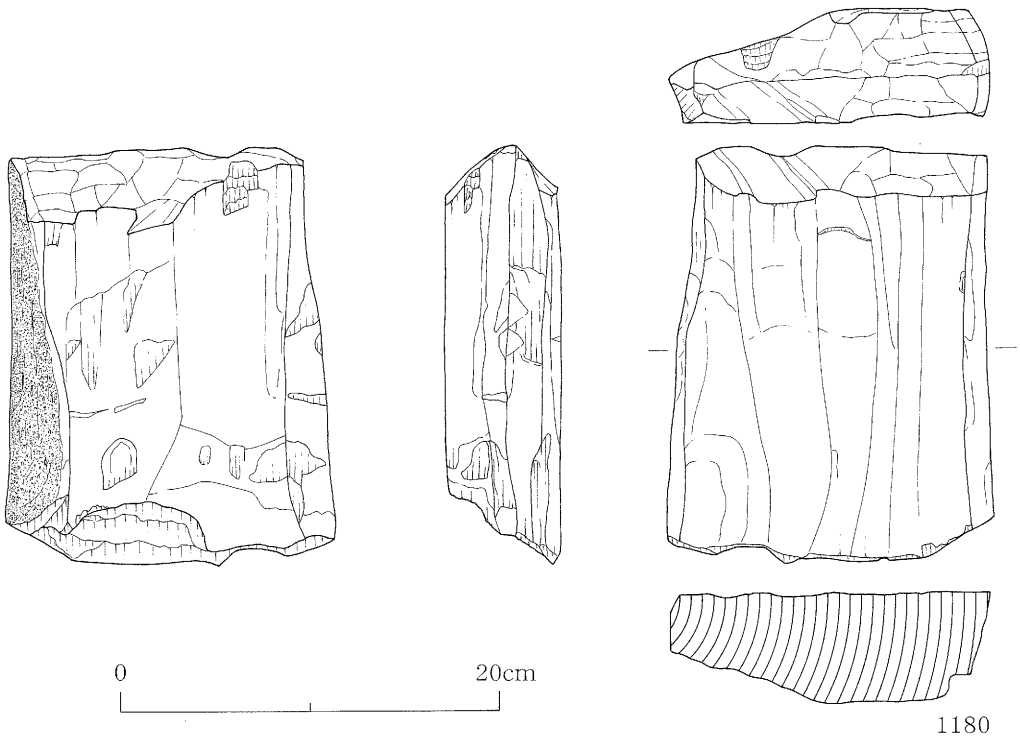


第98図　木製品実測図



第99図　木製品実測図





第100図　木製品実測図

1172～1174は板である。全形の判るものはないが、長方形を呈する。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。1172は土坑130、1173は土坑83、1174は溝138より出土。

1175は農耕具の鍬未成品である。一面の中央部に長方形を呈する突起を削り出す。柾目材を使用する。材はアカガシ科である。溝128より出土。

1176～1180は農具の原材である。横断面形がみかんの房状を呈する。割り材の段階である。円周部に樹皮が残るものが多い。木口の両端は削られており、大きさから考えると鍬に加工される可能性が高い。柾目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。1176は土坑95、1177・1179・1180は土坑83、1178は土坑96より出土。

2）中近世の木製品（第101・102図1181～1200）

1181～1183は漆器椀である。1181は全形が判る資料である。全体的に器壁は薄い。高台は高く、椀部はやや浅い。底面に吉の文字を施す。1182は体部、1183は底部である。1183は高台が低い。体部外面に植物の絵を描く。縦木取りである。材は広葉樹と考えられる。1181・1183は溝１より出土。1182は出土地不明。

1184・1185は卒塔婆である。1184は上部を欠損する。上部より台形、円形の順で削り出し、下部が長方形を呈する。長方形部分の中央に小円孔を１孔穿つ。１ヶ所に□奉為妙蓮□の墨書（解読は当文化財課菅原章太による）が残る。板目材を使用する。材はスギである。溝６より出土。1185の形態は1184とほぼ同様である。破損部分が多く、一部接合が出来ない所がある。一面に□南□阿□施佛□、他の一面に□佛の墨書が残る。柾目材を使用する。材はスギである。溝62より出土。

1186は下駄である。大部分を欠損するが歯と身を組合せるタイプである。鼻緒の孔が２孔残る。先端部は使用によって磨り減る。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝1より出土。

1187は容器である。上部は欠損する。円形を呈する底板の外側に曲げ物を施す。曲げ物は桜の樺で止める。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝1より出土。

1189は桶の底板である。組合せのタイプである。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝1より出土。

1189・1190は曲げ物容器の底板である。円形を呈する。1189は中央に小円孔を穿つ。1189は板目材、1190は柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。落ち込み1より出土。

1191・1192は有頭棒である。1191は木口の一端を球形に削る。下部は細い棒状を呈する。芯持材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝1より出土。1192は木口の一端を方形に削り出し、他の一端を尖らせる。芯持材を使用する。材は針葉樹と考えられる。出土地不明。

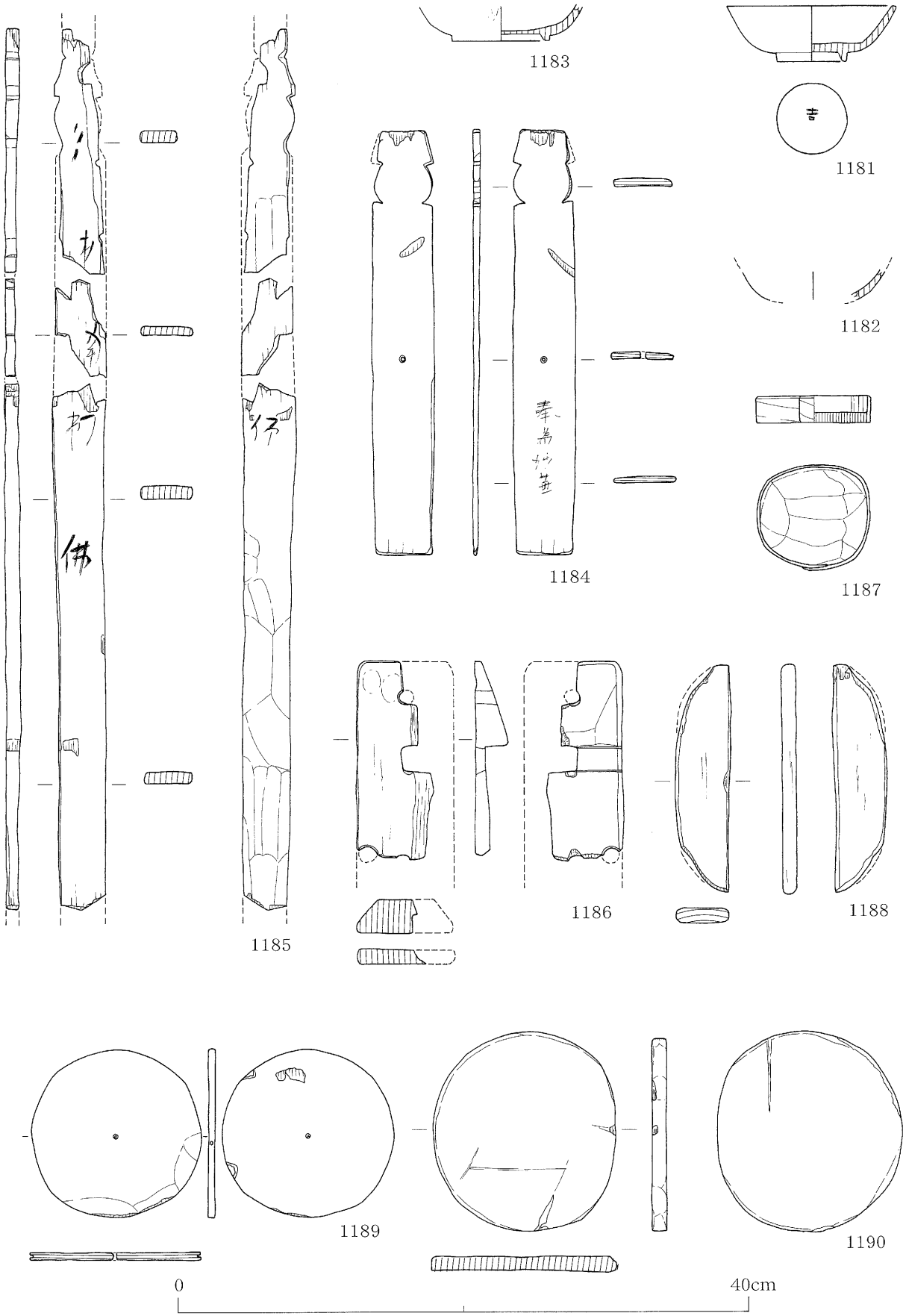
1193・1195は桶の側板である。長方形を呈する。横断面がゆるいU字形である。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。1193は落ち込み１より出土。1195は出土地不明。

1194は角材である。長方形を呈する。横断面が方形である。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。落ち込み１より出土。

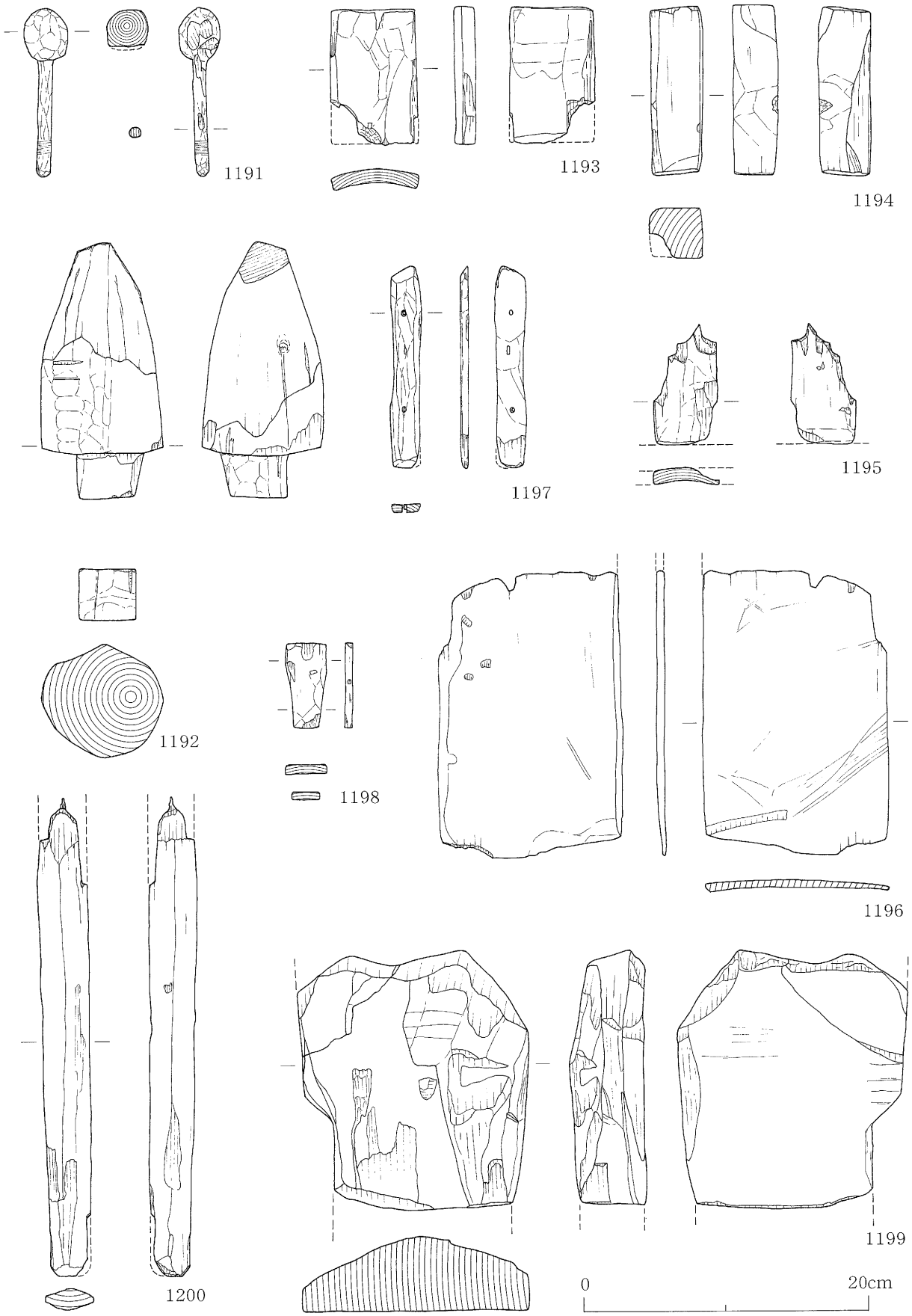
1196は板である。長方形を呈する。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。落ち込み１より出土。

1197は有孔板である。やや細長い板材の2ヶ所に小円孔を穿つ。円孔の1ヶ所には木釘が残る。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。落ち込み１より出土。

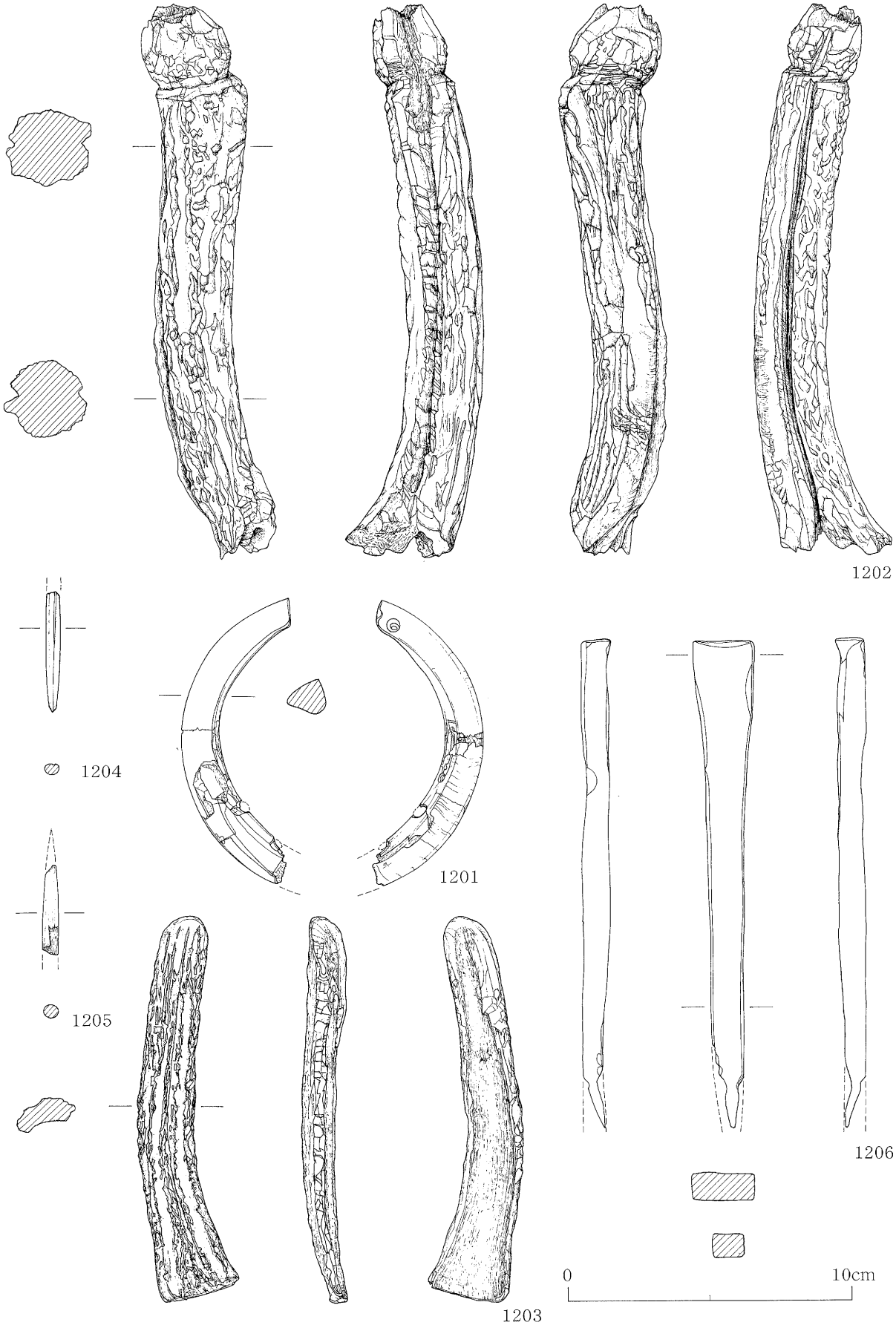
1198は有頭板である。木口の一端を幅広く削り、下部をやや細くする。板目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。落ち込み１より出土。



第101図　木製品実測図



第102図　木製品実測図



第103図　骨角製品・金属製品実測図

1119は抉り入り板である。側辺の一端にＬ字形の抉りを削り出す。柾目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。出土地不明。

1200は棒である。横断面が楕円形を呈する。板目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。７工区第10層より出土。

5. 骨角製品（第103図1201～1205）

弥生時代の遺構と遺物包含層より出土した。

1201はイノシシの牙製で作った腕輪である。先端部を欠損するが半円形を呈する。小円孔を基部に１ヶ所、中央部に２ヶ所穿つ。先端部にも１ヶ所穿っていたと考えられる。遺物包含層より出土。

1202は鹿の角製品である。製作段階の未成品と考えられる。角の両端を削り落す。上端部よりやや下の円周部に溝を入れる。有頭棒状を呈する。また、長辺の相対する部分に溝を入れる。削り痕が明瞭に残る。土坑19より出土。

1203は鹿の角製品である。角を半裁したものである。上端部は使用による磨り減りがあり、丸くなる。下端部は直線的に終わる。側縁に明瞭な削り痕が残る。土坑82より出土。

1204は骨製の刺突具基部である。細長く削り、横断面が円形を呈する。遺物包含層より出土。

1205骨製の刺突具である。形態は1204と同様である。遺物包含層より出土。

6. 金属製品（第103図1206）

大形の鉄釘がある。先端部は腐食する。頭部ややＬ字形を呈する。横断面が長方形である。時期は中世である。７工区の第７層より出土。

Ⅳ. 自然科学

1. 出土人骨の鑑定

53次調査で出土した人骨

大阪府東大阪市に位置する鬼虎川遺跡から弥生時代前期後半～中期後半の人骨が８体出土し、このうち土坑墓から４体・土坑内から２体の成人、土器棺からは乳幼児と胎児と思われる人骨が出土している。

Ⅰ号人骨(土坑墓Ⅰ)

Ⅰ号人骨の頭位は南、顔面は右を向き、体幹は仰臥位である。上肢は左右とも体幹に添わせ伸展し、左の前腕は回内している。下肢は両膝をそろえ右方向に屈曲しているが、足の骨格は左側が右側の下から出土しているため、埋葬時の姿勢は両膝を立て、足を組みあわせていたと思われる。

出土時にコンベックスを用い体格の計測を行った結果、肩幅に相当すると思われる左右上腕骨の外側縁間の幅は約40cm、右上腕骨近位端から尺骨遠位端までが約54cm、左大腿骨長が約45cmであった。

骨の保存状態は非常に悪かったためクリーニング後に骨計測と観察ができた部位は歯のみであった(表２)。

年齢と性：年齢は右下顎第３大臼歯が萠出し咬頭に磨耗が見られること、第１大臼歯の咬頭面の磨耗が大きいことより20才台後半と推定される。性は、出土時に観察した寛骨の大坐骨切痕の角度が狭いことより、男性と推定される。

病変：齲歯は右上顎第１大臼歯と第２大臼歯で、第１大臼歯は遠位の側面に見られその程度はC3である。第２大臼歯は第1大臼歯の齲蝕に向き合って近位側面にあり、その程度はC2である。

Ⅱ号人骨（土坑墓Ⅱ）

Ⅱ号人骨の頭位は南で顔面は右を向き、体幹は仰臥位である。上肢は左側が前腕を回内させた状態で手を骨盤の上に置き、右側は肘関節を強屈させたうえで手を胸骨上に置いている。下肢は膝を揃えた状態で右に屈曲しているため、埋葬時の姿勢は両膝をゆるく立てていたと思われる。左大腿骨が遺失しており、骨盤上に乗せられていた手の骨が散乱していることより、埋葬後、土坑の上層のみ撹乱された可能性がある。

出土時に行った計測の結果、頭頂から坐骨結節までが約80cm、 左右上腕骨の外側縁間の幅は約37cm、 左上腕骨最大長が約31cmで右が33cm、左右とも橈骨最大長約25cm、右大腿骨最大長が約43cm、右脛骨最大長が約35cmであった。

骨の保存状態は非常に悪かったため、土とともにブロック状に切り出しパラロイドで固定された頭骨の顔面部のみが観察ができた。歯は顎骨に釘植した状態で出土し、計測が出来た。（表２）

年齢と性:年齢は第３大臼歯がすべて萠出していること、第1大臼歯の磨耗が咬頭全体に見られ象牙質もわずかに露出していること、第３大臼歯の咬頭にもわずかに磨耗が見られることなどから、25才前後と推測される。性は、出土時に観察した寛骨の大坐骨切痕の角度が狭いことより、男性と推定される。

病変:齲歯は右下顎第２大臼歯の上面にみられ、その程度はC2である。

Ⅲ号人骨（土坑墓Ⅲ）

出土状況：Ⅲ号人骨は頭位が北西で体幹は仰臥位、四肢骨は伸展している。頭骨は平坦な場所に埋

葬された場合の位置より下方にずれ、さらに胸骨も本来の位置より下方にあることにより、埋葬時に上半身はやや傾斜のある所に埋葬されたと推測される。

生前に受けたと思われる石鏃が腰部から出土している。また、頚部には材質は不明であるが細い棒状のものが後方から差し込まれたと思われる状態で遺存している。この加工品は鏃などを伴わず、人為的に折られた痕跡があった。

出土部位

頭骨：脳頭蓋は破損され出土していないが、顔面頭蓋は右頬骨と左右上顎骨の一部、下顎骨が遺存している。上顎の歯はほとんど遺存していないが、左第１第臼歯と第２大臼歯の歯根と左右第３大臼歯が釘植している。下顎骨はほぼ完全に出土しているが右第１第臼歯と第２大臼歯は歯槽が閉鎖し、これらの歯が脱落してからの時間経過が長いと考えられる。

椎骨：環椎は左外側塊が遺存し、軸椎は椎体と歯突起のみが出土している。第５、第６頚椎はほぼ完全な形で遺存している。その他の椎骨の椎体はすべて遺存しているが、椎弓は破損しているものが多い。仙椎は椎体の癒合がみられず、第１仙椎は腰椎化している。

肋骨：出土時にはほぼ完全に出土していたが、復元は出来なかった。

上肢：左鎖骨、左右の上腕骨がほぼ完全な形で出土し、橈骨は左の遠位端と右の近位端が、尺骨は左の両骨端と右の遠位端が破損している。手根骨は左右大菱形骨、左小菱形骨が遺失し、中手骨は左第1中手骨のみが出土していない。指の骨格は左右の第１、第３基節骨と左右不明の第２、第４、第５基節骨がそれぞれ1点出土している。中節骨と末節骨は左右不明であり、３点と１点遺存している。

下肢：寛骨は左右とも腸骨と坐骨が遺存し、右恥骨枝の恥骨結合面も出土している。左右の大腿骨と膝蓋骨、右脛骨はほぼ完全な形であり、遠位端には蹲踞面が見られる。左脛骨の遠位端と左右腓骨の両骨端は破損している。足根骨は右距骨、右内側楔状骨、左右中間、外側楔状骨が遺存し、中足骨は右側全ての中足骨底が遺存している。距骨は破損が大きいため蹲踞面の観察は出来なかった。指骨は左右不明の基節骨が２点出土している。

骨計測の結果と身長の推定：上腕骨の長厚示数は左右ともに23.04ある。大腿骨の長厚示数は左20.18、右20.04で、頑丈示数は左12.7である。扁平示数は左右ともに扁平であることを示した。脛骨の扁平示数は左が中脛に近い扁平脛骨であるが、右は中脛である（表１）。

身長の推定には左右上腕骨と大腿骨、右脛骨の最大長をもちい、ピアソンの身長推定式で推定身長を算出した。その結果、最も大きい値は右大腿骨の166.5で、最も小さい値は左上腕骨の162.4cmである。身長を最もよく繁栄していると思われる大腿骨と脛骨に関する算定値は、166cmでこれを推定値とした。

四肢骨の計測値を土井ヶ浜と北九州の弥生人と比較すると、Ⅲ号人骨は弥生人の中でも高身長である。上腕骨は土井ヶ浜や三津より頑丈で、西北九州人と同程度の頑丈さである。しかし、大腿骨と脛骨は三津や西北九州人より華奢である。

年齢と性：年齢は歯の磨耗状態と全身骨格の状態から推定した。歯の磨耗は第３大臼歯で大きく高年齢に思えるが、腸骨稜にわずかに骨端線が見られ、恥骨結合面の状態は20歳代を示している。また、仙骨が未癒合であり、椎骨の椎体の骨端板も若い。これらの観察結果から、歯の磨耗の状態は何らかの目的で大臼歯を使用したか歯周病などの環境による変化と思われ、年齢の推定には適さない。したがって、全身骨格の状況による判断より20才台前半と推定される。

性は、寛骨の大坐骨切痕の角度が狭いことより、男性と判定する。

病変：左上顎第３大臼歯にはC2程度の齲歯がみられ、左下顎第２大臼歯の歯根周辺に程度は軽いが

歯周病と思われる病変が見られる。

第４、第５胸椎の椎体の前方がわずかに低くなっており、その程度は第５胸椎のほうが第４腰椎より大きい。この２つの椎体は圧迫による骨折と思われる。

Ⅳ号人骨(土坑105)

出土部位は左頭頂骨の冠状縫合の外側に近い部位とそれと縫合する前頭骨の一部、下顎骨の左下顎孔周辺のみが出土している。出土した頭骨片の縫合の状態と骨片の断面の厚みからも成人であることが推定される。

Ⅴ号人骨(土坑104)

出土部位は右脛骨のみで、栄養孔より近位は破損している。出土骨は成人のものであり、遠位の下関節面前縁には蹲踞面が見られた。遠位端の計測値は矢状径が36.98mm、横径が44.89mmであった。

Ⅵ号人骨(土坑95・土器棺Ⅰ)

土器棺から出土した人骨は細片で、緻密質の状態は胎児もしくは乳幼児の可能性を示唆している。

Ⅶ号人骨(土坑128・土器棺Ⅱ)

土器棺から出土した人骨はほぼ全身の骨格が遺存していると思われる。頭骨は側頭骨がほぼ完全に形成されている。四肢骨は骨幹の骨化が見られるのみであり、大腿骨の骨幹長は約７cmである。骨格の大きさや骨質の状態から胎児の可能性が高いと推測される。

Ⅷ号人骨(土坑墓Ⅳ)

Ⅷ号人骨は出土時の保存が良く、ほぼ全身の骨格が遺存している。頭位は北で顔面は正面を向き、体幹は仰臥位である。しかし、脊柱は腰部で大きく左にずれている。上肢は左側が前腕を回内させた状態で体幹に添わせ、右側が肘関節を屈曲させ、手を胸骨下部に置いている。下肢は左右とも膝を揃えた状態で右側に屈曲しているため、埋葬時の姿勢は両膝を立てていたと思われる。

出土部位：

頭骨は前頭骨から顔面頭蓋にかけての破損が大きかったが、脳頭蓋は、比較的保存が良かった。下顎骨保存は良かったが左右の犬歯歯槽から切歯部にかけての破損が大きかった。

椎骨は環椎、軸椎ともに出土しているが、保存状態はあまり良くない。その他の椎骨は椎体３点クリーニングができた。

上肢は左右の肩甲骨が関節窩周辺が、鎖骨は両骨端が破損した状態で左側のみが出土している。自由上肢は右側の方が左側より保存状態がよく、右上腕骨と橈骨はほぼ完全な形で出土している。左上腕骨は骨幹1/2から遠位が遺存し、左橈骨は骨幹の一部が破損し、左右尺骨は尺骨頭が破損している。手根骨は左が有頭骨の一部と豆状骨が、右は小菱形骨と有鈎骨を除くすべての骨が出土している。中手骨は右第４中手骨を除くすべての骨が出土しているが、左第２、第４、第５中手骨と右第３、第５中手骨の骨頭が破損している。

下肢は左右寛骨の腸骨から坐骨にかけて遺存し、右側は恥骨枝の一部も遺存している。左大腿骨の骨幹の一部と遠位部は破損していたが右の大腿骨と左右の膝蓋骨は完全な形で出土している。左右の脛骨と右腓骨は近位端が破損し左腓骨は骨幹の約1/2が遺存している。足根骨は左が距骨、踵骨、中

第１表　四肢骨の計測値

			Ⅲ号人骨		Ⅷ号人骨	
			L	R	L	R
鎖骨		鎖骨長	154.17	—	—	—
上腕骨	1	最大長	316.89	317.70	—	279.50
	3	上端幅	—	48.59	—	49.93
	4	下端幅	—	—	60.27	60.16
	5	骨体中央最大径	24.39	23.54	—	22.87
	6	骨体中央最小径	16.53	17.95	—	18.06
	7	骨体中央周	73.00	73.00	—	70.00
	7 a	骨体最小径	65.00	62.00	66.00	64.00
	長厚指数　7/1		23.04	22.98	—	25.04
	骨体横断示数　6/5		67.77	76.25	—	78.97
橈骨	3	骨体最小周	45.00	43.00	—	—
	4	骨体横径	14.90	14.13	16.44	—
	4 a	骨体中央横径	12.20	12.22	11.38	—
	4(1)	骨頭横径	22.87	—	21.13	20.93
	5(6)	下端幅	—	33.65	—	—
尺骨	2 a	生理学長	—	229.46	—	—
	2(1)	肘頭骨頭長	—	247.28	—	—
	3	骨体最小周	—	39.50	—	43.00
	5(1)	近位関節面高	39.54	39.21	—	36.13
	5(2)	滑車関節面高	26.58	25.43	—	27.82
	6	肘頭幅	26.77	23.03	—	25.55
	7	肘頭深	22.60	—	—	24.97
	11	骨体矢状径	—	13.78	14.77	14.86
	12	骨体横径	—	16.50	14.85	14.53
	長厚指数　3/2(1)		—	15.97	—	—
	長厚指数　6/2(1)		—	9.31	—	—
	長厚指数　5(1)/2(1)		—	15.86	—	—
大腿骨	1	最大長	448.15	453.30	—	410.55
	2	自然長	443.60	446.66	—	404.90
	6	中央矢状径	29.41	29.00	27.71	28.03
	7	中央横径	27.14	27.51	28.31	25.56
	8	中央周	89.50	89.50	90.50	86.50
	21	上顆幅	84.84	86.74	—	—
	9	上部横径	32.87	32.16	—	29.66
	10	上部矢状径	25.23	25.68	—	23.05
	長厚指数　8/2		20.18	20.04		21.36
	頑丈示数　(6+7)/2		12.75	12.65		13.24
	骨体中央断面示数(柱状示数)　6/7		108.36	105.42	97.88	109.66
	骨体上断面示数(扁平示数)　10/9		76.76	79.85		77.71
脛骨	1	全長	—	353.60	—	—
	1 a	最大長	—	363.55	—	—
	3	上端幅	79.52	78.60	—	—
	6	下端幅	—	56.07	—	—
	8	中央最大径	27.40	—	31.88	31.22
	9	中央横径	20.59	—	18.57	19.81
	10	中央周	79.00	—	81.00	82.50
	8 a	栄養孔位最大幅	34.54	36.70	34.76	34.34
	9 a	栄養孔位横径	22.24	25.34	20.90	21.87
	10 a	栄養孔位周	—	95.00	91.50	91.50
	10 b	最小周	76.00	75.50	81.00	78.50
	長厚指数　10b/1		—	21.35	—	—
	中央断面示数(柱状示数)　9/8		75.15	—	58.25	63.45
	脛(扁平)示数　9a/8a		64.39	69.05	60.13	63.69
腓骨	1	最大長	—	—	—	—
	2	中央最大径	—	—	—	17.45
	3	中央最小径	—	—	—	11.56
	4	中央周	—	—	—	54.00
	4 a	最小周	—	—	—	40.00

単位はmm

第２表　歯の計測値

人骨番号		Ⅰ号人骨		Ⅱ号人骨		Ⅲ号人骨		Ⅷ号人骨	
上顎		左	右	左	右	左	右	左	右
I1	頬舌径	6.68	6.77	−	−	6.35	−	−	−
	近遠心径	8.50	8.51	−	−	6.43	−	−	−
I2	頬舌径	6.41	6.51	−	−	−	6.20	−	−
	近遠心径	6.20	7.21	−	−	−	4.67	−	−
C	頬舌径	8.89	8.45	−	−	−	−	−	−
	近遠心径	8.37	8.32	−	−	−	−	−	−
P1	頬舌径	9.22	9.19	9.88	9.48	−	9.44	−	9.52
	近遠心径	7.00	7.31	6.82	7.41	−	7.86	−	7.39
P2	頬舌径	9.00	−	8.91	9.56	−	9.39	−	9.28
	近遠心径	6.15	−	7.63	7.43	−	7.19	−	6.20
M1	頬舌径	−	11.07	10.87	11.05	−	11.64	10.78	−
	近遠心径	−	9.78	11.84	10.71	−	10.15	10.69	−
M2	頬舌径	−	10.77	10.34	10.80	−	11.26	11.19	−
	近遠心径	−	9.55	9.92	9.34	−	10.24	9.25	−
M3	頬舌径	−	−	10.37	10.06	−	11.38	8.58	−
	近遠心径	−	−	9.57	9.33	12.69	8.74	7.35	−
下顎									
I1	頬舌径	5.23	−	−	−	−	−	−	−
	近遠心径	5.15	−	−	−	−	−	−	−
I2	頬舌径	5.97	−	6.10	−	−	−	−	−
	近遠心径	5.66	−	5.88	−	−	−	−	−
C	頬舌径	6.76	8.17	7.14	7.11	−	−	−	−
	近遠心径	7.12	7.00	7.86	7.74	−	−	−	−
P1	頬舌径	7.47	7.47	7.69	7.81	8.30	−	−	−
	近遠心径	7.42	6.84	6.98	6.85	6.60	−	−	−
P2	頬舌径	8.17	7.86	8.31	8.50	7.92	−	−	−
	近遠心径	7.44	7.92	7.89	7.23	7.42	−	−	−
M1	頬舌径	−	11.33	10.29	10.44	−	−	−	11.54
	近遠心径	−	11.74	11.28	11.20	10.65	−	−	10.76
M2	頬舌径	−	10.10	10.09	10.10	9.09	−	−	10.40
	近遠心径	−	9.54	9.79	−	11.06	−	−	10.37
M3	頬舌径	−	10.27	9.71	10.04	9.86	9.19	10.06	10.01
	近遠心径	−	9.57	10.13	11.47	10.77	12.15	10.42	10.27

単位はmm

第３表　歯の出土表

Ⅰ号人骨

左								右							
—	—	—	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	—	☆	☆	—
—	—	—	P2	P1	C	I2	I1	—	—	C	P1	P2	M1	M2	M3

—：不明 ☆：齲歯

Ⅱ号人骨

左								右							
M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3
M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3

Ⅲ号人骨

左								右							
☆	M2	M1	—	—	—	—	I1	—	*	—	*	*	M1	M2	M3
M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	●	●	M3

*：遊離歯、 —：不明、 ☆：齲歯 、●：脱落後の歯槽または閉鎖した歯槽

Ⅷ号人骨

左								右							
M3	M2	M1	—	—	—	—	—	—	—	—	P1	P2	—	—	—
M3	M2	M1	P2	●	—	—	—	—	—	—	—	—	M1	M2	☆

—：不明、 ☆：齲歯、 ●：脱落後の歯槽または閉鎖した歯槽

第４表　身長の推定値

	Ⅲ号人骨		Ⅷ号人骨
	左	右	右
上腕骨	162.35	162.58	151.53
大腿骨	165.56	166.53	158.49
脛骨	—	165.04	—
大腿骨+脛骨1	—	165.94	—
大腿骨+上腕骨	163.90	164.55	154.20
上腕骨と大腿骨の平均値	163.95	163.95	156.35
大腿骨と脛骨の平均値	—	165.84	—

第５表　北部九州・山口地方の弥生人の計測値

	推定身長	長厚示数		
		上腕骨	大腿骨	脛骨
土井ヶ浜	162.81	21.20	20.10	21.40
三津	161.98	22.00	22.45	25.45
西北九州	158.79	23.24	21.33	22.31

間楔状骨が、右は全ての骨が出土しているが、部分的に破損しているものが多い。中足骨は左が第1,2中足骨、右第3,5中足骨が骨幹中央から遠位端まで遺存している。

蹲踞面は左右の脛骨の前面と距骨の滑車前縁の内側前方に見られた。

骨計測の結果と身長の推定：上腕骨の長厚示数は25.04である。右大腿骨は長厚示数が21.36、柱状示数が109.66であった。また扁平示数は77.71で扁平に分類される。脛骨の扁平示数は左が60.13で扁平脛骨に分類されるが、右は63.69で、扁平脛骨ではあるが中脛に近い。

身長の推定には右上腕骨と右大腿骨の最大長を用い算出した結果、最も大きい値は右大腿骨の158.5cm、最も小さな値は右上腕骨の151.5cmで、この両者の平均値は156.35cmであるが、身長をより繁栄していると思われる大腿骨の推定値を本人骨の身長とする。

四肢骨の計測値を土井ヶ浜と北九州の弥生人と比較すると、Ⅷ号人骨はやや低身長であるが、上腕骨は他の弥生人より頑丈で、大腿骨は三津より華奢ではあるが西北九州とほぼ同程度の頑丈度である。

年齢と性：年齢は、第３大臼歯がすべて萠出し咬頭の磨耗も大きいことよ30才前後と思われる。

性は寛骨の大坐骨切痕の角度が狭いことより、男性の確立が高いと推定される。

病変：左上顎第１大臼歯は釘植しているが歯槽は骨の吸収が始まり中等度または重度の歯肉炎を起こしていたと思われる。右下顎第３大臼歯は咬合面にC1程度の齲歯が見られる。

この人骨の土坑からシカの右下顎骨の切歯部が出土している。

まとめ

1. 性の判定が出来た人骨はすべて男性で、年令は壮年である。
2. 歯の観察できたすべての人骨からは、１から数本の齲歯が見られた。
3. 脛骨と距骨が観察できたⅢ,Ⅴ，Ⅷ号人骨には蹲踞面が見られた。
4. 四肢骨の計測できたⅢ号とⅧ号人骨を土井ヶ浜や北九州の弥生人と比較すると、Ⅲ号人骨は高身長でありⅧ号人骨はやや低身長であるが、ともに上腕骨は頑丈である。一方、下肢は大腿骨、脛骨ともにやや華奢である。

2. 動物遺体の同定

鬼虎川遺跡の弥生時代中期から出土した動物遺体はイノシシ、シカ、ウサギ、イヌの哺乳類のほかに、わずかではあるがスッポンやタイなどの爬虫類と魚類が遺存している。奈良時代から平安時代にかけての自然流路と８層からはウマが、近世の溝からはウシとカメが出土している。

弥生時代中期

この時期に最も多く出土した種は66点のイノシシで、次いで42点のシカである。最も多く出土した部位はイノシシの下顎骨とシカの距骨、踵骨で、最小個体数はイノシシ、シカともに４である。その他にウサギとイヌが各１点、スッポンやタイなどの魚類が少数ではあるが出土している。この時期の遺構ごとに出現頻度を示した(第９表)。

なお、出現頻度表の中に掲載している人骨は土坑墓の人骨の可能性が高い。

11層からはカモの仲間と思われる左手根中手骨の手根部のみが出土している。

13層はイノシシ、シカともに最も多く骨片が出土し、出土比はイノシシがシカのほぼ２倍である。イノシシの出土部位は全身におよぶがシカは四肢骨が多い。ほかに、サカナの頭骨と思われるものとスッポンの腹甲板と肋骨板の破片が数点出土している。

15層イノシシとシカのみが数点出土している。

土坑から出土したイノシシとシカの総数の比は５：４でイノシシのほうが多い。出土部位は、イノシシが頭骨や椎骨の遺存率が高いのに対しシカは四肢骨のほうが高い。各土坑から出土する種数はほとんどのものが１種類であるがシカまたはイノシシが供出するものもある。また、土坑63からイヌの軸椎とスッポンの腹甲板の破片が、土坑502からはスッポンの肋骨板が出土している。

ピットからはイノシシとシカのみ出土しているが、その数量は少ない。

包含層からはトリと思われる骨片とイノシシとシカが出土し、シカとイノシシの出土比は1：2である。この層でもイノシシの骨格の出土部位は全身におよんでいる。

溝から出土したイノシシの出土数は13層に次いで多いがシカは非常に少ない。各溝から出土する種はシカかイノシシのうちのいずれか1種である。しかし、溝126はイノシシ以外にトリと思われる焼骨片が出土し、溝135はイノシシ以外にウサギの下顎骨の一部とタイの第1背鰭棘が出土している。

古墳から奈良

10層からヒトの右上腕骨の骨幹中央約５cmが出土している。

奈良から平安

自然流路からはウマの右上顎第３大臼歯片が、８層からはウマの後肢の左基節骨が１点出土している。

中世から近世

溝７から大型哺乳類の左脛骨が出土しているが、種の特徴を表す部位が遺存していないため、同定できない。

近世

近世の溝からはウシの右上腕骨が出土し、近位端は破損しているが遠位端は未癒合で、若い個体である。爬虫類では、イシガメ科の腹側板が1点出土している。

第６表　動物遺体同定表

資料番号	地区	層位・遺構	時期	種名	出土部位 左右	出土部位 部位名	詳細	加工痕等	計測値
128	6-29	13層	弥生・中期	土?					
103	6-8	11層	弥生・中期	カモの仲間	左	手根中手骨	手根部遺存、カルガモ程度の大きさ		
168	7-38	13層	弥生・中期	サカナ?		頭骨の骨のうちの一つ			
169	7-43	13層	弥生・中期	スッポン		破片	2		
214	7-43	13層	弥生・中期	スッポン		腹甲板の破片	1		
112	6-29	13層	弥生・中期	スッポン		肋骨板の破片	1　焼けている		
118	6-29	13層	弥生・中期	トリ(中型)	不明	脛骨	骨幹遺存、キジ程度の太さ		
192	7-43	13層	弥生・中期	ヒト	不明	犬歯			
216	7-42	13層	弥生・中期	ヒト		頭骨片	8		
173	7-41	13層	弥生・中期	イノシシ	左	頭頂骨	破片　1		
190	7-35・36	13層	弥生・中期	イノシシ	右	側頭骨	頬骨突起のみ遺存		
211	7-37	13層	弥生・中期	イノシシ	左	上Ｉ1			
172	7-41	13層	弥生・中期	イノシシ	右	上I1	破片		
160	7-51	13層	弥生・中期	イノシシ	左	上M1			頬舌径　14.27 近遠心径　17.63
213	7-49	13層	弥生・中期	イノシシ	左	上M1	遊離歯		
160	7-51	13層	弥生・中期	イノシシ	左	上M2			頬舌径　14.67 近遠心径　22.10
213	7-49	13層	弥生・中期	イノシシ	左	上M2	遊離歯		
192	7-43	13層	弥生・中期	イノシシ	右	下M1			
192	7-43	13層	弥生・中期	イノシシ	右	下M1	未萠出		
172	7-41	13層	弥生・中期	イノシシ	不明	下M3	破片		
209	7-42	13層	弥生・中期	イノシシ	不明	第3大臼歯	未萠出の歯冠、歯冠の一部		
134	6-24	13層	弥生・中期	イノシシ		歯の破片			
219	7-39	13層	弥生・中期	イノシシ	左	下顎骨	P2～M1までの歯槽部のみ遺存、焼けている		
158	7-40	13層	弥生・中期	イノシシ	不明	下顎骨	臼歯歯槽の一部遺存		
126	6-21	13層	弥生・中期	イノシシ	右	下顎骨	関節頭遺存		
207	7-36	13層	弥生・中期	イノシシ	右	下顎骨	関節頭のみ遺存		
217	7-36	13層	弥生・中期	イノシシ	右	下顎骨	M1～M3まで釘植、M3萠出途中、3才前後		
133	6-26	13層	弥生・中期	イノシシ	―	下顎骨	下顎結合部の下部遺存、下顎結合線見られる、若い、焼けている		
122	6-30	13層	弥生・中期	イノシシ	―	環椎	左外側塊遺存		
159	7-36	13層	弥生・中期	イノシシ		環椎	後弓のみ遺存		
219	7-39	13層	弥生・中期	イノシシ	―	軸椎	歯突起破損	歯突起と棘突起上面は切断	
104	6-13	13層	弥生・中期	イノシシ	―	第11胸椎	突起はすべて破損		
218	7-37	13層	弥生・中期	イノシシ	左	肩甲骨	上縁の一部		
107	6-26	13層	弥生・中期	イノシシ	左	上腕骨	遠位関節部遺存		
181	7-39	13層	弥生・中期	イノシシ	左	上腕骨	遠位端遺存		
219	7-39	13層	弥生・中期	イノシシ	左	月状骨			
190	7-35・36	13層	弥生・中期	イノシシ	左	三角骨			
165	7-39	13層	弥生・中期	イノシシ	不明	三角骨	一部破損		
114	6-26	13層	弥生・中期	イノシシ	右	寛骨	寛骨臼の坐骨体遺存		
198	7-33	13層	弥生・中期	イノシシ	右	大腿骨	遠位部のみ遺存、焼けている		
189	7-47	13層	弥生・中期	イノシシ	左	脛骨	遠位端のみ遺存、内側部に骨端線が残存		矢状径　24.97 横径　27.93
202	7-41・42	13層	弥生・中期	イノシシ	右	踵骨	載距突起周辺のみ遺存		
199	7-39	13層	弥生・中期	イノシシ	不明	踵骨	踵骨隆起破損		横径　24.90 高径　37.11
110	6-23	13層	弥生・中期	イノシシ	左	距骨			全長　45.00 横径　25.18
193	7-33	13層	弥生・中期	イノシシ	左	距骨	体中央より遠位部遺存		
219	7-39	13層	弥生・中期	イノシシ	右	距骨	距骨頭のみ遺存		
136	6-30	13層	弥生・中期	イノシシ	右	楔状骨	1		
207	7-36	13層	弥生・中期	イノシシ	不明	中手骨or中足骨	遊離遠位端		
202	7-41・42	13層	弥生・中期	イノシシ	不明	基節骨	骨幹中央～遠位部遺存		
219	7-39	13層	弥生・中期	イノシシ	不明	基節骨	遠位端遺存、中節骨と同一個体		
120	6-16	13層	弥生・中期	イノシシ		基節骨	近位関節部のみ遺存		
219	7-39	13層	弥生・中期	イノシシ	不明	中節骨	近位骨端未癒合、基節骨と同一個体		
127	6-20	13層	弥生・中期	イノシシ		中節骨	1		
203	7-35	13層	弥生・中期	イノシシ？	不明	下顎骨	歯槽片		
140	6-29	13層	弥生・中期	シカ	不明	角片	4	1点のみ切断	
208	7-46	13層	弥生・中期	シカ	不明	角片	1	切断痕あり	
120	6-16	13層	弥生・中期	シカ		角片	角座		
121	6-14	13層	弥生・中期	シカ		角片	2		
127	6-20	13層	弥生・中期	シカ		角片	角座	切断痕あり	
194	7-42	13層	弥生・中期	シカ		角片	焼けている		
196	7-39	13層	弥生・中期	シカ		角片	1	加工痕あり（研磨）	
212	7-40	13層	弥生・中期	シカ	不明	前頭骨	角座		
172	7-41	13層	弥生・中期	シカ	左	上M1	一部破損		
120	6-16	13層	弥生・中期	シカ		上大臼歯	近位部破損		
116	6-19	13層	弥生・中期	シカ	不明	臼歯片	1		
219	7-39	13層	弥生・中期	シカ		臼歯片	未萠出		
109	6-25	13層	弥生・中期	シカ	―	軸椎	歯突起周辺遺存		
119	6-30	13層	弥生・中期	シカ	右	肩甲骨	関節窩周辺のみ遺存		
123	6-19	13層	弥生・中期	シカ	右	肩甲骨	関節窩周辺遺存	切断痕あり	
187	7-38	13層	弥生・中期	シカ	右	上腕骨	遠位部のみ遺存		
197	7-41	13層	弥生・中期	シカ	左	橈骨	遠位端の内側部のみ遺存、遠位端未癒合		
113	6-30	13層	弥生・中期	シカ	右	大腿骨	遠位部遺存		横径　54.59
202	7-41・42	13層	弥生・中期	シカ	左	踵骨	載距突起と踵骨隆起破損		
182	7-41	13層	弥生・中期	シカ	右	踵骨	載距突起より後方遺存、踵骨隆起破損	切断痕あり	
183	7-39	13層	弥生・中期	シカ	左	距骨	後踵骨関節面切断	切断痕あり	全長　36.63

資料番号	地区	層位・遺構	時期	種名	出土部位 左右	出土部位 部位名	詳細	加工痕等	計測値
109	6-25	13層	弥生・中期	シカ	右	距骨	一部破損		計測不可
192	7-43	13層	弥生・中期	シカ	左	舟状立方骨	立方骨のみ遺存		
219	7-39	13層	弥生・中期	シカ	左	舟状立方骨			
219	7-39	13層	弥生・中期	シカ	右	舟状立方骨	立方骨のみ遺存		
177	7-14	13層	弥生・中期	シカ	左	楔状骨	1　焼けている		
116	6-19	13層	弥生・中期	シカ	不明	中手骨or中足骨	遠位関節部の片側のみ遺存	切断痕あり	
131	6-29	13層	弥生・中期	シカ	不明	中手骨or中足骨	遠位部の骨頭の一部		
205	7-37	13層	弥生・中期	シカ	不明	中手骨or中足骨	遠位端の一部遺存		
129	6-17	13層	弥生・中期	シカ	不明	基節骨			
120	6-16	13層	弥生・中期	シカ		基節骨	近位関節部のみ遺存		
158	7-40	13層	弥生・中期	シカ	不明	中節骨	骨頭のみ遺存		
122	6-30	13層	弥生・中期	シカ	不明	末節骨	遠位端破損		
182	7-41	13層	弥生・中期	シカ		末節骨	1		
111	6-27	13層	弥生・中期	シカorイノシシ		頭骨片	5		
174	7-42・43	13層	弥生・中期	シカorイノシシ	不明	下顎骨	破片　1		
162	7-44	13層	弥生・中期	シカorイノシシ		臼歯片	1		
185	7-40	13層	弥生・中期	シカorイノシシ		胸椎	椎体のみ遺存		
135	6-2	13層	弥生・中期	シカorイノシシ	不明	肩甲骨	関節窩周辺のみ遺存　若い		
197	7-41	13層	弥生・中期	シカorイノシシ	不明	肩甲骨	関節窩周辺のみ遺存		
180	7-33	13層	弥生・中期	シカorイノシシ	不明	寛骨臼	1		
199	7-39	13層	弥生・中期	シカorイノシシ	不明	踵骨	体の一部		
129	6-17	13層	弥生・中期	シカorイノシシ	右	踵骨	体の上縁のみ遺存		
117	6-25	13層	弥生・中期	シカorイノシシ	不明	中手骨or中足骨	遠位端の一部遺存		
120	6-16	13層	弥生・中期	シカorイノシシ		中手骨or中足骨	遠位関節部の片側のみ遺存		
157	7-38	13層	弥生・中期	シカorイノシシ		中手骨or中足骨	近位関節部のみ遺存		
130	6-22	13層	弥生・中期	シカorイノシシ		長骨片	関節部遺存	切断痕あり	
120	6-16	13層	弥生・中期	シカorイノシシ		指骨	近位部遺存		
170	7-40	13層	弥生・中期	大型哺乳類		頭骨片	1		
175	7-31	13層	弥生・中期	大型哺乳類		頭骨片	1		
170	7-40	13層	弥生・中期	大型哺乳類	不明	中手骨or中足骨	遠位部の一部のみ遺存		
131	6-29	13層	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	1		
176	7-57	13層	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	1		
138	6-22	13層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	2		
166	7-39	13層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	2		
173	7-41	13層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	2　焼けている		
174	7-42・43	13層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	1		
216	7-42	13層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	4		
157	7-38	13層	弥生・中期	大型哺乳類		不明	関節の一部遺存		
171	7-42	13層	弥生・中期	大型哺乳類		不明	1		
106	6-25	13層	弥生・中期	不明		頭骨片	1		
214	7-43	13層	弥生・中期	不明		頭骨片	1　焼けている		
137	6-24	13層	弥生・中期	不明		椎骨？	1		
198	7-33	13層	弥生・中期	不明		肋骨片	1		
114	6-26	13層	弥生・中期	不明		長骨片	1　焼けている		
122	6-30	13層	弥生・中期	不明		長骨片	3		
161	7-39	13層	弥生・中期	不明		長骨片	3		
178	7-39	13層	弥生・中期	不明		長骨片	1		
184	7-43	13層	弥生・中期	不明		長骨片	1　焼けている		
214	7-43	13層	弥生・中期	不明		長骨片	1		
105	6-24	13層	弥生・中期	不明		骨片	2		
108	6-22	13層	弥生・中期	不明		骨片	2		
109	6-25	13層	弥生・中期	不明		骨片	1　焼けている		
112	6-29	13層	弥生・中期	不明		骨片	1		
114	6-26	13層	弥生・中期	不明		骨片	2		
115	6-30	13層	弥生・中期	不明		骨片	3　うち1点は焼けている		
117	6-25	13層	弥生・中期	不明		骨片	多数　焼骨も数点混入		
119	6-30	13層	弥生・中期	不明		骨片	5		
120	6-16	13層	弥生・中期	不明		骨片	5		
124	6-3	13層	弥生・中期	不明		骨片	5		
125	6-24	13層	弥生・中期	不明		骨片	1		
127	6-20	13層	弥生・中期	不明		骨片	3		
131	6-29	13層	弥生・中期	不明		骨片	2		
132	6-14	13層	弥生・中期	不明		骨片	骨片		
136	6-30	13層	弥生・中期	不明		骨片	1　焼けている		
140	6-29	13層	弥生・中期	不明		骨片	1		
156	7-53	13層	弥生・中期	不明		骨片	10		
158	7-40	13層	弥生・中期	不明		骨片	4		
159	7-36	13層	弥生・中期	不明		骨片	2		
160	7-51	13層	弥生・中期	不明		骨片	3		
164	7-38	13層	弥生・中期	不明		骨片	3		
165	7-39	13層	弥生・中期	不明		骨片	1		
167	7-39	13層	弥生・中期	不明		骨片	2		
177	7-14	13層	弥生・中期	不明		骨片	4		
179	7-46	13層	弥生・中期	不明		骨片	3		
182	7-41	13層	弥生・中期	不明		骨片	4		
185	7-40	13層	弥生・中期	不明		骨片	3 うち1点は焼けている		
186	7-39	13層	弥生・中期	不明		骨片	多数　焼骨も数点混入		
188	7-44	13層	弥生・中期	不明		骨片	1		
191	7-39	13層	弥生・中期	不明		骨片	2　うち1点は焼けている		
192	7-43	13層	弥生・中期	不明		骨片	多数		
197	7-41	13層	弥生・中期	不明		骨片	5		
200	7-42	13層	弥生・中期	不明		骨片	1		
201	7-33	13層	弥生・中期	不明		骨片	1		
202	7-41・42	13層	弥生・中期	不明		骨片	4		
204	7-43	13層	弥生・中期	不明		骨片	1		
205	7-37	13層	弥生・中期	不明		骨片	1		
206	7-40	13層	弥生・中期	不明		骨片	多数		
210	7-39	13層	弥生・中期	不明		骨片	2		

資料番号	地区	層位・遺構	時期	種名	出土部位 左右	出土部位 部位名	詳細	加工痕等	計測値
190	7-35・36	13層	弥生・中期	不明			2　焼けている		
195	7-39	13層	弥生・中期	不明			1		
215	7-40	13層	弥生・中期	不明			1		
219	7-39	13層	弥生・中期	不明			2　うち1点は焼けている		
139	6-27	13層	弥生・中期	骨？					
223	7-43	14層	弥生・中期	ヒト？	不明	腸骨	腸骨稜の一部遺存		
145	6-24	14層	弥生・中期	イノシシ	ー	第3腰椎	椎体板両側とも未癒合		
145	6-24	14層	弥生・中期	イノシシ	右	上腕骨	近位部と骨幹の遠位部破損、若い		
141	6-24	14層	弥生・中期	イノシシ	左	踵骨	踵骨隆起破損		高径　32.27 横径　23.57
144	6-10	14層	弥生・中期	イノシシ	左	距骨	関節面の1部破損		全長　43.88 横径　25.21
220	7-33	14層	弥生・中期	イノシシ	不明	基節骨	骨頭のみ遺存		
146	6-27	14層	弥生・中期	シカ	左右	前頭骨	角座	切断痕あり	
142	6-27	14層	弥生・中期	シカ	左	下顎骨	P3～M3まで釘植、切歯部破損		別表
143	6-25	14層	弥生・中期	シカ	右	下顎骨	M3～下顎頭の一部まで遺存、M3の歯冠のみ遺存、未咬耗		
220	7-33	14層	弥生・中期	シカorイノシシ	不明	肩甲骨	関節窩周辺遺存		
221	7-36	14層	弥生・中期	シカ	左	踵骨	載距突起～後部遺存　踵骨隆起破損、焼けている		
220	7-33	14層	弥生・中期	シカ	不明	中節骨			
222	7-40	14層	弥生・中期	不明		骨片	1　一部焼けている		
232	7-53	15層	弥生・中期	ヒト		新生児?	出土表は別表		
227	7-57・58	15層	弥生・中期	ヒト	ー	前頭骨	左の眼窩上縁のみ遺存		
232	7-53	15層	弥生・中期	ヒト	不明	橈骨	骨幹のみ遺存		
230	7-53	15層	弥生・中期	イノシシ	左	距骨	後踵骨関節面破損		全長　46.94
231	7-36	15層	弥生・中期	シカ	左	踵骨			最大長　82.64 横径　28.53 高径　29.33
229	7-51	15層	弥生・中期	シカ	左	距骨	後踵骨関節面破損		全長　39.45
228	7-46	15層	弥生・中期	大型哺乳類		不明	1		
224	7-49	15層	弥生・中期	不明		骨片	1		
225	7-56	15層	弥生・中期	不明		骨片	1		
226	7-54・55	15層	弥生・中期	不明		骨片	5		
100	6-5	自然流路4	弥生・中期	不明		骨片	1		
34	7-38	土坑100	弥生・中期	不明		骨片	1		
35	7-48・49	土坑103	弥生・中期	不明		骨片	3		
36	7-31	土坑136	弥生・中期	イノシシ	左	肩甲骨	肩甲頸～内側約5cm遺存		
3	6-14	土坑20	弥生・中期	イノシシ	不明	中節骨	遠位関節部遺存		
2	6-21	土坑20	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	1		
4	7-39	土坑26	弥生・中期	イノシシ	ー	第4？腰椎	肋骨突起と棘突起破損、椎体板未癒合		
4	7-39	土坑26	弥生・中期	シカ	左	脛骨	遠位端の内側部遺存　焼けている		
5	7-39	土坑27	弥生・中期	シカ	不明	基節骨	近位関節部遺存		
6	7-35	土坑28	弥生・中期	イノシシ	不明	中節骨			
7	6-21・22	土坑39	弥生・中期	シカ		角片	1		
8	6-19	土坑41	弥生・中期	不明		尾椎	1		
9	7-31・32	土坑47	弥生・中期	シカ	左	距骨			最大長　40.43 横径　24.21
10	7-31・32	土坑47	弥生・中期	不明		長骨片	3		
11	7-33	土坑48	弥生・中期	シカ	ー	環椎	後弓破損、右外側塊は焼けている		
14	6-26	土坑50	弥生・中期	イノシシ	左	肩甲骨	関節窩周辺遺存、烏口突起未癒合		
12	6-26	土坑50	弥生・中期	イノシシ	左	大腿骨	小転子下方約6cm遺存		
13	6-27	土坑50	弥生・中期	シカ		角片	分枝部の基部	切断痕あり	
14	6-26	土坑50	弥生・中期	スッポン		肋骨板の破片	1		
16	7-38	土坑63	弥生・中期	イノシシ	不明	M3	歯冠の一部のみ遺存		
18	7-38	土坑63	弥生・中期	イノシシ	右	前頭骨	眼窩上縁遺存		
15	7-38	土坑63	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	1　一部焼けている		
18	7-38	土坑63	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片			
15	7-38	土坑63	弥生・中期	シカ		角片	1		
17	7-38	土坑63	弥生・中期	シカ		角片	1	切傷あり	
18	7-38	土坑63	弥生・中期	シカ	右	橈骨	骨幹中央～遠位部まで遺存、遠位端未癒合		
18	7-38	土坑63	弥生・中期	シカorイノシシ	左	寛骨	腸骨遺存、若い		
18	7-38	土坑63	弥生・中期	スッポン	不明	腹甲板の破片	2		
19	6-20	土坑68	弥生・中期	イヌ	ー	軸椎	椎体のみ遺存、椎体板未癒合	解体痕あり	椎体全長　29.70
21	7-35・36	土坑70	弥生・中期	イノシシ	ー	軸椎	歯突起を含む椎体の左側が遺存		
20	7-35・36	土坑70	弥生・中期	シカ	左	脛骨	遠位端の外側部のみ遺存		
20	7-35・36	土坑70	弥生・中期	不明		骨片	多数		
22	6-10	土坑77	弥生・中期	不明		骨片	4		
23	6-4	土坑82	弥生・中期	イノシシ	右	下顎骨	C後方～M3歯槽1/3まで遺存　オス		
23	6-4	土坑82	弥生・中期	イノシシ	左	橈骨	骨幹中央～遠位部まで遺存、遠位端未癒合		
24	6-2・3	土坑82	弥生・中期	シカorイノシシ	右	脛骨	近位部破損	遠位部に切断痕	
25	7-31	土坑85	弥生・中期	木片					
26	7-45・46	土坑87	弥生・中期	シカ	右	踵骨	載距突起～後部遺存　踵骨隆起破損		
27	7-48	土坑89	弥生・中期	シカ	左	下顎骨	下顎角のみ遺存		
28	6-19	土坑93	弥生・中期	イノシシ	右	踵骨	遊離した踵骨隆起		
29	7-51	土坑95	弥生・中期	シカ	左	上P4			頬舌径　14.65 近遠心径　11.41
31	6-26	土坑96	弥生・中期	イノシシ	左	下顎骨	C～M3後縁まで遺存、歯は遺失　メス		臼歯列長(P2～M3)　104.29
31	6-26	土坑96	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	1		
31	6-26	土坑96	弥生・中期	大型哺乳類		肋骨片	1		
30	6-26	土坑96	弥生・中期	不明		骨片	1		
33	7-50	土坑99	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	4　うち3点は焼けている		
32	7-53	土坑99	弥生・中期	不明	不明	肩甲骨？			
1	6-20	土坑14	弥生・中期	不明		長骨片	1		
2	6-21	土坑20	弥生・中期	シカ	左	橈骨	遠位部のみ遺存、尺骨の遠位部と癒合		矢状径　24.13 横径　36.05
80	6-28	ピット30	弥生・中期	シカ		角片	多数、一部焼けている		
81	6-13	ピット165	弥生・中期	シカorイノシシ		指骨	水平断?	切断痕あり	
82	7-38	ピット214	弥生・中期	不明		骨片	1		

資料番号	地区	層位・遺構	時期	種名	出土部位 左右	出土部位 部位名	詳細	加工痕等	計測値
83	7-41	ピット230	弥生・中期	不明		長骨片	1　焼けている		
84	6-19	ピット488	弥生・中期	不明		骨片	1　焼けている		
85	7-37	ピット501	弥生・中期	イノシシ	左	下顎骨	M2歯槽部遺存　焼けている		
86	6-21	ピット546	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	1		
87	7-32	ピット690	弥生・中期	イノシシ	左	上I1			
88	7-37	ピット738	弥生・中期	シカorイノシシ		下顎骨	破片　焼けている		
89	7-39	ピット756	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	1		
90	6-23	ピット807	弥生・中期	不明		海面質	1		
91	7-34	ピット847	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	3		
92	6-24	ピット985	弥生・中期	不明		骨片	1		
93	6-24	ピット988	弥生・中期	不明		肋骨片	1		
94	6-25	ピット1001	弥生・中期	不明		長骨片	1		
95	6-29	ピット1010	弥生・中期	シカ	左	踵骨			全長　88.45 横径　30.24 高径　32.60
96	7-43	ピット1453	弥生・中期	シカ	右	下顎骨	下顎枝遺存		
96	7-43	ピット1453	弥生・中期	シカ	右	下M3	舌側のエナメル質破損		
96	7-43	ピット1453	弥生・中期	不明		骨片	多数		
239	7-40	包含層	弥生・中期	トリ?		長骨片	骨幹		
233	7-40	包含層	弥生・中期	イノシシ	左	上I1	歯冠の一部遺存		
153	6-15	包含層	弥生・中期	イノシシ	左	上M2	磨耗は少ない		
241	7-39	包含層	弥生・中期	イノシシ	右	肩甲骨	烏口突起のみ遺存		
235	7-41	包含層	弥生・中期	イノシシ	左	上顎骨	M1歯槽部のみ遺存		
245	7-37	包含層	弥生・中期	イノシシ	左	寛骨臼	恥骨体破損		
152	6-28	包含層	弥生・中期	イノシシ	左	踵骨	載距突起周辺のみ遺存		
154	6-25・26	包含層	弥生・中期	イノシシ	左	踵骨	載距突起周辺のみ遺存		
147	6-23	包含層	弥生・中期	イノシシ	右	距骨	外側半分が遺存		
241	7-39	包含層	弥生・中期	イノシシ	左	立方骨			
235	7-41	包含層	弥生・中期	イノシシ	右	第3中足骨	近位部のみ遺存		
154	6-25・26	包含層	弥生・中期	イノシシ	不明	中節骨	近位関節部のみ遺存		
247	7-34	包含層	弥生・中期	シカ	右	寛骨臼	1		
236	7-37	包含層	弥生・中期	シカ		臼歯片	未萌出		
240	7-36	包含層	弥生・中期	シカ	左	距骨		加工痕あり	矢状径　40.71 横径　24.31
237	7-35	包含層	弥生・中期	シカ	—	頚椎	右の前関節突起遺存		
148	6-25	包含層	弥生・中期	シカ	右	舟状立方骨			矢状径 26.45 横径 31.92
152	6-28	包含層	弥生・中期	シカ	左	舟状立方骨			矢状径 28.80 横径 34.84
240	7-36	包含層	弥生・中期	シカ	不明	中節骨			
243	7-35	包含層	弥生・中期	シカ	左	中足骨	近位部外側のみ遺存	加工痕あり	
151	6-14	包含層	弥生・中期	シカ		角片	角先		
236	7-37	包含層	弥生・中期	シカ		角片	1		
244	7-43	包含層	弥生・中期	シカ		角片	約2cm遺存		
248	7-33	包含層	弥生・中期	大型哺乳類		頭骨片	焼けている		
246	7-36	包含層	弥生・中期	大型哺乳類	不明	下顎骨	歯槽の破片		
237	7-35	包含層	弥生・中期	大型哺乳類	不明	大腿骨	遠位端の一部遺存		
236	7-37	包含層	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	骨端の一部		
238	7-41・42	包含層	弥生・中期	大型哺乳類		長骨片	1		
234	7-42	包含層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	4		
239	7-40	包含層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	6　うち2点は焼けている		
240	7-36	包含層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	焼けている		
241	7-39	包含層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	2		
247	7-34	包含層	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	2		
152	6-28	包含層	弥生・中期	中型哺乳類		肋骨片	1　焼けている		
235	7-41	包含層	弥生・中期	不明	不明	下顎骨	歯槽の一部のみ遺存		
233	7-40	包含層	弥生・中期	不明		肋骨片	1		
149	6-22	包含層	弥生・中期	不明		長骨片	骨幹		
150	6-29	包含層	弥生・中期	不明		長骨片	骨幹		
154	6-25・26	包含層	弥生・中期	不明		骨片	4		
155	6-25・26	包含層	弥生・中期	不明		骨片	5		
235	7-41	包含層	弥生・中期	不明		骨片	2		
240	7-36	包含層	弥生・中期	不明		骨片	1		
39	6-17	溝84	弥生・中期	イノシシ	不明	下顎骨	下顎角周辺遺存		
39	6-17	溝84	弥生・中期	イノシシ	右	下顎骨	関節頭から後縁の約6cm遺存		
39	6-17	溝84	弥生・中期	イノシシ	不明	中節骨			
39	6-17	溝84	弥生・中期	不明		骨片	4		
42	7-46・47	溝99	弥生・中期	大型哺乳類		関節の一部	7		
40	7-41・42	溝99	弥生・中期	シカ	右	舟状立方骨			矢状径　24.44 横径　27.15
43	7-46	溝99	弥生・中期	シカ		角片	1	表面を研磨	
40	7-41・42	溝99	弥生・中期	ヒト		頭骨片	1		
41	6-45	溝99	弥生・中期	不明		骨片	1		
44	6-41	溝101	弥生・中期	ウマ	不明	下顎骨	下顎角下縁のみ遺存		
44	6-41	溝101	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	1		
46	7-40	溝103	弥生・中期	シカ	左	脛骨	骨幹の遠位端遺存、骨端は未癒合		前後径　22.42 横径　29.41
45	7-40・41	溝103	弥生・中期	シカ		角片	1		
45	7-40・41	溝103	弥生・中期	不明		骨片	1		
46	7-40	溝103	弥生・中期	不明		長骨片	1		
47	7-40・41	溝103	弥生・中期	不明		頭骨片	1		
48	7-36・37	溝110	弥生・中期	ヒト?	不明	寛骨？	耳状面?		
49	7-34・35	溝111	弥生・中期	イノシシ	左	下M2	舌側破損		
50	7-32・33	溝112	弥生・中期	不明		骨片	焼けている		
51	7-36	溝113	弥生・中期	シカ	—	第1腰椎	前椎体板癒合、後椎体板未癒合、右前関節突起と左右の肋骨突起破損		
52	7-42	溝120	弥生・中期	イノシシ	右	尺骨	近位～骨幹中央まで遺存　乳幼児程度の大きさ		
53	6-30	溝123	弥生・中期	イノシシ	右	後頭骨と側頭骨	右側後頭顆と外耳孔～頬骨突起基部が遺存		

資料番号	地区	層位・遺構	時期	種名	出土部位 左右	出土部位 部位名	詳細	加工痕等	計測値
55	6-30	溝123	弥生・中期	イノシシ	左	上腕骨	遊離近位端(大結節と小結節)		
54	6-30	溝123	弥生・中期	大型哺乳類		骨片	3		
54	6-30	溝123	弥生・中期	シカorイノシシ		下顎骨	歯槽の一部遺存		
54	6-30	溝123	弥生・中期	シカorイノシシ		胸椎	棘突起の一部遺存		
57	6-1・2	溝126	弥生・中期	イノシシ	不明	下顎骨	下顎角のみ遺存　一部焼けている		
56	6-3・4	溝126	弥生・中期	トリ?		長骨片	骨幹のみ遺存　焼けている		
59	6-12・13	溝128	弥生・中期	イノシシ	右	寛骨	寛骨臼周辺遺存		
62	6-12・13	溝128	弥生・中期	イノシシ	左	寛骨	坐骨体		
60	6-12・13	溝128	弥生・中期	イノシシ	不明	基節骨	近位端未癒合		
59	6-12・13	溝128	弥生・中期	イノシシ	左	脛骨	遊離近位端遺存、1.5～2歳程度の大きさ		
61	6-11・12	溝128	弥生・中期	イノシシ	左	坐骨	坐骨体遺存	解体痕あり	
60	6-12・13	溝128	弥生・中期	イノシシ	右	尺骨	近位～骨幹1/2まで遺存、肘頭未癒合		
60	6-12・13	溝128	弥生・中期	イノシシ	右	上腕骨	遊離近位端の関節部遺存		
59	6-12・13	溝128	弥生・中期	イノシシ	右	側頭骨	頬骨突起のみ遺存		
62	6-12・13	溝128	弥生・中期	イノシシ	左	大腿骨	近位～小転子の下方まで遺存、近位端未癒合		
62	6-12・13	溝128	弥生・中期	シカorイノシシ	―	胸椎or腰椎	棘突起		
58	6-12	溝128	弥生・中期	シカorイノシシ	右	肩甲骨	関節窩周辺遺存、一部焼けている		
58	6-12	溝128	弥生・中期	シカorイノシシ		頭骨片	1		
58	6-12	溝128	弥生・中期	不明		骨片	2		
60	6-12・13	溝128	弥生・中期	不明		骨片	2		
63	6-20・21	溝131	弥生・中期	イノシシ	左	脛骨	遠位部　焼けている	切断痕あり	
63	6-20・21	溝131	弥生・中期	不明		長骨片	1　焼けている		
65	6-23	溝132	弥生・中期	上?					
64	6-23	溝132	弥生・中期	不明		骨片	1		
69	7-56	溝135	弥生・中期	イノシシ	右	肩甲骨	若い		
66	7-55	溝135	弥生・中期	イノシシ	不明	腓骨	骨幹の一部遺存		
69	7-56	溝135	弥生・中期	ウサギ	右	下顎骨	下顎角のみ遺存		
66	7-55	溝135	弥生・中期	タイ?		第1背鰭棘	1　大きい		
68	7-55	溝135	弥生・中期	ヒト		頭頂骨	矢状縫合の一部が遺存		
69	7-56	溝135	弥生・中期	不明		肩甲骨	2		
67	7-55・56	溝135	弥生・中期	不明		骨片	1		
70	6-22	溝137	弥生・中期	イノシシ	右	脛骨	骨幹近位～中央まで遺存　近位端未癒合、焼けている		
72	6-3	溝138	弥生・中期	シカ		角片	1	切傷あり	
71	6-30	溝138	弥生・中期	不明		長骨片	2　うち1点は焼けている		
73	7-36	溝139	弥生・中期	イノシシ	左	側頭骨	外耳孔と頬骨突起周辺が遺存		
74	7-46・47	溝144	弥生・中期	イノシシ	右	踵骨			全長　45.41 横径　25.18
76	7-52・53	溝146	弥生・中期	シカ	左	上M3			頬舌径　14.06 近遠心径　17.66
75	7-52・53	溝146	弥生・中期	ヒト	左	距骨	滑車後半から後部破損		
78	7-53	溝146	弥生・中期	ヒト	不明	月状骨	若い		
78	7-53	溝146	弥生・中期	ヒト		骨片	多数		
77	7-52・53	溝146	弥生・中期	ヒト	不明	膝蓋骨	側面半分破損		
75	7-52・53	溝146	弥生・中期	不明		骨片	多数		
77	7-52・53	溝146	弥生・中期	不明		骨片	13		
79	7-51	溝152	弥生・中期	不明		長骨片	2		
156	7-53	10層	古墳～奈良	ヒト	右	上腕骨	骨幹中央より下約5ｃｍ遺存		
98	7-52	自然流路2	奈良～平安	ウマ	右	上M3	一部破損		
102	6-29	8層	奈良～平安	ウマ	左	後肢の基節骨			別表
99	7-55	自然流路2	奈良～平安	ウマ	不明	臼歯片	1		
38	6-24	溝7	中～近世	大型哺乳類	左	脛骨	前縁の一部	切傷あり	
101	6	2層	近世	カメ(イシガメ科)	不明	腹側板の一部	1		
97	6-16	自然流路1	近世	大型哺乳類		骨片	1		
37	6-30	溝1	近世	ウシ	右	上腕骨	近位部破損、遠位端未癒合　若い		

第７表　シカの下顎骨の計測値表

資料番号	142
種	シカ
左右	左
下顎枝長　M 後縁より goc	54.10
頬臼歯長（1）　Pm１ － M 後縁	94.56
小臼歯長（2）　Pm２ － Pm４	37.56
大臼歯長　M１ － M 後縁	57.97
下顎体高（1）　M 後縁	35.82

第８表　ウマ基節骨計測値表

資料番号		102
種		ウマ
左右		左
全長		75.54
近位	横径	47.37
	高径	31.22
中央	横径	31.59
	高径	20.67
遠位	横径	41.37
	高径	18.94

第９表　遺構ごとの出現頻度表

時期		弥生・中期																中～近世		近世
遺構		13層		14層		15層		土坑墓			ピット		包含層		溝			自然流路	8層	溝
種名		イノシシ	シカ	イノシシ	シカ	イノシシ	シカ	イノシシ	シカ	イヌ	イノシシ	シカ	イノシシ	シカ	イノシシ	シカ	ウサギ	ウマ	ウマ	ウシ
頭頂骨	左	1																		
後頭骨	右														1					
前頭骨	左				1															
前頭骨	右				1			1												
側頭骨	左														1					
側頭骨	右	1													2					
上顎骨	左												1							
上I1	左	1									1		1							
上I1	右	1																		
上P4	左								1											
上M1	左	2	1																	
上M2	左	2											1							
上M3	左															1				
上M3	右																	1		
下顎骨	左	1			1			1	1		1									
下顎骨	右	2			1			1				1			1		1			
下M1	右	2																		
下M2	左														1					
下M3	右											1								
環椎	—	2							1											
軸椎	—	1	1					1		1										
第11胸椎	—	1																		
第1腰椎																1				
第3腰椎	—			1																
第4？腰椎	—							1												
肩甲骨	左	1						2												
肩甲骨	右		2										1		1					
上腕骨	左	2													1					
上腕骨	右		1	1											1					1
尺骨	右														2					
橈骨	左		1					1	1											
橈骨	右								1											
月状骨	左	1																		
三角骨	左	1																		
寛骨	左												1		2					
寛骨	右	1												1	1					
大腿骨	左							1							1					
大腿骨	右	1	1																	
脛骨	左	1							1						1	1				
脛骨	右														1					
距骨	左	2	1	1		1	1		1					1						
距骨	右	1	1										1							
踵骨	左		1	1	1		1					1	2							
踵骨	右	1	1					1	1						1					
舟状立方骨	左		2											1						
舟状立方骨	右		1											1		1				
立方骨	左												1							
楔状骨	左		1																	
楔状骨	右																			
第3中足骨	右												1							
第2・3中足骨	左													1						
基節骨	左																		1	
総計		29	15	4	5	1	2	10	8	1	2	3	10	5	18	4	1	1	1	1

第10表　時期ごとの出現頻度表

		弥生・中期				奈良～平安	近世
		イノシシ	シカ	ウサギ	イヌ	ウマ	ウシ
頭頂骨	左	1					
後頭骨	右	1					
前頭骨	左		1				
前頭骨	右	1	1				
側頭骨	左	1					
側頭骨	右	3					
上顎骨	左	1					
上I1	左	3					
上I1	右	1					
上P4	左		1				
上M1	左	2	1				
上M2	左	3					
上M3	左		1				
上M3	右					1	
下顎骨	左	4	1				
下顎骨	右	3	2	1			
下M1	右	2					
下M2	左	1					
下M3	右		1				
環椎	－	1	1				
軸椎	－	2	1		1		
第11胸椎	－	1					
第1腰椎			1				
第3腰椎	－	1					
第4？腰椎	－	1					
肩甲骨	左	1					
肩甲骨	右	1	2				
上腕骨	左	2					
上腕骨	右	2	1				1
尺骨	右	2					
橈骨	左	1	2				
橈骨	右		1				
月状骨	左	1					
三角骨	左	1					
寛骨	左	3					
寛骨	右	2	1				
大腿骨	左	2					
大腿骨	右	1	1				
脛骨	左	3	3				
脛骨	右	1					
距骨	左	3	4				
距骨	右	1	1				
踵骨	左	2	4				
踵骨	右	2	2				
舟状立方骨	左		3				
舟状立方骨	右		3				
立方骨	左	1					
楔状骨	左		1				
楔状骨	右	1					
第3中足骨	右	1					
第2・3中足骨	左		1				
基節骨	左					1	
合計		67	42	1	1	1	1

3. 出土木製品の樹種同定

本遺跡は弥生時代の集落遺跡としてはよく知られている遺跡で、今回の調査で弥生時代から江戸時代にわたる遺構や遺物が検出された。弥生時代のものとして、木棺墓１基、土坑墓３基、自然流路、溝、井戸、土坑と多数の柱穴群などの遺構が検出された。今回、板卒塔婆、武器形木製品、容器、杓子、農具など６点の木製品の樹種同定をおこなった。

樹種同定のための顕微鏡的特徴

スギ（*Cryptomeria japonica*）

樹脂道は存在しない。樹種細胞は晩材付近に接線状にまばらにみられる。分野壁孔は典型的なスギ型。

バラ科（*Rosaceae*）

散孔材。道管は小さく、単穿孔を有する。放射組織は同性で、１－２列。

ヤマグワ（*Morus bombycis*）

環孔材。孔圏道管は大きく、複層になる。孔圏外道管は数個が塊状になる。道管は単先行。道管にらせん肥厚がみられ、チロースが詰まる。放射組織は異性で、１－５列となる。

アカガシ亜属（*Quercus sp. cyclobalanopsis*）

放射孔材。道管は大型で、放射方向にならぶ。道管は単穿孔。広放射組織と単列放射組織からなる。

その結果は表１に示すとおりであった。板卒塔婆２点は共にスギであった。武器型木製品はバラ科の一種、容器と杓子は共にヤマグワであった。また、農具はアカガシ亜属であった。

第11表　樹種同定表

遺物番号	遺物名	法量(mm)	出土遺構	時代	樹種	顕微鏡写真
1185	板卒塔婆	620×35×10	溝62	室町時代後半	スギ	図版190
1184	板卒塔婆	300×45×5	溝6	室町時代末期	スギ	図版190
1166	武器形木製品	165×29×7	自然流路4	弥生時代中期	バラ科	図版190
1164	容器（四脚器）	φ175×65×10	第13層内	弥生時代中期	ヤマグワ	図版190
1165	大型杓子	200×120×15	第13層内	弥生時代中期	ヤマグワ	図版190
1175	農具（未製品）		溝128	弥生時代中期	アカガシ科	図版190

V．まとめ

今回の調査では、弥生時代の木棺墓１基、土坑墓３基、土器棺墓２基、自然流路、溝、井戸、土坑と多数のピットを検出し、多量の弥生土器、石鏃・石錐・石槍などの打製石器、細形銅剣型磨製石剣・石包丁・石斧などの磨製石器、鍬などの木製品、刺突具などの骨角器、シカ・イノシシなどの動物遺体が出土した。このことから、弥生時代中期の集落状況－住居域・墓など－を確認することができた。また、平安時代以降の遺構は溝、側溝を伴う道、鋤溝、足跡、落ち込み、自然流路などで、大半が田畑としての生産域にともないう遺構であった。遺物としては須恵器、土師器、瓦器、陶磁器とともに、板卒塔婆・漆器椀などの木製品、鉄製品、ウマなどの動物遺体が出土した。

このように、今回の調査では弥生時代から江戸時代にわたる遺構・遺物を検出した。以下、時代をおって調査内容をまとめておく。

調査地の現況は国道170号線＝外環状線東沿いにあたり、南から北へ高くなっていて、約1.1mの比高差がある。これは調査地北を東西に流れる新川の堤防に向けて盛土し、道路が造られたためである。しかし、弥生時代の中期後半の遺構面は北端がT.P.＋0.45m、南端がT.P.＋1.5mと逆に約１m南の方が高く、この状況は、比高差は少なくなるが現代の旧耕土期までつづいていた。

縄文時代晩期の凸帯文土器は出土したが、いずれも７工区の弥生時代の遺構または整地土＝遺物包含層内からで、明確な遺構は確認できなかった。弥生時代前期土器の出土状況もほとんど同じで、７工区からの出土が大半であった。6工区の第17層上面で検出したピット・溝は層的には前期相当遺構であるが、遺物は出土していない。7工区では土器棺墓Ⅱのような前期の土坑やピットが少量みられた。中期になると調査地全域から多数の遺構・遺物が検出され、全体が集落域の一画であったことを示している。第16層および第15層上面遺構はⅡ様式相当、第14層上面遺構はⅢ・Ⅳ様式相当期の遺構であった。この状況は、第44次調査地南、第55次調査地南、そして本調査地の西南および南に位置する第56次調査地（今年度調査地）全体に見られた。国道308号線内の調査地では集落の北端を画する大溝群、第7次調査地がピット・土坑などとともに貝塚があり、その北方の第55次調査地北で集落北西端、西方の第47次調査地で西端を画すると思われる大溝がみつかっており、本調査地は環濠集落の中心部北よりに位置するものと思われる。

弥生時代中期末の東西方向の自然流路を３筋検出したが、後期の遺物は少なかった。ただ、自然流路上面などで検出した溝は、弥生時代中期の遺物を掘り上げ包含していたものの、古墳時代以後の遺構と考えられる。

また、６工区南で検出した東西方向の溝および道遺構は、平安時代中ごろから江戸時代にわたり溝、数次期の側溝をもつ東西道（畷）、溝と変化しながらもほぼ同地点（24地区付近）で形成されつづけていた。これらの遺構は条里制に伴う坪境を走る。すなわち、七条の十九坪と二十坪（小字では柳田と東間瀬）を南北に区切る東西線にあたり、江戸時代以降もこの坪境の南北で掘り上げ田の井路状況が相違し、現在もその遺制としての東西道が分断されながらも残存している。

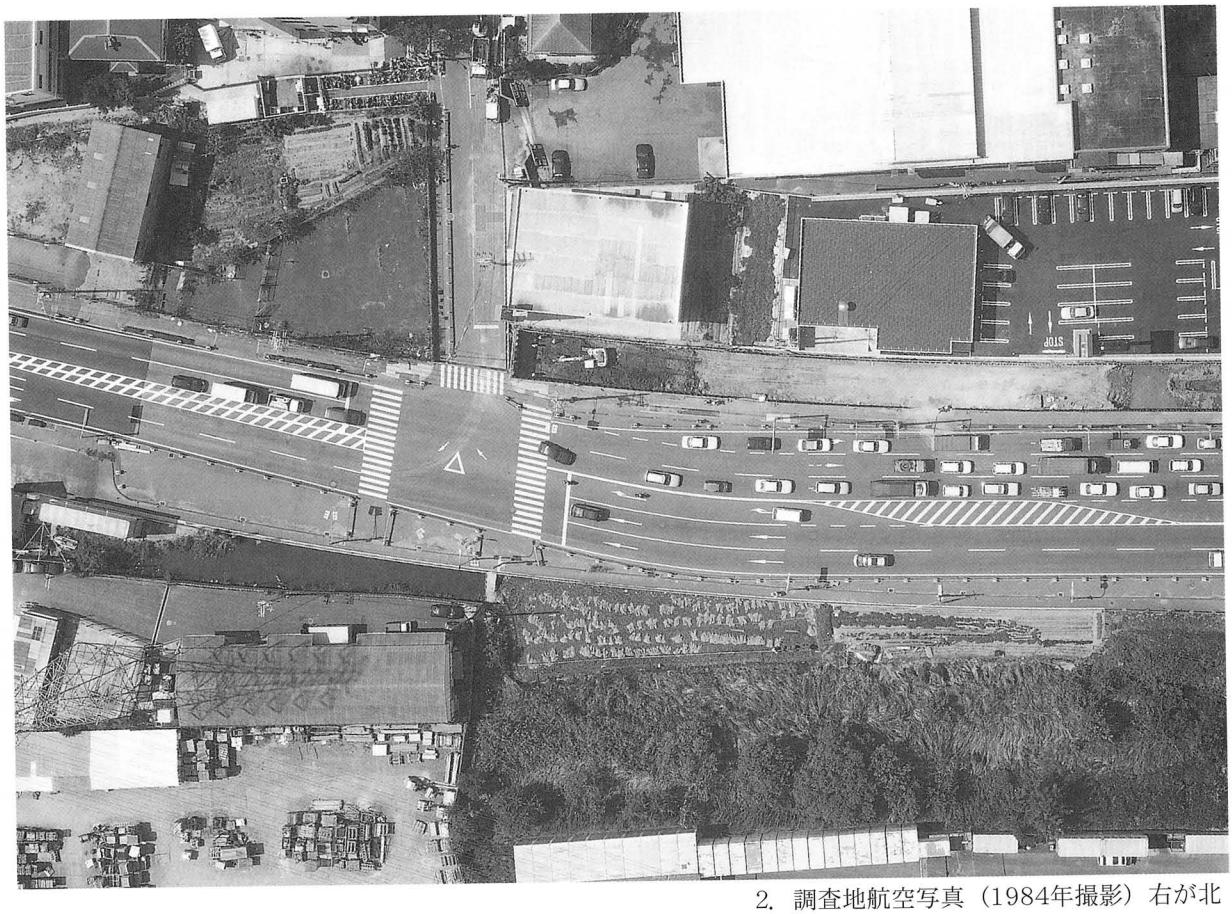
本遺跡が弥生時代の拠点集落として周知されており、これまでも環濠と考えられる数条の大溝、方形周溝墓群、土坑墓、貝塚、井戸などの土坑、ピット群などからその存在を窺わせていた。今回の調査では調査地長約190m間はピット・土坑・溝などの遺構が密集し、かなり大きな（南北長）集落であったこと裏付けることができた。さらに、生産域化してしまうものの、平安時代中ごろ以降の条里遺構の存在を確認し、その遺制が現在までも生き続けていることを実証することができた。

国道170号立体交差事業伴う調査は今年度以後も引き続き行なわれ、本遺跡の状況がさらに明確化するものと思われる。今後、それらの成果を踏まえ、遺跡の性格をまとめたいと考えている。

図　　版

図版1　遺構

1. 調査地航空写真（1950年ごろ撮影）

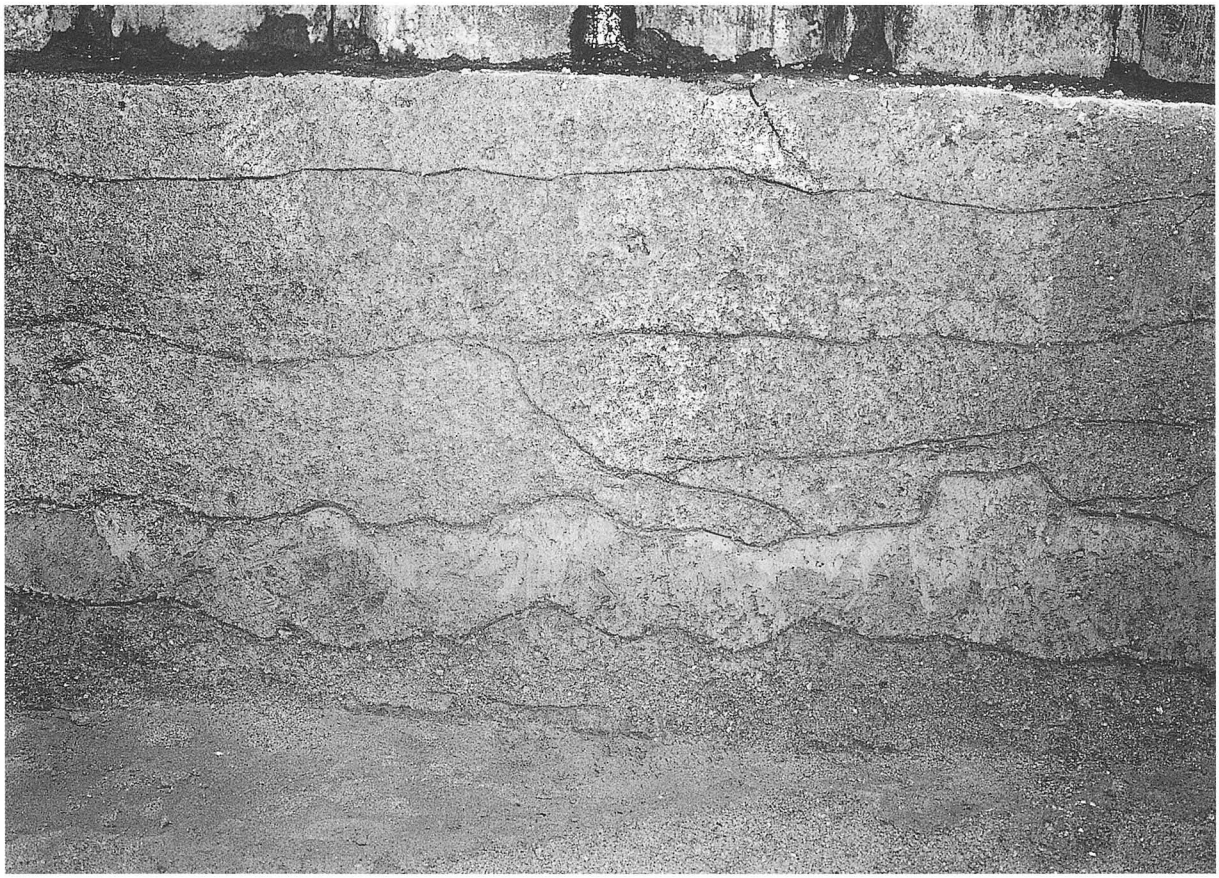


2. 調査地航空写真（1984年撮影）右が北

図版2　遺構

1. 調査地全景（南から）

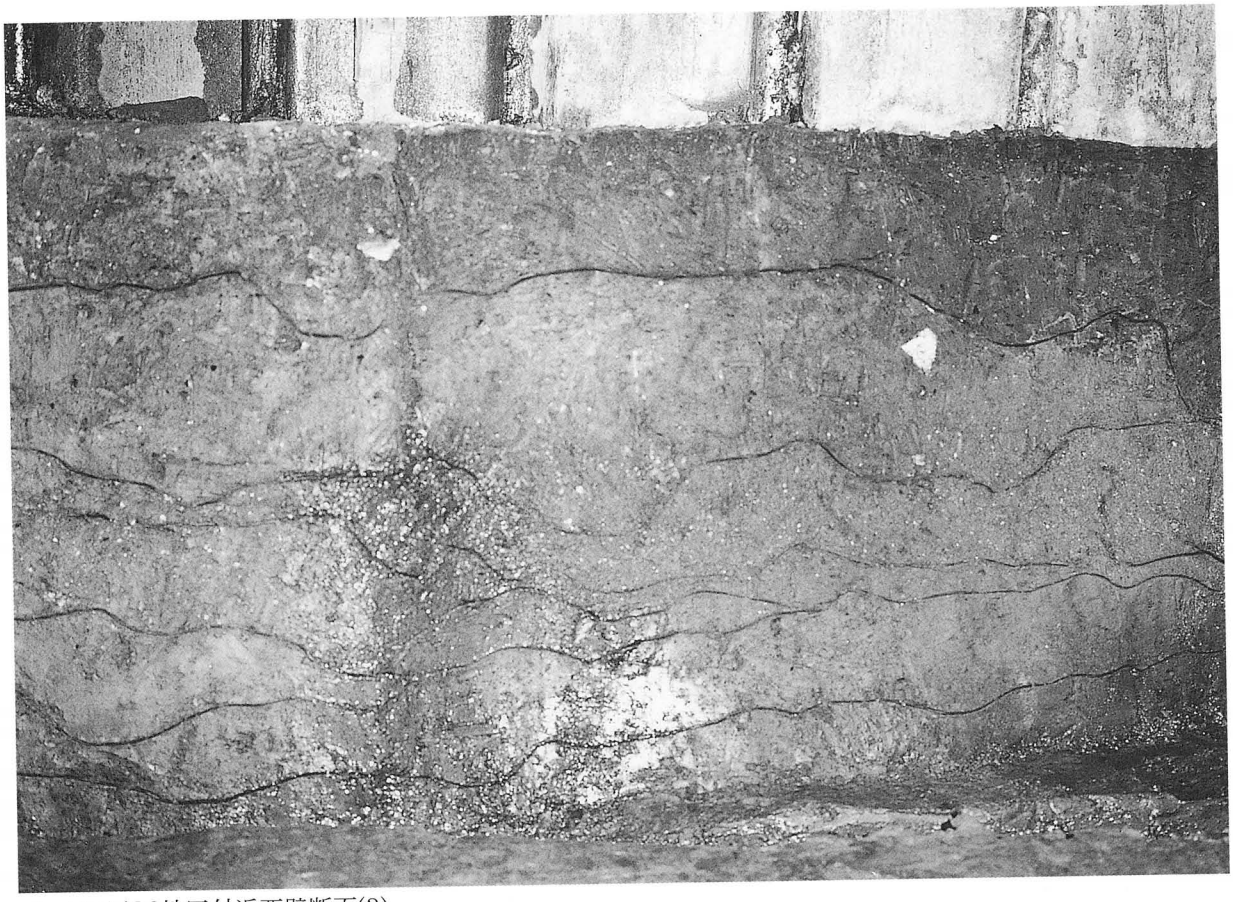
2. 機械掘削状況



1. 7工区36地区付近西壁断面(1)

2. 7工区36地区付近西壁断面(2)

図版4　遺構



1. 7工区36地区付近西壁断面(3)

2. 7工区36地区付近西壁断面(4)

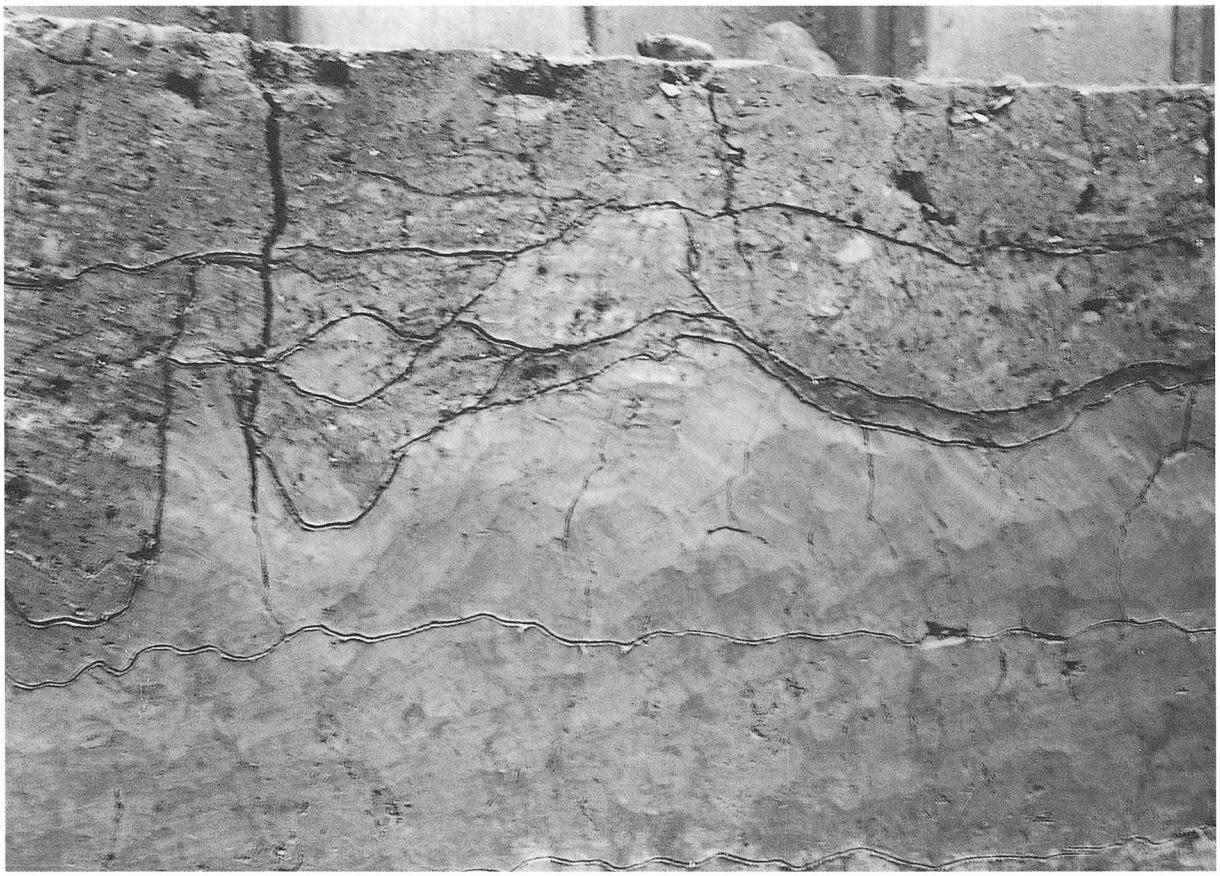
図版5　遺構

1. 6工区８地区付近西壁断面(1)

2. 6工区８地区付近西壁断面(2)

図版6　遺構

1. 6工区８地区付近西壁断面(3)

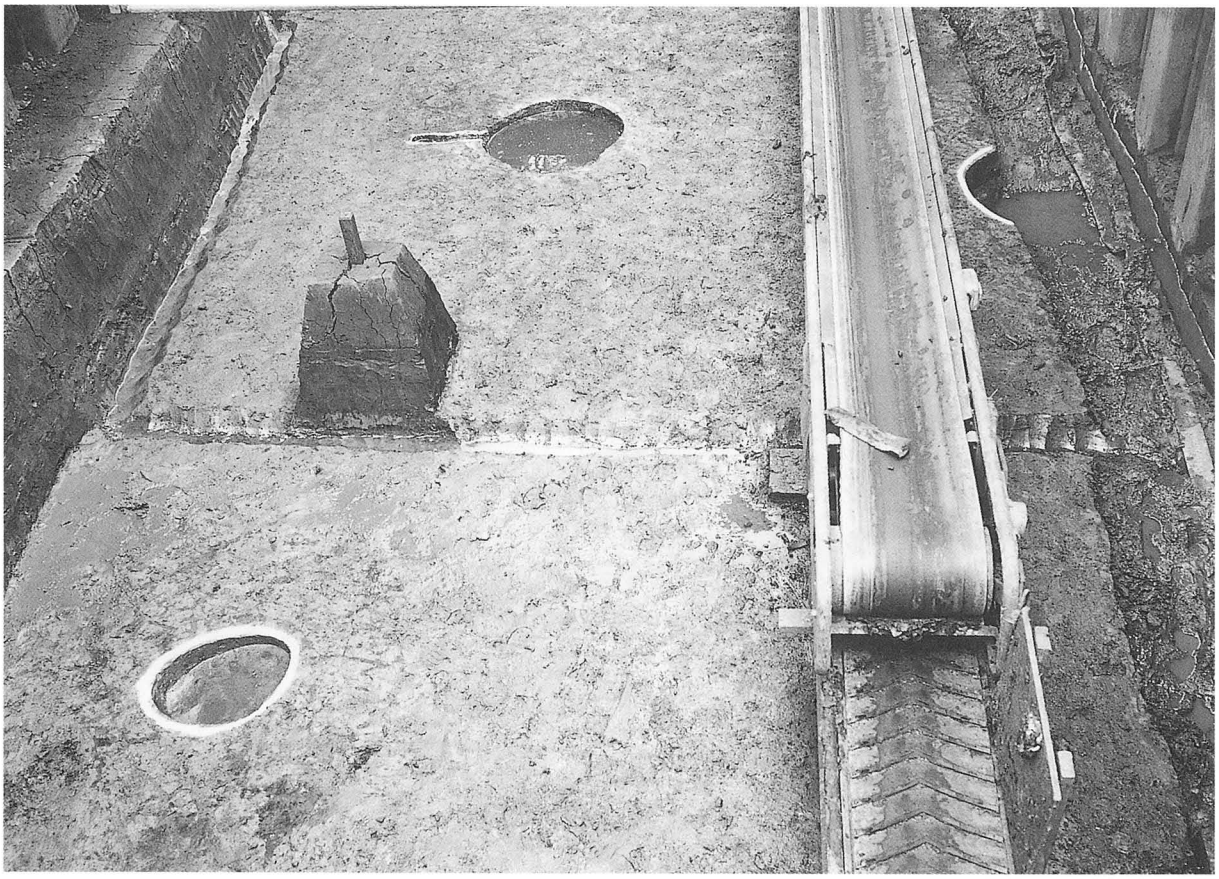


2. 6工区８地区付近西壁断面(4)

図版7　遺構

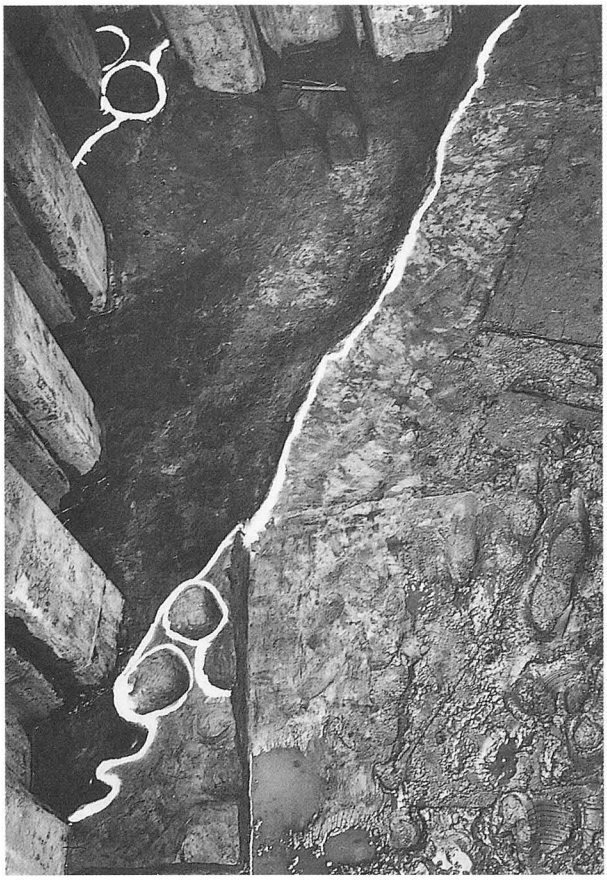
1. 6工区第17層上面遺構(1)
5地区付近　北より

2. 6工区第17層上面遺構(2)
8地区付近　北より

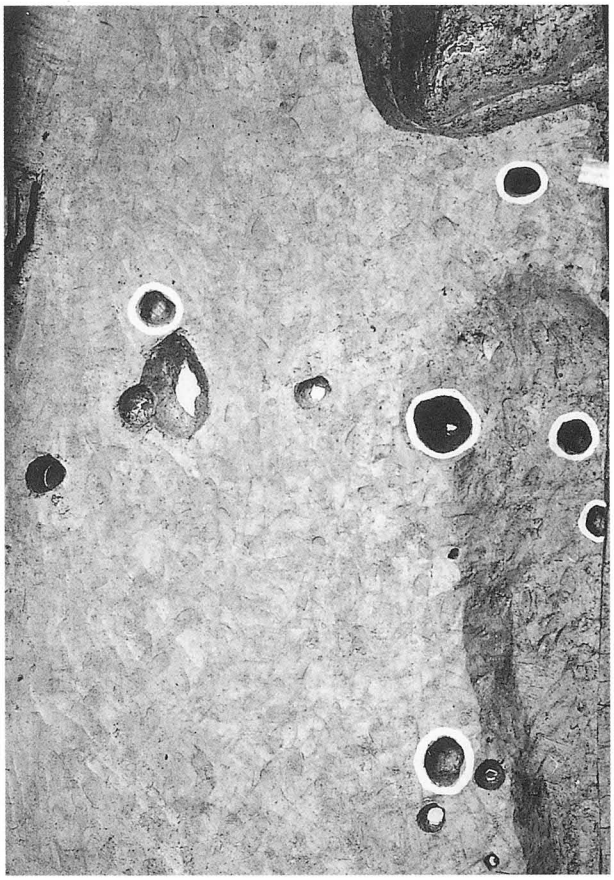


3. 6工区第17層上面遺構(3)　11・12地区付近　南より

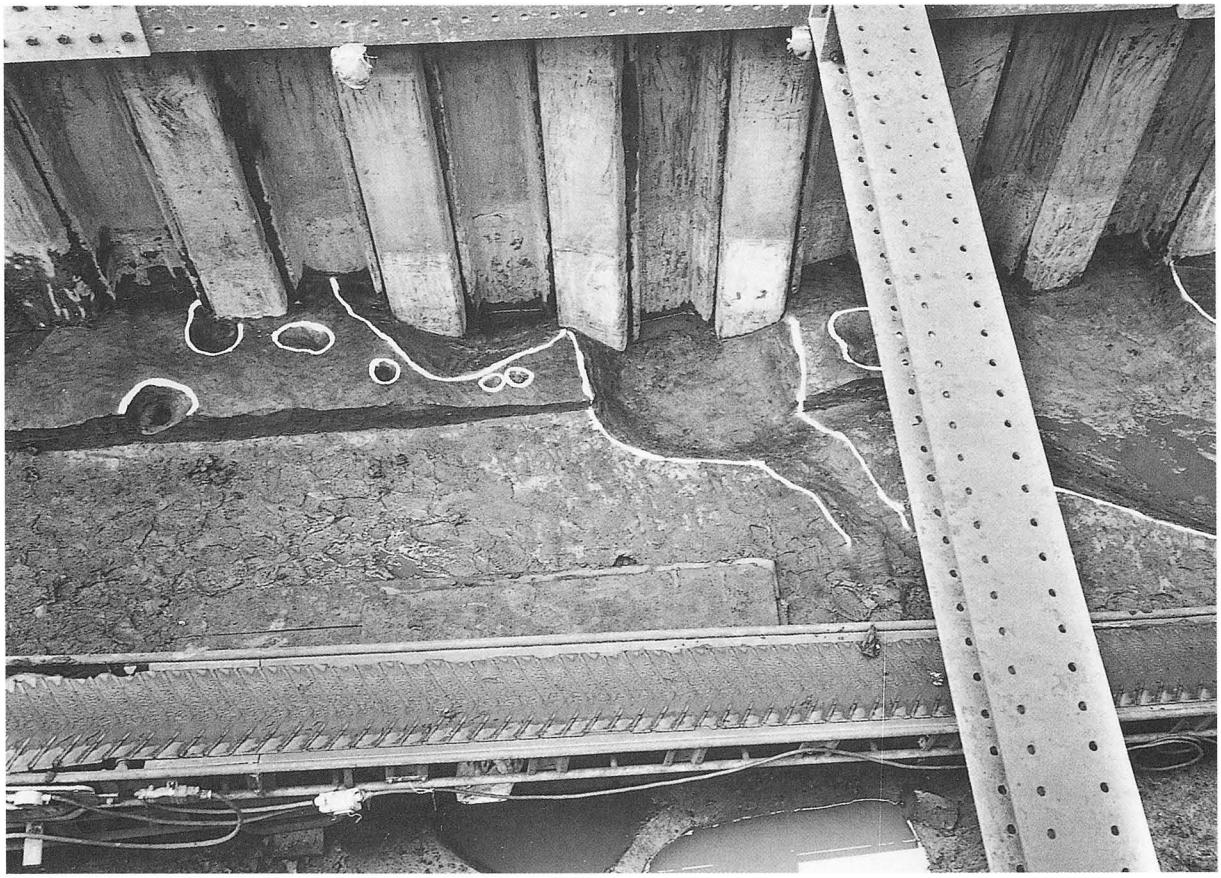
図版8　遺構



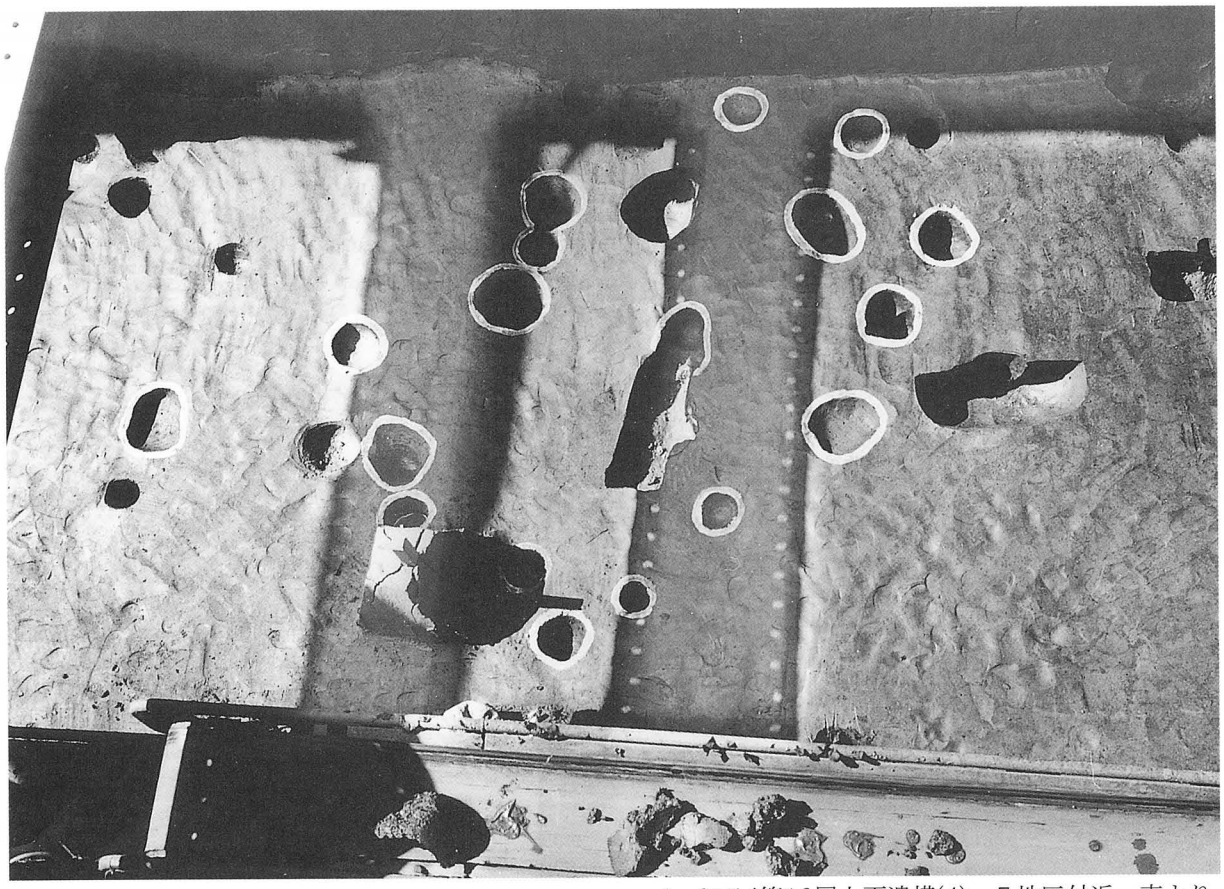
1．6工区第16層上面遺構(1)
　　1地区付近　南より



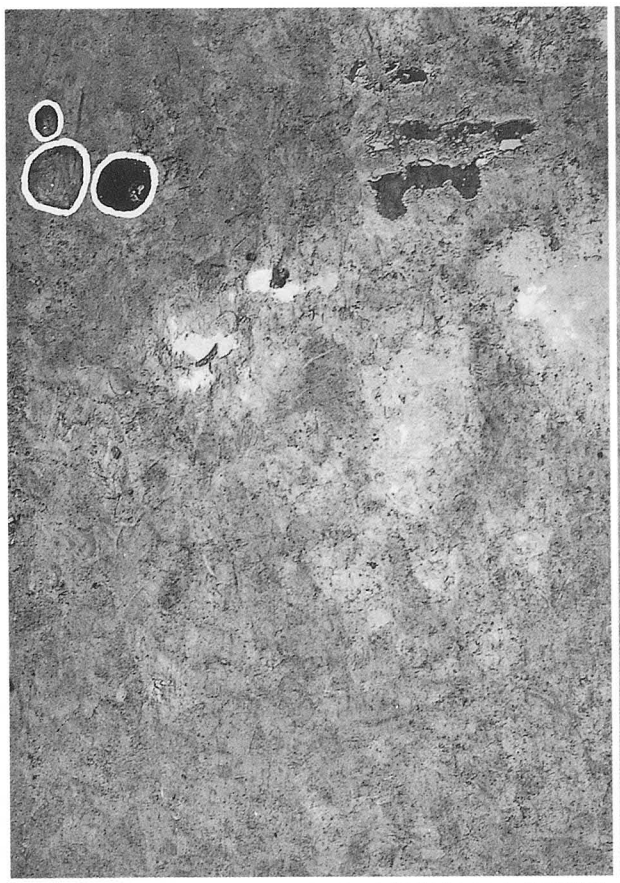
2．6工区第16層上面遺構(2)
　　4地区付近　北より



3．6工区第16層上面遺構(3)　2・3地区付近　東より



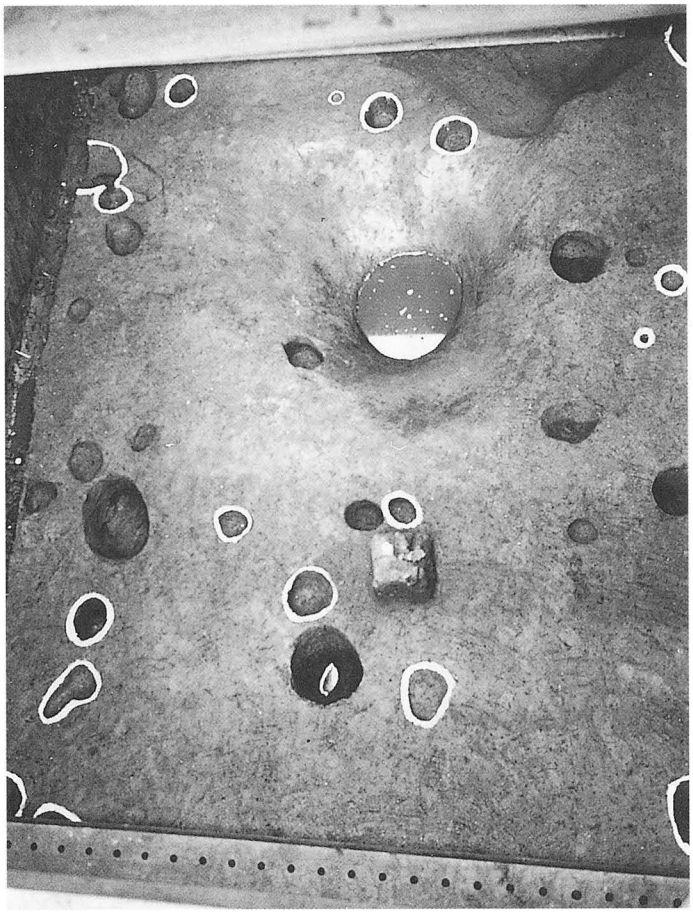
1. 6工区第16層上面遺構(4)　7地区付近　東より



2. 6工区第16層上面遺構(5)
14地区付近　北より

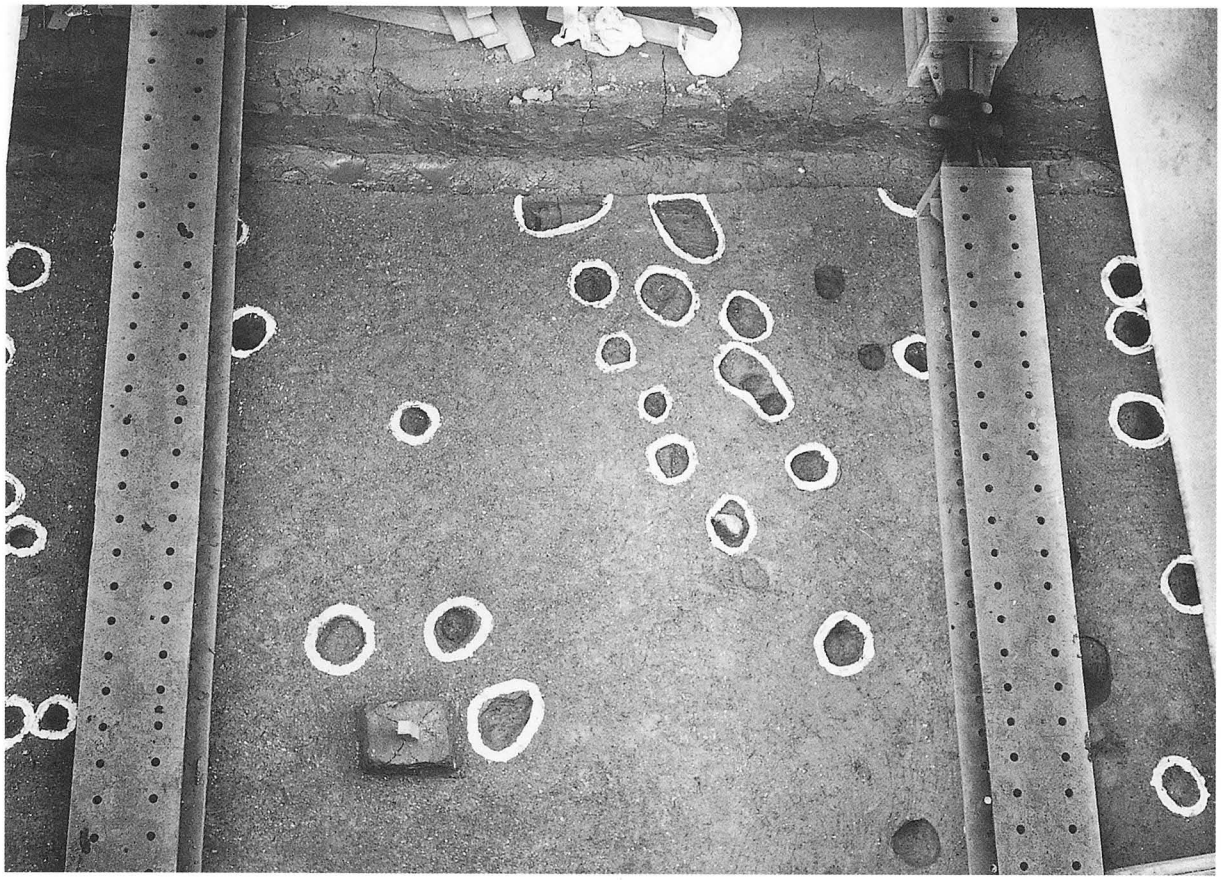
3. 6工区第16層上面遺構(6)
21地区付近　南より

図版10　遺構

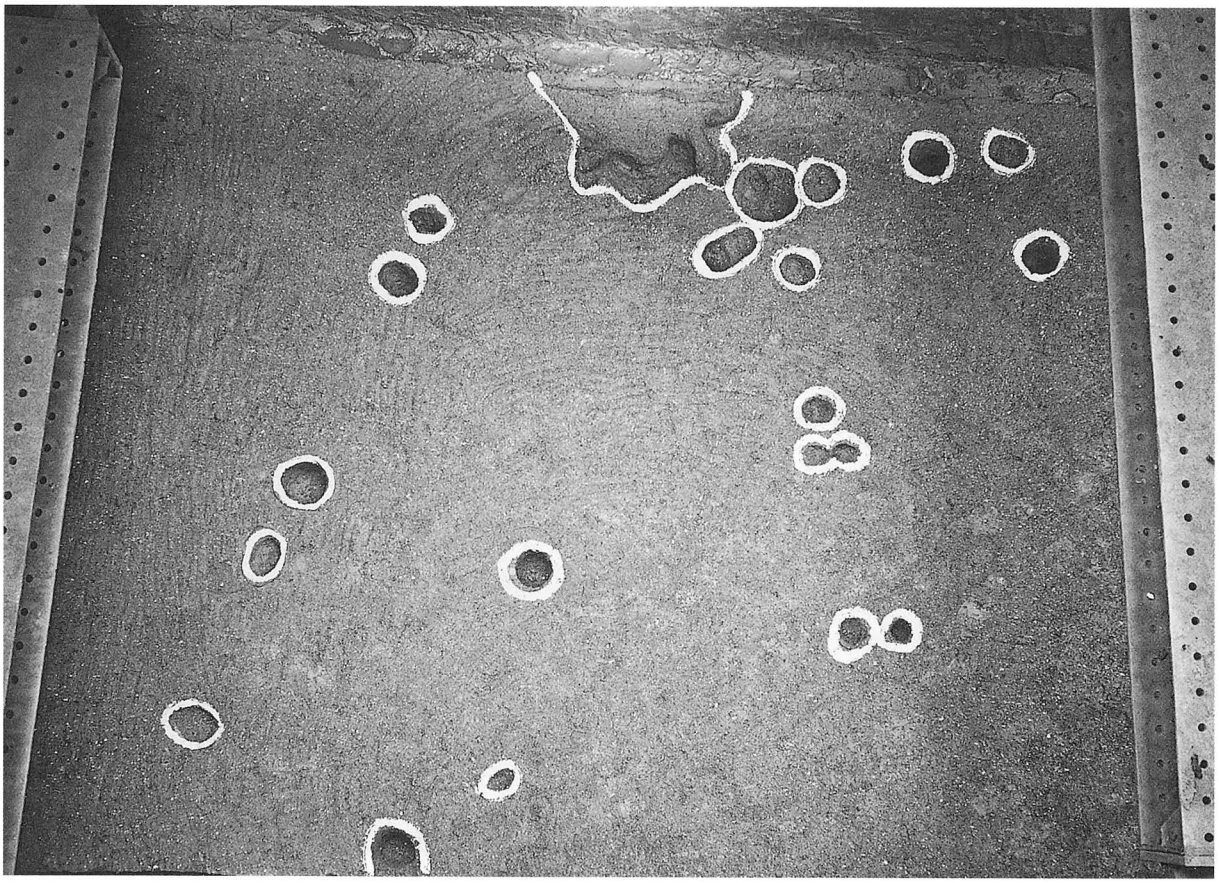


1. 7工区第16層上面遺構(7)
31・32地区付近　南より

2. 7工区第16層上面遺構(8)　32・33地区付近　東より



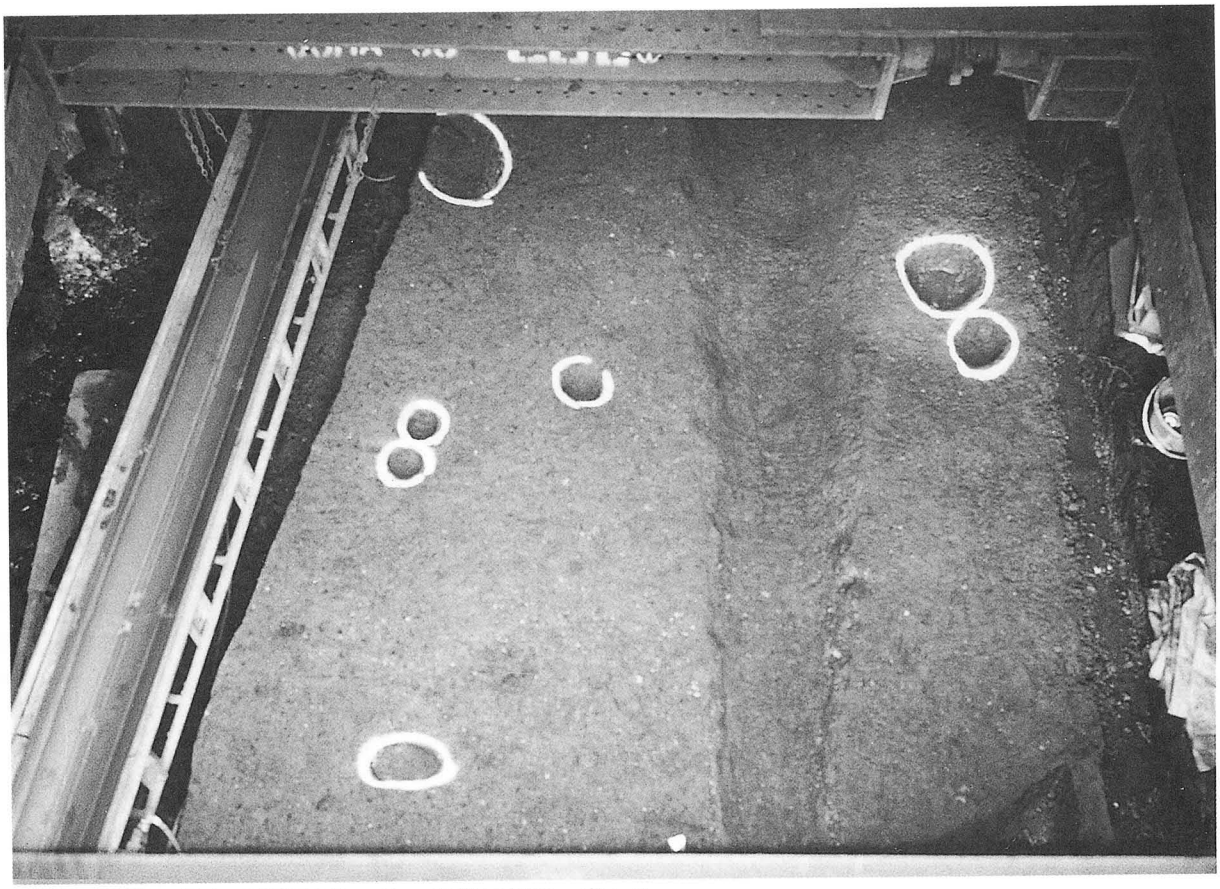
1. 7工区第16層上面遺構(9)　33・34地区付近　東より



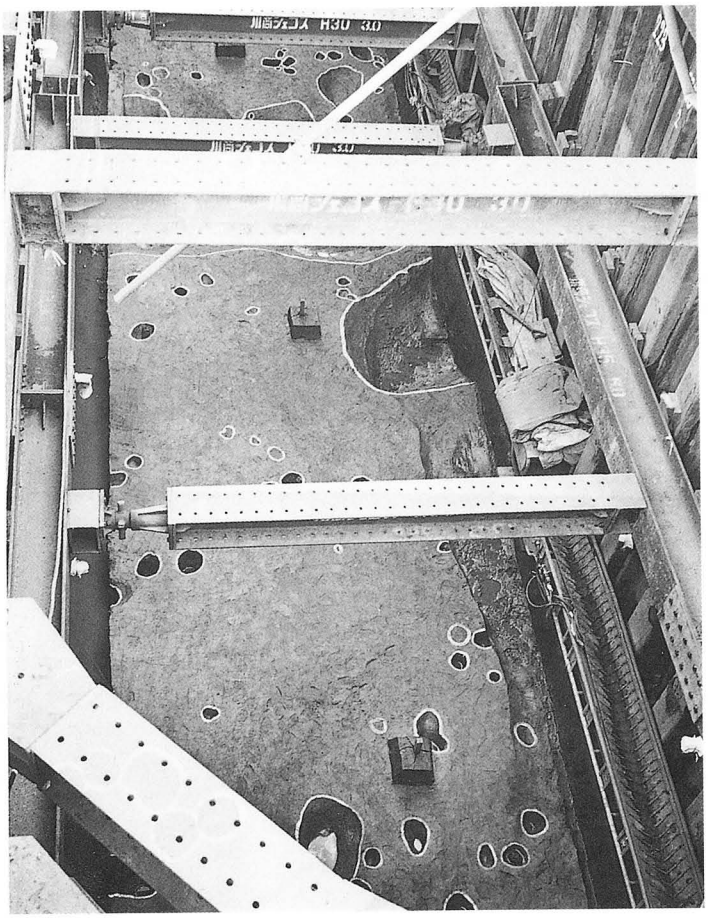
2. 7工区第16層上面遺構(10)　35地区付近　東より

図版12　遺構

1. 7工区第16層上面遺構(11)　38地区付近　東より



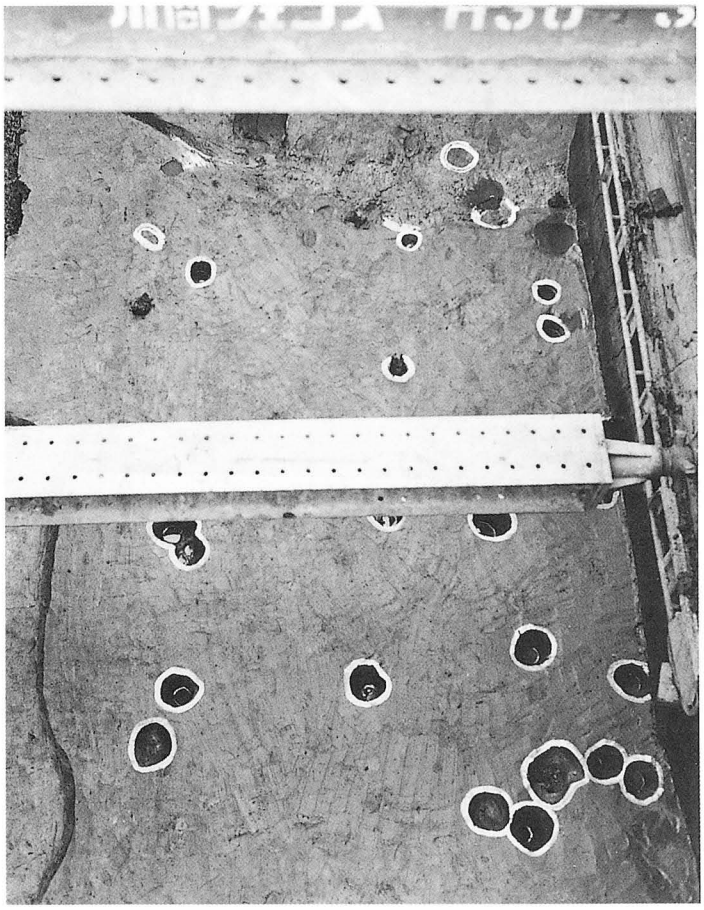
2. 7工区第16層上面遺構(12)　41・42地区付近　東より



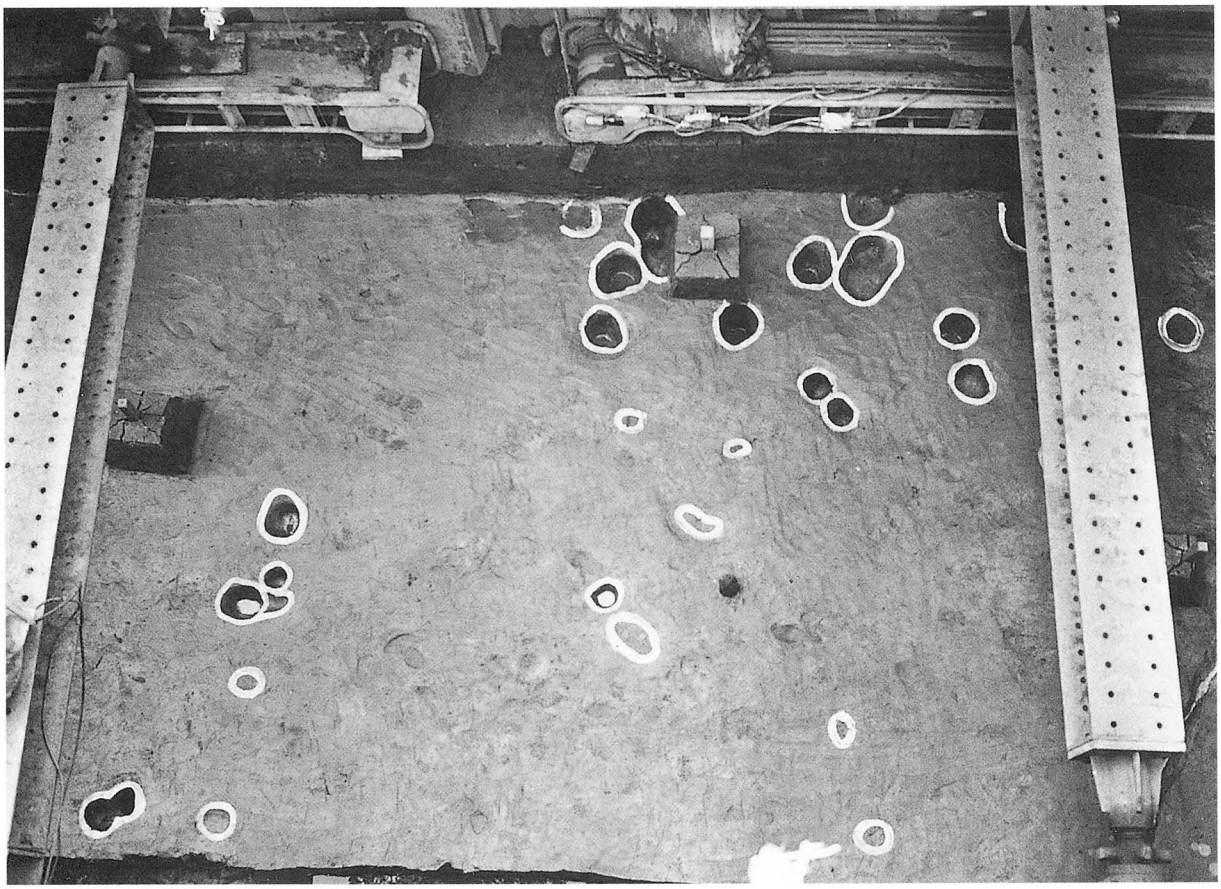
1. 6工区第15層上面遺構(1)
1～3地区付近　北より

2. 6工区第15層上面遺構(2)　4地区付近　西より

図版14　遺構

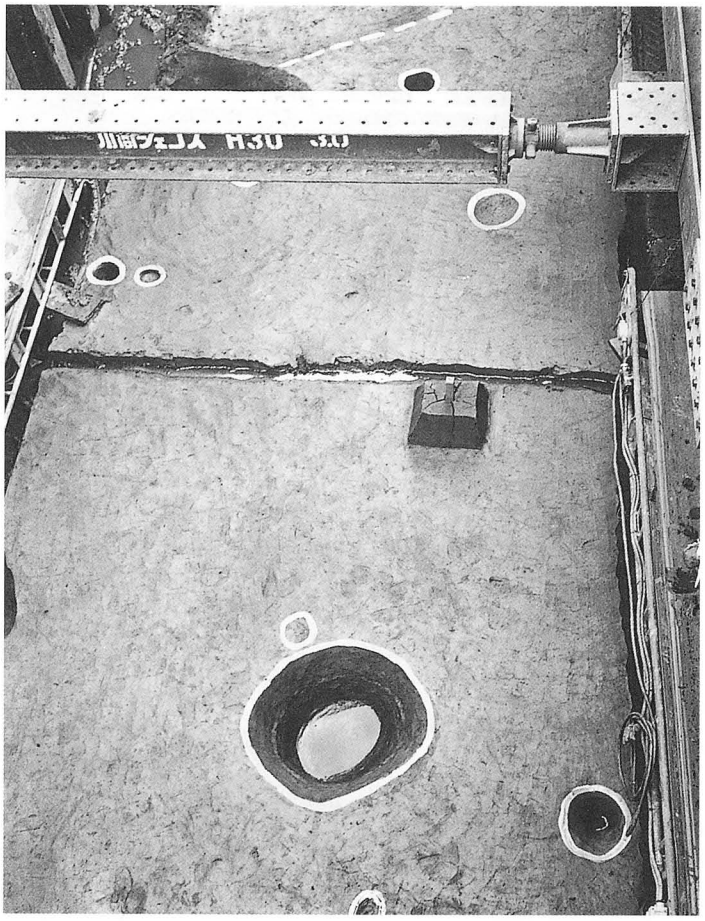


1. 6工区第15層上面遺構(3)
　6・7地区付近　北より

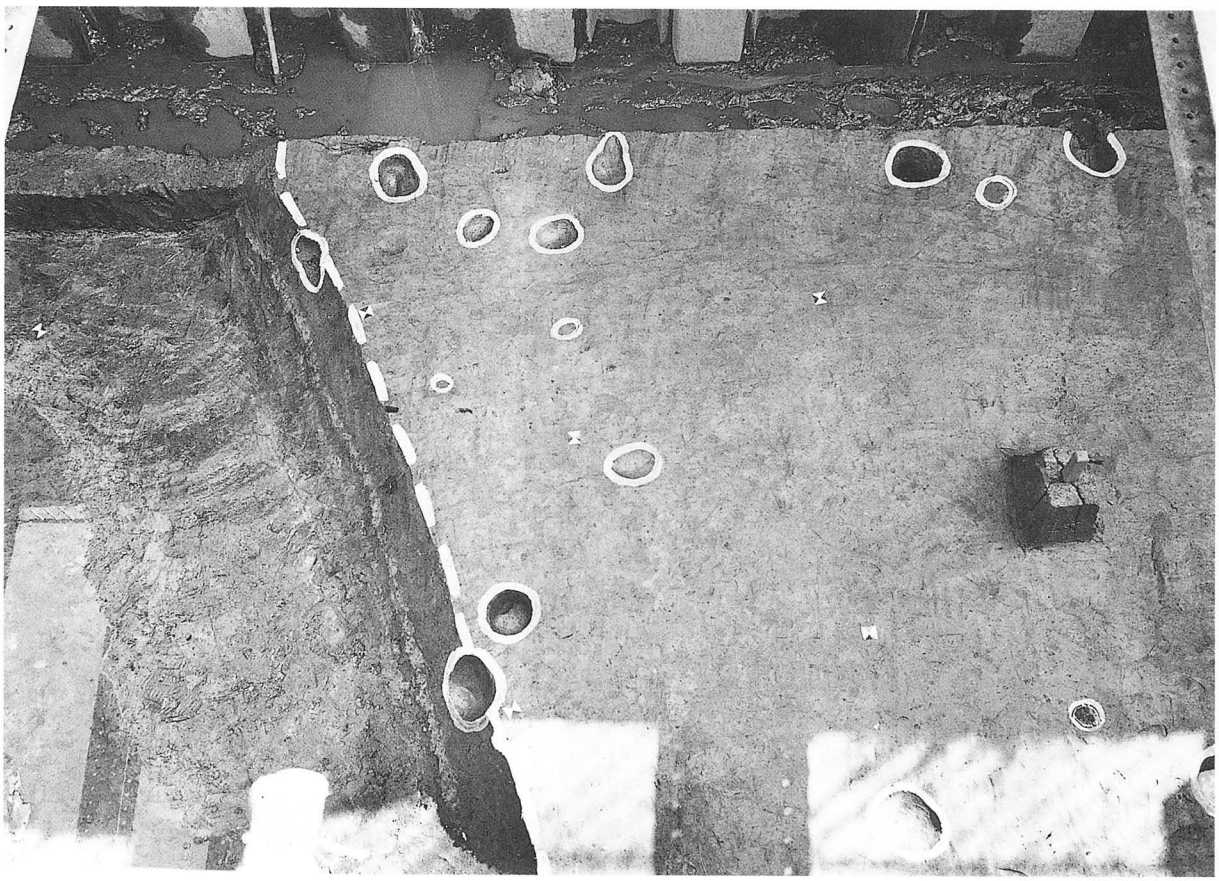


2. 6工区第15層上面遺構(4)　8地区付近　東より

図版15　遺構

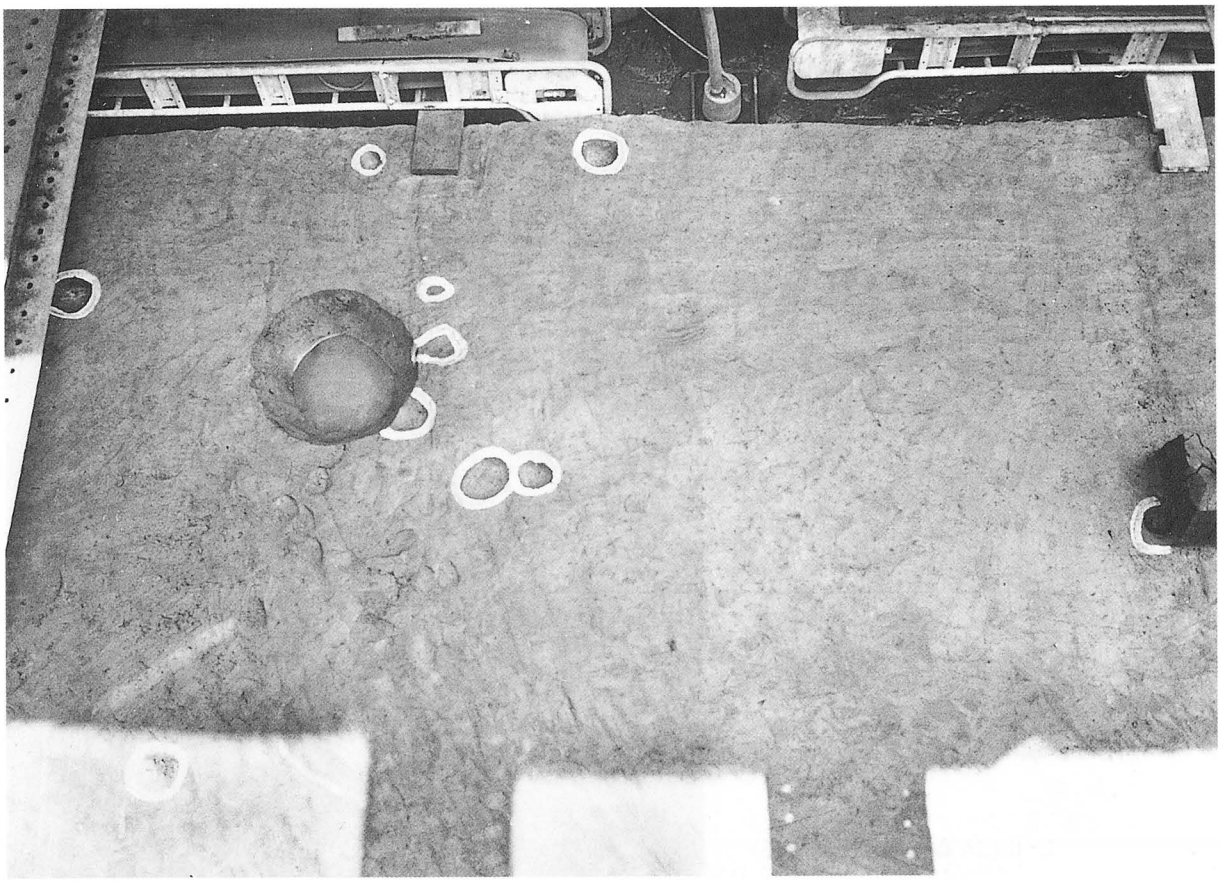


1. 6工区第15層上面遺構(5)
10～11地区付近　北より

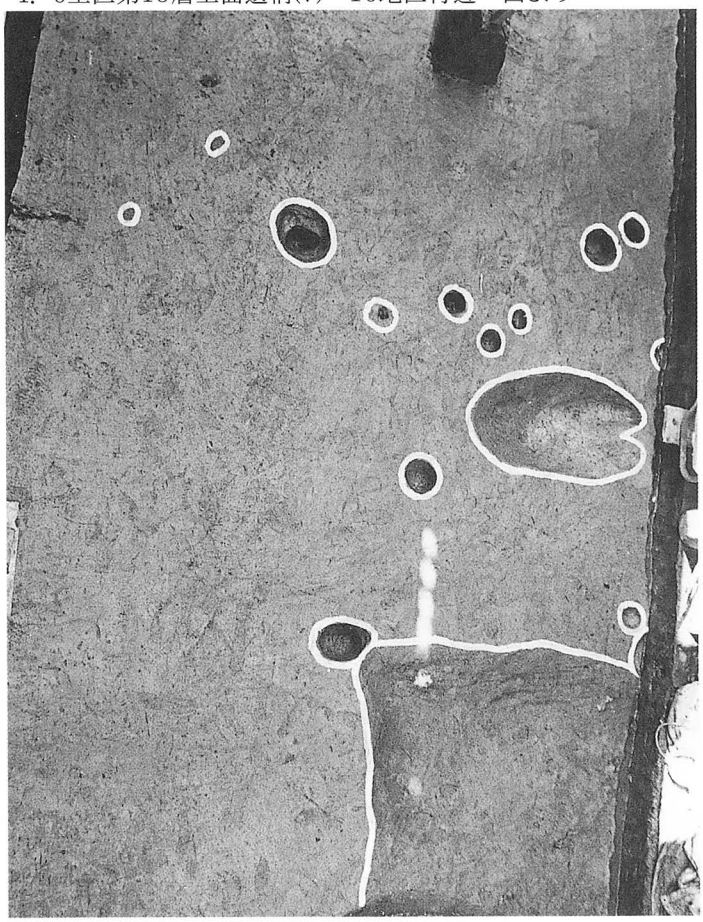


2. 6工区第15層上面遺構(6)　13地区付近　西より

図版16　遺構

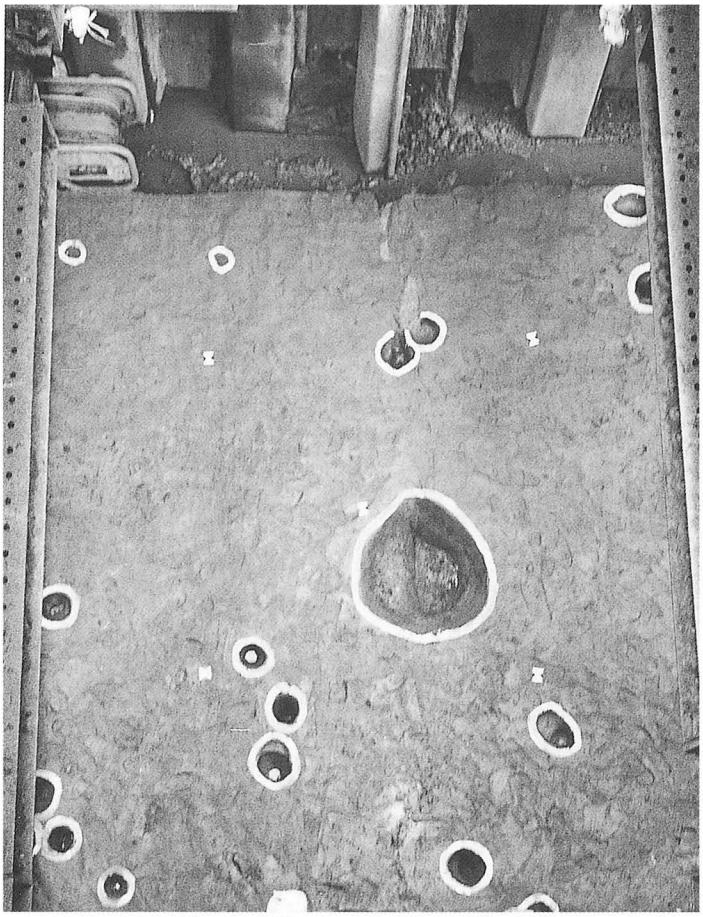


1. 6工区第15層上面遺構(7)　16地区付近　西より

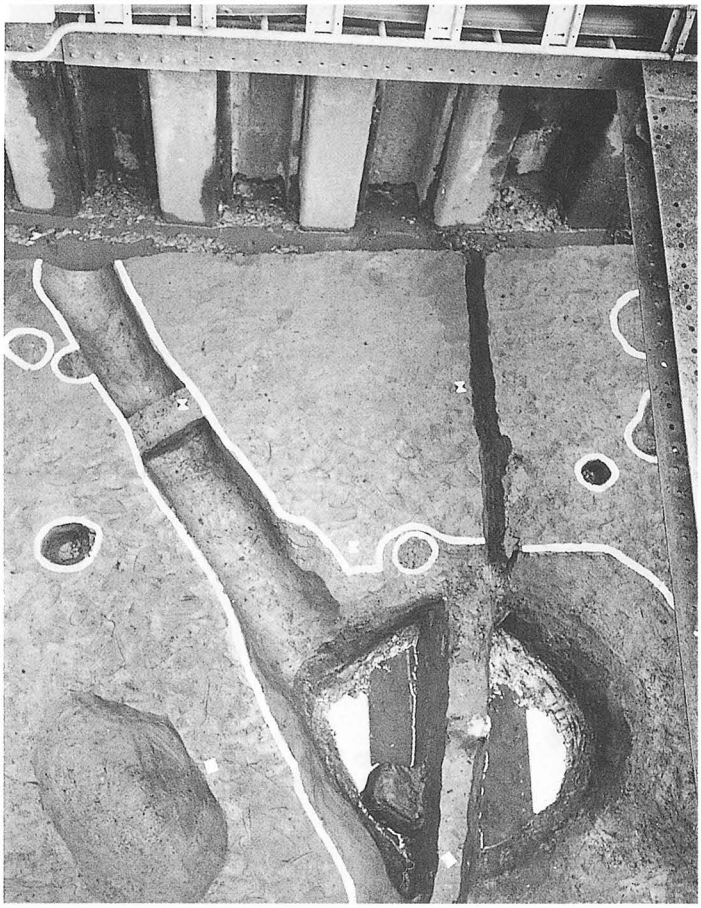


2. 6工区第15層上面遺構(8)
19地区付近　北より

図版17　遺構



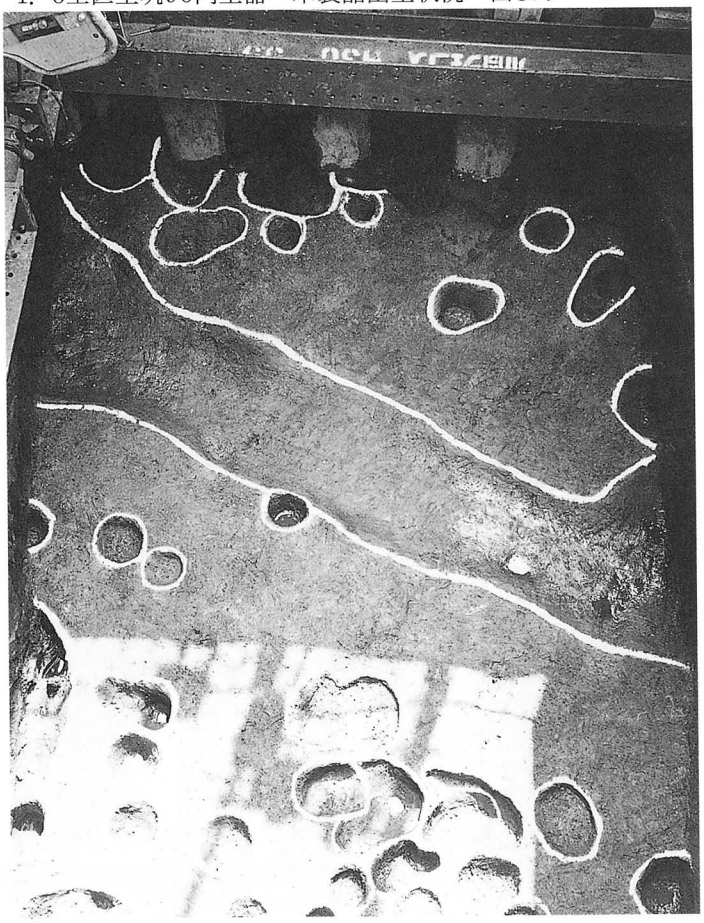
1. 6工区第15層上面遺構(9)
24地区付近　西より



2. 6工区第15層上面遺構(10)
26地区付近　西より

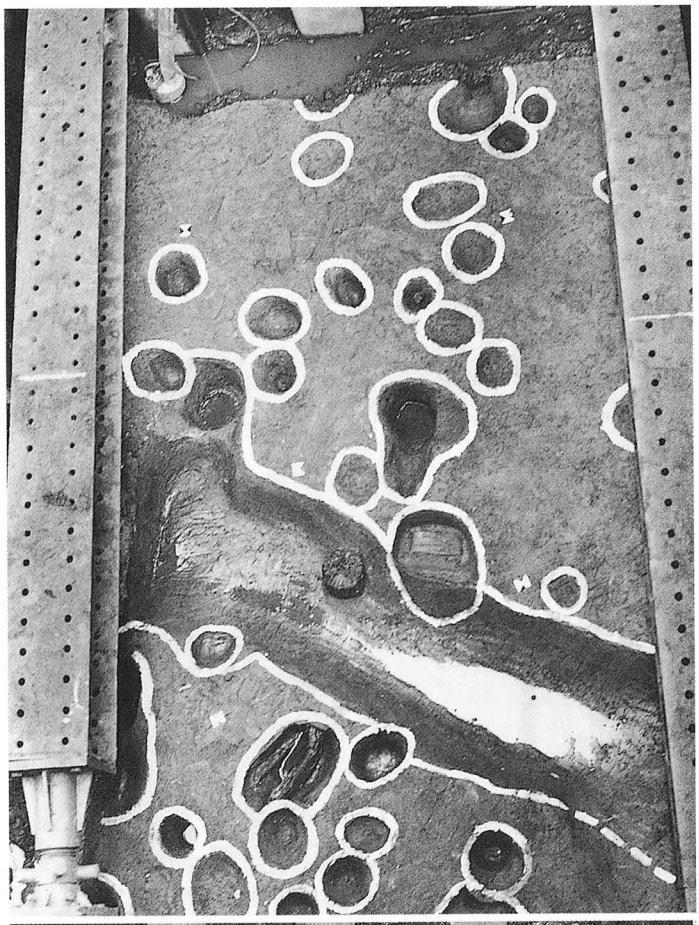
図版18　遺構

1. 6工区土坑96内土器・木製品出土状況　西より

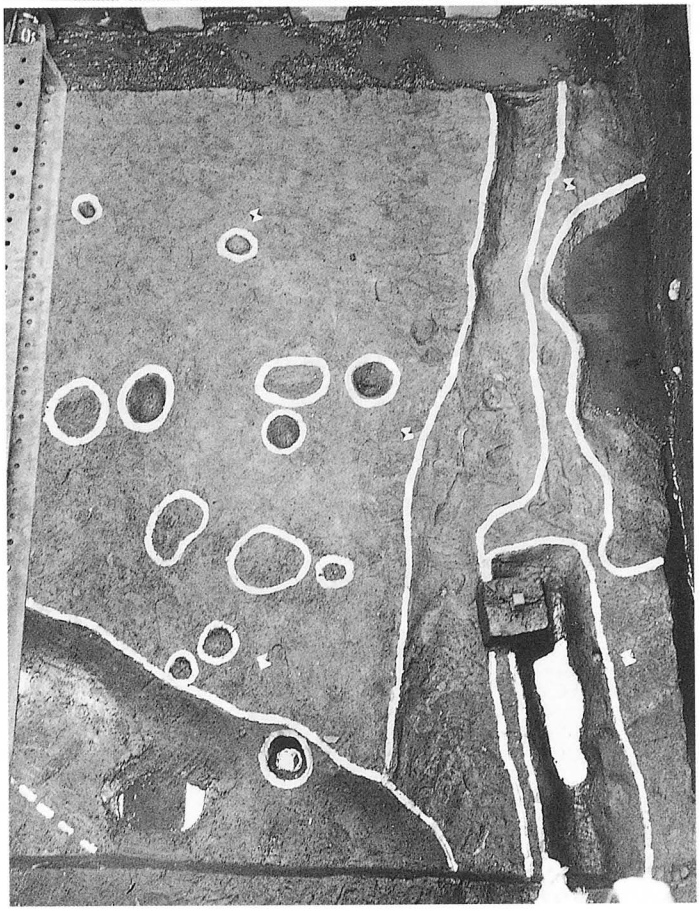


2. 6工区第15層上面遺構(11)
28地区付近　西より

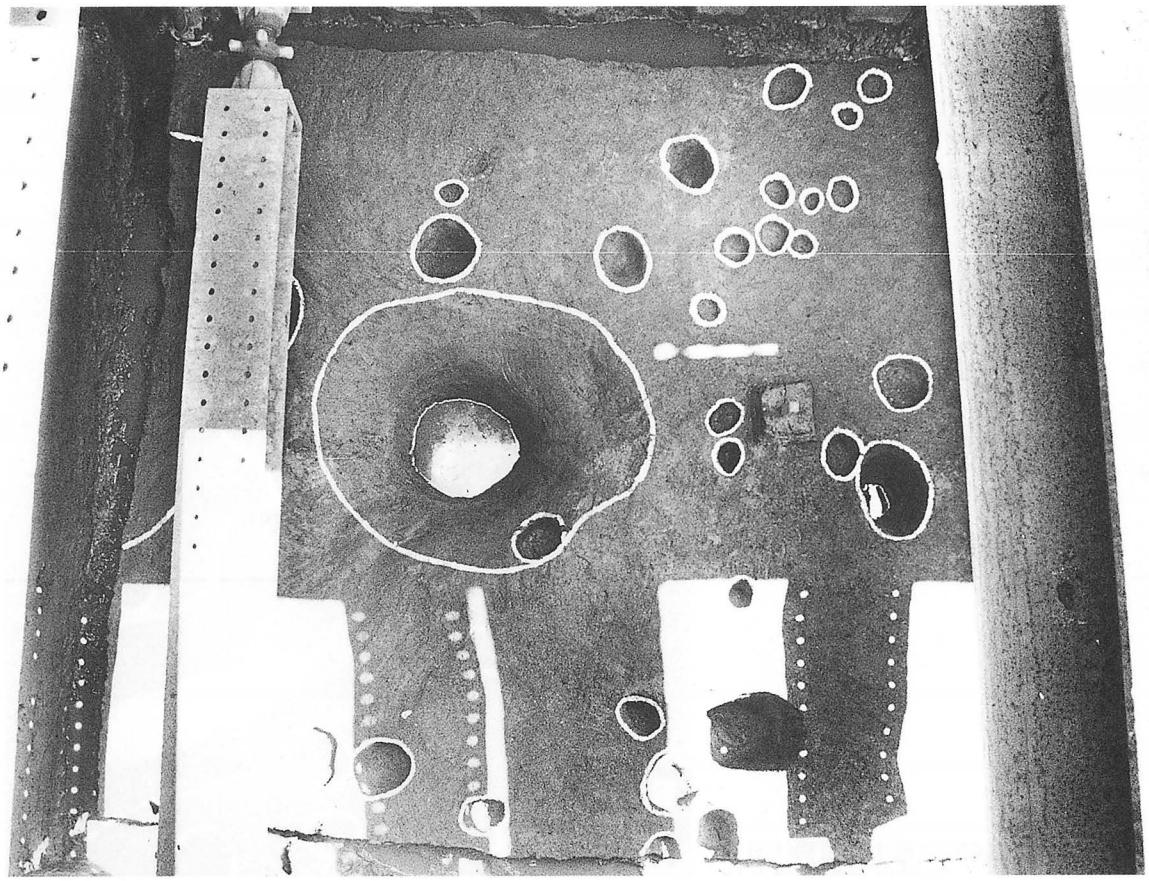
図版19　遺構



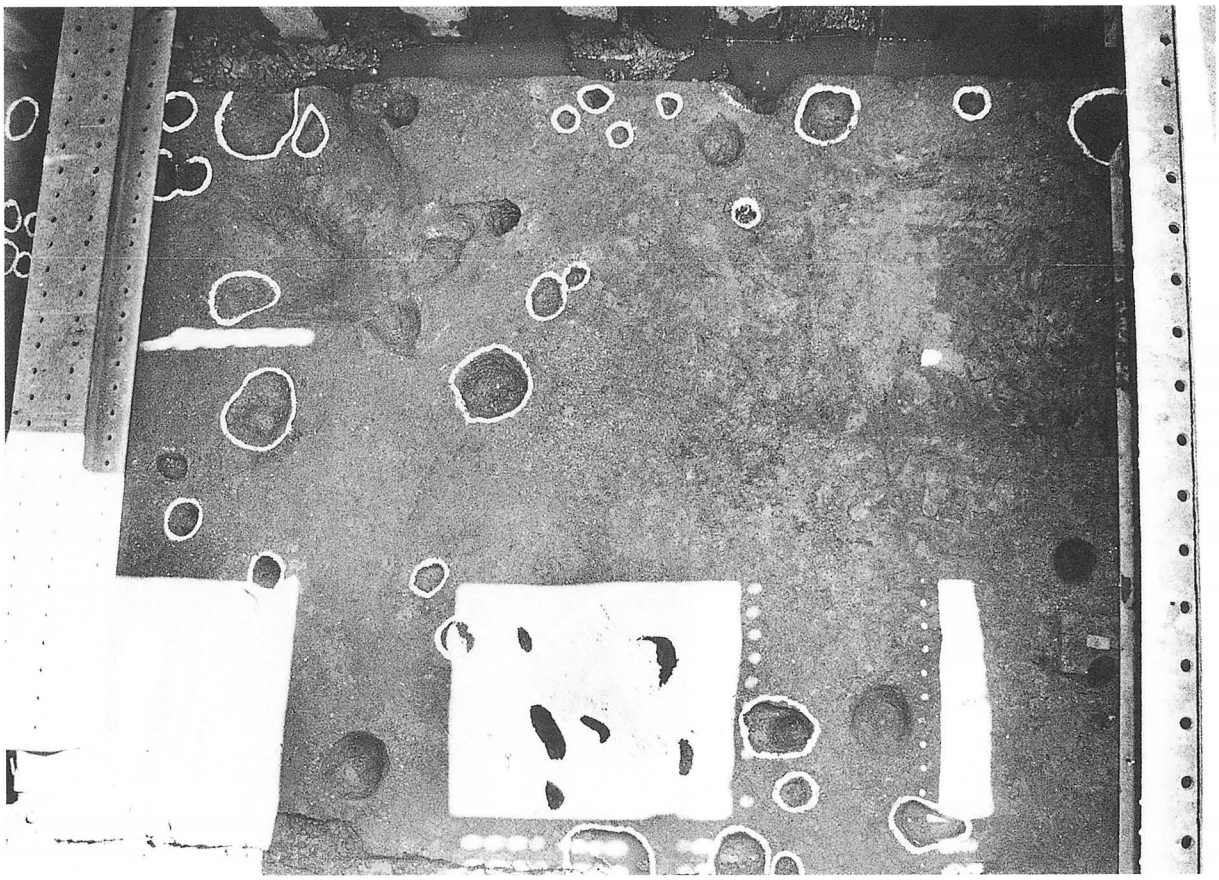
1. 6工区第15層上面遺構(12)
29地区付近　北より



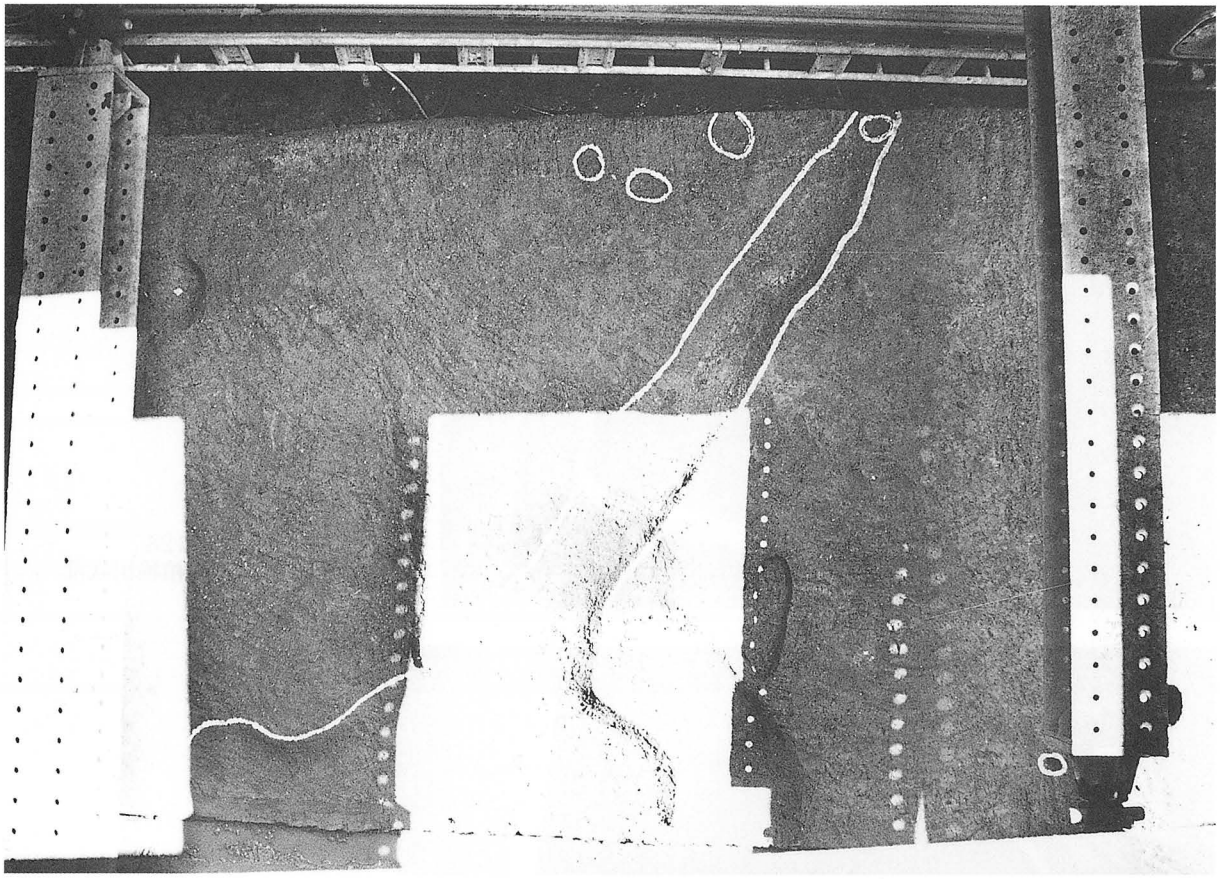
2. 6工区第15層上面遺構(13)
30地区付近　西より



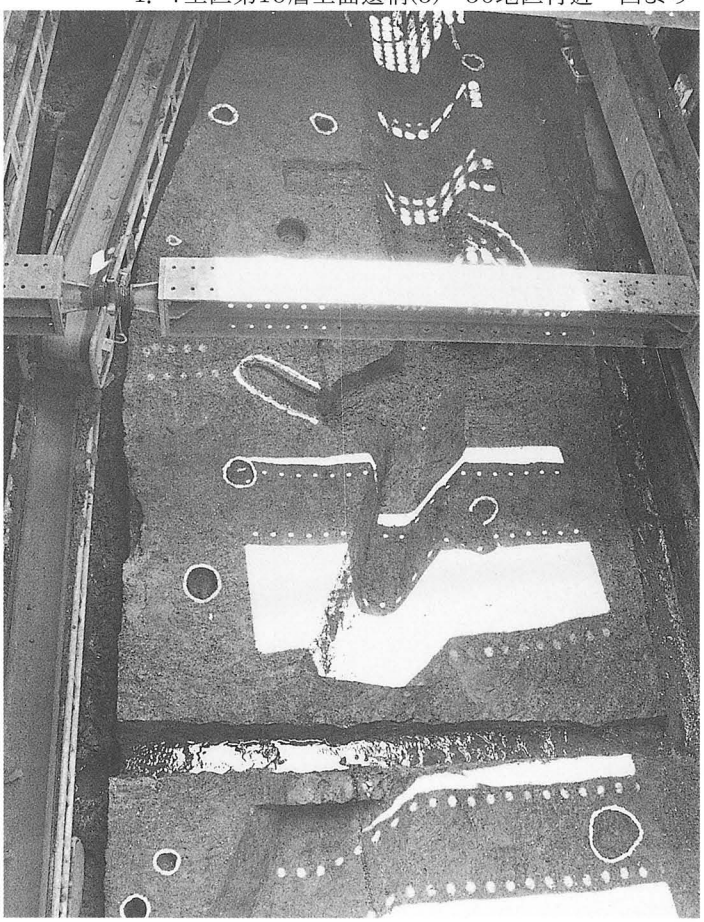
1. 7工区第15層上面遺構(1)　32地区付近　西より



2. 7工区第15層上面遺構(2)　33地区付近　西より



1. 7工区第15層上面遺構(3)　36地区付近　西より

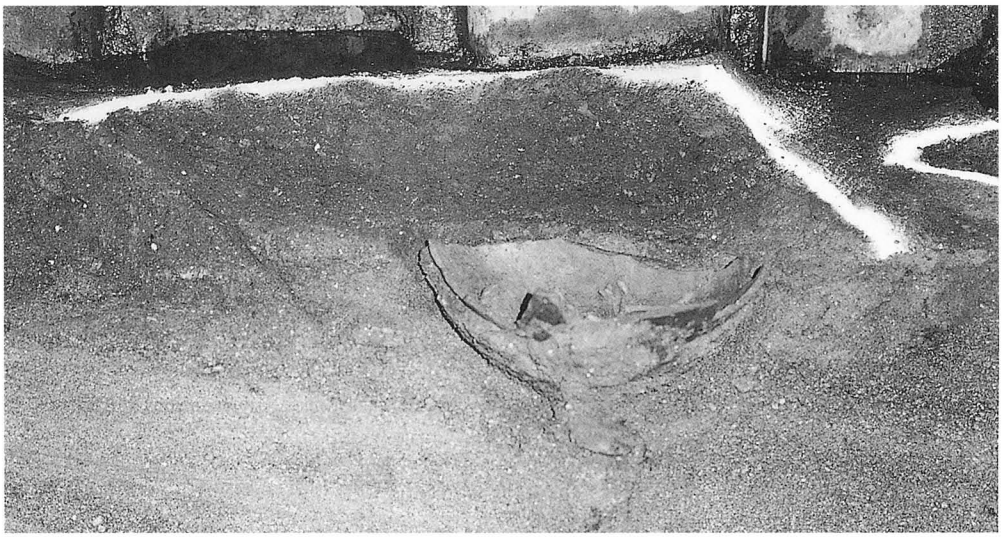


2. 7工区第15層上面遺構(4)
41・42地区付近　北より

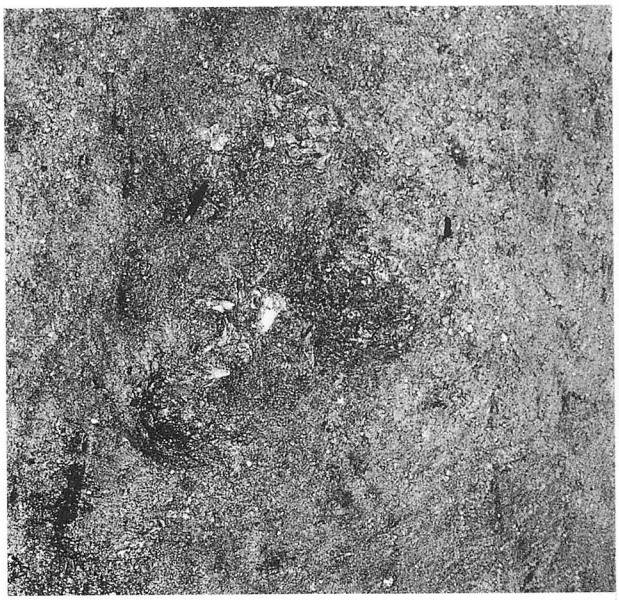
図版22　遺構

1. 7工区54地区土坑128
（土器棺墓Ⅰ）土器棺検出状況

2. 7工区54地区土坑128
（土器棺墓Ⅰ）
土器棺内Ⅶ号人骨出土状況

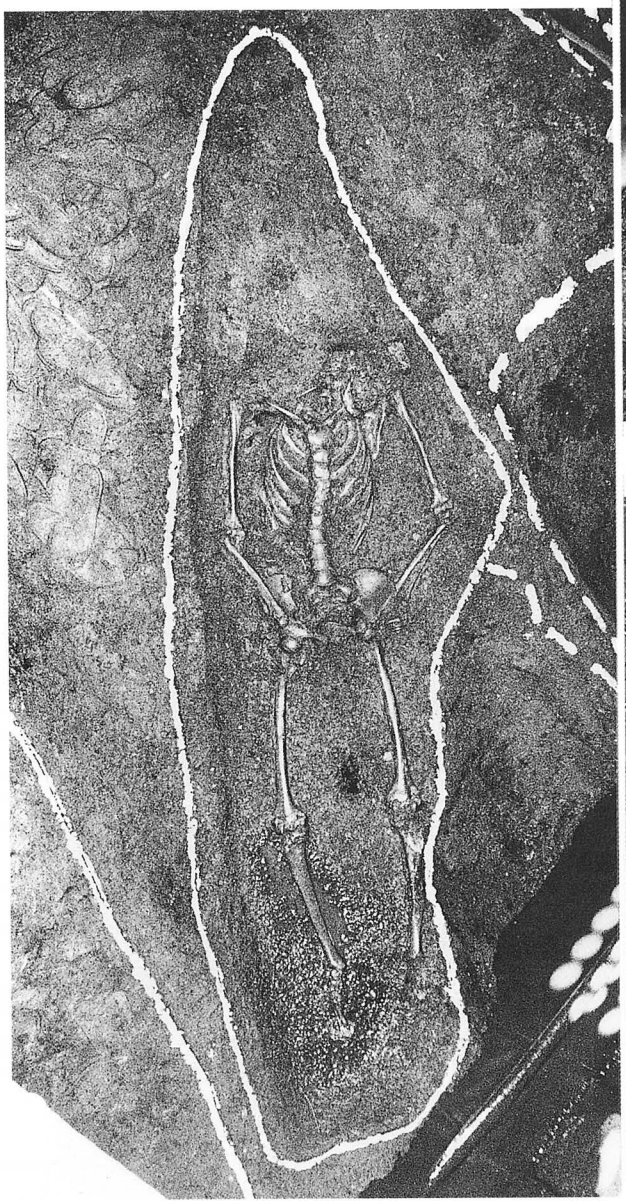


3. 7工区54地区土坑128（土器棺墓Ⅰ）断ち割り断面



1. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・
Ⅲ号人骨頭部上方動物遺体出土状況

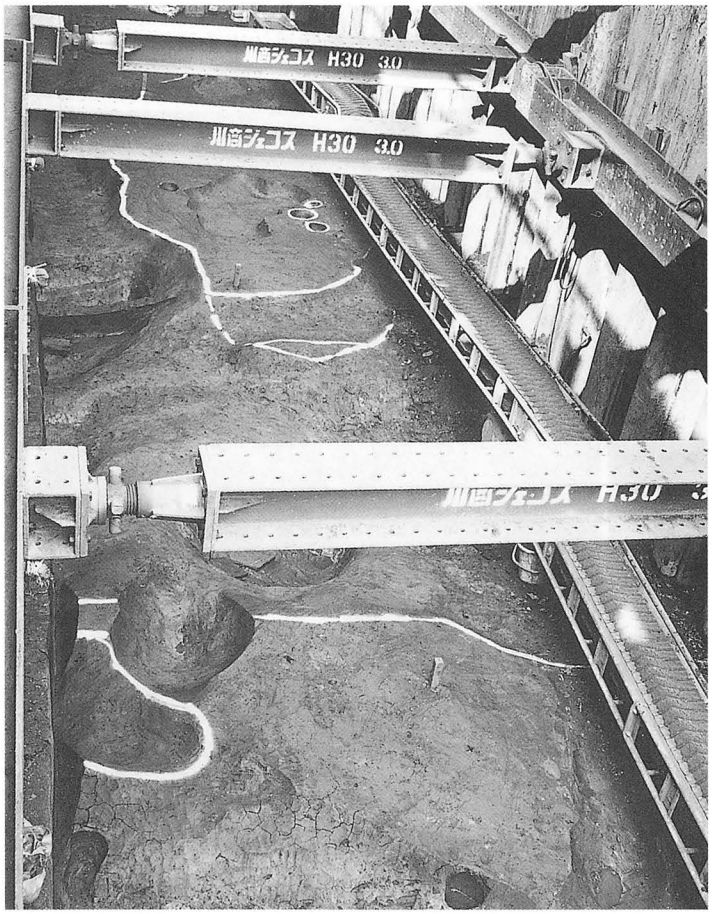
2. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・
Ⅲ号人骨頸骨付近状況



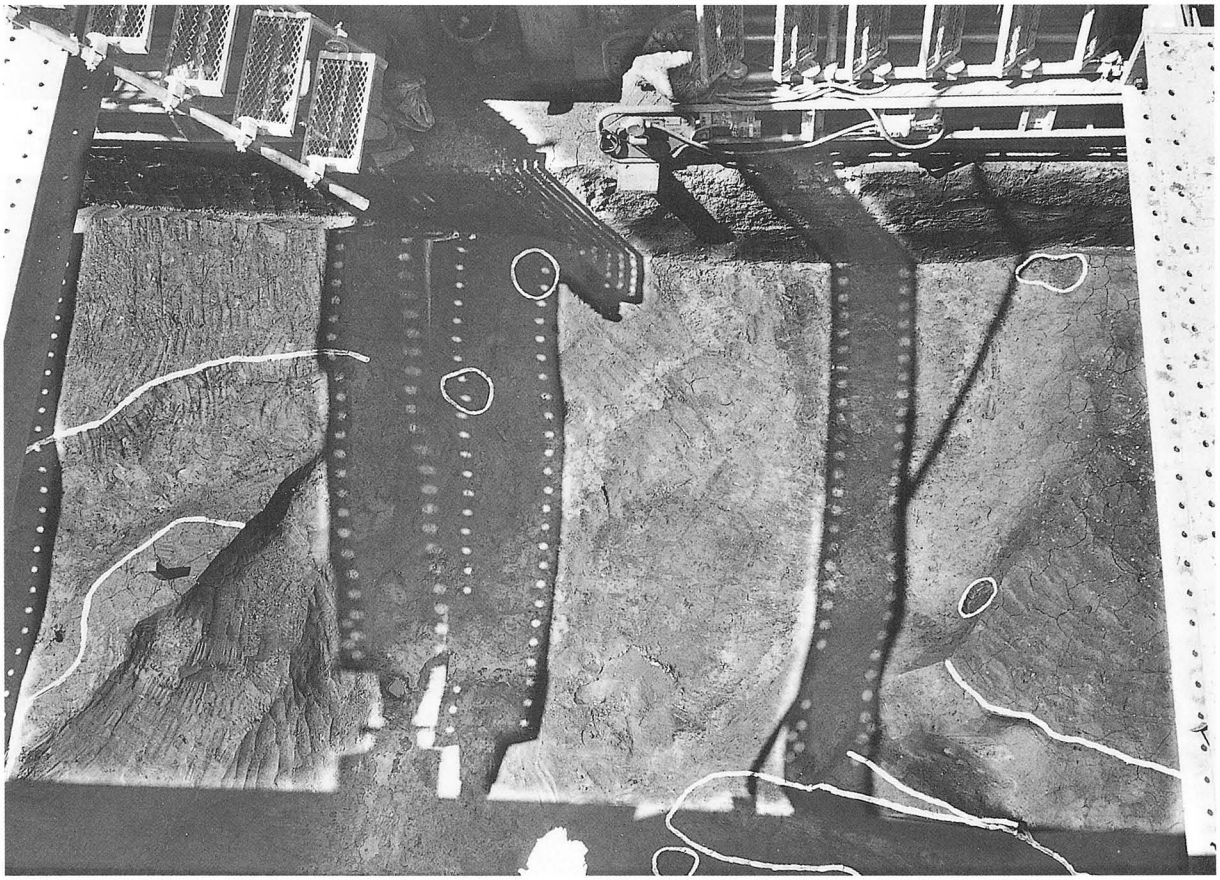
2. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・Ⅲ号人骨検出状況

4. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・
Ⅲ号人骨腰椎付近石鏃出土状況

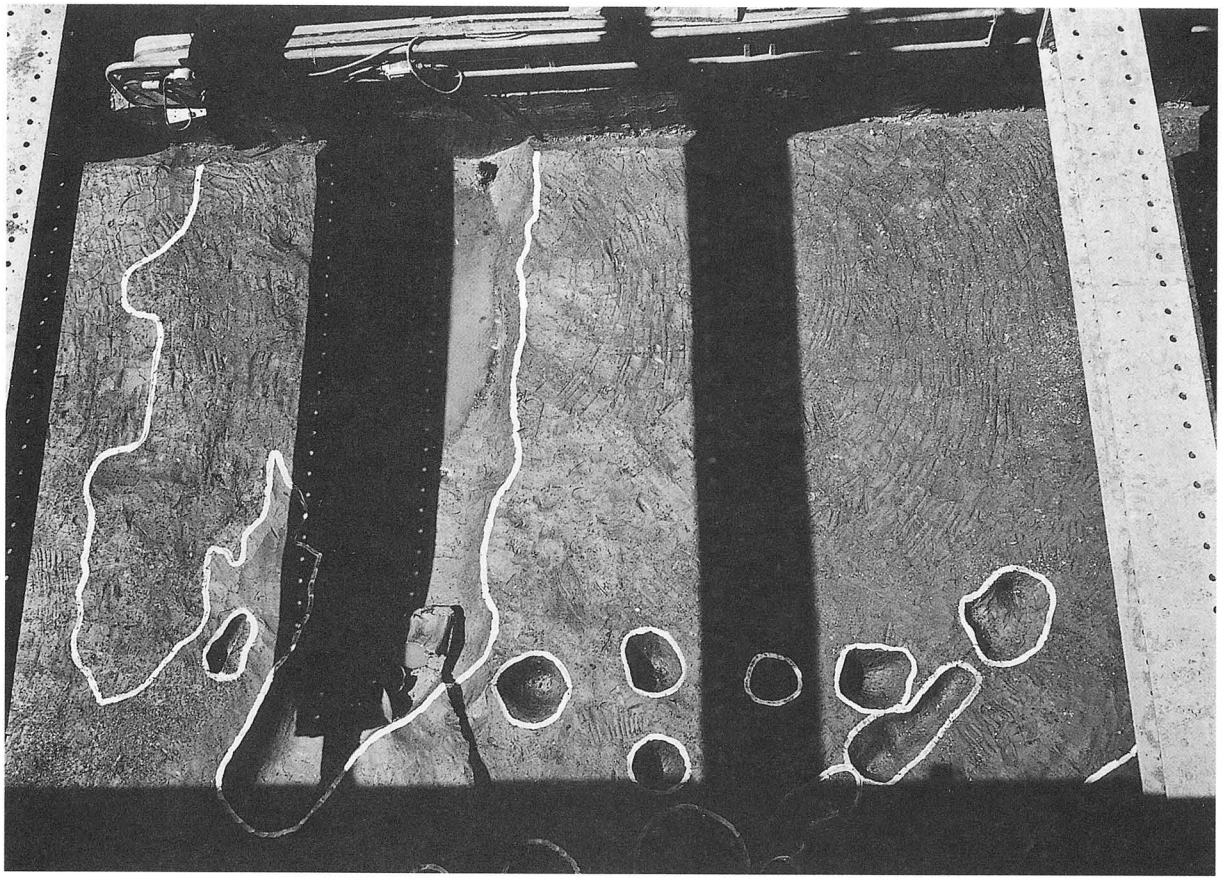
図版24　遺構



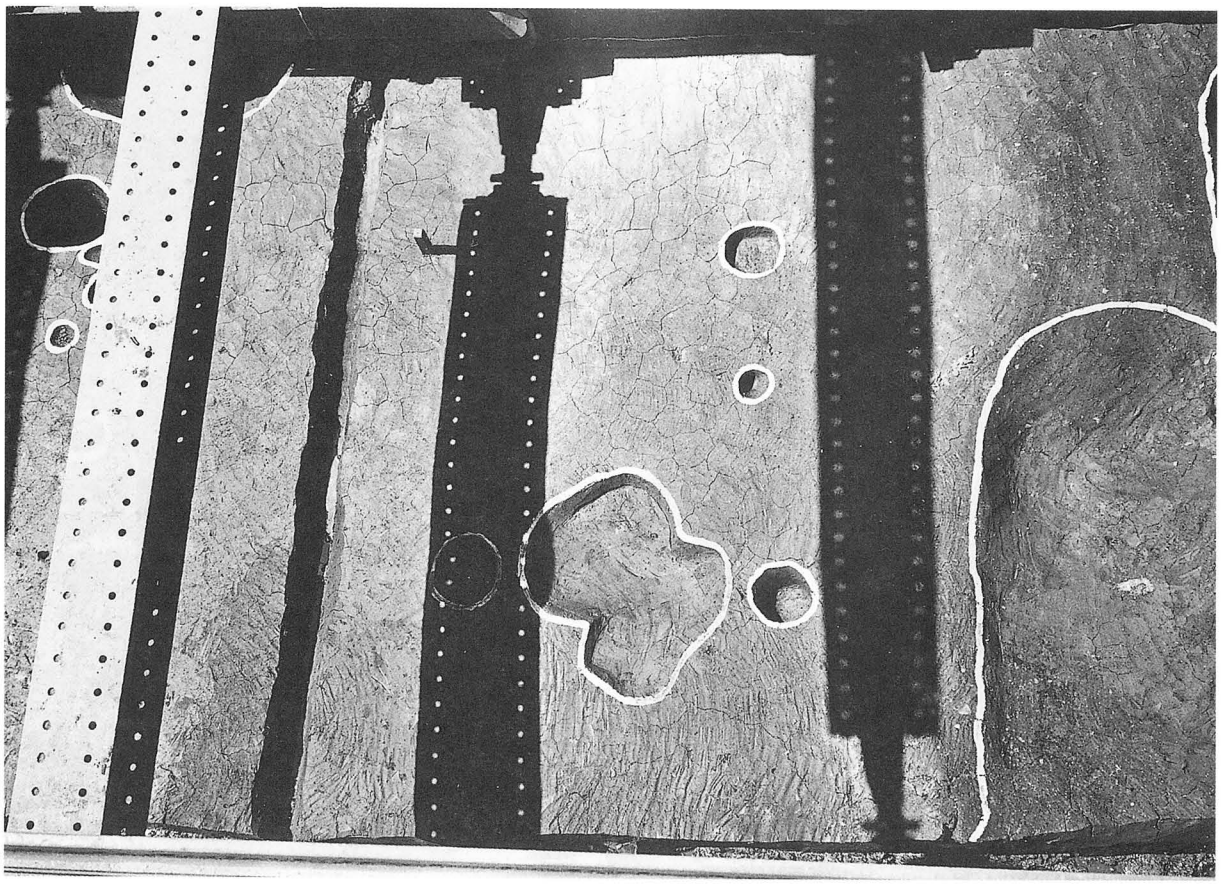
1．6工区第14層上面遺構(1)
　　1～5地区　北より



2．6工区第14層上面遺構(2)　6地区　東より



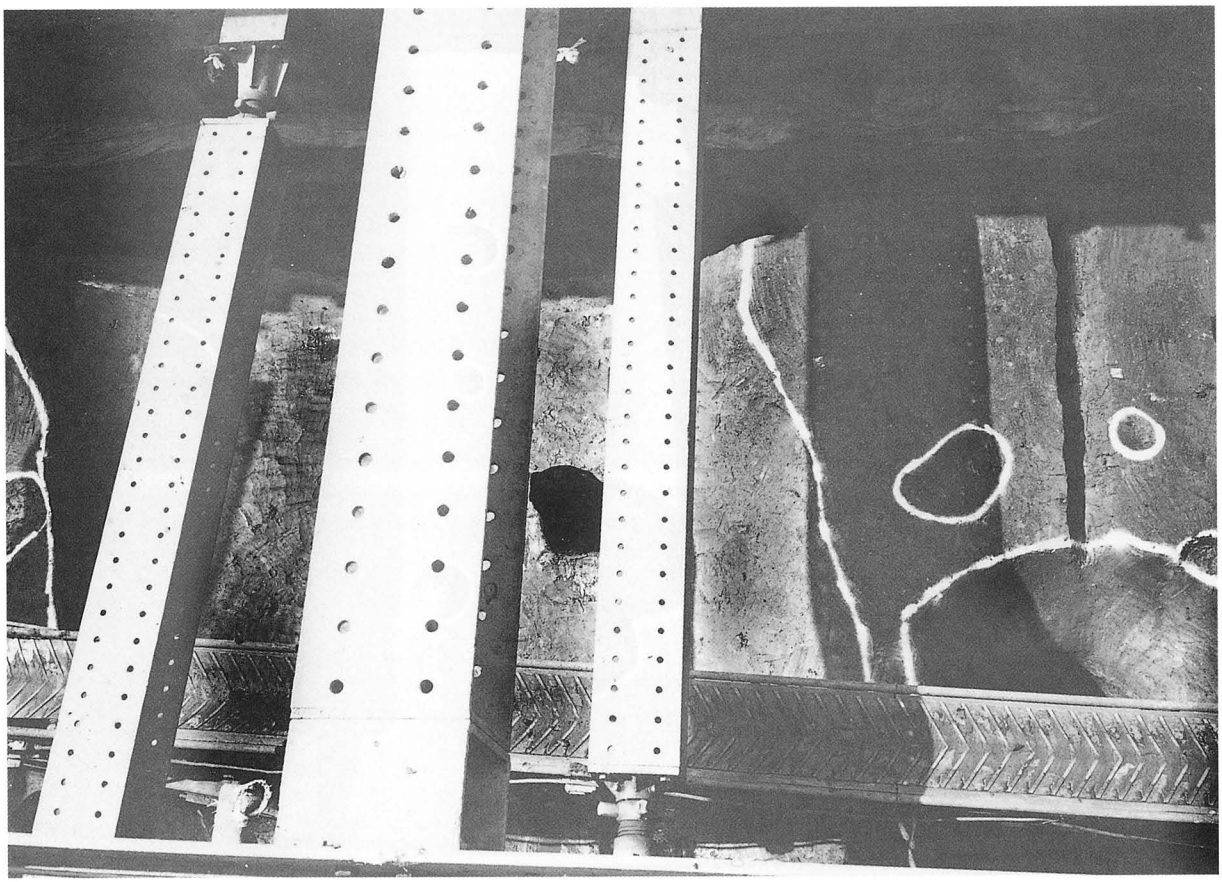
1. 6工区第14層上面遺構(3)　7地区　西より



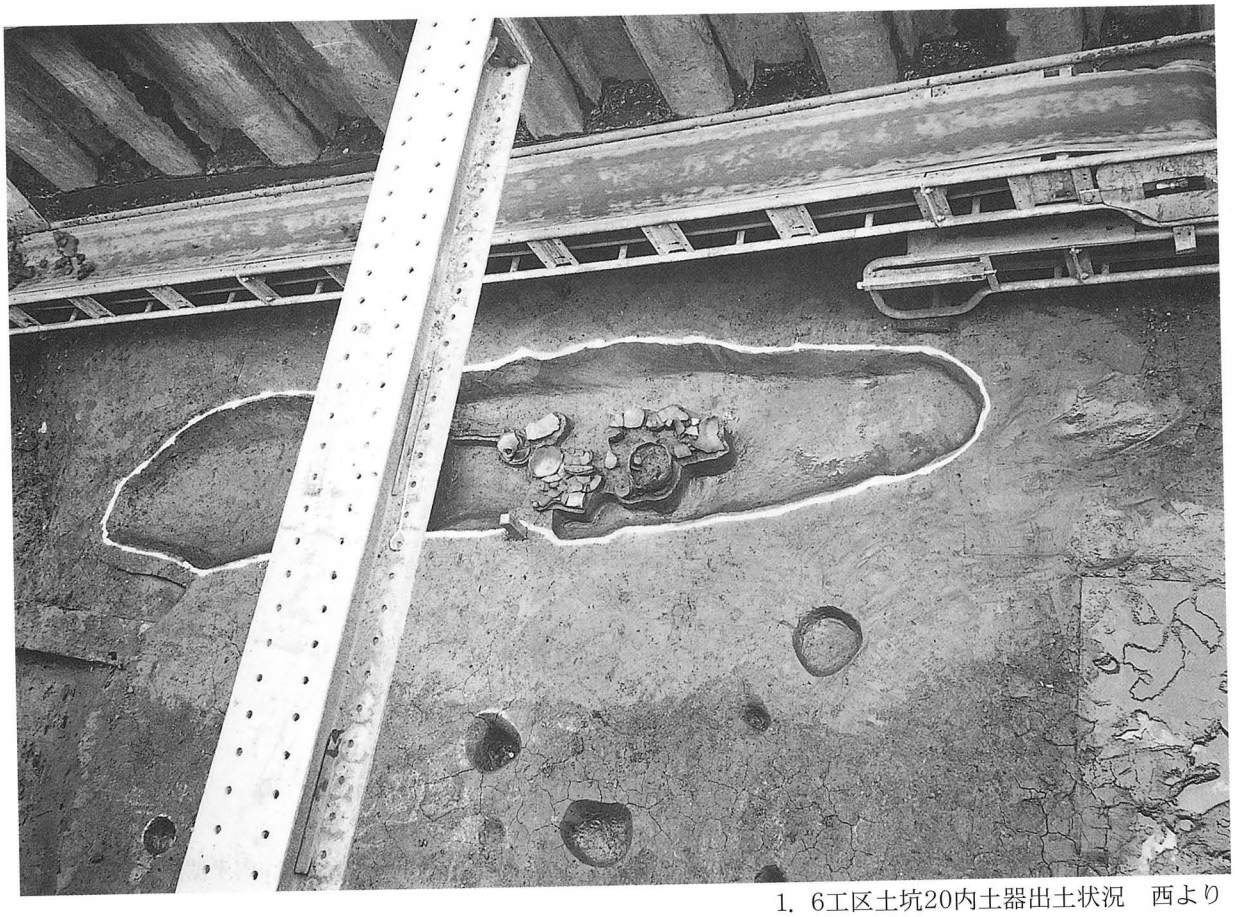
2. 6工区第14層上面遺構(4)　10地区　西より

図版26　遺構

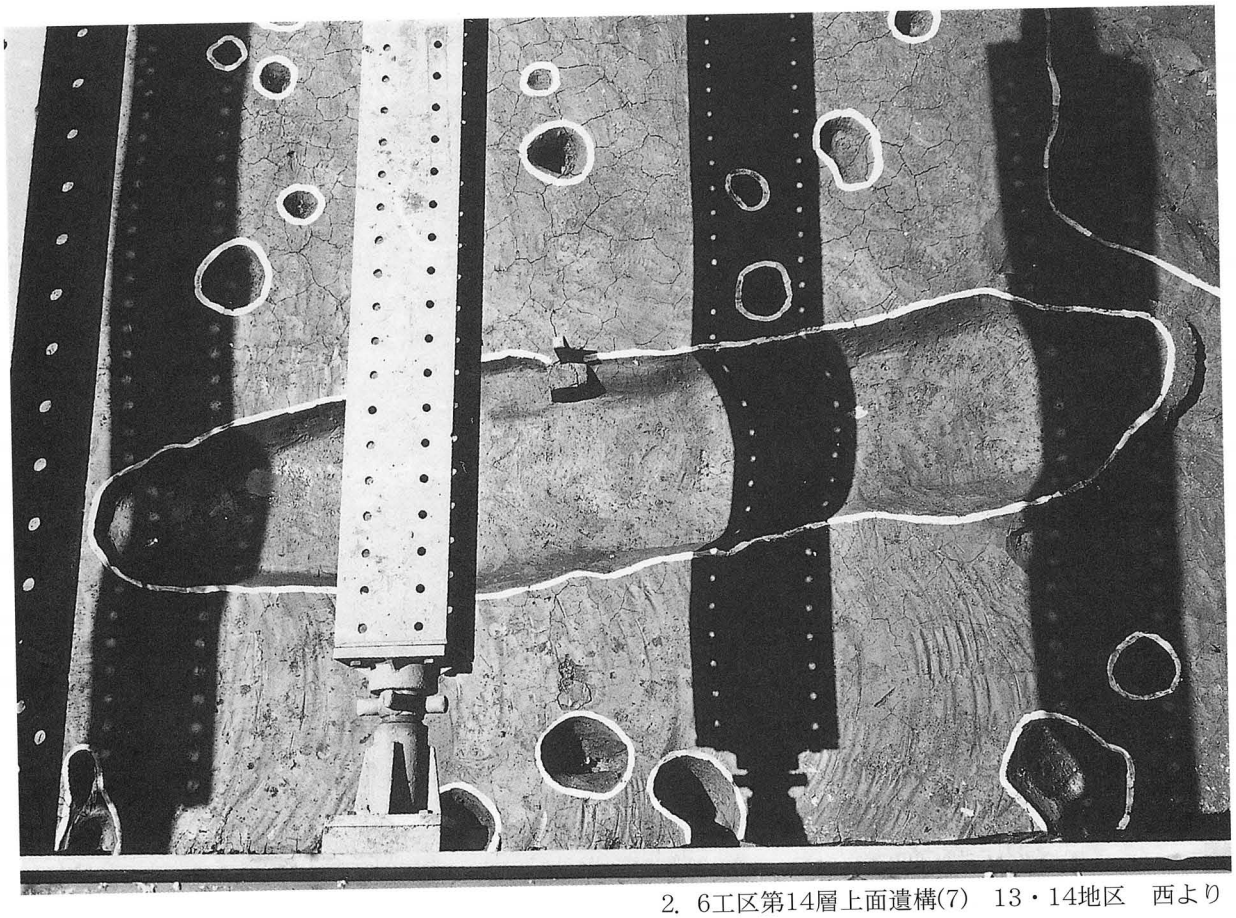
1. 6工区第14層上面遺構(5)　11地区　南より



2. 6工区第14層上面遺構(6)　12地区　東より



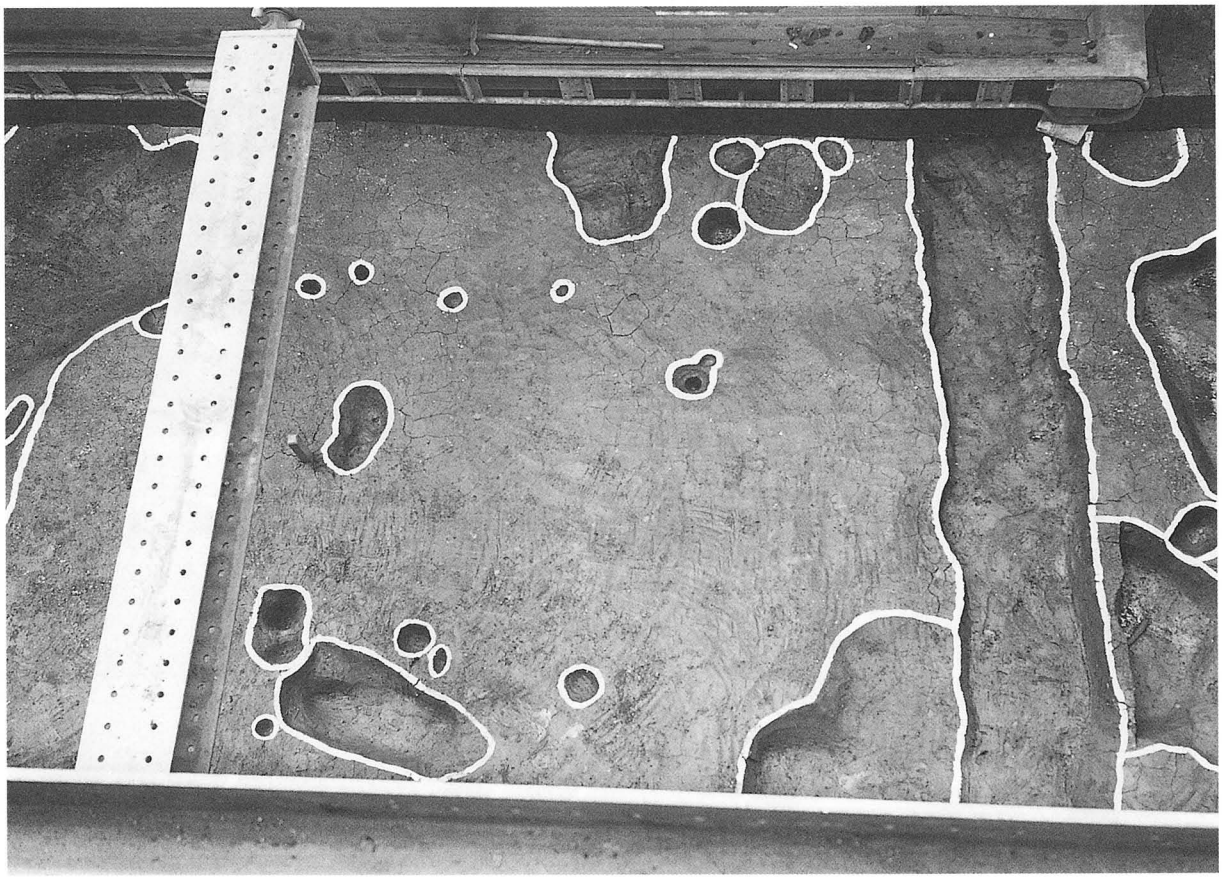
1. 6工区土坑20内土器出土状況　西より



2. 6工区第14層上面遺構(7)　13・14地区　西より

図版28　遺構

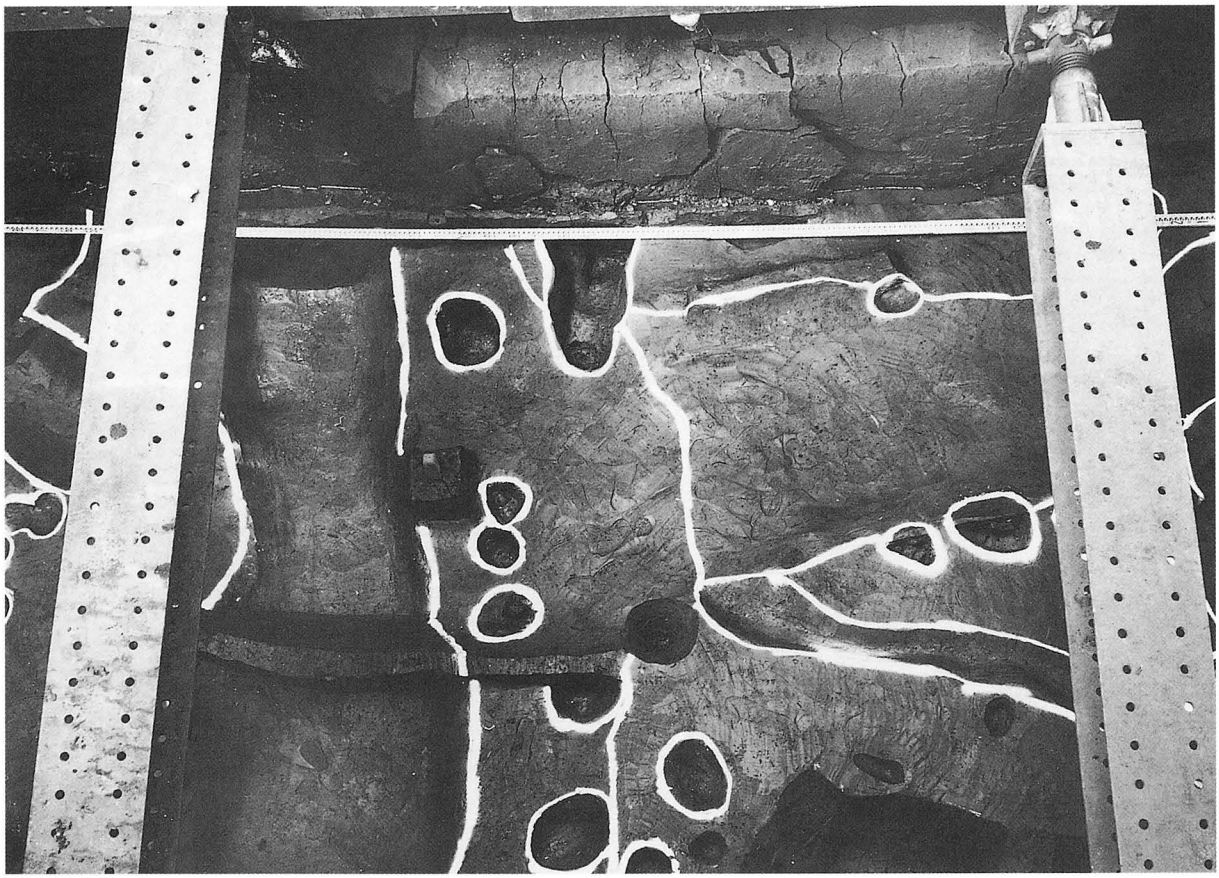
1. 6工区溝84・土坑19内土器出土状況
東より



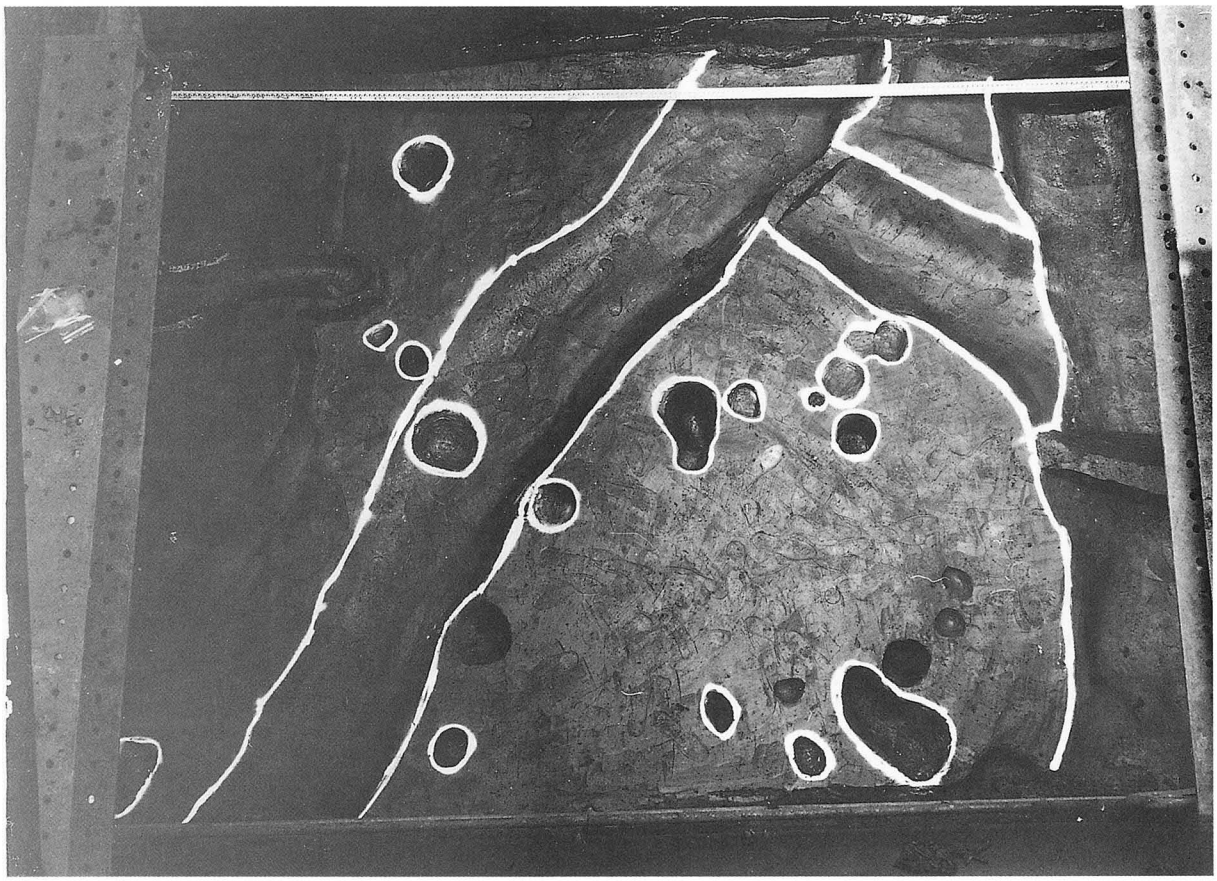
2. 6工区第14層上面遺構(8)　16～18地区　西より

1. 6工区第14層上面遺構(9)　19地区　北より

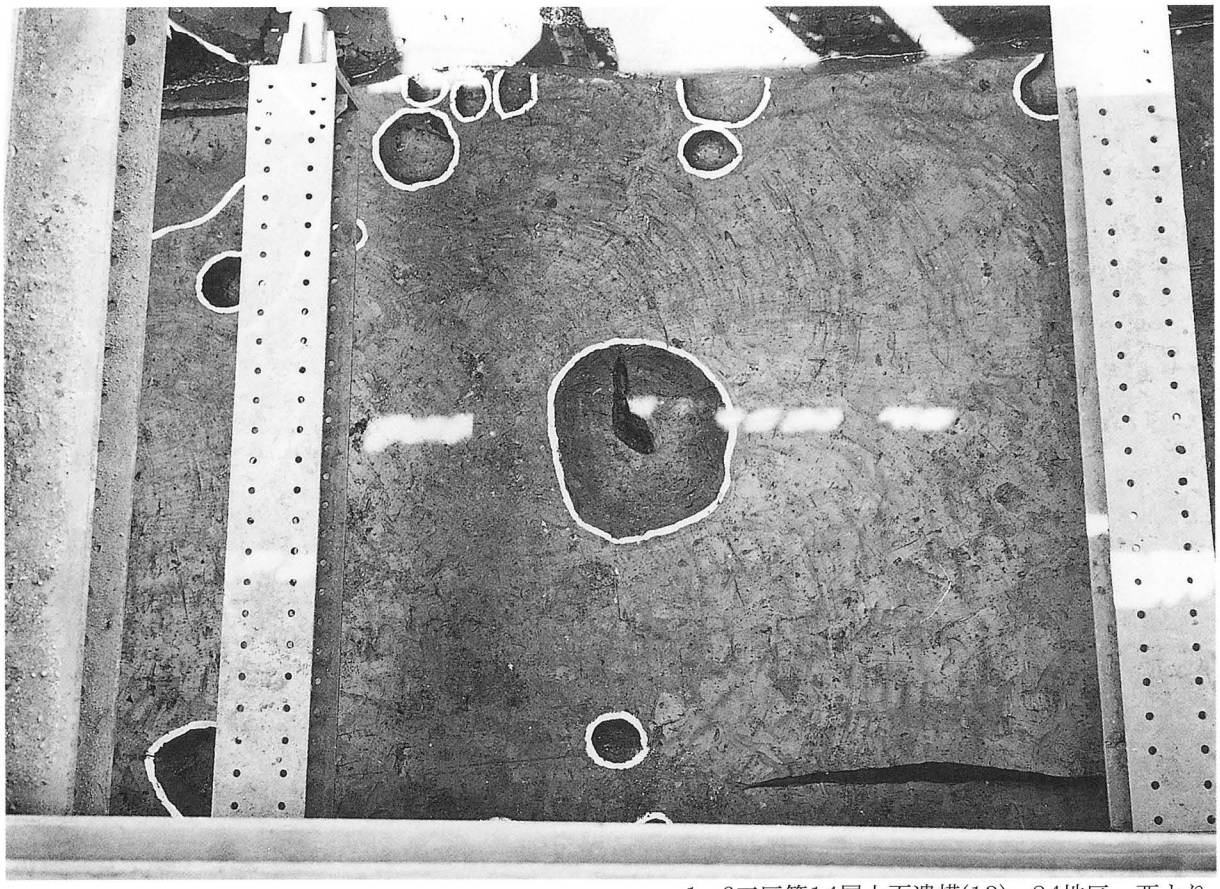
2. 6工区第14層上面遺構(10)
20・21地区　北より



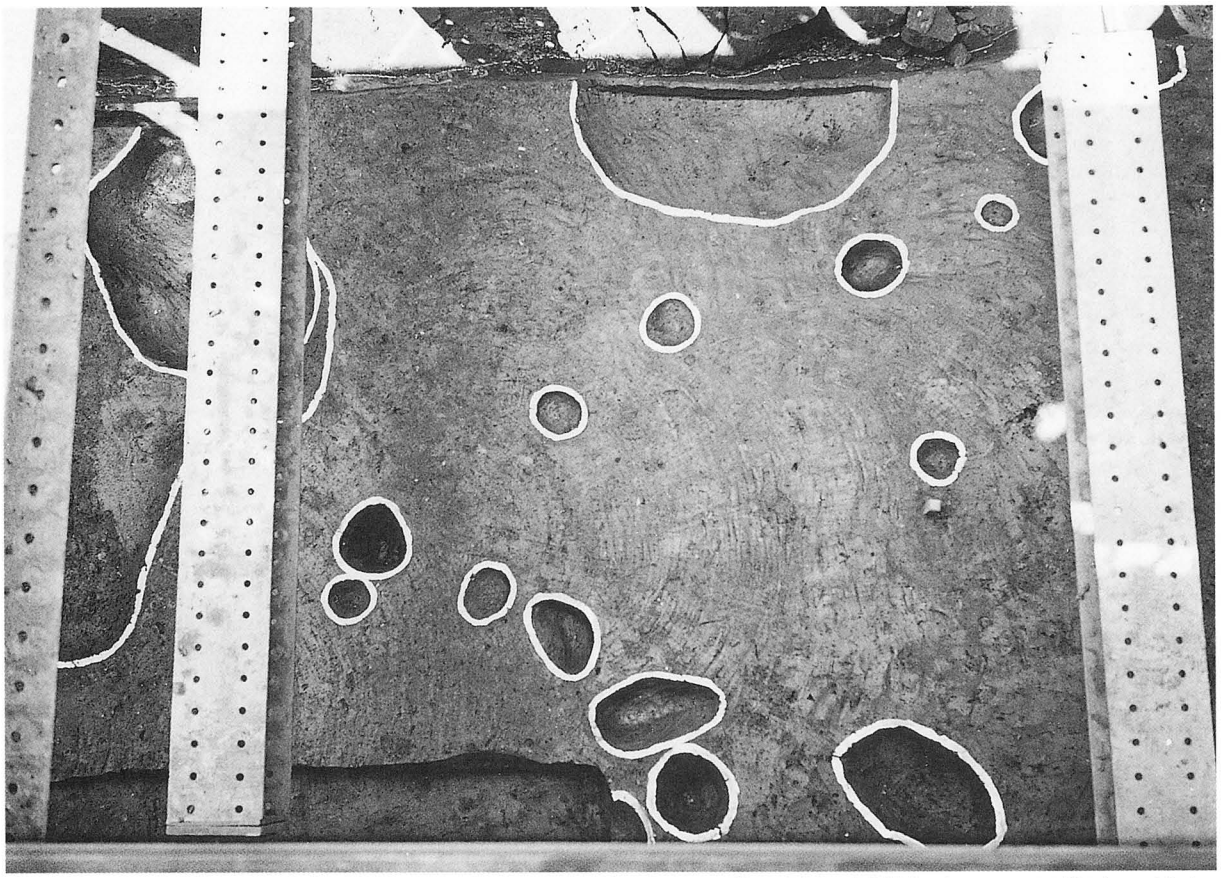
1. 6工区第14層上面遺構(11)　22地区　西より



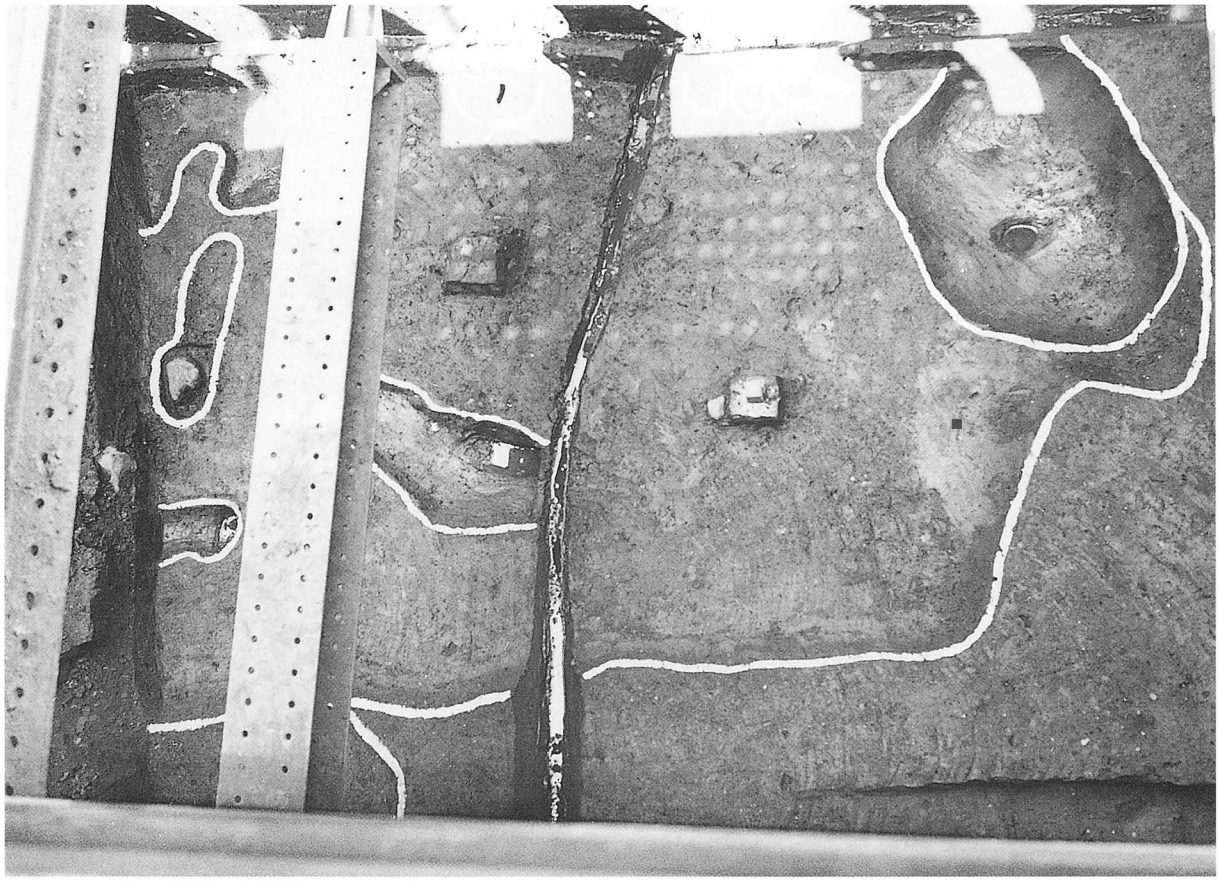
2. 6工区第14層上面遺構(12)　23地区　西より



1. 6工区第14層上面遺構(13)　24地区　西より

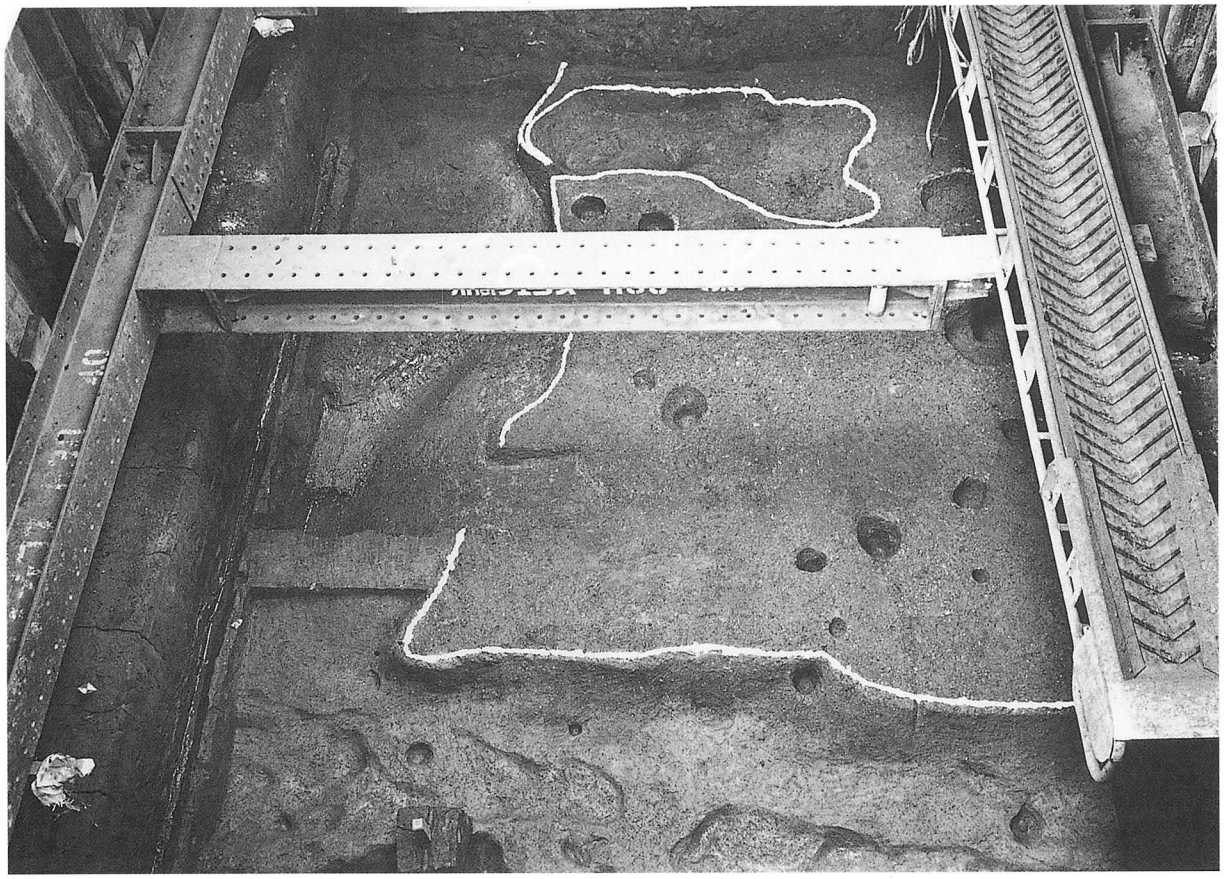


2. 6工区第14層上面遺構(14)　25・26地区　西より

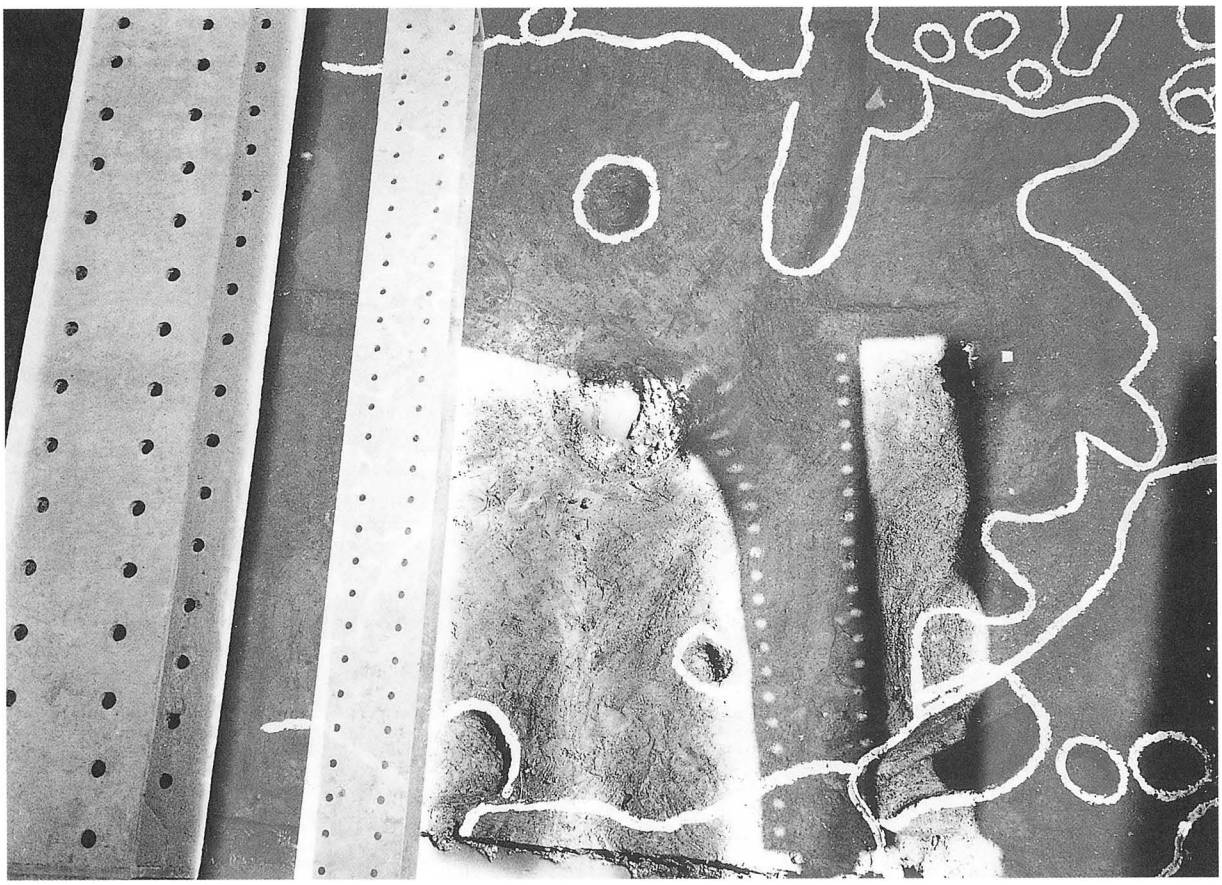


1. 6工区第14層上面遺構(15)　27地区　西より

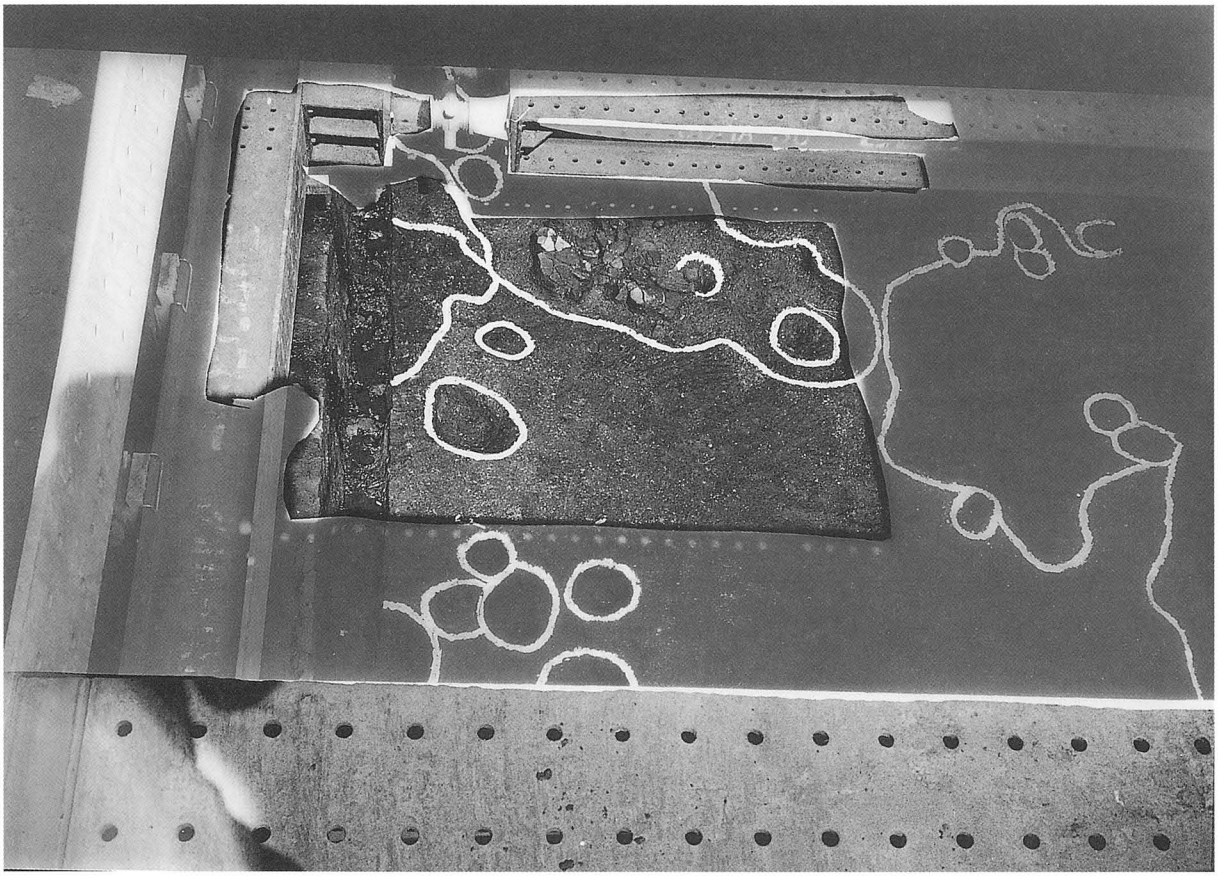
2. 6工区第14層上面遺構(16)　28地区　西より



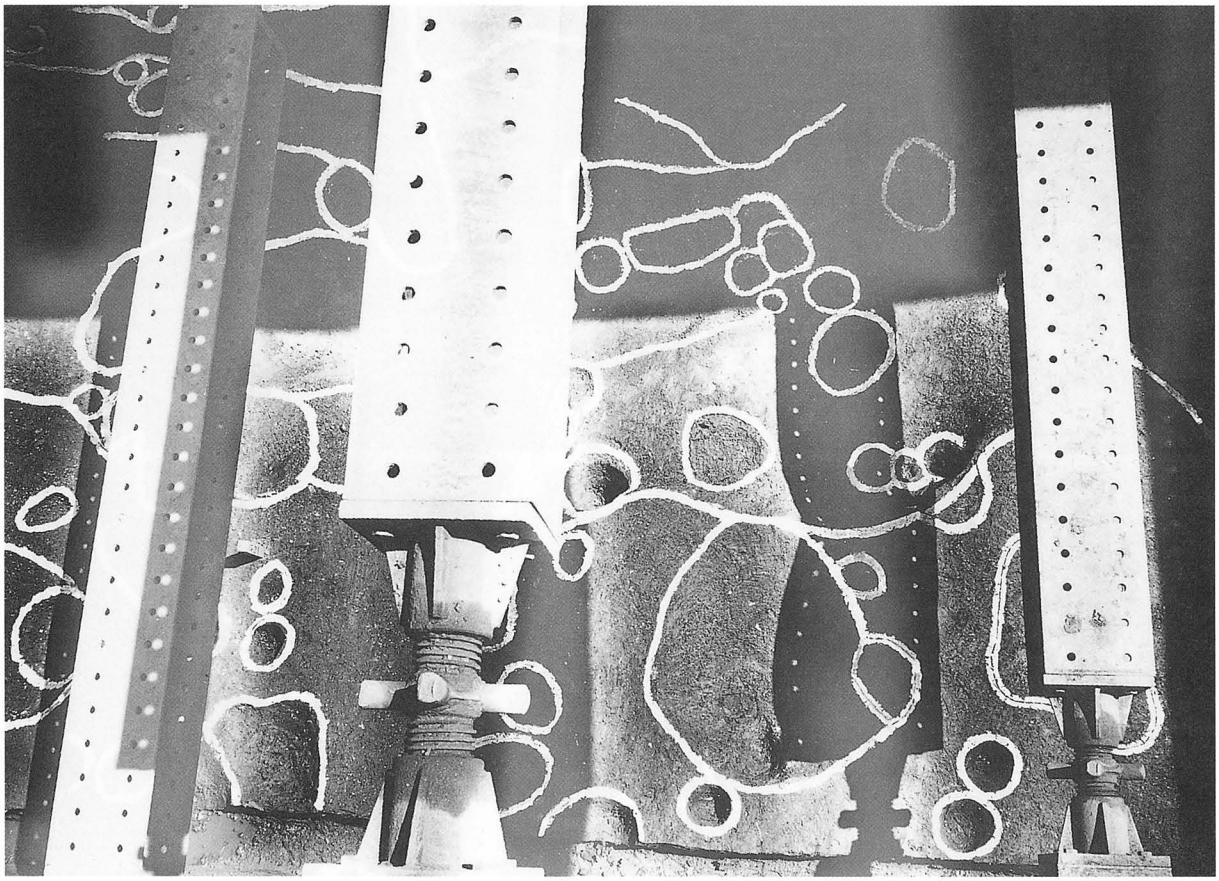
1. 6工区第14層上面遺構(17) 29・30地区 南より



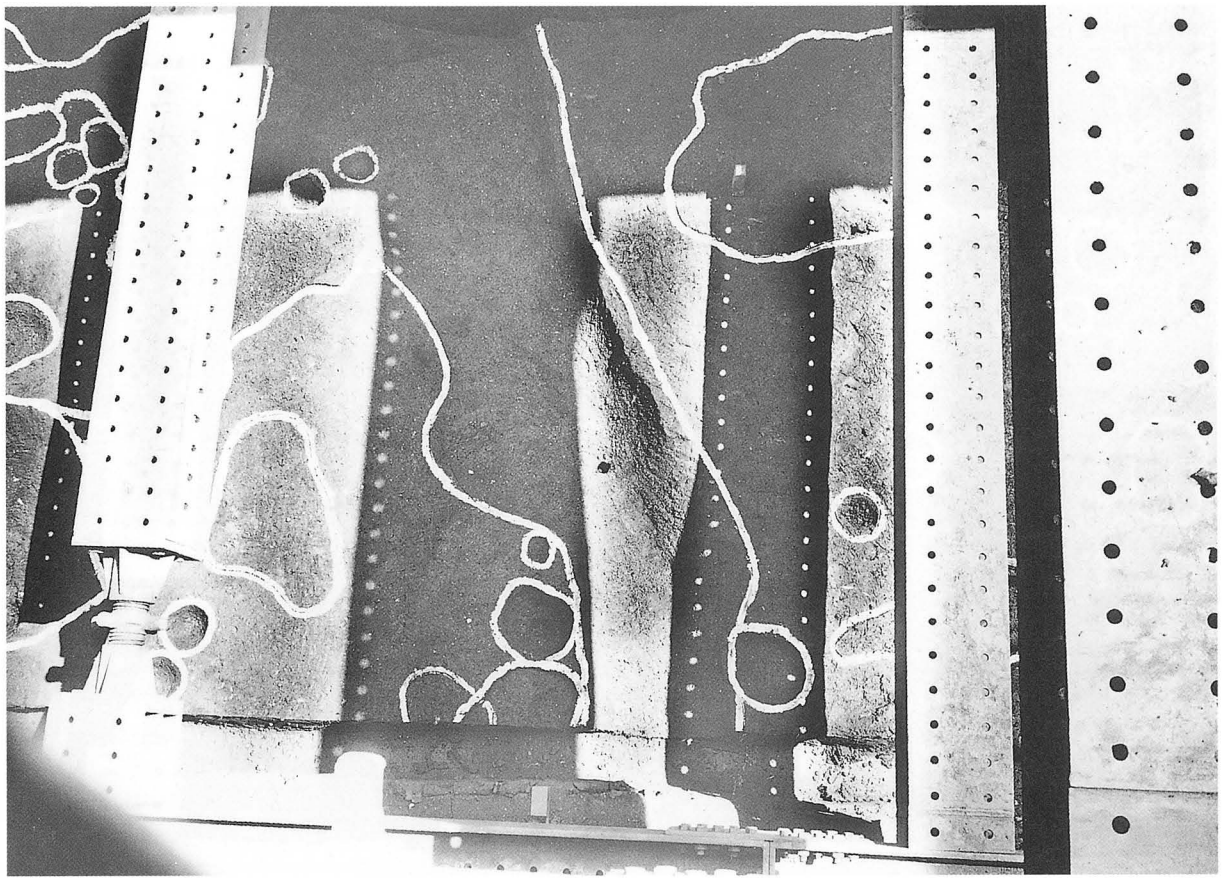
2. 7工区第14層上面遺構(1) 31・32地区 西より



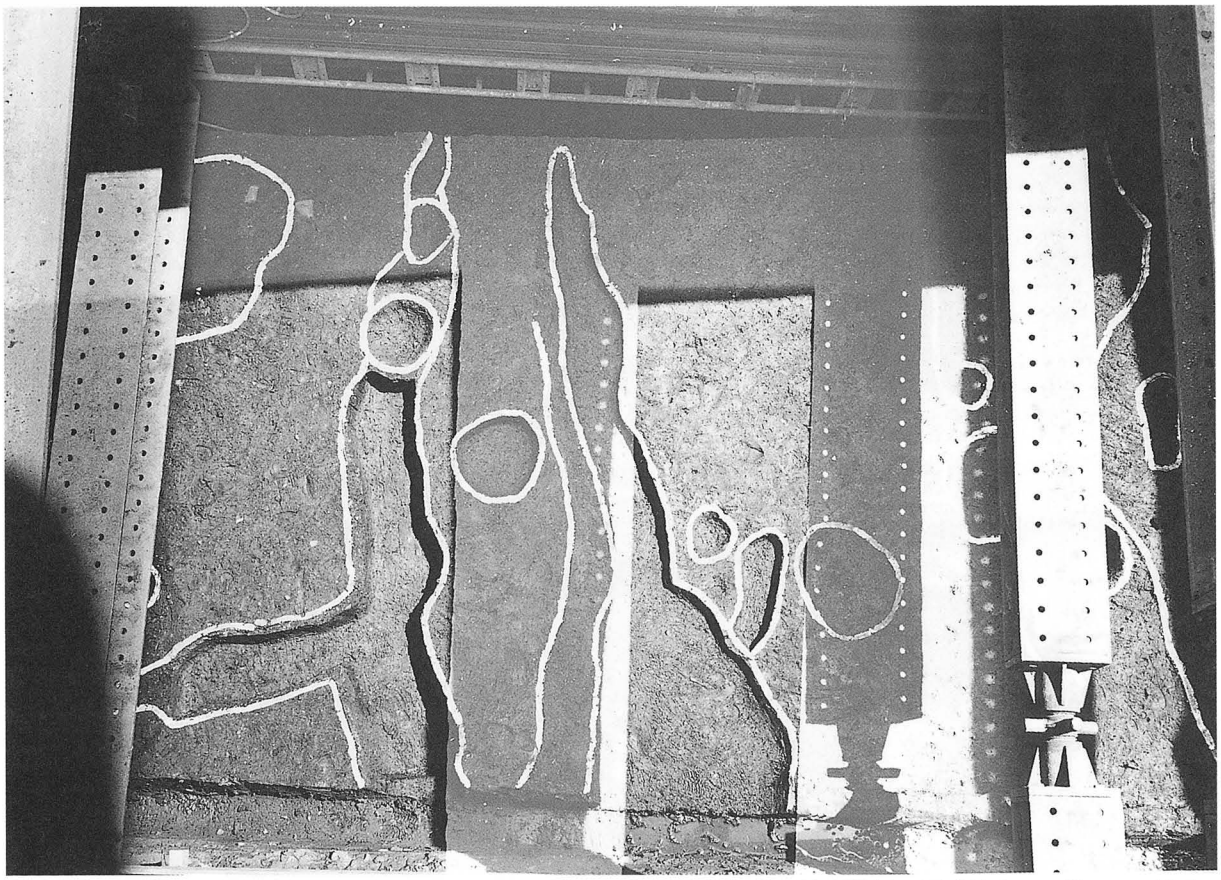
1. 7工区第14層上面遺構(2)　32・33地区　南より



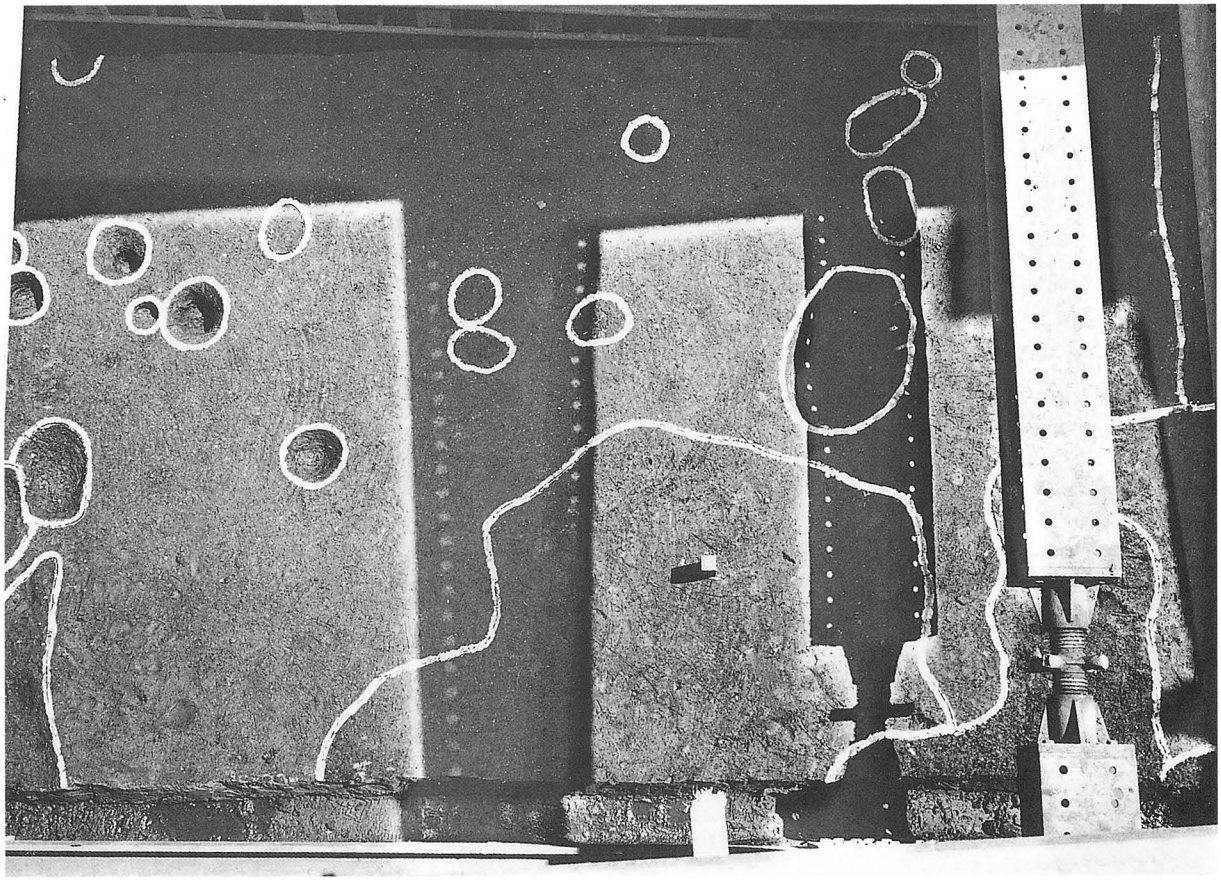
2. 7工区第14層上面遺構(3)　34地区　西より



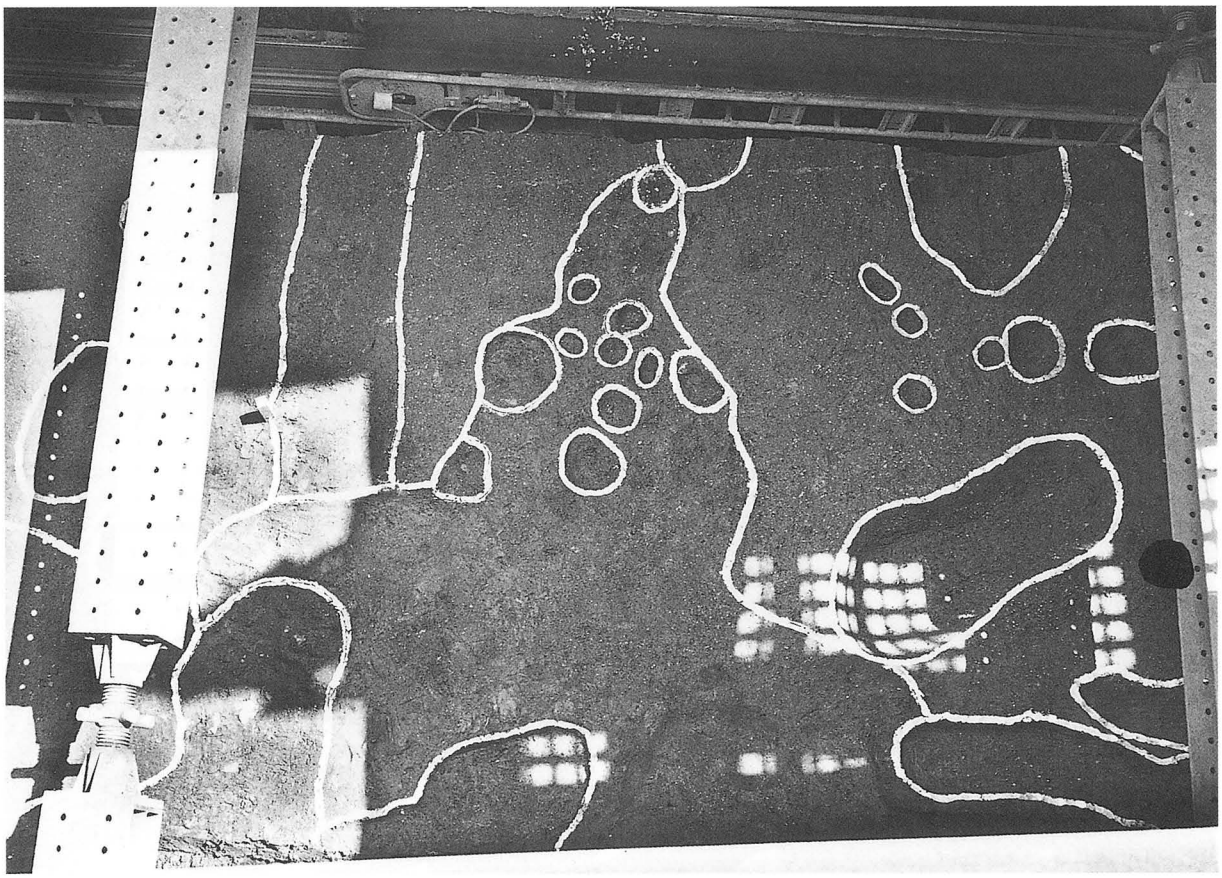
1. 7工区第14層上面遺構(4)　35地区　西より



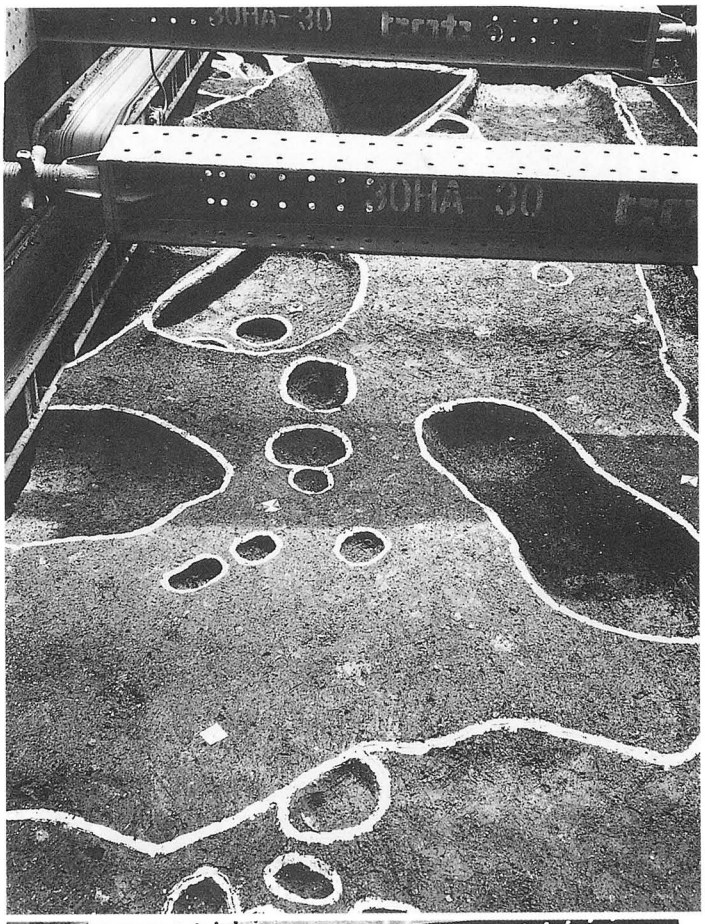
2. 7工区第14層上面遺構(5)　36地区　西より



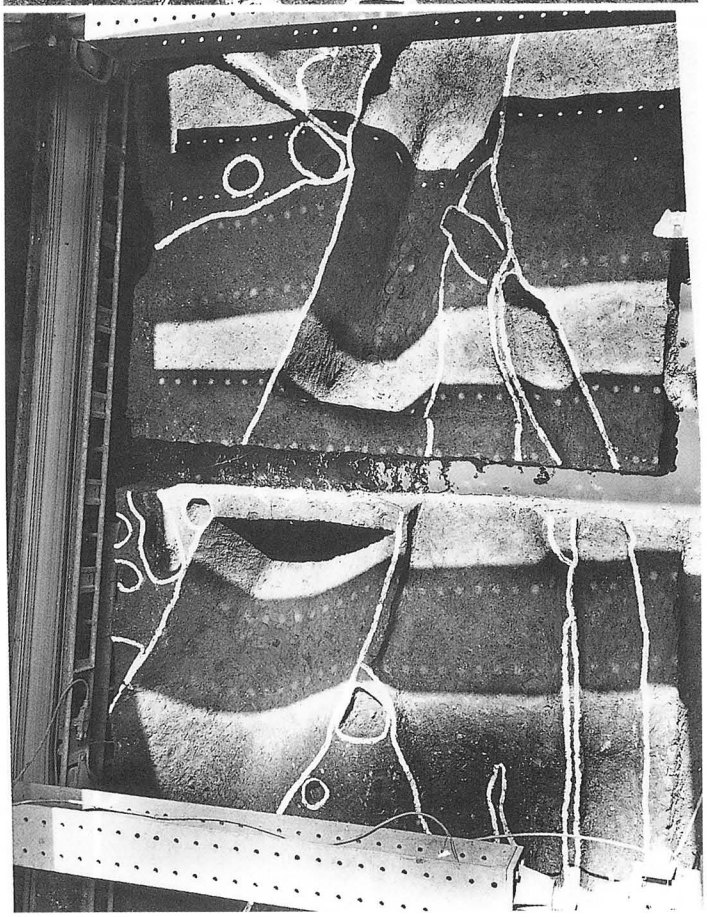
1. 7工区第14層上面遺構(6) 38地区 西より



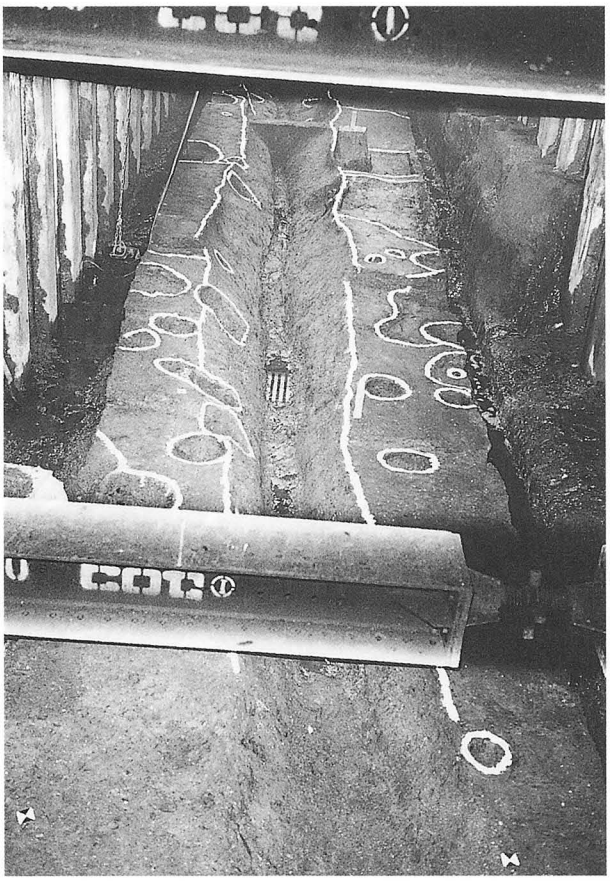
2. 7工区第14層上面遺構(7) 39地区 西より



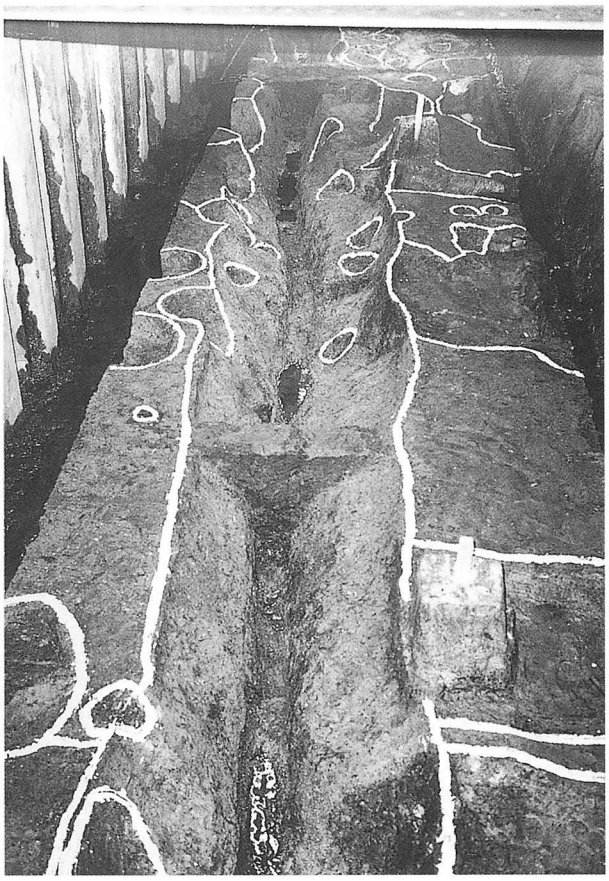
2. 7工区第14層上面遺構(8)
39～41地区　北より



2. 7工区第14層上面遺構(9)
41～43地区　北より

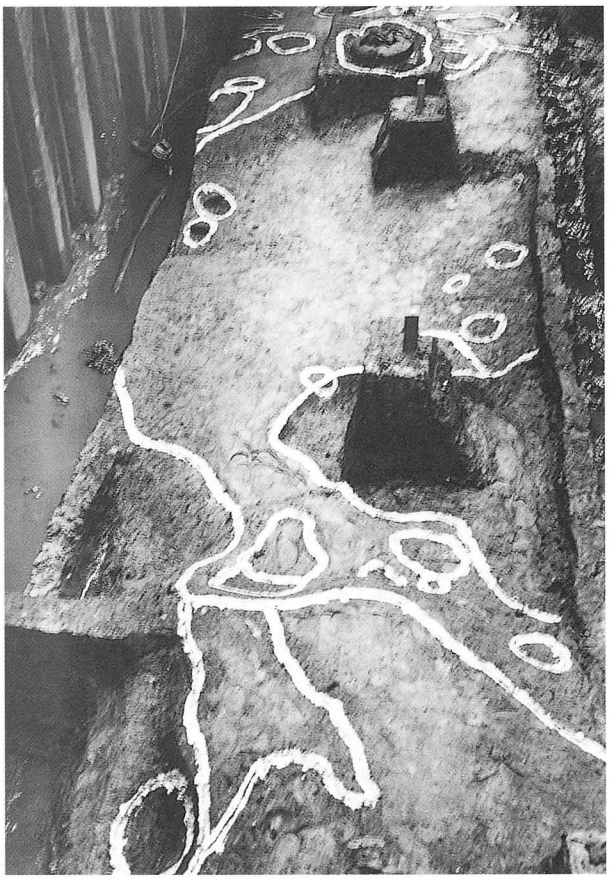


1. 7工区第14層上面遺構(10)　43～45地区　北より

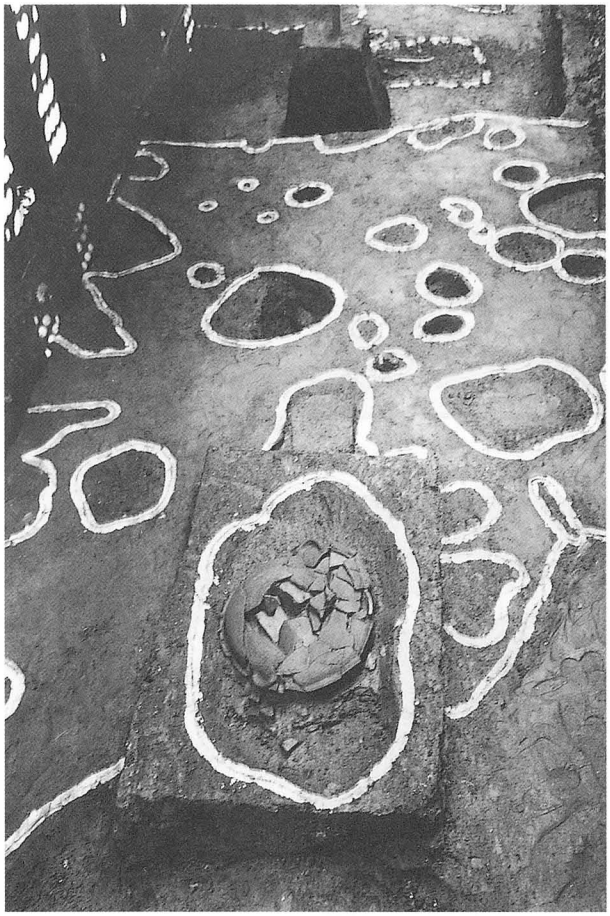


2. 7工区第14層上面遺構(11)　44～46地区　北より

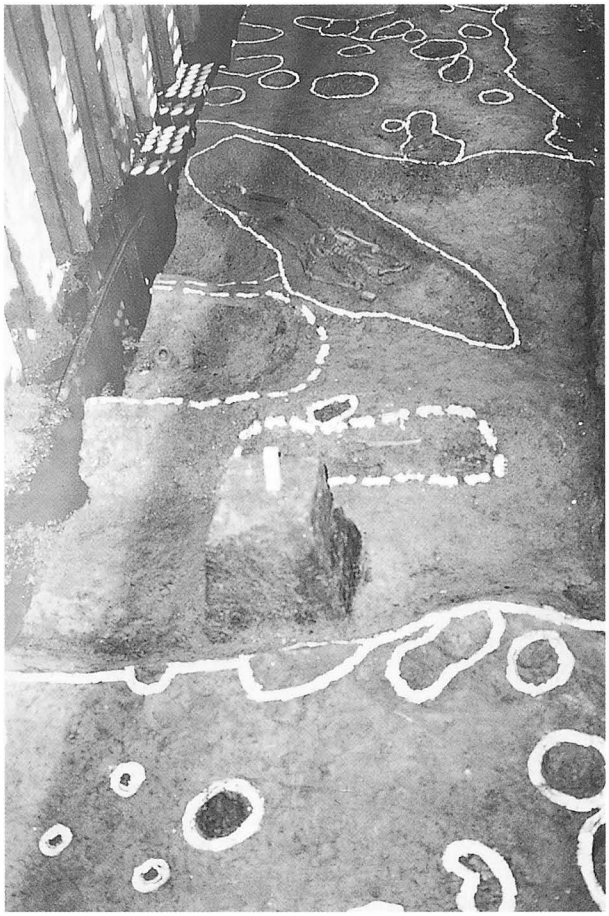
3. 7工区第14層上面遺構(12)　46～48地区　北より



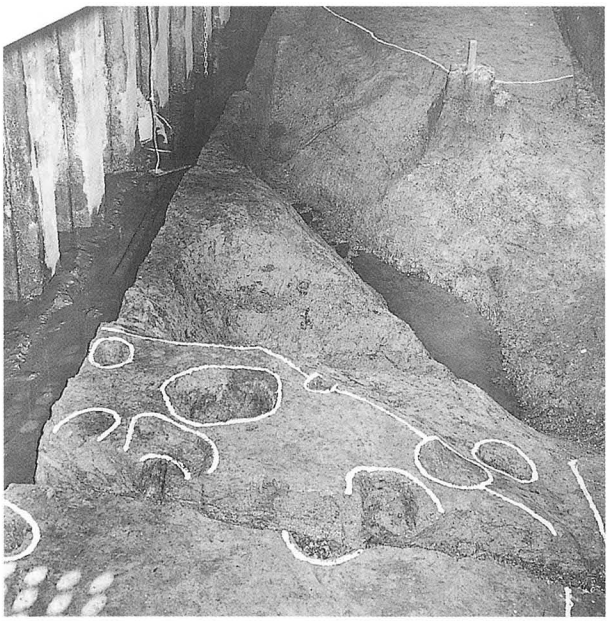
4. 7工区第14層上面遺構(13)　48～51地区　北より



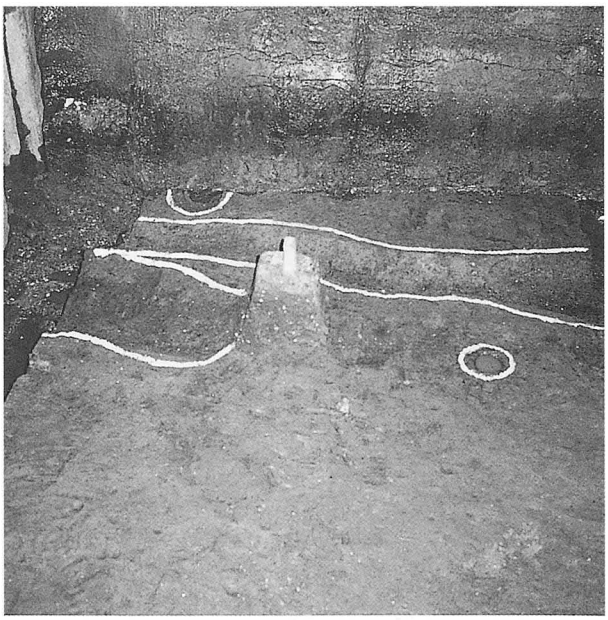
1. 7工区第14層上面遺構(14)
51～53地区　北より



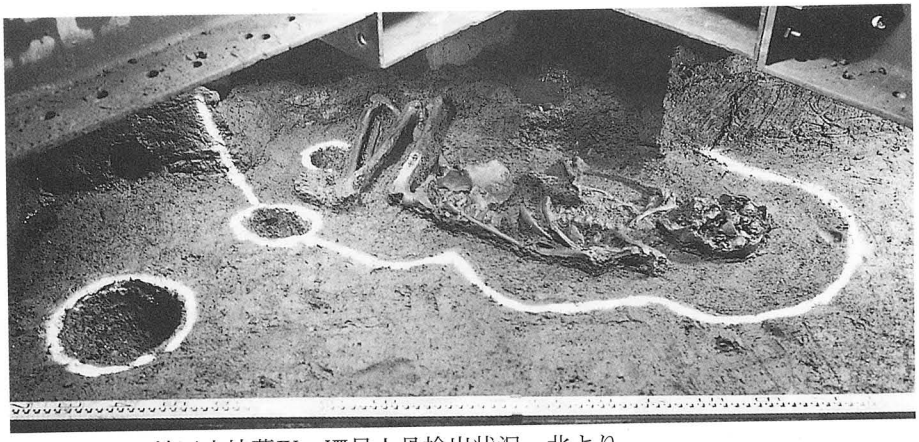
2. 7工区第14層上面遺構(15)
52～54地区　北より



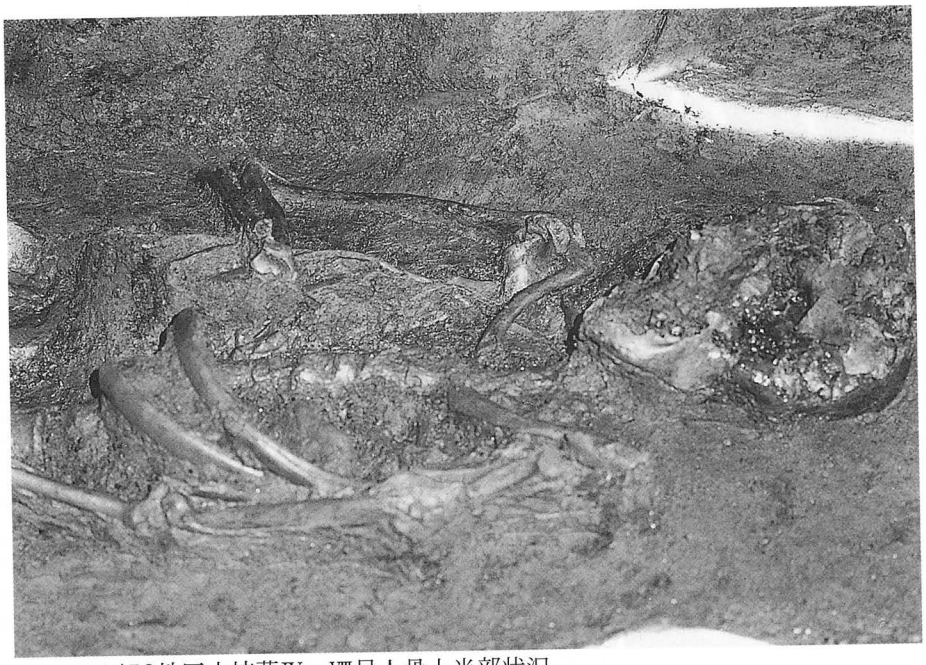
3. 7工区第14層上面遺構(16)
55・56地区　北より



4. 7工区第14層上面遺構(17)
57・58地区　北より



1. 7工区58地区土坑墓Ⅳ・Ⅷ号人骨検出状況　北より



2. 7工区58地区土坑墓Ⅳ・Ⅷ号人骨上半部状況

3. 7工区58地区土坑墓Ⅳ・Ⅷ号人骨下半部状況

1. 7工区42地区土坑墓Ⅱ・Ⅱ号人骨検出状況　西上より

2. 7工区42地区土坑墓Ⅱ・Ⅱ号人骨頭部状況

3. 7工区42地区土坑墓Ⅱ・Ⅱ号人骨上半身部状況

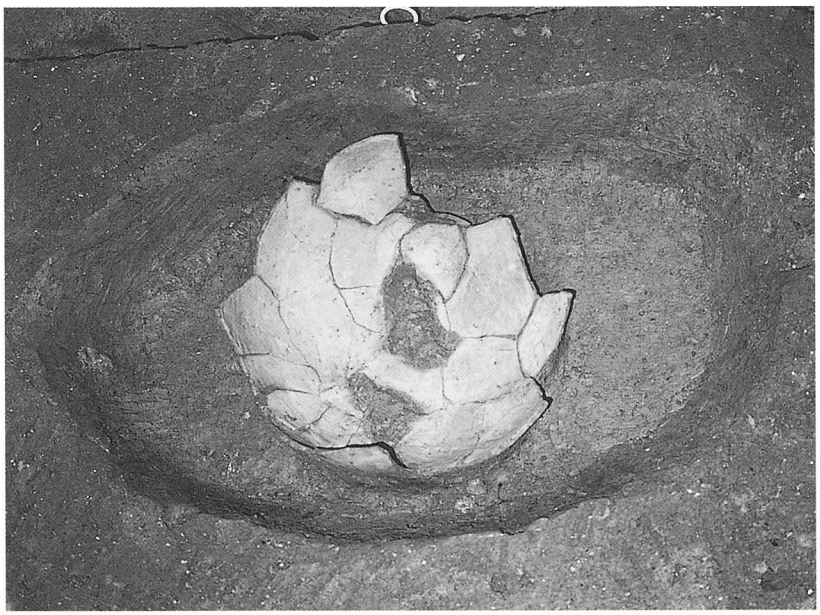
図版42　遺構

1. 7工区42地区土坑墓Ⅰ・
Ⅰ号人骨検出状況　北上より

2. 6工区17地区甕出土状況

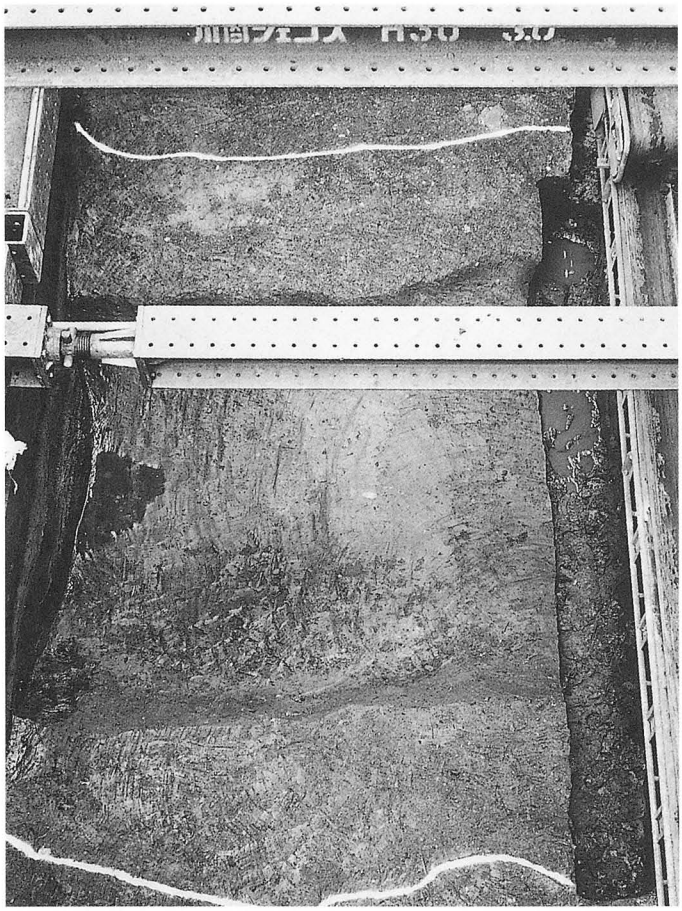
1. 7工区51地区土坑95
（土器棺墓Ⅰ）土器棺検出状況

2. 7工区51地区土坑95
（土器棺墓Ⅰ）断ち割り断面



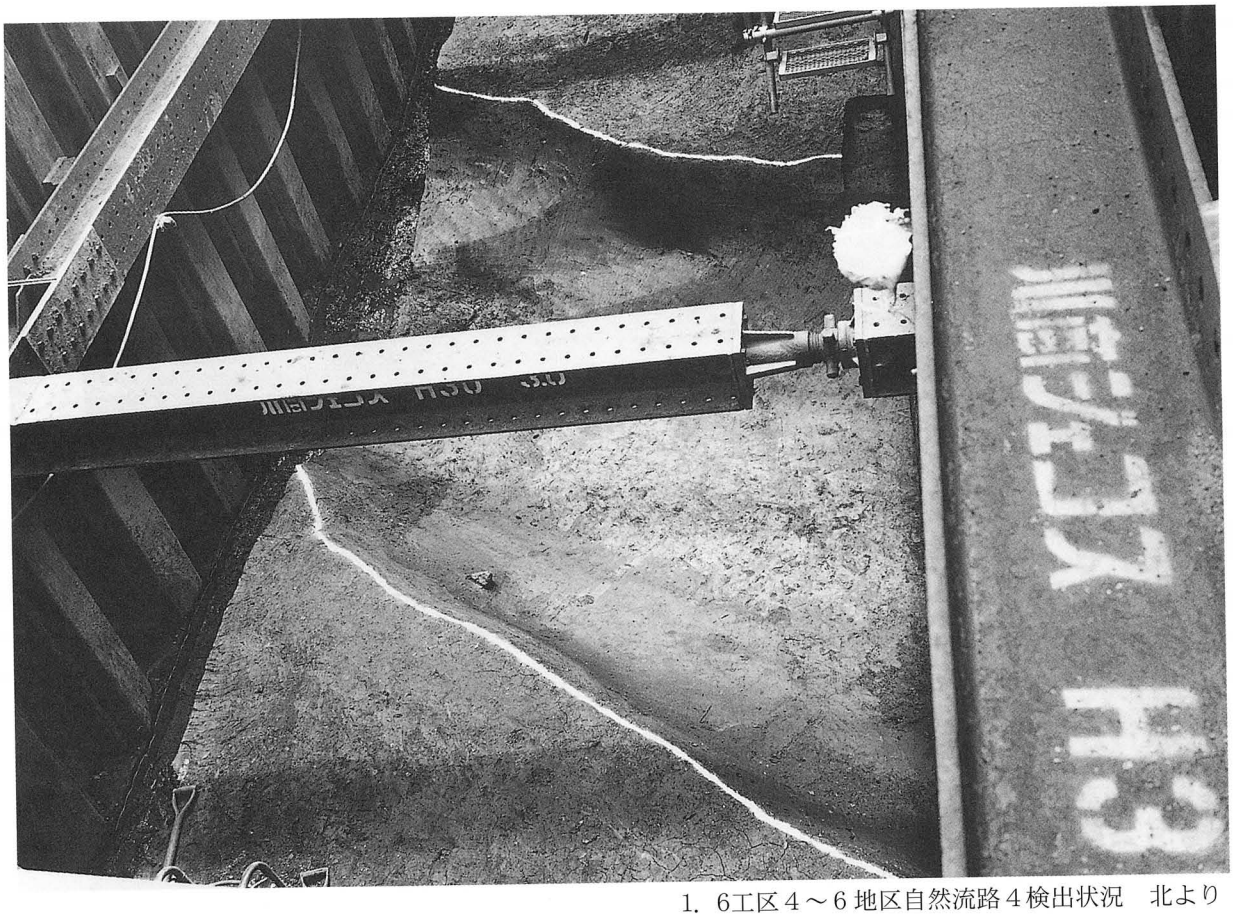
3. 7工区51地区土坑95（土器棺墓Ⅰ）土器棺内Ⅵ号人骨出土状況

図版44　遺構



1. 6工区38・39地区自然流路３検出状況
南より

2. 6工区38・39地区自然流路３内堆積状況



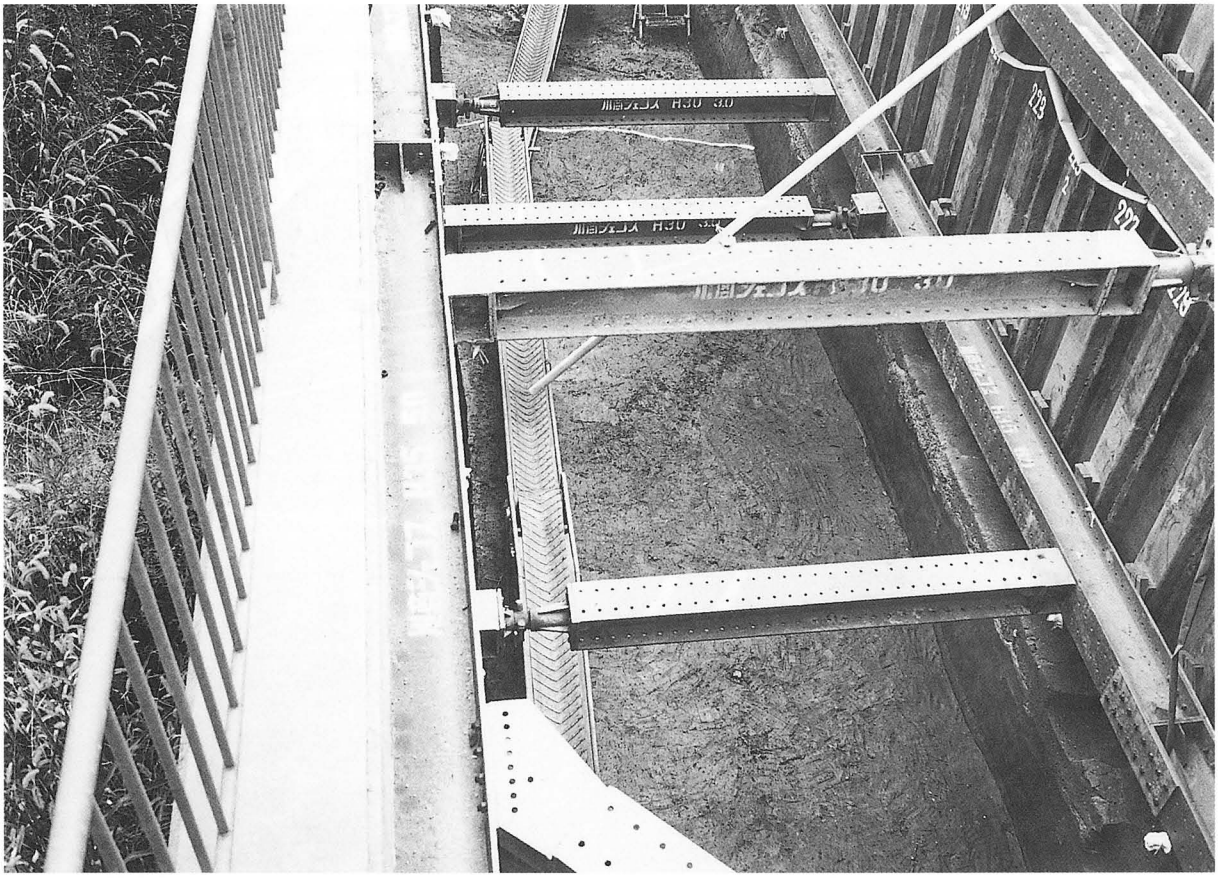
1. 6工区４～６地区自然流路４検出状況　北より

2. 6工区４～６地区自然流路４内堆積状況

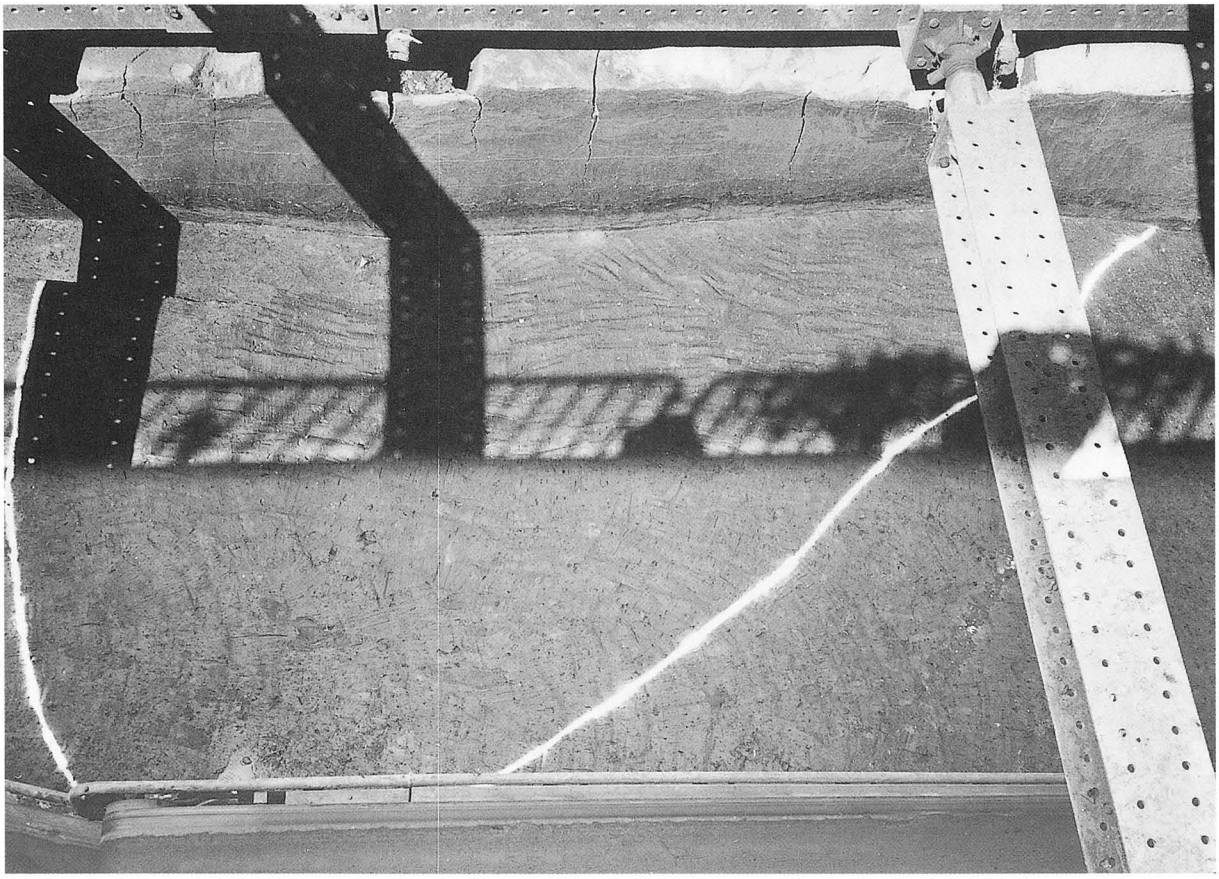
図版46　遺構

1. 7工区54・55地区自然流路５検出状況　南より

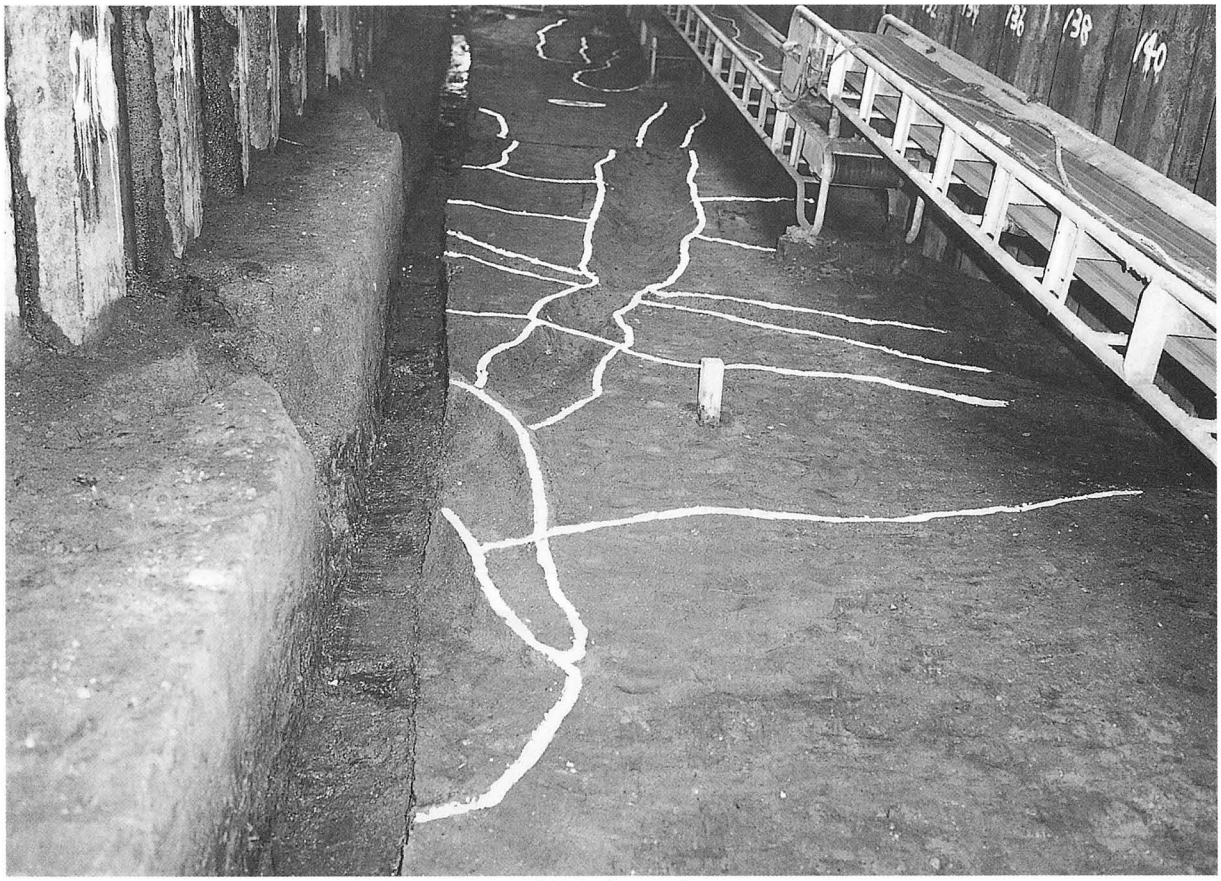
2. 7工区54地区自然流路５
北斜面足跡検出状況



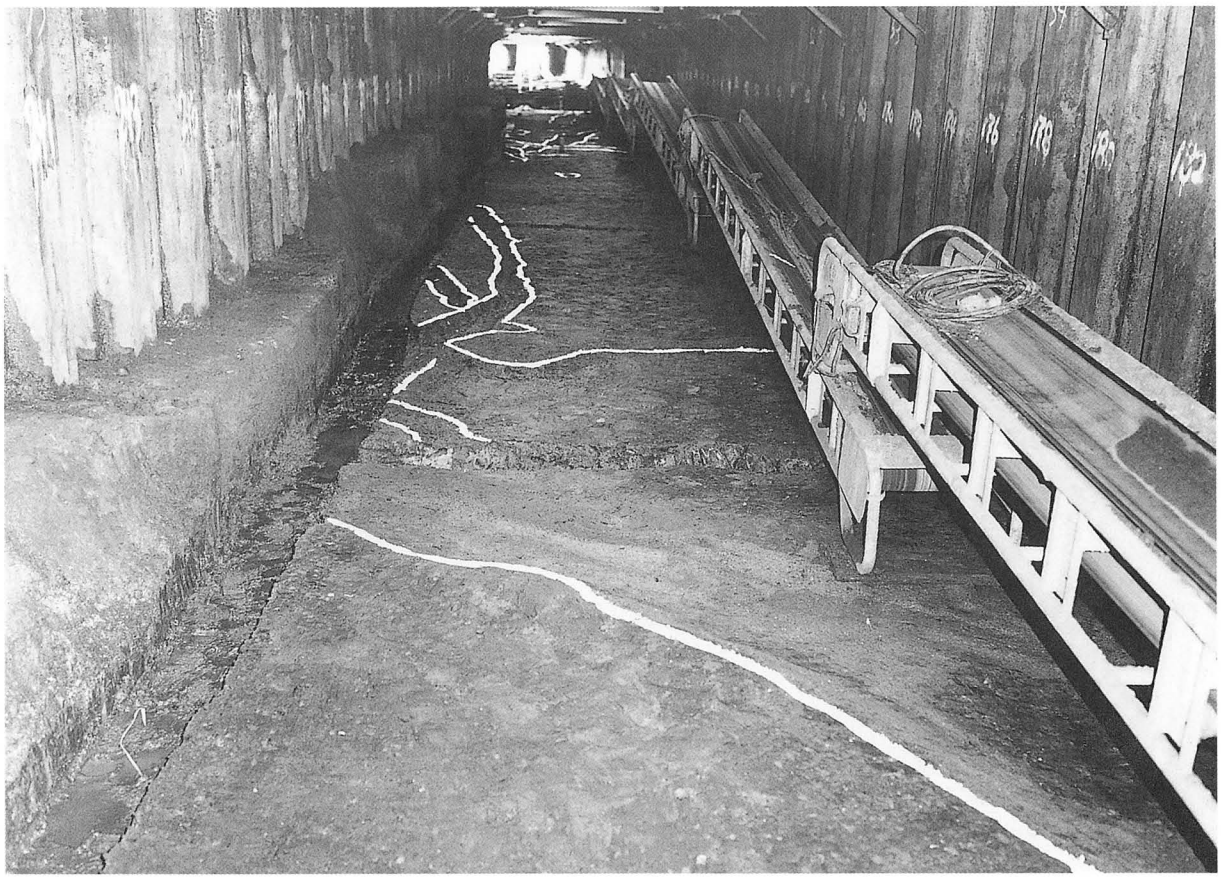
1. 6工区１～４地区落ち込み６検出状況　北より



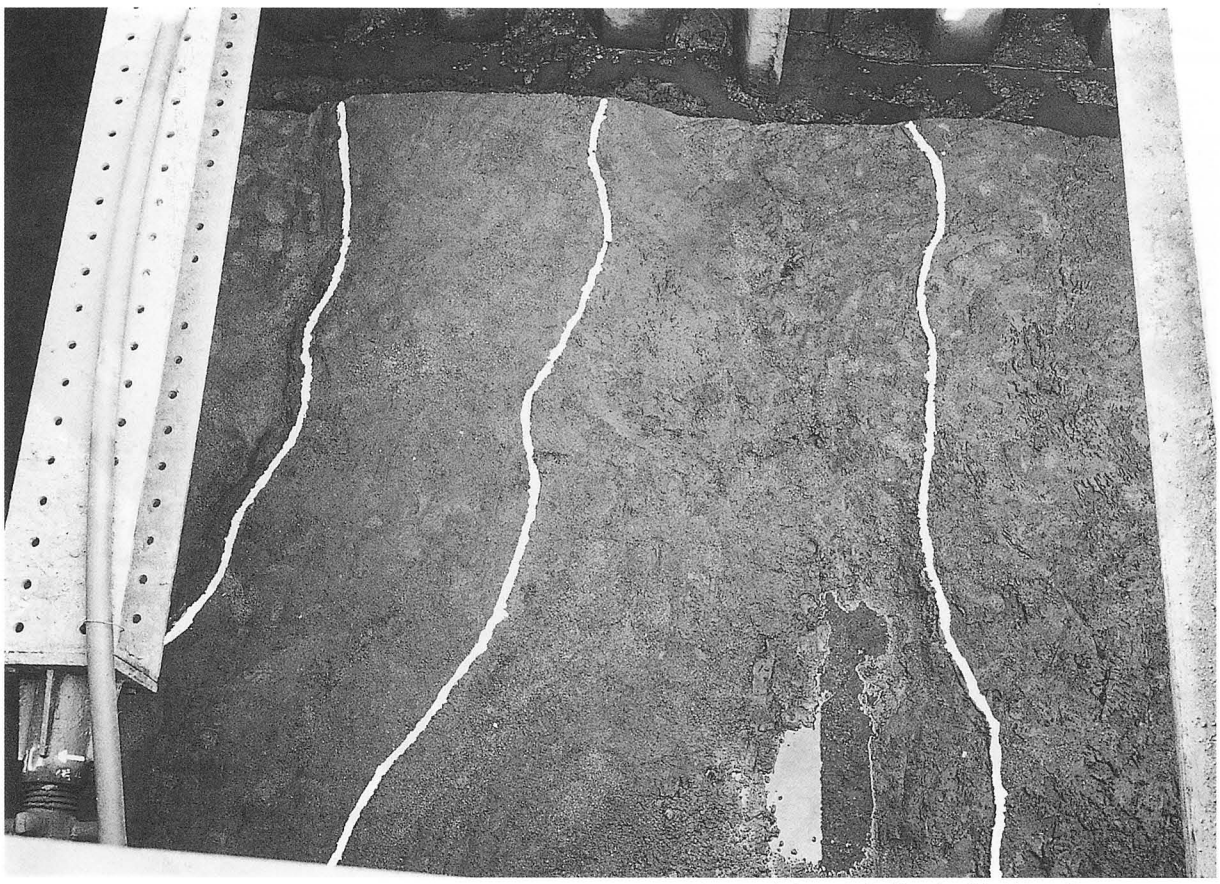
2. 6工区６・７地区落ち込み７検出状況　西より



1. 7工区～45地区第13層・自然流路５上面遺構検出状況　南より

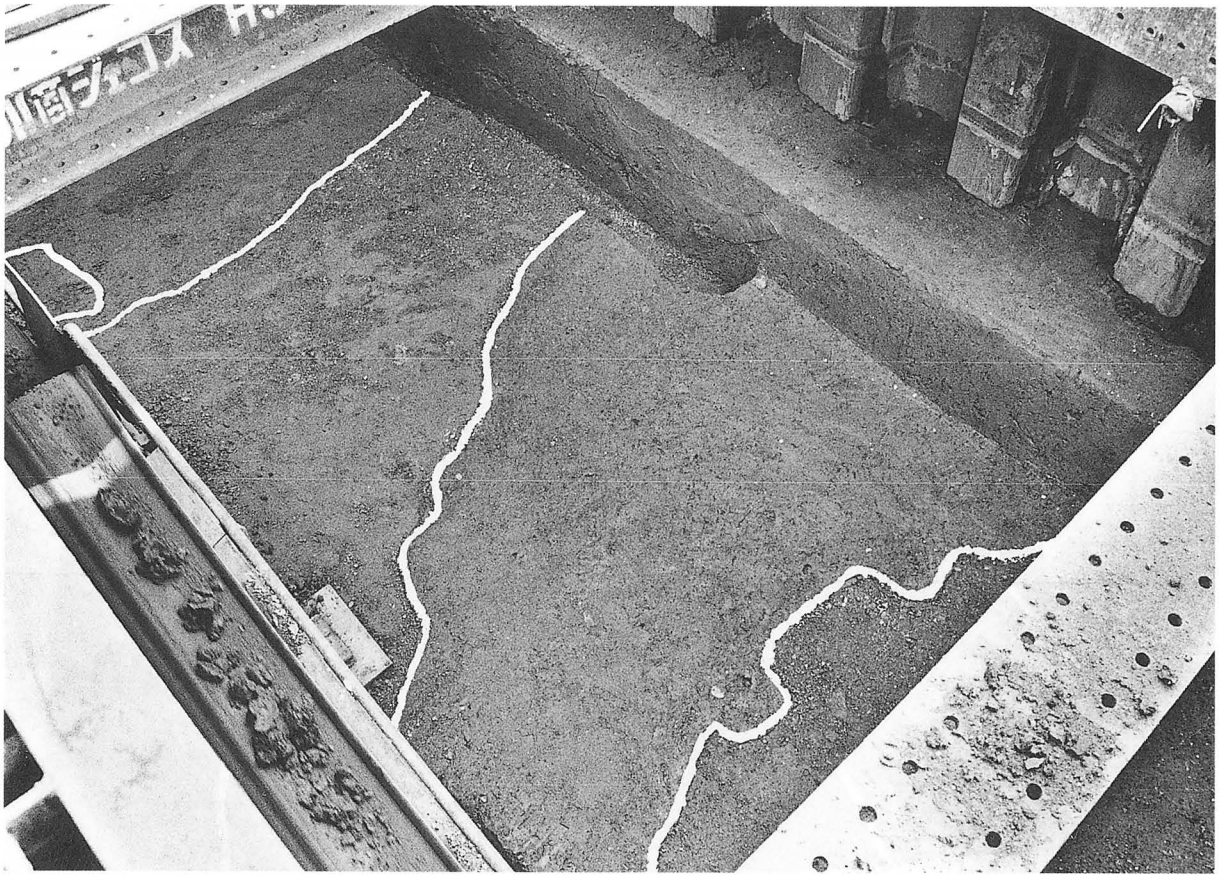


2. 7工区～55地区第13層・自然流路５上面遺構検出状況　南より

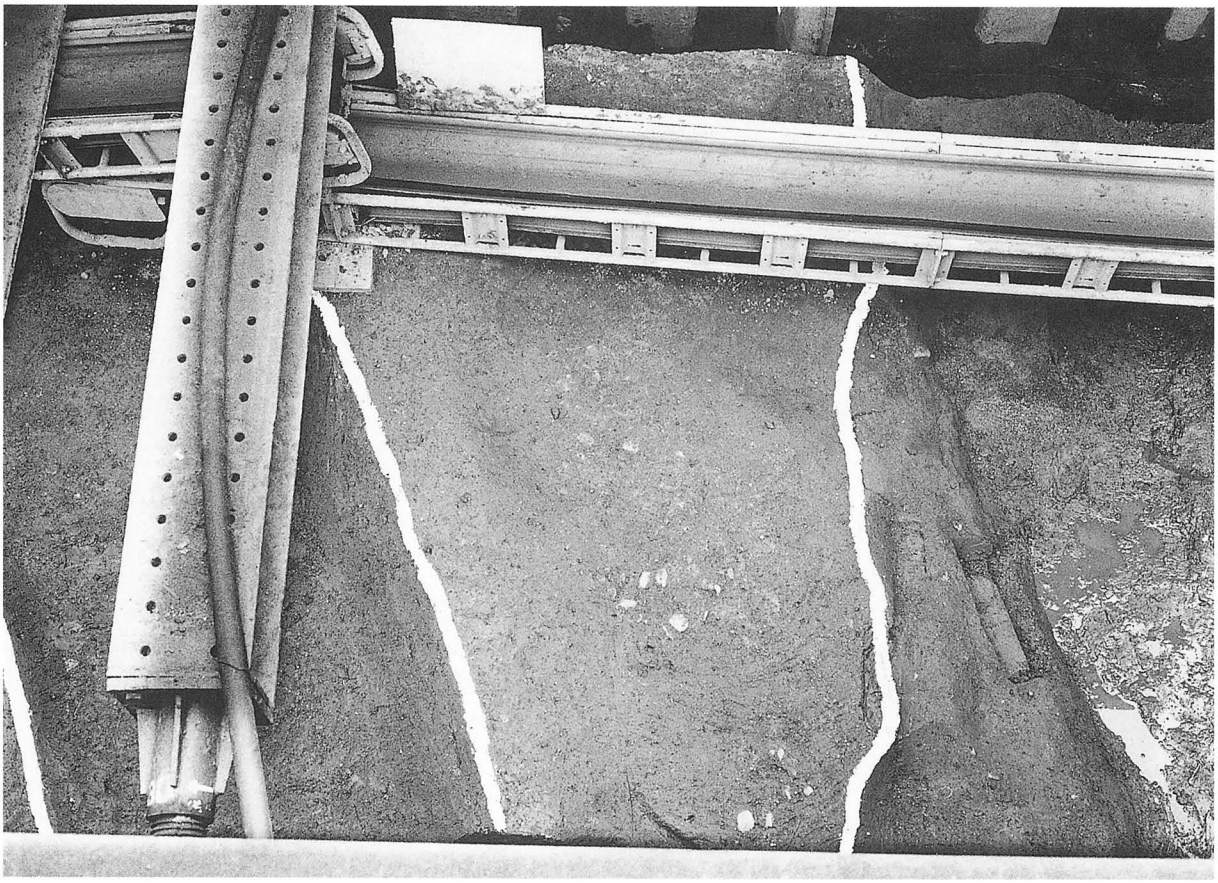


1. 6工区23～25地区坪境東西方向道・側溝(3)検出状況　西より

2. 6工区23～25地区坪境東西方向畷状遺構検出状況　西より



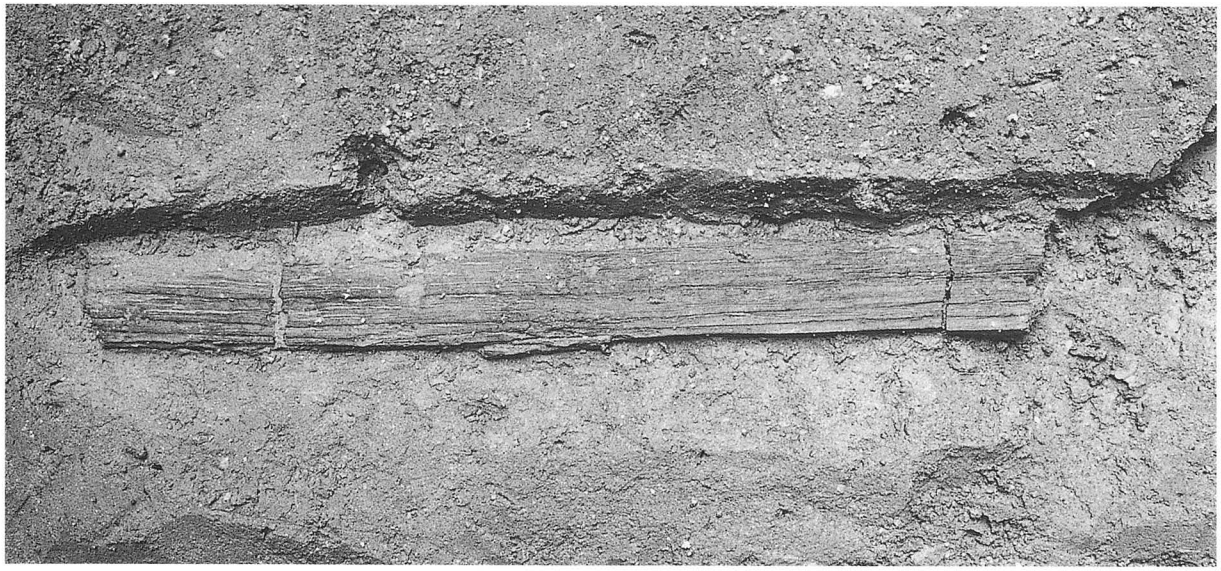
1. 6工区23～25地区坪境東西方向道・側溝(1)検出状況　西南より



2. 6工区23～25地区坪境東西方向道・側溝(2)検出状況　西より

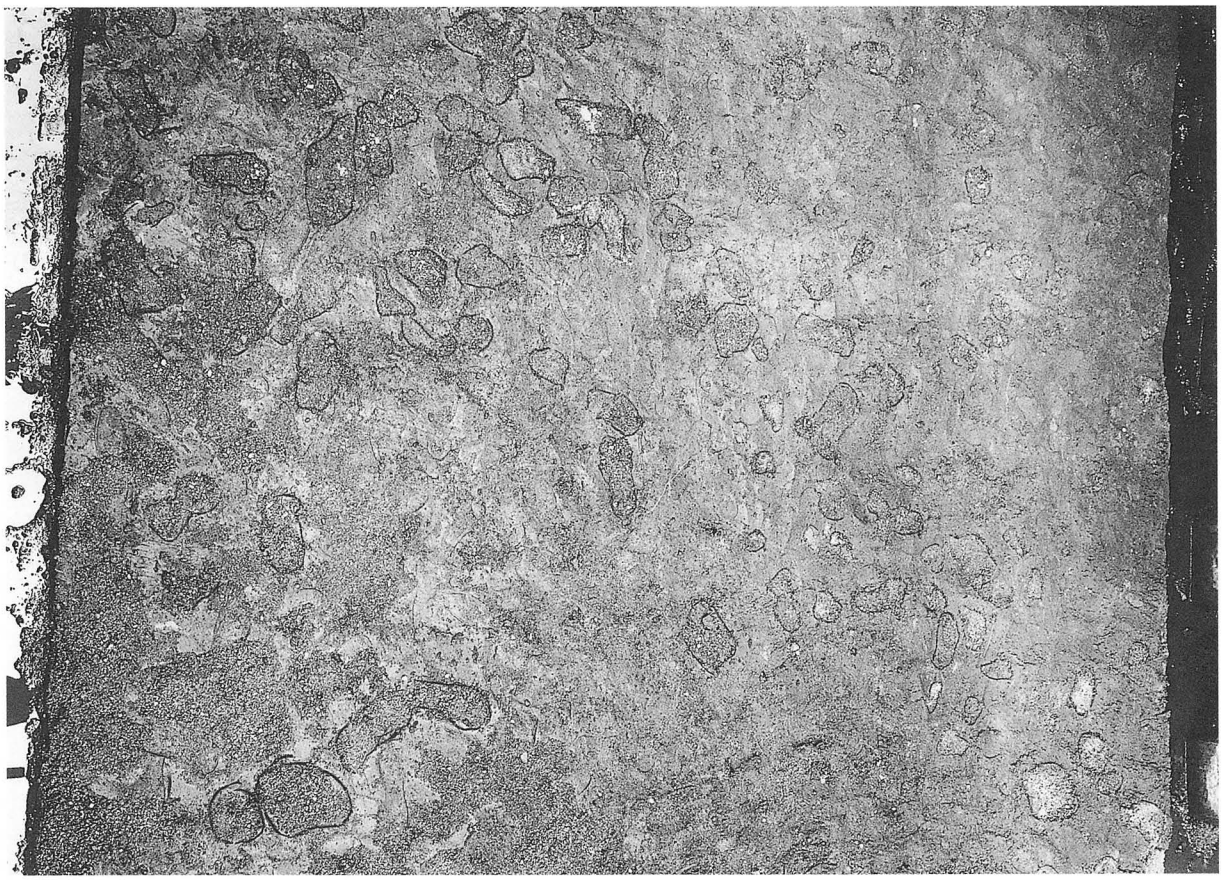
1. 6工区23～25地区坪境付近西断面(1)

2. 6工区23～25地区坪境付近西断面(2)

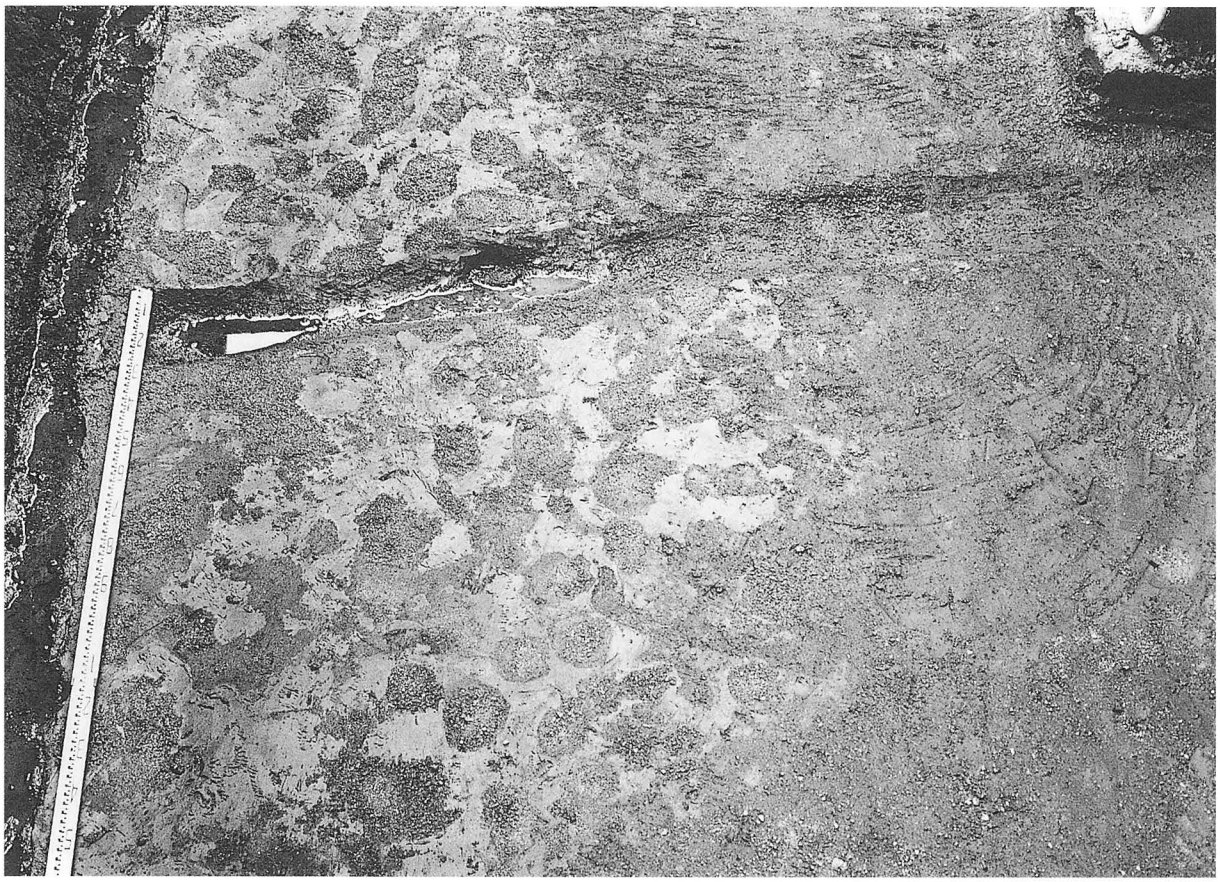


3. 溝18北斜面卒塔婆出土状況

1. 7工区33地区付近第８層上面足跡検出状況



2. 7工区32地区付近第10層上面足跡検出状況



1. 7工区39地区溝75検出状況

2. 7工区42～44地区溝79検出状況

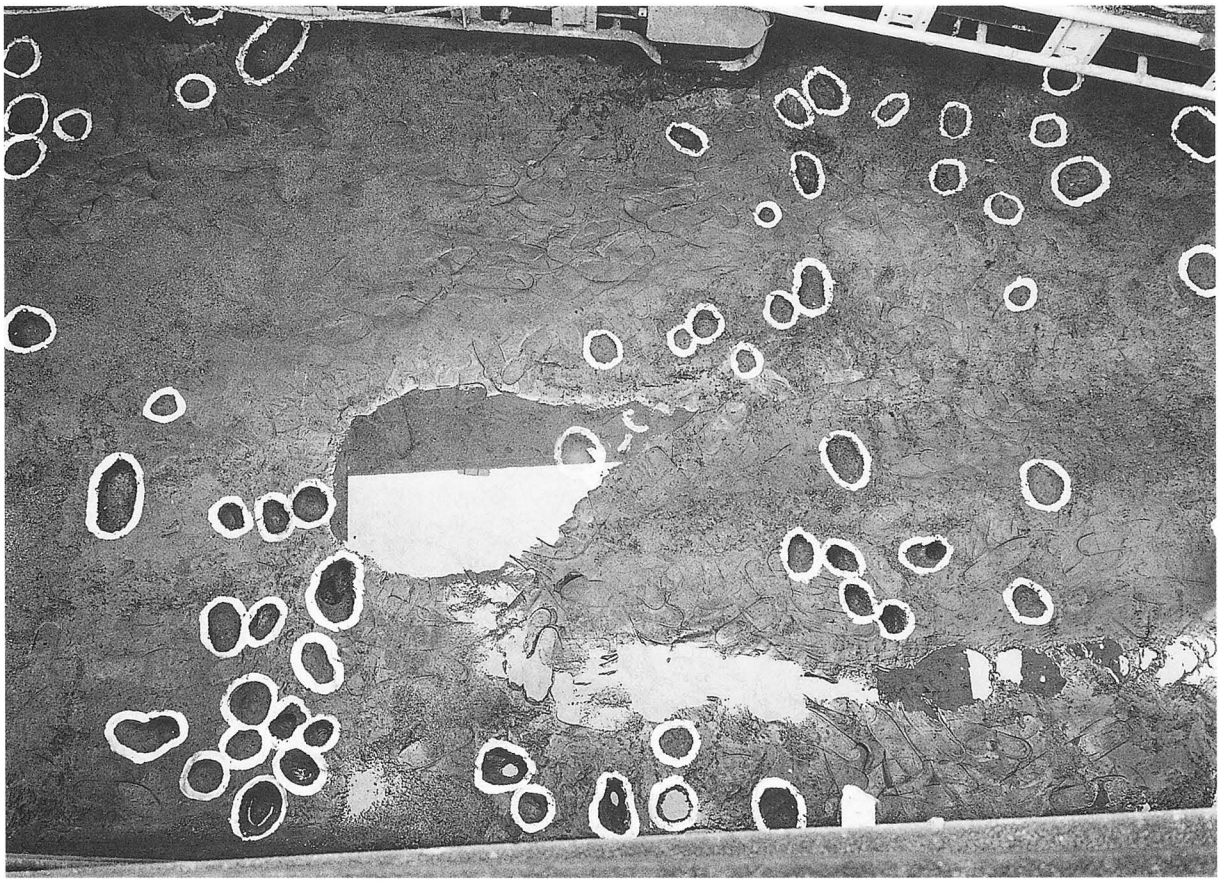
1. 7工区33地区付近第７層上面足跡検出状況

2. 7工区33地区付近第８層上面鉄製品出土状況

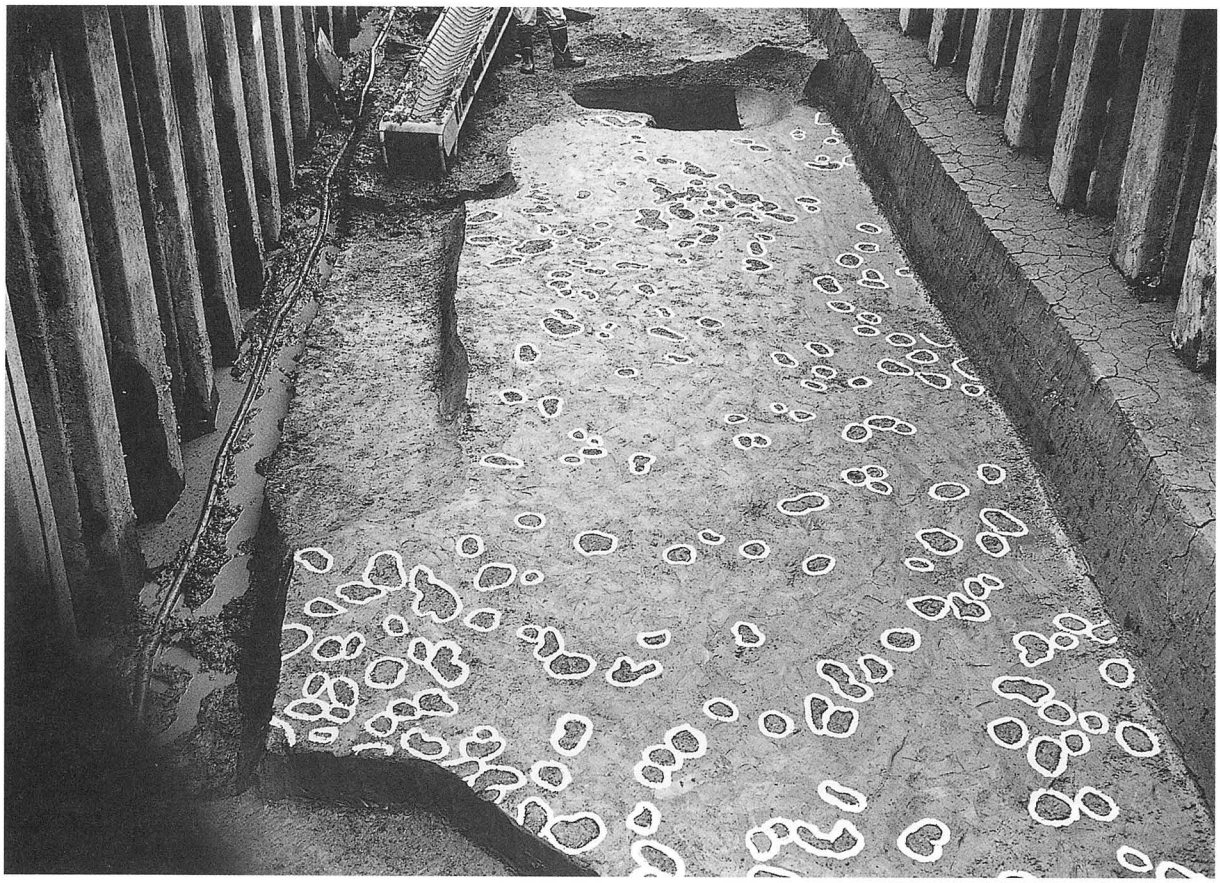
1. 7工区32地区付近第６間層２面目
足跡検出状況

2. 7工区34地区付近第６間層３面目足跡検出状況

1. 7工区33地区付近第6間層1面目足跡検出状況



2. 7工区41・42地区第6間層2面目足跡

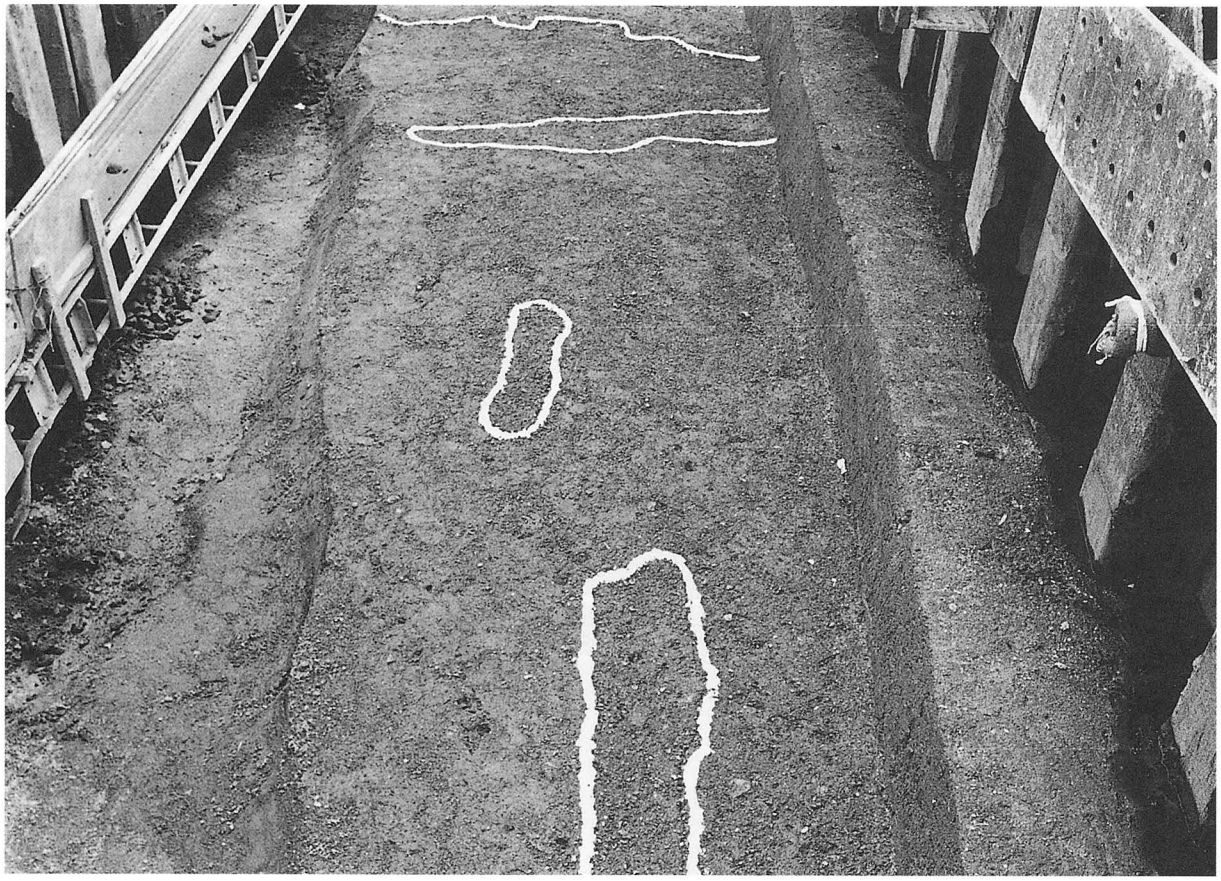


1. 6工区８～10地区第８層上面足跡　南より

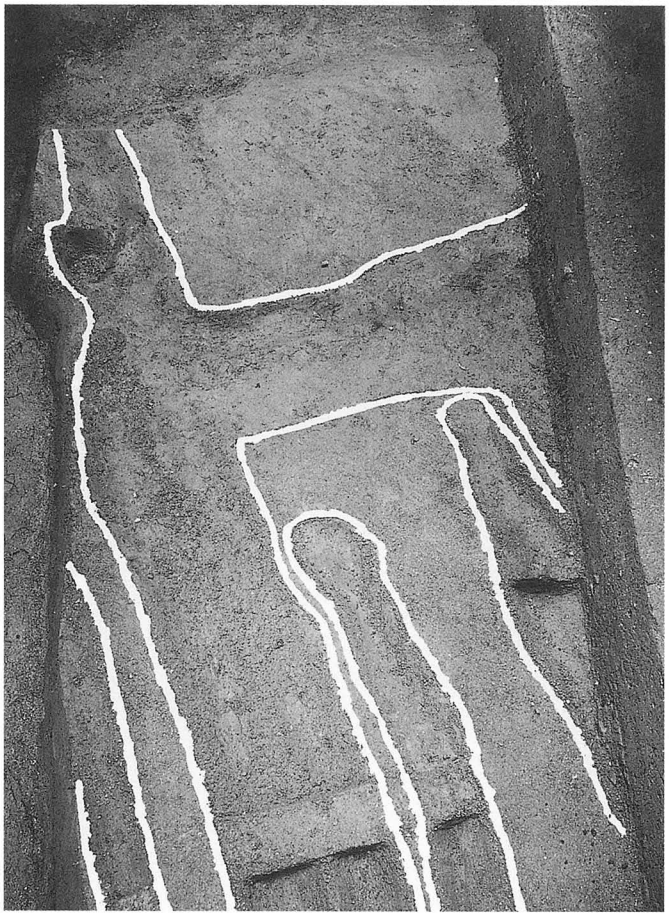
2. 6工区29地区第10層上面足跡検出状況　南より

1. 6工区21地区付近第６間層２面目足跡検出状況　南より

2. 6工区16地区付近第６間層３面目
足跡検出状況　南より



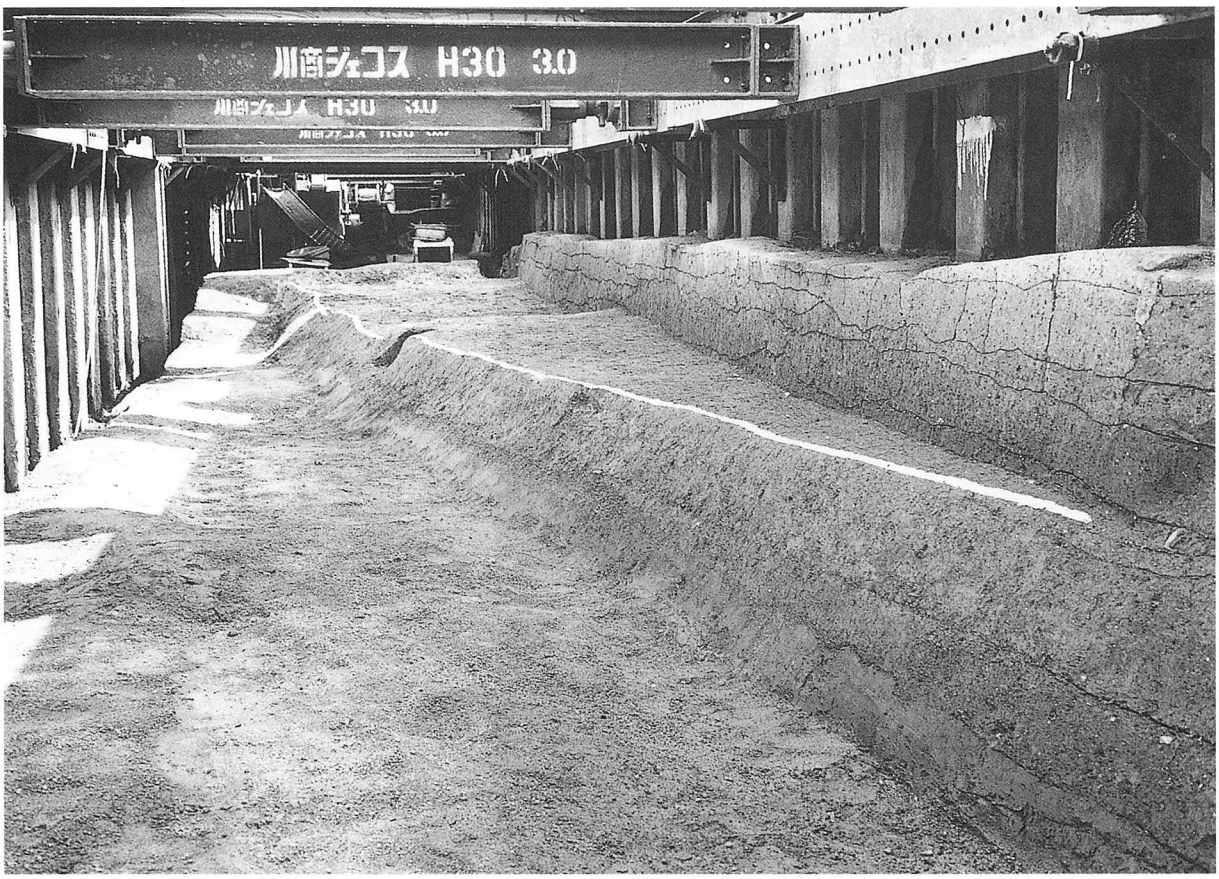
1．6工区20～22地区第５間層上面遺構　北より



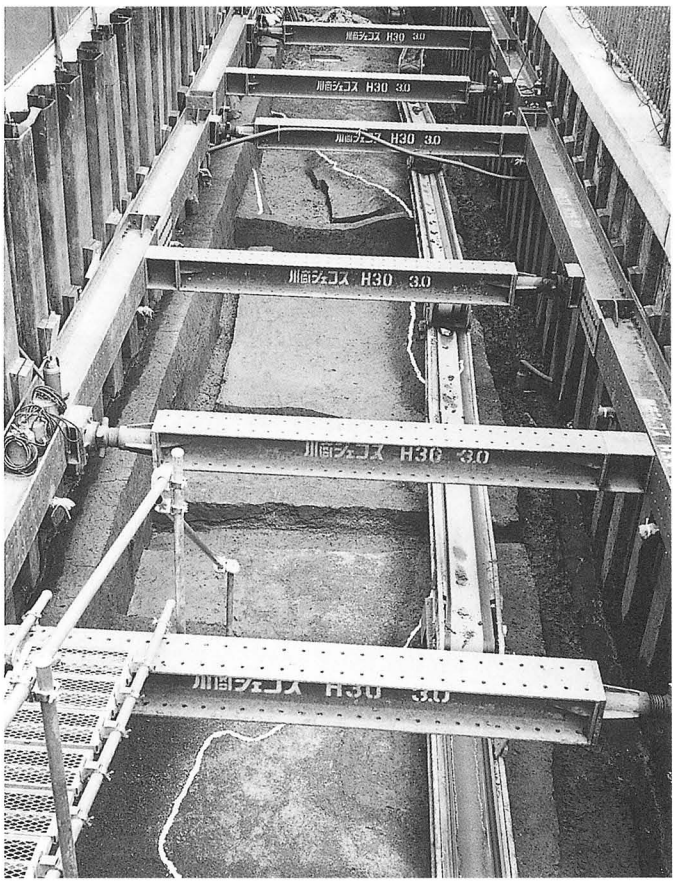
2．6工区20～23地区第６層上面遺構
北より

1. 7工区31～39地区第６層上面遺構(1)　南より

2. 7工区31～45地区第６層上面遺構(2)　南より

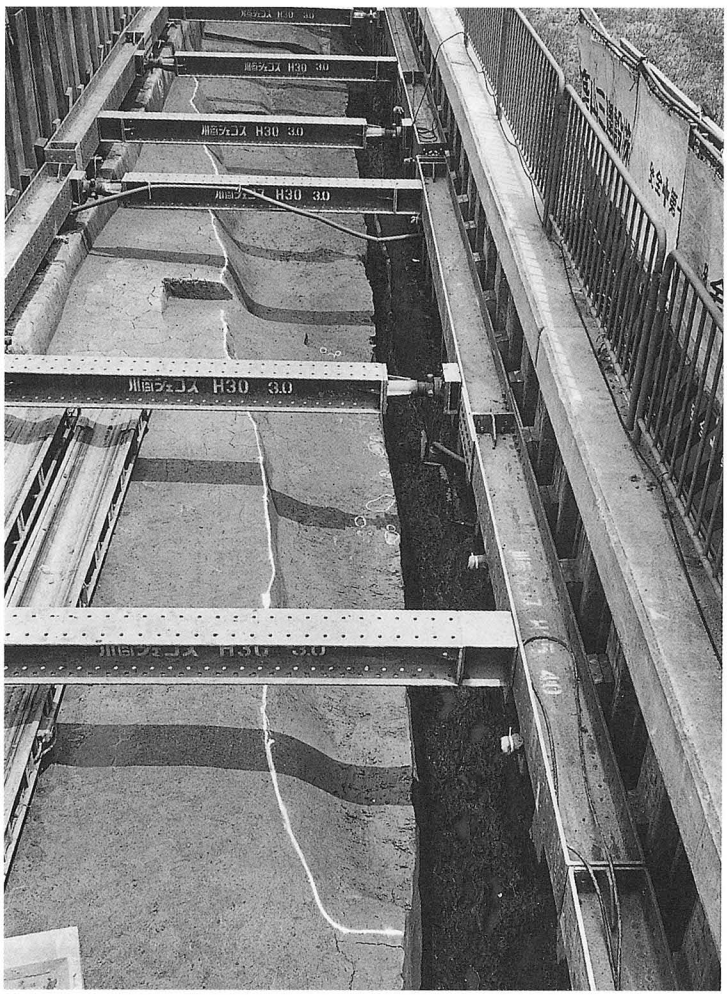


1. 6工区落ち込み２　北より



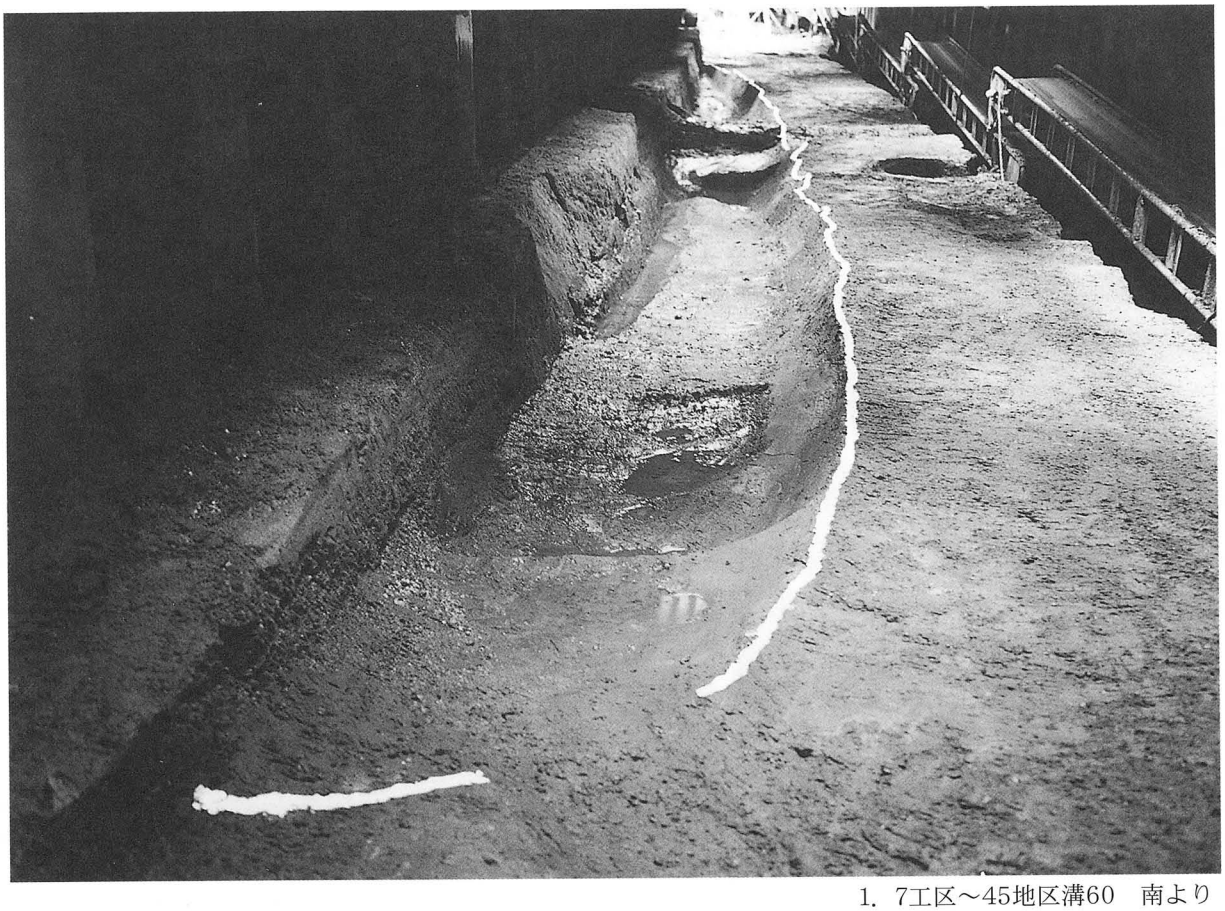
2. 6工区落ち込み３　南より

図版62　遺構



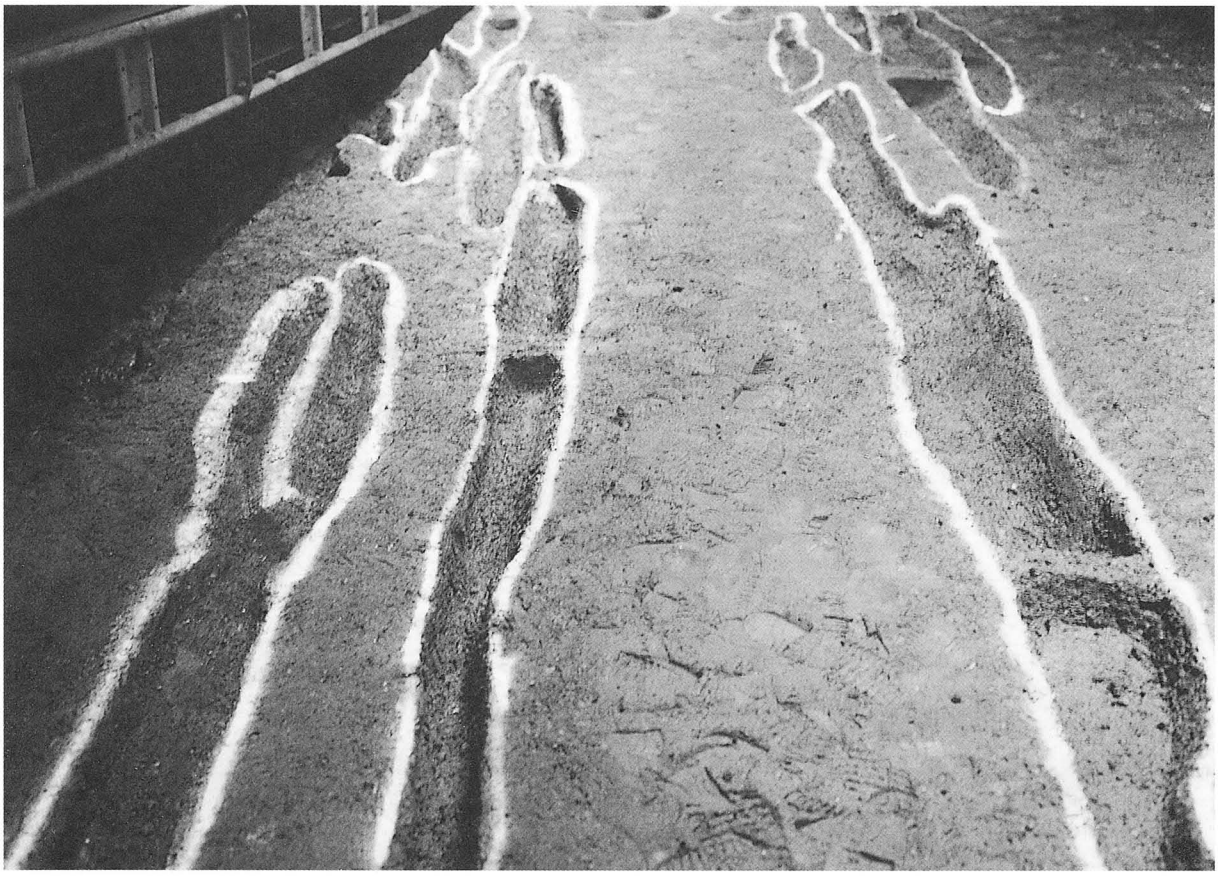
1．6工区１～18地区自然流路１
南より

2．6工区16地区付近自然流路１内足跡検出状況　東より



1. 7工区～45地区溝60　南より

2. 7工区溝60東西断ち割り断面　北より



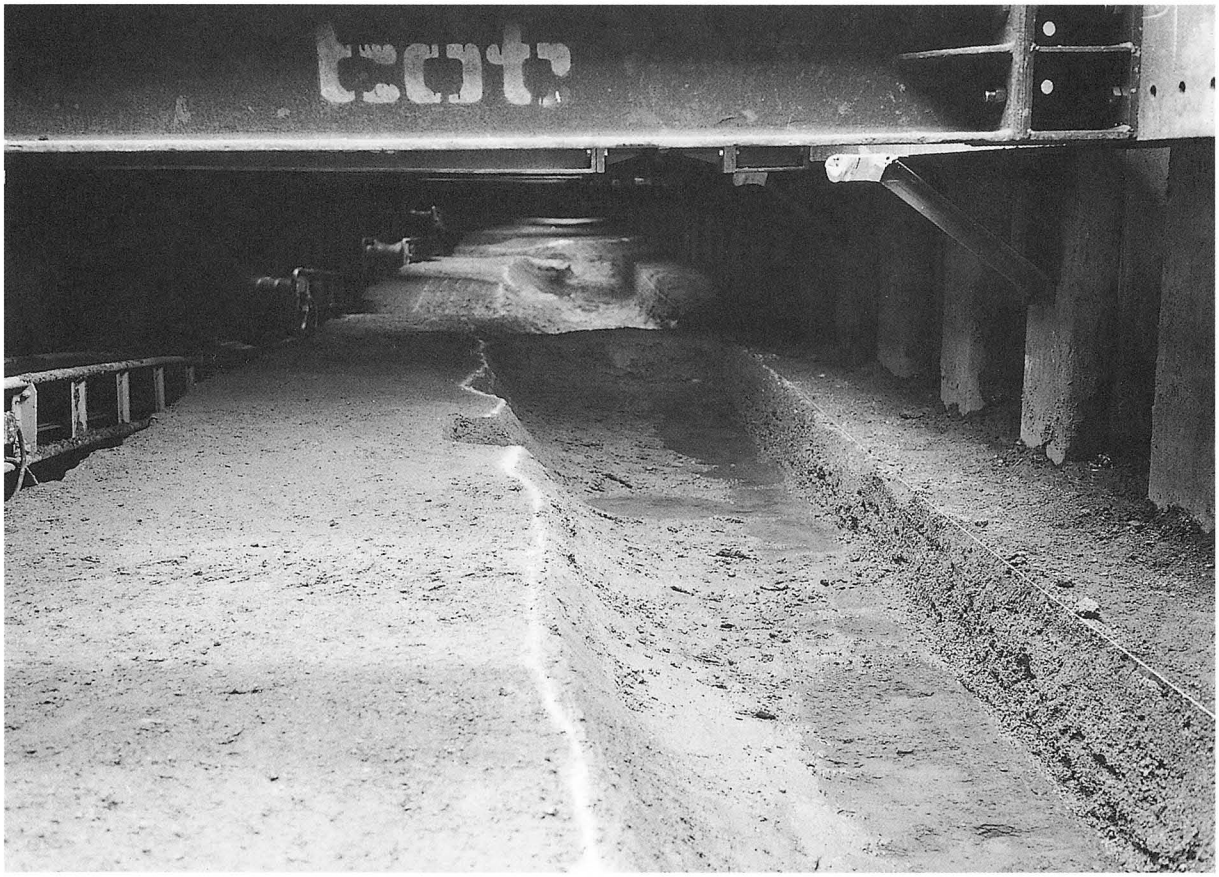
1. 7工区43～45地区４層上面溝群　北より

2. 7工区46地区付近４層上面溝群・足跡　北より

1. 6工区25～27地区第３下層上面遺構　南より

2. 6工区28～29地区第３下層上面遺構　北より

図版66　遺構



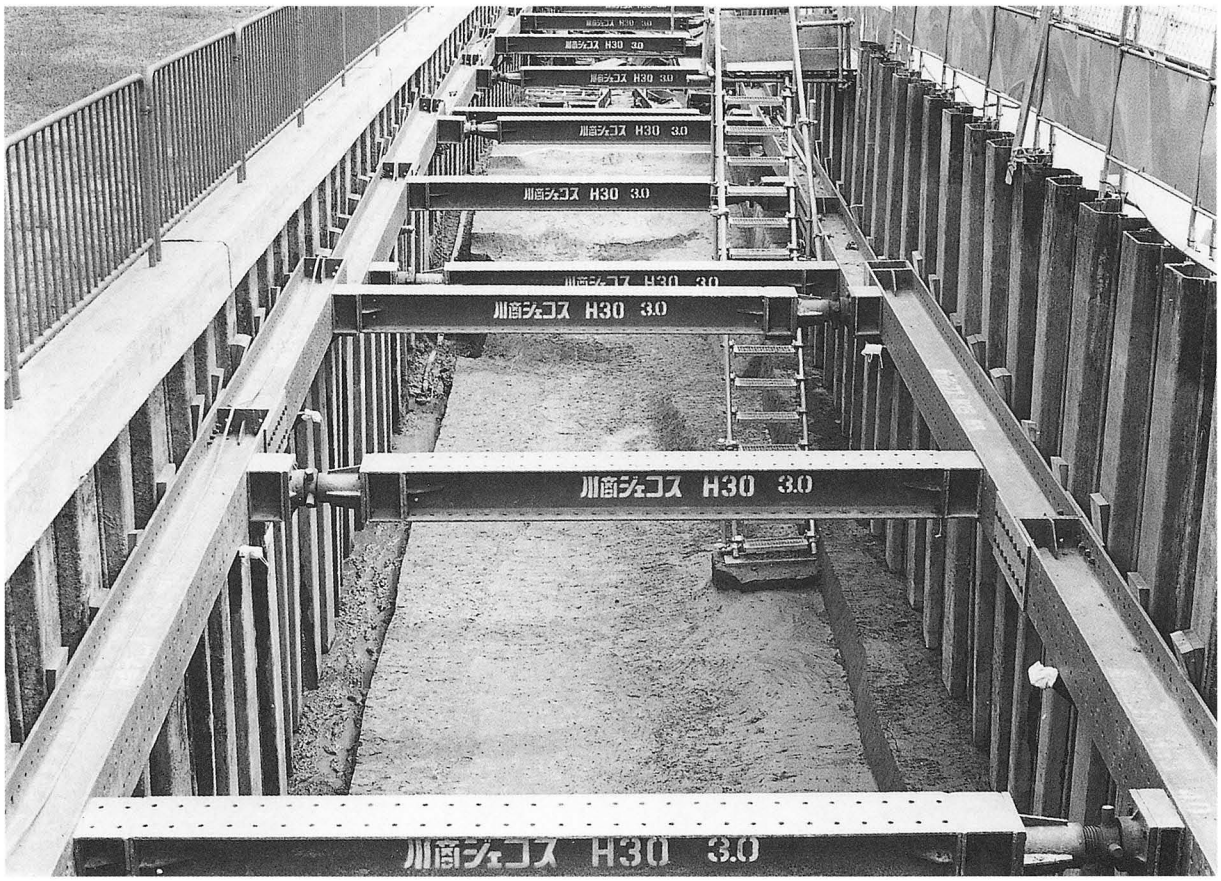
1. 7工区43～52地区溝6　北より

2. 7工区51地区溝6内卒塔婆出土状況

1. 7工区54・55地区自然流路２　南東より

2. 7工区54・55地区自然流路２内杭断ち割り断面

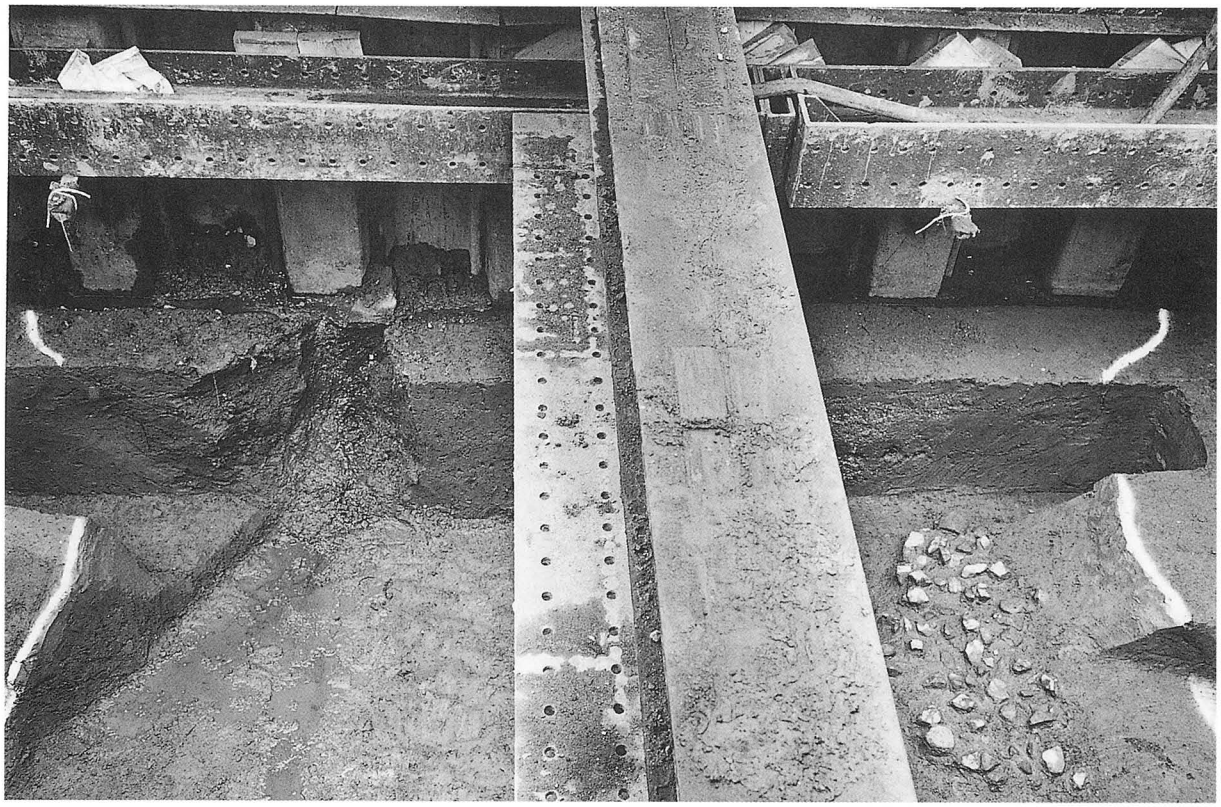
図版68　遺構



1. 6工区１～11地区落ち込み１　北より

2. 落ち込み１内曲物出土状況

3. 落ち込み１内下駄出土状況

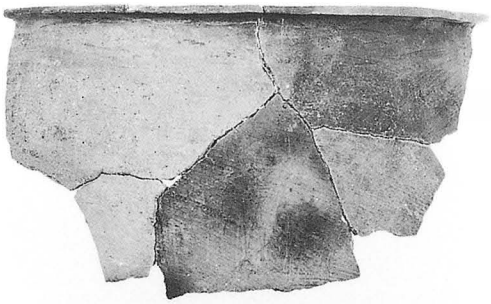


1. 6工区23・24地区溝７　東より

2. 6工区30地区土坑３　東より

1. 6工区26地区からの溝１　北より

2. 6工区28地区土坑１　東より



87

17

15

18

23

12

土坑20・21・47出土弥生土器　壷・甕・鉢・高坏

135

88

96

97

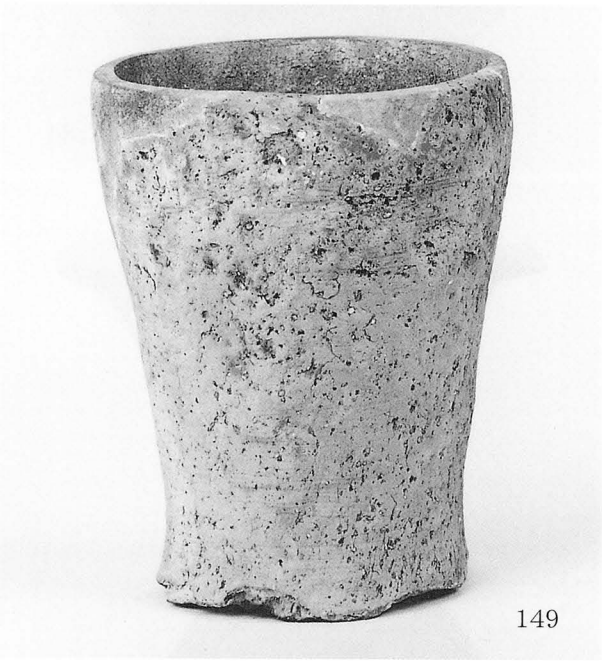
29

110

土坑19・50・82出土弥生土器　壷・無頸壷・甕蓋・鉢・高坏

148

169


149

145

151

150

土坑97・105出土弥生土器　壷・細頸壷・無頸壷・鉢